

高等専門学校機関別認証評価

# 自己評価書

平成18年6月

鹿児島工業高等専門学校



## 目 次

I	対象高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	4
	基準2 教育組織（実施体制）	17
	基準3 教員及び教育支援者	46
	基準4 学生の受入	75
	基準5 教育内容及び方法	91
	基準6 教育の成果	217
	基準7 学生支援等	269
	基準8 施設・設備	323
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	342
	基準10 財務	379
	基準11 管理運営	406
IV	選択的評価事項に係る目的	427
	選択的評価事項A（研究活動の状況）	429
	選択的評価事項B（正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況）	450





## I 対象高等専門学校の現況及び特徴

## 1 現況

## (1) 高等専門学校名

鹿児島工業高等専門学校

## (2) 所在地

鹿児島県霧島市

## (3) 学科等構成

学 科：機械工学科，電気電子工学科，  
電子制御工学科，情報工学科，  
土木工学科

専攻科：機械・電子システム工学専攻，  
電気情報システム工学専攻  
土木工学専攻

## (4) 学生数及び教員数

(平成18年5月1日現在)

学生数：準学士課程 1,059名

	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械工学科	42	43(1)	52	38(1)	37	212(2)
電気電子工学科	43(3)	40(5)	50(4)	35(1)	—	168(13)
電気工学科	—	—	—	—	41(2)	41(2)
電子制御工学科	44(2)	42(2)	45(7)	46(5)	41(5)	218(21)
情報工学科	42(8)	43(9)	46(5)	37(11)	41(15)	209(48)
土木工学科	42(1)	45(5)	43(3)	41(2)	40(1)	211(12)
計	213(14)	213(22)	236(19)	197(20)	200(23)	1,059(98)

単位：人 ( )：女子学生で内数

学生数：専攻科課程 71名

	1年	2年	計
機械・電子システム工学専攻	13	14	27
電気情報システム工学専攻	10(3)	16	26(3)
土木工学専攻	8	10	18
計	31(3)	40	71(3)

単位：人 ( )：女子学生で内数

教員数：74名

	校長	教授	助教授	講師	助手	計
校 長	1	—	—	—	—	1
一般科目	—	10	5	6(3)	—	21(3)
機械工学科	—	5	4	1	0	10
電気電子工学科	—	3	2	4	1	10
電子制御工学科	—	5	4	0	1	10
情報工学科	—	4	4	1	2	11
土木工学科	—	5	5	0	1	11
計	1	32	24	12(3)	5	74(3)

単位：人 ( )：女性教員で内数

## 2 特徴

本校は、急速な経済成長を背景に、産業界からの技術者養成の要望の高まりを受け、国立工業高等専門学校の

法整備（昭和36年）後の昭和38年に、機械工学科2学級・電気工学科1学級で設立された。その後、昭和42年に土木工学科1学級，昭和61年に情報工学科1学級を増設し，平成3年に機械工学科1学級を電子制御工学科に改組し，平成12年に専攻科を設置し，平成15年に電気工学科を電気電子工学科に改称し，平成16年に独立行政法人国立高等専門学校機構鹿児島工業高等専門学校へ移行し，現在に至っている。

本校の教育面の特徴は，準学士課程5年間の一貫教育であるが，平成12年度には準学士課程と有機的に結合する2年間の専攻科課程を設置し，入学定員の1割の学生に対して，計7年間の効果的な高等教育を実施している。平成15年には日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定審査「教育プログラム名：環境創造工学」に合格し，平成15年にJABEEの認定校となった。

学生寮では，準学士課程1年生に対して原則全寮制をとっており，2～5年生の寮生を含めて，本校学生の半数以上の約560名が寮生である。また，上級生が下級生の生活指導にあたっており，特に，上級生が1年生に対して学習指導を行う「学寮チューター制度」を実施し，教育の効果を発揮していることは特筆できる。

地域共同テクノセンターが平成9年3月に設置され，地域の中小企業を対象とした技術相談や共同研究等を行い，産学連携を推進している。平成10年3月には，本校を中核とした産学官連携組織である錦江湾テクノパーククラブを設立し，産学官交流を積極的に行っている。この取り組みが評価され，平成16年から産学官連携コーディネーターが配置されている。さらに，平成17年度に鹿児島高専発ベンチャー企業である(有)隼人テクノが設立され，地域の環境保全に貢献している。

地域住民へのスポーツ支援を目的とした隼人錦江スポーツクラブは，本校が主体となり，隼人町教育委員会と設立したNPO法人である。霧島市及び近隣住民に対して健康・スポーツに関する活動を行い，健康で豊かな生活を送ることのできる地域づくりに寄与している。

国際交流に関しては，国費留学生の受け入れはもとより，国際学術交流協定を3カ国3大学（釜山情報大学【韓国】，カセサート大学【タイ国】，南京航空航天大学機電学院【中国】）と締結し，学生及び教職員の相互交流，共同研究及び学術出版物などの交換を行っている。

## II 目的

1. **本校の目的**： 本校は、「教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」を目的として設置されている。これは本校創設以来の目的であり、現在、準学士課程の目的として掲げている。専攻科課程は、「高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成すること」を目的として、教育・研究活動を展開している。これらの目的を達成するための教育理念として、次の目標を掲げている。

- (1) 幅広い人間性を培い、豊かな未来を創造しうる開発型技術者を育成する。
- (2) 教育内容を学術の進展に対応させるため、また実践的技術の発展のため、必要な研究を行う。  
これらの教育理念の下で、達成すべき具体的目標として、次の3つの目標を掲げている。
- (1) 国際性を持った教養豊かな人間を育て、個性的で創造性に富んだ開発型技術者を育成する。
- (2) 教育研究活動の高度化・活性化を図る。
- (3) 地域との交流を推進し、教育・研究成果を地域に還元するとともに、国際交流を推進する。

2. **本校の教育の目的**： 学生の教育に関して、達成すべき具体的目標は、「国際性を持った教養豊かな人間を育て、個性的で創造性に富んだ開発型技術者を育成する」ことであり、これを具体化したものが次に示す4つの学習・教育目標である。これらの4つの学習・教育目標は、準学士課程及び専攻科課程に共通の目標として設定している。また、準学士課程と専攻科課程に対して、4つの学習・教育目標ごとに学生が卒業時に身につけるべき学力や資質・能力をサブ目標として、それぞれ明示している。これらの目標が、本校が養成すべき人材像であり、本校の教育の目的である。

### (1) 準学士課程の学習・教育目標とサブ目標

#### 1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者

- 1-a 現代社会を生きるための基礎知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。
- 1-b 様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。

#### 2. グローバルに活躍する技術者

- 2-a 日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。
- 2-b 英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。
- 2-c 英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。

#### 3. 創造力豊かな開発型技術者

- 3-a 専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。
- 3-b コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。
- 3-c 専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。
- 3-d ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。

#### 4. 相手の立場に立ってものを考える技術者

- 4-a 技術者の社会的な責任を理解することができる。
- 4-b 様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。

### (2) 専攻科課程の学習・教育目標とサブ目標

#### 1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者

- 1-1 人類の歴史や文化を理解する。
- 1-2 人間社会と自然環境とのかかわりを理解する。

1-3 技術が社会に及ぼす影響を認識し、地球環境に配慮したものづくりが提案できる能力を身につける。

## 2. グローバルに活躍する技術者

2-1 日本について深く認識し、世界的な物事に関心をもつ。 2-2 論理的な記述およびプレゼンテーション能力を身につける。 2-3 外国語で意思疎通を行う能力を身につける。

## 3. 創造力豊かな開発型技術者

3-1 数学、物理、化学など自然科学の基礎知識を身につける。

3-2 自分の必要とするレベルで多様な情報機器を利用する能力を身につける。

3-3 専門分野の知識と自主的継続的に学習する能力を身につけ、与えられた制約下で計画的なものづくりの手法を活かして問題を解決できる能力を養う。

## 4. 相手の立場に立ってものを考える技術者

4-1 人としての倫理観を身につけ、善良な市民として社会生活を営む能力を養う。

4-2 技術者が社会に対して負う責任を理解する。 4-3 異文化を理解し尊重する。

### 3. 準学士課程における各学科の教育方針

各学科では、学習・教育目標を基に学科の特色を踏まえ、次の教育方針を掲げている。

1. 機械工学科：機械基礎科目の学習に重点をおき、その基礎の上にエネルギー関係、コンピュータ関係等の専門科目を体系的に教育し、実習や創作活動によるものづくり体験、また CAD/CAM 実習等を通じて先端技術を体得させる実践的教育を行い、創造性に富む機械技術者育成を目指す。
2. 電気電子工学科：電気・電子系技術の基礎科目の徹底修得の上に、エレクトロニクス（電子工学）、コンピュータ（情報工学）、エネルギー（電機、電力）の3つの分野をバランスよく修得することにより、幅広い知識と創造的実践力を持ち、また、社会的責任を担える真摯で堅実な技術者育成を目指す。
3. 電子制御工学科：電子制御技術を中心として、電気・電子工学、機械工学及び情報処理工学を、座学と実習を通してバランス良く修得し、コンピュータの知識と技術を活用して、一つの装置を環境に配慮しながらトータルに設計できるオールラウンドエンジニアの育成を目指す。
4. 情報工学科：情報工学科ではコンピュータのハードウェアとソフトウェアをマスターし、コンピュータを自在に使用できることはもちろんのこと、社会の要求に応じて、コンピュータ同士の種々の機器を組み合わせ、システム化できるシステムエンジニア（情報技術者）の育成を目指す。
5. 土木工学科：基礎知識の徹底修得を糧として、広範・多技にわたる専門知識の修得と人間としての倫理観を備えた技術者を育成する。また、人間と環境が共生できる社会資本整備に理解を深め、グローバルな視野に立った、創造性豊かな技術者の育成を目指す。

### 4. 専攻科課程における各専攻の教育方針

各専攻では、学習・教育目標を基に専攻ごとの特色を踏まえ、次の教育方針を掲げている。

1. 機械・電子システム工学専攻：本科の機械工学科と電子制御工学科を基盤として、機械と制御技術を基本としたハード面と、情報システム技術を基本としたソフト面を統合した教育内容である。また、環境に配慮した高付加価値製品の設計開発技術をもち、地域産業界で実践的に問題解決できる開発型技術者の育成を目指す。
2. 電気情報システム工学専攻：電気電子工学と情報工学を有機的に結合した教育内容により、ハードウェア及びソフトウェア技術からシステム制御や電子材料に至る幅広い分野に精通し、地球環境にやさしい高品質で高付加価値製品の設計・開発や、制御システム・情報システムなどを担当できる開発型技術者の育成を目指す。
3. 土木工学専攻：土木工学は、市民が快適で安全な社会生活を送ることができる環境基盤整備を行う工学である。本専攻では、特に、鹿児島県特有の自然災害を含む環境問題を主要な教育研究教材として、地域に密着した環境・防災システムの構築に向けた、展望のもてる創造性豊かな開発型技術者を育成する。

### Ⅲ 基準ごとの自己評価

#### 基準 1 高等専門学校の目的

##### (1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び，養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等が，明確に定められているか。

(観点到に係る状況)

本校では、学則第1条に「本校は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と定めている(資料1-1-①-1)。これは、学校教育法70条の2に定められた高等専門学校の目的を踏まえて、本校の創設時に定められた本校の設置目的及び本校の果たすべき使命を示すものである。この目的を達成するための教育理念として、平成9年度に「①幅広い人間性を培い、豊かな未来を創造しうる開発型技術者を育成すること。②教育内容を学術の進展に対応させるため、また、実践的技術の発展のため、必要な研究を行う。」を掲げた。さらに、この教育理念を達成するための目標として、「①国際性を持った教養豊かな人間を育て、個性的で創造性に富んだ開発型技術者を育成する。②教育・研究活動の高度化・活性化を図る。③地域との交流を推進し、教育・研究成果を地域に還元するとともに、国際交流を推進する。」を掲げている(資料1-1-①-2)。また、平成12年に専攻科課程が設置されたことに伴い、新たに専攻科の目的として、学則第46条に「専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。」と定めた(資料1-1-①-3)。

教育理念を達成するための目標のうち、本校が学生の教育に関して達成すべき具体的目標は、「国際性を持った教養豊かな人間を育て、個性的で創造性に富んだ開発型技術者を育成する。」である。これを、本校で学ぶ学生の視点から捉え本校が養成すべき人材像として、平成14年度に、次の4つの学習・教育目標を設定した。「①人類の未来と自然との共存をデザインする技術者、②グローバルに活躍する技術者、③創造力豊かな開発型技術者、④相手の立場に立つてものを考える技術者」。これが本校の教育の目的にあたる。また、専攻科課程については、この4つの学習・教育目標を達成するために必要な知識及び能力を具体的に示したサブ目標を、4つの大目標ごとに明示した(資料1-1-①-4)。一方、準学士課程については、専攻科課程とは卒業時に身につけるべき知識及び能力が異なることから、平成17年度に、準学士課程における具体的な達成目標として、新たにサブ目標を設定した(1-1-①-5)。これらのすべてが本校の目的であり、それぞれの相関は(資料1-1-①-6)に示されている。なお、本校では準学士課程を本科と称している。

#### 観点 1-1-①資料一覧

(資料1-1-①-1) 本校の目的	出典：平成18年度学生便覧
(資料1-1-①-2) 鹿児島高専の教育理念	出典：ウェブページ
(資料1-1-①-3) 専攻科の目的	出典：平成18年度学生便覧
(資料1-1-①-4) 専攻科課程の学習・教育目標(専攻科)	出典：平成18年度学生便覧
(資料1-1-①-5) 準学士課程の学習・教育目標(本科)	出典：平成18年度学生便覧
(資料1-1-①-6) 鹿児島高専の目的、理念等の流れ	出典：平成17年度第9回校務連絡協議会資料

資料 1-1-①-1

## 鹿兒島工業高等専門学校学則

### 第1章 本校の目的

#### (目 的)

**第1条** 本校は、教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(出典：平成 18 年度学生便覧 119 頁)

資料 1-1-①-2

国立鹿児島高専 KNCT ---- Kagoshima National College of Technology ----

**国立鹿児島高専の目的**

1. 本校は、教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。
2. 専攻科は、本科における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

**国立鹿児島高専の教育理念**

1. 幅広い人間性を培い、豊かな未来を創造しうる開発型技術者を育成する
2. 教育内容を学術の進展に対応させるため、また、実践的技術の発展のため、必要な研究を行う

**教育理念を達成するための3つの目標**

1. 国際性を持った教養豊かな人間を育て、個性的で創造性に富んだ開発型技術者を育成する
2. 教育研究活動の高度化・活性化を図る
3. 地域との交流を推進し、教育・研究成果を地域に還元するとともに、国際交流を推進する

**学習・教育目標**

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者
2. グローバルに活躍する技術者
3. 創造力豊かな開発型技術者
4. 相手の立場に立ってものを考える技術者

(出典：ウェブページ)

資料 1-1-①-3

### 第10章 専攻科

#### (目 的)

**第46条** 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

(出典：平成 18 年度学生便覧 128 頁)

## IV 学習・教育目標（専攻科）

本校専攻科の目的は、学則に「高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。」（第46条）と定められており、さらに本校専攻科独自の教育目的として「環境に配慮したもののづくりができる技術者育成」を掲げています。これは本科で学んだ「実践的技術＝ものづくりに関する知識」の上に、専攻科における全専攻共通の環境系科目の修得と、さらに高度な専門知識の修得、ならびに研究活動を通じて達成されます。このような目的のため、専攻科修了時に学生が達成すべき目標として、以下の専攻科の学習・教育目標が定められています。

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者
  - 1-1 人類の歴史や文化を理解する
  - 1-2 人間社会と自然環境とのかかわりを理解する
  - 1-3 技術が社会に及ぼす影響を認識し、地球環境に配慮したもののづくりが提案できる能力を身につける
2. グローバルに活躍する技術者
  - 2-1 日本について深く認識し、世界的な物事に関心をもつ
  - 2-2 論理的な記述およびプレゼンテーション能力を身につける
  - 2-3 外国語で意思疎通を行う能力を身につける
3. 創造力豊かな開発型技術者
  - 3-1 数学、物理、化学など自然科学の基礎知識を身につける
  - 3-2 自分の必要とするレベルで多様な情報機器を利用する能力を身につける
  - 3-3 専門分野の知識と自主的継続的に学習する能力を身につけ、与えられた制約下で計画的にもものづくりの手法を活かして問題を解決できる能力を養う
4. 相手の立場に立ってものを考える技術者
  - 4-1 人としての倫理観を身につけ、善良な市民として社会生活を営む能力を養う
  - 4-2 技術者が社会に対して負う責任を理解する
  - 4-3 異文化を理解し尊重する

（出典：平成 18 年度学生便覧 7 頁）

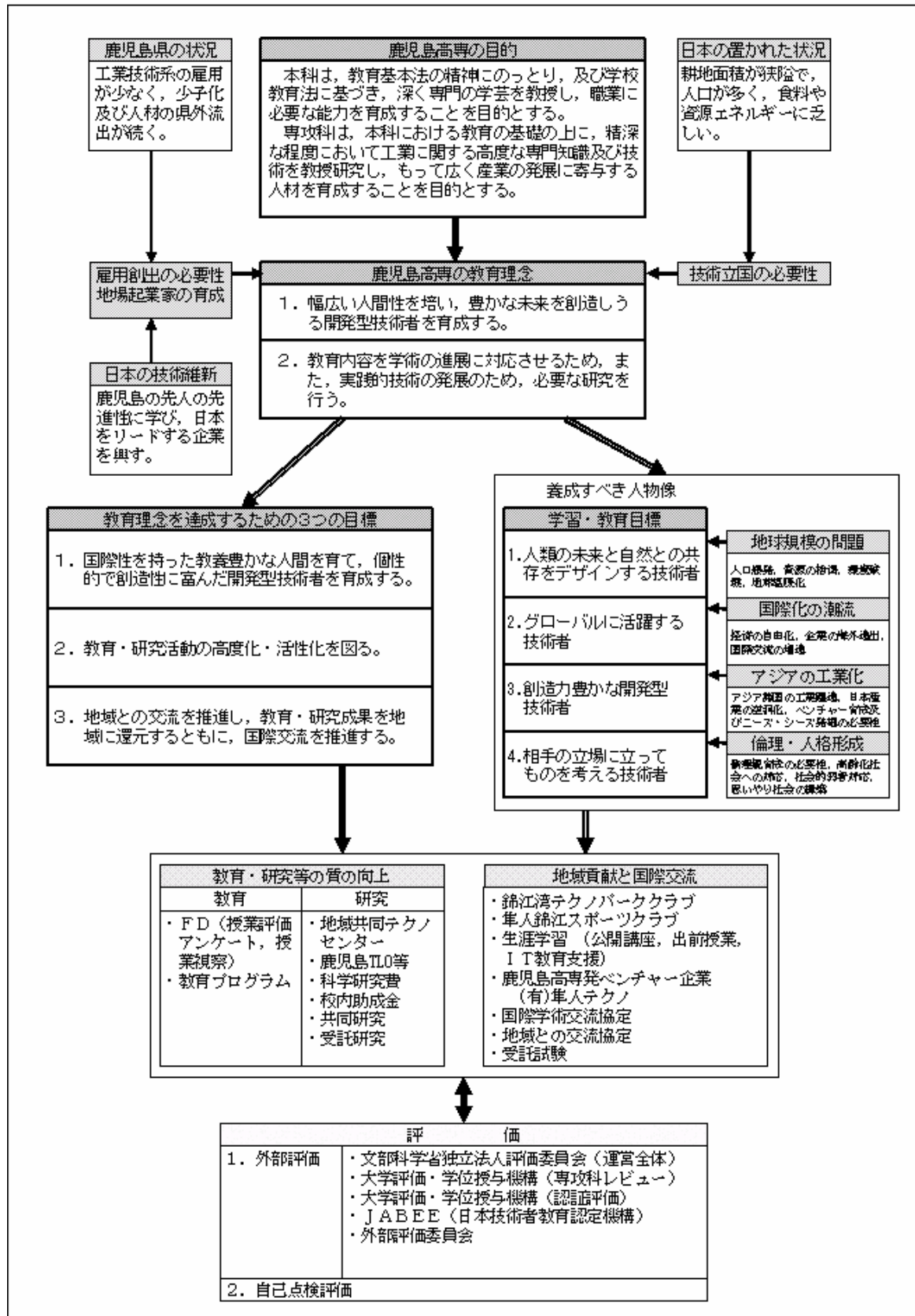
## Ⅱ 学習・教育目標（本科）

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者
  - a 現代社会を生きるための基礎知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。
  - b 様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。
  
2. グローバルに活躍する技術者
  - a 日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。
  - b 英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。
  - c 英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。
  
3. 創造力豊かな開発型技術者
  - a 専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。
  - b コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。
  - c 専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。
  - d ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。
  
4. 相手の立場に立ってものを考える技術者
  - a 技術者の社会的な責任を理解することができる。
  - b 様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。

（出典：平成 18 年度学生便覧 1・2 頁）

鹿児島高専の目的、理念等の流れ

2006.1.20



(出典：平成 17 年度第 9 回校務連絡協議会資料)



(分析結果とその根拠理由)

本校では、まず、学校教育法第70条の2に規定された目的を同じく本校の目的として掲げている。また、専攻科の目的は学校教育法70条6の2に沿ったものである。そして、教育理念と教育理念を達成するための3つの目標及び学習・教育目標は、本校の養成しようとしている人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果を明確に定めたものである。さらに、学習・教育目標のサブ目標において、卒業時に身につけるべき資質・学力をより具体的に定めている。

以上のことから、本校は、高等専門学校として目的を明確に定めている。

**観点1-1-②： 目的が、学校教育法第70条の2に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。**

(観点に係る状況)

学校教育法は、準学士課程については「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。(第70条の2)」と定め、また、専攻科課程については「精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的(第70条の6)」とする旨定めており、本校も、この設置目的を実現すべく、学則において、同様な目的を掲げている(資料1-1-①-1, 3参照)。本校の教育理念(資料1-1-①-2参照)である「①幅広い人間性を培い、豊かな未来を創造しうる開発型技術者の育成する」ことは、学校教育法第70条の2の「職業に必要な能力を育成すること」、「深く専門の学芸を教授」すること、同法第70条の6の「精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導する」ことを包含している。また、「②教育内容を学術の進展に対応させるため、また、実践的技術の発展のため、必要な研究を行う」こと、及び教育理念を達成するための3つの目標(資料1-1-①-2参照)は、学校教育法第70条の2及び第70条の6を实践する上で、教育する側の目標として掲げたものである。

次に、本校の教育の目的である4つの学習・教育目標は、本校の養成すべき人材像を定めたものであり、このうち「①人類の未来と自然との共存をデザインする技術者、②グローバルに活躍する技術者、③創造力豊かな開発型技術者」は、学校教育法第70条の2の「職業に必要な能力を育成すること」、「深く専門の学芸を教授」すること、同法第70条の6の「精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導する」ことを包含している。また、「④相手の立場に立ってものを考える技術者」は、「職業に必要な能力を育成すること」に主に対応している。さらに、学習・教育目標のサブ目標は、学生が学習・教育目標を達成するために必要な知識及び能力を具体的に示したものである(資料1-1-①-4, 5参照)。

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的、教育理念、教育理念を達成するための3つの目標及び学習・教育目標は、「鹿兒島高専の目的、理念等の流れ」に示されるように、学校教育法の目的に沿って策定されたものである。また、本校の教育の目的である学習・教育目標は、学校教育法で規定している目的を含め、さらに、国際性、技術と自然環境との調和及び相手の立場に立った技術者の考え方も付加している。

以上のことから、本校の目的は、学校教育法第70条の2及び第70条の6に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものではない。

### 観点1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

(観点に係る状況)

本校の「目的」は学則第1条に定められ、学生便覧及びウェブページに掲載され、「教育理念」及び「教育理念を達成するための目標」も、学生便覧及びウェブページに掲載されている。また、本校の教育の目的である「学習・教育目標」は、学生便覧、シラバス、ウェブページに掲載されている。学生便覧及びシラバスは、全教職員及び学生に配布され、これらの目的の周知を図っている(資料1-2-①-1)。

本校の「目的」、「教育理念」、「教育理念を達成するための目標」そして「学習・教育目標」については、平成15年度第1回校務連絡協議会において、校長がそれぞれの相関を説明し、教職員に周知した(資料1-2-①-2)。また、準学士課程の学習・教育目標のサブ目標設定に際して、本校の目的を含めて平成17年度第8回校務連絡協議会で報告され、教職員に周知された(資料1-2-①-3)。また、新任教職員研修会でも、学生便覧等を用いてこれらの目的についての説明を行っている(資料1-2-①-4)。

本校の養成しようとしている人材像である「学習・教育目標」について、学生はよく理解しておく必要があることから、準学士課程の学生には入学式に学校長が、また始業式に副校長(教務主事)が説明を行い、さらに各クラスの教室に「学習・教育目標」を掲示し、周知の徹底を図っている(資料1-2-①-5)。専攻科生に対しては、オリエンテーション時に学生便覧を用いて説明している(資料1-2-①-6)。

本校では、平成18年3月に教員を対象に本校の目的の周知状況について、アンケート調査を行った。その結果によると、本校の目的については80%程度が知っているという結果(資料1-2-①-7)が得られた。この結果は、平成18年4月開催の第1回校務連絡協議会で報告され、周知の状況が完全ではないことから、各科長・課長を通じて、教職員に本校の目的を再度周知の徹底を図った。

## 観点 1-2-①資料一覧

(資料 1-2-①-1) 目的等の掲載冊子及びその配布先	出典：学生課資料
(資料 1-2-①-2) 目的等の周知	出典：平成15年度第1回校務連絡協議会議事要旨
(資料 1-2-①-3) 準学士課程の学習・教育目標のサブ目標	出典：平成17年度第8回校務連絡協議会議事要旨
(資料 1-2-①-4) 新任教職員研修の資料	出典：平成18年度新任教(職)員研修会資料
(資料 1-2-①-5) 学習・教育目標の教室への掲示	出典：学生課資料
(資料 1-2-①-6) 専攻科生への学習・教育目標説明	出典：平成18年度専攻科オリエンテーション資料
(資料 1-2-①-7) 学習・教育目標のアンケート	出典：平成18年度第1回校務連絡協議会資料

## 資料 1-2-①-1

## 目的等の掲載冊子及びその配布先

	「目的」の掲載	「教育理念」の掲載	「教育理念を達成するための三つの目標」の掲載	「学習・教育目標」の掲載	配布対象者	
					学内	学外
学校要覧	あり	あり	あり	あり	---	文部科学省、高専機構本部、全国高専62校、九州内国立大学11校、九州内少年自然の家・成年の家、県内大学・短大8校、鹿児島県、国分市、隼人町、県・町教育委員会13機関、求人各社、その他
学生便覧	あり	あり	あり	あり	全学生 全教職員	高専機構本部 全国高専
シラバス	なし	なし	なし	あり	クラス各2部 全教員 係各1部	県内の全大学・短大 編入先の大学
Webページ	あり	あり	あり	あり	---	---
中学生のみなさんへ	なし	なし	なし	あり	---	鹿児島県下全中学校
学生募集要項 新入生	なし	あり	あり	あり	---	鹿児島県下全中学校
学生募集要項 編入学生	なし	なし	なし	あり	---	県内全工業高校 宮崎県内全工業高校 熊本県内一部工業高校
学生募集要項 専攻科生	専攻科の目的あり	なし	なし	あり	本校学生、5年担任、専攻科長、専攻長	

(出典：学生課資料)

## 資料 1-2-①-2

## 平成15年度第1回校務連絡協議会議事要旨

日 時：平成15年4月25日(金) 13:30~16:10

場 所：管理棟大会議室

## 議 事

## 1. 校長報告

(2) 4月21日(月)に行われた文部科学省との中期計画の事前相談において、鹿児島高専の目的、理念等について、資料1-1に基づき説明した。

資料1-1中の「教育理念」について、研究科長から「教育・研究理念」に変更したい旨要望があり、補佐連で検討することとなった。

(出典：平成15年度第1回校務連絡協議会議事要旨)

資料 1 - 2 - ① - 3

## 平成 17 年度第 8 回校務連絡協議会議事要旨

日 時：平成 17 年 12 月 16 日（金）13：30～15：25

場 所：管理棟大会議室

議 事

## 2. 協議題

## (1) 準学士課程（本科）の学習・教育目標について

河野教務主事より、機関別認証評価を受けるにあたり、準学士課程（本科）には専攻科とは別の学習・教育目標が必要であり、教務委員会及び教育プログラム改善委員会で検討し、平成 18 年度新入生から適用の JABEE サブ目標になるべく合わせた形で最終案を作成したとの説明があった。

教務委員経由で各学科で検討していただいております。文言の若干の修正はあり得るが、基本的な構成は資料 1 のとおりとすることについて諮られ、原案どおり了承された。

(出典：平成 17 年度第 8 回校務連絡協議会議事要旨)

資料 1 - 2 - ① - 4

平成 18 年 4 月 3 日

## 新任教員研修会

## 学生の教育について

教務主事所管事項

## 本校の目的、理念、学習教育目標の説明

## 1. 授業関連

- (1) 授業時間割：行事予定表（短縮授業，特別講演等による時間割変更等あり）
- (2) 休講なし：時間割交代（届けと許可）又は自習（課題：監督）で対応
- (3) 授業時間：1 授業時間（50 分），2 授業時間（100 分）
- (4) 授業内容：授業科目の基礎・基本，シラバスに基づく
- (5) 授業程度：早期把握（学生の理解度に応じて調整）  
平常試験は学生・教員双方に有益
- (6) 授業方法：話し方，板書，進み具合
- (7) 学生対応：授業中の私語，居眠り対策  
要ケア学生（主事，学級担任等より連絡）  
オフィス・アワーズ
- (8) 授業評価：特活や試験期間中などに実施，5 段階評価と記述式回答  
FD 委員会が分析，集計→校長→当該教員

## 2. 試験と評価

- (1) 定期試験：前期末と後期末（実験・実習科目以外は実施）  
※前期中間と後期中間（教員判断で実施）
- (2) 試験監督：教務係で割り振り，監督教員間で交代可（教務係へ届ける）
- (3) 成績評価：シラバス記載（学年末成績 60 点以上が合格）
- (4) 成績会議：試験後（前期中間，前期末，後期中間）の 3 回
- (5) 追試験・再試験・再評価試験
- (6) 進級判定：規則に基づき実施し，校長が決定
- (7) 卒業判定：規則に基づき実施し，校長が決定

## 3. 出欠管理：欠課時数（遅刻・早退は 15 分以内，それ以上は欠課扱い）

遅刻・早退が 3 回→欠課 1 時限

教員手帳及び出席簿（1～3 年），科目別出欠カード（4・5 年）で管理

## 4. 学級担任：教務事項，厚生補導，その他クラスの全般指導

副担任制度（1，2 年）

SHR（1～3 年），特別活動（1～3 年）

## 5. その他：学生便覧，教務の手引き

(出典：平成 18 年度新任教員研修会資料)

資料 1-2-①-5



(出典：学生課資料)

資料 1-2-①-6

平成18年度 専攻科生オリエンテーション

日 時： 平成18年4月6日 9:00～  
(平成17年4月7日 9:00～ 予備日)

場 所： 専攻科棟2階共用教室

内 容：

- I. 全専攻対象
  1. 学生便覧, シラバス, 時間割表の配布
  2. 専攻科スタッフの紹介
  3. 学生心得について
  4. 行事日程等について
  5. 教育課程および専攻科修了要件等について
  6. 学位授与システムについて
  7. JABEE 修了要件について
  8. 時間割について
  9. 特別研究について
  10. 特別セミナーについて
  11. IPTOEIC 日程等について
  12. 特別実習 (インターンシップ) について

(出典：平成18年度専攻科オリエンテーション資料)

資料 1-2-①-7

授業の質の向上、シラバスの活用、教育目標などに関する教員へのアンケート No.2

平成17年度3月実施

6. FD活動(授業の改善・質の向上)として、今後取り組んで欲しいという内容がありましたらご記入下さい。

7. 本校の目的を知っていますか？	□	
1. はい	44	83.0%
2. いいえ	8	15.1%
8. 本校の教育理念、および教育理念を達成するための目標を知っていますか？	□	
1. はい	35	66.0%
2. いいえ	11	20.8%
9. 本科(準学士課程)の学習・教育目標を知っていますか？	□	
1. はい	43	81.1%
2. いいえ	9	17.0%
10. 専攻科課程の学習・教育目標を知っていますか？	□	
1. はい	44	83.0%
2. いいえ	8	15.1%
11. 本校入学者(本科1年生、および編入学生)に対するアドミッションポリシーを知っていますか？	□	
1. はい	40	75.5%
2. いいえ	6	11.3%

(出典：平成18年度第1回校務連絡協議会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、学生便覧、シラバス、ウェブページ等を用いて、学生及び教職員に本校の目的の周知を図っている。学生に対しては、入学式、始業式などで「学習・教育目標」についての説明が行われ、教職員については、校務連絡協議会及び新任教員研修会等において本校の目的が説明されている。なお、教員へのアンケート結果から、本校の目的の周知状況は、おおむね理解されているものと判断される。

以上のことから、目的が、学校の構成員に周知されている。

#### 観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校では、「目的」、「教育理念」、「教育理念を達成するための目標」及び「学習・教育目標」を本校ウェブページに掲載することにより、広く社会に公表している。これらの本校の目的のうち、本校では、教育の目的である学習・教育目標の社会への周知が最も重要であると考えていることから、この学習・教育目標を入学募集要項(資料 1-2-②-1)、学校紹介パンフレット「中学生のみなさんへ」に記載している。そして、これらの刊行物は、夏休みに実施している中学生対象の一日体験入学の参加者(平成17年度参加中学校98校、参加中学生321名)に配布し、本校の学習・教育目標を広く公表している。また、県内の中学校に対して学校紹介(平成17年度本校主催の学校説明会78校、中学校主催の学校説明会61校)や個別訪問(平成17年度177校)も行っており、このとき学校要覧、入学募集要項、学校紹介パンフレット「中学生のみなさんへ」を配布して、本校の学習・教育目標を中心に説明している。

また、本校の目的や活動状況を広く地域社会に公表するために、MBCテレビにより平成17年8月21日に学校紹介特別番組を放映した(資料 1-2-②-2)。この内容はDVDに収録し、鹿児島県の各中学校に配布している(資料 1-2-②-3)。同じように本校の目的や活動状況を記載した学校要覧を大学、訪問企業等に配布して社会に公表している。

#### 観点 1-2-②資料一覧

(資料 1-2-②-1) 学習・教育目標の公表	出典：平成18年度入学生募集要項
(資料 1-2-②-2) 学習・教育目標の公表	出典：MBC南日本放送での放映
(資料 1-2-②-3) 学校紹介 DVD	出典：学校紹介DVD

資料 1 - 2 - ② - 1

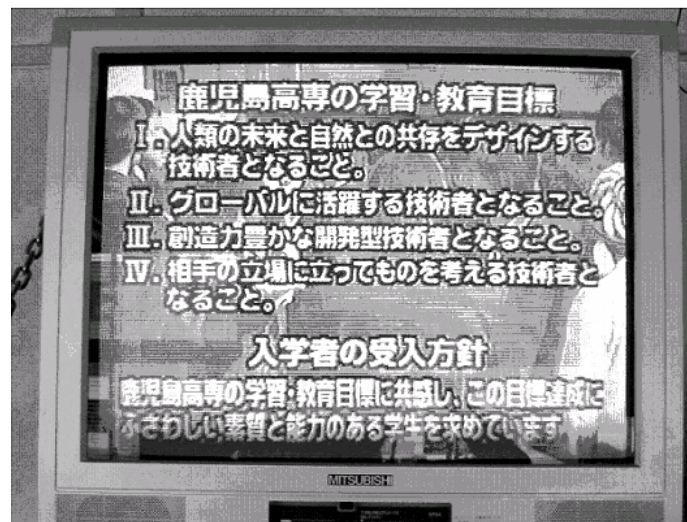
## 学習・教育目標

教育理念を達成する3つの目標をもとに、養成すべき人材像として以下の学習・教育目標を掲げている。

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者
2. グローバルに活躍する技術者
3. 創造力豊かな開発型技術者
4. 相手の立場に立ってものを考える技術者

(出典：平成 18 年度入学者募集要項 表紙裏)

資料 1 - 2 - ② - 2



(出典：MBC 南日本放送での放映 H17. 8. 21 放映)

資料 1 - 2 - ② - 3



(出典：学校紹介 DVD)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的はウェブページや学校要覧等で社会に広く公表されている。また、中学生対象の一日体験入学や、学校紹介及び中学校個別訪問等を通じて、入学者募集要項や「中学生のみなさんへ」を配布し、本校の教育の目的である学習・教育目標を中心に説明を行っている。さらに、本校の概要や活動状況を地域社会に知ってもらうために、マスコミを通じて学校紹介番組を放映するとともに、この内容をDVDに収録して、各中学校に配布している点は、本校の目的を広く社会に公表する手段として高く評価できる。

以上のことから、本校の目的が社会に対して広く公表されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 本校の目的，教育理念，教育理念を達成するための3つの目標及び学習・教育目標が体系的，かつ明確に定められている点
- ・ マスコミによる学校紹介番組の放映し，これをDVDに収録して本校の目的を社会に公表している点

(改善を要する点)

特になし

## (3) 基準1の自己評価の概要

本校では、創設時から現在にいたるまで、学則第1条に本校の設置目的及び使命を掲げている。この目的を基に、本校の教育理念が定められ、この教育理念を達成するための3つの目標及び学習・教育目標が設定されている。また、本校では、養成すべき人材像を4つの学習・教育目標として定め、学生が卒業（修了）時に身につけるべき具体的資質・学力については、サブ目標で定めている。

学則第1条及び第46条に定められた本校の目的は、学校教育法第70条の2及び第70条の6に沿って策定されたものであり、この目的を踏まえて本校の教育理念，教育理念を達成するための3つの目標，本校の教育の目的である4つの学習・教育目標が定められていることから、本校の目的は、そのいずれにおいても、学校教育法の規定から外れるものではない。

本校では、学生便覧，シラバス，ウェブページ等を用いて、学生及び教職員に本校の目的の周知を図っている。学生に対しては、入学式，始業式などで「学習・教育目標」についての説明が行われ、教職員については、校務連絡協議会及び新任教員研修会等において、本校の目的が説明されている。なお、教員へのアンケート結果から、本校の目的の周知状況は、おおむね理解されているものと判断される。

また、本校の目的はウェブページや学校要覧等を用いて社会に広く公表されている。特に、中学生対象の一日体験入学や学校紹介及び中学校個別訪問等を通じて、入学者募集要項や「中学生のみなさんへ」を配布し、本校の教育の目的である学習・教育目標を中心に説明を行っている。さらに、本校の概要や活動状況を地域社会に知ってもらうために、マスコミを通じて学校紹介番組を放映するとともに、この内容をDVDに収録して、各中学校に配布している点は、本校の目的を広く社会に公表する手段として高く評価できる。



## 基準 2 教育組織（実施体制）

## （1）観点ごとの分析

観点 2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校の準学士課程は、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科及び土木工学科の5学科で構成されており（資料 2-1-①-1）、構成、定員とも高等専門学校設置基準に従ったものとなっている。各学科及び一般教育科の教育方針を資料に示す（資料 2-1-①-2, 3）。一般教育科は主に「豊かな人間性」の涵養を、各学科は「創造性豊かな」「実践的・開発型技術者」の育成を目指しており、本校の教育理念（「幅広い人間性を培い、豊かな未来を創造しうる開発型技術者を育成する」）に沿ったものとなっている。各学科は、教育理念を具体化した本校の学習・教育目標に沿ってそれぞれの教育課程を定め、教育方針に従って、特色ある教育を行っている。

## 観点 2-1-①資料一覧

（資料 2-1-①-1）学則	出典：平成18年度学生便覧
（資料 2-1-①-2）各学科の教育方針	出典：平成18年度学生便覧
（資料 2-1-①-3）一般教育科の教育方針	出典：平成17年度学校要覧

資料 2-1-①-1

**第8条** 学科、学級数及び入学定員は、次のとおりとする。ただし、教育上有益と認めるときは、校長は、異なる学科の学生をもって学級を編成することがある。

学 科	学 級 数	入 学 定 員
機 械 工 学 科	1	40人
電 気 電 子 工 学 科	1	40人
電 子 制 御 工 学 科	1	40人
情 報 工 学 科	1	40人
土 木 工 学 科	1	40人

（出典：平成 18 年度学生便覧 120頁）

**【機械工学科】****[教育方針]**

- (1) 機械工学の基本的学芸を習得した機械技術者の養成。
- (2) 物づくりをとおした創造力豊かな機械技術者の養成。
- (3) 社会に貢献できる機械技術者の養成。

機械工学は、生活を豊かにする色々なものや機械をつくりだすための学問です。家電製品、自動車、コンピュータ等身近なものから、原子力プラント、人工衛星等に至るまで、その範囲は極めて広く生活活動を伴うものにはすべて機械工学が関わっていると言えます。半導体産業における超精密加工技術、ロボットによる工場の省力化と無人化、太陽熱および原子力等の各種エネルギーの利用等の先端技術の分野で、機械工学は目覚ましい発展を遂げています。これらの研究開発、設計、製造技術には、創造性に富む優秀な機械技術者が求められています。

機械工学では、最先端の高度な技術を研究開発できる技術者を育てることを目的に、まず基礎科目の学習に重点をおいています。そしてこれらの基礎の上に、エネルギー関係、コンピュータ関係、システム関係等の専門分野の科目を体系的に学ぶと同時にCAD/CAM実習などにおいて最先端技術を体得します。さらに、実習や創作活動で独自のものづくりを行って、知的自己啓発、好奇心、および柔軟な発想能力を高揚させるための実践教育を行います。

自ら作ったものが社会で役立つ物として使われ、自分が社会に貢献できることを味わえる実感、それはそれをつくった者のみが味わうことのできる喜びです。情熱のある諸君の健闘を期待します。

**【電気電子工学科】**

1. 社会的責任を担える真摯で堅実な技術者育成
2. 電気・電子系技術の基礎科目の徹底教育
3. エレクトロニクス(電子工学)、コンピュータ(情報工学)、エネルギー(電気機器工学,電力工学)の三つをバランスよく教授

(出典：平成 18 年度学生便覧 3, 4 頁)

電気電子工学科の関係する分野は、電力の発生とその利用から電子回路を応用した通信装置やコンピュータまでの広い範囲にわたっており、現代の科学技術のまさに中核をなしています。環境問題により注目される燃料電池や太陽電池、ユビキタス社会を実現する携帯電話や無線LAN、ICタグ等、家電製品や自動車の電子制御等、すべて電気電子技術によって実現されています。

今や電気電子工学は単に従来の狭い意味での電気業界だけではなく、あらゆる分野で必要とされています。このような時代の要請に応えるために、電気電子工学科では高専教育の理念に沿って、幅広い知識と創造的実践力を持った電気・電子技術者を育成することを目的として教育を行っています。

そのために、まず低学年において、電気・電子技術の基礎となる電気・電子回路、電磁気学、電子工学 および コンピュータの使い方やプログラムの作成方法などをしっかりと学習します。さらに高学年では、電子・通信技術、半導体工学、電気エネルギーの発生とその利用、情報システムなど高度な専門技術を学びます。

#### 【電子制御工学科】

電子制御技術を中心として、電気・電子工学、機械工学およびコンピュータの知識と技術を持ち、一つの装置をトータルに設計できるオールラウンド・エンジニアの育成を目指す。

最近の電化製品や機械装置には電子回路やコンピュータが組み込まれ、操作性・快適性・安全性を向上させるために大きく貢献している。このような技術に対応するためには、個々の機械、電気、情報技術に対応する技術者とともに、総合的な技術に対応出来る電子制御技術者が求められている。電子制御工学科では、電子制御技術を修得するために必要な電気・電子工学、情報処理工学や制御工学の科目に加え、制御の対象となる機械の仕組みや設計・工作技術に関する機械工学の科目をバランスよく配置している。そして、理論だけではなく実験・実習を多く取り入れた「もの作り教育」と「考える教育」に力を入れ、高度な創造性豊かな実践的開発能力を持った電子制御技術者の育成を目指している。

(出典：平成 18 年度学生便覧 4, 5 頁)



**【情報工学科】**

ソフトウェアとハードウェアの両面において優れた問題解決能力を有するシステムエンジニアの育成

電子計算機は単独で科学技術計算などに使われていましたが、今日では政治、経済、報道、気象情報、交通管制など多様な分野で、全地球規模（グローバル）の情報伝達、蓄積、処理などに使用されるようになりました。その結果、電子計算機を中核とし、様々な分野に適合した情報システムを設計、開発できる情報技術者（システムエンジニア）が強く求められています。

情報工学科ではこのような社会のニーズに応えるために、電子計算機や通信システムのハードウェアとソフトウェアの両面に精通したシステムエンジニアの育成を目標として教育を行っています。この目標を達成するためには数学や物理の基礎知識は勿論、電子工学やシステム工学に到る高度の学問を修得する必要があります。また、工学実験や演習を通して、実践的な問題解決能力を身に付けることが望まれます。

**【土木工学科】**

基礎知識の徹底修得を糧として、広範・多岐にわたる専門知識の修得と人間としての倫理観を備えた技術者を育成するとともに、人間と自然環境が共生できる社会資本整備に理解を深め、グローバルな視野に立った、行動的土木技術者の育成を目指す。

土木工学は、錦江湾ウォーターフロントの整備や、本四連絡橋の架設に見るように、生活環境を整備し、高速道路網を完成するなど、豊かで住みよい街づくりや環境保全の整備を行う技術を学ぶ学問であり、欧米では市民工学（Civil Engineering）として愛称されている。土木事業は主として国や地方自治体の予算を使って行う公共事業であり、その予算の執行に当たっては、厳正な事業評価がなされる。それらの評価を踏まえて建設された土木構造物は、かけがえのない後世への人類資産である。土木技術者に求められる資質としては、人類のみでなく地球全体に対しても優しく、かつ、あらゆる分野に対しても通ずる広い視野を持つことが要求される。

（出典：平成18年度学生便覧 5，6頁）

# 一般教育科

## Liberal Arts and Sciences

一般教育科は、よき社会人、優れた技術者に必要な基礎知識、幅広い視野、豊かな人間性及び体力を身につけることを目標とする。

高校及び大学までの内容を精選して、低学年から高学年にわたって修得させる。

(出典：平成17年度学校要覧 4頁)

(分析結果とその根拠理由)

学科の構成は機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科及び土木工学科の5学科であり、設置基準に沿った構成となっている。一般教育科を含めた各学科は、本校の教育理念に沿った教育方針のもと、特色ある教育を行っている。このことから、学科の構成は教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

**観点2-1-②： 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。**

(観点に係る状況)

専攻科課程として機械工学と電子制御工学を基盤とする機械・電子システム工学専攻、電気電子工学と情報工学を基盤とする電気情報システム工学専攻、土木工学を基盤とする土木工学専攻の3専攻が設置されている。この設置目的等については学校教育法に則った形で本校学則第10章専攻科(資料2-1-②-1)に定められている。本校の専攻科は、本校の教育理念を具体化した学習・教育目標に沿って、「環境に配慮したものづくりができる技術者」育成を目指しており、各専攻ごとに教育方針を掲げている(資料2-1-②-2)。各専攻では、それぞれの専門分野の特色を踏まえた上で人間社会と自然環境とのかかわりを理解し、地球環境に配慮したものづくりが提案できる能力を身につけた、創造力豊かな開発型技術者の養成を目指している。

### 観点2-1-②資料一覧

(資料2-1-②-1) 学則

出典：平成18年度学生便覧

(資料2-1-②-2) 各専攻の教育方針

出典：平成18年度学生便覧

## (目 的)

**第46条** 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

## (専攻及び入学定員)

**第47条** 専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専 攻	入 学 定 員
機 械 ・ 電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻	8名
電 気 情 報 シ ス テ ム 工 学 専 攻	8名
土 木 工 学 専 攻	4名

(出典：平成18年度学生便覧 128頁)

## V 各専攻の教育方針及び特色

### 【機械・電子システム工学専攻】

本科の機械工学科と電子制御工学科を基盤として、機械と制御技術を基本としたハード面と、情報システム技術を基本としたソフト面を統合した教育内容である。また、環境に配慮した高付加価値製品の設計開発技術をもち地域産業界で実践的に問題解決できる開発型技術者の育成を目指している。

### 【電気情報システム工学専攻】

電気電子工学と情報工学を有機的に結合した教育内容により、ハードウェア及びソフトウェア技術からシステム制御や電子材料に至る幅広い分野に精通し、地球環境にやさしい高品質で高付加価値製品の設計・開発や制御システム・情報システムなどを担当できる開発型技術者の育成を目指す。

### 【土木工学専攻】

土木工学は、市民が快適で安全な社会生活を送ることができる環境基盤整備を行う工学である。本専攻では特に、鹿児島県特有の自然災害を含む環境問題を主要な教育研究教材として、地域に密着した環境・防災システムの構築に向けた展望のもてる、創造性豊かな開発型技術者を育成する。

(出典：平成18年度学生便覧 8頁)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科の構成は、準学士課程の学科を基盤とした3専攻からなり、各学科における教育の基礎の上に、さらに高度な専門知識、技術を教授する内容となっており、この内容ならびに学則に定められた目的は学校教育法の規定に適合している。また、この目的を具体化した養成すべき人物像として学習・教育目標が定められており、各専攻の教育方針はそれに沿ったものである。

このことから、専攻科の構成は教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

**観点 2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。**

(観点に係る状況)

本校の全学的なセンターとして情報教育システムセンターと地域共同テクノセンターが設置されている。

- (a) 情報教育システムセンターは、情報処理教育、教員研究及び事務処理等の充実を図ることを目的に設置され、中央電子計算機室、パーソナルコンピュータ室及びローカルエリアネットワーク(学内ネットワーク)の管理、運営を行っている(資料2-1-③-1, 2)。パーソナルコンピュータは、中央電子計算機室の情報処理演習室の他に図書館、情報工学科棟に配置され、すべてのコンピュータは、本校のネットワーク上に組み込まれ、コンピュータを用いて実施されるすべての授業に利用されている(資料2-1-③-3)。情報教育システムセンターは、情報処理教育を中心に、本校の教育の目的である4つの学習・教育目標のうち、特に、「創造力豊かな開発型技術者」の育成のために活用されている。
- (b) 地域共同テクノセンターは、「共同研究及び民間等外部の機関との相互協力による共同研究を推進し、本学の教育研究の進展等に寄与するとともに地域社会における技術開発及び技術教育等の振興に資する」ことを目的として設置されている(資料2-1-③-4)。その主要な設備は資料2-1-③-5に示すとおりである。当センターには、創造教育(ものづくり)支援のためにセンター内に創造工房部門が設置され、「創造教育及び共同研究活動に対する技術開発支援の基本計画策定及び実施に関すること」を業務の一つとしている。当センターは、この部門を中心として、本校の教育の目的である「創造力豊かな開発型技術者」を育成するために、ものづくり教育や卒業研究の場を提供するなどの支援を行っている(2-1-③-6)。

**観点 2-1-③資料一覧**

(資料2-1-③-1) 情報教育システムセンター規則	出典：規則集
(資料2-1-③-2) 情報教育システムセンター利用規則	出典：規則集
(資料2-1-③-3) 各教室利用計画表	出典：学生課資料
(資料2-1-③-4) 地域共同テクノセンター規則	出典：規則集
(資料2-1-③-5) 地域共同テクノセンター設備一覧	出典：地域共同テクノセンターパンフレット
(資料2-1-③-6) 地域共同テクノセンターにおける創作活動等の支援状況に関する資料	出典：地域共同テクノセンター資料

## 資料 2-1-③-1

## 鹿児島工業高等専門学校情報教育システムセンター規則

(設置)

第1条 鹿児島工業高等専門学校に、情報教育システムセンター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、情報処理教育、教員研究及び事務処理等の充実を図ることを目的とする。

(施設)

第3条 センターに次の各号に掲げる施設を置く。

- (1) 中央電子計算機室
- (2) パーソナルコンピュータ室
- (3) ローカルエリアネットワーク（以下「LAN」という。）

(センターの業務)

第5条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 電子計算機の操作及び保守、管理
- (2) 情報処理教育における電子計算機演習の補佐
- (3) LANの運用及び整備
- (4) その他センターに関する業務

(情報教育システム管理者)

第6条 センターに、情報教育システム管理者（以下「管理者」という。）を置く。

(管理者の業務)

第7条 管理者は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 電子計算機の保守、管理
- (2) LANの運用、保守、管理及び運営
- (3) その他電子計算機に関する業務

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、センターの利用に関し必要な事項は、別に定める。

(出典：規則集)

## 資料 2-1-③-2

## ○ 鹿児島工業高等専門学校情報教育システムセンター利用規則

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島工業高等専門学校情報教育システムセンター規則第9条に基づき、本校の情報教育システムセンター（以下「センター」という。）の利用について定めるものであり、センターの効率的な利用をはかることを目的とする。

(利用者)

第2条 センターを利用できる者は、次に掲げる者とする。

- (1) 本校の職員
- (2) 本校の学生
- (3) その他校長が必要と認めた者

(利用者)

第3条 センターの利用時間は、原則として8時30分から19時までとする。ただし、休業日については、別に定める。

(利用の優先順位)

第4条 センターの施設利用の優先順位は、原則として次に掲げるとおりとし、順位変更の必要が生じたときは、利用者相互の協議を経て情報教育システムセンター長（以下「センター長」という。）が決定するものとする。

- (1) 授業に関するもの
- (2) 卒業研究に関するもの
- (3) 教員の研究及び事務職員の利用に関するもの
- (4) その他

(時間外利用)

第5条 時間外に利用しようとする者は、あらかじめセンター長の許可を受けなければならない。

2 本校職員のうち、次に掲げる者は、時間外においてもセンターの施設を利用し、又はその立会いのもとに、他の者に利用させることができる。

- (1) センター長
- (2) 情報教育システム委員会（以下「委員会」という。）が計算機の操作及び関連する事項について、十分な知識と経験を有すると認めた者

(出典：規則集)



## 資料 2-1-③-3

平成 18 年度前期

## 図書館パソコン室・情報処理演習室・第 2 ゼミ室・情報棟パソコン室利用計画表

平成 18 年 4 月 19 日現在

		1	2	3	4	5	6	7	8	
月	図書館パソコン室			4 I システムブ・豊平						
	情報処理演習室	1 M 情報基礎・田畑	1 C 情報処理 I・内田		3 M 情報処理・引地					
	第 2 ゼミ室	A 2 論理英コミ・坂元								
	情報棟パソコン室	5 E I 数・榎		1 I コンピュー・新徳		4 I 工学実験・芝				
火	図書館パソコン室									
	情報処理演習室	1 E 情報基礎 I・前園	5 S システム工・宮田		2 M 情報処理・三角					
	第 2 ゼミ室									
	情報棟パソコン室	専攻 ソフト特演・榎園								4 I 多変量解・幸田
水	図書館パソコン室									
	情報処理演習室	1 S 電子制基・吉満	2 E 情報処理・前園							
	第 2 ゼミ室	専攻 計算機基礎・榎園								
	情報棟パソコン室	5 I シス設計・堂込		5 I 情報特論・和田		5 I 工学実験・山田				
木	図書館パソコン室									
	情報処理演習室	2 S 情報処理・植村		3 C 情報処理 II・内田						
	第 2 ゼミ室									
	情報棟パソコン室	1 I 情報処理 I・榎園		3 I 電子計算機・芝					3 I 情報処理 III・豊平	
金	図書館パソコン室	5 全 英語 A・坂元								
	情報処理演習室			3 S 情報処理・河野		3 E 情報処理・今村				
	第 2 ゼミ室									
	情報棟パソコン室	4 I 電子計算機・芝		5 E 電子回路・奥		2 I 情報処理 II・豊平				

※空き時間の利用を希望する方は、利用する1週間前までに教務係へ連絡して下さい。  
第 2 ゼミ室にはパソコン 13 台が設置してあります。

(出典：学生課資料)

## 資料 2-1-③-4

## ○ 鹿児島工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則

(趣旨)

第 1 条 鹿児島工業高等専門学校（以下「本校」という）の共同利用施設として、学内の共同研究及び民間等外部の機関（以下「民間機関等」という。）との相互協力による共同研究を推進し、本学の教育研究の進展等に寄与するとともに地域社会における技術開発及び技術教育等の振興に資するため、鹿児島工業高等専門学校地域共同テクノセンター（以下「センター」という。）を置く。

(業務)

第 2 条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 民間機関等との共同研究、受託研究及び技術相談等に関すること。
- (2) 民間機関等の技術者に対する高度技術教育及び研修に関すること。
- (3) 民間機関等に対する科学技術情報の提供に関すること。
- (4) 創造教育及び共同研究活動に対する技術開発支援の基本計画策定及び実施に関すること。
- (5) 研究の促進に関すること。
- (6) その他センターに関すること。

(部門)

第 3 条 センターに次に掲げる部門を置く。

- (1) 地域交流部門
- (2) 共同研究部門
- (3) 創造工房部門
- (4) 研究促進部門

2 各部門の業務は、センターが別に定める。

(出典：規則集)

## 地域共同テクノセンター設備一覧

センターの機器設備を下表に示します。これまでの地域企業からの技術相談等を見ますと、試作や測定評価の技術相談が多数寄せられました。このことから試作のための工作機械と、測定機器を重点的に設置しております。

番号	品名	規格	機器の説明
1	マシニングセンタ	立型マシニングセンタ V33 型 (牧野フライス)	最高主軸回転速度 2 万 $\text{min}^{-1}$ の超高速高精密加工ができる最新のマシニングセンターである。 試作製品の加工や技術相談で活用する。
2	CAD/CAM/CAE システム	I-DEAS Master (SDRC)	1つのコンピュータ環境で、製品の作成、シミュレーション、最適化、ドキュメント化、構築、テストというすべての作業を行うことができる。技術相談や共同研究の製品の設計、及び強度等の一連の効率的な解析に利用する。
3	ガスクロマトグラフ質量分析装置	GCMS QP-5050Aw (島津製作所)	混合物を分離する手法として非常に優れた能力を持っており、今日科学に関連した分野において最も重要な分析装置である。環境汚染の原因となる埋め立て地の浸出排水や土壌中の水質、地下水等の分析ができる。
4	エネルギー分散形 X 線分析装置	JED-2140XS (日本電子)	エネルギー分散形 X 線分析装置を電子顕微鏡に装着することにより、少ない試料照射電流で短時間に多元素を同時に検出できる。どのような元素が含まれているかを試料を破壊せずに定性的かつ定量的に知ることができる。
5	レーザ可視化システム 水冷 Ar レーザ 可視化用工学ベース レーザライトシートプロブ	GLG3282 BG504 LVS (日本カノマックス)	微粒子を混入させた水や空気の流れにレーザ光源から発せられた薄いシート状の光を当てて流れを可視化するものである。この可視化情報を画像処理することにより、流体の流れを詳しく調べることができる。
6	3次元流体解析システム	Fuji-Ric/ $\alpha$ -Flow (富士総合研究所)	熱・流体工学に関する問題について数値シミュレーションを行い、熱や流れの状況を把握するものである。ボイラ機器、電熱機器、空調設備などにおける熱・流体の流れを予測することに活用できる。
7	微小硬さ試験機	MVK-H2 (アカシ)	加工面のごく表層の硬度解析に用い、フィルムのような薄物、針金のような細物、キーなどの傾斜のついたものにも対応できる。また、加工面だけでなく、メッキや蒸着などのコーティング評価にも利用できる。
8	振動・騒音解析システム	FP4 (オロス)	パソコンにより振動・騒音信号の多チャンネル高速リアルタイム分析、スペクトラム分析、伝達関数測定などの多様な計測が Windows 上で行うことができる。
9	走査電子顕微鏡	JSM5310 (日本電子)	4nm の高い分解能を持つ高性能汎用形電子顕微鏡であり、物質表面の微細な構造を調べることができる。金属の組織、真空蒸着の状況およびコンクリートの粒子の状況等を調べることができる。
10	工業用走査型レーザ顕微鏡	OLS2000 (Olympus)	レーザビームを試料上に走査し、その反射光を検出することにより、微小な形状測定ができる。高集積半導体パターンの線幅測定、欠陥観察、磁気ヘッドの各部測定などに活用できる。
11	材料強度解析システム	YU-2000, AC-1000 (J T トーシ)	2000 k N の JIS 引張・圧縮・曲げ試験、1000 k N の異形棒鋼曲げ試験が可能。丸棒なら直径 51mm までの試験が可能。

(出典：地域共同テクノセンターパンフレット)

## 地域共同テクノセンターにおける創作活動支援状況に関する資料

### 卒研・創作活動等におけるセンターの設備の使用状況

目的：卒業研究（CAEによる設計に関する検討）  
 使用設備：情報処理室，CAD/CAM/CAEシステム  
 使用日数など：年約50回（1回当たり約5時間，2名）

目的：卒業研究及び特別研究（ポリマー表面の観察及び元素分析）  
 使用設備：分析・解析室，走査型電子顕微鏡  
 使用日数など：年約5回（1回当たり約8時間，2名）

目的：卒業研究（民間との共同研究）  
 使用設備：試作実験室，マシニングセンタシステム  
 使用日数など：年約10回（1回当たり約10時間）

目的：特別講座講演会（ベンチャー企業の紹介）  
 使用設備：共同研究・受託研究室  
 使用日数など：平成18年5月9日 約8時間，40名）

目的：公開講座（学生の「ものづくり」教育）  
 使用設備：共同研究・受託研究室  
 使用日数など：平成17年7月29日，30日（10時間），8月26日～28日 約6～10時間）

目的：公開講座（科学技術週間：講演2件及び公開講座1件）  
 使用設備：共同研究・受託研究室  
 使用日数など：平成17年4月21日（2時間），23日（5時間）  
 平成18年4月20日（2時間），22日（5時間））

### 卒研・創作活動等におけるテクノセンター月別使用状況（平成17年度の場合）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
回数	1	4	8	5	6	8	9	11	4	17	16	3
時間	10	20	40	30	60	50	55	60	20	100	90	20

（出典：地域共同テクノセンター資料）

(分析結果とその根拠理由)

本校には、全学的なセンターとして、情報教育システムセンターと地域共同テクノセンターが設置されている。情報教育システムセンターは、複数のコンピュータ室及び学内情報ネットワークを整備・管理し、情報処理教育として利用されている。また、地域共同テクノセンターは、産学連携による利用が本来の設置目的であるが、ものづくり教育や卒業研究の場としても利用されている。

このことから、本校に設置された全学的なセンターは、本校の教育の目的である4つの学習・教育目標の内、特に、「創造力豊かな開発型技術者」の育成に利用され、いずれも、本校の教育の目的を達成する上で適切なものとなっていると判断できる。

**観点 2-2-①： 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。**

(観点に係る状況)

(a) 検討・運営体制

学則第10条(資料2-2-①-1)に教育計画の立案その他教務に関することを掌理するために、教務主事を置くことが定められている。また、教員内部組織規程(資料2-2-①-2)で教務主事の資格、任期及び職務を定めている。本校における教育課程全体を企画調整するための検討・運営は、準学士課程については教務委員会(委員長:教務主事)が、また専攻科課程については専攻科委員会(委員長:専攻科長)が行っている。教務委員会及び専攻科委員会において審議された事項は、校務連絡協議会(資料2-2-①-3)で協議され、校長の決定を経て、各学科・専攻において実施に移される。

①教務委員会

教務委員会の構成メンバーは教務委員会規則第3条に定められているとおりである。準学士課程の教育に関する様々な事項を審議する上で、全学的な意見の集約を行うのに適した規模となっている。当委員会の主要な業務は、準学士課程における各学科の意見を調整し、準学士課程の教育課程の編成や教育課程運営に必要な事項の企画・立案を行うことである(資料2-2-①-4)。

②専攻科委員会

専攻科長の資格及び職務は、教員内部組織規程(資料2-2-①-5)に定められている。専攻科委員会の構成は、専攻科委員会規則第3条に定められているとおりである。当委員会は、専攻科課程の教育に関する様々な事項を審議する上で、全学的な意見の集約を行うのに適した規模となっている。また、当委員会は各専攻との連携を図りながら、専攻科課程の教育課程の編成や実施に必要な事項の企画・立案を行うことを、主な業務内容とする(資料2-2-①-6)。

(b) 検討・運営体制の活動状況

教務委員会は、月に2回の開催を、専攻科委員会は月に1回の開催を定例としている。両委員会の具体的活動の代表例として次のようなものがある。

教務委員会の活動例として、平成17年度に教育課程の再検討を行った。これは、準学士課程平成18年度以降入学者用の新カリキュラムの策定と4・5年生配当科目についての学修単位の導入

を検討したものである（資料 2-2-①-7）。また，専攻科委員会においても，平成17年度には，新カリキュラム編成についての検討が行われた（資料 2-2-①-8）。

### 観点 2-2-①資料一覧

（資料 2-2-①-1）学則	出典：規則集
（資料 2-2-①-2）教員内部組織規程	出典：規則集
（資料 2-2-①-3）校務連絡協議会規則	出典：規則集
（資料 2-2-①-4）教務委員会規則	出典：規則集
（資料 2-2-①-5）教員内部組織規程	出典：規則集
（資料 2-2-①-6）専攻科委員会規則	出典：規則集
（資料 2-2-①-7）新カリキュラムの策定	出典：平成17年度第11回教務委員会議事要旨
（資料 2-2-①-8）カリキュラム編成の審議	出典：平成17年度第5回専攻科委員会議事要旨

資料 2-2-①-1

#### ○ 鹿児島工業高等専門学校学則

##### 第4章 学科，学級数，入学定員及び教職員組織

（教務主事，学生主事及び寮務主事）

第10条 本校に教務主事，学生主事及び寮務主事を置く。

2 教務主事は，校長の命を受け，教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

3 学生主事は，校長の命を受け，学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。

4 寮務主事は，校長の命を受け，学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

（出典：規則集）

資料 2-2-①-2

#### ○ 鹿児島工業高等専門学校教員内部組織規程

（教務主事，学生主事及び寮務主事）

第2条 学則第10条に定める教務主事，学生主事及び寮務主事（以下「主事」という。）のうち，教務主事は，教授をもって，学生主事及び寮務主事は，教授又は助教授をもって充てる。

2 主事の任期は2年とし，再任を妨げない。ただし，欠員が生じた場合の後任の任期は，前任者の残任期間とする。

3 教務主事は，副校長として，校長の職務を補佐し，校長に事故あるときはその職務を代行する。

4 学生主事及び寮務主事は，校長補佐として，校長の職務を補佐する。

（出典：規則集）

資料 2 - 2 - ① - 3

## ○ 鹿児島工業高等専門学校校務連絡協議会規則

(設置)

第 1 条 鹿児島工業高等専門学校（以下「本校」という。）各部門の連絡を緊密にし、校務の円滑なる運営をはかる目的をもって校務連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(組織)

第 2 条 協議会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事，学生主事及び寮務主事
- (3) 一般教育科文系・理系科長
- (4) 学科長
- (5) 専攻科長
- (6) 図書館長，情報教育システムセンター長及び地域共同テクノセンター長
- (7) 事務部長
- (8) 学生何でも相談室長
- (9) 特命統括官（J A B E E 担当，F D 担当，留学生担当及びロボコン担当）
- (10) 総務課長及び学生課長
- (11) 技術室長
- (12) その他校長が必要と認めた者

(議長)

第 3 条 協議会は、校長が必要と認めたときにこれを召集し、その議長となる。

(協議事項)

第 4 条 協議会は、各部門相互連絡の緊密化に努めると共に、校長が本校の運営上必要と認め諮問した事項について協議する。

(出典：規則集)

資料 2 - 2 - ① - 4

## ○ 鹿児島工業高等専門学校教務委員会規則

(設置)

第 1 条 鹿児島工業高等専門学校に、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成に関する事。
- (2) 年間教育計画及び授業時間の編成に関する事。
- (3) 入学，退学，転学，休学及び卒業に関する事。
- (4) 試験及び学業成績等に関する事。
- (5) 出席簿及び指導要録に関する事。
- (6) 授業の指導方法・教育方法改善等に関する事。
- (7) 視聴覚教育等に関する事。
- (8) 大学及び専攻科の進学に関する事。
- (9) その他教務に関する事。

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務主事及び教務主事補
- (2) 一般教育科文系・理系から推薦された教員 各 1 名
- (3) 学科長から推薦された教員 各 1 名
- (4) 専攻科から推薦された教員 1 名
- (5) 学生課長
- (6) その他校長が必要と認めた者

(出典：規則集)

資料 2 - 2 - ① - 5

## ○ 鹿児島工業高等専門学校教員内部組織規程

(専攻科長)

第 6 条 専攻科に専攻科長を置く。

- 2 専攻科長は、教授又は助教授をもって充てる。
- 3 専攻科長は、専攻科に関することをつかさどる。
- 4 専攻科長は、校長補佐として、校長の職務を補佐する。

(出典：規則集)

資料 2 - 2 - ① - 6

## ○ 鹿児島工業高等専門学校専攻科委員会規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、鹿児島工業高等専門学校専攻科規則第 4 条の規定に基づき、鹿児島工業高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成及び実施に関すること。
- (2) 教育計画及び授業時間の編成に関すること。
- (3) 入学者選抜に関すること。
- (4) 入学、退学、転学、休学、復学及び修了に関すること。
- (5) 試験及び学業成績に関すること。
- (6) 学生の進学及び就職に関すること。
- (7) 学生の厚生補導に関すること。
- (8) 専攻科における特別研究指導教員及び授業担当教員の資格の認定に関すること。  
ただし、教員審査委員会に係るものを除く。
- (9) その他専攻科の運営に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 専攻科長
- (2) 教務主事
- (3) 学生主事
- (4) 寮務主事
- (5) 専攻長
- (6) 各学科並びに一般教育科文系及び一般教育科理系で、専攻科を担当する教員若干名
- (7) 学生課長
- (8) その他校長が必要と認めた者

2 前項第 6 号の委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

3 前項の委員に欠員を生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員が議長の職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の出席を求め、意見を求めることができる。

(委員会の運用)

第 6 条 委員会は、他の委員会と密接な関係があり調整を必要とする場合、又は他の委員会で審議することがふさわしいと判断した場合は、それぞれ調整し、又は審議を依頼することができる。

(出典：規則集)

資料2-2-①-7

## 平成17年度 第11回教務委員会議事要旨

日 時：平成17年10月11日（火） 15：15～16：30

場 所：第一会議室

## 【報告・審議事項】

- 平成18年度2-5学年用国際単位導入のカリキュラム，平成18年度1年生適用の新学習・教育目標に沿ったカリキュラム（資料1，三角）  
国際単位について，新基準単位と名称変更すると報告があった。三角主事補から各学科資料について，修正箇所の説明があった。この資料は10月14日の校務連へ提案するため，10月12日午前中までに修正の上教務係へ送信することになった。

（出典：平成17年度第11回教務委員会議事要旨）

資料2-2-①-8

## 平成17年度第5回専攻科委員会議事要旨

日 時：平成17年9月2日（金） 15：30～17：15

場 所：第一会議室

## 2. 審議事項

## (1) 平成18年度カリキュラムについて

A E I 専攻長から，電気機器特論（担当教員退職のため），知能情報工学（担当教員死亡のため）の2科目廃止すると説明があり了承された。また，採用予定者への担当科目の変更については，採用が確定してから協議する。

また，「履修に関する規則」第10条について，必修科目が「必修得科目」であることが明確になるような表現とすべきと説明があり改正することが了承された。文言については，今後検討する。

（出典：平成17年度第5回専攻科委員会議事要旨）

## (分析結果とその根拠理由)

教育課程全体を企画調整し有効に展開するための検討を行う委員会として，準学士課程には教務委員会が，専攻科課程には専攻科委員会が設置されている。本校の学則により，両委員会とも，それぞれの課程における各学科・専攻の意見を集約・調整できるような人的規模・バランスの取れた委員構成になっている。また，教務委員会においては教務主事が，専攻科委員会においては専攻科長が委員長として，責任の所在が明確化されている。また，両委員会は，定期的に委員会を開催し，本校の教育活動に関する事項につき，日常的な問題から重要事項に至るまで審議し，企画・立案を行っている。なお，両委員会において審議された事項は，校務連絡協議会において協議され，校長の決定を経て実施に移される。

以上のことから，本校においては，教育課程全体を企画調整し有効に展開するための検討を行う委員会が適切に整備され，活動を行っている判断できる。

## 観点2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

## (観点に係る状況)

本校においては，準学士課程及び専攻科課程の双方に，一般科目と専門科目との連携を行う恒常的な組織は存在しないが，以下に示すように，基本的には，教務委員会及び専攻科委員会を中心として，必要に応じて一般科目教員と専門科目教員との間の連携がとられている。また，必要に応じて教員間



での連携もとられている。

(a) 準学士課程における連携例

- ① 平成17年度には、平成18年度入学者適用の新カリキュラムの策定及び学修単位導入に伴うカリキュラムの改定が行われた。このカリキュラムの策定及び改定に際して、教務委員会を中心に、一般科目と専門科目間において連携がとられ、その内容が決定された(資料2-2-②-1)。
- ② 本校では、各学科の教育課程に配置された科目のすべてにつき、それぞれの科目で教授する事項をまとめた「基礎・基本」を作成し、これに基づいて各科目の授業が展開されている。この「基礎・基本」の策定に当たっては、教務委員会を中心に一般科目と専門科目の間での数回の意見交換がなされ、最終的には両者の合意の下で、その内容が決定されている(資料2-2-②-2)。
- ③ 中間・定期試験後に行われる成績会議において、授業内容や進捗についての意見交換がなされている(資料2-2-②-3)。

(b) 専攻科課程における連携例

- ① 専攻科課程においては、英語教育に関して、一般科目教員と専門科目教員とが連携をとった事例がある(資料2-2-②-4)。
- ② 本校専攻科課程においては、技術倫理を必修科目と位置づけ、一般科目及び専門科目の教員が連携して授業を展開している。その開講に際しては、各学科の担当教員が教授内容について検討を行った。これは、恒常的かつ組織的な連携ではないが、必要に応じてなされた一般科目教員と専門科目教員との間の連携の例として挙げる事ができる(資料2-2-②-5)。

**観点2-2-②資料一覧**

(資料2-2-②-1) カリキュラム改訂	出典：平成17年度第10回教務委員会議事要旨
(資料2-2-②-2) 基礎基本の作成	出典：平成17年度第6回教務委員会議事要旨
(資料2-2-②-3) 成績会議での意見交換	出典：平成17年度成績会議(機械工学科)議事要旨
(資料2-2-②-4) 英語教育に関する連携	出典：平成16年度第8回専攻科委員会議事要旨
(資料2-2-②-5) 技術倫理に関する話し合い資料	出典：平成16年度技術倫理担当者情報交換会 要旨

資料2-2-②-1

平成17年度 第10回教務委員会議事要旨

日 時：平成17年9月27日(火) 15:15～16:15

【報告事項】

1. 国際単位導入のカリキュラム、新学習・教育目標に沿ったカリキュラム、新学習・教育目標との科目対応表、および新規・変更・廃止科目の理由書の最終版提出(資料1)  
 問題点について、一般科目から応用物理を物理学基礎に名称変更したいと以前提案があったが、各学科から提出された資料案は名称が統一されていなかった。名称の統一について物理担当代表教員と専門学科の教務委員で話し合いを行うことになった。数学の科目名についても同様に話し合いを行うことになった。  
 なお、三角主事補が日程調整を行いメールで連絡する。  
 電気電子工学科から、実験を必修にしているため、単位を落とした場合卒業できないことになるため、進級要件について、今後教務委員会で検討する。  
 国際単位一般科目3年の統計学Ⅰは、後期開講へ変更し、週開講時間数は前期18時間・後期14時間がそれぞれ16時間・16時間に変更となった。  
 なお、各学科において細部のチェックを再度願います。

(出典：平成17年度第10回教務委員会議事要旨)

資料 2-2-②-2

## 平成 13 年度 第 6 回教務委員会議事要旨

日 時：平成 13 年 6 月 19 日（火） 15:30～17:00

## 【報告事項】

4. 物理の基礎・基本案に対する意見（持原）・・・・・・・・資料-1  
電気工学科、情報工学科から出された物理の基礎・基本案に対する意見を、6月12日に物理に渡した。

(出典：平成 17 年度第 6 回教務委員会議事要旨)

資料 2-2-②-3

## 成績会議(機械工学科)議事要旨

6月21日(火曜)11:00-12:10

## 嶋根(数学担当)

## 全般的な学生の状況

3M 全員に問題集を課題として与えている。特に、成績不振者は提出し成績を挽回するよう指導中。

5M 中間成績はレポートにより判定（期末成績に 1・2 割の影響）。未提出理由のある学生は提出により追試験と同様に評価。

## 数学への希望

現在機械の教務委員が機械の全教員から要望を募っている。

工学では自然対数が多いので  $\ln$  を明確に教えておいて欲しい。

微分方程式は応物と工力で使うが 12 月頃になる。微分方程式を早期に授業すると、共通テストを予定しているの、これに参加できなくなる。

## 保坂(独語)

## 全般的な学生の状況

4M 日本語を用いない Total Physical Response では M 科の学生は受け答えが良い。

欧州の地歴など基礎知識に乏しい。

M 科の学生はとっさのメモを取るのが上手くない(I 科の学生は女子を中心に上手)、文章力がない

即興的に授業を展開していくと、話はよく聞いているがメモを取りながら話に着いてくることが難しいようだ。

(出典：平成 17 年度成績会議議事要旨 機械工学科)

資料 2-2-②-4

## 平成 16 年度第 7 回専攻科委員会議事要旨

日 時：平成 16 年 11 月 5 日（金） 15:00～17:00

場 所：第一会議室

## 2. 報告事項

- (5) 専攻科 2 年生に対する緊急補講について 10/25 (資料 4)

現専攻科 2 年生は、現在 6 名のみが TOEIC400 点をクリアしている。全員が TOEIC400 点を突破する方策として緊急補講を行うことが、教育プログラム点検会議において決定された。これを受けて 10 月 25 日専攻科 2 年生へ緊急補講の説明会を行い、10 月 28 日から毎日 100 分の補講を開始していることが報告された。

(出典：平成 16 年度第 7 回専攻科委員会議事要旨)

## 平成 16 年度 第 1 回「技術倫理」担当者情報交換会 要旨

日時：平成 16 年 4 月 16 日（金）15：00～16：00

場所：第一会議室

出席者：山下、鮫島、大竹、加治佐、松田

欠席者：三重野

記録：松田

1. 平成 16 年度日本工学教育協会教育・研究講演会での発表について  
 昨年度 3 月に、技術倫理担当スタッフにより「鹿兒島高専の技術者倫理教育の現状と課題」というテーマで講演の申込をしたところ、「採択」の通知がきた。当初、松田を講演者として申込をしていたが、都合により講演ができなくなったため、講演者を新たに選任することとなった。JABEE 対応の池田委員長に講演してもらってはどうかとの声もあったので、このような意見も踏まえたうえで松田が調整に当たることになった。

## 2. 平成 15 年度の講義の反省

(1) 各担当者に、技術倫理の講義について自由に意見を述べていただいた。

① 山下教授  
 技術倫理の基礎を担当している。技術倫理のスタッフは当初、ボランティア的メンバーとして授業を担当することになったが、その後固定化されている。しかし、各分野に固有の問題があるのであるから、各学科から 1 名ずつ出いただき、自分の学科についての内容を講義する必要がある。

② 鮫島助教授  
 歴史的観点からの倫理の講義をおこなった。時間数が少なくやや消化不良気味ではないかとの印象がある。しかし、与えられた時間で講義を終えられるよう対応はしている。

③ 大竹教授  
 環境倫理について講義したが、水俣病などの公害問題を題材として地球の現状なども講義しているが、実際には、4 時間という短い時間で何を教えるべきか迷っている。

④ 加治佐教授  
 自らの企業経験を踏まえ、実務上の題材で講義をしている。内容は、組織と開発モラルであるが、実際企業の体験談を踏まえているので、学生にとっては、就職するにあたっていい勉強になったと評価されている。

⑤ 松田助教授  
 法学の見地から、技術者の倫理を考えるにあたって必要とされる基礎知識を講義しているが、他の分野（教員）との連携で何に重点を置くべきか、迷っている現状である。

(2) 上記、各担当者の意見を踏まえて、来年度の講義のあり方について若干の議論を行った。

※ 講義担当スタッフについて、バランスを欠いているのではないかと。すなわち、現在の構成では、一般科目教員が 3 名、専門学科の教員は、理系 1 名、情報 2 名である。各学科においては独特の倫理的問題があるため、各学科から少なくとも 1 名は担当してもらいたい。また、技術倫理にのみ、技術者倫理教育を負わせ科長が具体的なプランを作成して、担当スタッフに指示を与えるべきであるとの意見があったが、現実には難しいため、担当者から要望を出すこととした。この意見がなかった場合、講義時間との関連では、現行の時間数では現実には講義ができていないところを、そこで、本科 4～5 年の部分で、総論（一般教養）の部分に必修にすることはどうかとの提案があった。また、教員の持ちコマ数の増加については、外部の非常勤講師で対応することも考慮すべきであるとの意見もあった。

※ いずれにせよ、平成 17 年度には、専攻科カリキュラムの改定が予定されており、今年度その作業に着手するので、上記議論を踏まえて専攻科には、技術倫理のあり方を提案することとした。

※ JABEE 対応のプログラムとの関係で、昨年度は、技術倫理の受講につき混乱を生じたので、今年度は、前もって技術倫理は必修科目（原則として全員受講する科目）であることを学生に認識させる必要があるとの意見があった。

※ 担当者相互に講義内容を把握してもらおう趣旨で、講義で用いたレジュメ等を回覧することとした。

## 3. 日本工学教育協会主催ワークショップ「技術者倫理」参加報告

昨年度、出席された山下教授より、資料に基づき、ワークショップでの要点が報告された。

(出典：平成 16 年度 第 1 回「技術倫理」担当者情報交換会 要旨)

## 来年度の「技術倫理」についての話し合いの要旨

日時：平成 16 年度 9 月 9 日（木）16：50～17：50

場所：第一会議室

出席者：山下，松田，大竹，中島（M 科代表），本部（E 科代表），加治佐（担当者兼 I 科代表），正田（C 科代表）

記録者：松田忠大

先般，社会科から文系の専攻科委員を通じて，専攻科委員会に提案した来年度以降の「技術倫理」の担当者および講義内容等の改善案について意見交換を行った。専攻科委員会に提案した改善案は次の内容である。

「専攻科 2 年次の技術倫理を専門の教員で担当し事例研究を中心とした内容を充実させ，社会科の教員は，本科 4・5 年次開講の人文・社会科学選択科目を専攻科でも開講することで，本科において倫理学，法学などを選択しなかった学生に対して再度これらの科目を履修する機会を与えることで専攻科における技術倫理の基礎を充実させる。」

この提案につき，話し合いを行った結果，提案された意見は次の 2 点に集約される。

## 【意見 1】

本科の人文・社会科目をそのまま専攻科で開講するのではなく，専攻科 1 年において「技術倫理基礎（仮）」という形で開講し，専攻科 2 年においては「技術倫理」を開講するのがよいのではないだろうか。具体的には，「技術倫理基礎（仮）」では，現在の総論部分を取り扱い，技術倫理に関する基礎的な講義を行う。また，「技術倫理」では，各専門学科の教員に 1 名ずつ出ていただき，各専門分野に関連する事例考察を中心とした講義を行う。

## 【意見 2】

現在の専攻科カリキュラムの過密状況では，新たに「技術倫理基礎（仮）」の科目を開講するのは不可能ではないか。また，必ずしも各学科に技術倫理（事例研究）を担当することができる教員がいるわけではないといった学科の事情を考えると，コマを増やすのではなく，現行の「技術倫理」の形態のままで，総論を社会教員，環境倫理を大竹先生，残りの部分を新しく他の専門学科の教員に入ってもらったマイナーチェンジでいいのではないか。

※なお，この他に，学校全体のカリキュラムという観点で考えると，本科カリキュラムを整理統合して，技術者育成の一環としての本科 5 年後期における倫理学の受講促進を検討，あるいは，本科 4～5 年において技術倫理を開講すべきであり，教育プログラム改善委員会を中心に本科カリキュラムの改訂も視野に置いて議論すべきではないかとの意見も出された。

（出典：来年度の「技術倫理」についての話し合いの要旨）

## （分析結果とその根拠理由）

一般科目や専門科目の授業内容や進度等に関する連携は，主に教務委員会及び専攻科委員会を中心に行われている。たとえば，教育課程の編成や本校独自に定めた「基礎・基本」策定時には，これらの委員会を通じて，一般科目教員と専門科目教員が，教授すべき科目・内容を精選するための連携をとった。また，複数学科の教員で実施する授業（技術倫理）に際しては，一般科目教員と専門科目教員が教授内容の決定について連携をとっている。中間・定期試験後に開催される成績会議では，授業内容及び進度について意見交換がなされている。

以上のことから，本校においては，一般科目と専門科目を担当する教員の連携が実質的に機能していると判断できる。

## 観点 2 - 2 - ③： 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点到に係る状況）

学級担任は，学生の学習・生活相談等の学生支援を行っている（資料 2 - 2 - ③ - 1）。学級担任の行う教育活動を円滑に実施するために，教員間での人的支援として，1・2 年生については副担任

制を採っている（資料 2-2-③-2）。また、1年生の学級担任を支援するため、各学科の教員との連携により、チューター制を採用し、学生の学習及び生活指導を行っている（資料 2-2-③-3）。また、成績会議においては、個々の学生についての学習状況、生活状況について情報交換を行い、学級担任を支援している（資料 2-2-③-4）。さらに、平成13年度には「学生何でも相談室」が設置され、本校教職員である相談員と外部カウンセラーが学級担任と連携して学生の学習・生活支援にあたっている。また、教員からの相談も受け付け、学級担任等の支援にも当たっている（資料 2-2-③-5）。以上のような学級担任の教育活動については、学生課教務係が、学生の成績処理や出欠の記録等の事務的処理に関する支援を行っている（資料 2-2-③-6）。

課外活動における各クラブには、本校教員が指導教員として配置され、学生に対する技術指導及び生活指導などを行っており、学生の人間性の涵養に大きく貢献している（資料 2-2-③-7）。これらのクラブ活動の指導に従事する教員に対しては、学生課学生係が施設設備の整備や対外試合の申込等の事務的支援を行い（資料 2-2-③-8）、学生の保護者で組織される後援会が財政的支援を行っている（資料 2-2-③-9）。

#### 観点 2-2-③資料一覧

（資料 2-2-③-1）	教員内部組織規程	出典：規則集
（資料 2-2-③-2）	副担任制	出典：教務の手引き
（資料 2-2-③-3）	チューター制	出典：平成16年度第5回電子制御工学科 教室会議議事要旨
（資料 2-2-③-4）	学級担任の支援	出典：平成17年度前期末試験成績会議議事録
（資料 2-2-③-5）	カウンセラー室来談件数	出典：学生支援のあゆみ 年報2004
（資料 2-2-③-6）	事務組織及び事務分掌規程	出典：規則集
（資料 2-2-③-7）	クラブ指導教員一覧	出典：学生課資料
（資料 2-2-③-8）	事務組織及び事務分掌規程	出典：規則集
（資料 2-2-③-9）	各種大会引率に係わる教職員旅費	出典：総務課資料

資料 2-2-③-1

#### ○ 鹿児島工業高等専門学校教員内部組織規程

（学級担任）

第13条 各学科の学級に、それぞれ学級担任（以下「担任」という。）を置く。

2 担任は、教授又は助教授若しくは専任講師をもって充てる。

3 担任は、それぞれ担当する学級の教務、厚生補導及び運営に関することをつかさどる。

4 担任は校長が任命し、その任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（出典：規則集）

## 教務の手引き

## 7章 学級担任と学年主任に関すること

## 7-1. 学級担任

## 1. 学級担任の配置

各学科の学級に、それぞれ学級担任を置き、教授又は助教授若しくは専任講師をもって充てる（教員内部組織規程第6条第1項、第2項）。

## 2. 学級担任の職務

学級担任は、それぞれ担当する学級の教務、厚生補導及び運営に関することをつかさどる（教員内部組織規程第6条第3項）。

## 7-2. 副担任

1. 関連規則： 現在関連規則はないが、第1、第2学年に各2名の副担任をおいている。

2. 日常業務： 担任が病気、出張等で業務を遂行できない時に代理業務を行う。

## 7-3. 学年主任

1. 関連規則： 現在関連規則はないが、各学年に学年主任をおいている。

2. 日常業務： 各学年の担任の代表として、各学年に共通した問題について意見調整を行う。また、学年単位の行事の計画・実施や学年成績会議等においては中心となって運営する。

（出典：平成18年度教務の手引き 18～20頁）

## 平成18年度 学年副担任

学年副担任	1	年	助教授	保坂直之
	1	年	教授	藤崎恒晏
	2	年	助教授	鮫島俊秀
	2	年	助教授	野澤宏大

## 第5回電子制御工学科教室会議議事録

日時 平成16年6月9日 13:30

場所 電子制御工学科棟3F ゼミナル室

## 4. その他

## (1) チュータについて（宮田）

6/16の特活から、チューターを開始することが報告された。分担は「論理の仕組み」と「自然の仕組み」で学生を分けて行うことが提案され、そう行うこととなった。なお、詳細は学科長へ一任することとなった。

## 第6回電子制御工科学科会議議事録

日時 平成17年7月19日 10:00～

場所 電子制御工学科棟3F ゼミナル室

## 1. 2 協議事項：

## (2) 1年生へのチューターの実施について

一回目の日時の調整

・・・9月7日の特活の時間とすることでクラス担任と交渉する。

（出典：平成16年度第5回電子制御工学科教室会議議事要旨）

資料 2-2-③-4

## 17 年度前期期末試験成績会議議事録

2005.10.28(金)

## 学年全体のコメント

- (1) 留年が確実視されるような学生の学習指導について、教務委員会等で考えて欲しい。
- (2) レポート等も提出しない、授業中に教科書も出さない、やる気のない学生の指導について何か良い方法はないか。
- (3) 各教科において、問題のある学生については、試験の結果が出る前に担任としても指導をしたいので早めに教えて欲しい。
- (4) 上位の学生が下位の学生と勉強会を持っている。下位の学生に対する効果はわからないが、上位の学生は確実に成績が上がっている。以前行われていた寮のチュートリアルを可能であれば続けてほしい。
- (5) 1年生のクラスでは、保護者の授業参観ツアーを考えている。
- (6) 成績不振者は、居眠りをしたり、授業を聞く意欲にかけている。なかなか良い指導方法は見つからない。

(出典：平成 17 年度前期期末試験成績会議議事録)

資料 2-2-③-5

表 2.2 平成 16 年度カウンセラー室・来談件数

	平成16年度												計	平成15年度 計
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
相談件数	0	50	42	17	1	4	14	6	6	4	3	147	92	
心理テスト呼び出し		43	38	17								98	58	
内 其他学生		6	3		1	2	4	5	3	1		25	27	
内 職員						2	6		1	1	3	13	6	
内 保護者		1	1				4	1	2	2		11	1	

(出典：学生支援のあゆみ 年報 2004 16 頁)

資料 2-2-③-6

## ○鹿児島工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規程

## 第 4 章 課長補佐及び係の事務分掌

第 10 条 学生課の所掌事務は、課長補佐及び各係において次の事務をつかさどる。

3 教務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 教務に関する事務の企画及び運用に関すること。
- (2) 学生の募集及び入学者の選抜に関すること。
- (3) 教育課程及び授業・休業に関すること。
- (4) 学生の入学・休学・復学・退学・除籍及び卒業等に関すること。
- (5) オリエンテーションに関すること。
- (6) 授業時間割の編成に関すること。
- (7) 非常勤講師の授業計画に関すること。
- (8) 試験及び成績に関すること。

(出典：規則集)

## ○鹿児島工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規程

## 第 4 章 課長補佐及び係の事務分掌

第 10 条 学生課の所掌事務は、課長補佐及び各係において次の事務をつかさどる。

3 教務係においては、次の事務をつかさどる。

- (9) 進級及び卒業の認定に関する事。
- (10) 学生の出・欠席に関する事。
- (11) 学生の修学指導に関する事。
- (12) 学生指導要録、その他学生の諸記録の整理保管に関する事。
- (13) 学生証、在学証明等に関する事。
- (14) 学生の実習・見学等に関する事。
- (15) 教科書及び教材に関する事。
- (16) 教室の管理に関する事。
- (17) 課程認定申請（総務課所管を除く。）に関する事。
- (18) J A B E E に関する事。
- (19) 留学生（他係所管を除く。）に関する事。
- (20) 所掌事務に関する調査・統計、その他諸報告に関する事。
- (21) 所管の旅行命令に関する事。
- (22) その他教務に関する事。
- (23) その他他係の所掌に属さない事。

（出典：規則集）



## 18年度クラブ指導教員名簿

2006/04

体育系クラブ			
クラブ		指導教員	
1	硬式野球	池田 正利	藤崎 恒晏
		原口 誠夫	嶋根 紀仁
2	バスケットボール	鮫島 俊秀	前薮 雅宜
		柴島 史欣	
3	女子バスケットボール	南金山 裕弘	坂元 真理子
4	バレーボール	樫根 健史	平田 登基男
		田畑 隆英	
5	女子バレーボール	椎 保幸	塚崎 香織
6	剣道	松田 忠大	本部 光幸
		野沢 宏大	
7	空手道	中村 格	室屋 光宏
8	柔道	須田 隆夫	島名 賢児
		奥 高洋	堤 隆
9	卓球	入江 智和	玉利 陽三
10	陸上	山内 正仁	新徳 健
		加治屋 徹実	濱川 恭央
11	少林寺流空手道	赤澤 正治	
12	弓道	吉満 真一	河野 良弘
		白坂 繁	西留 清
13	サッカー	山崎 亨	あべ松 伸二
		引地 力男	北薮 裕一
14	水泳	宮田 千加良	鎌田 清孝
15	ワンダーフォーゲル	三角 利之	吉満 真一
16	ソフトテニス	加治屋 徹実	今村 成明
		豊平 隆之	
17	テニス	岸田 一也	山田 一二
		熊谷 博	松本 裕司
18	バドミントン	赤澤 正治	加治佐 清光
		山本 桂一郎	
19	合気道	持原 稔	村上 浩
20	ハンドボール	内田 一平	内容 保
21	極真空手	江崎 秀司	大竹 孝明
22	自転車競技	保坂 直之	山下 登
23	少林拳	小迫 雅裕	

体育系同好会			
同好会		指導教員	
1	トレーニング	原口 誠夫	
2	体操	堤 隆	
3	ラグビーフットボール	(休部中)	
4	フットサル	前野 祐二	
文化系クラブ			
クラブ		指導教員	
1	写真	坪井 克剛	丸山 伸夫
2	天文気象	(休部中)	
3	ブラスバンド	幸田 晃	堤 隆
4	文芸	保坂 直之	松本 裕司
5	英語	嵯峨原 昭次	坂元 真理子
		樫根 健史	
6	軽音楽	今村 成明	岡林 巧
7	美術	池田 英幸	山田 一二
8	エコラン	江崎 秀司	大竹 孝明
9	野生動物研究	赤澤 正治	伊藤 益生
10	メカトロニクス研究	植村 眞一郎	持原 稔
11	映画研究	白坂 繁	あべ松 伸二
		榎園 茂	三原 めぐみ
文化系同好会			
同好会		指導教員	
1	ピアノ	三原 めぐみ	
2	情報処理研究会	村上 浩	疋田 誠
3	イラスト・CG	芝 浩二郎	池田 英幸
4	電子・情報・システム	堂込 一秀	豊平 隆之
5	航空技術研究	丸山 伸夫	中島 正弘
6	デジタルテクノロジー	原田 治行	
7	origin	樫根 健史	
8	環境創造物理研究会	中島 正弘	丸山 伸大
9	韓国文化研究会	(休部中)	

☆指導教員欄の最初に記載されている方に、主担当をお願いいたします。

(出典：学生課資料)

## ○鹿児島工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規程

## 第 4 章 課長補佐及び係の事務分掌

第 10 条 学生課の所掌事務は、課長補佐及び各係において次の事務をつかさどる。

- 5 学生係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 厚生補導に関する事務の企画及び運用に関すること。
  - (2) 学生の補導に関すること。
  - (3) 学生の表彰及び懲戒に関すること。
  - (4) 学生の課外活動に関すること。
  - (5) 学生に対する講習会・講演会に関すること。
  - (6) 学生の団体・集会・掲示及び印刷物等に関すること。
  - (7) 学生の便覧に関すること。
  - (8) 学生の健康診断及び保健・衛生管理に関すること。
  - (9) 学校医に関すること。
  - (10) 日本学校安全会に関すること。（経理に関することを除く。）
  - (11) 学生の福利厚生に関すること。
  - (12) 学生の就職に関すること。
  - (13) 学生の制服・制帽・その他学用品等の斡旋に関すること。
  - (14) 学生会に関すること。
  - (15) 学生のレクリエーションに関すること。
  - (16) 学生の宿所斡旋に関すること。
  - (17) 独立行政法人日本学生支援機構及びその他育英奨学に関すること。
  - (18) 授業料の減免及び徴収猶予に関すること。
  - (19) 留学生（他係所管を除く。）に関すること。
  - (20) 所管の旅行命令に関すること。
  - (21) 後援会（総務課所管を除く。）に関すること。
  - (22) 所掌事務に関する調査・統計その他諸報告に関すること。
  - (23) その他厚生補導に関すること。

（出典：規則集）

## 資料2-2-③-9

各種大会引率に関わる教職員旅費				
	日付	大会名	旅費(円)	備考
1	平成17年 4月10日	平成17年度第1回鹿児島県陸上競技記録会	2,360	
2	平成17年 4月17日	平成17年度第2回鹿児島県陸上競技記録会	2,360	
3	平成17年 4月17日	国分市長旗争奪テニス大会	1,100	
4	平成17年 4月17日	平成17年度鹿児島県自転車競技ロード選手権大会引率	1,100	
5	平成17年 4月17日 平成17年 4月24日	鹿児島県春季バドミントン大会引率、 始良伊佐地区春季バドミントン大会引率	4,620	
6	平成17年 4月23日	全九州総合選手権県大会引率	2,920	
7	平成17年 4月29日	平成17年度春季学生バレーボールリーグ引率	2,480	
8	平成17年 5月 1日	第6回始良地区小中高生卓球大会引率	1,100	
9	平成17年 5月3～5日 平成17年 5月10日 平成17年 5月29・30日	第3回鎌田英俊南九州高校サッカー交流大会引率、 始良伊佐地区高体連春季サッカー大会引率 第58回鹿児島県高等学校サッカー競技大会引率	31,580	
10	平成17年 5月3～5日 平成17年 5月29日	鎌田英俊杯南九州サッカー交流大会引率 第58回鹿児島県高等学校サッカー競技大会引率	10,580	
11	平成17年 5月10～11日	平成17年度始良伊佐地区高体連春季大会卓球競技引率	1,466	
12	平成17年 5月10～11日	平成17年度地区高体連春季庭球大会引率	2,200	
13	平成17年 5月10～11日	平成17年度始良伊佐地区高校バレーボール大会引率	2,200	
14	平成17年 5月10～11日	平成17年度始良伊佐地区高等学校大会引率	833	
15	平成17年 5月10～11日	平成17年度始良伊佐地区高校バスケットボール大会引率	3,080	
16	平成17年 5月10～11日	平成17年度春季始良伊佐地区高校ソフトテニス大会引率	2,200	
17	平成17年 5月10～11日	平成17年度地区高体連春季庭球大会引率	2,200	
18	平成17年 5月10日	平成17年度始良伊佐地区高校柔道大会引率	1,540	
19	平成17年 5月10日	平成17年度始良伊佐地区高体連剣道大会引率	1,100	
20	平成17年 5月10日	2005年度始良伊佐地区高等学校陸上競技大会引率	833	
21	平成17年 5月10日 平成17年 5月28日	始良伊佐地区春季バスケットボール大会引率 鹿児島県高校総体バスケットボール大会引率	3,900	
22	平成17年 5月3～5日	第3回鎌田英俊杯南九州高校サッカー交流大会引率	8,220	
23	平成17年 5月11～13日	平成17年度始良伊佐地区高校野球大会引率	4,920	
24	平成17年 5月11日	平成17年度始良伊佐地区高校空手道大会引率	1,100	
25	平成17年 5月11日	平成17年度始良伊佐地区高校空手道大会引率	1,100	
26	平成17年 5月14日	平成17年度(第42回)対都城高専親善試合引率	20,900	19人
27	平成17年 5月14日	鹿児島県自転車競技選手権大会引率	5,400	
28	平成17年 5月19～21日	平成17年度鹿児島県高等学校自転車競技大会引率	35,860	2人
29	平成17年 5月20・22日	第75回九州学生陸上競技対校選手権大会引率	4,720	
30	平成17年 5月21・22日	平成17年度鹿児島県高校総体バレーボール大会引率	4,720	
31	平成17年 5月22日	始良地区バドミントン大会団体戦引率	2,200	2人
32	平成17年 5月24・25日	平成17年度鹿児島県高校総体ソフトテニス競技大会引率	7,080	2人
33	平成17年 5月25～27日	第37回鹿児島県高等学校テニス競技大会引率	9,440	2人
34	平成17年 5月25・26日	インターハイ県予選バドミントン大会引率	3,880	2人
35	平成17年 5月25・26日	鹿児島県高等学校柔道競技大会引率	9,440	2人
36	平成17年 5月28日	平成17年度鹿児島県高校総体ソフトテニス競技大会(女子)引率	2,360	
}				
127	平成18年 1月29日	第27回鹿児島県高等学校新人サッカー大会引率	7,080	3人
128	平成18年 1月26～29日	第37回高校樋口杯テニストーナメント引率	12,880	
129	平成18年 2月16日	1月28日の第6回九州高専新人テニス大会引率	1,100	
130	平成18年 2月25日	第46回鹿児島県高等学校新人卓球大会引率	4,720	2人
131	平成18年 3月30～31日	平成17年度全国高等専門学校選抜弓道大会学生引率	53,605	
132	平成18年 3月11日	05KSLカップサッカー競技大会引率	4,720	2人
133	平成18年 3月9・10日	2月9日の平成17年度鹿児島県高校春季ソフトテニス大会引率	4,720	2人
134	平成18年 3月31日	平成17年度九州地区高専ハンドボール新人大会引率	2,200	2人
		合計	3,346,945	
経費：鹿児島工業高等専門学校教育研究助成金				
備考欄：人数は同一大会で同一日程の引率者数				

(出典：総務課資料)

## (分析結果とその根拠理由)

学級担任の行う教育活動については、副担任制やチューター制を採用し、成績会議における学生の学習・生活状況の情報交換などを通じて、担任業務を支援している。また、「学生何でも相談室」などにより、学生の学習・生活指導に関する担任業務を支援している。さらに、学生課教務係が学級担任の、また、学生係が課外活動指導教員の教育活動の事務的支援に当たっている。なお、本校学生の保護者で組織する後援会は、特に、課外活動の指導等に対して財政的支援を行っている。

以上のことから、本校では教育活動を円滑に支援するための支援体制が機能していると判断できる。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

## (優れた点)

- ・ 本校の目的を達成する上で、学科の構成及び専攻科の構成が適切なものになっている点
- ・ 1年生の学級担任の学習及び生活指導を支援するため、各学科の教員との連携により、チューター制が採用されている点

## (改善を要する点)

特になし

## (3) 基準 2 の自己評価の概要

準学士課程の学科の構成は機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科及び土木工学科の5学科であり、高等専門学校設置基準を満たしている。また、一般教育科を含めた各学科は、本校の教育理念に沿った教育方針のもと、特色ある教育を行っている。このことから、学科の構成は教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。専攻科課程は、準学士課程の学科を基盤とした機械・電子システム工学専攻、電気情報システム工学専攻、土木工学専攻の3専攻からなり、この内容ならびに学則に定められた目的は学校教育法の規定に適合している。また、各専攻の教育方針は、本校の学習・教育目標に沿ったものである。このことから、専攻科の構成は教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

全学的なセンターとして、情報教育システムセンターと地域共同テクノセンターが設置されている。情報教育システムセンターは、主に情報処理教育に利用されている。また、地域共同テクノセンターは、産学連携のための利用のほか、ものづくり教育や卒業研究の場としても利用されている。以上のことから、本校に設置された全学的なセンターは、いずれも、「創造力豊かな開発型技術者」の育成に利用され、本校の教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

教育課程全体を企画調整し有効に展開するための検討を行う委員会として、準学士課程には教務委員会が、専攻科課程には専攻科委員会が設置されている。両委員会とも、それぞれの課程における各学科・専攻の意見を集約・調整できるような人的規模・バランスの取れた委員構成になっている。また、両委員会は、定期的に委員会を開催し、本校の教育活動に関する事項について審議し、企画・立案を行っている。なお、両委員会において審議された事項は、校務連絡協議会において協議され、校長の決定を経て実施に移される。以上のことから、教育課程全体を企画調整し有効に展開するための検討を行う委員会が適切に整備され、活動を行っている。

教育課程の編成や授業内容及び進度等に関しては、教務委員会及び専攻科委員会を中心に、一般科目教員と専門科目教員が連携をとっている。

学級担任の行う教育活動を支援するために、副担任制やチューター制を採用している。また、成績会議や「学生何でも相談室」により、学生の学習・生活指導に関する担任業務を支援している。さらに、学生課教務係が学級担任、また、学生係が課外活動指導教員の教育活動に対して、事務的支援に当たっている。なお、本校学生の保護者で組織する後援会は、特に、課外活動の指導等に対して財政的支援を行っている。以上のことから、本校では教育活動を円滑に支援するための支援体制が機能している。

## 基準3 教員及び教育支援者

## (1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校は、1学年5学級(1学科1学級)、入学定員200人で、一般科目担当教員としては、専任教員21人、非常勤講師32人を配置(資料3-1-①-1, 2)している。

本校の学習・教育目標(資料1-1-①-5参照)を達成するために、一般科目(一般教育科文系・理系)教員を配置している。また、非常勤講師についても、教育目標を遂行するために、適任の教員を配置している。

本校の教育は、豊かな人間性と一般教養、専門技術に必要な基礎的能力を養い、人文及び社会系の科目については、単に基礎的なものにとどまらず、その学問のあり方をも教授し、独力で教養を深めることができるように教育内容を考え、授業内容に合致した専門性を有する担当教員を配置(資料3-1-①-2)している。

## 観点3-1-①資料一覧

(資料3-1-①-1) 教員配置状況 一般教育科 出典：総務課資料

(資料3-1-①-2) 担当教員一覧 一般教育科 出典：総務課資料

資料3-1-①-1

## 教員配置状況

平成18年5月1日現在

区 分		教授	助教授	講師	助手	計	
一 般 科 目	国 語					0	
	社会	倫理倫社	1				1
		歴史		1			1
		政治経済		1			1
	保健体育	1		1		2	
	外国語	英語	2		2		4
		ドイツ語		1			1
	自然科学	数学	3		2		5
		物理	1	1			2
		化学	1		1		2
	応用物理	1				1	
	応用数学		1			1	
	合 計	10	5	6	0	21	

(出典：総務課資料)

担当教員一覽

一般教育科  
常勤教員

氏名	職名	担当科目	専門分野
赤沢 正治	教授	応用物理, 物理学演習	固体物性
伊藤益生	教授	微積分学ⅠⅡⅢⅣ, 線形代数	統計科学
大竹 孝明	教授	化学, 環境工学, 環境工学(5M)	化学工学, 反応工学, 分離工学, 一般化学
嵯峨原昭次	教授	英語演習Ⅰ 英会話(3年)	英語教育
白坂 繁	教授	微積分学ⅠⅡ 微分方程式 応用数学Ⅱ 数学基礎ⅢⅣ 応用代数学(専攻科)	数学(代数学, 初等数学)
藤崎 恒晏	教授	数学基礎ⅢⅣ 統計学ⅠⅡ 留学生数学微積分学ⅠⅡ	統計科学
丸山 伸夫	教授	物理, 宇宙科学概論, 応用物理(3M4M)	地球電磁気学
山崎 亨	教授	保健体育	体育学
山下 登	教授	倫理 倫理学	近代フランス哲学(デカルト)
精松 伸二	教授	英語Ⅱ 英語(3年) 英語A	英語学
鮫島 俊秀	助教授	歴史(1年) 現代史	歴史
嶋根 紀仁	助教授	微積分学ⅢⅣ 数値解析Ⅰ 数値解析Ⅱ	位相空間論, General Topology
野澤 宏大	助教授	物理 応用物理	惑星磁気圏物理, 超高層大気物理
保坂 直之	助教授	ドイツ語Ⅰ ドイツ語ⅡA ドイツ語ⅡB	ドイツ詩, ドイツ語教授法
松田 忠大	助教授	政治・経済 法学	商法(海商法)
北園 裕一	講師	保健体育	保健学
熊谷 博	講師	数学基礎ⅠⅡⅢⅣ 応用数学Ⅱ 微分方程式(専攻科) ベクトル解	解析的整数論
坂元真理子	講師	英語Ⅰ 英文法Ⅰ 英語A	第二言語習得
三原めぐみ	講師	化学	化学
村上 浩	講師	数学基礎ⅠⅡ 微積分学ⅢⅣ 統計学Ⅰ 応用数学Ⅰ	代数体上の岩澤理論
塚崎 香織	講師	英語Ⅱ 英文法(2年) 英語A	英語教育

非常勤講師

氏名	所属	担当科目	専門分野
上村 忠昌	元本校教授	国語(3年) 国文学(I)	国語国文学, 国語教育
梶島 三夫	元高校教員	国語(1年) 国文学(S, C)	国語学
小野 益男	元高校教員	国語(2年) 国文学(M, E)	国語学
西田 豊穰	元高校教員	歴史(2年)	歴史
佐野 武則	元高校教員	地理	地理学
八木 正	鹿児島国際大学短期大学部	経済学	職業労働社会学, 差別と人権の社会学, 健康・福祉社会学
森田 豊子	大阪外語大学非常勤講師	政治学	英語・国際社会学
重久 哲也	ペアーレ	美術	染織家
中原 博子	元高校教員	音楽	音楽学
海江田恵理子	鹿児島医療福祉専門学校非常勤講師	英語Ⅰ 英文法Ⅰ 英文法(2年) 英語(4年)	英語
新福 豊美	鹿児島大学非常勤講師	英語B	現代米文学
上園 機俊	元高校教員	英語(4年)	英語
James Scott	スコット英会話教室	英語A	英語
Carl Mantzel	志学館大学	英会話(2年)	English as a foreign language, Linguistics, Education
清水 純子	元ロシア東欧貿易会・ロシア東欧経済研究所員	日本語 日本事情	日本文化とその教育, 日本事情
新森 修一	鹿児島大学 理学部助教授	統計学Ⅰ	信頼性理論, ネットワーク理論
宮嶋 公夫	鹿児島大学 理学部教授	線形代数Ⅰ	複素解析学, 複素幾何学
西田 詩	鹿児島大学 理学部助手	線形代数Ⅰ 応用数学Ⅰ	数値解析(偏微分方程式)
磯川 直幸	鹿児島大学教育学部教授	応用数学Ⅰ	Stochastic Geometry
徳重 修一	鹿児島大学大学院理工学研究所 院研究生	微積分学ⅢⅣ	統計学
赤塚思無邪	元高校教員	数学基礎ⅢⅣ	数学
有馬 一成	鹿児島大学	化学(2年)	タンパク質化学, 分子生物化学
押尾 幸雄	元高校教員	生物	生物学
溜池 誠一	鹿児島大学非常勤講師	物理(2年)	応用物理学
眞竹 善徳	元高校教員	応用物理(3年)	応用数学・力学
佐々木正司	元本校教授	応用物理(4年)	物理教育
武隈 晃	鹿児島大学教育学部	保健体育(3年)	体育・スポーツ経営学, 体育評価論
藤島 仁兵	鹿児島大学教育学部	保健体育(5年)	運動方法学, 球技技術論, 指導論, パイオメカニクス
鬼塚 幸一	鹿児島高専名誉教授	保健体育(4年)	体育学
松尾美穂子	元女子美術大学非常勤講師	保健体育(1,2年女子)	体育学
嶋田紀麿子	鹿児島大学医学部	保健体育(1年生性教育)	助産学, 母性看護学, 性科学
園中 浩二	福祉の質研究所	ボランティア活動論	ボランティア論

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校は、1学年5学級(1学科1学級)、入学定員200人で、一般科目担当教員として、専任教員21人、非常勤講師32人を配置している。また、本校の学習教育目標を達成するために、必要な教員を配置している。

**観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況)

本校は、1学年5学科(1学科1学級)で構成され、専門科目担当教員としては、専任教員52人、非常勤講師39人を配置(資料3-1-②-1～6)し、高等専門学校設置基準を満たしている。

専門科目は、本校の学習・教育目標(資料1-1-①-5参照)を達成するために、5つの専門学科に専門科目の教員を配置している。また、これらを担当する教員は非常勤講師を含め、各担当分野で高い専門性を有し、かつ各専門分野で研究活動を行っている(資料3-1-②-2～6)。

#### 観点3-1-②資料一覧

(資料3-1-②-1) 教員配置状況	専門科目	出典：総務課資料
(資料3-1-②-2) 担当教員一覧	機械工学科	出典：総務課資料
(資料3-1-②-3) 担当教員一覧	電気電子工学科	出典：総務課資料
(資料3-1-②-4) 担当教員一覧	電子制御工学科	出典：総務課資料
(資料3-1-②-5) 担当教員一覧	情報工学科	出典：総務課資料
(資料3-1-②-6) 担当教員一覧	土木工学科	出典：総務課資料

資料3-1-②-1

#### 学科別教員配置状況

平成18年5月1日現在

区 分		教授	助教授	講師	助手	計
専 門 科 目	機械工学科	5	4	1		10
	電気電子工学科	3	2	4	1	10
	電子制御工学科	5	4		1	10
	情報工学科	4	4	1	2	11
	土木工学科	5	5		1	11
合 計		22	19	6	5	52

(出典：総務課資料)



資料 3 - 1 - ② - 2

## 担当教員一覽

機械工学科  
常勤教員

氏名	職名	担当科目	専門分野
池田 英幸	教授	機械工学基礎(1M), 材料学(3M), 材料学(4M), 工学実験(4M), 工学演習(4M), 外書輪講(5M)	材料物性
江崎 秀司	教授	機械工学基礎(1M), 情報処理(2M), 熱力学(4M), 伝熱工学(5M), 工学実験(5M), 外書輪講(5M)	熱工学, 伝熱工学, 流体工学
中島 正弘	教授	機械工学基礎(1M), 流体工学(4M), 流体力学(5M), エネルギー変換工学(5M), 外書輪講(5M), 工学実験(5M)	流体工学, 流体力学
三角 利之	教授	工学実験(4S), 工学演習(4M), 熱機関(5M), 外書輪講(5M), 機械工学基礎(1M), 情報処理(2M), エネルギー工学(4S), 工学実験(4M)	熱工学
持原 稔	教授	機械工学基礎(1M), 材料力学(4M), 機械力学(5M), 工学実験(5M), 外書輪講(5M)	材料力学, 機械力学
南金山 裕弘	助教授	機械工学基礎(1M), 材料力学(3M), 機械設計製図(3M), 創作活動(3M), 熱機関(5M), 塑性加工(5M), 外書輪講	塑性加工
田畑 隆英	助教授	機械工学基礎(1M), 機械設計製図(2M), 創作活動(3M), 工学演習(4M), 工学実験(5M), 制御工学(5M), 機械設計製図(3M), 外書輪講(5M)	流体工学
引地 力男	助教授	機械工学基礎(1M), 機械工作法(2M), 情報処理(3M), 工作実習(3M), 機構学(4M), 工学実験(5M), 外書輪	機械工作
椎 保幸	助教授	機械設計法(3M), 機械設計製図(4M), 工学演習(4M), 工学実験(4M), 流体機械(5M), 外書輪講(5M), 工作	流体工学, 混相流
山本桂一郎	講師	機械工作法(1M), 工作実習(2M), 機械工作法(3M), 工学実験(4M), 外書輪講(5M)	砥粒加工, 機能性評価

非常勤講師

氏名	所属	担当科目	専門分野
日高 基次	元工業高校校長	熱機関, 計測工学	材料力学・計測工学
森山三千彦	元 都城高専機械工学科(教授)	生産工学	材料学, 設計製図
桐野 弘城	元 本校教官	図学	機械設計法, 機構学
栗屋 三郎	鹿兒島始良高等技術専門校メカトロニクス科 教	電気工学概論	電気電子工学
谷口 功二	(株)トヨタ車体研究所 取締役社長	生産システム	生産システム学
眞竹 善徳	元高校教諭	工業力学	応用数学・力学

(出典：総務課資料)

## 担当教員一覽

電氣電子工学科  
常勤教員

氏名	職名	担当科目	専門分野
本部 光幸	教授	電氣計測(2E), 電氣機器(4E), パワーエレクトロニクス(5E), 創造実習(4E), 電氣工学実験(4E,5E)	パワーエレクトロニクス(インバータをはじめとする電力変換器, モータ制御)
加治屋 徹実	教授	電子基礎(2E), 電子工学(3E), 半導体工学(4E), 電子物性(5E), 創造実習(4E), 電氣工学実験	電子材料
須田 隆夫	教授	電磁気学 I (3E), 電氣電子材料(5E), 創造実習(4E), 電氣工学実験(3E,4E,5E)	電子材料, 物性工学, 医用生体電子工学
中村 格	助教授	発変電工学(4E), 電力輸送工学(5E), 創造実習(4E), 電氣工学実験(2E,3E,5E)	電力工学, 高電圧工学, パルスパワー工学
桑島 史欣	助教授	電氣計測(2E), 電氣機器(4E), パワーエレクトロニクス(5E), 創造実習(4E), 電氣工学実験(4E,5E)	パワーエレクトロニクス(インバータをはじめとする電力変換器, モータ制御)
今村 成明	講師	情報処理(2E), 情報処理(3E), 電子計算機 II (5E), 情報処理特論(5E), 創造実習(4E), 電氣工学実験(3E,4E,5E)	結晶成長
小迫 雅裕	講師	電氣回路 I (2E), 電磁気学 I (3E), 電磁気学 II (4E), 高電圧工学(5E), 創造実習(4E), 電氣工	高電圧・絶縁工学, 誘電・絶縁材料工学
奥 高洋	講師	電子回路 I (3E), 論理回路(3E), 電子回路 I (4E), 電子回路設計(5E), エネルギー変換工学(5E), 創造実習(4E), 電氣工学実験	超伝導
樫根 健史	講師	電氣基礎 I ~ III(1E), 電氣製図 I (1E), 創造実習(4E), 電氣工学実験(4E,5E)	高電圧
前蘭 正宜	助手	情報基礎 I ~ II(1E), 電氣製図 II (1E), 情報処理(2E)創造実習(4E), 電氣工学実験(2E,3E,5E)	遺伝的プログラミングによる画像処理

非常勤講師

氏名	所属	担当科目	専門分野
篠原 勝次	鹿児島大学電氣電子工学科教授	電機設計(5E)	電氣機器学, パワーエレクトロニクス, 電動機ドライブ
吉田 宏	鹿児島大学電氣電子工学科教授	制御工学(5E)	計測制御工学, 計算機制御, 非線形システム理論
小原 幸三	鹿児島大学ナノ構造先端材料工学専攻教授	電磁気学 I (4E)	イオン応用工学, 表面物性工学, 液晶成長プロセス
柚木 謙一	鹿児島大学電氣電子工学科助教授	電氣通信(4E)	音響振動工学, 通信工学, 電波工学
山本 吉郎	鹿児島大学電氣電子工学科助手	電子応用(5E)	パワーエレクトロニクス, 電氣機器工学
西牟田 一三	山川電波観測所 前所長	電氣通信特論(5E)	電磁気学
緒方 俊彦	九州電力(株)鹿児島支店	電氣施設管理(5E)	電氣施設
新保 利和	本校 元教授	デジタル回路(4E), 電子回路	電子回路, デジタル回路
古賀 亜彦	本校 元教授	電氣機器(3E), 電子計算機 I (4E)	電子計算機のソフトウェア開発

(出典: 総務課資料)

## 担当教員一覧

電子制御工学科  
常勤教員

氏名	職名	担当科目	専門分野
植村 眞一郎	教授	情報処理(2S), 材料力学 I(3S), 機械設計法(4S), 創造設計(4S), 工学実験(5S)	設計工学, 塑性加工
河野 良弘	教授	情報処理(3S), 工学実験(3S・5S), 数値制御(4S), 生産システム(5S)	数値制御, 機械工作法, 情報処理
坪井 克剛	教授	電子工学(3S), 電子回路(4S), 工学実験(3S・5S)	パワーエレクトロニクス, 電動機制御
原田 治行	教授	電磁気学(3S), 創造設計(3S), 電子計算機(5S), 制御用インターフェース(5S), 工学実験	音声・画像デジタル信号処理, 波動情報処理, 逆問題, 回折トモグラフィ
宮田 千加良	教授	設計製図(2S), 制御工学(4S・5S), システム工学(5S), 工学実験(5S)	計測制御工学, 信号処理
鎌田 清孝	助教授	電気回路(2S), 工作実習(2S), 創造設計(3S), デジタル回路(4S), 工学実験(5S)	環境磁気計測, 生体磁気計測, 地球物理学
岸田 一也	助教授	電気回路 I(1S), 電磁気学(3M), 電子計算機(4S), 工学実験(4S)	ファジィ推論, ニューラルネットワーク, 遺伝的アルゴリズム
島名 賢児	助教授	設計製図 I(1S), 工作実習(2S), 情報処理(3S), 機械工作法(3S), 材料学(4S), 工学実験(4S)	材料強度学
室屋 光宏	助教授	電磁気学(3S), 制御機器(5S), 工学実験(4S・5S)	電力変換
吉満 真一	助手	機械工作法 I(1S), 電子制御基礎(1S), 工作実習 I(1S), 創造設計(3S・4S), 工学実験(4S,5S)	機械工作・生産工学

## 非常勤講師

氏名	所属	担当科目	専門分野
桐野 弘城	元鹿児島高専教授	機構学(3S), 創造工学(5S)	機械設計法, 機構学
栗屋 三郎	鹿児島始良高等技術専門校メカトロニクス科 教員	計測工学(5S)	電気電子工学
近藤 英二	鹿児島大学工学部機械工学科教授	機械工作法(3S)	切削加工学, 工作機械システム工学
坂元真一郎	ソニー国分(株)品質システム課係	品質管理(5S)	品質管理工学
日高 基次	元高校教員	材料力学 II(4S)	材料力学・計測工学
吉川 秀司	アルバック精機(株)技術部検査課課長	真空工学(5S)	真空工学

(出典：総務課資料)

## 担当教員一覽

情報工学科  
常勤教員

氏名	職名	担当科目	専門分野
山田 一二	教授	電気磁気学(3i), 情報素子工学(5i), 工学実験(2i)	半導体工学
榎園 茂	教授	情報処理I(1i), 情報理論(4i), 数値解析I(4i), 数値解析II(5i)	情報処理教育, 数値計算, プログラミング応用
加治佐清光	教授	計算機アーキテクチャ(5i), 情報工学特論II(5i)	画像工学, 計算機工学
幸田 晃	教授	計測工学(3i), 多変量解析(4i), 制御工学(5i), システム工学特論II(5i), 応用実験(4i)	音響・振動工学, 信号処理工学, 暗号, 電磁波
芝 浩二郎	助教授	論理回路(2i), 電子計算機I(3i), 電子計算機II(4i), 工学実験(3i), 工学実験(4i), 応用実験(4i)	コンピュータアーキテクチャ, 画像認識
堂込 一秀	助教授	情報基礎(1i), システムプログラムI(3i), システム設計学(5i), 応用実験(4i), 工学実験(4i)	ソフトウェア工学
豊平 隆之	助教授	情報処理II(2i), 情報処理III(3i), システムプログラムII(4i), データ構造論(5i), 応用実験(4i)	コンピューターネットワーク, ニューラルネットワーク
濱川 恭央	助教授	電子回路(4i), 通信工学(4i), 電気通信特論(5i)	超伝導理論, ニューラルネットワーク, 通信, ATM,
玉利 陽三	講師	電気磁気学(2i), 電気回路(2i), 電気回路(3i), システム工学(4i), 工学実験(3i)	生体工学
入江 智和	助手	工学演習(4i), 工学実験(2i), 工学実験(3i)	無歪データ圧縮方式, コンピュータネットワーク
新徳 健	助手	コンピュータリテラシ(1i), 工学実験(2i), 工学実験(3i)	ヒューマンインタフェース

非常勤講師

氏名	所属	担当科目	専門分野
新保 利和	元鹿児島工業高等専門学校教授	電子回路(3i)	電子回路, デジタル回路
田中 哲郎	鹿児島大学	電気回路(4i)	パワーエレクトロニクス
片野田 洋	鹿児島大学	機械工学概論(3i)	流体工学, 流体機械
和田 智仁	鹿屋体育大学	情報工学特論I(5i)	材料学, 設計製図
森 邦彦	鹿児島大学	システム工学特論I(5i)	情報処理工学, 光情報処理, 映像処理工学
坂元 真一郎	ソニーセミコンダクタ九州	品質信頼性工学(5i)	品質管理工学
大脇 光一	ソニーセミコンダクタ九州	集積回路工学	集積回路

(出典：総務課資料)

## 担当教員一覧

土木工学科  
常勤教員

氏名	職名	担当科目	専門分野
疋田 誠	教授	環境生態学(3C), 水理学 I (3C), 水理学 II (4C), 水理学実験(4C), 河川工学(5C)	河川工学, 土石流, 自然災害科学, 水辺環境
平田 登基男	教授	土木工学概論(1C), 測量学実習(1C), 都市計画(4C), 交通工学(5C)	廃棄物工学, 交通工学, 都市計画
内谷 保	教授	応用力学(2C), 構造力学 I (3C), 構造力学 II (4C), 構造工学実験(4C)	構造工学
岡林 巧	教授	測量学実習 II (2C), 土質工学実験(3C), 土質力学 II (4C), 地盤工学(4C), 応用測量学実習(5C)	地盤工学, 土質力学
西留 清	教授	基礎製図(1C), 基礎製図(3C), 環境工学 I (4C), 環境工学実験(4C), 工学演習(5C)	環境工学, 衛生工学, 水質工学
原口 誠夫	助教授	測量学 I (1C), 基礎製図(1C), 材料学(2C), 材料学実験(3C), 鉄筋コンクリート工学 I (3C), 鉄筋コンクリート工学実験(4C)	材料学, 測量学
前野 祐二	助教授	施工学 I (4C), 構造物設計(4C), 施工学 II (5C), 橋梁設計(5C), 意匠設計(5C)	地盤環境, 土木材料, 地盤工学
堤 隆	助教授	土質力学 I (3C), 鋼構造工学(4C), 鉄筋コンクリート工学	固体の力学
山内 正仁	助教授	測量学 II (2C), 測量学実習 II (2C), 情報処理 II (3C), 環境工学実験(4C), 環境工学 II (5C)	廃棄物工学, 環境工学, 土壌肥料学
内田 一平	助教授	情報処理 I (1C), 情報処理 II (3C), 土質工学実験(3C), 水理学実験(4C), 都市計画(4C), 土木計画学(5C)	国土計画, 都市計画, 地域計画
池田 正利	助手	測量学実習 I (1C), 材料学実験(3C), 構造工学実験(4C), 鉄筋コンクリート工学実験(4C)	コンクリート工学

非常勤講師

氏名	所属	担当科目	専門分野
河野 健二	鹿児島大学教授	耐震工学(5C)	地震工学, 構造動力学, 海洋構造工学
佐藤 道郎	鹿児島大学教授	海岸工学(5C)	海岸工学
田中 健次郎	鹿児島県環境技術協会	環境生態学(3C)	環境調査, 環境アセスメント, 環境計画
丸山 文男	元高校教員	地学(2C)	地学
山口 得雄	元高校教員	建築学概論(5C)	建築学
小暮 晴美	元本校教授	電気工学概論(5C)	電気機器, 波形解析
吉原 進	元鹿児島大学工学部教授	土木史(5C)	海洋構造工学, 耐震工学
日高 基次	元高校教員	機械工学概論(5C)	材料力学・計測工学
濱田 信之	元高校教員	情報工学概論(4C)	情報工学
星野 裕司	熊本大学	意匠設計(5C)	環境システム工学, 土木環境学
小林 清文	株式会社 大進	応用測量学(5C), 応用測量学実習(5C)	基準点測量, 地形測量, 一般測量

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校は、1学年5学科(1学科1学級)で構成され、専門科目担当教員として、専任教員52人、非常勤講師39人を配置し、高等専門学校設置基準を十分満たしている。専門科目では、社会に貢献できる高度の専門技術を身につけた技術者を養成するため、高度な専門性を有する教員を配置している。

**観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。**

(観点到に係る状況)

専攻科に機械・電子システム工学専攻、電気情報システム工学専攻、土木工学専攻を置き、本校の学習・教育目標(資料1-1-①-4参照)を達成するために、3つの専攻に一般科目・専門共通科目・専門科目の区分毎に必要な高度の専門性を有する教員を適切に配置(資料3-1-③-1~4)している。

また、平成17年10月に大学評価・学位授与機構による認定専攻科における教育の実施状況等の審査を受審し、平成18年2月10日付けで「適」との認定を受けた(資料3-1-③-5)。

#### 観点3-1-③資料一覧

(資料3-1-③-1) 担当教員一覧 一般・専門共通	出典：総務課資料
(資料3-1-③-2) 担当教員一覧 機械・電子システム工学専攻	出典：総務課資料
(資料3-1-③-3) 担当教員一覧 電気情報システム工学専攻	出典：総務課資料
(資料3-1-③-4) 担当教員一覧 土木工学専攻	出典：総務課資料
(資料3-1-③-5) 認定専攻科における教育の実施状況等の審査結果	出典：総務課資料

資料 3 - 1 - ③ - 1

## 担当教員一覽

専攻科 一般・専門共通  
常勤教員

氏名	職名	担当科目	専門分野
赤沢 正治	教授	解析力学, 量子力学	固体物性
大竹 孝明	教授	環境プロセス工学, 技術倫理	化学工学, 反応工学, 分離工学, 一般化学
河野 良弘	教授	デジタル信号概論	数値制御, 機械工作法, 情報処理
白坂 繁	教授	応用代数学	数学(代数学, 初等数学)
須田 隆夫	教授	応用電子計測	電子材料・物性工学 医用生体電子工学
坪井 克剛	教授	技術倫理	パワーエレクトロニクス, 電動機制
西留 清	教授	環境科学, 環境人間工学	環境工学, 衛生工学, 水質工学
野澤 宏大	教授	地球物理学概論	惑星磁気圏物理, 超高層大気物理
平田 登基男	教授	廃棄物工学	廃棄物工学, 交通工学, 都市計画
山下 登	教授	技術倫理	近代フランス哲学(デカルト)
山田 一二	教授	機能材料工学	半導体工学
鎌田 清孝	助教授	環境電磁気学	環境磁気計測, 生体磁気計測, 地球物理学
鮫島 俊秀	助教授	技術倫理	歴史
嶋根 紀仁	助教授	線形代数学	位相空間論, General Topology
引地 力男	助教授	精密加工学	機械工作
松田 忠大	助教授	現代企業法論, 技術倫理	商法(海商法)
奥 高洋	講師	超伝導工学	超伝導
熊谷 博	講師	微分方程式 ベクトル解析	解析的整数論
坂元 真理子	講師	科学技術英語論理的英語コミュニケーション	第二言語習得
塚崎 香織	講師	総合英語	英語教育

非常勤講師

氏名	所属	担当科目	専門分野
森田 豊子	大阪外語大学非常勤講師	国際関係論	英語・国際社会学

(出典：総務課資料)

資料 3 - 1 - ③ - 2

## 担当教員一覽

専攻科 機械・電子システム工学専攻  
常勤教員

氏名	職名	担当科目	専門分野
持原 稔	教授	固体の力学(1AMS)	材料力学, 機械力学
池田 英幸	教授	材料物性工学(1AMS)	材料物性
江崎 秀司	教授	機械・電子システム工学特別演習 I (1AMS)	熱工学, 伝熱工学, 流体工学
中島 正弘	教授	流体力学特論(1AMS)	流体工学, 流体力学
三角 利之	教授	伝熱工学特論(1AMS)	熱工学
原田 治行	教授	画像工学(1AMS), 画像情報処理特論(2AMS)	音声・画像デジタル信号処理, 波動情報処理, 逆問題, 回折トモグラフィ
宮田 千加良	教授	制御工学特論(1AMS), 計測制御工学(1AMS)	計測制御工学, 信号処理
坪井 克剛	教授	電気回路特論(1AMS)	パワーエレクトロニクス, 電動機制御
田畑 隆英	助教授	流体工学特論(1AMS)	流体工学
椎 保幸	助教授	機械設計演習(1AMS)	流体工学, 混相流
室屋 光宏	助教授	機械・電子システム工学特別演習 III (1AMS)	電力変換
岸田 一也	助教授	知能情報処理論(1AMS), 情報処理システム(1AMS), 機械・電子システム工学特別演習 II (1AMS)	ファジィ推論, ニューラルネットワーク, 遺伝的アルゴリズム

(出典：総務課資料)

資料 3-1-③-3

## 担当教員一覧

電気情報システム工学専攻  
常勤教員

氏名	職名	担当科目	専門分野
榎園 茂	教授	計算機言語基礎(1AEI), 計算機ソフトウェア特別演習(2AEI)	情報処理教育, 数値計算, プログラミング応用
加治佐 清光	教授	画像処理基礎(1AEI), 計算機ハードウェア特別演習(1AEI), デジタル通信(2AEI), マルチメディア工学(2AEI)	画像工学, 計算機工学
須田 隆夫	教授	集積回路製造技術(2AEI), 電気電子工学特別演習Ⅱ(2AEI)	電子材料, 物性工学, 医用生体電子工学
本部 光幸	教授	応用パワーエレクトロニクス(1AEI)	パワーエレクトロニクス(インバータをはじめとする電力変換器, モータ制御)
山田 一二	教授	応用電子物性(1AEI)	半導体工学
幸田 晃	教授	音響システム工学(2AEI), 計算機ソフトウェア特別演習(2AEI)	音響・振動工学, 信号処理工学, 暗号, 電磁波
中村 格	助教授	電力システム解析(1AEI), 静電気応用機器(1AEI)	電力工学, 高電圧工学, パルスパワー工学
濱川 恭央	助教授	電気通信工学(1AEI), 回路工学特論(2AEI), 計算機ハードウェア特別演習	超伝導理論, ニューラルネットワーク, 通信, ATM, WDM
今村 成明	講師	電気電子工学特別演習Ⅰ(1AEI)	結晶成長
玉利 陽三	講師	電磁気学特論(1AEI), 計算機ソフトウェア特別演習(2AEI)	生体工学

(出典：総務課資料)

資料 3-1-③-4

## 担当教員一覧

土木工学専攻  
常勤教員

氏名	職名	担当科目	専門分野
疋田 誠	教授	水工学特論(1ACC), 特別セミナー(1ACC), 土木工学特別演習Ⅰ(1ACC)	河川工学, 土石流, 自然災害科学, 水辺環境
平田 登基男	教授	廃棄物工学(1AMS, 1AEI, 1ACC), 特別セミナー(1ACC), 土木工学特別演習	廃棄物工学, 交通工学, 都市計画
内谷 保	教授	マトリックス構造解析(1ACC), 特別セミナー(1ACC), 土木工学特別演習	構造工学
岡林 巧	教授	地震防災工学特論(1ACC), 特別セミナー(1ACC), 土木工学特別演習Ⅰ(1ACC), 土木工学特別講義(2ACC)	地盤工学, 土質力学
西留 清	教授	環境科学(1AMS, 1AEI, 1ACC), 特別セミナー(1ACC), 環境人間工学(2AMS, 2AEI, 2ACC), 土木工学特別演習Ⅱ(2ACC)	環境工学, 衛生工学, 水質工学
前野 祐二	助教授	土木材料学(1ACC), 特別セミナー(1ACC), 資源循環システム論(2ACC), 土木工学特別演習Ⅱ(2ACC)	地盤環境, 土木材料, 地盤工学
堤 隆	助教授	連続体力学(1ACC), 特別セミナー(1ACC), 土木工学特別演習Ⅰ(1ACC)	固体の力学
山内 正仁	助教授	環境生物学(1ACC), 特別セミナー(1ACC), 水理学演習(1ACC), 土木工学特別演習Ⅱ(2ACC)	廃棄物工学, 環境工学, 土壤肥料学
内田 一平	助教授	都市計画特論(1ACC), 特別セミナー(1ACC), 都市計画演習(2ACC), 土木工学特別演習Ⅱ(2ACC)	国土計画, 都市計画, 地域計画

(出典：総務課資料)



## 資料3-1-③-5

評学機構学第192号  
平成18年2月10日

鹿児島工業高等専門学校長 殿

独立行政法人大学評価・学位授与機構長  
木村 孟

認定専攻科における教育の実施状況等の審査結果について（通知）

平成17年5月25日付け鹿高専庶第2007号で提出のあった下記の専攻科の教育の実施状況等について、短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する規則（平成16年規則第29号）第9条に規定する審査の結果、「適」と認められたので通知します。

記

1 名称、専攻及び修業年限

名 称	専 攻	修業年限
鹿児島工業高等専門学校	機械・電子システム工学専攻	2年
	電気情報システム工学専攻	2年
	土木工学専攻	2年

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科では、本校学習・教育目標を達成するために必要な授業科目を担当する教員を適切に配置している。なお、専攻科を担当する教員は、専門性を有し、教育業績と研究業績等とを評価確認した上で配置している。

**観点3-1-④：** 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

(観点に係る状況)

本校の教員の前職は、大学・研究機関、民間企業技術者、高等学校教員、他高専教員等であり、創造力豊かな開発型技術者を育成する上で、適切な構成となっている（資料3-1-④-1）。また、採用の際は、在職している教員の年齢構成（資料3-1-④-2）及び専門分野を考慮して公募している（資料3-1-④-3）。これらの措置により、一般教育科及び各専門学科の教員組織活動は適切に維持されている。

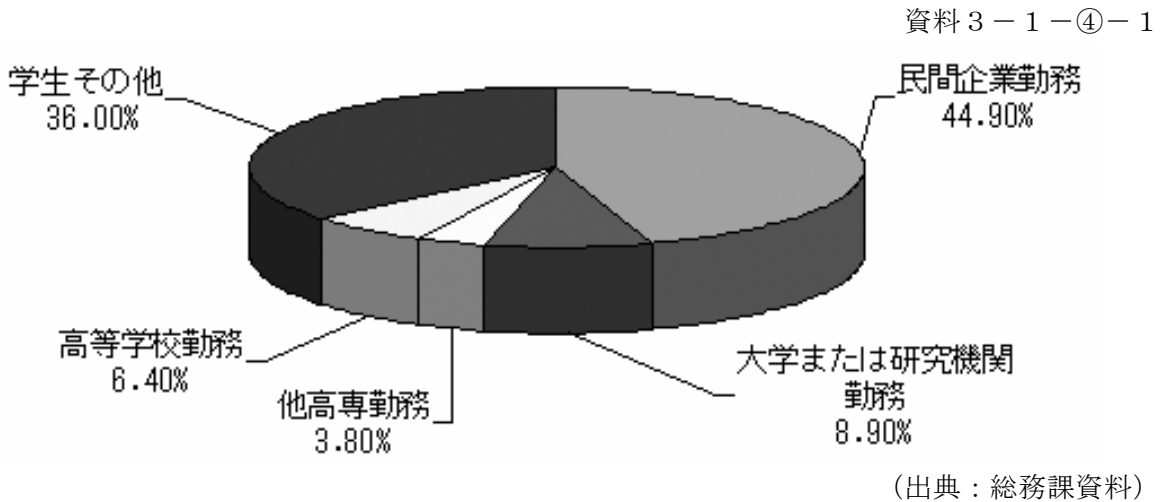
また、学生に対してより高度な教育を行うため、学位未取得者に対しては、研修制度を利用して学位を取得しやすい環境を整えている（資料3-1-④-4、5）。

平成13年度から「鹿児島工業高等専門学校教育功労者表彰規則」（資料3-1-④-6）及び「鹿

「鹿児島工業高等専門学校教育功労者表彰基準」(資料3-1-④-7)を制定し、教育、学校運営、社会貢献に関して特に顕著な功績をあげた者を表彰している(資料3-1-④-8, 9)。

観点3-1-④資料一覧

(資料3-1-④-1) 教員の採用前経歴	出典：総務課資料
(資料3-1-④-2) 専任教員の年齢構成	出典：総務課資料
(資料3-1-④-3) 教員の公募について	出典：総務課資料
(資料3-1-④-4) 平成16年度以降の学位取得者一覧	出典：総務課資料
(資料3-1-④-5) 職務専念義務免除願	出典：総務課資料
(資料3-1-④-6) 教育功労者表彰規則	出典：規則集
(資料3-1-④-7) 教育功労者表彰基準	出典：規則集
(資料3-1-④-8) 教育功労者選考委員会議事要旨	出典：総務課資料
(資料3-1-④-9) 教育功労者表彰者一覧	出典：総務課資料



資料3-1-④-2

専任教員の年齢構成

平成18年4月1日現在

年齢	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	合計		
一般教育科				2	1	1	1		2				1	1	1		1		1	1					1				2	1		1		2								21	
機械工学科		1					1		1	1						1						1					1	2															10
電気電子工学科						2										1							1	1	1						1		1	1							1		10
電子制御工学科			1			1					2					1						1							1	1	1			1								10	
情報工学科		1					1	1		1				1	1											1							1	1								11	
土木工学科		1	1	1		1		1			1					1														1											11		
合計	0	3	2	3	1	5	2	3	2	2	4	0	1	2	4	3	1	0	2	3	0	3	1	2	2	1	1	2	4	3	2	1	2	5	0	0	0	0	0	1	0	73	
教授		2	2	3	1	5	2	3	2	1	4		1	1	2	2	1																									32	
助教授		1												1	1	1			2	2		2	1	2	1	1	1	1	1	3	1	1									24		
講師																			1	1						1		3		1		1	3								12		
助手														1																		1	2						1	5			
合計	0	3	2	3	1	5	2	3	2	2	4	0	1	2	4	3	1	0	2	3	0	3	1	2	2	1	1	2	4	3	2	1	2	5	0	0	0	0	1	0	73		

(単位：人)

(出典：総務課資料)

資料3-1-④-3

鹿高専人第2038号  
平成17年7月4日

関係大学(学部)長  
関係高専学校長 殿  
関係機関の長

鹿児島工業高等専門学校長  
前田 滋  
(公印省略)

教員の公募について(依頼)

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。  
さて、このたび本校では下記のとおり教員公募を行うことになりました。  
つきましては、貴機関関係者へご周知くださいますとともに、適任者のご推薦をいただきたく、  
よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 職名及び人員 講師、又は助教授 1名
2. 所属学科 一般教育科理系
3. 専門分野 物理学、地球物理学
4. 担当科目 物理学基礎、物理学実験、地球物理学、宇宙科学概論  
及び高校程度の物理
5. 応募資格 (1)心身ともに健康で、高専の学生教育及び研究に熱意のある方  
(2)年齢30歳~35歳程度の方  
(3)博士号を取得している方
6. 採用予定年月日 平成18年4月1日
7. 提出書類 (1)履歴書(市販の様式を使用、ワープロ可、写真貼付)  
(2)業績一覧(著書、論文、国際会議プロシーディング)  
(3)主要論文別刷(コピー可)3編以内  
(4)推薦書(応募者を詳しく評価できる方)  
(5)着任後の教育(学生指導)及び研究に関する抱負(A4で1枚程度)
8. 応募締切 平成17年8月1日(月)必着
9. 選考方法 第1次選考:書類審査  
第2次選考:面接及び模擬授業(宿泊交通費等は自己負担)
10. 応募書類提出先 〒899-5193 鹿児島県姶良郡隼人町真孝1460-1  
鹿児島工業高等専門学校庶務課人事係

\* 郵送の場合は書留・親展とし「一般教育科物理教員応募書類在中」と朱記してください。

11. 問い合わせ先 鹿児島工業高等専門学校

(出典:総務課資料)

資料3-1-④-4

## 平成16年度以降の学位(博士)取得者









学位取得年月日	所属及び職名	氏名	学位の内容
平成17年 3月18日	土木工学科助教授		博士(農学)
平成17年 3月25日	電子制御工学科助教授		博士(工学)
平成17年11月30日	一般教育科教授		博士(教育学)
平成18年 3月24日	電子制御工学科教授		博士(工学)
平成18年 3月27日	一般教育科講師		博士(農学)

(出典:総務課資料)

資料 3 - 1 - ④ - 5

様式 1

職務専念義務免除願

平成17年2月16日 独立行政法人国立高等専門学校機構 理事長 内藤喜之殿 所名 鹿児島工業高等専門学校 職名 助教授 氏名 ██████████	
独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則第34条の規定に基づき、 下記のとおり職務専念義務免除を承認くださるようお願いいたします。	
適用条項 (該当する号に○を付 すること)	第1号 組合交渉 第2号 保健指導・健康診査 第3号 通勤緩和 第4号 総合的な健康診査 第5号 研修 第6号 休息・補食
期 間	平成17年2月17日 9時00分から 平成17年2月17日 12時20分まで (日3時間)
事 由 (研修にあつては研修 先も記入すること)	鹿児島大学工学部 ██████████ 研究室 ██████████ 教授 において「金属塑性加工プロセスの最適化」に関する 研究を行う。
備 考	
上記について、職務専念義務の免除を承認する。 平成17年2月16日	
校長 	事務部長 
庶務部長 	人事部長 
総務部長 	教務部長 
学務部長 	学務主任 

(出典：総務課資料)

資料 3 - 1 - ④ - 6

鹿児島工業高等専門学校教育功労者表彰規則

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島工業高等専門学校(以下「本校」という。)の教育、学校運営及び社会貢献に関して、特に顕著な功績を挙げた者を「教育功労者」として表彰するため定めるものである。

(表彰候補者)

第2条 教育功労者の表彰は、次に掲げる各号の一に該当する者(本校教職員以外の者も含む。)の中から次条に定める教育功労者選考委員会(以下「委員会」という。)が選考を行う。

- (1) 講義、演習、実験・実習及びクラス運営等において新たな方法を創案し、その実践を行い、特に教育効果を高めた者
- (2) 学生の課外活動への監督・指導を通して学生への教育に特に功績のあった者
- (3) 本校の学習・教育目標を達成するために、特に顕著な貢献があった者
- (4) 社会貢献に関し、特に本校の名誉を高めた者
- (5) その他本校の学校運営等に特に功績があった者

(委員会)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織し、校長を委員長とする。

- (1) 校長
- (2) 教務主事
- (3) 学生主事
- (4) 寮務主事
- (5) 専攻科長
- (6) 事務部長
- (7) その他校長が必要と認めた者

(推薦の方法)

第4条 前条(1)～(6)に掲げる者及び各学科等の長は、別紙様式により候補者を委員長あてに推薦するものとする。ただし、被推薦者については、第2条の各号につき1名とする。

(被表彰者の決定)

第5条 表彰を受ける者は、委員会の推薦により校長が決定する。

(表彰の方法)

第6条 表彰は、校長が表彰状を授与して行う。なお、記念品を授与することができる。

(出典：規則集)

## 資料 3 - 1 - ④ - 7

## 鹿兒島工業高等専門学校教育功労者表彰基準

鹿兒島工業高等専門学校教育功労者表彰規則（以下「表彰規則」という。）第2条に定める表彰候補者は、原則として次の基準に該当する者とする。

## 第1 表彰規則第2条第1号に定める者

- (1) 過去5年間に講義、演習、実験・実習及びクラス運営において、新たな教育方法や運営方法あるいは教材等を開発・創案し、その実践を行った結果、学生の授業評価で高い評価を受け、あるいは、公開授業の教員相互評価で高い評価を受け教育効果を相当程度高めたと判断される者
- (2) 資格試験及び進学等の特別指導あるいは本校の授業に関する補講等を精力的に実施し、所期の目的を達成し、相応の成果を挙げたと判断される者

## 第2 表彰規則第2条第2号に定める者

- (1) 全国レベルの大会において優秀な成績（準優勝以上）を収める監督・指導を行ったと判断される者（例：全国高専体育大会、全国ロボコン大会、全国プロコン大会等）
- (2) 課外活動等において、永年、学生の教育・指導を行い、特に顕著な成果を挙げたと判断される者

## 第3 表彰規則第2条第3号に定める者

本校の学習・教育目標について、達成度評価関連科目及び総合評価基準項目（TOEIC及び学会発表等）を学生に高いレベルで達成させるなど、特に顕著な成果を挙げたと判断される者

## 第4 表彰規則第2条第4号に定める者

公開講座、技術相談等による技術支援や地域産業との共同研究及びスポーツ、文化活動等による生涯学習支援活動などを積極的に行ったことにより、各種メディアに取り上げられるなど、特に本校の名誉を著しく高めたと判断される者

## 第5 表彰規則第2条第5号に定める者

- (1) 教務主事、学生主事、寮主事、研究主事、専攻科長、特命統括官、各種委員会の委員長等として、学校運営に関し、特に功績があったと判断される者（在職中の教務主事、学生主事及び寮主事については除く。）
- (2) 主事補・委員会委員等として、学校運営に関し、特に功績があったと判断される者
- (3) 国立高等専門学校教育業績賞候補者に本校から推薦された者

第6 本校所属以外の者については、上記の基準を準用するとともに表彰規則第3条に定める教育功労者選考委員会において、別に定めることができる。

（出典：規則集）

## 資料 3 - 1 - ④ - 8

## 平成17年度教育功労者選考委員会議事要旨

1. 日 時 平成17年7月1日（金）14時05分～14時50分
2. 場 所 校長室
3. 出席者 校長  
三主事  
専攻科長  
事務部長  
陪 席 者：庶務課長、川上人事係主任
4. 議 事
  - 1) 庶務課長から、教育功労者表彰規則及び表彰基準について説明が行われた。
  - 2) 各推薦者から推薦があった3名の推薦書を読み上げた後、校長が議長となり選考が行われた。
  - 3) 選考の結果、引地力男氏は第2条第5項、表彰基準第5の第2号、平川忠敏氏は第2条第2項、表彰基準第2の第2号、森 隆氏は第2条第5項、表彰基準第5の第1号により教育功労者として決定した。  
また、今後について、以下のことを申し送りすることとした。  
①過去3年間の表彰者一覧については、表彰基準に該当する(号)までを記入する。  
②候補者推薦依頼時に、同一号同一事項から1名とすることを周知する。
  - 4) 3名の教育功労者に表彰状及び記念品を授与することとした。  
記念品代については、昨年と同様10,000円程度とし、薩摩鐃器数点の中から被表彰者に選んでもらうこととした。
  - 5) 表彰式の日程については、平川氏のみ7月9日（土）に予定し、引地・森氏については、後日日程を調整することとした。

（出典：平成17年度教育功労者選考委員会議事要旨）

## 資料 3 - 1 - ④ - 9

## 過去の教育功労者表彰者一覧

表彰年度	表彰者 氏 名	摘 要
14年度	池田 次夫	2号(教育 課外活動)
"	桐野 弘城	2号(教育 課外活動)
"	満重 秀信	5号(教育 学校運営)
15年度	楢松 伸二	2号(教育 課外活動)
"	上野 孝行	2号(教育 課外活動)
"	植村眞一郎	2号(教育 課外活動)
"	鬼塚 幸一	4号(教育 社会貢献)
"	河野 良弘	4号(教育 社会貢献)
"	鮫島 俊秀	1号(教育)
"	長野 正昭	2号(教育 課外活動)
"	新保 利和	1号(教育)
"	持原 稔	5号(教育 学校運営)
"	山崎 亨	2号(教育 課外活動)
16年度	安楽 四郎	2号(教育 課外活動)
"	池田 英幸	3号(学習・教育目標達成)
"	中島 正弘	5号(教育 学校運営)
"	引地 力男	4号(教育 社会貢献)
17年度	引地 力男	5号(教育 学校運営)
"	平川 忠敏	2号(教育 課外活動)
"	森 隆	5号(教育 学校運営)

（出典：総務課資料）

(分析結果とその根拠理由)

教員の年齢構成は適切であり、採用前の企業経験等の経歴による構成がバランスの取れたものとなっている。また、学生に対してより高度な教育を行うため、学位未取得者に対しては、研修制度を利用して学位を取得しやすい環境を整えている。さらに、教育、学校運営、社会貢献に関して特に顕著な功績をあげた者を表彰している。

**観点 3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。**

(観点に係る状況)

本校において、教員の採用・昇任に関しては、「鹿児島工業高等専門学校教員選考規則」(以下「選考規則」という。)(資料 3-2-①-1)に基づき、原則として公募により選考している。

手続は、各学科長から校長へ教員選考の申し出を行い、校長は候補適任者の推薦を「鹿児島工業高等専門学校教員推薦委員会」(以下「推薦委員会」という。)(資料 3-2-①-2)に付託する。推薦委員会は、候補者の学位、教育業績及び研究業績を客観的に判断した上で、候補適任者を複数選考し、校長に推薦する。

次に、推薦委員会から推薦された候補適任者の資格審査を行うため、校長は、「鹿児島工業高等専門学校教員審査委員会」(以下「審査委員会」という。)(資料 3-2-①-3)を設置する。審査委員会では、複数名の候補適任者に対して、面接及び模擬授業を行い(資料 3-2-①-4)、資格審査を行う。この結果を基に校長と審査委員長が協議し、校長が教員の採用・昇任を決定する。

非常勤講師の採用は、「鹿児島工業高等専門学校における非常勤講師の任用に関する取扱いについて」(資料 3-2-①-5)に基づいて、各科長から非常勤講師任用計画表とともに履歴書を学生課教務係に提出し、その履歴書を基に校長及び教務主事で任用計画を策定し、教務委員会で資格審査を行い、候補者を決定している。

**観点 3-2-①資料一覧**

(資料 3-2-①-1)	鹿児島工業高等専門学校教員選考規則	出典：規則集
(資料 3-2-①-2)	鹿児島工業高等専門学校教員推薦委員会規則	出典：規則集
(資料 3-2-①-3)	鹿児島工業高等専門学校教員審査委員会規則	出典：規則集
(資料 3-2-①-4)	採用候補者への「面接について」	出典：総務課
(資料 3-2-①-5)	鹿児島工業高等専門学校における非常勤講師の任用に関する取扱いについて	出典：総務課

資料3-2-①-1

○ 鹿児島工業高等専門学校教員選考規則

第1章 総則

(趣旨)

第1条 鹿児島工業高等専門学校(以下「本校」という。)の教員の選考は、高等専門学校設置基準(昭和36年8月30日文部省令第23号)によるもののほか、この規則に定めるところによる。

(定義)

第2条 この規則において「教員」とは、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則第3条第2号に掲げる者をいう。

2 この規則において「選考」とは、教員の定員増又は退職等による欠員補充のため、教員を採用、昇任又は配置換するために行われる選考をいう。

(公募の原則)

第3条 前条第2項による選考は、原則として公募とする。ただし、前条第2項に規定する配置換の場合は、公募によらず選考するものとする。

(出典：規則集)

資料3-2-①-2

○ 鹿児島工業高等専門学校教員推薦委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島工業高等専門学校教員選考規則(平成13年8月31日制定)第6条第3項に基づき、鹿児島工業高等専門学校教員推薦委員会(以下「推薦委員会」という。)の組織及び任務について定める。(推薦委員会の構成)

第2条 推薦委員会の構成は、次のとおりとする。

- (1) 選考を行うとする一般教育科文系・理系科長又は学科長(以下「学科長等」という。)
- (2) 選考を行うとする一般教育科文系・理系若しくは学科(以下「当該学科等」という。)の教授又は選考しようとする専門分野の教授 若干名
- (3) 校長補佐の中から互選により1名
- (4) 専攻科における特別研究及び授業を担当することとなる教員の選考にあつては関係する専攻長

2 講師又は助手を選考する場合は、前項第2号に定める教授を教授又は助教授と読み替えるものとする。

3 推薦委員会は、選考を行うとする当該学科等毎に設置するものとする。

(委員長)

第3条 推薦委員会に委員長を置き、学科長等をもって充てる。

(任務)

第4条 推薦委員会は、次の事項を処理する。

- (1) 学内及び関係機関等に公募を行うこと。
  - (2) 応募者の書類選考を行い、その中から複数の者に順位を付けて、候補適任者とする。
  - (3) 推薦に係る経緯及び候補適任者名を記した「推薦書」を校長に提出すること。
- 2 公募の方法は、別に定める。

(出典：規則集)

資料3-2-①-3

○ 鹿児島工業高等専門学校教員審査委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島工業高等専門学校教員選考規則(平成13年8月31日制定。以下「選考規則」という。)第8条第2項に基づき、鹿児島工業高等専門学校教員審査委員会(以下「審査委員会」という。)の組織及び任務について定める。

(審査委員会の構成)

第2条 審査委員会の構成は、次のとおりとする。

- (1) 校長
- (2) 教務主事
- (3) 選考を行うとする一般教育科文系・理系又は学科(以下「当該学科等」という。)の教授 1名
- (4) 当該学科等以外の本校の教授 1名
- (5) 選考される教員の専門分野を熟知する本校の教授又は学外の有識者 1名

2 前項第4号に掲げる者の選出方法については、校長が別に定める。

(委員長)

第3条 審査委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

(任務)

第4条 審査委員会は、鹿児島工業高等専門学校教員推薦委員会規則第4条第1項第3号による推薦書に記載された候補適任者について、資格審査を行うものとする。

(審査の基準)

第5条 審査の基準は、次によるものとする。

- (1) 選考される者の資格が、教員選考規則第13条から第16条に掲げる資格のいずれかを満たしていること。
- (2) 本校の教育、研究に強い意欲があること。
- (3) 学生の指導に理解と情熱があること。
- (4) その他審査委員会が必要と認めること。

2 専攻科における特別研究及び授業を担当することとなる教員の場合にあつては、別に定める基準を満たしていること。

(出典：規則集)

資料3-2-①-4

平成18年2月 日

鹿児島工業高等専門学校長  
前田 進

面 接 に つ い て

拝啓 時下ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。  
この度は、本校一般教育科文系(英語)講師又は助教授の教員公募にご応募いただき、誠にありがとうございます。  
先般、書類審査を実施しましたが、今回下記により面接を実施することとなりましたので、出席していただきますようよろしくお願い申し上げます。  
なお、参考までに案内図を同封いたします。

敬 具

記

1. 日 時 平成18年2月28日(火) 15:00~
2. 場 所 鹿児島工業高等専門学校管理棟2階小会議室
3. その他 本校管理棟2階事務課人事係へおいでください。  
担当：人事係 中間(0995-42-9005)

面接実施要領

1. 面接日時：平成18年2月28日(火) 15:00~15:50
2. 場 所：鹿児島工業高等専門学校管理棟 小会議室  
(当日、本校に到着されましたら庶務課人事係をお尋ねください。)
3. 面接の進め方  
面接時間は50分程度、下記の順に進めさせていただきます。  
(1) 模擬授業(25分程度)  
①審査委員(5名)を1年の学生とみなしての模擬授業をお願いします。  
②同封の教材は英語1の教科書の一つの課です。  
③参考のために一つの課を全部コピーしてありますが、模擬授業ではセクション1を使って模擬授業をお願いします。  
※黒板の使用が可能です。  
(2) 面接(25分程度)  
主に、下記について志望動機や抱負等を述べて頂き、それらに関する質問等にお応えいただけます(英語による質疑応答も含まれます)。  
なお、これ以外にも質問されることがあります。  
①本校教員への志望動機  
②高等教育(部活動等を含む)についての抱負  
③研究についての抱負
4. 問い合わせ先  
〒899-5193 鹿児島県鹿児島市平野町真幸1460-1  
鹿児島工業高等専門学校  
一般教育科文系(英語)

(出典：総務課資料)

資料 3 - 2 - ① - 5

## 鹿児島工業高等専門学校における非常勤講師の任用に関する取扱いについて

平成 17 年 11 月 16 日  
校 長 裁 定

鹿児島工業高等専門学校の非常勤講師の任用に関する取扱いについては、次によるものとする。

第 1 条 本校で開設する授業科目については、専任教員が専門分野を拡げることによって担当できるよう努めるものとする。ただし、これにより難く真にやむを得ない事情がある場合に限り、非常勤講師を任用することができる。

第 2 条 非常勤講師は、次の各号の一に該当する授業科目について担当することができる。

- (1) 専任教員による教育課程上の科目の担当者が得られない場合
- (2) 一般科目の専任教員が原則として、平均持ち時間数が 14 時間を超える時間数
- (3) 一般科目の専任教員が主事併任となった場合の持ち時間数が 10 時間を超える時間数
- (4) 専任教員が休職や病気休暇及び在外研究や内地研究などの長期不在の場合、原則として所属する学科や教科で授業科目を担当するが、次に該当する場合
  - 一 専門性が代替できない場合の時間数
  - 二 残りの専任教員の持ち時間数が同条第 2 号にプラス 1～2 の時間数を超える時間数
- (5) 教育上、授業内容の特定分野について、学識を有する者に講義を依頼する必要がある場合
- (6) 前各号に掲げるもののほか、特に校長が非常勤講師の任用を必要と認める場合

第 3 条 非常勤講師は、次の各号に該当する者でなければならない。

- (1) 高等専門学校設置基準（昭和 36 年文部省令第 23 号）に定められた講師以上の資格を有する者
- (2) 優れた見識を持ち、本校の教育方針に沿った教育指導のできる者
- (3) 授業年度において、原則として年齢満 65 歳以内であること。ただし、補充することが困難な場合は満 70 歳以内とする。
- (4) 健康で勤務に支障がないこと。

第 4 条 採用の期間は 1 年以内とする。ただし、校長が必要と認めたときは、任用を更新することができる。

第 5 条 各学科長は、非常勤講師を任用しようとするときは、非常勤講師任用計画表を作成し、校長に申し出るものとする。

2 前項の申し出に際し、履歴書並びに非常勤講師としての資格を確認できる書類を添付するものとする。ただし、前年度から継続して任用する者にあつては、添付を省略することができる。

第 6 条 校長は、各学科長から提出された任用計画表をもとに、教務主事と非常勤講師任用計画の策定を行うものとする。

第 7 条 校長は、前条の任用計画の策定に際し、非常勤講師の資格審査を教務委員会に付託するものとする。

## 附 則

この取扱いは、平成 18 年 4 月 1 日から適用する。

(出典：総務課資料)



(分析結果とその根拠理由)

教員の採用については、教員選考規則に基づき候補者の公募を行った上で、推薦委員会及び審査委員会で選考している。また、昇任についても教員選考規則に定められている研究業績、教育業績及び校務業績を考慮した昇任が実施されている。

**観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。**

(観点到に係る状況)

平成14年度から実施された文部科学省主催の「教員顕彰」においては、「教員自己評価」、「教員による相互評価」及び「学生による授業評価」の結果による総合評価を行い、文部科学省（平成17年度からは高専機構）へ推薦を行っている。なお、被表彰者は資料3-2-②-1のとおりである。

FD委員会が、年2回（6月と12月）、中間試験時に非常勤講師を含む全教員に対する「学生による授業評価アンケート」（資料3-2-②-2）を実施しており、個々の教員の評価を把握している。なお、この結果は、校長がコメントを付した上で各教員にフィードバックしている。また、高い評価を得た教員による公開授業を実施（資料3-2-②-3）している。

この他に、平成18年1月には、校長及びFD委員会を中心に教員の授業視察を行い（資料3-2-②-4）、優れた点・改善を要する点等をコメントして全教員に通知している（資料3-2-②-5）。校長は、これらの評価を基に教員の教育能力を評価している。

#### 観点3-2-②資料一覧

(資料3-2-②-1) 教員顕彰表彰者一覧	出典：総務課資料
(資料3-2-②-2) 授業評価アンケート分析結果	出典：FD委員会資料
(資料3-2-②-3) 公開授業の開催案内	出典：学生課資料
(資料3-2-②-4) 授業視察案内	出典：FD委員会資料
(資料3-2-②-5) 「学生による授業評価アンケート」教員別集計	出典：FD委員会資料

資料3-2-②-1

#### 国立高等専門学校教員顕彰表彰者一覧

表彰年度	表彰名	表彰者氏名
14年度	国立高等専門学校協会会長賞(文部科学省)	鮫島 俊秀
15年度	国立高等専門学校協会奨励賞(文部科学省)	中島 正弘
17年度	国立高等専門学校機構理事長賞(高専機構)	引地 力男

(出典：総務課資料)

## 資料 3 - 2 - ② - 2

平成17年度後期授業評価アンケート

1/3

平成17年度後期授業評価アンケート分析結果

平成18年2月22日  
FD委員会

平成17年度後期(12月6日～14日)で実施されました「学生による授業評価アンケート」の集計・分析結果について報告いたします。

なお、本アンケートは従来から中間試験時に試験時間割に組み込んで実施しておりましたが、1～3年は中間試験後の特別活動の中で取っていただくように変更いたしました。

- 表1、表2から、評価値「Q2この授業はわかりやすかった」の平均得点の分布、値は、常勤につきましては、今年度前期の結果と似た値であり、表1の分布では、評価値の高いほうへ移動していることが、また、表2からは平成16年6月以降、少しずつ上昇してきていることが分かります。  
非常勤につきましては、表1で、2.5以下が増えたので、今後記述式アンケートを分析するなどして、どうしてなのか、どう対応するか、などの検討を行っていきたくと考えています。
- 授業のわかりやすさ(Q2)と熱心な受講態度(Q6)との相関(図2、図3)につきましても例年確認しておりますが、今期のアンケートではクラス別にみた相関値が0.7と幾分低めになっています。Q2に対してQ6が低いことは、授業は分かるけれど受講態度や提出物がよくないクラスがあることを意味していますので、これにつきましても今後検討が必要かと考えます。
- 表4から、「Q7この授業は知識や技術の修得、あるいは自分の成長に役立った。」の平均値が3.55と、前年同期よりはあがっていますが、前期より0.1ポイント程、減少していることがわかります。本段階は学生が「実力をつけたか」を調べるためのものですので、今後さらに上昇するように、教員学生ともに頑張ってもらいたいと思います。

今年度は全教員の授業視察を行いました。ほとんどの先生方の、より良い授業を目指して取り組んでいる姿を拝見できました。またこうしたら更に授業がよくなるのでは、という点もいくつかあるようです。今後、分析・総括などを行い、ぜひ、より良い授業への取り組みにつなげていきたいと考えています。

授業評価アンケートでの「授業のわかりやすさ」の向上なども、各先生が授業改善に努め、各学生が真実に授業を受けた成果と考えられます。ただ少数ですが、授業改善の要望を出しても変わらないという指摘もありますので、より良い授業を目指して今後とも、取り組んでいただきたいと思います。

## 1. 「Q2. この授業はわかりやすかった」の5段階評価

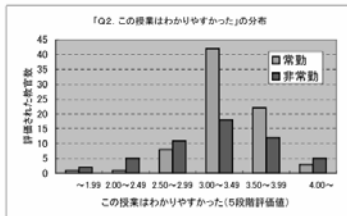


図1. 評価値に関する教員数の度数分布

(出典：FD委員会資料)

## 資料 3 - 2 - ② - 3

平成15年9月2日

教官各位

教務主事

公開授業のご案内

下記の通り、公開授業を実施致しますので、多数の方々へご参観いただきたくご案内致します。

授業科目	流体工学(中島先生)
日時・場所	9月11日(木) 1・2限目 4M教室 9月18日(木) 1・2限目 4M教室

いずれもご自由に教室へ入られてご参観下さい。

なお、お手数をお掛け致しますが、人数把握の必要がございますので、ご参観された方は、その旨中村主事補までご連絡頂きますよう宜しくお願い致します。その際、「ここが良かった。早速、自分の授業へ取り入れたい」等のコメントを併せて頂けますと幸甚です。

(出典：学生課資料)

## 資料 3 - 2 - ② - 4

H17.12.1

教員各位(常勤・非常勤)

FD委員長 宮田千加良

## 授業視察の案内

FD活動の一環として、下記のような授業視察を計画しております。本視察は、授業改善の一環として実施するもので、視察結果(参考にした点、気づいた点等)を該当教員へフィードバックするとともに、後日意見交換会を開催し、参考にして欲しい点、気づいた点などを総括・意見交換等、していきたいと考えております。なお、前期だけを担当される非常勤教員につきましては、9月初旬に実施済みです。

視察者：校長、ほか数名(教務主事、FD委員長、各学科長)

視察対象者：全教員(常勤・非常勤含め)

視察期間：1月10日～1月31日

本視察は全教員について1科目行うことを考えております。複数の科目を担当される方で、この科目を視察してほしい等のご希望がございましたら、12/7までに宮田までご連絡下さい。なお、クラス・日時につきましては流動的ですので、上記期間内に前ぶれなしに参観させていただくことになります。

御面倒をおかけいたしますが、よろしく願いいたします。

(出典：FD委員会資料)

資料 3 - 2 - ② - 5

## 「学生による授業評価アンケート」教官別集計

(5段階評価クラス平均点 H17.12.1～H17.12.21 実施分)

所属 :

教官名 :

授業評価アンケート項目	クラス							平均	
	教科								
	担当教官数	1	1	1	1				
	クラス人数	39	41	35	42				
(1) 教員が興味を引き出す工夫(発問、事例や教材の提示等)をした。		2.51	3.51	3.69	3.98			3.43	
(2) この授業は分かりやすかった。		3.08	4.24	3.74	4.02			3.78	
(3) 教官の話し方・板書(文字や図)は適切だった。(実験、実習の実技説明は明快だった。)		2.85	3.59	3.77	3.71			3.48	
(4) この授業の進み具合は適切だった。		2.89	3.88	3.74	3.86			3.61	
(5) 授業中は質問しやすい雰囲気、教官は質問に気持ちよく対応した。		2.61	3.59	3.69	3.57			3.37	
(6) 自分は授業も熱心に受け、宿題やレポート等の提出期限も守った。		3.56	4.27	3.86	4.05			3.94	
(7) この授業は知識や技術の修得あるいは自分の成長に役立った。		3.15	4.35	3.68	4.15			3.84	
(8) この授業で感じた点、良かった点、教官に希望する点、気がついた点などあれば自由に書いてください		別紙						全平均	3.63
<p>校長コメント : 1. 極めて高い評価です。</p> <p>2. 「記述式回答」が18件ありました。代表的な3件を転記します。褒める言葉が書いてあるのが嬉しいですね。</p> <p>科目A 有 授業中に大声で学生に対して怒るのはやめてほしい。せめて注意するぐらいにしてほしいです。</p> <p>科目A 有 授業の中では、すべての科目の中で1番分かりやすいと思う。一見難しそうな式等も、説明が上手なため分かりやすい。</p> <p>科目B 有 根本的なことから教えてもらってわかりやすかった。</p> <p>授業視察のコメント:「学生に問いかけながら分かりやすく説明している。声、話し方が良い。板書もよく整理されているが、字が少し小さい。全体的に大変良好。」のコメントがありました。</p>									

(出典 : FD 委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

文部科学省(平成17年度からは高専機構)主催の「教員顕彰」に基づいて、教員の教育活動の評価を行っている。FD委員会が実施している「学生による授業評価アンケート」により、個々の教員の教育に関する評価を把握している。この他に、校長及びFD委員会を中心に教員の授業視察を行っている。校長は、これらの評価を基に教員の教育能力を評価している。

**観点 3 - 3 - ① :** 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

(観点到に係る状況)

事務部に2課10係(資料3-3-①-1, 2)を置き、主に学生課の4係(教務係・入試広報係・学生係・学生支援係)15名(うち非常勤職員5名)で教育支援を行っている。教務係は授業時間割の編成、学生の修学指導、教育課程及び授業・休業に関すること、入試広報係は学生の募集及び入学者の選抜、広報及び広報冊子の発行に関すること、学生係は学生の課外活動、学生の育英奨学、学生の就職・福利厚生に関すること、学生支援係は寄宿舎の管理・運営、寄宿舎の福利厚生、図書の分類・保管、図書の貸出・閲覧に関することの業務を行っている(資料3-3-①-3)。また、技術職員

も主に教育支援を行い、事務部長の下に技術室（資料3-3-①-4）として組織化され、各学科等に対して、1) 実験・卒研等の技術支援，2) 教育・研究用装置等の制作・開発支援，3) 各種実験・実習装置，工作関連機器装置の保守・管理等の支援（資料3-3-①-5）を行い，必要な人材と人員が配置されている。

**観点3-3-①資料一覧**

（資料3-3-①-1）鹿児島工業高等専門学校事務職員配置状況	出典：総務課資料
（資料3-3-①-2）鹿児島工業高等専門学校組織図	出典：総務課資料
（資料3-3-①-3）事務組織及び事務分掌規程	出典：規則集
（資料3-3-①-4）技術室組織図	出典：技術室資料
（資料3-3-①-5）技術室職員教育支援科目	出典：技術室資料

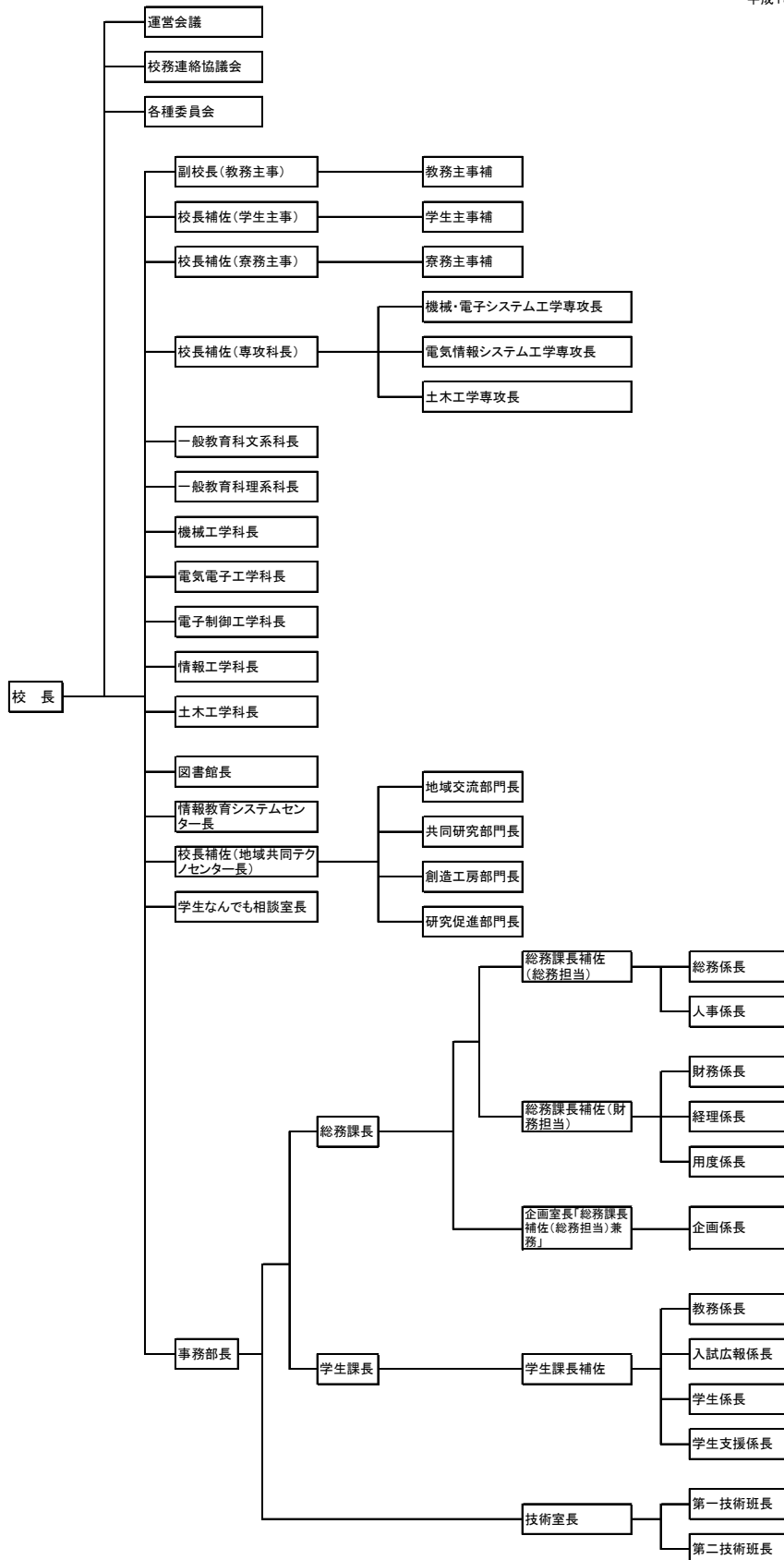
鹿児島工業高等専門学校事務職員配置状況

組 織 図		所管業務(係・担当)	備 考						
<p>事務部長</p> <p>総務課長</p> <p>総務課長補佐 (総務担当)</p> <p>○所管事項の事務改善の推進に関すること。 ○職員の能率に関すること。</p> <p>企画室長(総課長補佐(総務担当)兼務)</p> <p>○地域共同テクノセンターに関すること ○発明・知財に関すること</p> <p>総務課長補佐 (財務担当)</p> <p>○予算の総括に関すること。 ○決算の総括に関すること。</p>	総務係長	<table border="1"> <tr><td>係員</td><td>常</td><td>1</td></tr> <tr><td></td><td>非</td><td>1</td></tr> </table>	係員	常	1		非	1	<p>地域との連携協力に関すること。 調査統計その他諸報告に関すること。 情報公開に関すること。 公開講座に関すること。</p>
	係員	常	1						
		非	1						
	人事係長	<table border="1"> <tr><td>係員</td><td>常</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>非</td><td></td></tr> </table>	係員	常	2		非		<p>職員の任免・分限・懲戒に関すること。 職員の勤務時間管理に関すること。 職員の健康管理、福利厚生に関すること。 職員の給与に関すること。</p>
	係員	常	2						
		非							
	企画係長	<table border="1"> <tr><td>係員</td><td>常</td><td>1</td></tr> <tr><td></td><td>非</td><td>1</td></tr> </table>	係員	常	1		非	1	<p>自己点検評価に関すること。 研究助成に関すること。 内地・在外研究員に関すること。 情報ネットワークに係る専門的事項に関すること。 その他企画調査及び情報処理に関すること。</p>
	係員	常	1						
		非	1						
	財務係長	<table border="1"> <tr><td>係員</td><td>常</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>非</td><td>1</td></tr> </table>	係員	常	2		非	1	<p>財務会計伝票の照査に関すること。 決算(月次・中間・年次)の総括に関すること。 会計の調査に関すること。 共済組合の短期業務に関すること。</p>
係員	常	2							
	非	1							
経理係長	<table border="1"> <tr><td>係員</td><td>常</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>非</td><td></td></tr> </table>	係員	常	2		非		<p>歳入・歳出の決算に関すること。 歳入の認定及び諸収入金の収納に関すること。 支出に関すること。 債権の管理に関すること。 受託試験業務に関する事。(土木:コンクリート圧縮、テカ/センター:金属引張)</p>	
係員	常	2							
	非								
用度係長	<table border="1"> <tr><td>係員</td><td>常</td><td>3</td></tr> <tr><td></td><td>非</td><td>1</td></tr> </table>	係員	常	3		非	1	<p>物品の管理に関すること。 物品の購入及び役務等の契約に関すること。 土地・建物及び工作物等の維持保全に関すること。 不動産の所得・管理及び処分に関すること。</p>	
係員	常	3							
	非	1							
<p>学生課長</p> <p>学生課長補佐</p> <p>○入学者の選抜に係る事項の総括に関すること。 ○JABEEの総括に関すること。 ○学生就職の総括に関すること。</p>	教務係長	<table border="1"> <tr><td>係員</td><td>常</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>非</td><td>1</td></tr> </table>	係員	常	2		非	1	<p>教務に関する事務の企画及び運用に関すること。 教育課程及び授業・休業に関すること。 学生の入学・休学・復学・退学・除籍及び卒業等に関すること。 学生の修学指導に関すること。</p>
	係員	常	2						
		非	1						
	入試広報係長	<table border="1"> <tr><td>係員</td><td>常</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>非</td><td></td></tr> </table>	係員	常			非		<p>学生の募集及び入学者の選抜に関すること。 広報に関すること。 学校要覧、その他広報冊子の発行に関すること。 留学生(他係所管を除く。)に関すること。</p>
係員	常								
	非								
学生係長	<table border="1"> <tr><td>係員</td><td>常</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>非</td><td></td></tr> </table>	係員	常	2		非		<p>厚生補導に関する事務の企画・運用に関すること。 学生の課外活動に関すること。 学生の健康診断及び保健・衛生管理に関すること。 独立行政法人日本学生支援機構及びその他育英奨学に関すること。</p>	
係員	常	2							
	非								
学生支援係長	<table border="1"> <tr><td>係員</td><td>常</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>非</td><td>4</td></tr> </table>	係員	常	2		非	4	<p>寮務に関する事務の企画及び運用に関すること。 寄宿舎の管理・運営に関すること。 図書の出貸・閲覧・参考業務に関すること。 図書・雑誌等の購入企画に関すること。 図書の保管に関すること。</p>	
係員	常	2							
	非	4							

(出典：総務課資料)

鹿児島工業高等専門学校組織図

平成18年4月1日現在



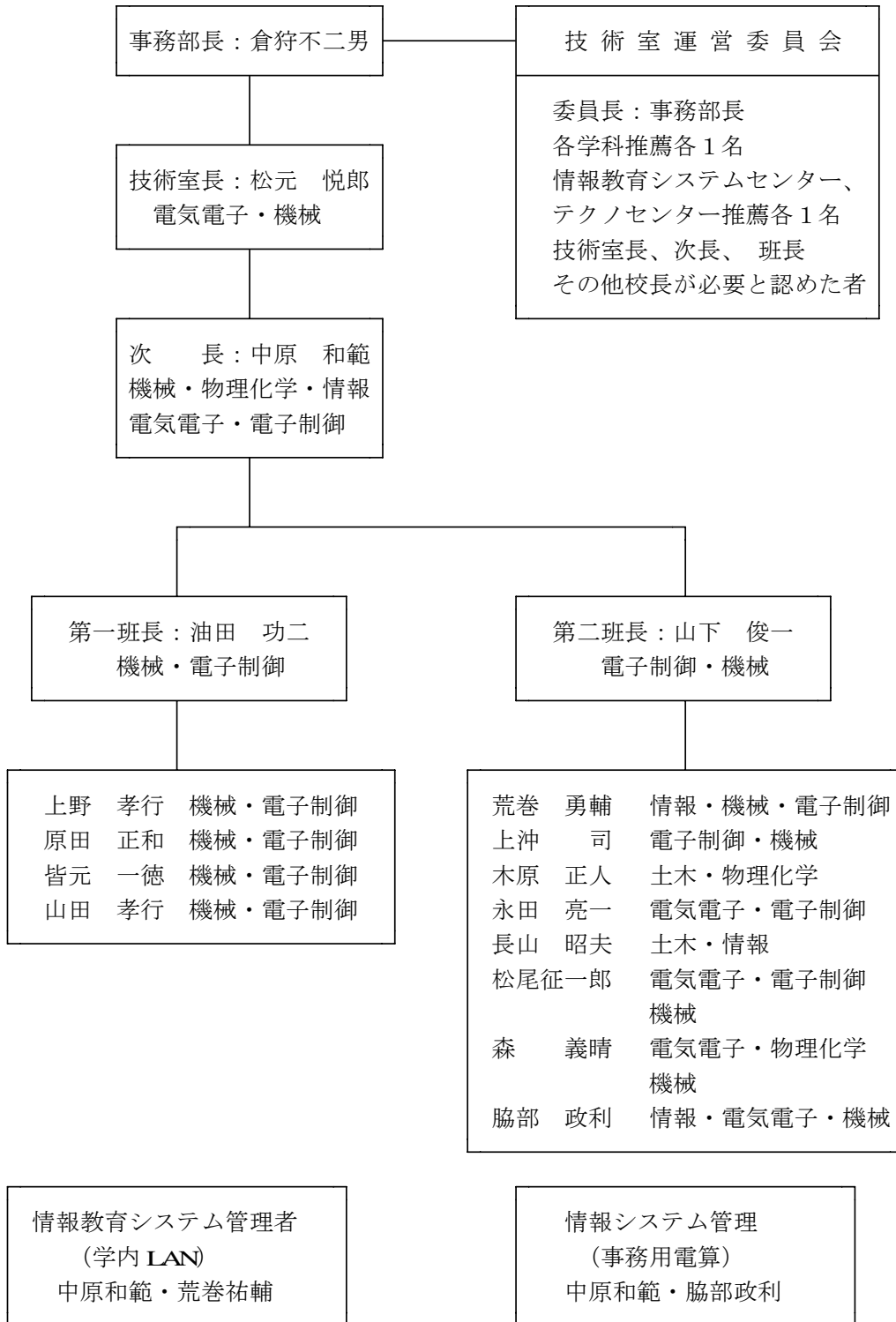
(出典：総務課資料)

## 資料 3 - 3 - ① - 3

- 第 10 条 学生課の所掌事務は、課長補佐及び各係において次の事務をつかさどる。
- 2 課長補佐は、次の事務をつかさどる。
- (1) 所管事項の事務改善の推進に関すること。
  - (2) 学生課各係の業務調整に関すること。
  - (3) 入学者の選抜に係る事項の総括に関すること。
  - (4) 学生就職の総括に関すること。
  - (5) 国際交流（総務課所管を除く。）に関すること。
  - (6) J A B E E の総括に関すること。
  - (7) その他学務に係る事務のうち重要な企画、調査及び連絡調整に関すること。
- 3 教務係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 教務に関する事務の企画及び運用に関すること。
  - (2) 学生の募集及び入学者の選抜に関すること。
  - (3) 教育課程及び授業・休業に関すること。
  - (4) 学生の入学・休学・復学・退学・除籍及び卒業等に関すること。
  - (5) オリエンテーションに関すること。
  - (6) 授業時間割の編成に関すること。
  - (7) 非常勤講師の授業計画に関すること。
  - (8) 試験及び成績に関すること。
  - (9) 進級及び卒業の認定に関すること。
  - (10) 学生の出・欠席に関すること。
  - (11) 学生の修学指導に関すること。
  - (12) 学生指導要録、その他学生の諸記録の整理保管に関すること。
  - (13) 学生証、在学証明等に関すること。
  - (14) 学生の実習・見学等に関すること。
  - (15) 教科書及び教材に関すること。
  - (16) 教室の管理に関すること。
  - (17) 課程認定申請（総務課所管を除く。）に関すること。
  - (18) J A B E E に関すること。
  - (19) 留学生（他係所管を除く。）に関すること。
  - (20) 所掌事務に関する調査・統計、その他諸報告に関すること。
  - (21) 所管の旅行命令に関すること。
  - (22) その他教務に関すること。
  - (23) その他他係の所掌に属さないこと。
- 4 入試広報係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 学生の募集及び入学者の選抜に関すること。
  - (2) 広報に関すること。
  - (3) 学校要覧、その他広報冊子の発行に関すること。
  - (4) 留学生（他係所管を除く。）に関すること。
  - (5) 所管の旅行命令に関すること。
  - (6) その他入試に関すること。
- 5 学生係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 厚生補導に関する事務の企画及び運用に関すること。
  - (2) 学生の補導に関すること。
  - (3) 学生の表彰及び懲戒に関すること。
  - (4) 学生の課外活動に関すること。
  - (5) 学生に対する講習会・講演会に関すること。
  - (6) 学生の団体・集会・掲示及び印刷物等に関すること。
  - (7) 学生の便覧に関すること。
  - (8) 学生の健康診断及び保健・衛生管理に関すること。
  - (9) 学校医に関すること。
  - (10) 日本学校安全会に関すること。（経理に関することを除く。）
  - (11) 学生の福利厚生に関すること。
  - (12) 学生の就職に関すること。
  - (13) 学生の制服・制帽・その他学用品等の斡旋に関すること。
  - (14) 学生会に関すること。
  - (15) 学生のレクリエーションに関すること。
  - (16) 学生の宿所斡旋に関すること。
  - (17) 独立行政法人日本学生支援機構及びその他育英奨学に関すること。
  - (18) 授業料の減免及び徴収猶予に関すること。
  - (19) 留学生（他係所管を除く。）に関すること。
  - (20) 所管の旅行命令に関すること。
  - (21) 後援会（総務課所管を除く。）に関すること。
  - (22) 所掌事務に関する調査・統計その他諸報告に関すること。
  - (23) その他厚生補導に関すること。
- 6 学生支援係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 寮務に関する事務の企画及び運用に関すること。
  - (2) 寄宿舎の管理・運営に関すること。
  - (3) 寄宿生の訓育補導に関すること。
  - (4) 寄宿生の入退寮等異動に関すること。
  - (5) 寄宿生の給食・栄養管理に関すること。
  - (6) 寄宿生の保健・衛生管理に関すること。
  - (7) 寄宿生の福利・厚生に関すること。
  - (8) 寄宿生の諸経費に関すること。
  - (9) 寄宿料の減免に関すること。
  - (10) 寄宿舎食堂の調理助手に関すること。
  - (11) 留学生（他係所管を除く。）に関すること。
  - (12) 所管の旅行命令に関すること。
  - (13) 所掌事務に関する調査・統計その他諸報告に関すること。
  - (14) 図書・雑誌等の購入企画に関すること。
  - (15) 刊行物の受入・整理に関すること。
  - (16) 購入・寄贈その他による図書の受入に関すること。
  - (17) 原簿等各帳簿類の記録に関すること。
  - (18) 図書の分類に関すること。
  - (19) 図書目録の作成に関すること。
  - (20) 図書の保管に関すること。
  - (21) 図書の貸出及び閲覧に関すること。
  - (22) 蔵書印の管守に関すること。
  - (23) 所掌事務に関する調査・統計その他諸報告に関すること。
  - (24) 学術雑誌等の製本に関すること。
  - (25) 学術文献の相互利用に関すること。
  - (26) 図書の支出負担行為書案の作成に関すること。
  - (27) その他寮及び図書に関すること。
- 第 11 条 技術室に勤務する技術専門員、技術専門職員及び技術職員は、次の事務をつかさどる。
- (1) 教育研究の支援のための技術開発及び技術業務
  - (2) 学生の技術指導
  - (3) 技術の継承及び保存
  - (4) 技術研修に関する調査研究
  - (5) 実験実習の準備及び指導に関すること。
  - (6) 設備・機械・器具の保守に関すること。
  - (7) 教材・備品の管理に関すること。
  - (8) 事務用電算管理に関すること。
  - (9) その他学生の教育の補助に関すること。

(出典：規則集)

## 技術室組織図



(出典：技術室資料)



資料3-3-①-5

平成18年度 技術室職員教育支援科目

時数は年間支援時限数

技術職員名	学科	授業科目	内容	学年	時数	学年	時数	学年	時数	
室長	松元悦郎	電気電子	電気工学実験	電気磁気実験	2	30	3	45	5	60
		機械	工学実験	熱工学	4	12				
次長	中原和範	一般	物理	物理実験	1	25	2	50		
		電気電子	電気工学実験	電気機器実験	4	56				
		機械	機械工学基礎	コンピュータテラシ	1	30				
			工学実験	流体実験	4	12				
		電子制御	電子制御基礎	コンピュータテラシ	1	30				
第一班	油田功二	機械	工作実習	機械加工・NC加工・測定	1	87	2	90	3	90
		電子制御	工作実習	NC加工	3	42				
	皆元一徳	機械	工作実習	溶接	2	90				
		工学実験	機械工作・熱工学	4	84	5	30			
		電子制御	工作実習	NC加工	2	42				
		工学実験	機械工学	4	60					
	原田正和	機械	工作実習	鍛造・手仕上げ・旋盤・NC加工	1	87	2	90	3	90
		工学実験	機械工作	4	60	5	30			
		電子制御	工作実習	機械加工・鍛造	1	84				
		機械	工作実習	溶接・鍛造・総合実習	1	90	2	90	3	90
	上野孝行	工学実験	流体実験	5	30					
		電子制御	工作実習	溶接・鍛造	1	84	2	48		
	山田孝行	機械	工作実習	鍛造・熱処理	1	87	2	78		
			工学実験	材料工学	4	72	5	30		
		情報処理	FORTAN言語	2	60					
電子制御		工作実習	熱処理	2	36					
第二班	山下俊一	電子制御	工作実習	測定実習	2	24				
		工学実験	数値制御	3	84	4	84	5	24	
		創造設計	ロボット製作	4	46					
		機械	工学実験	流体工学	4	12				
	森義晴	電気電子	電気工学実験	通信実験	3	45	4	60	5	60
		機械	工学実験	流体工学・熱工学	4	60	5	30		
		電子制御	工学実験	機械工学	4	3				
	木原正人	一般	物理	物理実験	1	25	2	50		
			土木	測量学実習	1	46				
			工学実験	土質・鉄筋コンクリート	3	78	4	56		
脇部政利	情報	情報処理	C言語	1	56	3	56			
		創造教室		1	30					
		工学実験	電気実験・ハードウェア	3	104	4	120	5	120	
		数値解析		4	26					
荒巻勇輔	情報	応用実験		4	26					
		コンピュータテラシ		1	30					
		情報処理	C言語	2	60					
		工学実験	電気実験・ハードウェア	2	90	4	120	5	120	
上沖 司	電子制御	情報処理	C言語	2	60					
		工学実験	電気実験	3	84					
		工作実習	手仕上げ・制御	1	84	2	84			
		創造設計	NC加工・電子回路・制御	3	84	4	84	5	24	
第二班	松尾征一郎	電気電子	工学実験	ロボット製作	3	40				
			創造設計		4	20				
			設計製図	CAD	2	24				
		電子制御	工作実習	電気実験	2	60				
		機械	情報処理	C言語	3	60				
			工作実習	電気実験	3	90				
			工学実験	熱工学・制御工学	4	24	5	30		
			創造設計	ロボット製作	4	20				
	永田亮一	電気電子	電気工学実験	CAD	2	30	3	45	5	60
			情報処理	C言語	2	60				
			電子制御	工学実験	電気実験・制御	3	84	4	84	
	長山昭夫	土木	電子制御基礎	コンピュータテラシ	1	30				
			測量学実習		2	90				
			工学実験	材料学・水理学	3	90	4	60		
			設計	構造物・橋梁	4	60	5	60		
環境実験				5	60					
情報処理		1	60							
機械	工学実験	流体工学	5	30						

(出典：技術室資料)

(分析結果とその根拠理由)

事務職員については、各係に適切な人材・人数を配置し、教育支援については、主に学生課にて最適な運営が行われている。また、技術職員は事務部長の下に技術室として組織化され、分野の異なる各学科等に十分な教育支援ができるよう、必要な人材と人員が確保されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 教員の採用・昇任に当たって、関係規則が整備されており、推薦委員会及び審査委員会より、教育能力が適切に評価され審査されている点
- ・ 技術職員は、技術室として組織化され、全学科に十分な教育支援ができる体制がとられている点

(改善を要する点)

特になし

## (3) 基準3の自己評価の概要

本校は、1学年5学級(1学科1学級)、入学定員200人で、一般科目担当教員として、専任教員21人、非常勤講師32人を配置している。また、専門科目担当教員として、専任教員52人、非常勤講師39人を配置しており、本校の学習・教育目標を達成するために、必要な教員を配置している。専攻科では、教育業績と研究業績等とを評価確認した上で、本校学習・教育目標を達成するために、必要な授業科目を担当する教員を適切に配置している。

教員団の年齢構成は適切であり、採用前の企業経験等の経歴による構成がバランスの取れたものとなっている。また、学生に対してより高度な教育を行うため、学位未取得者に対しては、研修制度を利用して学位を取得しやすい環境を整えている。さらに、教育、学校運営、社会貢献に関して特に顕著な功績をあげた者を表彰する制度を設け、教員組織の活動の活性化を図っている。

教員の採用・昇任については、教員選考規則に基づき候補者の公募を行った上で、推薦委員会及び審査委員会にて選考している。

教員の教育活動の評価については、文部科学省(平成17年度からは高専機構)主催の「教員顕彰」に基づいた評価を行っている。また、FD委員会が実施している「学生による授業評価アンケート」により、個々の教員の教育に関する評価を把握している。この他に、校長及びFD委員会を中心に教員の授業視察を行っている。校長は、これらの評価を基に教員の教育能力を評価している。

事務職員については、各係に適切な人材・人数を配置し、教育支援については、主に学生課にて最適な運営が行われている。また、技術職員は事務部長の下に技術室として組織化され、分野の異なる各学科等に十分な教育支援ができるよう、必要な人材と人員が確保されている。

## 基準4 学生の受入

### (1) 観点ごとの分析

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点に係る状況）

#### (a) アドミッション・ポリシーの設定

準学士課程入学者選抜に関するアドミッション・ポリシーは、本校の教育の目的である4つの学習・教育目標に沿って、教務委員会において立案され、入試委員会における審議を経て、平成17年10月に校務連絡協議会で承認され（資料4-1-①-1）、平成18年度入学者募集要項に記載された（資料4-1-①-2）。また、準学士課程編入学選抜のアドミッション・ポリシーは、同様の審議を経て、平成17年5月に校務連絡協議会で承認され（資料4-1-①-3）、平成18年度編入学生募集要項に記載された（資料4-1-①-4）。

専攻科課程については、修了時に達成すべき学習・教育目標を2年間で達成する資質を持った人物を受け入れるため、「鹿児島工業高等専門学校専攻科入学者選抜要項」（非公開資料）が定められ平成16年4月より適用されている。この選抜基準をアドミッション・ポリシーとして明文化するため、学内での協議を経て専攻科委員会で検討し（資料4-1-①-5）、校務連絡協議会、入試委員会において承認・決定され（資料4-1-①-6）、平成19年度専攻科入学者募集要項に記載された（資料4-1-①-7）。

#### (b) アドミッション・ポリシーの周知状況

本校のアドミッション・ポリシーは、本校ウェブページ、入学者募集要項に掲載することで教職員に対する周知を図っている。さらに、平成18年度の入学試験実施についての教職員説明会において、教務主事がアドミッション・ポリシーを説明し、更なる周知を図った。平成18年3月には、アドミッション・ポリシーの周知状況を把握するため、教員を対象にアンケート調査を行った。その結果、教員の75%が知っているという結果（資料1-2-①-7参照）が得られた。この結果は、平成18年4月に行われた第1回校務連絡協議会で報告され、周知の状況が完全ではないことから、学科長・課長を通じて、教職員に本校の目的を再度周知した。

#### (c) アドミッション・ポリシーの公表状況

本校のアドミッション・ポリシーについては、本校ウェブページに掲載され（資料4-1-①-8）、教職員への周知を図るとともに、将来の学生を含め社会に公表している。また、アドミッション・ポリシーが掲載された入学者募集要項は、本校の学校紹介や中学校個別訪問の際に鹿児島県下の中学校に配布され、説明が行われている（資料4-1-①-9）。

**観点 4-1-① 資料一覧**

(資料 4-1-①-1) 準学士課程アドミッション・ポリシーの制定

出典：平成17年度第6回校務連絡協議会議事要旨

(資料 4-1-①-2) 準学士課程アドミッション・ポリシーの公開 出典：平成18年度入学者募集要項

(資料 4-1-①-3) 準学士課程編入学生アドミッション・ポリシーの制定

出典：平成17年度第2回校務連絡協議会議事要旨

(資料 4-1-①-4) 準学士課程編入学生アドミッション・ポリシーの公開

出典：平成18年度編入学生募集要項

(資料 4-1-①-5) 専攻科課程アドミッション・ポリシーの制定

出典：平成17年度第8, 9回専攻科委員会議事要旨

(資料 4-1-①-6) 専攻科課程アドミッション・ポリシーの制定

出典：平成17年度第9回校務連絡協議会議事要旨

(資料 4-1-①-7) 専攻科課程アドミッション・ポリシーの公開

出典：平成19年度専攻科入学者募集要項

(資料 4-1-①-8) アドミッション・ポリシーの公開 出典：ウェブページ

(資料 4-1-①-9) 入学募集要項に係る募集要項の配布先等 出典：学生課資料

資料 4-1-①-1

**平成17年度第6回校務連絡協議会議事要旨**

日 時：平成17年10月14日（金）13：30～15：25

場 所：管理棟大会議室

**議 事****3. 報告事項****(1) 主事等報告****イ. 教務主事報告**

- ・ 入学者募集要項に教育理念，入学者の受け入れ方針等を資料3-3のとおり掲載した。

(出典：平成17年度第6回校務連絡協議会議事要旨)

資料 4-1-①-2

**入学者の受け入れ方針（アドミッションポリシー）**

本校の学習・教育目標に共感し、この目標達成にふさわしい素質と能力のある人を受け入れます。特に、次のような人を求めています。

1. 論理的な思考ができる人
2. もの作りが好きな人
3. プレゼンテーション能力のある人
4. 21世紀の世界を支える技術者として、大いに活躍したいという夢のある人

(出典：平成18年度入学者募集要項 表紙裏)

資料 4-1-①-3

## 平成 17 年度 第 2 回校務連絡協議会議事要旨

日 時：平成 17 年 5 月 20 日（金） 13：30～15：00

場 所：管理棟大会議室

## 3. 報告事項

## (1) 主事等報告

## イ 教務主事報告

- ・ 入学試験委員会で、平成 18 年度編入学生募集要項にアドミッションポリシーを入れることを報告し、教務主事原案を各委員へ通知した。指摘を受けた事項について修正し、資料 2 のとおりとした。

(出典：平成 17 年度 第 2 回校務連絡協議会議事要旨)

資料 4-1-①-4

## 平成 18 年度

## 鹿児島工業高等専門学校編入学生募集要項

## 1. 入学者の受入れ方針(アドミッションポリシー)

本校の学習・教育目標に共感し、この目標達成にふさわしい素質と能力のある学生を求めています

本校の学習・教育目標

- (1) 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者
- (2) グローバルに活躍する技術者
- (3) 創造力豊かな開発型技術者
- (4) 相手の立場に立ってものを考える技術者

(出典：平成 18 年度編入学生募集要項 1 頁)

資料 4-1-①-5

## 平成 17 年度 第 8 回 専攻科委員会議事要旨

日 時：平成 18 年 1 月 13 日（金） 15：40～17：30

場 所：第一会議室

## 2. 審議事項

## (1) 専攻科アドミッションポリシーおよび専攻科入試の実施要領について（資料 3）

専攻科長試案の資料に基づき審議した。融合・複合を意味するような文言を入れて欲しいと要望が出されたが、原案のとおり承認された。平成 19 年度の募集要項、入試要項について、次回の委員会で審議するため、気づいた点は、メールで各委員へ流して頂きたい。

英語の試験に TOEIC を取り入れるが、足切り点、グレードを付けることについて英語科、山田教育プログラム改善委員長へ検討依頼中である。その他、変更点があれば提案をお願いする。

## 平成 17 年度 第 9 回 専攻科委員会議事要旨

日 時：平成 18 年 2 月 10 日（金） 15：30～17：40

場 所：小会議室

## 3. 審議事項

## (1) 「平成 19 年度 専攻科学生募集要領・入学案内」について

協議の結果、以下のことを決定し、募集要項案として入試委員会に提案することとなった。

- ・ アドミッションポリシーの追加

(出典：平成 17 年度 第 8・9 回専攻科委員会議事要旨)

資料 4-1-①-6

## 平成 17 年度第 9 回校務連絡協議会議事要旨

日 時：平成 18 年 1 月 20 日（金） 13：30～15：30

場 所：管理棟大会議室

## 3. 報告事項

## (1) 主事等報告

## ホ. 専攻科長報告

- ・ 専攻科のアドミッション・ポリシー（案）について、各学科で検討いただき、資料 8 のとおりとなった。

（出典：平成 17 年度第 9 回校務連絡協議会議事要旨）

資料 4-1-①-7

## アドミッションポリシー

本校の専攻科は「環境に配慮したものづくりができる技術者」育成を目指しており、その実現のために以下に示しますような専攻科学生が修了時に達成すべき「専攻科の学習・教育目標」が定められています。受け入れられる人物として (1) 本校専攻科が育成を目指す技術者像を十分に理解し、(2) 学習・教育目標を達成して専攻科を修了できる資質を持った方を求めています。また、(2)については以下のことが求められます。

- ① 英語、数学、および専門とする分野の基礎学力を備えていること
- ② 論理的な記述や説明の基礎能力を備えていること
- ③ 新たな問題に取り組む積極性と計画性を備えていること

（出典：平成 19 年専攻科入学者募集要項 1 頁）

資料 4-1-①-8

学習・教育 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H) アドレス(U) 移動

戻る 検索 お気に入り

**入学者（本科 1 年）の受入れ方針（アドミッション・ポリシー）**  
 本校の学習・教育目標に共感し、この目標達成にふさわしい素質と能力のある人を受け入れます。特に、次のような人を求めています。

1. 論理的な思考ができる人
2. もの作りが好きな人
3. プレゼンテーション能力のある人
4. 21世紀の世界を支える技術者として、大いに活躍したいという夢のある人

**編入学者（本科 4 年）の受入れ方針（アドミッション・ポリシー）**  
 本校の学習・教育目標に共感し、この目標達成にふさわしい素質と能力のある人を受け入れます。

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者
2. グローバルに活躍する技術者
3. 創造力豊かな開発型技術者
4. 相手の立場に立ってものを考える技術者

**専攻科の入学者の受入れ方針（アドミッションポリシー）**  
 本校の専攻科は「環境に配慮したものづくりができる技術者」育成を目指しており、その実現のために専攻科学生が達成すべき学習・教育目標が定められています。受け入れる人物として (1) 本校専攻科が育成を目指す技術者像を十分に理解し、(2) 学習教育目標を達成して専攻科を修了できる資質を持った方を求めています。また、(2)については以下のことが求められます。

1. 英語、数学、および専門とする分野の基礎学力を備えていること
2. 理的な記述や説明の基礎能力を備えていること
3. 新たな問題に取り組む積極性と計画性を備えていること

ページが表示されました イントラネット

（出典：ウェブページ）

資料 4 - 1 - ① - 9

鹿児島高専の入学者募集に係る募集要項の配布先等

種 類	配 布 先 等	
本 科 生	1. 県下の全中学校	285校
	2. 県下の教育事務所	13
	3. 隣県（宮崎県）の隣接地域の中学校	34校
	4. 地区別学校紹介（県本土の5地区）	100校
	5. 中学校個別訪問	240校
	6. 来校者	50
	7. 志願者の中学校からの請求	700
	8. その他（学内配布・事務用・残）	578 計2,000
編 入 学 生	1. 鹿児島・宮崎・熊本県の工業系高等学校	33校
	2. 志願者請求	50
	3. その他（学内配布・事務用・残）	117 計200
専 攻 科 生	1. 全国の国公立高等専門学校	63校
	2. 志願者請求	30
	3. その他（学内配布・事務用・残）	93 計200

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の準学士課程入学選抜に関するアドミッション・ポリシーは、本校の教育の目的である学習・教育目標に沿って明確に定められており、中学生にもわかりやすい具体的な表現となっている。また、編入学生選抜に関するアドミッション・ポリシーも、学習・教育目標に沿って明確に定められている。これらのアドミッション・ポリシーは、本校ウェブページや入学者募集要項に掲載するとともに、入学試験説明会において説明を行い、教職員に対する周知を図っている。アドミッション・ポリシーの周知状況については、教員へのアンケート結果から、多少の問題があるものの、おおむね周知されているものと判断される。社会への公表状況については、本校ウェブページや入学者募集要項にアドミッション・ポリシーが掲載され、入学者募集要項については、県下中学校に配布されていることから、将来の学生を含め社会に対して広く公表されている。

専攻科課程のアドミッション・ポリシーについても、専攻科の学習・教育目標に沿って明確に定められ、専攻科委員を通じて教員に周知されるとともに、募集要項に記載され、その内容が本校ウェブページに掲載されることにより、広く社会に周知されている。

**観点 4 - 2 - ①： アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学選抜が適切に実施されているか。**

(観点に係る状況)

準学士課程の入学選抜は、推薦による選抜と学力検査による選抜を行っている。まず、推薦による選抜については、出願資格を設定している（資料 4 - 2 - ① - 1）。これは、アドミッション・ポリシーにある本校の「学習・教育目標を達成するのにふさわしい素質と能力を有していること」という点に基づくものである。推薦選抜の方法は、資料 4 - 2 - ① - 2 に示すとおりである。推薦選抜の評価は、アドミッション・ポリシーを考慮して次のように実施されている。「1. 論理的な思考がで

きる人」については、主に調査書及び工学的適性検査において評価している。「2. ものづくりが好きな人」及び「4. 21世紀の世界を支える技術者として大いに活躍したいという夢のある人」については、調査書、推薦書を参考にして面接において評価している。また、「3. プレゼンテーション能力のある人」については、作文及び面接において評価している。次に、学力検査による選抜については国語、社会、数学、理科、英語の5教科について学力検査を行い、本校の学習・教育目標達成のための基礎的な資質・能力を有しているかを検査している。学力検査の配点は、アドミッション・ポリシーのうち特に、「1. 論理的な思考ができる人」を考慮して、数学を200点、理科、英語、国語、社会は100点で評価している（資料4-2-①-3）。この学力検査結果と調査書により総合的に判定し、選抜している。

また、準学士課程4年次への編入学選抜は、資料4-2-①-4に示す方法で実施されている。学力検査は、英語、数学、専門科目Ⅰ、専門科目Ⅱの4科目について筆記試験を行い、本校の学習・教育目標達成のための基礎的な資質・能力を有しているか、また、志望学科に必要な基礎的な学力を有しているかを検査している。また、面接については特に、アドミッション・ポリシーに沿った具体的質問項目を設定し、評価している。

専攻科課程の入学選抜は、推薦と学力による選抜を行っている。推薦による選抜の出願資格に準学士課程における成績の基準を示しており（資料4-2-①-5）、これにより「学習・教育目標を達成して専攻科を修了できる資質」で求められる「①英語、数学、及び専門とする分野の基礎学力を備えていること」が保証されるようにしている。この準学士課程の成績と面接の評価から「鹿児島工業高等専門学校専攻科入学選抜要項」に従って合否を判定しており、面接の内容については、「本校専攻科が育成を目指す技術者像を十分に理解」していること、並びに「②論理的な記述や説明の基礎能力を備えていること、③新たな問題に取り組む積極性と計画性を備えていること」が確認できる設問事項を設定し、上記選抜要項に従って評価を行っている。学力による選抜では数学、英語、各専攻ごとの専門科目2科目の筆答試験を課し、これにより「①英語、数学及び専門とする分野の基礎学力を備えていること」を確認し、これらの成績と推薦選抜と同様の内容の面接による評価を合わせて、「鹿児島工業高等専門学校専攻科入学選抜要項」に従って合否を判定している。

#### 観点4-2-①資料一覧

(資料4-2-①-1) 準学士課程新入生	推薦出願資格	出典：平成18年度入学者募集要項
(資料4-2-①-2) 準学士課程新入生	推薦選抜方法	出典：平成18年度入学者募集要項
(資料4-2-①-3) 準学士課程新入生	学力選抜方法	出典：平成18年度入学者募集要項
(資料4-2-①-4) 準学士課程編入学生	選考方法	出典：平成18年度編入学生募集要項
(資料4-2-①-5) 専攻科推薦選抜出願資格		出典：平成19年度専攻科入学者募集要項



## 推薦による入学者の選抜

## 1. 出 願 資 格

平成 18 年 3 月中学校卒業見込み、または平成 18 年 3 月中等教育学校の前期課程修了見込みの者  
で在籍学校長が責任をもって推薦できる次の、(1)または(2)の条件を満たす者

(1) 3 年次の 1 学期および 2 学期の席次の平均が、当該学年全体の上位 10%以内に属する者。た  
だし、当該学年全体の在籍者数が 10 人に満たない場合は、席次の平均が 1 番の者

(席次の平均は、小数点第 1 位以下は切り捨て)

(2) 3 年次の 1 学期および 2 学期の席次の平均が、当該学年全体の上位 15%以内に属する者で、次  
の条件のいずれかを満たす者。ただし、当該学年全体の在籍者数が 10 人に満たない場合は、席次  
の平均が 2 番以内の者で、次の条件のいずれかを満たす者

(席次の平均は、小数点第 1 位以下は切り捨て)

① 生徒会長であった者

② 体育系部活動及び校外のクラブ活動等で、個人・団体・種目を問わず地区予選を経て都道府県  
大会に出場した者、または、市・郡大会で準優勝以上の成績を収めた者。ただし、団体競技にあっ  
ては正式エントリーされたものに限る。

また、地区予選を経ない都道府県大会にあっては、入賞したことを在籍学校長が証明できる者

③ 文化系部活動および校外の文化活動で都道府県水準以上の大会において顕著な成績を収めたこ  
とを在籍学校長が証明できる者

(出典：平成 18 年度入学者募集要項 3 頁)

## 3. 選抜の方法

学力検査を免除し、在籍学校長から提出された調査書・推薦書並びに本校が行う作文・面接・工学  
適性検査により総合的に判定します。

## 4. 面接・作文・工学適性検査の日時・場所等

(1) 日 時 平成 18 年 1 月 22 日 (日) 9:00 集合

(2) 場 所 鹿児島工業高等専門学校

(3) 作 文 ① 時 間 9:30~10:20 (50分)

② 字数 800 字以内

(4) 工学適性検査 30 分程度の簡単な数学的適性検査 (筆記) を行います。

(5) 面 接 一人当たり 10 分程度の面接を行います。

(出典：平成 18 年度入学者募集要項 4 頁)

## 資料 4-2-①-3

## 3. 選 抜 の 方 法

選抜は、志願者の能力・適性について、学力検査・出身学校長からの調査書により総合的に判定します。

## 4. 学 力 検 査

- (1) 学力検査は、筆記試験とし、理科・英語・数学・国語・社会の5教科について実施します。
- (2) 学力検査の配点は、理科・英語・国語・社会は各100点、数学は200点、合計600点満点とします。
- (3) 学力検査の日時および会場

期 日	教 科	時 間	会 場
2月19日(日)	理 科	9:30~10:20	鹿兒島工業高等専門 学校 (9:00 集合)
	英 語	10:40~11:30	
	数 学	11:50~12:40	
	国 語	13:30~14:20	
	社 会	14:40~15:30	

(出典：平成18年度入学者募集要項 2頁)

## 資料 4-2-①-4

## 6. 選 考 方 法

学力検査・調査書・推薦書・面接及び健康診断書等の結果を総合して行います。

## 7. 学 力 検 査 ・ 面 接 の 日 時 ・ 場 所

月 日	検査項目	時 間	検 査 場
7月26日(火)	8:30までに検査場に集合してください。		
	数 学	8:50~10:10(80分)	鹿兒島工業高等専門学校 情報工学科棟1階 合併講義室 (受験者数により変更する 場合があります。)
	英 語	10:20~11:10(50分)	
	専 門 I	11:20~12:10(50分)	
	専 門 II	13:00~13:50(50分)	
面 接	14:30~		

## 8. 学 力 検 査 科 目 及 び 出 題 範 囲 等

ア. 学力検査は筆記試験とします。

イ. 専門科目での電卓の使用を可とします。

学科	検 査 科 目	出 題 範 囲
各 学 科 共 通	数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ
	英 語	英語Ⅰ、英語Ⅱ
機 械 工 学 科	専 門 I 機 械 設 計	機械と設計、機械に働く力と仕事、材料の強さ
	専 門 II (1科目 選択)	機 械 工 作 機械材料、鋳造、塑性加工溶接、機械加工
	電 子 情 報	コンピュータの基本構成、プログラミングの基礎 アナログ・デジタル信号、2進数・16進数およびその四則演算、論理回路
電 気 電 子 工 学 科	専 門 I ( 直 流 回 路、 磁 気 と 静 電 気 )	直流回路の電圧・電流・消費電力と発生熱量、電気抵抗、電流磁界、電磁力、電磁誘導、自己・相互インダクタンス、電界と電位、静電容量
	専 門 II ( 交 流 回 路、 電 気 計 測 )	交流回路の基礎、交流回路の電圧・電流・電力、記号法、三相交流、電気計器、基本量(抵抗、電圧、電流、電力など)の測定、測定量の取り扱い
電 子 制 御 工 学 科	専 門 I (1科目 選択)	直流回路：電圧電流抵抗の各種法則、電力 交流回路：電圧電流の各種法則、RLCの働き、電力
	機 械 設 計	機械に働く力と運動機械の仕事と動力、材料の強さ、ねじと軸
	専 門 II (1科目 選択)	電 磁 気 学 電流と磁界の強さ、磁束密度、電磁力、電磁誘導作用と電磁エネルギー、電荷と電界の強さ、電位、静電容量
	機 械 工 作	造形加工、板の成形加工、接合・切断加工、切削加工、研削加工、特殊加工

(出典：平成18年度編入学生募集要項 2頁)

### Ⅲ. 推薦による選抜

#### 1. 出願資格

次の各号のいずれにも該当する者

- (1) 平成19年3月高等専門学校卒業見込みの者
  - (2) 在籍学校長が人物・健康ともに優れていると認め推薦する者
  - (3) 高等専門学校の第1学年から第4学年の学年末成績の席次（順位／在籍者数）の平均が0.5以下（小数第2位を切り上げ）の者
- ただし、編入学生にあっては、編入学した学年次から第4学年の学年末成績の席次（順位／在籍者数）の平均が0.5以下（小数第2位を切り上げ）の者

（出典：平成19年度専攻科入学者募集要項 2頁）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程の入学者選抜は、推薦選抜と学力選抜を行っている。このうち推薦選抜は、アドミッション・ポリシーに沿って、調査書、推薦書、並びに本校が行う作文、工学適性検査、面接により総合的な判定が行われ、適切に実施されている。学力選抜においても、アドミッション・ポリシーに沿って、本校の学習・教育目標達成のための基礎的な資質・能力を有しているかを検査するために学力検査を行っている。このことから準学士課程の入学選抜は、アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されている。

また、準学士課程の4年次への編入学選抜については、志願者の能力・適性について、学力検査、面接及び健康診断の結果、並びに出身学校長から提出された調査書により総合的に判定している。このうち特に面接において、アドミッション・ポリシーに関連する事項について質問し、面接評価を行っており、アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用され、実際の入学者選抜が適切に実施されている。

専攻科課程の入学者選抜は、推薦と学力による選抜を行っており、推薦選抜は出願基準に準学士課程での成績水準を設定することにより、学力選抜では数学、英語、専門科目の筆答試験を評価することにより、必要な基礎学力の保証がなされるようにしている。また、いずれの選抜においても面接試験において基礎学力以外のアドミッション・ポリシーの求める資質について評価を行っている。以上の学力評価、面接評価を総合して「鹿兒島工業高等専門学校専攻科入学者選抜要項」（非公開資料）に従って合否を判定しており、アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用され、実際の入学者選抜が適切に実施されている。

**観点 4-2-②： アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。**

(観点に係る状況)

平成17年度以前のアドミッション・ポリシーは、明確に定められてはおらず、公表されていなかったが、推薦選抜及び学力選抜の双方について、本校の教育の目的を達成するために高い資質・能力を持った学生を受け入れるという方針に基づいて選抜が行われていた。アドミッション・ポリシーは平成17年度に策定され、現在公表されているアドミッション・ポリシーは、このような選抜方針を具体化し、明確にしたものである。

平成14年度に、入学試験委員会において、入学試験実施方法の妥当性に関する検証を行っている。この検証により、学力選抜による入学者と比較して、5年次ストレート在籍率が高く、推薦選抜は妥当な方法で実施されているとの結論が得られ、さらに推薦募集枠を拡大することが決定された。さらに、推薦選抜受験者の資質・能力を適切かつ客観的に評価するために、工学適性検査が導入された。一方、学力選抜については、従来、基礎的学力の高い学生を受け入れるというのが選抜方針であり、5教科の全国高専の統一入学試験を実施し、総合的な学力を評価してきたが、本校の教育の目的である「創造性豊かな開発型技術者」を育成する上では、数学の基礎学力が重要であるとの共通認識から、学力試験の数学について得点を2倍し、200点満点で傾斜配点することを決定した(資料4-2-②-1)。

平成18年度第1回入学試験委員会においては、平成13年度～平成17年度入学者の第1学年の学年末成績状況及びストレート卒業率のデータをもとに、推薦選抜及び学力選抜の方法についての妥当性の検証を行った(資料4-2-②-2)。その結果、平成15年度入学試験より導入された選抜方法は妥当であり、適切に実施されていると判断された。

専攻科課程では、2年間の課程であるので、修了時の目標達成状況により選抜の適正性が判断されている。平成17年度では、とくに外国語によるコミュニケーション能力に関する目標達成状況が芳しくないことから、入学者選抜における英語力の学力検査方法の改善がなされた(資料4-2-②-3)。

#### 観点 4-2-②資料一覧

(資料4-2-②-1) 準学士課程新入生の学力試験配点方法の審議

出典：平成14年度第5回校務連絡協議会議事要旨

(資料4-2-②-2) 本科の入試選抜の検証について 出典：平成18年度第1回入学試験委員会資料

(資料4-2-②-3) 専攻科入学者選抜における英語力の学力検査方法の改善

出典：平成17年度第2・3回専攻科委員会議事要旨



資料 4-2-②-1

## 平成 14 年度第 5 回校務連絡協議会議事要旨

日 時：平成 14 年 9 月 20 日（金） 13：30～15：40

場 所：管理棟大会議室

議 事

## 2. 教務主事報告

## (1) 教務委員会関連

カ 平成 15 年度から入学者募集要項を資料 2-3 のとおり変更することを入学試験委員会で確認した。

## 4. 学 力 検 査

(1) 学力検査は、筆記試験とし、理科・英語・数学・国語・社会の 5 教科について実施します。

(2) 学力検査の配点は、理科・英語・国語・社会は各 100 点、数学については 200 点（2 倍）、合計 600 点満点とします。

(出典：平成 14 年度第 5 回校務連絡協議会議事要旨)

資料 4-2-②-2

平成 18 年度第 1 回入学試験委員会資料

平成 18 年 5 月 11 日

## 本科の入試選抜の検証について

## (a) 本科の入試選抜の検証

本科入試選抜の検証資料として、資料 1 に過去 5 年間の 1 年生の学年末の成績状況を示す。まず学力選抜で入学した学生と、推薦選抜で入学した学生の成績を比較してみると、推薦者の平均席次率が、ほとんどの学科において 0.5 以下となっている。このことから、全体的に推薦入学者の方が成績の良い結果が得られている。また、平成 15 年度から推薦入学者の選抜方法を変更し推薦枠を拡大しているが、平成 15 年度以降の推薦入学者の平均席次率および平均点は、平成 14 年度年以前の結果と大きな差は見られない。このことから推薦入試による選抜方法は、適切に行われていると言える。

また、学力選抜入学者の学年末の平均点は、学力選抜において数学の傾斜配点（数学は 200 点、国語・社会・数学・理科は 100 点満点で評価）を採用した平成 15 年度以降、上昇する傾向にある。この原因については、上述の数学の傾斜配点を採用したことによる効果、FD による授業改善による効果、平成 16 年度から科目の合格点が 50 点から 60 点に変更された効果などが考えられる。

次に、資料 2 にストレート卒業率のデータを示す。ストレート卒業率は年度によってバラツキはあるものの、全体として 76%～82%程度の値となっている。また推薦入学者のストレート卒業率は、全体のストレート卒業率の値よりも、ほとんどの学科において高い値を示している。

以上の結果から、本科の入試選抜については、推薦選抜および学力選抜とも特に問題はなく、適切に行われていると判断される。

## (b) 編入学生の入試選抜の検証

編入学生の入学試験の検証の資料として、資料 3 に過去 5 年間（平成 12 年度～平成 17 年度）の成績状況を示す。編入学生の人数が少ないこともあって、編入学生の成績は年度によって大きく変化しているものの、最近 3 カ年では平均席次率が各学科とも 0.2～0.7 程度の範囲にあり、ほぼ中位の成績を示している。このことから全体的に編入学生の成績に大きな問題はないといえる。また、編入生のストレート卒業率は 83%～100%の範囲にあり、高いストレート卒業率を示している。以上の結果から、編入学生の入試選抜は適切に行われていると判断される。

(出典：平成 18 年度第 1 回入学試験委員会資料)

## 平成 17 年度第 2 回専攻科委員会議事要旨

日時：平成 17 年 5 月 20 日（金）15：30～17：05

場所：第一会議室

## 2. 審議事項

## (2) 専攻科レベルの英語力のあり方について

金岡教員から、TOEIC400 点をクリアしていない 16 名に補講を週 3 回実施しているが、学習意欲のない学生もいて指導しても効果が上がらない。英語に関し、学生の基礎学力が低いため、シラバスに添った内容の授業ができない。現状では英語科教員の校務および教育・研究業務に支障をきたしかねない状態であるので、TOEIC 補講は現在実施中のものを最後にしたい。また、英語の入試について修了時に目指すレベルに合った基準に見直すべきである旨の英語科会議の報告があった。

この報告を受けて、TOEIC 補講については、現在実施されているもの以降は行わないという方針が昨年度の委員会で作されていることが、再度確認された。また、TOEIC 対策、入試の基準等については、校長、教務主事、教育プログラム改善委員長、一般教育科長、専攻科長で話し合うことが必要であるとの意見が出された。

## 平成 17 年度第 3 回専攻科委員会議事要旨

日時：平成 17 年 6 月 24 日（金）15：00～17：40

場所：第一会議室

## 3. 審議事項

## (1) 平成 18 年度専攻科入学者選抜の問題点と改善策

## ii) 学力選抜について

試験成績で合否ボーダーラインの受験者についての学科での事前協議については、外部からの受験者との平等化を図る点で行うべきではないとの結論に達した。

以下の英語科からの入試改革案について学科で検討することとした。

- ・ IPTOEIC を英語の試験とする。
- ・ 350 点以上で英語の点数を 100 点、それ以下は 0 点とする。
- ・ IPTOEIC に係る料金は受験料に合わせて納付してもらう。

なお、学外からの受験者が IPTOEIC 受験が可能か否かについて金岡教員が問い合わせ調査する。

(出典：平成 17 年度第 2・3 回専攻科委員会議事要旨)

## (分析結果とその根拠理由)

高い資質・能力を持った学生を受け入れるという方針（アドミッション・ポリシー）に沿った入学選抜が行われているかの検証は、まず、平成14年度に行われ、推薦選抜については、推薦枠の拡大、学力選抜については、数学の傾斜配点の採用などの改善が図られた。さらに、平成18年度には、この変更についての検証を行ったところ、この選抜方法は適切かつ妥当であるとの結果が得られた。

以上のことから、本校では、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ状況を検証し、その結果を入学者選抜の改善に役立てていると判断できる。

専攻科課程では、2年間の課程修了時に修了要件並びに学習・教育目標の達成状況を検討し、その結果から入学者選抜方法の改善を随時行ってきている。

観点 4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

準学士課程については、本校学則において、1学科1学級を編成することとし、その入学定員は各学科40名と定めている(資料4-3-①-1)。平成17年度は、機械工学科41名(名簿上は原級留置となった学生を含むので42名)、電気電子工学科41名、電子制御工学科41名、情報工学科41名(名簿上は原級留置となった学生を含むので42名)、土木工学科42名の学生が入学した(資料4-3-①-2)。

専攻科課程について、本校学則は、機械・電子システム工学専攻8名、電気情報システム工学専攻8名、土木工学専攻4名の入学定員を定めている(資料4-3-①-3)。平成18年度入学の志願者数は、機械・電子システム工学専攻18名、電気情報システム工学専攻16名、土木工学専攻8名であったが、推薦選抜試験及び学力選抜試験を実施し、入学試験委員会における合否判定を経て、実際には、機械・電子システム工学専攻13名、電気情報システム工学専攻10名、土木工学専攻8名の学生が入学した(資料4-3-①-4)。専攻科においては、平成17年度入学者より志願者が急増したが、各専攻とも定員の2倍までは、講義、実習、特別研究への支障がないことを確認して入学者選抜を行っている。

#### 観点 4-3-①資料一覧

(資料4-3-①-1) 準学士課程の定員	出典：学則 平成18年度学生便覧
(資料4-3-①-2) 準学士課程入学者数等の推移	出典：学生課資料
(資料4-3-①-3) 専攻科の定員	出典：学則 平成18年度学生便覧
(資料4-3-①-4) 専攻科入学者数等の推移	出典：学生課資料

資料 4-3-①-1

第8条 学科、学級数及び入学定員は、次のとおりとする。ただし、教育上有益と認めるときは、校長は、異なる学科の学生をもって学級を編成することができる。

学 科	学 級 数	入 学 定 員
機 械 工 学 科	1	40人
電 気 電 子 工 学 科	1	40人
電 子 制 御 工 学 科	1	40人
情 報 工 学 科	1	40人
土 木 工 学 科	1	40人

(出典：学則 平成18年度学生便覧 120頁)

資料 4 - 3 - ① - 2

入学志願者数・受験者数・入学者数等推移調（本科）

入学 年度	学 科	募集人員 (A)	志願者数 (B)		欠席者数 (C)		受験者数 (D)		内定者数 (E)		辞退者数 (F)		入学者数 (G)			倍率 D/A
			学力 受験	推薦 受験	学力 受験	推薦 受験	学力 受験	推薦 受験	学力 受験	推薦 受験	学力 受験	推薦 受験	学力 受験	推薦 受験	計	
16年度	機 械	40	94 ( )	10 ( )			94 ( 0 )	10 ( 0 )	34 ( )	10 ( )			34 ( 0 )	10 ( 0 )	44 ( 0 )	2.6
	電気電子	40	49 ( 5 )	19 ( 1 )	1 ( )		48 ( 5 )	19 ( 1 )	32 ( 3 )	13 ( 1 )	1 ( )		31 ( 3 )	13 ( 1 )	44 ( 4 )	1.7
	電子制御	40	58 ( 8 )	22 ( 1 )			58 ( 8 )	22 ( 1 )	30 ( 7 )	13 ( 1 )	1 ( )		29 ( 7 )	13 ( 1 )	42 ( 8 )	2.0
	情 報	40	48 ( 10 )	27 ( 8 )	2 ( )		46 ( 10 )	27 ( 8 )	28 ( 3 )	16 ( 2 )	1 ( )		27 ( 3 )	16 ( 2 )	43 ( 5 )	1.8
	土 木	40	68 ( 7 )	10 ( )	1 ( )		67 ( 7 )	10 ( 0 )	33 ( 4 )	10 ( )	1 ( 1 )		32 ( 3 )	10 ( 0 )	42 ( 3 )	1.9
	計	200	317 ( 30 )	88 ( 6 )	4 ( 0 )	0 ( 0 )	313 ( 30 )	88 ( 10 )	157 ( 17 )	62 ( 4 )	4 ( 1 )	0 ( 0 )	153 ( 16 )	62 ( 4 )	215 ( 20 )	2.0
17年度	機 械	40	87 ( 2 )	13 ( )	0 ( )	0 ( )	87 ( 2 )	13 ( 0 )	29 ( 1 )	13 ( )	1 ( )	0 ( )	28 ( 1 )	13 ( 0 )	41 ( 1 )	2.5
	電気電子	40	75 ( 3 )	10 ( 1 )	0 ( )	0 ( )	75 ( 3 )	10 ( 1 )	33 ( 4 )	10 ( 1 )	2 ( 0 )	0 ( )	31 ( 4 )	10 ( 1 )	41 ( 5 )	2.1
	電子制御	40	72 ( 5 )	21 ( 2 )	0 ( )	0 ( )	72 ( 5 )	21 ( 2 )	29 ( 1 )	13 ( 1 )	1 ( )	0 ( )	28 ( 1 )	13 ( 1 )	41 ( 2 )	2.3
	情 報	40	68 ( 14 )	14 ( 3 )	0 ( )	0 ( )	68 ( 14 )	14 ( 3 )	32 ( 6 )	11 ( 3 )	2 ( )	0 ( )	30 ( 6 )	11 ( 3 )	41 ( 9 )	2.1
	土 木	40	34 ( 6 )	3 ( 0 )	0 ( )	0 ( )	34 ( 6 )	3 ( 0 )	41 ( 5 )	3 ( )	2 ( )	0 ( )	39 ( 5 )	3 ( 0 )	42 ( 5 )	0.9
	計	200	336 ( 30 )	61 ( 6 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	336 ( 30 )	61 ( 6 )	164 ( 17 )	50 ( 5 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	156 ( 17 )	50 ( 5 )	206 ( 22 )	2.0
18年度	機 械	40	59 ( 2 )	18 ( )	2 ( 1 )	0 ( )	57 ( 1 )	18 ( 0 )	29 ( )	13 ( )	0 ( )	0 ( )	29 ( 0 )	13 ( 0 )	42 ( 0 )	1.9
	電気電子	40	65 ( 3 )	6 ( )	1 ( 0 )	0 ( )	64 ( 3 )	6 ( 0 )	36 ( 3 )	6 ( )	0 ( )	0 ( )	36 ( 3 )	6 ( 0 )	42 ( 3 )	1.8
	電子制御	40	68 ( 2 )	14 ( 2 )	1 ( 0 )	0 ( )	67 ( 2 )	14 ( 2 )	32 ( 1 )	12 ( 1 )	0 ( )	0 ( )	32 ( 1 )	12 ( 1 )	44 ( 2 )	2.0
	情 報	40	63 ( 9 )	14 ( 6 )	4 ( )	0 ( )	59 ( 9 )	14 ( 6 )	30 ( 2 )	12 ( 6 )	0 ( )	0 ( )	30 ( 2 )	12 ( 6 )	42 ( 8 )	1.8
	土 木	40	87 ( 8 )	8 ( )	1 ( )	0 ( )	86 ( 8 )	8 ( 0 )	34 ( 1 )	8 ( )	0 ( )	0 ( )	34 ( 1 )	8 ( 0 )	42 ( 1 )	2.4
	計	200	342 ( 24 )	60 ( 8 )	9 ( 1 )	0 ( 0 )	333 ( 23 )	60 ( 8 )	161 ( 7 )	51 ( 7 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	161 ( 7 )	51 ( 7 )	212 ( 14 )	2.0

( ) 内は、女子で内数

(出典：学生課資料)

資料 4 - 3 - ① - 3

(専攻及び入学定員)

第47条 専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専 攻	入 学 定 員
機 械 ・ 電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻	8 名
電 気 情 報 シ ス テ ム 工 学 専 攻	8 名
土 木 工 学 専 攻	4 名

(出典：学則 平成 18 年度学生便覧 1 2 8 頁)



資料 4 - 3 - ① - 4

## 入学志願者数・受験者数・入学者数等推移調（専攻科）

入学 年度	学 科	募集人員 (A)	志願者数 (B)		欠席者数 (C)		受験者数 (D)		内定者数 (E)		辞退者数 (F)		入学者数 (G)			倍率 D/A
			学力 受験	推薦 受験	学力 受験	推薦 受験	学力 受験	推薦 受験	学力 受験	推薦 受験	学力 受験	推薦 受験	学力 受験	推薦 受験	計	
16年度	機械・電子 システム工学	8	7 ( )	8 ( )			7 ( 0 )	8 ( 0 )	5 ( )	8 ( )			5 ( 0 )	8 ( 0 )	13 ( 0 )	1.9
	電気情報 システム工学	8	4 ( 1 )	2 ( )			4 ( 1 )	2 ( 0 )	2 ( 1 )	2 ( )			2 ( 1 )	2 ( 0 )	4 ( 1 )	0.8
	土工学 専攻	4	5 ( )	3 ( )			5 ( 0 )	3 ( 0 )	3 ( )	3 ( )			3 ( 0 )	3 ( 0 )	6 ( 0 )	2.0
	計	20	16 ( 1 )	13 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	16 ( 1 )	13 ( 0 )	10 ( 1 )	13 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	10 ( 1 )	13 ( 0 )	23 ( 1 )	1.5
17年度	機械・電子 システム工学	8	5 ( )	8 ( )	0 ( )	0 ( )	5 ( 0 )	8 ( 0 )	4 ( )	8 ( )	0 ( )	0 ( )	4 ( 0 )	8 ( 0 )	12 ( 0 )	1.6
	電気情報 システム工学	8	8 ( )	8 ( )	0 ( )	0 ( )	8 ( 0 )	8 ( 0 )	8 ( )	8 ( )	0 ( )	0 ( )	8 ( 0 )	8 ( 0 )	16 ( 0 )	2.0
	土工学 専攻	4	6 ( )	4 ( )	0 ( )	0 ( )	6 ( 0 )	4 ( 0 )	5 ( )	4 ( )	0 ( )	0 ( )	5 ( 0 )	4 ( 0 )	9 ( 0 )	2.5
	計	20	19 ( 0 )	20 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	19 ( 0 )	20 ( 0 )	17 ( 0 )	20 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	17 ( 0 )	20 ( 0 )	37 ( 0 )	2.0
18年度	機械・電子 システム工学	8	7 ( )	11 ( )	0 ( )	0 ( )	7 ( 0 )	11 ( 0 )	6 ( )	7 ( )	0 ( )	0 ( )	6 ( 0 )	7 ( 0 )	13 ( 0 )	2.3
	電気情報 システム工学	8	9 ( )	7 ( 3 )	0 ( )	0 ( )	9 ( 0 )	7 ( 3 )	4 ( )	7 ( 3 )	0 ( )	0 ( )	3 ( 0 )	7 ( 3 )	10 ( 3 )	2.0
	土工学 専攻	4	4 ( )	4 ( )	0 ( )	0 ( )	4 ( 0 )	4 ( 0 )	4 ( )	4 ( )	0 ( )	0 ( )	4 ( 0 )	4 ( 0 )	8 ( 0 )	2.0
	計	20	20 ( 0 )	22 ( 3 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	20 ( 0 )	22 ( 3 )	14 ( 0 )	18 ( 3 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	13 ( 0 )	18 ( 3 )	31 ( 3 )	2.1

( ) 内は、女子で内数

(出典：学生課資料)

## (分析結果とその根拠理由)

準学士課程については、いずれの学科においても実入学者数は入学定員より1～2名程度増にとどまっており、著しく入学定員を上回り、または下回っている状況にはない。

専攻科課程については、平成17、18年度においては志願者の増加により、いずれの専攻においても実入学者数が入学定員の1.25倍から2倍程度となっている。この程度の入学者数であれば、専攻科課程における教育・研究指導に支障を来すことはなく、「教育にふさわしい環境の確保のために在学生数の適正な管理を行わなければならない（設置基準4条の2第3項）」と定める高等専門学校設置基準の趣旨に反することにはならない。以上のことから、専攻科の実入学者数は、専攻科教育に支障を来すほどの入学定員を上回った数とはいえない。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

## (優れた点)

- ・ 定期的に、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜方法が行われているかどうかの検証を行い、改善に役立っている点

## (改善を要する点)

特になし

### (3) 基準4の自己評価の概要

準学士課程入学者選抜と編入学生選抜に関するアドミッション・ポリシーは、本校の教育の目的である学習・教育目標に沿って明確に定められている。これらのアドミッション・ポリシーは、本校ウェブページや入学者募集要項に掲載され、将来の学生を含め社会に対して広く公表されている。また、教職員に対しては、入学試験説明会において説明を行い、周知を図っている。また、その周知状況は教員へのアンケート結果から、多少の問題があるものの、おおむね周知されているものと判断される。準学士課程の入学者選抜及び4年次への編入学選抜は、アドミッション・ポリシーに沿って、適切に実施されている。

平成14年度には、入学者選抜の検証を行い、推薦選抜については推薦枠の拡大と工学適性検査の導入、学力選抜については数学の傾斜配点の採用などの改善が図られた。さらに、平成18年度には、この変更についての検証を行い、この選抜方法は適切かつ妥当であるとの結果が得られている。このことから、本校では、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ状況を検証し、その結果を入学者選抜の改善に役立てている。準学士課程の実入学者数は、いずれの学科においても入学定員より1～2名程度多い状況であり、適正な実入学者数となっている。

専攻科課程については、アドミッション・ポリシーが平成17年度に明文化され、平成19年度専攻科入学者募集要項並びに本校ウェブページに記載され、広く社会に公開されている。また、教職員へは委員会報告により、入学予定者には募集要項により周知が行われている。入学者選抜の実施に当たっては「鹿児島工業高等専門学校専攻科入学者選抜要項」が定められ、アドミッション・ポリシーに沿って適性に行われている。アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかについては、課程修了時に学習・教育目標の達成度により検証しており、その結果により入学者選抜方法の改善が行われている。入学者の定員に対する実入学者数は、この2年間志願者の急増により、専攻によっては2倍程度となっているが、この程度であれば教育・研究に支障がないことを確認して入学者選抜を行っている。

## 基準5 教育内容及び方法

### (1) 観点ごとの分析

#### <準学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程の体系的性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点到に係る状況）

準学士課程の教育課程は、各学科の教育課程表に示されるように（資料5-1-①-1～12）、各学科に共通する一般科目と学科毎の専門科目で構成されている。なお、平成18年度より教育課程が改定されている。低学年においては一般科目を多く、高学年においては専門科目を多く配置し、専門科目を効率よく修得できるような科目配置となっている。また、各学科の授業科目は、必修科目、基礎的な科目であるA群科目、応用的な科目であるB群科目の3つに分類され（資料5-1-①-13）、これらがバランスよく配置されている。

各学科の教育課程系統図（資料5-1-①-14～27）に示されるように、それぞれの科目は、低学年において基礎的な分野を修得した上で、高学年になるにつれてより高度かつ応用的な分野が理解できるように体系的に配置され、さらに、科目間の連携も考慮してカリキュラムが編成されている。また、資料5-1-①-28～37に示すとおり、各学習・教育目標（サブ目標）に科目が対応付けられており、それらの科目を修得することにより学習・教育目標が達成できるようにカリキュラムが編成されている。

なお、教授内容及びその水準については、各科目の担当教員が高等学校及び大学で用いられている教科書や資格試験の参考書等を参考にして作成した「基礎・基本」に基づいており（資料5-1-①-38）、学習・教育目標を達成するのに十分なものとなっている。

#### 観点5-1-①資料一覧

(資料5-1-①-1～12) 各学科教育課程表	出典：平成18年度学生便覧
(資料5-1-①-13) 必修科目、A群科目、B群科目の説明	出典：平成18年度シラバス
(資料5-1-①-14～27) 各学科の教育課程系統図	出典：平成18年度シラバス
(資料5-1-①-28～37) 本科（準学士課程）学習教育目標と対応科目	出典：学生課資料
(資料5-1-①-38) 基礎基本の例	出典：本科基礎基本

## II 教育課程表

## 1-1 平成18年度 教育課程 (1年生適用) 一般科目

\* : 講義 I  
\*\* : 講義 II

授業科目	合計単位数	学年別配当単位数					備考	
		1年	2年	3年	4年	5年		
A群	人文科学	国語 I	2	2				
		国語 II	2		2			
		国語 III	2			2		
		日本語表現	2				2**	
		倫理	2		2			
	社会科学	政治・経済	2			2		
		歴史	3	2	1			
		地理	2	2				
	自然科学	技術倫理総論	2					2**
		数学基礎 I	2	2				
		数学基礎 II	2	2				
		数学基礎 III	1	1				
		数学基礎 IV	1	1				
		線形代数 I	1		1			
		線形代数 II	1		1			
		微積分学 I	2		2			
		微積分学 II	2		2			
		微積分学 III	2			2		
		微積分学 IV	2			2		
		統計学 I	1			1		
		物理 I	1	1				
		物理 II	1	1				
		物理 III	2		2			
		物理 IV	1		1			
		化学 I	1	1				
		化学 II	1	1				
		化学 III	1		1			
		化学 IV	1		1			
	生物	1	1					
	保健体育	8	2	2	2	1	1	4年前期SI・後期MEC
	芸術	美術	2	2				
		音楽	2	2				2科目中1科目選択
	外国語	英語 I	2	2				
		英語 II	2		2			
		英語 III	2			2		
		英語 IV	2				2*	
		英文法 I	1	1				
		英文法 II	2		2			
		英文法 III	2			2		
		英語演習 I	2	2				
		英語演習 II	1		1			
		英語演習 III	1			1		
		ドイツ語 I	2				2*	
		韓国語 I	2				2*	
		中国語 I	2				2*	
英語 A		2					2*	
ドイツ語 II		2					2*	
韓国語 II		2					2*	
中国語 II		2					2*	
英語 B	1					1*		
小計	90	28	23	16	11	12		
B群	人文/社会/自然/体育/外国語等	哲学	2				2**	
		倫理学	2				2**	
		現代史	2				2**	
		文学概論	2				2**	
		法学	2					2**
	経済学	2					2**	
	政治学	2					2**	
	線形代数	1				1*		
	微分方程式	1				1*		
	統計学 II	1				1*		
	数学演習	1				1*		
	宇宙科学概論	1				1*		
	物理学演習	1				1*		
	体育	1					1	
	比較文化概論 A	1					1*	
	比較文化概論 B	1					1*	
	小計	23	0	0	0	14	9	
開講単位数	113	28	23	16	25	21		
履修可能単位数	86	26	23	16	11	10		

(出典：平成18年度学生便覧 27頁)

## 2-1 平成18年度 教育課程(2年~5年生適用) 一般科目

\* : 講義 I  
\*\* : 講義 II

授業科目	合計単位数	学年別配当単位数					備考	
		1年	2年	3年	4年	5年		
A群	国語 I	2	2					
	国語 II	2		2				
	国語	2			2			
	国文学	2				2*		
	倫理	2		2				
	社会科学	政治・経済	2			2		
	歴史	3	2	1				
	地理	2	2					
	自然科学	数学基礎 I	2	2				
		数学基礎 II	2	2				
		数学基礎 III	2	2				
		線形代数 I	2		2			
		微積分学 I	2		2			
		微積分学 II	2		2			
		微積分学 III	2			2		
		微積分学 IV	2			2		
		統計学 I	1			1		
		物理	5	2	3			
	化学	4	2	2				
	生物	1	1					
保健体育	8	2	2	2	1	1	4年前期SI・後期MEC	
芸術	美術	2	2				2科目中1科目選択	
	音楽	2	2					
外国語	英語 I	3	3					
	英語 II	3		3				
	英文法	2		2				
	英語演習	2	2					
	英会話	2		1	1			
	英語	5			3	2*		
	ドイツ語 I	2				2*		
	英語A	2					2*	
ドイツ語 II A	2					2*		
小計	79	28	24	15	7	5		
B群	自然のしくみ	1	1				2科目中1科目選択	
	論理のしくみ	1	1					
	人文/社会/自然/体育/外国語等	哲学	2			2**		3科目中1科目選択
		倫理学	2			2**		
		現代史	2			2**		
		法学	2				2**	3科目中1科目選択
		経済学	2				2**	
		政治学	2				2**	
		線形代数 II	1			1*		6科目中2科目選択
		微分方程式	1			1*		
		統計学 II	1			1*		
		数学演習	1			1*		
	宇宙科学概論	1			1*			
	物理学演習	1			1*			
	ボランティア活動	1		1				
	体育	1				1		
	英語B	1				1*		
ドイツ語 II B	1				1*			
小計	24	2	0	0	12	9		
開講単位数	103	30	24	16	19	14		
履修可能単位数	86	27	24	16	11	8		

(出典：平成18年度学生便覧 33頁)



## 1-2 平成18年度 教育課程 (1年生適用) 機械工学科

\* : 講義 I  
\*\* : 講義 II

	単位数	学年別配当単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	工作実習 I	3	3				
	工作実習 II	3		3			
	工作実習 III	3			3		
	工学実験 I	3				3	
	工学実験 II	1					1
	卒業研究	10					10
	小 計	23	3	3	3	3	11
A 群	応用数学 I	1				1*	37単位以上修得のこと
	応用数学 II	1				1*	
	物理学基礎 I	1			1		
	物理学基礎 II	1			1		
	物理学基礎 III	1				1*	
	物理学実験	1				1*	
	設計製図 I	3		3			
	設計製図 II	3			3		
	応用設計	2				2*	
	機械設計法 I	1			1		
	機械設計法 II	2				2**	
	機構学	2			2		
	材料力学 I	2			2		
	材料力学 II	2				2*	
	機械工作法 I	1	1				
	機械工作法 II	1		1			
	機械工作法 III	2			2		
	熱力学	2				2*	
	流体工学	2				2*	
	材料学 I	2			2		
	材料学 II	1				1**	
	情報処理 I	2		2			
	情報処理 II	1			1		
	制御工学 I	1				1*	
	制御工学 II	1				1*	
	制御工学 III	1				1*	
	メカトロニクス I	1				1*	
メカトロニクス II	1				1*		
機械システム基礎	1	1					
外書輪講	1					1	
小 計	44	2	6	15	17	4	
B 群	応用数学 III	1				1**	2科目中1科目選択
	数値解析 II	1				1**	
	数値解析 I	1				1**	
	図学	1	1				
	工業力学 I	1		1			
	工業力学 II	1			1		
	機械力学	2				2*	
	伝熱工学	2				2**	
	流体力学	2				2**	
	エネルギー機械	2				2*	
	情報基礎	1	1				
	電気基礎	1		1			
	電子回路	1			1		
	電気回路 I	1			1		
	電気回路 II	2				2**	
	システム工学	2				2*	
	創作活動	1	1				
	工学演習	3				3	
	工業英語	1			1		
	工場実習	1				1	
小 計	28	3	2	4	7	12	
開講単位数	専門科目	95	8	11	22	27	卒業単位数 専門 82 以上 一般 75 以上 合計 167 以上
	一般科目	113	28	23	16	25	
	合計	208	36	34	38	52	
履修可能単位数	専門科目	94	8	11	22	27	
	一般科目	86	26	23	16	11	
	合計	180	34	34	38	38	

(出典：平成18年度学生便覧 28頁)

## 2-2 平成18年度 教育課程(2年~5年生適用) 機械工学科

\* : 講義 I  
\*\* : 講義 II

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	工作実習	9	3	3	3			
	工学実験	4				3	1	
	卒業研究	10					10	
	小計	23	3	3	3	3	11	
A群	応用数学 I	2				2*		
	応用物理	4			2	2*		
	情報処理	4		2	2			
	材料力学	4			2	2*		
	材料学	3			2	1**		
	熱力学	2				2*		
	流体工学	2				2*		
	機械工作法	4	1	1	2			
	機構学	2				2*		
	図学	2	2					
	機械設計法	3			1	2*		
	機械設計製図	9		3	3	3		
	電気工学概論	2				2**		
	小計	43	3	6	14	20	0	
B群	数値解析 I	1				1**		
	応用数学 II	1					1**	2科目中1科目選択
	数値解析 II	1					1**	
	機械工学基礎	1	1					
	工業力学	1			1			
	機械力学	2					2*	
	伝熱工学	1					1**	
	熱機関	2					2**	
	流体力学	1					1**	
	流体機械	1					1**	
	塑性加工	1					1**	
	生産工学	1					1**	
	制御工学	2					2*	
	電磁気学	2			2			
	計測工学	1					1**	
	エネルギー変換工学	2					2**	
	システム工学	2					2**	
	生産システム	1					1**	
	環境工学	1					1**	
	外書輪講	1					1	
	工学演習	2				2		
創作活動	1			1				
工場実習	1				1		夏季休業中実施	
小計	30	1	0	4	4	21		
開講単位数	専門科目	96	7	9	21	27	32	卒業単位数 専門 82 以上 一般 75 以上 合計 167 以上
	一般科目	103	30	24	16	19	14	
	合計	199	37	33	37	46	46	
履修可能単位数	専門科目	95	7	9	21	27	31	
	一般科目	86	27	24	16	11	8	
	合計	181	34	33	37	38	39	

(出典：平成18年度学生便覧 34頁)

1-3 平成18年度 教育課程 (1年生適用) 電気電子工学科

\* : 講義 I  
\*\* : 講義 II

区分	授 業 科 目	単位数	学年別配当単位数					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	電気電子工学実験 I	2		2				
	電気電子工学実験 II	2			2			
	電気電子工学実験 III	2			2			
	電気電子工学実験 IV	2				2		
	電気電子工学実験 V	2				2		
	電気電子工学実験 VI	2					2	
	卒業研究	8						8
	小 計	20	0	2	4	4	10	
A 群	応用数学 I	2				2**		
	物理学基礎 I	1			1			
	物理学基礎 II	1			1			
	物理学基礎 III	1				1*		
	物理学実験	1				1		
	電気基礎 I	1	1					
	電気基礎 II	1	1					
	電気基礎 III	1	1					
	電気数学	1		1				
	電気磁気学 I	1			1			
	電気磁気学 II	2			2			
	電気磁気学 III	1				1*		
	電気回路 I	1		1				
	電気回路 II	1		1				
	電気回路 III	2			2			
	電気回路 IV	1			1			
	電気回路 V	1				1*		
	電気計測 I	1		1				
	電気計測 II	1		1				
	電気計測 III	1			1			
	電子基礎 I	1		1				
	電子基礎 II	1		1				
	電子工学 I	1			1			
	半導体工学 I	1				1*		
	半導体工学 II	1				1*		
	電子回路 I	1			1			
	電子回路 II	1				1*		
	論理回路	1			1			
	情報基礎 I	1	1					
	情報基礎 II	1	1					
	情報処理解 I	1		1				
	情報処理解 II	1		1				
	情報処理解 III	1			1			
	情報処理解 IV	1			1			
電気機器 I	1			1				
電気機器 II	1			1				
電気機器 III	1				1*			
電気製図 I	1	1						
電気製図 II	1	1						
	小 計	42	7	9	16	10	0	
B 群	応用数学 II	1				1**		
	電気学 IV	1				1*		
	電気回路 VI	1				1*		
	物性概論	1					1**	
	電子回路 III	1					1**	
	デジタル回路	2				2**		
	電子回路設計	1					1	
	電子計算機	2				2**		
	情報処理解 V	1					1	
	電気通信 I	2				2**		
	電気通信 II	2					2**	法規を含む
	制御工学 I	1					1*	
	制御工学 II	1					1*	
	電気電子材料 I	1					1*	
	電気電子材料 II	1					1*	
	パワーエレクトロニクス	1					1*	
	発変電工学 I	1				1*		
	発変電工学 II	1				1*		
	送配電工学 I	1					1*	
	送配電工学 II	1					1*	
	電機設計	1					1**	
	高電圧工学	1					1**	
	電気法規・施設管理	1					1*	法規を含む
エネルギー変換工学	1				1**			
創造実習 I	1				1			
創造実習 II	1				1			
ソフトウェア応用	1				1			
	小 計	31	0	0	0	15	16	
開講単位数	専門科目	93	7	11	20	29	26	卒業単位数 専門 82 以上 一般 75 以上 合計 167 以上
	一般科目	113	28	23	16	25	21	
履修可能単位数	合計	206	35	34	36	54	47	
	専門科目	93	7	11	20	29	26	
	一般科目	86	26	23	16	11	10	
	合計	179	33	34	36	40	36	

22 単位以上修得すること



## 2-3 平成18年度 教育課程（2年～5年生適用） 電気電子工学科

\* : 講義 I  
\*\* : 講義 II

区分	授 業 科 目	単位数	学年別配当単位数					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修 科目	卒 業 研 究	8					8	
	小 計	8	0	0	0	0	8	
A 群	応 用 数 学 I	2				2**		
	ベ ク ト ル 解 析	1				1**		
	応 用 物 理	4			2	2*		
	電 気 基 礎	3	3					
	電 磁 気 学 I	4			3	1*		
	電 気 回 路 I	6		2	3	1*		
	電 気 計 測	3		2	1			
	電 子 基 礎	2		2				
	電 子 工 学	1			1			
	半 導 体 工 学	2				2*		
	電 子 回 路 I	2			1	1*		
	論 理 回 路	1			1			
	情 報 基 礎	2	2					
	情 報 処 理	4		2	2			
	電 気 機 器	3			2	1*		
	電 気 製 図	2	2					
電 気 工 学 実 験	10		1	3	4	2		
小 計	52	7	9	19	15	2		
B 群	応 用 数 学 II	1					1**	2科目中1科目選択
	数 値 解 析	1					1**	
	電 磁 気 学 II	1				1*		
	電 気 回 路 II	1				1*		
	電 子 物 性	1					1**	
	電 子 応 用	1					1**	
	電 子 回 路 II	1					1**	
	デ ジ タ ル 回 路	2				2**		
	電 子 回 路 設 計	1					1	
	電 子 計 算 機 I	2				2**		
	電 子 計 算 機 II	1					1**	
	情 報 処 理 特 論	1					1	
	電 気 通 信	2				2**		
	電 気 通 信 特 論	2					2**	法規を含む
	制 御 工 学	2					2*	
	電 気 電 子 材 料	2					2*	
	パ ワ ー エ レ ク ト ロ ニ ク ス	1					1*	
	発 変 電 工 学	2				2*		
	電 力 輸 送 工 学	2					2*	
	電 機 設 計	1					1**	
高 電 圧 工 学	1					1**		
電 気 施 設 管 理	1					1*	法規を含む	
エ ネ ル ギ ー 変 換 工 学	1					1**		
創 造 実 習	2				2			
小 計	33	0	0	0	12	21	22単位以上修得すること	
開 講 単 位 数	専 門 科 目	93	7	9	19	27	31	卒 業 単 位 数 専 門 82 以 上 一 般 75 以 上 合 計 167 以 上
	一 般 科 目	103	30	24	16	19	14	
	合 計	196	37	33	35	46	45	
履 修 可 能 単 位 数	専 門 科 目	92	7	9	19	27	30	
	一 般 科 目	86	27	24	16	11	8	
	合 計	178	34	33	35	38	38	

(出典：平成18年度学生便覧 35頁)

1-4 平成18年度 教育課程（1年生適用） 電子制御工学科

\* :講義Ⅰ  
\*\* :講義Ⅱ

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	卒業研究	10					10	
	小計	10	0	0	0	0	10	
A 群	応用数学Ⅰ	1				1*		
	応用数学Ⅱ	1				1*		
	物理学基礎Ⅰ	1			1			
	物理学基礎Ⅱ	1			1			
	物理学基礎Ⅲ	1				1*		
	物理学実験	1				1*		
	情報処理Ⅰ	2		2				
	情報処理Ⅱ	2			2			
	工業力学Ⅰ	1		1				
	材料力学Ⅰ	2			2			
	材料学	2				2*		
	エネルギー工学	2				2*		
	機械工作法Ⅰ	1	1					
	機械工作法Ⅱ	1		1				
	機械工作法Ⅲ	1			1			
	機械設計法	2				2**		
	機構学	2			2			
	計測工学	1				1*		
	電子制御基礎	1	1					
	電気回路Ⅰ	1	1					
	電気回路Ⅱ	2		2				
	電気回路Ⅲ	1			1			
	電磁気学Ⅰ	2			2			
	電磁気学Ⅱ	1				1*		
	電子回路	2			2			
	制御工学Ⅰ	2				2*		
	数値制御	1				1**		
	ディジタル回路	2				2*		
	設計製図Ⅰ	2	2					
	設計製図Ⅱ	2		2				
	情報技術演習	2				2**		
	創造設計Ⅰ	2			2			
	創造設計Ⅱ	2				2*		
工作実習Ⅰ	3	3						
工作実習Ⅱ	3		3					
工学実験Ⅰ	3			3				
工学実験Ⅱ	3				3			
工学実験Ⅲ	1					1		
小計	63	8	11	19	24	1		
B 群	数値解析Ⅰ	1				1**		
	応用数学Ⅲ	1					1**	2科目中1科目選択
	数値解析Ⅱ	1					1**	
	材料力学Ⅱ	1				1**		9単位以上修得すること
	制御機器	2					2**	
	制御工学Ⅱ	1					1**	
	生産システム	1					1**	
	ロボット工学	1					1*	
	環境工学	1					1**	
	真空工学	1					1*	
	品質管理	1					1**	
	ネットワーク概論	1					1*	
	電子計算機	2					2*	
	システム工学	2					2*	
工場実習	1				1	夏季休業中実施		
特別	1				1*			
小計	19	0	0	0	4	15		
開講単位数	専門科目	92	8	11	19	28	26	卒業単位数 専門 82以上 一般 75以上 合計 167以上
	一般科目	113	28	23	16	25	21	
	合計	205	36	34	35	53	47	
履修可能単位数	専門科目	91	8	11	19	28	25	
	一般科目	86	26	23	16	11	10	
	合計	177	34	34	35	39	35	

(出典：平成18年度学生便覧 30頁)

## 2-4 平成18年度 教育課程（2年～5年生適用） 電子制御工学科

\* : 講義Ⅰ  
\*\* : 講義Ⅱ

区分	授 業 科 目	単位数	学年別配当単位数					備 考	
			1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	卒 業 研 究	10					10		
	小 計	10	0	0	0	0	10		
A 群	応 用 数 学 I	2				2*			
	応 用 物 理	4			2	2*			
	情 報 処 理	4		2	2				
	材 料 力 学 I	2			2				
	材 料 学	2				2*			
	エ ネ ル ギ ー 工 学	2				2*			
	機 械 工 作 法	3	1		2				
	機 械 設 計 法	2				2**			
	機 構 学	2			2				
	計 測 工 学	1					1*		
	電 子 制 御 基 礎	1	1						
	電 気 回 路	2		2					
	電 磁 気 学	3			3				
	電 子 工 学	2			2				
	電 子 回 路	2				2*			
	デ ジ タ ル 回 路	2				2**			
	制 御 工 学	3				1*	2*		
	数 値 制 御	1				1**			
	電 子 計 算 機	4				2*	2*		
	シ ス テ ム 工 学	2					2*		
	設 計 製 図	4	2	2					
	創 造 設 計	4			2	2*			
	工 作 実 習	6	3	3					
工 学 実 験	7			3	3	1			
小 計	67	7	9	20	23	8			
B 群	数 値 解 析 I	1				1**			
	応 用 数 学 II	1					1**	2科目中1科目選択	
	数 値 解 析 II	1					1**		
	材 料 力 学 II	2				2**		5単位以上修得すること	
	制 御 機 器	2					2**		
	制 御 用 イン タ ー フ ェ ース	1					1**		
	生 産 シ ス テ ム	1					1**		
	創 造 工 学	1					1**		
	環 境 工 学	1					1**		
	真 空 工 学	1					1*		
	品 質 管 理	1					1**		
	工 場 実 習	1				1			夏季休業中実施
	特 別 講 座 I	1				1*			
	特 別 講 座 II	1					1*		
小 計	16	0	0	0	5	11			
開講単位数	専 門 科 目	93	7	9	20	28	29		卒 業 単 位 数 専 門 82 以 上 一 般 75 以 上 合 計 167 以 上
	一 般 科 目	103	30	24	16	19	14		
	合 計	196	37	33	36	47	43		
履修可能単位数	専 門 科 目	92	7	9	20	28	28		
	一 般 科 目	86	27	24	16	11	8		
	合 計	178	34	33	36	39	36		

(出典：平成18年度学生便覧 36頁)



## 1-5 平成18年度 教育課程(1年生適用) 情報工学科

\* :講義 I  
\*\* :講義 II

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	卒業研究	10					10	
	小計	10					10	
A群	応用数学	1				1**		
	ベクトル解析	1				1*		
	物理学基礎Ⅰ	1			1			
	物理学基礎Ⅱ	1			1			
	物理学基礎Ⅲ	1				1*		
	物理学実験	1				1		
	音声情報処理	2				2**		
	数値解析Ⅰ	1				1*		
	情報基礎	2	2					
	創造教室	1	1					
	電気磁気学	3		1	2			
	電気回路	3		1	2			
	計測工学	1			1			
	電子回路	2			2			
	情報処理Ⅰ	2	2					
	情報処理Ⅱ	2		2				
	情報処理Ⅲ	2			2			
	情報理論	2				2*		
	データ構造とアルゴリズム	2				2**		
	言語処理系	2			2			
	オペレーティングシステム	2				2*		
	システム工学	2				2**		
	通信工学	2				2*		
	デジタルフィルタ	2					2**	
	情報素子工学	2					2**	
	システム設計学	2					2**	
	論理回路	2		2				
	電子計算機Ⅰ	2			2			
	電子計算機Ⅱ	2				2*		
計算機アーキテクチャ	2				2**			
集積回路工学	1					1*		
コンピュータリテラシ	1	1						
工学実験	13		3	4	4	2		
小計	68	6	9	19	25	9		
B群	数値解析Ⅱ	1					1**	
	電気通信特論	2					2**	
	情報工学特論Ⅰ	1					1*	
	システム工学特論Ⅰ	1					1*	
	情報工学特論Ⅱ	1					1*	
	システム工学特論Ⅱ	1					1*	
	品質信頼性工学	1					1*	
	情報技術応用Ⅰ	1				1*		
	情報技術応用Ⅱ	1				1*		
	応用実験	1				1		2科目中1科目選択
	工場実習	1				1		夏季休業中実施
	小計	12				4	8	
開講単位数	専門科目	90	6	9	19	29	27	卒業単位数 専門 82 以上 一般 75 以上 合計 167 以上
	一般科目	113	28	23	16	25	21	
	合計	203	34	32	35	54	48	
履修可能単位数	専門科目	89	6	9	19	28	27	
	一般科目	86	26	23	16	11	10	
	合計	175	32	32	35	39	37	

(出典：平成18年度学生便覧 31頁)

## 2-5 平成18年度 教育課程(2年~5年生適用) 情報工学科

\* : 講義Ⅰ  
\*\* : 講義Ⅱ

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	卒業研究	10					10	
	小計	10					10	
A群	応用数学Ⅰ	2				2*		
	ベクトル解析	1				1*		
	応用物理	4			2	2*		
	多変量解析	2				2**		
	数値解析Ⅰ	1				1*		
	図学	1	1					
	情報基礎	2	2					
	創造教室	1	1					
	電気磁気学	3		1	2			
	電気回路	4		1	2	1*		
	計測工学	1			1			
	電子回路	3			2	1*		
	情報処理Ⅰ	2	2					
	情報処理Ⅱ	2		2				
	情報処理Ⅲ	2			2			
	情報理論	2				2*		
	機械工学概論	2			2			
	システムプログラムⅠ	2			2			
	システムプログラムⅡ	2				2*		
	システム工学	2				2**		
	通信工学	2				2*		
	制御工学	2					2**	
	情報素子工学	2					2**	
	システム設計学	2					2**	
	論理回路	2		2				
	電子計算機Ⅰ	2			2			
	電子計算機Ⅱ	2				2*		
	集積回路工学	1					1*	
	技術実習	1	1					
	工学実験	13		3	4	4	2	
小計	70	7	9	21	24	9		
B群	応用数学Ⅱ	1					1**	2科目中1科目選択
	数値解析Ⅱ	1					1**	
	電気通信特論	2					2**	
	計算機アーキテクチャ	2					2**	
	データ構造論	2					2**	
	情報工学特論Ⅰ	1					1*	
	システム工学特論Ⅰ	1					1*	
	情報工学特論Ⅱ	1					1*	
	システム工学特論Ⅱ	1					1*	
	品質信頼性工学	1					1*	
	工学演習	1				1*		
	応用実験	1				1		
	工場実習	1				1	夏季休業中実施	
	小計	16				3	13	
開講単位数	専門科目	96	7	9	21	27	32	卒業単位数 専門 82 以上 一般 75 以上 合計 167 以上
	一般科目	103	30	24	16	19	14	
	合計	199	37	33	37	46	46	
履修可能単位数	専門科目	95	7	9	21	27	31	
	一般科目	86	27	24	16	11	8	
	合計	181	34	33	37	38	39	

(出典：平成18年度学生便覧 37頁)

## 1-6 平成18年度 教育課程（1年生適用） 土木工学科

	科目名	単位数	学年別配当単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	測量学実習Ⅰ	2	2					
	測量学実習Ⅱ	2		2				
	基礎製図	2	1	1				
	土質工学実験	1.5			1.5			
	材料学実験	1.5			1.5			
	構造工学実験	1				1		
	水理学実験	1				1		
	環境工学実験	1				1		
	鉄筋コンクリート工学実験	1				1		
	構造物設計	2				2		
	工学セミナー	1				1		
	橋梁設計	2					2	
	工学演習	2				2		
	景観設計	2						2
卒業研究 <sup>#</sup>	9						9	
小計	31	3	3	3	9	13		
A群	土木工学概論	1	1					
	情報処理Ⅰ	2	2					
	測量学Ⅰ	2	2					
	地学	1		1				
	測量学Ⅱ	2		2				
	応用力学	2		2				
	応用力学演習	1		1				
	材料学	1		1				
	物理学基礎Ⅰ	1			1			
	物理学基礎Ⅱ	1			1			
	物理学基礎Ⅲ	1				1		
	物理学実験	1				1		
	情報処理Ⅱ	2			2			
	構造力学Ⅰ	2			2			
	構造力学演習	2			2			
	水理学Ⅰ	2			2			
	水理学演習	2			2			
	土質力学	2			2			
	土質力学演習	1			1			
鉄筋コンクリート工学Ⅰ	2			2				
環境工学Ⅰ	2*				2*			
都市計画	2*				2*			
施工学	2*				2*			
小計	37	5	7	17	8	0		
B群	応用数学	1*				1*		
	数値解析	1*				1*		
	構造力学Ⅱ	2**				2**		
	鋼構造工学	2*				2*		
	水理学Ⅱ	2**				2**		
	地盤工学	1*				1*		
	鉄筋コンクリート工学Ⅱ	1*				1*		
	多変量解析	1**					1**	
	応用測量学	1**					1**	
	耐震工学	1*					1*	
	河川工学	1**					1**	
	港湾工学	1*					1*	
	環境工学Ⅱ	1**					1**	
	交通計画学	2**					2**	
	応用材料学	1**					1**	
	道路工学	1*					1*	
	建築学概論	1*					1*	
	機械工学概論	1*					1*	
	電気工学概論	1**					1**	
	土木史	1*					1*	
外書輪講	1*					1*		
小計	25	0	0	0	10	15		
開講単位数	専門科目	93	8	10	20	27	28	
	一般科目	113	28	23	16	25	21	
	合計	206	36	33	36	62	49	
履修可能単位数	専門科目	93	8	10	20	27	28	
	一般科目	86	26	23	16	11	10	
	合計	179	34	33	36	38	38	

(出典：平成18年度学生便覧 32頁)



## 2-6 平成18年度 教育課程(2年~5年生適用) 土木工学科

	科目名	単位数	学年別配当単位数				
			1年	2年	3年	4年	5年
必修科目	卒業研究	9					9
	小計	9	0	0	0	0	9
A群	土木工学概論	1	1				
	情報処理Ⅰ	1	1				
	測量学Ⅰ	2	2				
	測量学実習Ⅰ	3	3				
	地学	1		1			
	測量学Ⅱ	2		2			
	測量学実習Ⅱ	3		3			
	応用力学	2		2			
	材料学	1		1			
	小計	16	7	9	0	0	0
B群	応用数学Ⅰ	2*				2	
	数値解析Ⅰ	1*				1	
	応用数学Ⅱ	1**					1
	数値解析Ⅱ	1**					1
	応用物理Ⅰ	2			2		
	応用物理Ⅱ	2*				2	
	情報処理Ⅱ	2			2		
	応用測量学	1					1
	応用測量学実習	1					1
	構造力学Ⅰ	4			4		
	構造力学Ⅱ	2**				2	
	鋼構造工学	2*				2	
	構造工学実験	1				1	
	耐震工学	1*					1
	水理学Ⅰ	2			2		
	水理学Ⅱ	2*				2	
	水理学実験	1				1	
	河川工学	1**					1
	海岸工学	1*					1
	環境生態学	1			1		
	環境工学Ⅰ	2*				2	
	環境工学Ⅱ	1**					1
	環境工学実験	1				1	
	土質力学Ⅰ	2			2		
	土質力学Ⅱ	1*				1	
	土質工学実験	1.5			1.5(3)		
	地盤工学	1*				1	
	都市計画	2*				2	
	土木計画学	1**					1
	交通工学	2**					2
	材料学実験	1.5			1.5(3)		
	鉄筋コンクリート工学Ⅰ	2			2		
	鉄筋コンクリート工学Ⅱ	2**				2	
	鉄筋コンクリート工学実験	1				1	
	施工学Ⅰ	1*				1	
	施工学Ⅱ	1**					1
	施工管理学	1*					1
	基礎製図	2			2		
	構造物設計	2				2	
	橋梁設計	2					2
	意匠設計	1					1
	建築学概論	1*					1
機械工学概論	1*					1	
電気工学概論	1*					1	
情報工学概論	1*				1		
工学演習	1**					1	
土木史	1*					1	
小計	68		0	0	20	27	21
開講単位数	専門科	93	7	9	20	27	30
	一般科	103	30	24	16	19	14
	合計	196	37	33	36	46	44
履修可能単位数	専門科	92	7	9	20	27	29
	一般科	86	27	24	16	11	8
	合計	178	34	33	36	38	37

2科目中  
1科目選択

(出典：平成18年度学生便覧 38頁)

## 1. 4 授業科目について

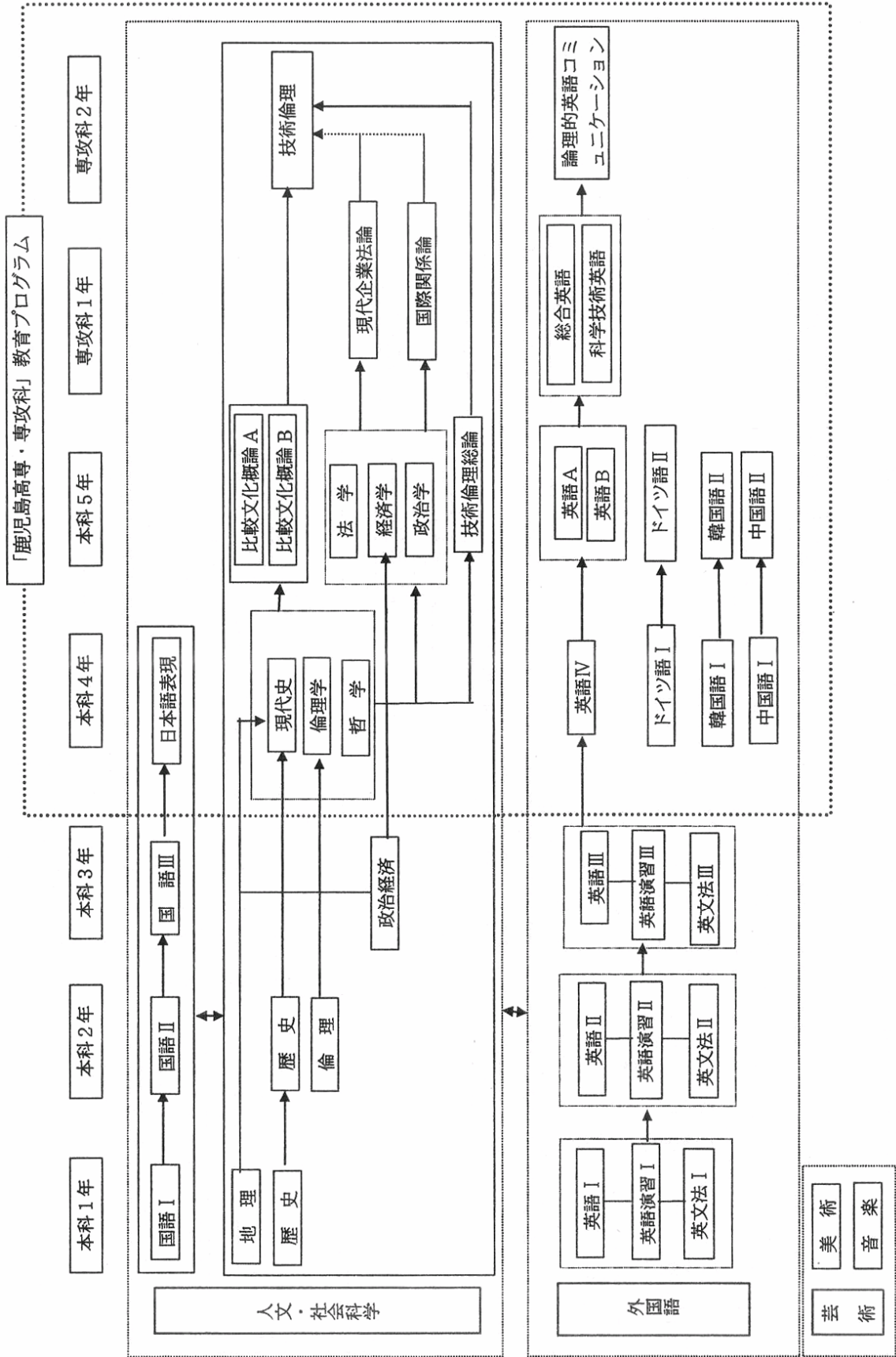
授業科目には必修科目、A 群科目、B 群科目があります。

- (1)必修科目は必ず単位を修得しなければなりません。なお、必修科目を修得できないと、進級や卒業ができなくなります。
- (2)A 群科目は、各学科において受講が必要な科目で、受講願いを提出する必要はありません。この A 群科目の授業を欠課しますと、欠課時数としてカウントされることになります。
- (3)B 群科目は、各学科において自ら選択して受講する科目になります。この B 群科目を受講するにあたっては、定められた日まで受講願いを教務係に提出する必要があります。なお、決められた期間中に受講辞退届を出すことで、開講時にさかのぼって受講しなかったものとして取り扱われます。

(出典：平成 18 年度シラバス 5 頁)

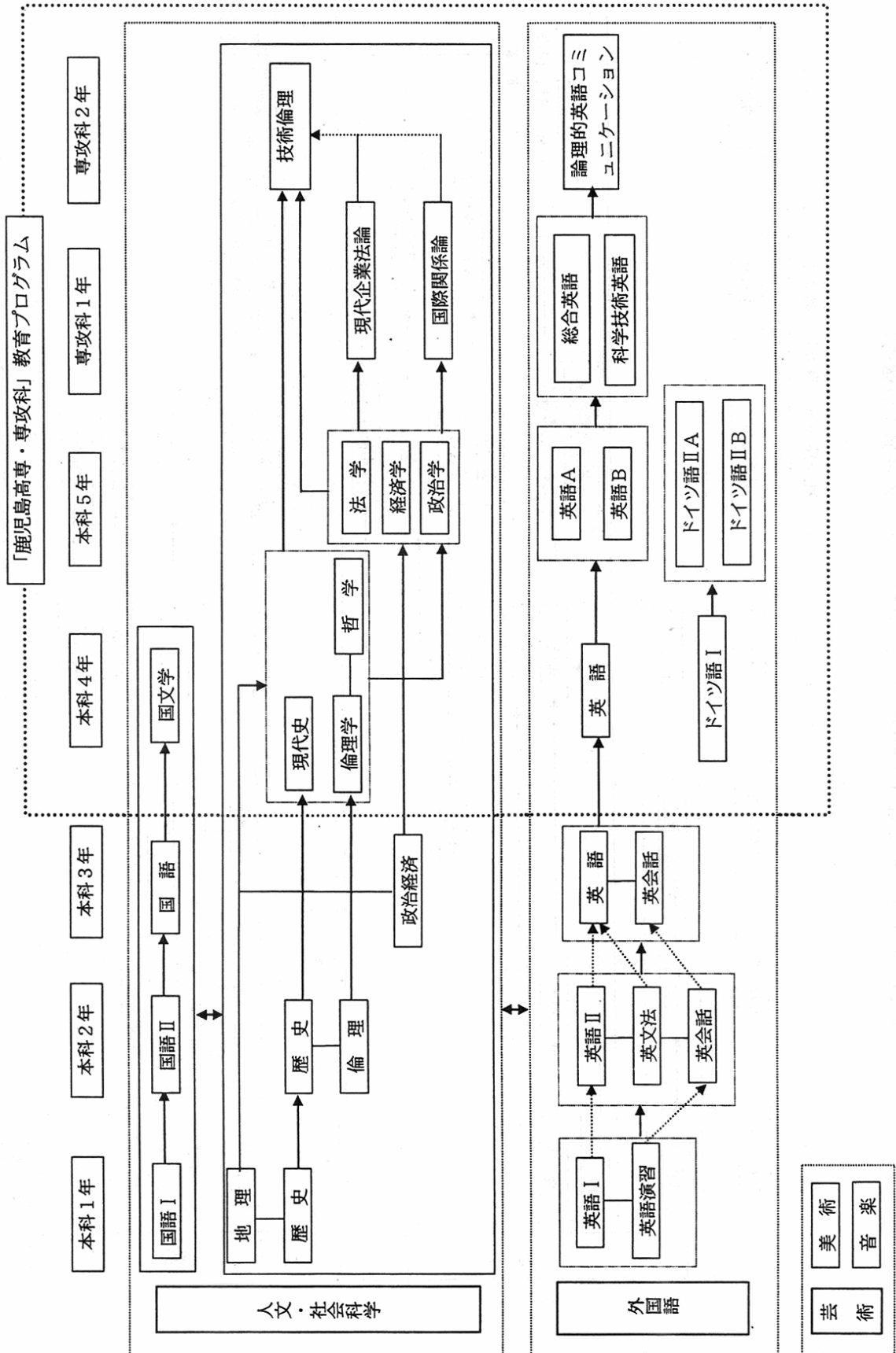


一般教育科文系 教育課程系統図 1 年生適用 (H18 入学者から適用)



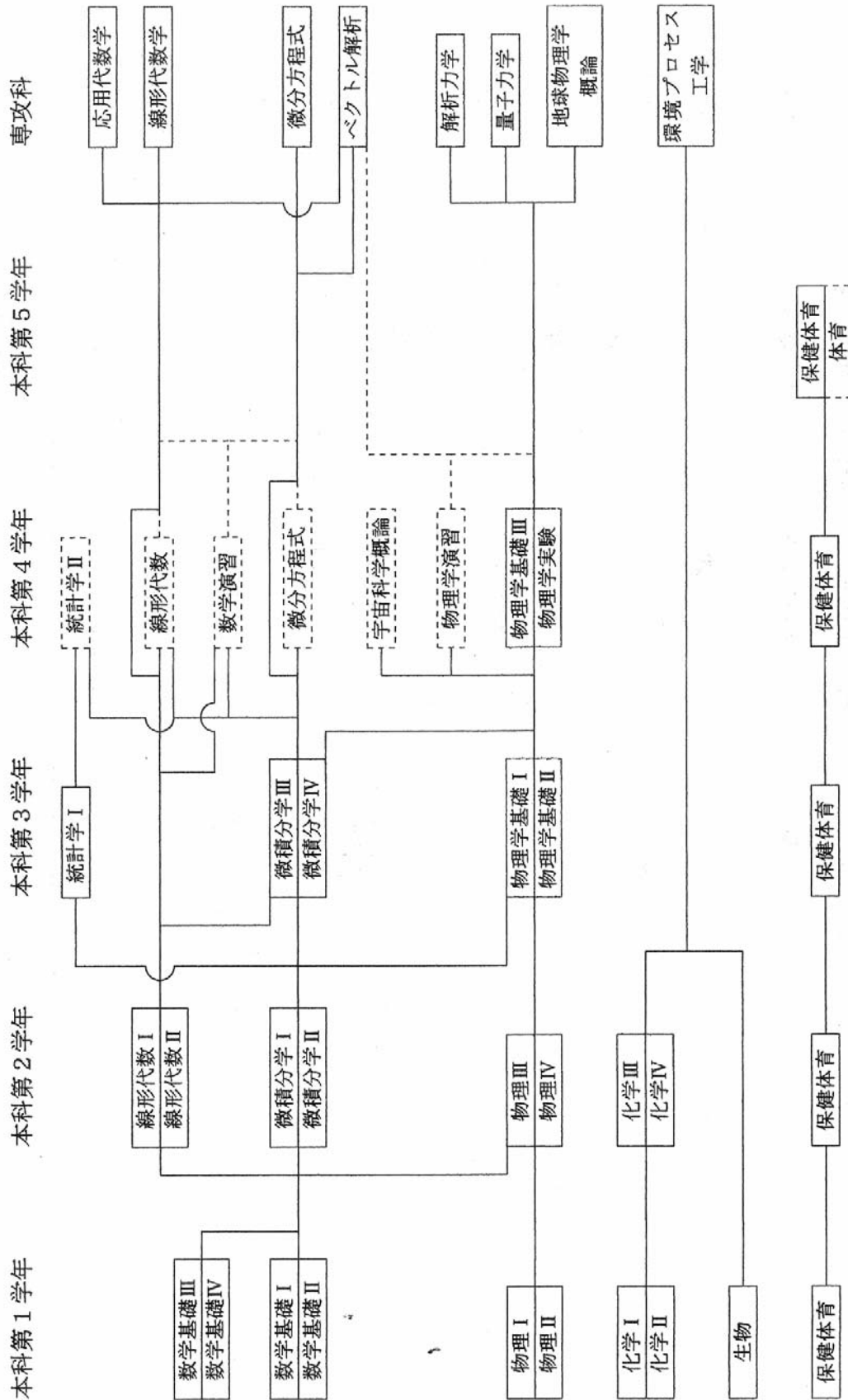
(出典：平成 18 年度シラバス 10 頁)

一般教育科文系 教育課程系統図 (2~5年生適用) (H17入学者まで適用)



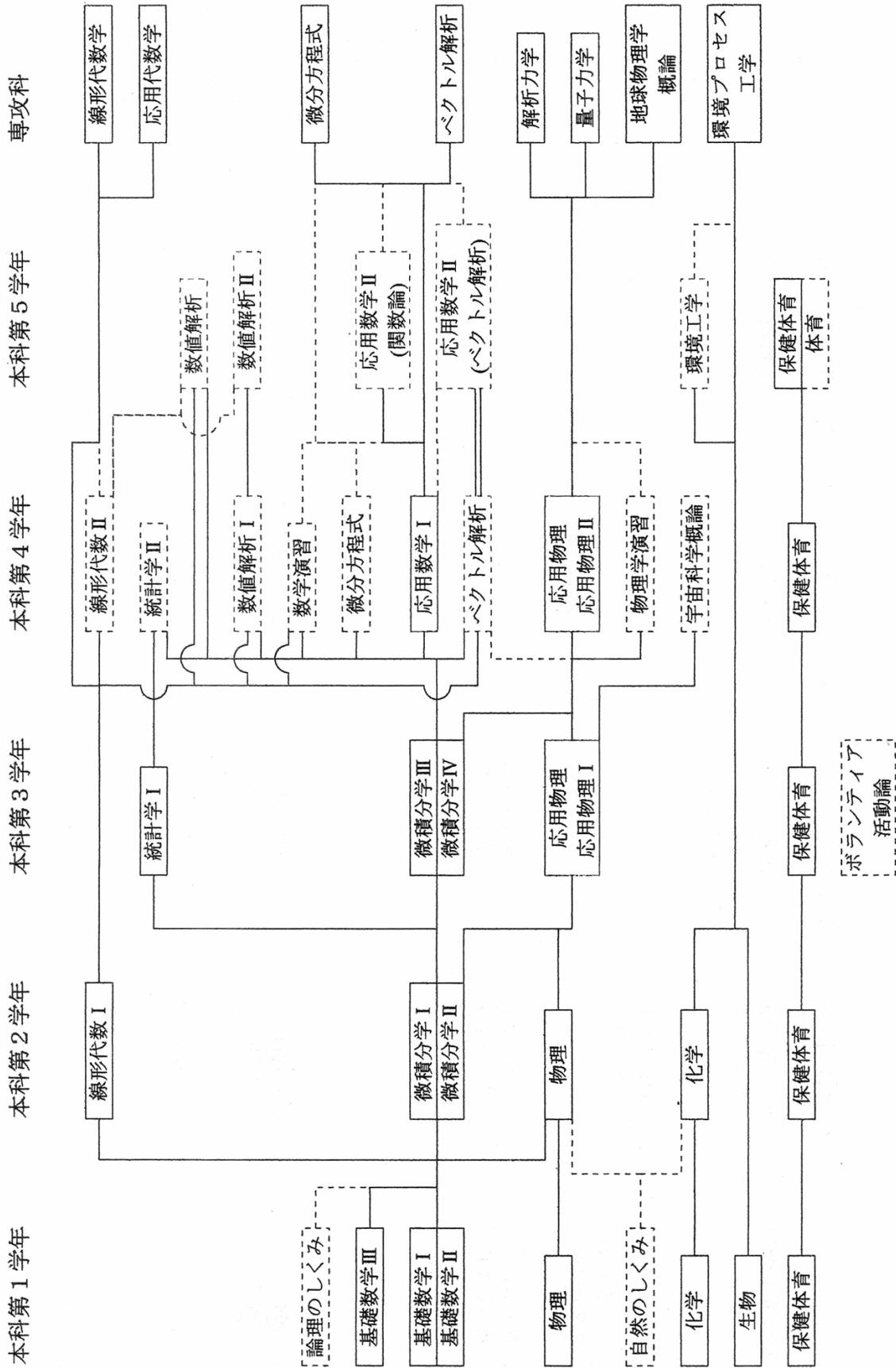
(出典：平成18年度シラバス 11頁)

一般教育科理系 教育課程系統図 (1年生適用) (H18入学者から適用)



(出典：平成18年度シラバス 12頁)

一般教育数理系 教育課程系統図 (2~5年生適用) (HI7入学者まで適用)



(出典：平成18年度シラバス 13頁)

機械工学科 1年生適用 (H18 入学者から適用)

学年	1年	2年	3年	4年	5年
基礎科目	物理	物理	物理学基礎 I・II	物理学基礎III 物理学実験	
	化学	化学			
	数学	数学	数学	応用数学 I・II	応用数学III
				数値解析	数値解析II
	図学	設計製図 I	設計製図 II	応用設計	
			機械設計法 I	機械設計法 II	
			機構学		
		工業力学 I	工業力学 II		機械力学
			材料力学 I	材料力学 II	
		工作実習 I	工作実習 II	工作実習 III	
専門科目	機械工作法 I	機械工作法 II	機械工作法 III		
	創作活動				
				熱力学	伝熱工学
				流体工学	流体力学
					エネルギー機械
			材料学 I	材料学 II	
	情報基礎	情報処理 I	情報処理 II		
		電気基礎	電気回路 I	電気回路 II	
			電子回路		
				制御工学 I	制御工学 II・III
					システム工学
				メカトロニクス I	メカトロニクス II
				工学実験 I	工学実験 II
				工学演習	
			工業英語		外書輪講

(出典：平成 18 年度シラバス 110 頁)

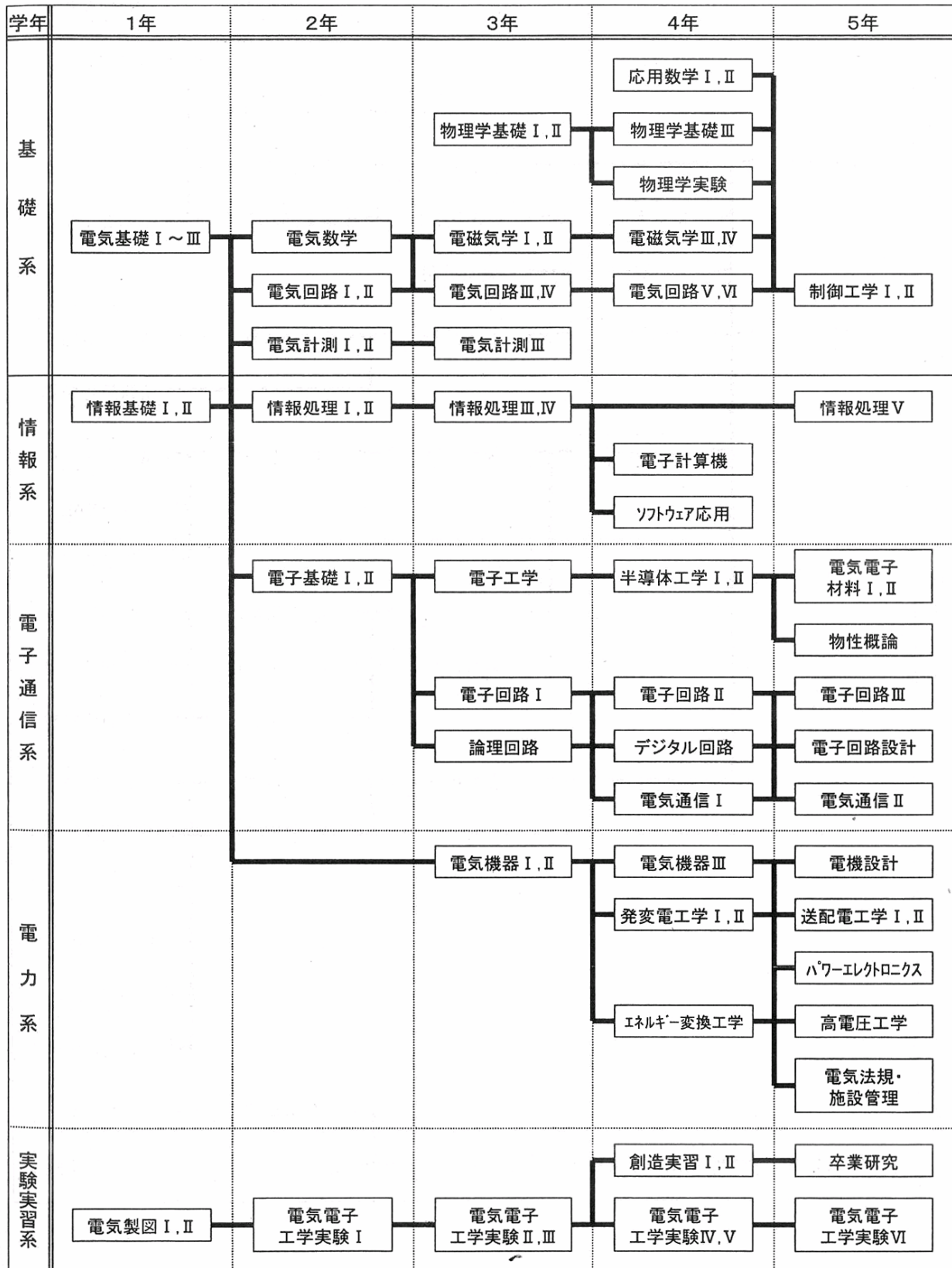


機械工学科 (2~5年生適用) (H17入学者まで適用)

学年	1年	2年	3年	4年	5年
基礎科目	数学	数学	数学	応用数学Ⅰ	応用数学Ⅱ
	化学	化学		数値解析Ⅰ	数値解析Ⅱ
	物理	物理	応用物理	応用物理	
専門科目		情報処理	情報処理		環境工学
					生産工学
					生産システム
					システム工学
				流体工学	流体機械
					流体力学
					エネルギー変換工学
				熱力学	伝熱工学
					熱機関
	機械工学基礎			工学演習	
					計測工学
			電磁気学	電気工学概論	制御工学
			工業力学	機構学	機械力学
			材料力学	材料力学	
			材料学	材料学	塑性加工
図学	機械設計製図	機械設計製図	機械設計製図		
		機械設計法	機械設計法		
		創作活動			
機械工作法	機械工作法	機械工作法			
工作実習	工作実習	工作実習			
			工学実験	工学実験	
				卒業研究	

(出典：平成18年度シラバス 111頁)

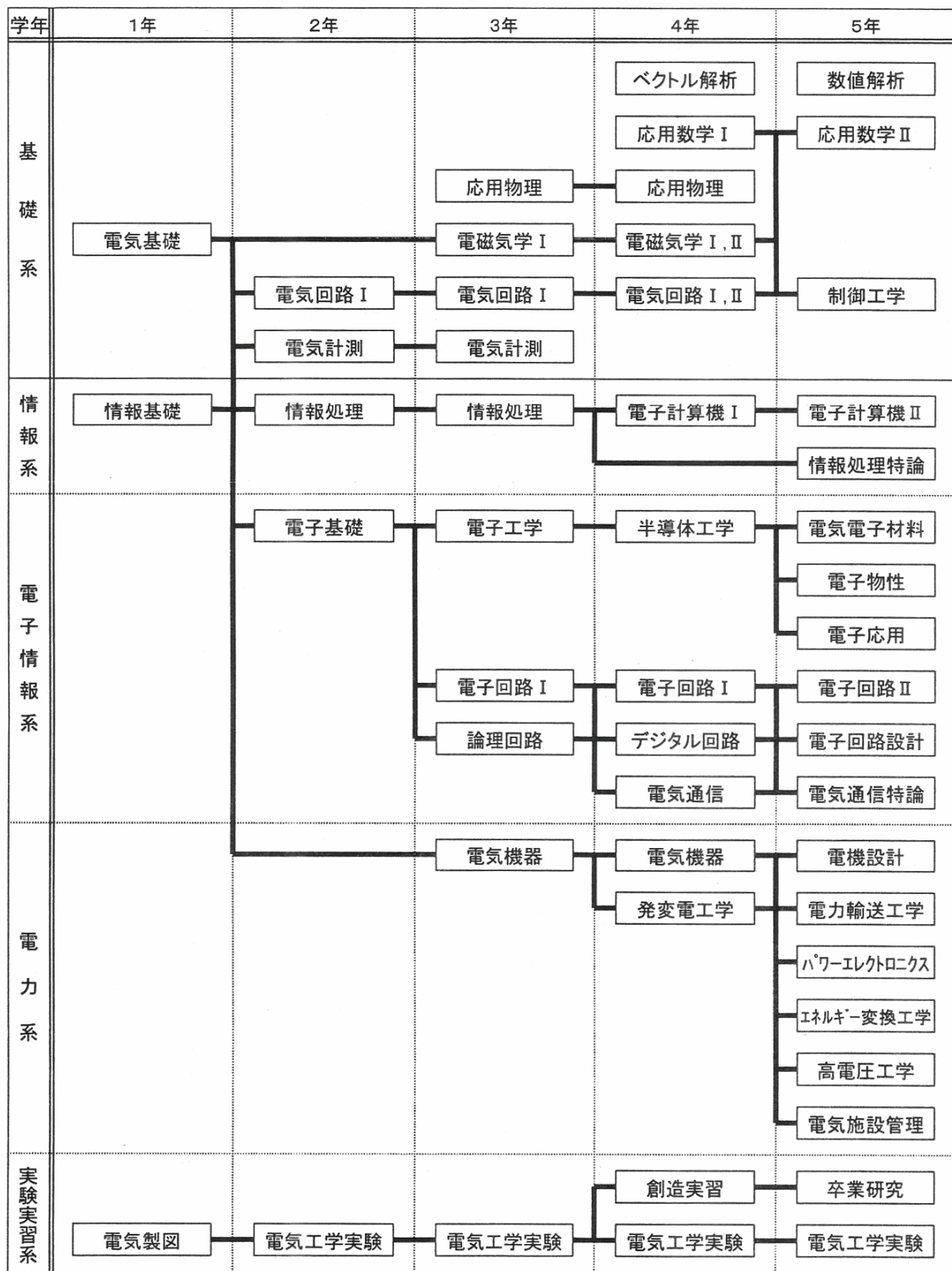
電気電子工学科 1年生適用 (H18 入学者から適用)



(出典：平成 18 年度シラバス 173 頁)

## 電気電子工学科 (2~5年生適用)

(H17 入学者まで適用)



(出典：平成 18 年度シラバス 174 頁)



## 電子制御工学科 1年生適用 (H18 入学者から適用)

学年	1年	2年	3年	4年	5年
基礎科目	数学	数学	数学	応用数学Ⅰ・Ⅱ 数値解析Ⅰ	応用数学Ⅲ 数値解析Ⅱ
	物理	物理	物理学基礎Ⅰ・Ⅱ	物理学基礎Ⅲ 物理学実験	
	化学	化学			
専門科目	電気電子系	電気回路Ⅰ	電気回路Ⅱ	電気回路Ⅲ 電子回路 電磁気学Ⅰ	制御機器 デジタル回路 電磁気学Ⅱ
	情報計測制御系	電子制御基礎	情報処理Ⅰ	情報処理Ⅱ	情報技術演習
					ネットワーク概論 電子計算機
				制御工学Ⅰ 数値制御 計測工学	制御工学Ⅱ
	機械系	機械工作法Ⅰ 設計製図Ⅰ	機械工作法Ⅱ 設計製図Ⅱ 工業力学	機械工作法Ⅲ 材料力学Ⅰ 機構学	材料力学Ⅱ 機械設計法 材料学 エネルギー工学
総合系				特別講座	環境工学 ロボット工学 システム工学 品質管理
実験実習系	工作実習Ⅰ	工作実習Ⅱ	創造設計Ⅰ 工学実験Ⅰ	創造設計Ⅱ 工学実験Ⅱ 工場実習	工学実験Ⅲ
					卒業研究

(出典：平成 18 年度シラバス 242 頁)

## 電子制御工学科 (2~5年生適用) (H17 入学者まで適用)

学年	1年	2年	3年	4年	5年
基礎科目	数学	数学	数学	応用数学 I 数値解析 I	応用数学 II 数値解析 II
	物理	物理	応用物理	応用物理	
	化学	化学			
専門科目		電気回路	電磁気学 電子工学	電子回路 デジタル回路	制御機器
	電子制御基礎	情報処理	情報処理	電子計算機	電子計算機 制御用 インターフェース
				制御工学 数値制御	制御工学
					計測工学
	機械工作法 設計製図	設計製図	機械工作法		生産システム
機械系			材料力学 I 機構学	材料力学 II 機械設計法 エネルギー工学	創造工学
				材料学	真空工学
					環境工学
					システム工学
総合系				特別講座 I	特別講座 II
					品質管理
実験実習系	工作実習	工作実習	創造設計 工学実験	創造設計 工学実験	工学実験
				工場実習	
					卒業研究

(出典：平成 18 年度シラバス 243 頁)

## 情報工学科 1年生適用 (H18 入学者から適用)

学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
基礎科目				応用数学	
				ベクトル解析	
				数値解析 I	数値解析 II
			物理学基礎 I II	物理学基礎 III	品質信頼性工学
				物理学実験	
専門科目			計測工学		システム工学特論 I
		電気磁気学	電気磁気学	通信工学	電気通信特論
		電気回路	電気回路		情報素子工学
	情報基礎		電子回路		集積回路工学
		論理回路	電子計算機 I	電子計算機 II	
				計算機アーキテクチャ	デジタルフィルタ
				システム工学	システム設計学
				情報理論	情報工学特論 II
	情報処理 I	情報処理 II	情報処理 III	データ構造とアルゴリズム	情報工学特論 I
				音声情報処理	
			言語処理系	オペレーティングシステム	
	コンピュータリテラシ			情報技術応用 I	
				情報技術応用 II	システム工学特論 II
	創造教室	工学実験	工学実験	工学実験	工学実験
				応用実験	卒業研究
				工場実習	

(出典：平成 18 年度シラバス 300 頁)

## 情報工学科 (2~5年生適用)

(H17 入学者まで適用)

学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
基礎科目	数学	数学	数学	応用数学 I	応用数学 II
			機械工学概論		
	図学			ベクトル解析	
	物理	物理	応用物理	応用物理	品質信頼性工学
	化学				
専門科目			計測工学	システム工学	制御工学
		電気磁気学	電気磁気学	通信工学	電気通信特論
		電気回路	電気回路	電気回路	情報工学特論 I
			電子回路	電子回路	情報工学特論 II
	情報基礎			工学演習	情報素子工学
		論理回路	電子計算機 I	電子計算機 II	計算機アーキテクチャ
					集積回路工学
				情報理論	数値解析 II
	情報処理 I	情報処理 II	情報処理 III	数値解析 I	データ構造論
				多変量解析	システム工学特論 I
			システムプログラム I	システムプログラム II	システム設計学
	技術実習				システム工学特論 II
	創造教室	工学実験	工学実験	工学実験	工学実験
				応用実験	卒業研究
				工場実習	

(出典：平成 18 年度シラバス 301 頁)



土木工学科 1 年生適用 (H18 入学者から適用)

学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
基礎科目			物理学基礎 I 物理学基礎 II	応用数学 数値解析 物理学基礎 III 物理学実験	
		地学			
専門科目	測量学 I 測量学実習 I 情報処理 I 基礎製図	測量学 II 測量学実習 II	情報処理 II		応用測量学
		応用力学 応用力学演習	構造力学 I 構造力学演習	構造力学 II 鋼構造工学 構造工学実験	耐震工学
		材料学	鉄筋コンクリート工学 I 材料学実験	鉄筋コンクリート工学 II 鉄筋コンクリート工学実験	応用材料学
				構造物設計	橋梁設計 景観設計
	土木工学概論		水理学 I 水理学演習	水理学 II 水理学実験	河川工学 港湾工学
			土質力学 I 土質力学演習 土質工学実験	環境工学 I 環境工学実験	環境工学 II
				地盤工学	
				施工学	道路工学
				都市計画	交通計画学
				工学セミナー	
				工学演習	
					卒業研究
					建築学概論 機械工学概論 電気工学概論 土木史 外書輪講

(出典：平成 18 年度シラバス 358 頁)

土木工学科 (2~5 年生適用) (H17 入学者まで適用)

学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
基礎科目				応用数学 I 数値解析 I	応用数学 II 数値解析 II
		地学	応用物理 I	応用物理 II	
専門科目	測量学 I 測量学実習 I 情報処理 I	測量学 II 測量学実習 II	情報処理 II	情報工学概論	応用測量学 応用測量学実習
		応用力学	構造力学 I	構造力学 II 鋼構造工学 構造工学実験	耐震工学
		材料学	鉄筋コンクリート工学 I 材料学実験	鉄筋コンクリート工学 II 鉄筋コンクリート工学実験	
			基礎製図	構造物設計	橋梁設計 意匠設計
	土木工学概論		水理学 I	水理学 II 水理学実験	河川工学 海岸工学
			環境生態学	環境工学 I 環境工学実験	環境工学 II
			土質力学 I 土質工学実験	土質力学 地盤工学	
				施工学 I	施工学 II 施工管理学
				都市計画	交通工学
					建築学概論 機械工学概論 電気工学概論
					土木史 工学演習
					卒業研究

(出典：平成 18 年度シラバス 359 頁)

本科(進士課程)の学習・教育目標と対応科目 機械工学科(平成16年度入学者以降)														
No.	大目標	Sub No.	学習・教育サブ目標	対応科目										
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		合計
				科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	単位数
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生きていくための基礎的知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語Ⅰ <sup>*2</sup> 地理 美術 音楽	2 2 2 2	国語Ⅱ <sup>*2</sup> 倫理 <sup>*2</sup>	2 2	国語Ⅲ <sup>*2</sup> 政治・経済	2 2	日本語表現 <sup>*2</sup> 哲学 <sup>*2</sup> 倫理学 <sup>*2</sup>	2 2 2	法学 <sup>*2</sup> 経済学 政治学	2 2 2	28
		1-b	様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。							工学実験Ⅰ <sup>*2</sup>	3	工学実験Ⅱ <sup>*2</sup> 卒業研究*4	1 10	14
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	国語Ⅰ <sup>*2</sup>	2	国語Ⅱ <sup>*2</sup>	2	国語Ⅲ <sup>*2</sup>	2	日本語表現 <sup>*2</sup> 文学概論 <sup>*2</sup>	2 2	卒業研究 <sup>*4</sup>	10	20
		2-b	英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意見を英語で伝えることができる。	英語Ⅰ 英文法Ⅰ 英語演習Ⅰ	2 1 2	英語Ⅱ 英文法Ⅱ 英語演習Ⅱ	3 2 1	英語Ⅲ 英文法Ⅲ 英語演習Ⅲ 工業英語 <sup>*2</sup>	2 2 1 1	英語Ⅳ <sup>*2</sup>	2	英語A <sup>*2</sup> 英語B <sup>*2</sup> 外書精読 <sup>*2</sup>	2 1 1	23
		2-c	英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。							ドイツ語Ⅰ <sup>*2</sup> 韓国語Ⅰ <sup>*2</sup> 中国語Ⅰ <sup>*2</sup>	2 2 2	ドイツ語Ⅱ <sup>*2</sup> 韓国語Ⅱ <sup>*2</sup> 中国語Ⅱ <sup>*2</sup>	2 2 2	12
3	創造力豊かな開発型技術者	3-a	専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それを継続的に学習することができる。	数学基礎Ⅰ 数学基礎Ⅱ 数学基礎Ⅲ 数学基礎Ⅳ 物理Ⅰ 物理Ⅱ 化学Ⅰ 化学Ⅱ 生物	2 2 1 2 1 1 1 1 1	線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 微積分Ⅰ 微積分Ⅱ 物理Ⅲ 物理Ⅳ 化学Ⅲ 化学Ⅳ	1 1 2 2 2 1 1 1	物理学基礎Ⅰ 物理学基礎Ⅱ 微積分Ⅲ 微積分Ⅳ 統計学Ⅰ	1 1 2 2 1	物理学基礎Ⅲ 物理学実験 応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 数値解析Ⅰ 線形代数 微分方程式 統計学Ⅱ 数学演習 宇宙科学概論 物理学演習	1 1 2 2 1 1 1 1 1	応用数学Ⅲ 数値解析Ⅱ	1 1	42
		3-b	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	情報基礎	1	情報処理Ⅰ <sup>*2</sup>	2	情報処理Ⅱ <sup>*2</sup>	1		卒業研究 <sup>*4</sup>	10	14	
		3-c	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	機械工作法Ⅰ 図学 工作実習Ⅰ <sup>*2</sup> 機械システム基礎	1 1 3 1	機械工作法Ⅱ 設計製図Ⅰ 工作実習Ⅱ <sup>*2</sup> 情報処理Ⅰ <sup>*2</sup> 工業力学Ⅰ 電気基礎	1 1 3 2 1 1	工業力学Ⅱ 材料学Ⅰ 材料学Ⅱ 材料学Ⅲ 機械設計法Ⅰ 設計製図Ⅱ 工作実習Ⅲ <sup>*2</sup> 機構学 情報処理Ⅱ <sup>*2</sup> 電子回路 電気回路Ⅰ 工業英語 <sup>*2</sup>	1 3 2 2 3 2 3 2 1 1 1	工学実験Ⅰ <sup>*2</sup> 応用設計 機械設計法Ⅱ 材料力学Ⅱ 熱力学 流体工学 材料学Ⅱ 制御工学Ⅰ メカトロニクスⅠ 電気回路Ⅱ 工学演習	3 2 2 2 2 2 3	工学実験Ⅱ <sup>*2</sup> 制御工学Ⅱ 制御工学Ⅲ メカトロニクスⅡ 外書精読 <sup>*2</sup> 機械力学 伝熱工学 流体力学 エネルギー機械 システム工学	1 1 1 1 2 2 2	73
		3-d	ものづくりと自立的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。	創作活動Ⅰ	1					工場実習 <sup>*2</sup>	1	卒業研究 <sup>*4</sup>	10	12
4	相手の立場に立ってものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。	工作実習Ⅰ <sup>*2</sup>	3	倫理 <sup>*2</sup> 工作実習Ⅱ <sup>*2</sup>	2 3	工作実習Ⅲ <sup>*2</sup>	3	哲学 <sup>*2</sup> 倫理学 <sup>*2</sup> 工学実験Ⅰ <sup>*2</sup> 工場実習 <sup>*2</sup>	2 2 3 1	法学 <sup>*2</sup> 技術倫理総論 工学実験Ⅱ <sup>*2</sup>	2 2 1	24
		4-b	様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。	歴史 保健体育	2 2	歴史 保健体育	1 2	保健体育	2	文学概論 <sup>*2</sup> 現代史 保健体育 英語Ⅳ <sup>*2</sup> ドイツ語Ⅰ <sup>*2</sup> 韓国語Ⅰ <sup>*2</sup> 中国語Ⅰ <sup>*2</sup>	2 2 1 2 2 2 2	比較文化概論A 比較文化概論B 保健体育 体育 英語A <sup>*2</sup> 英語B <sup>*2</sup> ドイツ語Ⅱ <sup>*2</sup> 韓国語Ⅱ <sup>*2</sup> 中国語Ⅱ <sup>*2</sup>	1 1 1 1 2 2 2 2	35

黒字 必修科目  
 〇 A群科目  
 □ B群科目

(出典：学生課資料)

本科(修士課程)の学習・教育目標と対応科目 機械工学科(平成17年度入学者まで)																	
No.	大目標	Sub No.	学習・教育サブ目標	対応科目								合計 単位数					
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			第5学年				
				科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数				
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生きるための基礎的知識を身に付け、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語 I <sup>*2</sup> 地理 美術 音楽	2 2 2 2	国語 II <sup>*2</sup> 倫理 <sup>*2</sup>	2 2	国語 <sup>*2</sup> 政治・経済	2 2	国文学 <sup>*2</sup> 哲学 <sup>*2</sup> 倫理学 <sup>*2</sup>	2 2 2	法学 <sup>*2</sup> 経済学 政治学	2 2 2	28			
		1-b	様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。							工学実験 <sup>*3</sup>	3	工学実験 <sup>*3</sup> 環境工学 卒業研究 <sup>*4</sup>	1 1 10	15			
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	国語 I <sup>*2</sup>	2	国語 II <sup>*2</sup>	2	国語 <sup>*2</sup>	2	国文学 <sup>*2</sup>	2	卒業研究 <sup>*4</sup>	10	18			
		2-b	英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。	英語 I 英語演習	3 2	英語 II 英文法 英会話	3 2 1	英会話 英語	1 3	英語 英語 B <sup>*2</sup> 外書輪講 <sup>*2</sup>	2 1 1	英語 A 英語 B <sup>*2</sup> 外書輪講 <sup>*2</sup>	2 1 1	21			
		2-c	英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。							ドイツ語 I	2	ドイツ語 II A ドイツ語 II B	2 1	ドイツ語 II A ドイツ語 II B	2 1	5	
3	創造力豊かな開発型技術者	3-a	専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それを継続的に学習することができる。	数学基礎 I 数学基礎 II 数学基礎 III 物理 化学 生物 自然のしくみ 論理のしくみ	2 2 2 2 2 1 1	線形代数 I 微積分学 I 微積分学 II 物理 化学	2 2 2 3 2	応用物理 微積分学 III 微積分学 IV 統計学 I ポランティヤ活動論	2 2 2 1 1	応用物理 応用数学 I 数値解析 I 線形代数 II 微分方程式 統計学 II 数学演習 宇宙科学概論 物理学演習	2 2 1 1 1 1 1 1	応用数学 II 数値解析 II	1 1	45			
				3-b	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。		情報処理	2	情報処理	2			卒業研究 <sup>*4</sup>	10	14		
				3-c	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	機械工作法 図学 工作実習 <sup>*2</sup> 機械工学基礎	1 2 3 1	機械工作法 機械設計製図 工作実習 <sup>*2</sup> 情報処理	1 3 3 2	工業力学 材料力学 材料力学 機械工作法 機械設計法 機械設計製図 工作実習 <sup>*2</sup> 電気工学概論 情報処理	1 2 2 1 3 3 2 2	材料力学 材料学 流体力学 機械設計法 熱力学 機構学 機械設計製図 電気工学概論 工学実験 <sup>*3</sup> 工学演習	1 2 2 2 1 3 2 2 3 2	機械力学 伝熱工学 熱機関 流体力学 流体機械 塑性加工 生産工学 制御工学 計測工学 エネルギー変換工学 システム工学 生産システム 外書輪講 <sup>*2</sup> 工学実験 <sup>*3</sup>	2 1 2 2 1 1 2 2 1 2 1 1	74	
						3-d	ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。				創作活動	1	工場実習 <sup>*2</sup>	1	卒業研究 <sup>*4</sup>	10	12
						4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。	工作実習 <sup>*2</sup>	3	倫理 <sup>*2</sup> 工作実習 <sup>*2</sup>	2 3	工作実習 <sup>*2</sup>	3	哲学 <sup>*2</sup> 倫理学 <sup>*2</sup> 工学実験 <sup>*3</sup> 工場実習 <sup>*2</sup>	2 2 3 1	法学 <sup>*2</sup> 工学実験 <sup>*3</sup>	2 1
4	相手の立場に立つてものを考える技術者	4-b	様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立つて物事を考えることができる。	歴史 保健体育	2 2	歴史 保健体育	1 2	保健体育	2	現代史 保健体育 英語 <sup>*2</sup> ドイツ語 I <sup>*2</sup>	2 1 2 2	保健体育 体育 英語 A <sup>*2</sup> 英語 B <sup>*2</sup> ドイツ語 II A <sup>*2</sup> ドイツ語 II B <sup>*2</sup>	1 1 2 2 2 1	24			

(出典：学生課資料)



本科(準学士課程)の学習・教育目標と対応科目 電気電子工学科(平成18年度入学者以降)

No.	大目標	Sub. No.	学習・教育サブ目標	対応科目										合計 単位数	
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年			
				科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生かすための基礎的知識を身に付け、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語Ⅰ <sup>※2</sup>	2	国語Ⅱ <sup>※2</sup>	2	国語Ⅲ <sup>※2</sup>	2	日本語表現 <sup>※2</sup>	2	法学 <sup>※2</sup>	2	28	
		1-b	様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。	地理	2	倫理 <sup>※2</sup>	2	政治・経済	2	哲学 <sup>※2</sup>	2	経済学	2		22
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	国語Ⅰ <sup>※2</sup>	2	国語Ⅱ <sup>※2</sup>	2	国語Ⅲ <sup>※2</sup>	2	日本語表現 <sup>※2</sup>	2	卒業研究 <sup>※4</sup>	8	18	
		2-b	英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。	英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	3	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ <sup>※2</sup>	2	英語A <sup>※2</sup>	2		21
		2-c	英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。	英文法Ⅰ	1	英文法Ⅱ	2	英文法Ⅲ	2			英語B <sup>※2</sup>	1		
3	創造力豊かな開発型技術者	3-a	専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。	数学基礎Ⅰ	2	線形代数Ⅰ	1	物理学基礎Ⅰ	1	物理学基礎Ⅲ	1	卒業研究 <sup>※4</sup>	8		
				数学基礎Ⅱ	2	線形代数Ⅱ	1	物理学基礎Ⅱ	1	物理学実験	1				
				数学基礎Ⅲ	1	微積分Ⅰ	2	微積分Ⅲ	2	応用数学Ⅰ	2				
				数学基礎Ⅳ	1	微積分Ⅱ	2	微積分Ⅳ	2	応用数学Ⅱ	1				
				物理Ⅰ	1	物理Ⅲ	2	統計Ⅰ	1	線形代数	1				
		3-b	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	物理Ⅱ	1	物理Ⅳ	1			微分方程式	1			11	
				化学Ⅰ	1	化学Ⅲ	1			統計学Ⅱ	1				
				化学Ⅱ	1	化学Ⅳ	1			数学演習	1				
		3-c	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	生物	1	電気数学	1			宇宙科学概論	1			72	
				情報基礎Ⅰ	1					物理学演習	1				
情報基礎Ⅱ	1							ソフトウェア応用	1	卒業研究 <sup>※4</sup>	8				
電気基礎Ⅰ	1			電気電子工学実験Ⅰ <sup>※3</sup>	2	電気電子工学実験Ⅱ <sup>※3</sup>	2	電気電子工学実験Ⅳ <sup>※3</sup>	2	電気電子工学実験Ⅵ <sup>※3</sup>	2				
電気基礎Ⅱ	1			電気回路Ⅰ	1	電気電子工学実験Ⅴ <sup>※3</sup>	2	電気電子工学実験Ⅶ <sup>※3</sup>	2	電気回路Ⅲ	1				
3-d	ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。	電気基礎Ⅲ	1	電気回路Ⅱ	1	電磁気学Ⅰ	1	電磁気学Ⅲ	1	情報処理Ⅴ	1	10			
		電気製図Ⅰ	1	電気計測Ⅰ	1	電磁気学Ⅱ	2	電磁気学Ⅳ	1	物性概論	1				
		電気製図Ⅱ	1	電気計測Ⅱ	1	電気回路Ⅲ	2	電気回路Ⅴ	1	電子回路設計	1				
				電子基礎Ⅰ	1	電気回路Ⅳ	1	電気回路Ⅵ	1	電気通信Ⅰ	2				
				電子基礎Ⅱ	1	電気計測Ⅲ	1	半導体工学Ⅰ	1	制御工学Ⅰ	1				
				情報処理Ⅰ	1	電子工学	1	半導体工学Ⅱ	1	制御工学Ⅱ	1				
				情報処理Ⅱ	1	電子回路Ⅰ	1	電子回路Ⅱ	1	電気電子材料Ⅰ	1				
						論理回路	1	電気機器Ⅲ	1	電気電子材料Ⅱ	1				
						情報処理Ⅲ	1	情報処理Ⅳ	1	デジタル回路	2				
						電気機器Ⅰ	1	電気計算機	1	パワエレクトロニクス	1				
4	相手の立場に立ってものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。	電気機器Ⅱ	1	発電工学Ⅰ	1	電機設計	1	卒業研究 <sup>※4</sup>	8	24			
				発電工学Ⅱ	1	高電圧工学	1	電機設計	1	卒業研究 <sup>※4</sup>					
				エネルギー変換工学	1	電気法規・施設管理	1	高電圧工学	1						
				創造実習Ⅰ(PBL) <sup>※3</sup>	1	卒業研究 <sup>※4</sup>	8	送配電工学Ⅰ	1						
				創造実習Ⅱ(PBL) <sup>※3</sup>	1	卒業研究 <sup>※4</sup>	8	送配電工学Ⅱ	1						
		4-b	様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。	歴史	2	歴史	1	保健体育	2	比較文化概論A	1	35			
				保健体育	2	保健体育	2			比較文化概論B	1				
										保健体育	1				
										保健体育	1				
										体育	1				
						英語Ⅳ <sup>※2</sup>	2	英語A <sup>※2</sup>	2						
						ドイツ語Ⅰ <sup>※2</sup>	2	英語B <sup>※2</sup>	1						
						韓国語Ⅰ <sup>※2</sup>	2	ドイツ語Ⅱ <sup>※2</sup>	2						
						中国語Ⅰ <sup>※2</sup>	2	韓国語Ⅱ <sup>※2</sup>	2						
								中国語Ⅱ <sup>※2</sup>	2						

黒字 必修科目  
A群科目  
B群科目

(出典：学生課資料)

本科(准学士課程)の学習・教育目標と対応科目 電気電子工学科(平成17年度入学者まで)

No.	大目標	Sub No.	学習・教育サブ目標	対応科目(受講学生数)										合計 単位数		
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年				
				科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数			
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生きるための基礎的知識を身に付け、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語Ⅰ <sup>*2</sup> 2 地理 2 美術 2 音楽 2	2	国語Ⅱ <sup>*2</sup> 2 倫理 <sup>*2</sup> 2	2	国語 <sup>*2</sup> 2 政治・経済 2	2	国文学 <sup>*2</sup> 2 哲学 <sup>*2</sup> 2 倫理学 <sup>*2</sup> 2	2	法学 <sup>*2</sup> 2 経済学 2 政治学 2	2	28		
		1-b	様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。			電気工学実験 <sup>*3</sup> 1	1	電気工学実験 <sup>*3</sup> 3	3	電気工学実験 <sup>*3</sup> 4 創造実習(PBL) <sup>*3</sup> 2	2	電気工学実験 <sup>*3</sup> 2 卒業研究 <sup>*4</sup> 8	2	20		
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。			国語Ⅰ <sup>*2</sup> 2	2	国語Ⅱ <sup>*2</sup> 2	2	国語 <sup>*2</sup> 2	2	国文学 <sup>*2</sup> 2	2	卒業研究 <sup>*4</sup> 8	8	
		2-b	英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意見を英語で伝えることができる。			英語Ⅰ 3 英語演習 2	3	英語Ⅱ 3 英文法 2 英会話 1	3	英会話 1 英語 3	1	英語 2 英語A <sup>*2</sup> 2 英語B <sup>*2</sup> 1	2	20		
		2-c	英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。									ドイツ語Ⅰ 2	2	ドイツ語ⅡA <sup>*2</sup> 2 ドイツ語ⅡB <sup>*2</sup> 1	2	5
3	創造力豊かな開発型技術者	3-a	専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それを継続的に学習することができる。	数学基礎Ⅰ 2 数学基礎Ⅱ 2 数学基礎Ⅲ 2 物理 2 化学 1 生物 1 自然のしくみ 1 論理のしくみ 1	2	線形代数Ⅰ 2 微積分Ⅰ 2 微積分Ⅱ 2	2	応用物理 2 微積分Ⅲ 2 微積分Ⅳ 2	2	応用物理 2 応用数学Ⅰ 2 線形代数Ⅱ 1 微分方程式 1 統計学Ⅰ 1 統計学Ⅱ 1 数学演習 1 宇宙科学概論 1 物理学演習 1 ベクトル解析 1	2	2	応用数学Ⅱ 2 数値解析 2	2	1	45
		3-b	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	情報基礎 2	2									卒業研究 <sup>*4</sup> 8 情報処理特論 1	8	11
		3-c	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	電気基礎 3 電気製図 2	3	電気工学実験 <sup>*3</sup> 2 電気回路Ⅰ 2 電気計測 2 電子基礎 2 情報処理 2	2	電気工学実験 <sup>*3</sup> 1 電磁気学Ⅰ 2 電気回路Ⅱ 2 電子計測 2 電子工学 1 情報回路 1 情報処理 2 電気機器 2	1	3	電気工学実験 <sup>*3</sup> 3 電磁気学Ⅰ 3 電磁気学Ⅱ 3 電気回路Ⅰ 1 電気回路Ⅱ 1 電子回路Ⅰ 1 半導体工学 2 電子回路Ⅱ 1 電気通信 2 デンタル回路 2 電子計算機Ⅰ 2 電気通信 2 電気電子材料 2 パワエレクトロニクス 2 電力輸送工学 2 電機設計 1 高電圧工学 1 電気施設管理 1 エネルギー変換工学 1	4	電気工学実験 <sup>*3</sup> 4 電子回路Ⅱ 1 電子物性 1 電子応用 1 電子回路設計 1 電子計算機Ⅱ 1 情報処理特論 1 電気通信特論 1 制御工学 2 電気電子材料 2 電気通信 2 電力輸送工学 2 電機設計 1 高電圧工学 1 電気施設管理 1 エネルギー変換工学 1	2	2	72
		3-d	ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。									創造実習(PBL) <sup>*3</sup> 2	2	卒業研究 <sup>*4</sup> 8	2	10
4	相手の立場に立ってものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。			倫理 <sup>*2</sup> 2 電気工学実験 <sup>*3</sup> 1	2	2	電気工学実験 <sup>*3</sup> 3 哲学 <sup>*2</sup> 2 倫理学 <sup>*2</sup> 2 電気工学実験 <sup>*3</sup> 4 創造実習(PBL) <sup>*3</sup> 2	3	2	法学 <sup>*2</sup> 2 電気工学実験 <sup>*3</sup> 2	2	20		
		4-b	様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。	歴史 2 保健体育 2	2	歴史 2 保健体育 2	2	保健体育 1 現代史 2 保健体育 2 英語 <sup>*2</sup> 2 ドイツ語Ⅰ <sup>*2</sup> 2	2	2	2	保健体育 1 体育 1 英語A <sup>*2</sup> 2 英語B <sup>*2</sup> 1 ドイツ語ⅡA <sup>*2</sup> 2 ドイツ語ⅡB <sup>*2</sup> 1	2	24		

(出典：学生課資料)

本科(修士課程)の学習・教育目標と対応科目 電子制御工学科(平成18年度入学者以降)																														
No.	大目標	Sub No.	学習・教育サブ目標	対応科目																										
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		合計 単位数																
				科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数																	
1	人間の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生きるための基礎的知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語 I <sup>*2</sup>	2	国語 II <sup>*2</sup>	2	国語 III <sup>*2</sup>	2	日本語表現 <sup>*2</sup>	2	哲学 <sup>*2</sup>	2	経済学	2	政治学	2	28												
		1-b	様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。			創造設計 I <sup>*3</sup>	2	工学実験 I <sup>*3</sup>	3	創造設計 II <sup>*3</sup>	2	工学実験 II <sup>*3</sup>	3	環境工学 <sup>*2</sup>	1	卒業研究 <sup>*4</sup>	10		工学実験 III <sup>*3</sup>	1	22									
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	国語 I <sup>*2</sup>	2	国語 II <sup>*2</sup>	2	国語 III <sup>*2</sup>	2	日本語表現 <sup>*2</sup>	2	文学概論 <sup>*2</sup>	2	卒業研究 <sup>*4</sup>	10					20										
		2-b	英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。	英語 I	2	英語 II	3	英語 III	2	英語 IV <sup>*2</sup>	2	英語 A <sup>*2</sup>	2	英語 B <sup>*2</sup>	1						21									
		2-c	英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。							ドイツ語 I <sup>*2</sup>	2	韓国語 I <sup>*2</sup>	2	中国語 I <sup>*2</sup>	2	ドイツ語 II <sup>*2</sup>	2	韓国語 II <sup>*2</sup>	2	中国語 II <sup>*2</sup>		2	12							
		3-a	専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。	数学基礎 I	2	線形代数 I	1	物理学基礎 I	1	物理学基礎 III	1	応用数学 III	1							43										
3-b	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	電子制御基礎 <sup>*2</sup>	1	情報処理 I <sup>*2</sup>	2	情報処理 II <sup>*2</sup>	2			卒業研究 <sup>*4</sup>	10							15												
3	創造力豊かな開発型技術者	3-c	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	機械工作法 I	1	情報処理 I <sup>*2</sup>	2	情報処理 II <sup>*2</sup>	2	材料力学 II	2	制御工学 II	1								65									
			電子制御基礎 <sup>*2</sup>	1	工業力学	1	材料力学 I	2	制御工学 I	2	制御機器	2							1											
			電気回路 I	1	機械工作法 II	1	機械工作法 III	1	エネルギー工学	2	生産システム	1								1										
		設計製図 I	2	電気回路 II	2	機構学	2	機械設計法	2	ロボット工学	2							1												
工作実習 I <sup>*2</sup>	3	設計製図 II	3	電気回路 III	2	計測工学	1	環境工学 <sup>*2</sup>	1	真空工学	1	品質管理	1	ネットワーク概論	1	電子計算機	2		システム工学	2	工学実験 II <sup>*3</sup>	3	工学実験 III <sup>*3</sup>	1	1					
3-d	ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。					工作実習 II <sup>*2</sup>	3	電磁気学 I	2	電子回路	2	制御工学 I	2	数値制御	1	デジタル回路	2	卒業研究 <sup>*4</sup>	10	工場実習 <sup>*2</sup>	1	卒業研究 <sup>*4</sup>	10	工場実習 <sup>*2</sup>		1	15			
4	相手の立場に立つてものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。	工作実習 I <sup>*2</sup>	3	倫理 <sup>*2</sup>	2	工学実験 I <sup>*3</sup>	3	哲学 <sup>*2</sup>	2	倫理学 <sup>*2</sup>	2	工学実験 II <sup>*3</sup>	3	工学実験 III <sup>*3</sup>	1	特別講座	1	工場実習 <sup>*2</sup>	1	法学 <sup>*2</sup>	2	技術倫理総論	2	工学実験 III <sup>*3</sup>		1	29	
			4-b	様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立つて物事を考えることができる。	歴史	2	歴史	2	保健体育	2	文学概論 <sup>*2</sup>	2	現代史	2	保健体育	1	英語 IV <sup>*2</sup>	2	ドイツ語 I <sup>*2</sup>	2	韓国語 I <sup>*2</sup>	2	中国語 I <sup>*2</sup>	2	ドイツ語 II <sup>*2</sup>	2	韓国語 II <sup>*2</sup>	2		中国語 II <sup>*2</sup>
		黒字	必修科目																											
			A群科目																											
	B群科目																													

(出典：学生課資料)

本科(進士課程)の学習・教育目標と対応科目 電子制御工学科(平成17年度入学者まで)

No.	大目標	Sub. No.	学習・教育サブ目標	対応科目										合計 単位数						
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年								
				科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数							
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生きるための基礎的知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語Ⅰ <sup>*2</sup> 2 地理 2 美術 2 音楽 2	2	国語Ⅱ <sup>*2</sup> 2 倫理 <sup>*2</sup> 2	2	国語 <sup>*2</sup> 2 政治・経済 2	2	国文学 <sup>*2</sup> 2 哲学 <sup>*2</sup> 2 倫理学 <sup>*2</sup> 2	2	2	法学 <sup>*2</sup> 2 経済学 2 政治学 2	2	28					
		1-b	様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。					創造設計 <sup>*3</sup> 2 工学実験 <sup>*3</sup> 3	2	創造設計 <sup>*3</sup> 2 工学実験 <sup>*3</sup> 3	2	2	2	環境工学 1 卒業研究 <sup>*4</sup> 10 工学実験 <sup>*3</sup> 1	1	22				
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	国語Ⅰ <sup>*2</sup> 2	2	国語Ⅱ <sup>*2</sup> 2	2	国語 <sup>*2</sup> 2	2	国文学 <sup>*2</sup> 2	2	2	卒業研究 <sup>*4</sup> 10	10	18					
		2-b	英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。	英語Ⅰ 2 英語演習 2	3	英語Ⅱ 2 英文法 2 英会話 1	3	英会話 1 英語 2	1	英語 <sup>*2</sup> 2 3	2	2	英語A <sup>*2</sup> 2 英語B <sup>*2</sup> 1	2	20					
		2-c	英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。							ドイツ語Ⅰ <sup>*2</sup> 2	2	2	2	ドイツ語ⅡA <sup>*2</sup> 2 ドイツ語ⅡB <sup>*2</sup> 1	2	5				
3	創造力豊かな開発型技術者	3-a	専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。	数学基礎Ⅰ 2 数学基礎Ⅱ 2 数学基礎Ⅲ 2 物理 2 化学 2 生物 1 自然のしくみ 1 論理のしくみ 1	2	線形代数Ⅰ 2 微積分Ⅰ 2 微積分Ⅱ 2 物理 3 化学 2	2	応用物理 2 微積分Ⅲ 2 微積分Ⅳ 2 統計Ⅰ 3 ポランテア活動論 2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	45	
		3-b	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	電子制御基礎 <sup>*2</sup> 1	1	情報処理 <sup>*2</sup> 2	2	情報処理 <sup>*2</sup> 2	2	2	2	2	2	卒業研究 <sup>*4</sup> 10	10	15				
		3-c	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	機械工作法 1 電子制御基礎 <sup>*2</sup> 1 設計製図 2 工作実習 <sup>*2</sup> 3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	67
		3-d	ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。					創造設計 <sup>*3</sup> 2	2	創造設計 <sup>*3</sup> 2 工場実習 <sup>*2</sup> 1	2	2	2	2	2	2	2	2	10	15
4	相手の立場に立ってものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。	工作実習 <sup>*2</sup> 3	3	倫理 <sup>*2</sup> 2 工作実習 <sup>*2</sup> 3	2	2	工学実験 <sup>*3</sup> 3 創造設計 <sup>*3</sup> 3	3	3	3	2	2	2	2	2	28		
		4-b	様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。	歴史 2 保健体育 2	2	2	2	1	保健体育 2	2	2	2	2	2	2	2	2	24		
		黒字	必修科目 A群科目 B群科目																	

(出典：学生課資料)

本科(修士課程)の学習・教育目標と対応科目 情報工学科(平成18年度入学者以降)															
No.	大目標	Sub.No.	学習・教育サブ目標	対応科目								合計 単位数			
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			第5学年		
				科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生かすための基礎的知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語Ⅰ <sup>*2</sup>	2	国語Ⅱ <sup>*2</sup>	2	国語Ⅲ <sup>*2</sup>	2	日本語表現 <sup>*2</sup>	2	法学 <sup>*2</sup>	2	28	
		1-b	様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。	地理	2	倫理 <sup>*2</sup>	2	政治・経済	2	哲学 <sup>*2</sup>	2	経済学	2		2
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	国語Ⅰ <sup>*2</sup>	2	国語Ⅱ <sup>*2</sup>	2	国語Ⅲ <sup>*2</sup>	2	日本語表現 <sup>*2</sup>	2	卒業研究 <sup>*4</sup>	10	20	
		2-b	英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。	英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	3	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ <sup>*2</sup>	2	英語A <sup>*2</sup>	2		1
		2-c	英語以外の外国語を用いて、簡単な用足することができる。	英文法Ⅰ	1	英文法Ⅱ	2	英文法Ⅲ	2		1	英語B <sup>*2</sup>	2		
3	創造力豊かな開発型技術者	3-a	専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。	数学基礎Ⅰ	2	線形代数Ⅰ	1	物理学基礎Ⅰ	1	物理学基礎Ⅲ	1	数値解析Ⅱ	1	41	
				数学基礎Ⅱ	2	線形代数Ⅱ	1	物理学基礎Ⅱ	1	物理学実験	1		1		
				数学基礎Ⅲ	1	微積分Ⅰ	2	微積分Ⅲ	2	応用数学	1		1		
				数学基礎Ⅳ	1	微積分Ⅱ	2	微積分Ⅳ	2	ベクトル解析	1		1		
				物理Ⅰ	1	物理Ⅲ	2	統計学Ⅰ	1	数値解析Ⅰ	1		1		
		物理Ⅱ	1	物理Ⅳ	1		1	線形代数	1		1				
		化学Ⅰ	1	化学Ⅲ	1		1	微分方程式	1		1				
		化学Ⅱ	1	化学Ⅳ	1		1	統計学Ⅱ	1		1				
		生物	1					数学演習	1		1				
								宇宙科学概論	1		1				
								物理学演習	1		1				
		3-b	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	コンピュータリテラシ	1					応用実験 <sup>*3</sup>	1	卒業研究 <sup>*4</sup>	10	12	
		3-c	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	情報基礎	2	情報処理Ⅱ	2	計測工学	1	音声情報処理	2	制御工学	2	72	
				創造教室 <sup>*2</sup>	1	論理回路	2	電子回路	2	数値解析Ⅰ	1	システム設計学 <sup>*2</sup>	2		
				情報処理Ⅰ	2	工学実験 <sup>*3</sup>	3	情報処理Ⅲ	2	情報理論	2	数値解析Ⅱ	1		
				電気磁気学	1	電気磁気学	1	言語処理系	2	データ構造とアルゴリズム	2	電気通信特論	2		
				電気回路	1	電子計算機Ⅰ	1	電子計算機Ⅱ	2	オペレーティングシステム	2	情報工学特論Ⅰ	1		
						工学実験 <sup>*3</sup>	4	システム工学	4	システム工学	2	情報工学特論Ⅱ	1		
						電気磁気学	2	通信工学	2	システム工学特論Ⅰ	2	システム工学特論Ⅱ	1		
						電気回路	2	電子計算機Ⅱ	2	品質信頼性工学	2	品質信頼性工学	1		
								計算機アーキテクチャ	2	工学実験 <sup>*3</sup>	2	工学実験 <sup>*3</sup>	1		
								情報技術応用Ⅰ	1	情報素子工学	2	情報素子工学	2		
								情報技術応用Ⅱ	1	集積回路工学	1	集積回路工学	1		
								工学実験 <sup>*3</sup>	4	システム工学特論Ⅱ	4	システム工学特論Ⅱ	1		
								応用実験 <sup>*3</sup>	1						
		3-d	ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。	創造教室 <sup>*2</sup>	1					応用実験 <sup>*3</sup>	1	システム設計学 <sup>*2</sup>	2	15	
										工場実習 <sup>*2</sup>	1	卒業研究 <sup>*4</sup>	10		
4	相手の立場に立つてものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。	倫理 <sup>*2</sup>	2	工学実験 <sup>*3</sup>	3	工学実験 <sup>*3</sup>	4	哲学 <sup>*2</sup>	2	法学 <sup>*2</sup>	2	24	
		4-b	様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立つて物事を考えることができる。	歴史	2	保健体育	2	保健体育	2	文学概論 <sup>*2</sup>	2	比較文化概論A	1		2
				保健体育	2					現代史	2	比較文化概論B	1	1	
										保健体育	1	保健体育	1	1	
										英語Ⅳ <sup>*2</sup>	2	体育	1	2	
										ドイツ語Ⅰ <sup>*2</sup>	2	英語A <sup>*2</sup>	2	1	
										韓国語Ⅰ <sup>*2</sup>	2	英語B <sup>*2</sup>	2	1	
										中国語Ⅰ <sup>*2</sup>	2	ドイツ語Ⅱ <sup>*2</sup>	2	2	
												韓国語Ⅱ <sup>*2</sup>	2	2	
												中国語Ⅱ <sup>*2</sup>	2	2	

黒字 必修科目  
A群科目  
B群科目

(出典：学生課資料)

本科(准学士課程)の学習・教育目標と対応科目 情報工学科(平成17年度入学者まで)

No.	大目標	Sub. No.	学習・教育サブ目標	対応科目										合計 単位数
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		
				科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生きるための基礎的知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語Ⅰ <sup>*2</sup> 地理 美術 音楽	2 2 2 2	国語Ⅱ <sup>*2</sup> 倫理 <sup>*2</sup>	2 2	国語 <sup>*2</sup> 政治・経済	2 2	国文学 <sup>*2</sup> 哲学 <sup>*2</sup> 倫理学 <sup>*2</sup>	2 2 2	法学 <sup>*2</sup> 経済学 政治学	2 2 2	28
		1-b	様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。			工学実験 <sup>*3</sup>	3	工学実験 <sup>*3</sup>	4	工学実験 <sup>*3</sup>	4	卒業研究 <sup>*4</sup> 工学実験 <sup>*3</sup>	10 2	23
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	国語Ⅰ <sup>*2</sup>	2	国語Ⅱ <sup>*2</sup>	2	国語 <sup>*2</sup>	2	国文学 <sup>*2</sup>	2	卒業研究 <sup>*4</sup>	10	18
		2-b	英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意見を英語で伝えることができる。	英語Ⅰ 英語演習	3 2	英語Ⅱ 英文法 英会話	3 2 1	英会話 英語	1 3	英語 <sup>*2</sup>	2	英語A <sup>*2</sup> 英語B <sup>*2</sup>	2 1	20
		2-c	英語以外の外国語を用いて、簡単な用字をすることができる。							ドイツ語Ⅰ <sup>*2</sup>	2	ドイツ語ⅡA <sup>*2</sup> ドイツ語ⅡB <sup>*2</sup>	2 1	5
3	創造力豊かな開発型技術者	3-a	専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。	数学基礎Ⅰ	2	線形代数Ⅰ	2	応用物理	2	応用物理	2	応用数学Ⅱ	1	45
				数学基礎Ⅱ	2	微積分Ⅰ	2	微積分Ⅲ	2	応用数学Ⅰ	2	数値解析	1	
				数学基礎Ⅲ	2	微積分Ⅱ	2	微積分Ⅳ	2	線形代数Ⅱ	1			
				物理	2	物理	2	統計Ⅰ	1	微分方程式	1			
		化学	1	化学	2	統計Ⅱ	1	ポラリティ活動論	1	統計学Ⅱ	1			
生物	1							数学演習	1					
自然のしくみ	1							宇宙科学概論	1					
論理のしくみ	1							物理学演習	1					
									ベクトル解析	1				
3-b	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	技術実習	1					応用実験 <sup>*3</sup>	1	卒業研究 <sup>*4</sup>	10	12		
3-c	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	国学	1	情報処理Ⅱ	2	計測工学	1	多変量解析	2	制御工学	2			
		情報基礎	2	論理回路	2	電子回路	2	数値解析Ⅰ	1	システム設計学 <sup>*2</sup>	2			
		創造教室	1	工学実験 <sup>*3</sup>	3	情報処理Ⅲ	3	電子回路	2	数値解析Ⅱ	1			
情報処理Ⅰ	2	電気磁気学	1	機械工学概論	2	情報理論	2	電気通信特論	2	電気通信特論	2			
技術実習	1	電気回路	1	システムプログラムⅠ	1	システムプログラムⅡ	2	データ構造論	2	データ構造論	2			
						電子計算機Ⅰ	2	システム工学	2	計算機アーキテクチャ	2			
						工学実験 <sup>*3</sup>	4	通信工学	2	情報工学特論Ⅰ	2			
						電気磁気学	2	電子計算機Ⅱ	2	システム工学特論Ⅰ	1			
						電気回路	2	工学実験 <sup>*3</sup>	4	情報工学特論Ⅱ	1			
								工学演習	1	品質信頼性工学	1			
								応用実験 <sup>*3</sup>	1	工学実験 <sup>*3</sup>	2			
								電気回路	1	情報素子工学	2			
										集積回路工学	1			
										システム工学特論Ⅱ	1			
3-d	ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。	創造教室	1					応用実験 <sup>*3</sup> 工場実習 <sup>*2</sup>	1 1	システム設計学 <sup>*2</sup> 卒業研究 <sup>*4</sup>	2 10		15	
4	相手の立場に立ってものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。	倫理 <sup>*2</sup> 工学実験 <sup>*3</sup>	2 3	倫理 <sup>*2</sup> 工学実験 <sup>*3</sup>	2 3	哲学 <sup>*2</sup> 倫理学 <sup>*2</sup> 工学実験 <sup>*3</sup> 工場実習 <sup>*2</sup>	4 2 4 1	法学 <sup>*2</sup> 工学実験 <sup>*3</sup>	2 2		22	
		4-b	様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。	歴史 保健体育	2 2	歴史 保健体育	1 2	保健体育 現代史 保健体育 英語 <sup>*2</sup> ドイツ語Ⅰ <sup>*2</sup>	2 2 1 2 2	保健体育 体育 英語A <sup>*2</sup> 英語B <sup>*2</sup> ドイツ語ⅡA <sup>*2</sup> ドイツ語ⅡB <sup>*2</sup>	1 1 2 1 2 1		24	
		黒字	必修科目											
			A群科目											
			B群科目											

(出典：学生課資料)

本科(修士課程)の学習・教育目標と対応科目 土木工学科(平成18年度入学者以降)

No.	大目標	Sub No.	学習・教育サブ目標	対応科目										合計 単位数				
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年						
				科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数					
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生かすための基礎的知識を身に付け、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語Ⅰ <sup>*2</sup> 2 地理 2 美術 2 音楽 2	2	国語Ⅱ <sup>*2</sup> 2 倫理 <sup>*2</sup> 2 地学 2	2	国語Ⅲ <sup>*2</sup> 2 政治・経済 2 1	2	日本語表現 <sup>*2</sup> 2 哲学 <sup>*2</sup> 2 倫理学 <sup>*2</sup> 2	2	2	法学 <sup>*2</sup> 2 経済学 2 政治学 2	2	29			
		1-b	様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。					土質工学実験 <sup>*3</sup> 2 材料学実験 <sup>*3</sup> 2	2	2	環境工学Ⅰ <sup>*2</sup> 2 構造工学実験 <sup>*3</sup> 2 水理学実験 <sup>*3</sup> 2 環境工学実験 <sup>*3</sup> 2 鉄筋コンクリート工学実験 <sup>*3</sup> 1	2	2	卒業研究 <sup>*4</sup> 1 環境工学Ⅱ <sup>*2</sup> 1 農観設計 <sup>*3</sup> 2 土木史 1	9	22		
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	国語Ⅰ <sup>*2</sup> 2	2	国語Ⅱ <sup>*2</sup> 2	2	国語Ⅲ <sup>*2</sup> 2	2	日本語表現 <sup>*2</sup> 2 文学概論 <sup>*2</sup> 2	2	2	卒業研究 <sup>*4</sup> 1	9	19			
		2-b	英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。	英語Ⅰ 2 英文法Ⅰ 1 英語演習Ⅰ 2	2	英語Ⅱ 3 英文法Ⅱ 2 英語演習Ⅱ 1	3	英語Ⅲ 2 英文法Ⅲ 2 英語演習Ⅲ 1	2	英語Ⅳ <sup>*2</sup> 2 1	2	2	英語A <sup>*2</sup> 1 英語B <sup>*2</sup> 1	2	21			
		2-c	英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。							ドイツ語Ⅰ <sup>*2</sup> 2 韓国語Ⅰ <sup>*2</sup> 2 中国語Ⅰ <sup>*2</sup> 2	2	2	ドイツ語Ⅱ <sup>*2</sup> 2 韓国語Ⅱ <sup>*2</sup> 2 中国語Ⅱ <sup>*2</sup> 2 外書輪講 1	2	2	13		
3	創造力豊かな開発型技術者	3-a	専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。	数学基礎Ⅰ 2 数学基礎Ⅱ 2 数学基礎Ⅲ 1 数学基礎Ⅳ 1 物理Ⅰ 1 物理Ⅱ 1 化学Ⅰ 1 化学Ⅱ 1 生物 1	2	線形代数Ⅰ 2 線形代数Ⅱ 1 微積分Ⅰ 2 微積分Ⅱ 2 物理Ⅲ 1 物理Ⅳ 1 化学Ⅲ 1 化学Ⅳ 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	41	
		3-b	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	情報処理Ⅰ 2				情報処理Ⅱ 2	2	2	2	2	2	2	2	2	18	
		3-c	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	土木工学概論 1 測量Ⅰ 2 測量Ⅱ 2 測量学実習Ⅰ <sup>*2</sup> 2 基礎製図 1 応用力学 1 応用力学演習 1 材料学 1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	70
		3-d	ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。															
4	相手の立場に立つてものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。	測量学実習Ⅰ <sup>*2</sup> 2	2	倫理 <sup>*2</sup> 2 測量学実習Ⅱ <sup>*2</sup> 2	2	2	2	土質工学実験 <sup>*3</sup> 2 材料学実験 <sup>*3</sup> 2	2	2	2	2	2	22		
		4-b	様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立つて物事を考えることができる。	歴史 2 保健体育 2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	35	

黒字 必修科目  
A群科目  
B群科目

(出典：学生課資料)



本科(準学士課程)の学習・教育目標と対応科目 土木工学科(平成17年度入学者まで)

No.	大目標	Sub No.	学習・教育サブ目標	対応科目										合計単位数
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		
				科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生きるための基礎的知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語Ⅰ <sup>*2</sup> 地理 美術 音楽	2 2 2 2	国語Ⅱ <sup>*2</sup> 倫理 <sup>*2</sup> 地学	2 2 1	国語 <sup>*2</sup> 政治・経済	2 2	国文学 <sup>*2</sup> 哲学 <sup>*2</sup> 倫理学 <sup>*2</sup>	2 2 2	法学 <sup>*2</sup> 経済学 政治学	2 2 2	29
		1-b	様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。					土質工学実験 <sup>*3</sup> 材料学実験 <sup>*3</sup>	2 2	環境工学Ⅰ <sup>*2</sup> 構造工学実験 <sup>*3</sup> 水理学実験 <sup>*3</sup> 環境工学実験 <sup>*3</sup> 鉄筋コンクリート工学実験 <sup>*3</sup>	2 2 1 1 1	卒業研究 <sup>*4</sup> 環境工学Ⅱ <sup>*2</sup> 意匠設計 <sup>*2</sup> 土木史	9 1 1 1 1	21
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	国語Ⅰ <sup>*2</sup>	2	国語Ⅱ <sup>*2</sup>	2	国語 <sup>*2</sup>	2	国文学 <sup>*2</sup>	2	卒業研究 <sup>*4</sup>	9	17
		2-b	英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。	英語Ⅰ 英語演習	3 2	英語Ⅱ 英文法 英会話	3 2 1	英会話 英語	1 3	英語 <sup>*2</sup>	2	英語A <sup>*2</sup> 英語B <sup>*2</sup>	2 1	20
		2-c	英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。							ドイツ語Ⅰ <sup>*2</sup>	2	ドイツ語ⅡA <sup>*2</sup> ドイツ語ⅡB <sup>*2</sup>	2 1	5
3	創造力豊かな開発型技術者	3-a	専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。	数学基礎Ⅰ 数学基礎Ⅱ 数学基礎Ⅲ 物理 化学 生物 自然のしくみ 論理のしくみ	2 2 2 2 2 1 1 1	線形代数Ⅰ 微積分Ⅰ 微積分Ⅱ 物理 統計Ⅰ	2 2 2 3 1	応用物理 微積分Ⅱ 微積分Ⅳ 統計Ⅰ ポラティア活動論	2 2 2 3 1	応用物理Ⅱ 応用数学Ⅰ 数値解析Ⅰ 線形代数Ⅱ 微分方程式 統計学Ⅱ 数学演習 宇宙科学概論 物理学演習	2 2 1 1 1 1 1 1	応用数学Ⅱ 数値解析Ⅱ	1 1	46
		3-b	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	情報処理Ⅰ	2			情報処理Ⅱ	2	構造物設計 <sup>*3</sup> 情報工学概論	2 1	卒業研究 <sup>*4</sup> 構築設計 <sup>*3</sup>	9 2	18
		3-c	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	土木工学概論 測量Ⅰ 測量学実習Ⅰ	1 2 3	測量学Ⅱ 測量学実習Ⅱ 応用力学 材料学	2 3 1 1	構造力学Ⅰ 水理学Ⅰ 土質力学Ⅰ 土質工学実験 <sup>*3</sup> 材料学実験 <sup>*3</sup> 基礎製図 環境生態学 <sup>*3</sup>	4 2 2 # 2 2 1	構造力学Ⅱ 鋼構造工学 耐震工学 <sup>*3</sup> 水理学Ⅱ #水理学実験 <sup>*3</sup> 環境工学Ⅰ <sup>*2</sup> 環境工学実験 <sup>*3</sup> 土質力学Ⅱ	2 2 1 1 2 1 1	応用測量学 応用測量学実習 耐震工学 河川工学 海岸工学 環境工学Ⅱ <sup>*2</sup> 土木計画学 交通工学 施工Ⅱ 施工管理学 構築設計 <sup>*3</sup> 建築学概論 機械工学概論 電気工学概論 工学演習	1 1 1 1 1 2 2 1 1 1 1	68
		3-d	ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。							構造物設計 <sup>*3</sup>	2	卒業研究 <sup>*4</sup> 構築設計 <sup>*3</sup> 意匠設計 <sup>*2</sup>	9 2 1	14
4	相手の立場に立ってものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。	測量学実習Ⅰ	3	倫理 <sup>*2</sup> 測量学実習Ⅱ	2 3	環境生態学 <sup>*2</sup> 土質工学実験 <sup>*3</sup> 材料学実験 <sup>*3</sup>	1 2 2	哲学 <sup>*2</sup> 倫理学 <sup>*2</sup> 構造工学実験 <sup>*3</sup> 水理学実験 <sup>*3</sup> 環境工学実験 <sup>*3</sup> 鉄筋コンクリート工学実験 <sup>*3</sup>	2 2 1 1 1 1	法学 <sup>*2</sup> 土木史 応用測量学実習	2 1 1	24
		4-b	様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。	歴史 保健体育	2 2	歴史 保健体育	1 2	保健体育	2	現代史 保健体育 英語 <sup>*2</sup> ドイツ語Ⅰ <sup>*2</sup>	2 1 2 2	保健体育 体育 英語A <sup>*2</sup> 英語B <sup>*2</sup> ドイツ語ⅡA <sup>*2</sup> ドイツ語ⅡB <sup>*2</sup>	1 1 2 1 2 1	24
		黒字	必修科目 A群科目 B群科目											

(出典：学生課資料)

## 材料力学の基礎・基本

## 1. 材料力学の基礎・基本の項目数

	分野	A	B	C	項目数計
3 学年 (2 単位)	序論	2	2	0	4
	力学	13	6	2	21
項目数計		15	8	2	25

## 2. 項目区分とその定義

項目区分	定 義
A	最優先で学力の定着を図る基礎・基本の中核部で、原則的に全受講生の 100 %理解を目指す。この部分は隣接教科や専門学科の要望を十分踏まえた内容とする。
B	本校教育に必要ではあるが、学生の理解度や時間的制約により、ある程度の割愛はやむを得ないとする部分である。その内容は A と同様に隣接教科や専門学科との調整が必要となる。
C	学問体系上必要で、上の A, B を補完する部分に相当する。この領域は教科担当者の専門家としての見識に依存する。

## 3. 項目とそれらの内容

分野	分類	項目	理解すべき内容	区分
序論	力学序論	応力とひずみ	応力とひずみの定義、引張・圧縮とせん断	A
		弾性体における応力とひずみの関係	フックの法則、ヤング率、ポアソン比	A
		工業用材料の機械的性質	引張試験、衝撃試験、疲労試験、クリープ試験	B
		安全率と許容応力	設計時における安全率の考え方	B
力学	引張と圧縮	軸荷重	棒の引張、自重による応力と変形	A
		引張・圧縮の不静定問題	不静定問題の解法	B
		熱応力と残留応力	温度変化や外力の作用による影響	A
	ねじり	丸棒のねじり	ねじりモーメント、ねじり応力、ねじれ角、比ねじれ角	A
		円形断面以外の断面を持つ軸のねじり	楕円形断面、長方形断面	B
		コイルばね	コイル半径、巻き角、有効巻数、ばね定数	A

(出典：本科授業科目の基礎基本 172項)

(分析結果とその根拠理由)

教育課程は、各学科に共通する一般科目及び学科毎の専門科目からなり、低学年では一般科目を、高学年では専門科目を多く配置している。また、各科目間における連携も考慮して、専門科目を効率よく修得できるように科目が配置されている。なお、授業科目は各学習・教育目標に対応しており、その修得により学習・教育目標が達成できるようにしている。各科目の授業内容は、各科目の担当教員が高等学校及び大学で用いられている教科書や資格試験の参考書等を参考にしており、その内容及び水準も適切なものとなっている。

**観点5-1-②： 学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他学科の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施，専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。**

(観点到に係る状況)

進学士課程では、他大学及び他高専において履修した授業科目について修得した単位は、30単位を上限として単位認定している(資料5-1-②-1)。この趣旨に沿って、本校では、鹿児島県内の大学(資料5-1-②-2)及び九州の高専との単位互換協定(資料5-1-②-3)を結び、夏季休暇中に開講される授業交流(単位互換)科目を案内し、多くの学生が受講できるようにしている(資料5-1-②-4)。その実績として、平成17年度には34名の学生が、他大学で受講した科目について単位を認定されている(資料5-1-②-5)。

インターンシップについては、機械工学科、電子制御工学科、情報工学科において、4年次に1週間以上の工場実習を選択科目として教育課程に配置し(資料5-1-②-6～8)、単位認定を行っている(資料5-1-②-9)。

補充教育については、外国人留学生に対して国語等の授業を免除し、日本語教育の授業を行っている(資料5-1-②-10)。

#### 観点5-1-②資料一覧

(資料5-1-②-1) 学則	出典：規則集
(資料5-1-②-2) 鹿児島県内大学等との単位互換協定	出典：鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)に関する協定書
(資料5-1-②-3) 九州地区高専の単位互換協定	出典：九州沖縄地区9国立工業高等専門学校間における単位互換に関する協定書
(資料5-1-②-4) 集中講座の案内	出典：授業交流(単位互換)特別開設科目パンフレット
(資料5-1-②-5) 単位互換取得実績	出典：学生課資料
(資料5-1-②-6～8) 各学科のインターンシップのシラバス	出典：平成18年度シラバス
(資料5-1-②-9) インターンシップの実施実績	出典：学生課資料
(資料5-1-②-10) 外国人留学生振替・補充科目	出典：学生課資料

## ○ 鹿児島工業高等専門学校学則

(他の高等専門学校における授業科目の履修)

第31条 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が本校の定めるところにより他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を、30単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(高等専門学校以外の教育施設等における学修等)

第32条 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし、本校の定めるところにより単位の修得を認定することができる。

2 前項により認定することができる単位数は、前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

3 第1項の規定は、学生が、外国の大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。この場合において認定することができる単位数の合計数は30単位を超えないものとする。

(出典：規則集)

## 鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)に関する協定書

鹿児島大学、鹿児島体育大学、鹿児島国際大学、鹿児島純心女子大学、志学館大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島国際大学短期大学部、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島女子短期大学、鹿児島工業高等専門学校(以下「参加大学等」という。)は、次により授業交流(単位互換)を行うことに合意する。

(目的)

第1条 この協定は、参加大学等が、それぞれの特色ある授業科目の相互活用を通じ、学生の関心や学習意欲に応じてその能力を十分に伸ばすことにより、国際的視野・教養を備えた多様な人材の育成を目指すことを目的とする。

(基本方針)

第2条 この協定の基本方針は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 参加大学等は、「協力原理」の精神に基づいて授業協力を双方向的に実施し、県内全体における大学等の教育の充実を図る。
- (2) 参加大学等の創意工夫により、地域性や独自性豊かな特色ある授業科目を開発・提供し、授業内容をより豊かにして多様な学生の受講要求に応える。
- (3) 参加大学等の教育方針に基づいて編成される基本的な授業科目は、各々の大学等の責任において実施されるものであり、本授業交流(単位互換)が単に各参加大学等の基本的授業科目の不足を補うものになってはならない。

(呼称)

第3条 この協定に基づき実施する授業交流(単位互換)は、「KRICEキャンパス鹿児島」と称する。

(Kagoshima Regional Intercollegiate Credit Exchange) 「KRICE」

鹿児島 地域 大学間 単位 互換

(受入れ)

第4条 参加大学等に在学する学生が、他の参加大学等が指定する授業科目を履修し単位の修得を希望するときは、授業科目を開設する大学、短期大学及び高等専門学校(以下「科目開設大学等」という。)は、当該学生を可能な限り受け入れる。

(受入れ学生の身分及び呼称)

第5条 参加大学等が受け入れる学生は、身分は「特別聴講学生」であり、「単位互換履修生」と称する。

(授業料等)

第6条 単位互換履修生の検定料、入学科及び授業料は、徴収しない。

(覚書及び実施要領)

第7条 この協定による授業交流(単位互換)を円滑に実施するため、覚書及び実施要領を定める。

(有効期間)

第8条 この協定の有効期間は、平成14年4月1日から平成17年3月31日までとする。

2 この協定は、有効期間満了日の90日前までに、参加大学等から文書による申し出がない限り、3年間延長するものとし、その後において期間満了するときもまた同様とする。

(疑義等の協議)

第9条 この協定に定めのない事項又はこの協定に定める事項に疑義が生じたときは、参加大学等が協議して定める。

附則

この協定は、平成14年4月1日から実施する。

附則

この協定は、平成15年5月27日から実施する。

平成15年6月27日

鹿児島大学長 永田行博

鹿児島体育大学長 苅山秀太郎

鹿児島国際大学長 菱山泉

鹿児島純心女子大学長 稲井道子

志学館大学長 伊牟田純久

鹿児島県立短期大学長 堀田晴

鹿児島国際大学短期大学部長 菱山泉

鹿児島純心女子短期大学長 稲井道子

鹿児島女子短期大学長 光永公一

鹿児島工業高等専門学校長 前田滋

(出典：鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)に関する協定書)

九州沖縄地区 9 国立工業高等専門学校間における

単位互換に関する協定書

九州地区の9国立工業高等専門学校（以下「高専」という。）相互間の交流を通じ、教育研究  
 交流促進の一環として学生の学習環境の充実を図るとともに、学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上を支援するため、次により単位互換を行う。

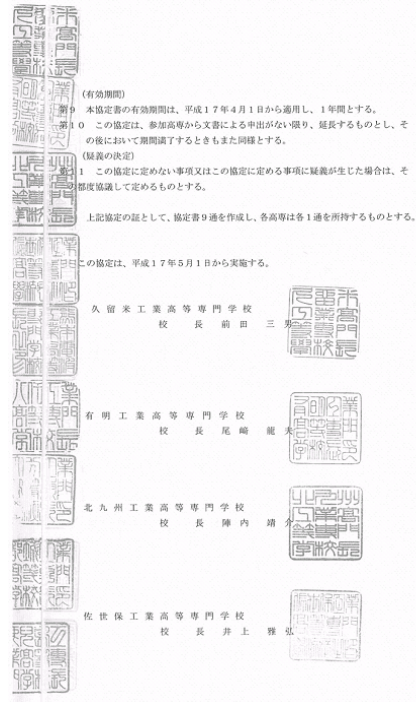
(参加高専)

第1 この協定に参加する高専は、次のとおりとする。

- (1) 久留米工業高等専門学校
- (2) 有明工業高等専門学校
- (3) 北九州工業高等専門学校
- (4) 佐世保工業高等専門学校
- (5) 熊本電設工業高等専門学校
- (6) 八代工業高等専門学校
- (7) 大分工業高等専門学校
- (8) 都城工業高等専門学校
- (9) 鹿児島工業高等専門学校

(受入れ)

- 第2 この協定により受入れる学生の身分は、特別聴講学生と称する。
- 第3 入学を希望する学生は、所属する高専の校長の承認を得たうえ、特別聴講学生入学願書を所定の期日までに所属する高専に提出しなければならない。
- 第4 第3の書類を受理した高専は、受入れ高専に、特別聴講学生として入学の許可を求める。
- 第5 受入れる学生数、受入れ手続きは、受入れ高専で決める。
- (成績評価)
- 第6 成績の評価については、受入れ高専で定める評価基準によるものとする。
- 第7 受入れ高専において取得した単位は、各高専の定めるところにより各高専の単位として認めることができる。
- (授業料等)
- 第8 特別聴講学生の検定料、入学科及び授業料は、相互に不徴収とする。



(出典：九州沖縄地区 9 国立工業高等専門学校間における単位互換に関する協定書)

平成17年度版

鹿児島県内の大学、短期大学、高専間の授業交流協議会主催

**授業交流（単位互換）特別開設科目**

かごしま県民交流センター会場 1科目（前期）  
 鹿児島大学会場 2科目（前期1、後期1）

申込期限：平成17年7月15日(金)迄  
 申込先：授業科目開設大学

皆様の受講をお待ちしています。  
 ◇科目は、提供校の特色が生かされています。  
 ◇開講形態も4日間で完結する科目や土曜日の午前中のみを使う開講とバラエティーに富んでいます。

■学生の皆様へ  
 ・学校によって取扱いに違いはありますが、単位を修得すれば、所属学校の単位として認められます。  
 申し込み前に所属学校で確認して、申し込んでください。  
 ・その他にも多数の単位互換科目があります。詳しくは、所属学校へお問い合わせください。

■一般の皆様へ  
 一般の方も一部の科目を除いて、無料で聴講できます。  
 科目担当学校へお気軽にお問い合わせください。  
 (単位認定や修書の発行は、いたしませんのでご了承ください。)

※授業交流(単位互換)実施校※  
 鹿児島大学・鹿児島体育大学・鹿児島国際大学・鹿児島純心女子大学・志摩館大学  
 鹿児島県立短期大学・鹿児島国際大学短期学部・鹿児島純心女子短期大学・鹿児島女子短期大学  
 鹿児島工業高等専門学校 以上10校

協議会事務局 鹿児島大学教務課教務係 電話：099-285-7351 ファックス：099-285-8808

鹿児島大学会場 後期

科目名	言語文化と精神文化	土曜日の午前中 計7回
■担当教員	鹿児島純心女子大学教員	
■受講期間	平成17年10月～12月の土曜日のうち、計7回	■受講時間 9:00～12:00
■授業形式	全学年	■単位数 2
■試験・評価方法	担当者ごとにテストレポートなどにより評価を累計する。	■受講費 60名
■特記事項	プログラムは、都合により変更することがあります。	

○一般の方は、定員に余裕がある場合、聴講できます。  
 ○申込先 学生は、所属学校、一般の方は、鹿児島純心女子大学(下記)へ申し込んでください。  
 ○連絡先 鹿児島純心女子大学教務課 電話：0996-23-5311

■授業概要など

- 第1回 アメリカ英語の方言 担当：三原晶生(国際人間学部)
- 「アメリカ英語」を主として語らう角庭はいくつかの方言グループに分けて概説する。
- 第2回 文学に表出される都市ウィーン 担当：仙波持子(国際人間学部)
- 都市ウィーンの構造や歴史をたどり、文学作品に見られる作家と都市の関係に焦点をあてる。
- 第3回 芥川龍之介の文学 担当：吉岡 暁(国際人間学部)
- 芥川文学の醍醐味を、(1)芥川龍之介の文学環境、(2)芥川龍之介の文学世界、の観点から考える。
- 第4回 フランス近代社会の読史 担当：丸木由美子(国際人間学部)
- 17世紀「古典主義」時代の文学作品を通して近代国家としてのフランスのアイデンティティを探る。
- 第5回 被害者・被災者の支援と日本の風土 担当：丸新一郎(大学院人間科学研究科)
- 人道でも宗教でも学問でも出来ない危機的状況に曝されるとトラウマ(心の傷)を被る。わが国における被害者、被災者のトラウマ支援の難しさと日本的精神的風土の関係を体験的に述べる。
- 第6回 特別支援教育と家庭・地域文化 担当：藤原尚子(国際人間学部)
- 従来の特殊教育から特別支援教育へと大きな教育的変化が展開されようとしている。障害児を抱える家庭や学校、地域社会の人間がどのような人間観(文化)を持つかが障害児発達の「鍵」を握っている。
- 第7回 スクールカウンセリングと学校文化 担当：池田久爾(国際人間学部)
- 学校臨床心理士のスクールカウンセラーが不登校のいじめなどの学校支援に活用されてから17年経つ。組織的な学校文化の中でカウンセリングなどのように活用され、役立っているのが、事例的に述べる。

全科目に共通のお知らせ  
 ※教室の収容人員の関係で、定員に達しだい締め切らせて頂きます。  
 ※かごしま県民交流センター、鹿児島大学へは公共交通機関でお越しください。  
 ※一般の方の聴講につきましては、単位認定や修書の発行は、いたしませんのでご了承ください。

会場案内

鹿児島大学会場 かごしま県民交流センター会場

(出典：授業交流（単位互換）特別開設科目 パンフレット)



## 平成17年度本科単位互換実績

No	学年学科	氏名	健康づくりの	素点	評価	社会福祉計	素点	評価	言語文化と	素点	評価
			ための運動 (単位数)			画論(単位 数)			精神文化 (単位数)		
1	4 土木工学科					1	70	良			失格
2	4 土木工学科					1	80	優			
3	4 土木工学科						50	不可			
4	4 土木工学科					1	70	良			
5	4 土木工学科						50	不可			
6	4 電気電子工学科			0	不可						
7	4 電気電子工学科					1	80	優	2	80	優
8	4 電気電子工学科								2	77	良
9	4 電気電子工学科										失格
10	4 電気電子工学科								2	72	良
11	4 電気電子工学科					1	80	優			
12	4 電気電子工学科					1	80	優			
13	4 電子制御工学科					1	80	優	2	81	優
14	4 電子制御工学科						50	不可	2	77	良
15	4 電子制御工学科					1	60	可			失格
16	4 電子制御工学科						0	不可	2	77	良
17	4 電子制御工学科						50	不可			
18	4 電子制御工学科					1	70	良			失格
19	4 電子制御工学科								2	81	優
20	4 電子制御工学科								2	79	良
21	4 電子制御工学科								2	72	良
22	4 電子制御工学科								2	78	良
23	4 電子制御工学科										失格
24	5 土木工学科					1	70	良			
25	5 電気工学科		1	70	良						
26	5 電気工学科		1	66	可						
27	5 電気工学科		1	60	可						
28	5 電気工学科			52	不可						
29	5 電気工学科						50	不可			
30	5 電気工学科					1	70	良			
31	5 電気工学科					1	60	可			
32	5 電気工学科					1	70	良			
33	5 電気工学科					1	80	優			
34	5 電気工学科					1	80	優			
35	5 電気工学科					1	60	可			
36	5 電気工学科					1	60	可			
37	5 機械工学科			49	不可						
38	5 機械工学科			0	不可						
39	5 機械工学科			0	不可						
40	5 機械工学科		1	70	良						
41	5 機械工学科			辞退							
42	5 機械工学科			辞退							
43	5 機械工学科			0	不可						
44	5 機械工学科		1	60	可						
45	5 機械工学科			42	不可						
46	5 電子制御工学科		1	70	良						
47	5 電子制御工学科		1	65	可						

(出典：学生課資料)

## 機械工学科

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	4年次・夏季休業中・実習
工場実習 (Training in Manufacture)	担当教官	江崎秀司 (Esaki, Shuji)
	教官室	機械工学科棟2階 (tel 42-9108)
	電子メールアドレス	esaki@kagoshima-ct.ac.jp
単位の種別と単位数 学習時間と回数	履修単位：1単位 実習〔30時間以上〕	
【本科目の目標】 企業活動を実際に体験することにより、以下の事項を目標とする。 1. 社会人として必要な生活態度、責任ある行動を身に付ける。 2. 実社会の生産現場において、技術がどのように利用され開発されていくのかを実習し、勉学の意味と目標を理解する。 3. 企業の組織及び人間関係についても学習する。 4. 将来の職業選択の手掛かりをつかむ。		
【本科目の位置付け】 機械工作法や工作実習で学習した知識が必要である。本科目を修得した場合、技術が社会及び自然に及ぼす影響・効果に関する理解や責任など、技術者として社会に対する責任を自覚する能力が養われる。		
【学習上の留意点】 上記の目標を十分に理解し、当該企業の規律・規則に従うこと。 1. 社会人に見合う良識と節度ある行動、当該企業の人々とのコミュニケーションに努めること。 2. 事前に「工場実習の誓約書」を提出すること。 3. 実習終了後は直ちに、「工場実習報告書」を提出すること。 4. 詳細は別紙「工場実習の心得」に従うこと。 5. 万一の事故などに備え、災害傷害保険等へ加入することが望ましい。		
【授業の内容】		
授業要目	時限数	理解すべき内容
当該企業の与えるテーマ	1～2 週間程 度	実習先企業の選定や人事担当者との連絡は自分で確実に行うこと。そのような事務処理能力が実社会では必要とされる。また、実習課題の遂行に際しては、自ら考え、検討し、不明な点は調査・質問して、積極的に問題解決を図る姿勢が望まれる。
【教科書】 当該企業から提示される資料		
【参考書・同上】		
【成績評価】 当該企業の指導責任者による評価や実習報告書をもとに合否で評価		
【本科（準学士課程）の学習教育目標との関連】 3-d, 4-a		
【JABEEとの関連】 (d) (2) c) d)		

(出典：平成18年度シラバス 147項)



資料5-1-②-7

電子制御工学科

平成18年度シラバス	学年・期間・教育の形態	4年生・夏期休業期間・1単位
工場実習 (Factory Training)	担当教員	4年生担任教官
	教員室	
	電子メールアドレス	
単位の種別と単位数	学修単位：1単位	
学習時間と回数		
【本科目の目標】 約1週間の期間をもって、企業に出向き実際の会社での業務にふれて実社会での活動を体験し、また実学的な経験を会得する。		
【本科目の位置付け】 企業での業務を経験することによりどのようなことが実社会では求められているかを判断し、今後の学習に生かす。		
【学習上の留意点】 企業では学生のために時間と労力を割いてくださるので、そのことを念頭に、礼儀に失することなく社会人としてのマナーを考えながら行動すること。また、実習中は積極的に質問し実学を吸収することにつとめる。		
【授業の内容】		
授業要目	時限数	理解すべき内容
原則として協力企業に約1週間程度出向き、受け入れ企業から提供される実習テーマに基づいて実習を行う。		
【教科書】 なし 【参考書・補助教材】 プリント 【成績評価】レポート(100%) ← 授業態度 【本科(準学士課程)の学習教育目標との関連】3-d, 4-a 【JABEEとの関連】(d)(2)(d)		

(出典：平成18年度シラバス 277項)

資料5-1-②-8

情報工学科

平成18年度シラバス	学年・期間・教育の形態	4年次・前期・実習
工場実習 (OJT: On the Job Training)	担当教員	変込 一秀 (Dougome, Kamihide)
	教員室	情報工学科棟4階 (tel 0995-42-9096)
	電子メールアドレス	dougome@kagoshima-ct.ac.jp
単位の種別と単位数	履修単位：1単位	
学習時間と回数	授業(100分)×15回 相当	
【本科目の目標】 企業活動を実体験することにより、 1. 企業における先端的な技術と高専における学業の関係を把握すること 2. 社会人として必要な生活態度と責任ある行動様式を身に付けること 3. 将来の職業選択の手がかりを掴むこと 等を目標とする。		
【本科目の位置付け】 これまでに学習してきた科目の内容が、実社会でどのように応用され、役立っているかを体験し、学校における他学の意義を再認識する。また、実社会で必要とされるマナー、態度、行動について理解を深め、社会人としての常識を身に付ける。		
【学習上の留意点】 本科目は受け入れ企業の多大な協力によって成立している。学生はこのことを忘れることなく、与えられた課題に真摯な気持ちで、誠実かつ積極的に取り組むことが大切である。いわゆる学生気分は捨て、社会人に見合う責任ある行動をとり、職場内でのコミュニケーションに努めること。また、実習終了後は直ちに報告書を提出すること。		
【授業の内容】		
授業要目	時限数	理解すべき内容
当該企業の与えるテーマ	約2週間	実習先企業の選定や人事担当者との連絡は自ら確実に行うこと。また、実習課題の遂行に際しては、自ら考え、検討し、不明の点は調査、質問し、積極的に問題解決を図ること。
【教科書】 当該企業から提示される資料等。 【参考書・補助教材】 特指定しない。 【成績評価】 当該企業の指導者による評価(70%) + 本校担当者による実習報告書の評価(30%) 【本科(準学士課程)の学習教育目標との関係】 3-c, 4-a 【JABEEとの関連】 (d)(2)(c), (d)(2)(d)		

(出典：平成18年度シラバス 337項)

資料5-1-②-9

平成16, 17年度の工場実習(インターンシップ)の実施実績

		機械 工学科	電気電子 工学科	電子制御 工学科	情報 工学科	土木 工学科	合計
平成16年度	実施企業数	15	5	10	9	2	41
	受講者数	18	7	19	14	2	60
	単位認定者数	18	-	19	14	-	51
平成17年度	実施企業数	17	4	13	6	2	42
	受講者数	22	4	13	9	3	51
	単位認定者数	22	-	13	9	-	44

(出典：学生課資料)

## 外国人留学生振替・補充科目

## 1. 平成18年度留学生（6名）

3年 C ██████████ (インドネシア)

4年 S ██████████ (タイ)

5年 M ██████████ (マレーシア)  
S ██████████ (マレーシア)  
I ██████████ (イラン)  
C ██████████ (カンボジア)

## 2. 平成18年度留学生教育課程（免除科目、振替補充科目）

免除科目であっても本人が受講を希望した場合は、単位認定の対象科目にしています。

## 【3年】1名（C）

## 《一般科目》

免除科目	単位
国語（共通）	2
政治・経済（共通）	2

振替補充科目	単位	担当	実施曜日・時間	実施場所
日本語・日本語事情	2	清水先生(4年と合併)	月曜 9・10限	専攻科棟1階
日本語	1	清水先生	金曜 9・10限	" "
日本語（選択）	(1)	清水先生(4年と合併)	金曜 10限	" "
数学（共通）	2	藤崎先生	水曜 8・9限	藤崎教員室
物理（共通）	1	丸山先生	木曜 2限	丸山教員室
材料学（C）	1	原口先生	木曜 1・2限	原口教員室
応用力学（C）	1	内谷先生	木曜 1・2限	内谷教員室
測量学（C）	1	山内先生	金曜 3・9限	山内教員室

## 【4年】1名（S）

## 《一般科目》

免除科目	単位
国文学	2
哲学・倫理学・現代史	2

振替補充科目	単位	担当	実施曜日・時間	実施場所
日本語・日本語事情	2	清水先生(3年と合併)	月曜 9・10限	専攻科棟1階
日本語（選択）	(1)	清水先生(3年と合併)	金曜 10限	" "

## 【5年】4名（M・S・I・C）

## 《一般科目》

法学・経済学・政治学は、いずれも選択しないでも可。

## 3. 申し合わせ事項

留学生の進級判定は、一般学生と同様に行うが、一般に日本語能力が充分でないので、評価に当たっては、留年しないように各学科で補習を実施するなど配慮する。 以上

## 《専門科目》

必要があれば当該学科で学年・科目名・単位・担当者・実施曜日と時間等を計画し、月 日（ ）までに学生課教務係へ「文書」で報告して下さい。

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

鹿児島県内の大学及び九州地区の他高専との単位互換を行っている。また、学生のニーズへの対応として、インターンシップを実施し、所定の単位を認定している。さらに、留学生のニーズに対応するために、日本語や日本文化についての補充教育を行っている。

以上のことから、本校の準学士課程は、学生のニーズ、学術の発展動向、社会からの要請に対して、教育課程の編成を十分に配慮している。

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

（観点に係る状況）

（a）教育の目的に照らした授業形態のバランスについて

本校の教育の目的である学習・教育目標を達成させるために、それぞれの目標ごとに講義、演習、実験・実習科目をバランスよく配置している（資料5-2-①-1）。

「人類の未来と自然との共存をデザインする技術者」の育成では、様々な知識の修得と多面的な思考能力の養成を図るとともに、実社会で生じる様々な課題の解決に身につけた知識を活かせるように、演習、実験・実習も割り当てている。

「グローバルに活躍する技術者」の育成では、プレゼンテーション能力を向上させるために、英語の総単位数の約20%が演習となっている（資料5-1-①-1）。

「創造力豊かな開発型技術者」の育成では、専門分野の知識の修得と創造性の涵養のために、演習及び実験・実習（卒業研究を含む）が多く配置されており、この分野の総単位数の約30%を占めている。

「相手の立場に立ってものを考える技術者」の育成では、技術者の社会的責任の基礎や様々な文化・価値観を理解させ、また、実社会における技術者の直面する問題の理解を深めさせるために、実験・実習も割り当てている。

（b）学習指導法の工夫

各学習・教育目標に割り当てられた科目については、それぞれ、その目標達成のための学習指導上の工夫を行っている。以下、その代表的な例を挙げる。

①実験・実習についての工夫

各学科ともPBL形式の実習が取り入れられており、また、実験・実習においては、「ものづくり」教育を実施しており、例えば、機械工学科では、1年生の工作実習においてものづくりの基本を修得させている（資料5-2-①-2）。

②英語学習についての工夫

本校では、実践的英語能力の向上を目的とした英語教育が実施されている（資料5-2-①-3）。その目的達成のため、3年生にはTOEIC-BRIDGEを、5年生にはIP-TOEIC（資料5-2-①-4）を受験させている。また、学生の英語学習のための補助教育教材として、学内ネットワークを利用した英語教育ソフトを導入している（資料5-2-①-5）。

③その他の科目における工夫

通常の講義においても、板書によるほか、プロジェクタや学内ネットワークを利用した形態の授業もあり（資料5-2-①-6）、また、設計・製図等については、CADを用いるなど（資料5-2-①-7）、それぞれの教育内容に応じた学習指導方法がとられている。

観点5-2-①資料一覧

- (資料5-2-①-1) 学習・教育目標に対する講義, 演習, 実験・実習のバランス 出典: 学生課資料
- (資料5-2-①-2) 工作実習のシラバス 出典: 平成18年度シラバス
- (資料5-2-①-3) 英語Aのシラバス 出典: 平成18年度シラバス
- (資料5-2-①-4) TOEIC 受験者数 出典: 英語科資料
- (資料5-2-①-5) ネットアカデミーの資料 出典: 英語科資料
- (資料5-2-①-6) 機械工作法のシラバス 出典: 平成18年度シラバス
- (資料5-2-①-7) 機械設計製図のシラバス 出典: 平成18年度シラバス

資料5-2-①-1

本科学習教育目標No.1~No.4に対する講義, 演習, 実験・実習の割合(平成17年度入学者まで)

学 科 名	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者				グローバルに活躍する技術者				創造力豊かな開発型技術者				相手の立場に立ってものを考える技術者				
	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	
機械工学科	合計単位数	21	8	14	43	23	11	10	44	62	38	45	145	21	2	23	46
	割合	48.8%	18.6%	32.6%	100.0%	52.3%	25.0%	22.7%	100.0%	42.8%	26.2%	31.0%	100.0%	45.7%	4.3%	50.0%	100.0%
電気電子工学科	合計単位数	20	8	20	48	23	10	8	41	72	28	38	138	21	2	21	44
	割合	41.7%	16.7%	41.7%	100.0%	56.1%	24.4%	19.5%	100.0%	52.2%	20.3%	27.5%	100.0%	47.7%	4.5%	47.7%	100.0%
電子制御工学科	合計単位数	21	8	21	50	23	10	10	43	65	29	48	142	23	2	27	52
	割合	42.0%	16.0%	42.0%	100.0%	53.5%	23.3%	23.3%	100.0%	45.8%	20.4%	33.8%	100.0%	44.2%	3.8%	51.9%	100.0%
情報工学科	合計単位数	20	8	23	51	23	10	10	43	66	31	52	149	21	2	23	46
	割合	39.2%	15.7%	45.1%	100.0%	53.5%	23.3%	23.3%	100.0%	44.3%	20.8%	34.9%	100.0%	45.7%	4.3%	50.0%	100.0%
土木工学科	合計単位数	25	8	17	50	23	10	9	42	68	35	43	146	23	2	23	48
	割合	50.0%	16.0%	34.0%	100.0%	54.8%	23.8%	21.4%	100.0%	46.6%	24.0%	29.5%	100.0%	47.9%	4.2%	47.9%	100.0%

本科学習教育目標No.1~No.4に対する講義, 演習, 実験・実習の割合(平成18年度入学者以降)

学 科 名	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者				グローバルに活躍する技術者				創造力豊かな開発型技術者				相手の立場に立ってものを考える技術者				
	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	講義	演習	実験・実習	累計	
機械工学科	合計単位数	21	8	14	43	34	11	10	55	70	33	41	144	33	2	23	58
	割合	48.8%	18.6%	32.6%	100.0%	61.8%	20.0%	18.2%	100.0%	48.6%	22.9%	28.5%	100.0%	56.9%	3.4%	39.7%	100.0%
電気電子工学科	合計単位数	20	8	22	50	33	10	8	51	73	27	36	136	33	2	23	58
	割合	40.0%	16.0%	44.0%	100.0%	64.7%	19.6%	15.7%	100.0%	53.7%	19.9%	26.5%	100.0%	56.9%	3.4%	39.7%	100.0%
電子制御工学科	合計単位数	21	8	21	50	33	10	10	53	66	29	45	140	34	2	27	63
	割合	42.0%	16.0%	42.0%	100.0%	62.3%	18.9%	18.9%	100.0%	47.1%	20.7%	32.1%	100.0%	54.0%	3.2%	42.9%	100.0%
情報工学科	合計単位数	20	8	23	51	33	10	10	53	67	26	49	142	34	2	23	59
	割合	39.2%	15.7%	45.1%	100.0%	62.3%	18.9%	18.9%	100.0%	47.2%	18.3%	34.5%	100.0%	57.6%	3.4%	39.0%	100.0%
土木工学科	合計単位数	25	8	18	51	33	11	9	53	65	40	41	146	34	2	20	56
	割合	49.0%	15.7%	35.3%	100.0%	62.3%	20.8%	17.0%	100.0%	44.5%	27.4%	28.1%	100.0%	60.7%	3.6%	35.7%	100.0%

(出典: 教務委員会資料)

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	1年次・通年・実習
工作実習 I (Hands-on Technical Training)	担当教員	権 保幸 (Shii, Yasuyuki)
	教員室	機械工学科棟 3 階 (tel 42-9104)
	電子メールアドレス	shii@kagoshima-ct.ac.jp
単位の種別と単位数 学習時間と回数	履修単位：3 単位 授業 150 分×30 回	
〔本科目の目標〕各種工作法の基礎実技習得を通して、理論と実際の対比、原理・原則に基づく仕組みの体得、応用力・判断力・総合力の養成を図り、あわせて安全作業の重要性を体得させる。		
〔本科目の位置付け〕座学の機械工作法で学習した理論と本科目での実践との有機的結合により、加工方法の原理や適切な材料選択および工作機械の運動について理解が深まり、実際の生産現場に適應できる技能能力が養成される。		
〔学習上の留意点〕実習心得を守り安全に作業すること。実習テーマの終了時に、担当者から実習レポートの提出の指示があるので、指示された日時までに必ず提出すること。また、報告書作成のために実習内容や実習手順等を実習ノートにメモしておくこと。		
〔授業の内容〕		
授業要目	時限数	理解すべき内容
1. 導入教育	3	(1) 工作実習の意義
2. 安全教育	3	(2) 実習に際しての注意事項と安全対策
3. 工具類の正しい使い方	12	(1) 計測器の使用法 (2) 切断工具の使用法 (3) ハンマ類の使用法 (4) スパナ類の使用法
4. 機械加工 (旋盤)	18	(1) 機械操作と機具、工具の取扱い (2) 課題の加工 (3) 測定工具の使用法と心出し (4) 丸削り、端面削り、段削り (5) 仕上げ記号の理解 (6) ネジ加工
5. 鋳造加工	18	(1) 現型による造型基本作業 (2) 分割・単体木型の造型及びその特徴 (3) 鋳物砂の試験 (4) 鋳型の作成 (5) 型ばらし、鋳仕上げ、検査 (6) 溶解鋳込み作業
6. 手仕上げ	12	(1) ハンマー振りの練習 (2) 丸鋼の切断 (3) ケガキ作業、ハツリ作業、ヤスリ作業 (4) 穴開け作業とネジ立て作業
7. 鍛造加工	6	(1) 大ハンマー振りの練習及び横座と先手の練習および自由鍛造法の基本作業の説明 (3) 加熱材の鍛錬
8. 溶接加工	18	(1) 溶接の種類等の説明及び機具、用具等の説明 (2) ガス機具の取扱い (3) ガス切断の実習 (4) ガス溶接の実習 (5) 被覆金属アーク溶接の実習とストレートビードの置き方 (6) ウィーピングビードの置き方と水平スミ肉溶接
〔教科書〕鹿児島高専実習書		
〔参考書・補助教材〕機械工作法で使用する教科書、電卓、筆記用具、メモ帳		
〔成績評価〕レポート評価 (50%) + 実習態度 (50%)		
〔本科 (準学士課程) の学習教育目標との関連〕 3-c, 4-a 〔JABEE との関連〕		

(出典：平成18年度シラバス 115項)

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	5年次・通年・講義
英語 A (English A)	担当教員	塚崎香織 (Tsukazaki, Kaori)
	教員室	図書館2階 (tel. 42-9061)
	電子メールアドレス	tukazaki@kagoshima-ct.ac.jp
単位の種別と単位数 学習時間と回数	学修単位：2単位 講義Ⅰ [授業 (100分) + 自学自習 (80分)] × 30 回	
【本科目の目標】 実用英語能力の向上を目指し、一例としてTOEIC400点を突破できる英語学力を養う。 TOEIC関連の語彙、文法、読解等の学習強化をはかる。		
【本科目の位置付け】 TOEIC400点以上相当の英語力を養うための学習コース。 4年生までに習得した英語（語彙・文法・読解等）の復習および発展・強化を主軸とする。		
【学習上の留意点】 授業開始時に確認小テスト、および課題（宿題）の答え合わせを行う。授業の中で解説を行い、理解定着に向けた演習問題（プリント問題）に取り組む。授業終了時に、次回授業までの課題指示、および確認小テストの連絡等を行う。よって、積極的な態度で予習・復習、その他、授業時に指示した課題に取り組むこと。		
【授業の内容】		
授 業 要 目	時 限	理解すべき内容
Part 1 日常生活1	4	語彙・文法・読解上の重要事項
日常生活2	4	語彙・文法・読解上の重要事項
日常生活3	4	語彙・文法・読解上の重要事項
まとめテスト(1)	4	語彙・文法・読解上の重要事項
Part 2 ビジネス	4	語彙・文法・読解上の重要事項
オフィス	4	語彙・文法・読解上の重要事項
コンピューター・株式	4	語彙・文法・読解上の重要事項
まとめテスト(2)	4	語彙・文法・読解上の重要事項
Part 3 健康・病気	4	語彙・文法・読解上の重要事項
旅行	4	語彙・文法・読解上の重要事項
車・交通	4	語彙・文法・読解上の重要事項
環境・科学	4	語彙・文法・読解上の重要事項
まとめテスト(3)	4	語彙・文法・読解上の重要事項
全体復習	8	語彙・文法・読解上の重要事項
【教科書】 (1) TOEICテストよくでる英単語・熟語800(450点レベル)、 (2) TOEICテスト スーパートレーニング リーディング編、(3) TOEIC TEST実戦マスター英文法		
【参考書・補助教材】 プリント		
【成績評価】 [定期試験成績 (60%) + 小テスト (40%)] - [授業態度 (上限20%)]		
【本科（準学士課程）の学習教育目標との関連】 2-b, 4-b		
【JABEEとの関連】 (f)		

(出典：平成18年度シラバス 96項)

## TOEIC-Bridge

実施日	受験学年	受験人数
2005.02.02	本科3年生	208
2006.01.25	本科3年生	202
2006.02.01	本科1年生	190

## IP-TOEIC

実施日	受験学年	受験人数
2003.12.17	本科5年生	187
2004.12.08	本科5年生	202
2005.12.06	本科5年生	181

(出典：英語科資料)



<21 世紀 オンライン英語学習の決定版>

*ALC NetAcademy*



### 1. ALC NetAcademy とは

ALC NetAcademy は LAN 環境で使用するネットワーク型の英語学習システムです。学内のサーバーに学習教材を置いてイントラネットを通じて受講者に教材を提供し、学習者は各コンピューターを利用して www ブラウザー上で学習を行います。コンピューターのよさである、文字・音声・画像を同時に扱うマルチメディア機能とインタラクティブ性を生かして効果的な英語学習を可能にしたイーラーニングシステムです。また、学習履歴や進捗、理解度テストの成績などをサーバーに記録することにより、管理者は随時把握することが可能です。

### 2. ALC NetAcademy コースラインナップ

#### スタンダードコース

リーディング・リスニング力強化のための全 110 ユニットの豊富な教材で、実践的な英語力を養成します。受講者はレベル診断テストや 5 段階のステップ学習により、個人のレベルや弱点に応じてオリジナルの多種多様な学習方法を設定することが可能です。本コースに含まれている TOEIC®模範テストは、本試験の 5 分の 1 サイズで短時間に本試験のスコアの目安を得ることができます。

#### 初級・中級者のための TOEIC®テストスコアアップコース

スタンダードコースをベースに、英語学習の初級・中級者に合わせた教材です。段階的かつ苦手の分野ごとに集中的に学習し基礎力強化を図ります。また約 800 問の TOEIC®テスト模試により、効果的な学習を実践していきます。

#### IT 時代の技術英語<基礎>コース

科学技術に関するトピックを教材に、日本語から英語へ 2 段階で英作文を行うことにより技術英語を学びます。また理工系に必須の基本語彙 1200 語以上を徹底学習するとともに、工業英検対策のオンライン試験を用意しました。

#### 基礎力養成のためのメディカル英語コース

基礎的な医学英語読解力・リスニング力・医学語彙を徹底修得します。またリスニングユニットでは、マルチメディアの特性を最大限に生かした Role-playing 機能を搭載して、会話形式による実際の診療英会話を学習します。また医学英語の基礎となる 1000 語を精選し、医学語彙の習得をめざします。

#### ライティング<基礎>コース

小さな情報のかたまり（チャンク）の日本語音声聞きながら英語の構造・語順を学び、ライティングの基礎力を養成します。また別出前置詞 15 をイラスト付きで学習し、英語表現の幅を広げます。

#### PowerWords オンラインコース

SVL 12,000 (=Standard Vocabulary List) 対応 CD-ROM 版 PowerWords が、イントラネット版としてリリースされました。レベル診断テスト、実力テスト、ゲーム、学習履歴機能等新しい機能を搭載しました。英語のもっとも基礎的な力となる英単語を効果的に身につける英単語学習システムです。

#### スタンダードコース 2002 年度版追加コース

従来のスタンダードコースに、リスニング・リーディングを各 30 ユニット、また TOEIC®テスト演習を 10 ユニットくわえ、更なる実践力養成を可能にします。

#### 【お問い合わせ先】

株式会社アルク教育社

東京都渋谷区渋谷 2-2-10 青山 H&A ビル 5F

担当：■■■

電話：03-5464-2811 E-mail：■■■■■■■■■■



(出典：英語科資料)



平成17年度 シラバス	学年・期間・単位数	1年次・後期(週2時間)・1単位
機械工作法 (Mechanical Technology)	担当教員	塚本公秀(Tsukamoto, Kimihide)
	教員室	機械工学科棟3階(tel 42-9106)
	電子メールアドレス	tsuka@kagoshima-ct.ac.jp
<p>〔本科目の目標〕本科目は平行して行われる実習作業の内容を体系的に学習する。機械工学の総括的知識を必要とするが、専門教科として最初の科目であることから、機械工学の専門用語に慣れること。 講義内容は加工対象の金属の性質、特に温度との関係を知り、各種工作法のうち鑄造法、塑性加工法についての基礎を理解する。</p>		
<p>〔本科目の位置付け〕同時開講の工作実習(1-3年)で学ぶ加工技術の実際的知識を本科目により体系化する。2,3年生までの通論となっている。また工作法で学んだ知識を以後の設計・製図などに効果的に用いる。</p>		
〔教育の形態〕講義		
<p>〔学習上の留意点〕講義時使用の内容はすべてhtmlで提供する。学内のサーバで提供するのでブラウザで学内・寮から随時閲覧可能である。また図書館等の参考書の利用が必要。これら資料を用いて専門教科の学習の方法を身につけること。復習として講義のノートを手上に作成すること(htmlのデータを利用して作成することが望ましい)。学習内容の確認小テストを実施するので授業内容の理解、専門語の英語表記について確実に学習すること。なお、後半は各人にテーマを与える。各自資料を調べ、まとめたレポートを提出(レポートはhtmlで公開)して短時間で発表をすることでプレゼンテーション力の開発も行う</p>		
〔授業の内容〕		
授業項目	時間数	理解すべき内容
ガイダンス	2	www掲示板の使い方・シラバスの見方
加工技術の歴史	3	機械工学における教科と工作法、実習と工作法の位置付け 日本の工作機械の歴史、世界の技術史 工作機械の開発と加工精度の関係 (レポート科学・加工技術の発展を歴史の中で比較する)
工業材料の概要	1	工業材料に必要な性質 機械材料の種類 金属が主要材料である理由
材料の機械的性質	3	材料の機械的性質 応力の考え方 硬度試験方法
金属の状態と結晶	2	金属の結晶構造・冷却曲線、合金の状態図 変態
	3	塑性変形と結晶構造
熱処理		針の熱処理実験金属の冷却速度と結晶構造・機械的性質
製鉄・製鋼	1	製鉄法 種類と構造、製鋼法
鑄鉄	1	鑄鉄の種類と性質・鑄鉄の種類・鑄鉄と鑄鋼の違い
鑄造法	6	砂型鑄造の概要・模型・鑄型の構造 鑄物砂・造形機械・溶解炉 電気炉 精密鑄造法 シェルモールド法、インベストメント鑄造法・ショープロセス、ダイカスト法、低加圧鑄造法、 鑄造工程管理 鑄物の設計・鑄造方案・鑄物の管理
塑性加工法	6	鍛造の概要・自由鍛造・型鍛造・鍛造用型 冷間鍛造・鍛造機械・鍛造の機械化 プレス加工の概要・せん断加工の機構・抜き型 曲げ加工・曲げによる材料の変形・ 型絞りりと材料の変形・絞り型・プレス機械 主な絞り加工法・軋造・押出し・圧延・引き抜き
トピックス	2	塑性加工の現場では 技能オリンピックとは (開講中に実施)
〔教科書〕機械工作1 嵯峨常生監修 実教出版株式会社		
〔参考書・補助教材〕馬場秋次郎編 機械工学必携 第8版 三省堂		
〔講義のホームページ〕 <a href="http://tsuka4.kagoshima-ct.ac.jp/~tsuka/1M/kohol.htm">http://tsuka4.kagoshima-ct.ac.jp/~tsuka/1M/kohol.htm</a>		
〔成績評価〕定期試験(中間試験を含む)(60%)＋レポート(15%)＋発表(15%)＋小テスト(10%)－授業態度(上限20%)		
〔本校の学習教育目標との関係〕3-3		
〔JABEEとの関連〕		

(出典：平成17年度シラバス 113項)

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	3年次・通年・講義+演習
機械設計製図 (Machine Design and Drawing)	担当教員	南金山 裕弘(Nakiyama, Yasuhiro)
	教員室	機械工学科棟3階(tel 42-9111)
	電子メールアドレス	<a href="mailto:nakiyama@kagoshima-ct.ac.jp">nakiyama@kagoshima-ct.ac.jp</a>
単位の種別と単位数 学習時間と回数	履修単位：3単位 授業(150分) x 30回	
<p>〔本科目の目標〕 1年次の図学、2年次の機械設計製図で学んだ製図方法を基礎にして、立体の概念及びアイソメトリック投影法による立体製図法を習得させる。またコンピュータ支援による製図(CAD)についても学習し、実際に立体製図を作図する。</p>		
<p>〔本科目の位置付け〕 立体の概念を理解し、三角法などの平面図では理解しがたい工作物の形状や組み合わせなどを理解することができる。</p>		
<p>〔学習上の留意点〕 アイソメトリック投影法をはじめ、新たにいくつかの図法を講義するが、講義終了後すぐに実際に作図をするため、図法に関する講義には特に集中を要する。</p>		
〔授業の内容〕		
授 業 要 目	時限数	理解すべき内容
1.テクニカルイラストレーションの画法	6	テクニカルイラストレーションの概要 (特徴、用途、基本作図技術など)
	6	アクソノメトリック投影法
	18	アイソメトリック投影法 アイソメトリック縮み尺 アイソメトリック分度器 アイソメトリック楕円 アイソメトリック線と非アイソメトリック線 アイソメトリック面と非アイソメトリック面
2.アイソメトリック投影図のCADによる製図実習	24	直線だけの立体製図
	18	曲面を含む立体製図
	18	部品で構成された製品の立体製図
<p>〔教科書〕 プリント貸与(アイソメトリック投影法に関するテキスト)</p> <p>〔参考書・補助教材〕 「テクニカルイラスト入門」、千葉寛共著、啓学出版 「テクニカルイラストレーション」、大西清他、理工学社 「テクニカルイラストハンドブック」、竹村俊彦著、東京電機大学出版局</p>		
〔成績評価〕 各期末試験(10%)+課題演習及び製図作品の評価(90%)—授業態度(上限20%)		
〔本科(準学士課程)の学習教育目標との関連〕 3-C		

(出典：平成18年度シラバス 129項)

(分析結果とその根拠理由)

教育の目的である学習・教育目標のそれぞれに科目が対応しており、講義、演習、実験・実習等の授業形態の割合は適切なものとなっている。また、各授業科目においては、教育内容に応じた種々の学習指導上の工夫がなされている。

**観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。**

(観点に係る状況)

(a) 適切なシラバスの作成

本校のシラバス(資料5-2-②-1)には、当該科目の到達目標、当該科目の位置付け、学習上の留意点を記載して、効率的な学習のための情報を提供するとともに、授業項目及び理解すべき内容が時間数毎に記述され、教科書や参考書・補助教材を紹介するなど、学生の自主学習を手助けするための情報も提供している。また、成績評価では、評価方法及び評価観点を明示している。さらに、本校の学習・教育目標との関連についても記載され、当該科目が学習・教育目標のいずれに対応しているかも明示している。

シラバスの作成に際しては、各教員に作成要領を配布し、各学科の教務委員が集約・点検し適切なシラバスが作成されるよう配慮している(資料5-2-②-2)。

(b) シラバスの活用

本校のシラバス(冊子)には、その冒頭に「シラバスの目的と利用法」を記載し、学生への活用を促すとともに、担当教員が授業内容や授業の進め方及び評価方法について、最初の授業で学生にシラバスを配布し説明している(資料5-2-②-3)。また、平成15年度から本校ウェブページ上に全科目のシラバスを掲載し学生及び教員が随時閲覧できるようにしている。さらに、全科目のシラバスをまとめた冊子は、全教員に配布し、学生用には、各クラスに2冊ずつ配布している。なお、半数以上の教員が、授業進度や試験範囲の確認などに活用している(資料5-2-②-4)。

#### 観点5-2-②資料一覧

(資料5-2-②-1) シラバスのフォーマット	出典：学生課資料
(資料5-2-②-2) シラバス作成の依頼文と作成要領	出典：学生課資料
(資料5-2-②-3) シラバス配布の説明文	出典：平成18年度シラバス
(資料5-2-②-4) 教員アンケート	出典：FD委員会資料

資料5-2-②-1

【シラバスフォーマット】

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	
科目名 (英文表記)	担当教員	
	教員室	
	電子メールアドレス	
単位の種別と単位数 学習時間と回数		
【本科目の目標】		
【本科目の位置付け】		
【学習上の留意点】		
【授業の内容】		
授業要目	時間数	理解すべき内容
【教科書】 【参考書・補助教材】		
【成績評価】		
【本科（専攻）課程の学習教育目標との関連】 【JABEEとの関連】		

(出典：学生課資料)

資料5-2-②-2

2006年 1月 13日

教員各位

教務主事  
教育プログラム改善委員長  
専攻科長

(担当主事補 三角)

2006（平成18）年度シラバス作成の依頼

2006年がはじまりました。教員各位におかれましては、お忙しい毎日をお過ごしのことと拝察いたします。さて、例年とおり、2006年度のシラバスを作成していただくことになりました。平成18年度には、4・5年生の科目、45時間の学修をもって1単位とする学修単位が導入されますので、これを考慮に入れたシラバスを作成しなければなりません。そこで、前年度までの項目の一部が変更されますので、下記の要領で作成し、シラバスのとりまとめ担当者に提出ください。

記

1. 提出日

2006年2月24日（金曜）

2. 提出先

本科：各学科教務委員、専攻科：専攻科長（一般教育科）と各専攻長

(注) 非常勤分に関しては、各科において非常勤の先生に作成依頼・回収し、各科教務委員が取りまとめの上、教務係に提出下さい。

3. シラバス原稿とファイルの提出

本年度もホームページにシラバスを掲載しますので、シラバスの原稿とファイルの提出をお願いします。

なお、ファイルの提出先は次の通りです。

提出先：本科科目は各学科教務委員

提出先：専攻科一般教育科は専攻科長、専攻科科目は各専攻長

なお、PDF形式、あるいはマイクロソフトのword文書をお願いします。なるべくPDFファイルをお願いします。

ファイル名は下記に添字サンプルのようにつけてください。

サンプルファイル名=M\_2\_008\_XXXX

a) b) c) d)

a) b) c) d) の順で作成してください（すべて半角）。

a) 一般科目：0\_、機械：M\_、電気電子：E\_、電子制御：EG、情報：I\_、土木：0\_

一般教育科：AE、機械・電子システム工学専攻：MS、電気情報システム工学専攻：EI

土木工学専攻：AC

b) 学年：学年\_

c) 科目番号：3桁（文書管理のシラバス参照）

d) 担当教員名：半角および金角カタカナ

(出典：学生課資料)

資料5-2-②-2 続き

【学修単位：講義I 見本】

講義、演習、実験・実習、PBLまたは講義・PBLなどを記入する。

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	4年次・通年・講義
エネルギー工学 (Energy Engineering)	担当教員	三角 利之(Misumi, Toshiyuki)
	教員室	機械工学科2-2 (Tel 42-9106)
	電子メールアドレス	misumi@kagoshima-ct.ac.jp
単位の種別と単位数 学習時間と回数	学修単位：2単位	
	講義1（授業100分）+ 自学自習（80分）×30回	
【本科目の目標】		
エネルギー工学に関する分野のうち、主に流体工学および熱力学の取扱いや設計、製品開発に活用できる能力を養成する。		F, 2 (3) の項目を参考に記入のこと
	学修単位の科目は、自学自習の	
【本科目の位置付け】		
各理工系学科に必要とされる基礎的・応用的な分野について学習する科目である。物理および化学、積分の予備知識が必要。		
	必要性やその形態等（予習、復習、宿題等）を記入すること	
【学習上の留意点】		
講義の内容をよく理解するために、毎回、学習や演習問題等の課題を含む復習として、80分以上の自学自習が必要である。理解状況を確認するために適宜小テストを行うので、講義内容をよく理解すること。疑問点があれば、その都度質問すること。		
【授業の内容】		
授業要目	時間数	理解すべき内容
1. 流体工学の概要および流体の一般的性質	4	流体工学の概要と流体の性質 (2) 重力単位系とSI単位系 (3) 流体の性質
2. 流体の静力学	6	(1) 流体静力学の諸量の関係 (2) 単位あたりの静圧係数が、30時目 (3) 壁面に働く圧力 (3) 層になるように記入すること。(授業時間50分を1回とする)
3. 流体の動力学	6	レイノルズの式とその応用
4. 管路内の流れ	6	(1) 直管の損失 (2) 管路形状による損失
5. 運動量の法則	6	(1) 運動量の法則と流れが物体に及ぼす力 (2) 角運動量の法則
6. 揚力と抗力	2	(1) 揚力と抗力の概念とその計算
7. 熱工学の概要	1	(1) 熱工学の応用分野とその概要
8. 熱工学で取り扱う物理量	3	(1) 温度 (2) 熱量と比熱
9. 熱力学の第一法則	6	(1) 熱力学の第一法則 (2) 熱力学の第一基礎式 (3) エンタルピー (4) 熱力学の第二基礎式 (5) 定常流体のエネルギー方程式 (6) p-v線図と仕事
10. 理想気体	8	(1) 理想気体の法則 (2) 理想気体の比熱 (3) 理想気体の状態変化
11. 熱力学の第二法則	6	(1) 熱力学の第二法則 (2) サイクルと熱効率 (3) カルノーサイクル (4) エントロピー
12. 蒸気	6	(1) 蒸気の基本的性質 (2) 蒸気の状態量と熱量 (3) 蒸気表と蒸気線図 (4) 蒸気の状態変化
【教科書】「流体の力学計算法」、森田泰明著、東京電機大学出版局 「熱力学の計算法」、松村篤朗・越後雅夫共著、東京電機大学出版局		
【参考書・補助教材】 「水力学（基礎と演習）」北川 龍雄 著、井田 晋 著 「図解熱力学の学び方」、谷下市松監修、北山直 著		
【成績評価】定期試験成績(70%) + 小テスト (30%) - 授業態度		
【本科（専攻）課程の学習教育目標との関連】3-c		
【JABEEとの関連】(d) (2)、(a)		

(出典：学生課資料)

シラバスは、学生のみなさんが講義の内容を事前に十分把握して授業を受けることができるように、受講科目の目標、授業要目の内容・計画、学習上の留意点等を記載したものです。各科目を担当する教員が、まず学生に講義の内容等を理解してもらうために、最初の授業の時にシラバスを配布し説明することになっています。また、最初の授業以外にも適宜授業で利用します。また、授業内容や評価はシラバスに沿って進められることとなります。学生諸君が、このシラバスを十分活用し、講義の準備を十分に行い、充実した学習成果が得られるようにしていただきたいと思います。また、学生のみならず教員もシラバスを活用することはもとより、授業内容の充実や改善に役立てください。

(出典：平成 18 年度シラバス 2 項)

授業の質の向上、シラバスの活用、教育目標などに関する教員へのアンケート

No.1

平成17年度3月実施  
224 合計科目数

53 シート数

解答欄

1. 授業の最初にシラバスを配布し、簡単に説明しましたか？

1. 配布して十分説明した	107	47.8%
2. 配布して簡単に説明した	92	41.1%
3. 配布だけした		0.0%
4. しなかった	20	8.9%
その他：配布せずOHPで説明した 2件	219	

2. 最初の授業以外にもシラバスを活用しましたか？

1. 進度の確認、テスト範囲の確認などに頻繁に用いた	37	16.5%
2. 数回活用した	86	38.4%
3. 活用しなかった	93	41.5%
その他の活用例などございましたら、ご記入下さい。	216	

(出典：FD 委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校のシラバスには、各科目の具体的な達成目標、他の科目との関連、目標達成のための学習上の留意点、授業内容が明確に記載され、また、本校の学習・教育目標との関連も明示されていることから、各科目の教育課程における位置づけ、理解すべき内容等がよりよく理解されるように配慮されている。成績評価については、具体的な割合を示すことで適切な評価を行えるように配慮している。

シラバスは、ウェブページで公開され、また、担当教員が最初の授業で学生に配布して説明を行っている。なお、半数以上の教員が、授業進度や試験範囲の確認などに活用している。

**観点5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。**

(観点に係る状況)

本校の学習・教育目標の一つである「創造力豊かな開発型技術者」の育成のために、各学科において、PBLを取り入れた科目を配置している。その具体例としては、機械工学科3年次の「創作活動」（資料5-2-③-1）、電気電子工学科4年次の「創造実習」（資料5-2-③-2）、電子制御工学科4年次の「創造設計」（資料5-2-③-3）、情報工学科1年次の「創造教室」（資料5-2-③-4）、5年次の「システム設計学」（資料5-2-③-5）及び土木工学科5年次の「意匠設計」（資料5-2-③-6）がある。

土木工学科の意匠設計では、霧島市隼人町の都市計画事業に協力して、本校でワークショップを開催し、「真孝公園（仮称）」を設計した。今後、これをもとに公園の整備が行なわれる予定である（資料5-2-③-7）。また、創造性を育む教育の一環として、学生ベンチャービジネスコンテストへの応募を推奨している。その例として、平成13年度に卒業研究テーマから生み出されたアイデアが最優秀賞を受賞（資料5-2-③-8）し、その後、本校と㈱トヨタ車体研究所との共同研究を経て、平成16年に有限会社「隼人テクノ」の設立に至っている（資料5-2-③-9）。

インターンシップ（工場実習）は、各科とも4年次に実施（資料5-1-②-9参照）されており、実習期間5日間で機械工学科、電子制御工学科、情報工学科では単位として認定している（資料5-1-②-6～8参照）。実習終了後は、実習報告書の提出（資料5-2-③-10, 11）を義務付けている。

### 観点5-2-③資料一覧

(資料5-2-③-1)	3年機械工学科	創作活動 (PBL) シラバス	出典：平成18年度シラバス
(資料5-2-③-2)	4年電気電子工学科	創造実習 (PBL) シラバス	出典：平成18年度シラバス
(資料5-2-③-3)	4年電子制御工学科	創造設計 (PBL) シラバス	出典：平成18年度シラバス
(資料5-2-③-4)	1年情報工学科	創造教室 (PBL) シラバス	出典：平成18年度シラバス
(資料5-2-③-5)	5年情報工学科	システム設計学 (PBL) シラバス	出典：平成18年度シラバス
(資料5-2-③-6)	5年土木工学科	意匠設計 (PBL) シラバス	出典：平成18年度シラバス
(資料5-2-③-7)	真孝公園 (新聞記事)		出典：南日本新聞 H17. 2. 18
(資料5-2-③-8)	学生ベンチャービジネスコンテスト (新聞記事)		出典：南日本新聞 H14. 12. 12
(資料5-2-③-9)	有限会社「隼人テクノ」の設立 (新聞記事)		出典：南日本新聞 H17. 5. 21
(資料5-2-③-10)	工場実習報告書		出典：平成17年度機械工学科工場実習報告書
(資料5-2-③-11)	工場実習評価表		出典：平成17年度機械工学科工場実習資料



平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	3年次・前期・演習
創作活動 (Creative Activities)	担当教員	南金山 裕弘(Nakiyama, Yasuhiro) 中島 正弘(Nakashima, Masahiro) 引地 力男(Hikiji, Rikio)
	教員室	南金山：機械工学科棟3階 (tel 42-9111) 中島：機械工学科棟3階 (tel 42-9107) 引地：機械工学科棟1階 (tel 42-9103)
	電子メールアドレス	nakiyama@kagoshima-ct.ac.jp nakasima@kagoshima-ct.ac.jp hikiji@kagoshima-ct.ac.jp
単位の種別と単位数 学習時間と回数	履修単位：2単位 授業(100分) x 15回	
<p>〔本科目の目標〕 各個人特有の才能を発掘し、創造性豊かな技術者を育成すべく、知的自己啓発、好奇心および柔軟な発想能力を高揚させるための実践的教育として創作活動に取り組む。</p>		
<p>〔本科目の位置付け〕 物理、工作法、材料力学、設計法などで学習した理論と本科目での実践との融合により、実際の機械部品の仕組みや運動についての理解が深まり、ものづくりの喜びが体得できる。また、4年次の機構学や機械設計学とも関連がある。</p>		
<p>〔学習上の留意点〕 既設の創作キットを用いて創造的なアイデアを導入し、目的を達成できるマシンを製作すること。備品および工具の管理は責任を持って行うこと。</p>		
〔授業の内容〕		
授 業 要 目	時限数	理解すべき内容
1. テーマの設定	6	既設の創作キットを用いてオリジナルのメカニズムを創意工夫しながら、期限内に作品を完成できるようなテーマを考える
2. 創作活動	18	工具の管理など等創作活動全般について計画的に自己管理する
3. 成果の途中報告	4	規定期間内に製作が終了するように、適宜担当教官に中間報告を行う
4. 創作活動の発表	2	作品完成後、競技を行うと共に、作品についての簡単なプレゼンテーション能力を養う
<p>〔教科書〕 なし 〔参考書・補助教材〕 「たのしくできるやさしいメカトロニクス工作」、小峯龍男、東京電気大学出版局</p>		
〔成績評価〕 演習・実習、作品の評価(80%)＋発表及び製作態度(20%)		
〔本科(準学士課程)の学習教育目標との関連〕 3-d		

(出典：平成18年度シラバス 133頁)

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	4年次・通年(週2時限)・PBL
創造実習 (Creative Practices)	担当教員	電気電子工学科全教員
	教員室	電気電子工学科棟ほか
	電子メールアドレス	
単位の種別と単位数 学習時間と回数	履修単位：2単位 授業(100分)×30回	
<p>〔本科目の目標〕 これまでに修得した様々な知識を、与えられたテーマの実現という立場から応用し、問題解決の中で以下の能力を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数学、自然科学、情報技術、電気・電子工学の専門知識を問題解決に応用できる能力</li> <li>2. 自主的に計画立案し、継続的に学習する能力</li> <li>3. 文献や資料を検索し、必要な情報を抽出する能力</li> <li>4. 成果をまとめ上げ、プレゼンテーションする能力</li> </ol>		
<p>〔本科目の位置付け〕 講義による知識の習得、実験実習によるその確認という学習方法とは異なる、問題解決型の学習法(PBL: Project Based Learning)の一環である。</p>		
<p>〔学習上の留意点〕 以下の創造実習テーマ(実習分野)から、前期と後期に各1テーマをそれぞれ選択して実習を行い、実習成果を各学期末に発表する。本科目の目標をよく理解し、問題解決のために自ら、調査、試作、実験を行い、グループで議論し、テーマの実現を目指すことが重要である。</p>		
〔授業の内容〕		
実 習 テ ー マ		担当教員
・「パワーエレクトロニクス回路の設計と製作」		本部
・「PICマイコンを利用した電子機器の設計・製作」 ・「太陽エネルギーの有効利用を目指した装置の提案と試作」		須田
・「熱電素子を用いた冷却装置の設計と製作」		加治屋
・「確率をバーチャルするための実験法の考案と試行」		中村
・「音響機器の設計・製作」 ・「非線形数値の数値計算」		桑島
・「電子回路の設計・製作に関する実習」		奥
・「ネットワークゲームの設計・製作」		今村
・「光触媒実証システムの設計・作製」 ・「燃料電池実証システムの設計・作製」		小迫
・「電気カートの設計・製作」		樫根
・「javaを用いた電気電子表現プログラムの設計・製作」		前菌
〔教科書〕		
〔参考書・補助教材〕		
〔成績評価〕 実習に取り組む姿勢等に担当教員が下した評価(60%)＋発表・予稿集の内容に対する電気電子工学科全教員の評価(40%)によって評価する。		
〔本科(準学士課程)の学習教育目標との関連〕 1-b, 3-d, 4-a		
〔JABEEとの関連〕 (d)(2)a, (d)(2)c, (f), (h)		

(出典：平成18年度シラバス 216頁)

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	4年次・前期・講義・PBL
創造設計 ( Creative Design )	担当教員	植村眞一郎 (Uemura, Shinichiro) 吉満 真一 (Yoshimitsu, Shinichi)
	教員室	電子制御工学科棟3階 (Tel. 42-9088) 一般科目棟2階 (Tel. 42-9089)
	電子メールアドレス	uemura@kagoshima-ct.ac.jp yosimitu@kagoshima-ct.ac.jp
単位の種別と単位数 学習時間と回数	学修単位：2単位 講義Ⅰ〔授業(100分)＋自学自習(80分)〕×30回	
【本科目の目標】 メカトロニクス技術者を目指す学生にとって、ロボットのようなコンピュータを含めた制御技術を有する工業製品を開発するには設計製作業務は欠かせないものである。本科目ではこれまで学んだ基礎的な知識をもとにメカトロ機械の設計に応用し、ものづくりを通して製品の設計製作に関する手法を体得する。		
【本科目の位置付け】 本科目は、ロボットのような制御システムの設計・製作の基本となる総合科目である。ここでは、それまで修得した工学基礎知識を応用しながら、与えられたテーマに基づいて実現させるもの作りの過程をとおして創造性を育成する。		
【学習上の留意点】 新しいもの(製品)を作るという立場から、いろいろな製品の仕組み、メカニズム、制御法などについてどんな小さな事でもどん欲に細かく観察しておく習慣を身につけておくこと。そして気づいたことを設計に反映するように努めること。また、テーマの設計・製作時はグループ作業であるからお互いのコミュニケーションを良くして意志疎通を図り、お互いを理解し合うよう努めること。		
【授業の内容】		
授 業 要 目	時限数	理解すべき内容
1. オリエンテーション	1	(1)メカトロ機械とは
2. 図面の表現	4	(1)立体の表現法 (2)製作図の表現法 (機械製図法)
3. 2次元CAD	4	(1)2次元CADによる製作図
4. 機械を構成する機構	2	(1)様々な機構例について
5. モータドライバーICの原理	3	(1)モータドライバーIC回路の説明 (2)実体配線
6. メカトロモデルの設計	16	(1)テーマの理解 (2)モデルの基本コンセプト (3)詳細設計 (4)製作図
(1) 設計モデルの課題について (2) 課題の設計 (3) 設計書提出		
7. メカトロモデルの製作	26	加工法、組み立て法、評価
(1) 課題の製作 (2) テストラン (3) 不具合点の改良 (4) ロボットコンテスト (5) 設計・製作の評価		
7. 設計製作レポート作成	4	
【教科書】なし 【参考書・補助教材】補助教材としてプリントを配布		
【成績評価】講義、実習 課題レポート(10%)＋コンテスト・作品評価(50%) ＋最終報告書(40%)－受講・実習態度(上限-30%)		
【本科(準学士課程)の学習教育目標との関連】 1-b, 3-d, 4-a 【JABEEとの関連】 (d)(2)c		

(出典：平成18年度シラバス 273頁)



平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	1年次・後期・実験・講義等
創造教室 (Expansion of Creativity)	担当教員	全教員 代表：加治佐清光 (Kajisa, Kiyomitsu)
	教官室	専攻科棟3階 (tel 42-9130)
	電子メールアドレス	kajisa@kagoshima-ct.ac.jp
単位の種別と単位数 学習時間と回数	履修単位：1単位 授業（100分）×15回	
〔本科目の目標〕 技術者として必要な創造性、自主性を早期に養うために、各教員と共に身近な問題について調査・製作・結果確認・検討を行い、創造の喜び、知的満足を味わってみる。		
〔本科目の位置付け〕 受身的な座学や実験だけでは得ることが難しい創造性への糸口を見つけ、創造力の素となる自発性の発揚や知的好奇心をかきたてるための入口の科目である。		
〔学習上の留意点〕 自主的かつ積極的に行動すると共に、班員と協力しながら問題を解決していくとする姿勢が大切である。また教員のアドバイスを待っているだけでなく、自分で充分考えた後にアドバイスを求める態度が必用である。年度末に発表会を行う予定である。		
〔授業の内容〕		
実験等取組み題目（平成17年度の例）		担当教員
1. Flash コンテンツを作ってみよう		入江
2. でたらめな数（乱数）も役立つよ		榎園
3. 独自の簡易ほのぼのゲームプログラム作りに挑戦		加治佐
4. コンピュータミュージック		幸田
5. Perl で CGI に挑戦		新徳
6. IC 1個でできるライントレーサ(ロボット)を作ろう！		玉利
7. ROBOCODE—Java 言語で最強ロボット作成に挑戦—		堂込
8. パソコンを自作しよう		豊平
9. オリジナルホームページを作ろう		濱川
10. TRIZ で発明に挑戦してみよう		山田
〔教科書〕 特になし		
〔参考書・補助教材〕 必要な時は、その都度担当教員が準備し、配布する。		
〔成績評価〕 提出物(70%)＋発表成果(30%)－授業態度等(上限20%)		
〔本科（準学士課程）の学習教育目標との関連〕 3-c, 3-d		
〔JABEEとの関連〕		

(出典：平成18年度シラバス 304頁)

平成18年度シラバス	学年・期間・教育の形態	5年次・前期・講義・PBL
システム設計学 (Software Engineering)	担当教員	堂込 一秀 (Dougome, Kazuhide)
	教員室	情報工学科棟 4 階 (tel 0995-42-9096)
	電子メールアドレス	dougome@kagoshima-ct.ac.jp
単位の種別と単位数 学習時間と回数	学修単位：2 単位 講義Ⅱ (授業 (100 分) + 自学自習 (200 分)) × 18 回	
<p>[本科目の目標] 大規模システム用のソフトウェアは膨大な量となるため、小規模のプログラムとは本質的に異なる開発方法論が必要になる。本科目では、これまでのソフトウェアエンジニアリングの成果について知り、実際に起こり得る問題点を模擬体験することを目標とする。</p>		
<p>[本科目の位置付け] 本科目ではProject Based Learning(PBL)形式によるグループ開発演習を行う。この演習においてUNIXを使用するので、学生は事前にUNIXに関する基本的な知識を修得しておく必要がある。</p>		
<p>[学習上の留意点] 本科目は10名程度のグループによるPBL演習を含むので、受講する学生には、自発的に問題の発見と解決を行い積極的にグループに貢献する態度が望まれる。自学自習の時間を充分確保して担当分の開発作業を遅滞なく行うこと。なお、作業に遅れが出た場合は、グループリーダーの申し出により長期休業中にPBL演習を許可する場合がある。</p>		
[授業の内容]		
授業要目	時限数	理解すべき内容
ソフトウェアエンジニアリング	2	開発体制の現状
標準的な開発工程と作業	4	ソフトウェア開発に係わるコストの特徴 工程名称と作業、進捗管理の手法
チーム開発演習		
調査立案工程	2	
外部設計工程	6	技術検討資料 システムデータ仕様書 コンポーネント構成図 インタフェース仕様書
内部設計工程	6	プログラム仕様書
コーディング工程	6	
テスト工程	6	単体テスト、結合テスト、システムテスト
プレゼンテーション	2	
学期末試験	2	
[教科書] なし。		
[参考書・補助教材] 特に指定しない。		
[成績評価] 試験(50%) + 演習(50%) - 授業態度(最大40%)。授業妨害行為および正当な理由のない欠席は、その程度に応じて授業態度分を減点する。		
[本科(準学士課程)の学習教育目標との関係] 3-c, 3-d		
[JABEEとの関連] (d) (1) ①		

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	5年次・前期・PBL
意匠設計 (Design and Drawing for Landscape architecture)	担当教員	星野 裕司(Hoshino, Yuji) 前野 祐二(Maeno, Yuji)
	教員室	専攻科棟1階 (tel. 42-9118)
	電子メールアドレス	hoshino@gpo.kumamoto-u.ac.jp maeno@kagoshima-ct.ac.jp
単位の種別と単位数 学習時間と回数	履修単位：1単位 授業(100分)×15回	
〔本科目の目標〕土木工学における景観デザインの位置付け・必要性を学び、土木構造物や土木空間の利用者である市民が、どの様に体験し、味わうのか、普遍的な枠組みについて理解を深める。さらに、風景の中で設計者が操作可能なものを把握し、模型製作などを通じて、デザインの実践的な演習を行うこと目標とする。		
〔本科目の位置付け〕本科目では、いままで学んできた土木工学の各分野を、景観デザインという新しい視点から統合し、実践する。そのため、土木工学全般への深い理解が必要であり、さらに、デザインに関連する隣接分野(建築やインテリア、グラフィックなど)へも関心を寄せておく必要がある		
〔学習上の留意点〕教科書や講義の内容を丸呑みにせず、必ず自分の目と足で実体験を通じて確認すること。デザイン教育は、教室で完結するものではないので、普段の生活から意識的・批判的に景観や構造物を眺め、自分なりのアイデアを練っておくこと		
〔授業の内容〕		
授 業 要 目	時限数	理解すべき内容
1. 1. 景観工学の基礎	1	景観デザインの位置付け、景観とは何か？
	1	景観把握モデル、視点と視点場
	1	人間の視知覚特性
	1	空間のスケール・ヒューマンスケール
	1	プロポーションとコンポジション
2. 景観のイメージ	1	ゲシュタルト心理学(図と地)
	1	都市のイメージ
	1	Prospect-Refuge 理論、親水象徴理論
3. デザイン事例	2	デザインプロセス
	2	河川デザインの事例
4. 設計演習	2	現地調査の方法
	2	コンセプトの立案
	10	設計の進め方、模型の作り方
	4	プレゼンテーション、評価
〔教科書〕景観用語事典 篠原修祐・景観デザイン研究会著 彰国社 〔参考書・補助教材〕設計演習資料(プリント、図面等)		
〔成績評価〕演習課題の成績(80%) + 学習態度(20%) - 出席率(20%)		
〔本科(準学士課程)の学習教育目標との関連〕1-b, 3-d 〔JABEEとの関連〕(d)(2)(c)		

(出典：平成18年度シラバス 413頁)

資料 5 - 2 - ③ - 7

現地閲覧資料を参照

(出典：南日本新聞 H17. 2. 18)

資料 5 - 2 - ③ - 8

現地閲覧資料を参照

(出典：南日本新聞 H14. 12. 12)

資料 5 - 2 - ③ - 9

現地閲覧資料を参照

(出典：南日本新聞 H17. 5. 21)



17年度 工場実習

工場名	番 号	主任者	担当者

**実習報告書**

所属学部：機械工学科  
 所属研究室：機設工研  
 実習先：旭化成株式会社  
 実 施 期 間：17年10月1日(水)～17年10月10日(火)

機械工学科 実習生 〇〇〇〇

〇〇〇〇 株式会社

(出典：平成17年度機械工学科工場実習報告書)

平成17年度 4年機械工学科工場実習 評価表						
		実習先	レポート	期間	評価	
1		旭化成	合	8/1～8/5	合	
2		山形屋	合	8/17～8/27	合	
3		旭化成	合	8/1～8/5	合	
4		工技センター	合	8/17～8/23	合	
5		二輪工房KENT	合	8/1～8/5	合	
6		アイシン精機	合	7/21～8/3	合	
12		白石酒蔵	合	7/11～7/15	合	
13		ネットヨタ	合	8/1～8/5	合	
14		工技センター	合	8/22～8/26	合	
15		三菱長崎	合	8/4～8/12	合	
16		工技センター	合	8/8～8/12	合	
18		ジャパンアウトソーシング	合	8/18～8/31	合	
19		タイヨー	合	8/22～8/27	合	
20		クレオ	合	8/15～8/27	合	
23		旭化成	合	8/1～8/5	合	
25		大島紬技術センター	合	8/22～8/26	合	
26		村田機械	合	8/17～8/29	合	
27		京セラ川内	合	7/27～8/9	合	
28		三洋工機	合	8/17～8/26	合	
29		旭化成	合	8/1～8/5	合	
31		是須技工	合	8/1～8/10	合	
33		中外製薬	合	8/8～8/12	合	

(出典：平成17年度機械工学科工場実習資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、PBLを取り入れた科目を各学科において配置して、創造性を育む教育方法の工夫を行っている。また、各学科においてインターンシップを導入し、実社会での企業活動を体験し実学的な経験をさせることにより、創造力豊かな開発型技術者の育成を図っている。

このことから、本校では、創造性を育む教育方法の工夫やインターンシップの活用が行われている。

**観点 5-3-①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。**

(観点に係る状況)

(a) 規則の策定と学生への周知状況について

準学士課程全課程の修了に必要な単位数及び各学年の課程の修了又は卒業の要件は学則に定められている(資料5-3-①-1, 2)。また、「学業成績の評価並びに課程修了の認定等に関する規則」に、成績評価(資料5-3-①-3)、単位認定(資料5-3-①-4)、課程修了の認定(資料5-3-①-5)について明確に定められている。同規則には、追試験及び再試験についても明確に定められている(資料5-3-①-6, 7)。なお、追試験については運用内規も定められている(資料5-3-①-8)。

これらの規定は学生便覧に掲載され、必要に応じて担任や教務主事が説明していることから、学生に十分に周知がなされている。

(b) 評価等が適切に行われているかについて

成績評価については、その方法が各科目のシラバスに明示されており(資料5-2-③-6等参照)、各科目の担当教員は、それに基づき評価を行っている。本校では、成績評価を適切に実施するために、各教員が総合成績評価表(資料5-3-①-9)を作成し、評価に用いた試験、小テストの答案、レポート等もすべて保管している。また、試験の答案については、各授業において返却し、担当教員が解答を示し、誤りがあれば訂正を求めることができるように配慮している。

進級及び卒業の認定は、学年末の進級判定会議及び卒業判定会議において、「学業成績の評価並びに課程修了の認定等に関する規則(第9条)」に基づき、進級要件又は卒業要件を審議している。この結果を基に校長が進級及び卒業(資料5-3-①-10)の認定をしている。

### 観点5-3-①資料一覧

- (資料5-3-①-1) 準学士課程全課程の修了に必要な単位数 出典：規則集
- (資料5-3-①-2) 各学年の課程の修了又は卒業の要件 出典：規則集
- (資料5-3-①-3) 学業成績の評価並びに課程修了の認定等に関する規則第2章  
出典：規則集
- (資料5-3-①-4) 学業成績の評価並びに課程修了の認定等に関する規則第3章  
出典：規則集
- (資料5-3-①-5) 学業成績の評価並びに課程修了の認定等に関する規則第4章  
出典：規則集
- (資料5-3-①-6) 学業成績の評価並びに課程修了の認定等に関する規則第2条  
出典：規則集
- (資料5-3-①-7) 学業成績の評価並びに課程修了の認定等に関する規則第5章  
出典：規則集
- (資料5-3-①-8) 学業成績の評価並びに課程修了の認定等に関する規則の運用内規  
出典：平成18年度学生便覧
- (資料5-3-①-9) 総合成績評価表の例 出典：学生課資料
- (資料5-3-①-10) 卒業判定 出典：平成17年度卒業判定会議議事要旨

資料5-3-①-1・2

### ○ 鹿児島工業高等専門学校学則

#### 第7章 課程修了の認定等

(全課程の修了に必要な単位数)

第28条 全課程の修了の認定に必要な単位数は、167単位以上（そのうち、一般科目については75単位以上、専門科目については82単位以上とする。）とする。

(学年の課程の修了又は卒業の認定)

第29条 各学年の課程の修了又は卒業を認めるに当たっては、学生の平素の成績を評価して行うものとする。

(出典：規則集)

## ○ 学業成績の評価並びに課程修了の認定等に関する規則

## 第1章 定期試験

第1条 定期試験は、各学期末に実施する。

2 中間試験は、必要のある授業科目（以下「科目」という。）について各学期の中間に実施する。

3 第1項の規定にかかわらず、平素の成績で評価のできる科目は、定期試験を行わないことがある。

第2条 定期試験を、病気、忌引、その他やむを得ない理由により受け入れられなかった者に対しては、本人の願出により追試験を行うことがある。 **資料5-3-①-6**

第2章 学業成績評価 **資料5-3-①-3**

第3条 学業成績（以下「成績」という。）の評価は、出席時数が所定の授業時数の3分の以上の科目についてのみ行う。

2 出席時数の算出方法については、別に定める。

第4条 成績は、定期及びその他の試験、学習態度、出席状況等を総合して科目ごとに原則として100点法で評価する。

2 成績を100点法で評価しない科目については、別に定める。

第5条 学期末には、その学期の成績を評価する。

2 通年で開講される科目の学年の成績は、各学期の成績に基づいて学年末に評価する。

3 一つの学期で終了する科目の学年の成績は、原則としてその学期末の成績とする。

第6条 学年の成績の評価は、次の各号のとおりとする。

- (1) 100点法で評価する科目
  - 優 80点から100点まで
  - 良 70点から79点まで
  - 可 60点から69点まで
  - 不可 59点以下
- (2) 100点法で評価しない科目
  - 合 合格
  - 否 不合格

第7条 定期試験及び中間試験において不正行為を行った者は、その時以降の当該試験中の受験を停止させ、その期間中に実施された全科目の得点は0点とする。

第3章 修得及び単位の認定 **資料5-3-①-4**

第8条 学年の成績の標語が、優・良・可・合のいずれかである科目に対しては、その科目を修得したものとして所定の単位を認定する。

2 修得単位数には、鹿児島工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第27条、第31条及び第32条の規定により認定された単位数も含めるものとする。

3 第1項の規定にかかわらず、原学年に留められた者の当該学年の科目については、別に定める科目を除き、再履修するものとする。

第4章 課程修了の認定 **資料5-3-①-5**

第9条 学年の課程修了の認定は、進級判定会議又は卒業判定会議において審議の上、校長が行う。

第10条 第1学年から第4学年については、次の各号のうち当該学年にかかわる要件を満たした者は、その学年の課程を修了した者と認める。

- (1) 当該学年中に出席した日数が出席すべき日数の3分の2以上である者
- (2) 第1学年末において、修得単位の合計が26単位以上の者
- (3) 第2学年末において、第1学年からの修得単位の累計が54単位以上の者
- (4) 第3学年末において、第1学年からの修得単位の累計が一般科目58単位、専門科目28単位を含んで94単位以上の者
- (5) 第4学年末において、第1学年からの修得単位の累計に第5学年の履修可能単位数を加えれば、一般科目75単位、専門科目82単位を含んで167単位以上の者
- (6) 当該学年で実施された特別活動の出席時数が所定の時数の3分の2以上である者

第11条 次の各号に該当する者は、第5学年の課程を修了した者と認める。

- (1) 当該学年中に出席した日数が出席すべき日数の3分の2以上である者
- (2) 当該学年までに一般科目75単位、専門科目82単位を含んで167単位以上（卒業研究及び学科が指定する科目を含む。）修得している者

第12条 前2条の出席すべき日数は、学則に規定する休業日以外のすべての日数とする。

第13条 第1学年から第4学年までの各学年の課程を修了した者は、それぞれ上級学年に進級させる。

第14条 同一学年に2回以上留め置かれた者は、原則として在学することはできない。ただし、休学による場合を除く。

第15条 第9条の規定にかかわらず、退学する者の取扱いについては、校長が別に定める。

第5章 再試験 **資料5-3-①-7**

第16条 進級者の不可の科目については原則として再試験を行い、進級者の否の科目については再試験を行わない。

2 再試験を行わなくてもよい科目については、別に定める。

第17条 再試験による単位修得の可否の確認は教務委員会において行う。ただし、実技をともなう科目については再試験を行わないことがある。

第18条 再試験によって修得した科目の評価は、60点とする。

（出典：規則集）

学業成績の評価並びに課程修了の認定等に関する規則の運用内規

- 7 規則第2条に規定する追試験を受けようとする者は、定期試験終了日の翌日までに別紙様式の追試験願を学生課教務係へ提出し、校長の許可を受けなければならない。
- 8 追試験の点数は得点の8割とする。追試験を受けることが許可されなかった者の当該試験の点数は0点とする。
- 9 追試験を受けることができない特別な事情がある者については、校長の許可を受け、見込み点により、学期の成績を評価することができる。ただし、見込み点は、70点以下とする。
- 11 規則第5条第3項の規定の適用において、前学期の成績が不可であった科目の成績を学年末に再評価することが相当と認められる場合には、60点を限度として再評価できるものとする。

(出典：平成18年度学生便覧 148-2頁)

別紙1 総合成績評価表サンプル

(例) 3年 機械工学科 電磁気学 総合成績評価表

出席番号	氏名	② 中間・期末試験				④ 小テスト・レポート										授業態度 (減点項目)	総合評価 (定期試験85% ・平常試験15%)	再評価後の総合評価 (該当者のみ記入)	⑨ 再評価項目			⑩ 再評価点数	⑦ 受講時間数 (時間)
		前期中間	前期末	後期中間	後期末	③ 中間・期末試験評価(平均・再評価を含む)	⑪ 通年・後期科目再評価	小テスト1	小テスト2	小テスト3	小テスト4	レポート1	レポート2	レポート3	夏季課題				小テスト・レポート評価(平均)	再評価レポート	再評価課題		
1																							
2																							
3																							
4																							
5																							
6																							
7																							
8																							
9	渡野 次郎	63	45	58	60	57	95	50	30	20	35	70	50	40	0	37	-4	58	60				9
10																							
11																							
12	高専 太郎	65	70	65	75	69		50	60	40	70	75	80	70	100	68	0	69					12.5
13																							
14																							
15																							
16																							
17																							
18																							
19																							
20																							
21																							
22	車人 三部	40	50	45	40	44		50	40	30	20	40	50	45	85	45	0	44	0	0	65	60	9.75
23																							
24																							
25																							
26																							
27																							
28																							
29																							
30																							
31																							
32																							
33																							
34																							
35																							
36																							
37																							
38																							
39																							
40																							

(出典：学生課資料)

**卒業判定会議議事要旨**

日 時：平成18年3月8日（水）13：30～13：50  
 場 所：大会議室  
 出席者：全教員

**議事****【審議事項】**

1. 5年生の卒業判定について  
 教務主事から卒業要件に基づき説明があったあと、審議の結果、下記のように卒業が校長から認定された。
 

機械工学科	36名卒業認定	2名留年
電気工学科	31名卒業認定	
電子制御工学科	37名卒業認定	2名留年
情報工学科	42名卒業認定	
土木工学専攻	32名卒業認定	

教務主事から、卒業が認定されなかった学生の退学・留年について、3月20日までに教務係へ連絡をするようアナウンスがあった。

（出典：平成17年度卒業判定会議議事要旨）

**（分析結果とその根拠理由）**

成績評価及び課程修了又は卒業については、学則及び学業成績の評価並びに課程修了の認定に関する規則にその要件が明確に定められ、これらは、学生便覧により学生にも十分に周知されている。また、各科目における成績評価については、各教員がシラバスにおいて提示した評価方法に基づき実施され、単位認定、進級又は卒業の認定については、学年末に開催される進級判定会議及び卒業判定会議において、規則に基づき適切に行われている。

**観点5-4-①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。**

**（観点に係る状況）**

教育課程には特別活動が取り入れられており、本科1～3学年において各学年30時間以上実施している。特別活動には、クラス担任の行うLHRや、学年ごとの活動の他、全学的学校行事の体育祭や文化祭、クラスマッチなどが含まれている（資料5-4-①-1）。LHRは、学生の発達段階に応じて担任により作成された年間計画に基づき行われている。それらを通して、人間の素養の涵養がなされている。また、1年生では平成17年度より構内美化活動の一環として花壇を作り、土づくりから苗植えまで年2回行っている。このような自然とのふれあいを特別活動に取り入れ、人間性の涵養に役立っている。

**観点5-4-①資料一覧**

（資料5-4-①-1）特別活動予定表 出典：学生課資料

## 平成18年度特別活動予定表（第1学年）31時間

特別活動は、第1学年から第3学年において年間30時間以上実施することになっていますが、学校行事（下記③～⑧）も特別活動の時間を含むことになっています。したがって、本特別活動の予定は①についてご計画下さい。

- ①毎月2回程度水曜の7または8時限 11h  
 ②長期休業（夏季，冬季，春季）前後のLHR 4h  
 ③開校記念日の記念講演(4/20) 1h  
 ④クラスマッチ(6/27) 2h  
 ⑤高専祭(10/27～10/29) 2h, 2h, 2h  
 ⑥交通安全講習会(5/17?) 1h  
 ⑦学生会主催行事(12/13) 2h  
 ⑧送別クラスマッチ(1/17) 2h  
 ⑨TOEIC BRIGE(1/24) 2h

	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	情報工学科	土木工学科
H18 4/6	L H R (1h)				
4/20	開講記念講演(1h)				
4/26	構内美化活動	構内美化活動	構内美化活動	構内美化活動	構内美化活動
5/10	留学生との国際交流	留学生との国際交流	留学生との国際交流	留学生との国際交流	留学生との国際交流
5/17	交通安全講習会(1h)				
5/24	試験に向けての心がけ	カウンセラー講話	カウンセラー講話	定期試験への心構えについて	カウンセラー講話
6/21	カウンセラー講話(5/31)	前期中間試験反省	実験報告書作成研修	カウンセラー講話	講話(1)－中間試験の反省とこれからの学習方法
6/27	クラスマッチ(2h)				
7/7	L H R (1h)				
8/30	夏季休業を終えて	夏休みの反省	夏休みの反省	夏休みの反省	夏休みを振り返って
9/13	期末試験に向けて確認事項	講話 I 又はビデオ鑑賞	前期末試験に向けて	期末試験に向けて	講話(2)－前期末試験に向けての対策
10/4	講話(1)	前期末試験反省	高専祭に向けて	高専祭に向けて	講話(3)－高専祭について
10/27～10/29	高専祭準備(2h), 文化祭(2h), 体育祭(2h)				
11/8	高専祭を終えて	講話 II 又はビデオ鑑賞	専門学科先生の話	高専祭の反省と感想	講話(4)－土木工学科についての講演
11/22	講話(2)	校外見学	学問について	健康について	講話(5)
12/13	学生会主催行事(2h)				
12/22	L H R (1h)				
H19 1/10	新年を迎えて	後期中間試験反省	新年の抱負	新年の抱負	講話(6)
1/17	送別クラスマッチ(2h)				
1/24	TOEIC BRIGE(2h)				
2/7	講話(3)	1年間の総まとめ	1年間を振り返る	1年間を振り返って	講話(7)－後期末試験に向けての対策
2/27	L H R (1h)				

備考：ビデオ視聴に関しては、施設予約をお願いします。（L L 教室＝外国語教員へ確認願います。）

6/14, 11/29は特別活動の時間割枠を使ってFD調査の予定

(出典：学生課資料)



(分析結果とその根拠理由)

本校の特別活動は、年間計画表に示されるように人間の素養の涵養がなされるよう配慮して計画・実施され、設置基準で定められている90単位時間以上実施されている。

**観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。**

(観点に係る状況)

学習・教育目標を達成するために、教育課程編成以外においても、次のような活動にも配慮している。

(a) 学生の生活指導

本校では、学生の学生生活に関するルールとして学生心得及び準則を定め、学生便覧に記載している。学生委員会は、その審議事項として「保健衛生及び学生指導に関すること」などを掲げ(資料5-4-②-1)、学生がその本分を全うするように、この学生心得及び準則に従って、必要な生活指導を行っている(資料5-4-②-2)。

(b) 学生会活動及び課外活動

学生会は、学生会規約に示される目的(資料5-4-②-3)で、本校の準学士課程の学生全員をもって組織され、各種委員会を置いて(資料5-4-②-4)、クラブ活動や学生生活に関する活動を行っている(資料5-4-②-5)。これらの学生会活動は、学生主事を中心とした学生委員会の指導の下で行われている(資料5-4-②-2, 4)。

クラブ活動については、学生会活動の一環であり、様々な大会・コンテストにおいて多くの成果を挙げている(資料5-4-②-6)。各クラブには、学生主事によりクラブ指導教員が割り当てられ、直接的な指導にあたり(資料5-4-②-7)、それぞれのクラブで活動計画を立て自主的に活動を行い(資料5-4-②-8)、毎月活動報告書を提出するよう指導している(資料5-4-②-9)。

(c) 学校行事等

学生が主体となっていく学校行事としては、クラスマッチ、高専祭、校内縄跳び大会、町内ボランティア活動などがある(資料5-4-②-10)。

### 観点5-4-②資料一覧

(資料5-4-②-1) 学生委員会規則	出典：規則集
(資料5-4-②-2) 学生委員会の業務分担	出典：学生課資料
(資料5-4-②-3) 学生会規約第2条～5条	出典：学生便覧
(資料5-4-②-4) 学生会組織図	出典：平成18年度学生便覧
(資料5-4-②-5) 学生会活動の実績を示す資料	出典：学生課資料
(資料5-4-②-6) 活動記録	出典：学生会資料
(資料5-4-②-7) クラブ指導教員名簿	出典：学生課資料
(資料5-4-②-8) 活動計画書の例	出典：学生課資料
(資料5-4-②-9) 活動報告書の例	出典：学生課資料
(資料5-4-②-10) 学校行事	出典：学生課資料

資料5-4-②-1

#### ○ 鹿児島工業高等専門学校学生委員会規則

(審議事項)

第2条 委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 課外活動に関する事。
- (2) 保健衛生及び生活指導に関する事。
- (3) 奨学金及び授業料等の減免に関する事。
- (4) 就職指導に関する事。
- (5) 学生会及びその他の学生団体に関する事。
- (6) 交通指導に関する事。
- (7) その他厚生補導に関する事。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学生主事及び学生主事補
- (2) 第1学年及び第2学年学級担任から推薦された教員 各1名
- (3) 学科から推薦された教員 各1名
- (4) 専攻科から推薦された教員 1名
- (5) 学生課長
- (6) その他校長が必要と認めた者

(任期)

第4条 前条第2号、第3号、第4号及び第6号に規定する委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(出典：規則集)

## 学生委員会の業務分担

分野	担当者	行事	期日	備考	担当者
学生会指導	引地	入学式	4/5	入学式時の交通整理・できれば役員の式典への参加	引地・新徳
		クラブ紹介	4/7	体育局・文化局長を中心として資料を作成。武道館にて説明会開催	引地
		1年生研修	4/18-19	教務主事の依頼があれば役員が研修に参加する。事前準備が必要	西留・桑島
		学生総会(4月)	4/28	予算・決算、その他	引地・田畑
		学生総会(12月)	12/22	高専祭收支報告・学生会則改正など	引地・植村
		役員会	月例	月に2回実施。学生会役員が集まって話し合う。担当主事補参加	引地・田畑・嵯峨原
		総務会	月例	月1回実施。各クラスの総務を集めて話し合う	引地・田畑・嵯峨原
		委員会	各月	2ヶ月に1回程度実施。各クラス委員が会議を行う	引地・田畑・嵯峨原
		九州交流会	年2回程度	学生会役員の代表者が他高専に向き会議を行う。事前の把握が必要	引地・植村
		教員との話し合い	不定期	学生会と教員が話し合う場を設ける必要がある	西留・全委員
		学生会主催行事	12/13	学生会が使う日。立会演説会や教員の説明会などを実施予定	引地・全委員
		学生会長立合演説会・選挙	12/13	選挙管理委員・議長選出などの作業がある	西留・引地・田畑・植村
		学校行事	新徳	クラスマッチ(新入生歓迎)	6/27
強化合宿(九州大会)	7/10-14			合宿願い配布、寮との調整	新徳・引地
夏季合宿(全国大会)	7/18-8/12			合宿願い配布、合宿部屋割り、スケジュール表作成、合宿説明会	新徳・引地
体育祭	10/29			実行委員との打合せ、教職員役割分担、応援団・やぐら絵の指導	引地・池田・全委員
冬季合宿				合宿部屋割り、スケジュール表作成	新徳・引地
クラスマッチ(送別)	1/17			学生会体育局との打合せ(種目、時間等)、要項は学生が作成	引地・北菌・全委員
春季合宿	3/1-3/31			合宿願い配布、合宿部屋割り、スケジュール表作成、合宿説明会	新徳・引地
引地	文化祭		10/28	文化祭実行委員長および実行委員を年度始めに決める必要あり	引地・嵯峨原・全委員
	身体測定・写真撮影		4/7	学生課・保健室と連絡をとる。主事補は聴力検査などの手伝い	引地・全委員
	学生会・クラブリーダー研修会		1/12-13	16年度は学生会が主体的に立案・実施、研修内容の再検討が必要	西留・引地・全委員
引地			長縄とび大会イベント	12/13	引地・北菌
西留	1年生研修会		4/18-19	厚生補導の立場から学生生活の過ごし方を説明、日帰り	西留・桑島
	学生指導研究会		8/23-24	<b>18年度は寮務委員会担当</b>	西留・全委員
	地区別学校紹介			西留・引地	
西留	前・後期授業料免除判定会議		学生係が作成した資料を、学生委員会で協議の上、承認する	西留・引地	
	都城親善試合	5/13	学生係に一任、学生主事は引率代表として都城高専へ	引地・西留・北菌	
	高専体育大会(九州・全国)	7/ 8/	18年度は主管校・担当校はなし、学生課長と応援視察	引地・西留・北菌	
新徳	ロボコン大会(九州・全国)	10/8,11/26	ロボコン会議出席、 <b>18年度は九州・沖縄地区の担当校</b>	新徳・西留	
	引地	校則違反の事情聴取・調書作成	随時	2名で事情聴取をして、調書を作成。本人の確認署名をもらう。	西留・引地
		賞罰協議会	随時	学生委員会で処分内容を決定し、停学期間の案を持って賞罰協議会へ	引地・西留
喫煙巡回指導		随時	学生主事補または委員を加えて、学校近辺の巡回を実施	西留・引地・全委員	
服装等検査		随時		西留・全委員	
西留	学内謹慎指導の立案・実施	随時	学生委員で担当の割り振り表を作成(17年度からは不要?)	引地・嵯峨原	
	主事説諭	随時	本人と保護者同伴で説諭、日程は担任から親へ連絡して決定	西留・引地	
交通	桑島	車両登録・検査	4/	新学期開始時には各教室および掲示板にて案内。4月中に2回ほど実施。	桑島・全委員
		春の交通安全指導	4/	交通安全運動週間にあわせて、正門付近、通学路上などで実施。	桑島・全委員
		交通安全講習会(1・2・3年)	5/17	特活時間を利用(低学年、高学年とも4月上旬に警察と打ち合わせ)	桑島
		交通安全講習会(4,5年)	6/8	中間試験期間に試験終了時間を各クラス合わせて実施。(教務へ相談)	桑島
		二輪車実技講習会	7/	第1土曜日実施。対象はバイク通学生全員。5月には自動車学校と要相談	桑島
		秋の交通安全指導	9/	交通安全運動週間に併せて、正門付近、通学路上などで実施。	桑島・全委員
		駐輪場指導	随時	学生会と共に実施	桑島
		事故・違反の事情聴取	随時	本人や担任あるいはその他から情報が入ったら、事情を聞いて報告書を書かせる	桑島・引地
		高専祭交通指導	10/28-29	特に体育祭に備えて、随時駐車場の確保が必要。周辺道路への案内看板設置	桑島
		放置車両の始末	随時	定期的に防犯登録番号照会後、廃棄処分	桑島
会議	西留	主事補会議、学生委員会	定例	主事補会議はほぼ毎週実施、委員会は月2回程度実施	西留・引地・全委員
		校務連	月例	16年度は特に重要な案件についてのみ報告、他はオフィス掲示板で	西留・引地
		校長補佐会	月例	重要事項の決定	西留・引地
		九州地区体育大会連絡会議	4/20	九州沖縄地区体育大会の実施要項等、体育教官と学生課長同行	西留・引地
地区会議	西留	九州地区学生主事会議	12/5-6	事前に協議題と承合事項を提出、寮務主事会議と同時開催	西留・引地
		始良・伊佐地区生徒指導会	5/19、10/11	事前に研究協議題のレポート提出、 <b>18年度は本校が研究発表校</b>	西留・引地
	始良・伊佐地区高体連会議	4/?/3/?	地区高体連大会の日程や会計報告等	西留・引地	
	西留	始良東部地区六校連絡会	6/9、11/10?	生徒指導の情報交換会、後援会長も出席、懇親会あり(18年度本校担当)	主事・主事補
	桑島	国分署暴走族追放推進会議	12/01	出席して話を聴く	桑島・引地
	新徳	隼人町生徒指導連絡協議会	4/、2/24	各学期の指導上の反省・申し合わせなど。生指研・水防連も同時開催	新徳・西留
その他	西留	初午祭指導	2/18	初午祭の午後に宮内小学校へ向向き、巡視	西留・全委員
		指導教官希望調査	2/	事前に希望調査を行い、調整する	西留・引地
		新旧主事・主事補引継ぎ	2/23	引継ぎを行う	主事・主事補
		書類決裁	毎日	1日1回以上は学生係に向いて、書類を確認し捺印をする必要あり	西留・引地
		夏季休暇生活心得作成		学生会長と連名の心得を作成し、配布する	西留・引地
学生表彰	適時	スポーツ賞や文化賞などの表彰、校長と日程を調整して昼休みに実施	西留・引地		
全体集会	8/28、12/22	夏季休暇中のイベントの成績発表と表彰、全学生への注意の機会	西留・引地		

(出典：学生課資料)

鹿児島工業高等専門学校学生会規約

第 1 章 総 則

(目 的)

第 2 条 本会は学則及び学生準則に則り学校の指導のもとに学生の総意と責任と敬愛に基づき自発的な活動を通して相互の親和をはかり民主的な社会人としての心身の修養につとめ、学生生活の向上をはかることを目的とする。

(指 導 教 員)

第 3 条 本会は学生の自発的活動を通して学生生活を充実させるため、各組織に校長が命ずる指導教員を置くものとする。

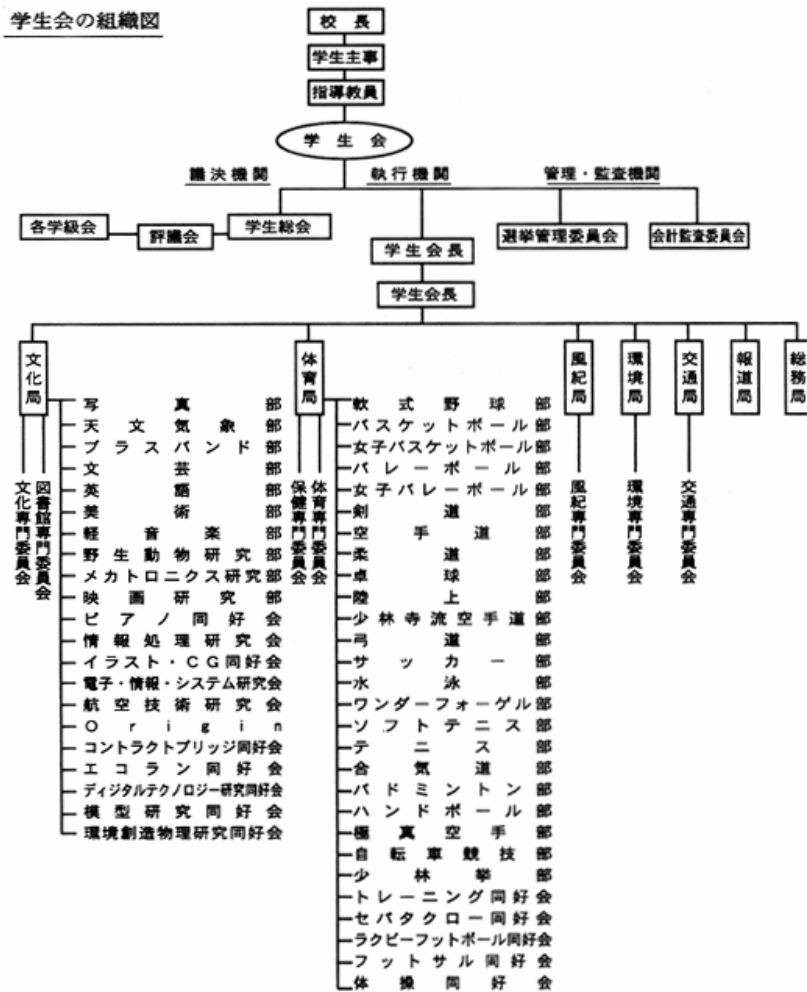
第 4 条 本会の議決事項はすべて指導教員及び学生主事を経て校長の承認を受けなければならないものとする。

(会 員)

第 5 条 本会は本校本科学生の全員をもって構成し、学生は入学と同時に本会の会員となるものとする。

(出典：平成 18 年度学生便覧 191 頁)

学生会の組織図



(出典：平成 18 年度学生便覧 114 頁)

## 平成 17 年度学生会活動報告

平成17年

- 4月7日(木) 学生会役員任命状交付  
 14日(木)・15日(金) 1年生集団研修(国立大隅少年の家)  
 21日(木) 車両検査  
 22日(金) 学生委員会との会合  
 29日(金) 学生総会
- 5月 6日(金) 車両検査  
 14日(土) 対都城親善試合  
 16日(月) 学生委員会との会合
- 6月 10日(金) 学生委員会との会合  
 21日(火) クラスマッチ
- 7月5日(火) 学生委員会との会合  
 22日(金) 一日体験入学(駐車場整理要員5名)
- 9月9日(金) 学生委員会との会合
- 10月27日(木) 高専祭準備  
 28日(金) 高専祭準備・リハーサル  
 29日(土) 高専祭(文化祭)  
 30日(日) 高専祭(体育祭)
- 11月22日(火) 学生委員会との会合
- 30日(火) 縄跳び大会, 学生会長立会演説会・選挙
- 12月8日(木) JR隼人駅ホテイヤ清掃作業(教職員, 学生会)  
 11日(日) 国立大隅少年自然の家・事前打合せ  
 15日(木) 学生委員会との会合  
 17日(土)・18日(日) 第1回高専機構広報誌編集委員会(学生会5名) 鹿児島高専  
 21日(水) 学生会クラブリーダー研修説明会(階段教室)  
 22日(金) 学生総会

平成18年

- 1月13日(金)・14日(土) 学生会・クラブリーダー研修会  
 17日(火) 送別クラスマッチ  
 21日(土)・22日(日) 第2回高専機構広報誌編集委員会(学生会5名) 熊本電波高専  
 27日(金) 学生委員会との話し合い(クラブリーダー研修反省会)  
 28日(土)・29日(日) 九州地区交流会(学生会16名)
- 3月11日(土)・12日(日) 第3回高専機構広報誌編集委員会(学生会5名) 八代高専  
 4月22日(土)・23日(日) 第4回高専機構広報誌編集委員会(学生会2名) 熊本電波

(出典：学生会資料)

平成13・14・15年度 課外活動成績

1) 九州・沖縄地区国立工業高等専門学校体育大会

	【第38回】平成13年度	【第39回】平成14年度	【第40回】平成15年度
団体戦	優勝 男子バスケットボール サッカー	陸上競技 総合優勝 サッカー	陸上競技 総合優勝 ソフトテニス男子 硬式野球 サッカー
	準優勝 ソフトテニス男子 女子バレーボール	男子バスケットボール	バドミントン男子 男子バスケットボール 男子バレーボール
	第3位 柔道	ソフトテニス男子 バドミントン男子 男子バレーボール 女子バレーボール 女子テニス	ハンドボール
個人戦	第1位 陸上競技 200m、走幅跳、 三段跳、 ソフトテニス男子 水泳 男子200m平泳ぎ	陸上競技 200m、400m、 5000m、 4×100mR、 4×400mR、 走幅跳、砲丸投、 やり投	陸上競技 400m、 4×100mR、 4×400mR、 走幅跳、砲丸投 水泳 女子100m平泳ぎ 剣道女子
	第2位 陸上競技 100m、400m、 1500m、 5000m、 4×100mR、 4×400mR、 走幅跳、三段跳 水泳 女子100m平泳ぎ 剣道 女子 柔道 女子52kg級	陸上競技 1500m、 走高跳、 走幅跳、三 水泳 女子100m自由型	陸上競技 200m、 1500m、 5000m、 走高跳、 走幅跳、やり投 ソフトテニス男子 水泳 女子50mバタフライ
	第3位 陸上競技 三段跳、砲丸投、 やり投 水泳 男子100m平泳ぎ 卓球 男子シングルス 柔道 男子90kg級	陸上競技 100m、走高跳、 走幅跳、三段跳 ソフトテニス男子 水泳 女子100m平泳ぎ 水泳 女子50mバタフライ 剣道 女子 柔道 男子73kg以下級	陸上競技 110mH、 走高跳、 三段跳 ソフトテニス女子 卓球 男子シングルス

2) 全国高等専門学校体育大会

	【第36回】平成13年度	【第37回】平成14年度	【第38回】平成15年度
団体戦	優勝 サッカー	サッカー	ソフトテニス男子 サッカー
	準優勝 サッカー 男子バスケットボール		
	第3位 ソフトテニス男子	陸上競技 4×400mR、 走幅跳	男子バスケットボール 陸上競技 200m、走幅跳、 4×100mR ソフトテニス男子 水泳 女子100m平泳ぎ 水泳 女子50mバタフライ
個人戦	第1位 陸上競技 4×400mR、 走幅跳	陸上競技 200m、 5000m	
	第2位 陸上競技 4×400mR、 走幅跳	陸上競技 200m、 5000m	
	第3位 陸上競技 5000m	陸上競技 4×100mR ソフトテニス男子 剣道 女子	

- 3) 西日本地区高等専門学校弓道大会
- |     | 【第31回】平成13年度 | 【第32回】平成14年度 | 【第33回】平成15年度 |
|-----|--------------|--------------|--------------|
| 団体戦 |              |              |              |
| 個人戦 |              |              |              |
- 4) 全国高等専門学校通信弓道大会
- |     | 【第23回】平成13年度 | 【第24回】平成14年度 | 【第25回】平成15年度 |
|-----|--------------|--------------|--------------|
| 個人戦 |              | 第3位          |              |
- 5) 西日本地区高等専門学校空手道大会
- |        | 【第7回】平成13年度 | 【第8回】平成14年度 | 【第9回】平成15年度 |
|--------|-------------|-------------|-------------|
| 団体組手戦技 | 2位          |             |             |
| 個人形    | 優勝          |             |             |
| 個人組手   | 優勝          |             |             |
- 6) 九州地区高等専門学校サッカー新人大会
- |    | 平成13年度 | 平成14年度 | 平成15年度 |
|----|--------|--------|--------|
| 優勝 |        | 優勝     | 優勝     |
- 7) 南九州地区高等学校総合体育大会
- |     | 平成13年度 | 平成14年度 | 平成15年度 |
|-----|--------|--------|--------|
| 走幅跳 | 4位     | 走幅跳 5位 |        |
- 8) 九州地区高等専門学校英語弁論大会
- |        | 【第34回】平成13年度 | 【第35回】平成14年度 | 【第36回】平成15年度 |
|--------|--------------|--------------|--------------|
| 暗唱の部   | 1位           | 暗唱の部 2位      | 暗唱の部 優勝      |
| スピーチの部 | 敢闘賞          | スピーチの部 3位    | スピーチの部 準優勝   |
- 9) 全国高等専門学校ロボットコンテスト九州地区大会
- |     | 【ロボコン2001】平成13年度 | 【ロボコン2002】平成14年度 | 【ロボコン2003】平成15年度 |
|-----|------------------|------------------|------------------|
| 技術賞 |                  |                  |                  |
- 10) 全国高等専門学校ロボットコンテスト全国大会
- |          | 【ロボコン2001】平成13年度 | 【ロボコン2002】平成14年度 | 【ロボコン2003】平成15年度 |
|----------|------------------|------------------|------------------|
| 九州地区予選敗退 |                  | 技術賞              | 九州地区予選敗退         |
- 11) 全国高等専門学校プログラミングコンテスト
- |     | 【第10回】平成13年度 | 【第11回】平成14年度 | 【第12回】平成15年度 |
|-----|--------------|--------------|--------------|
| 敢闘賞 |              |              |              |
- 12) 鳥人間コンテスト
- |              | 【第27回】平成15年度 |
|--------------|--------------|
| 応援団：サポーター部門賞 |              |
- 13) HONDAエコノパワー燃費競技九州大会
- |  | 【第19回】平成15年度 |
|--|--------------|
|  |              |
- 14) マイクロメカニズムイベント「小さなロボットのコンテスト」
- |                           | 【第14回】平成14年度  | 【第15回】平成15年度 |
|---------------------------|---|--------------|
| 相撲マイクロメカニズムイ<br>ベント部門：奨励賞 | 障害物走破マイクロメカニ<br>ズムコンテストコンテスト<br>部門：アイデア賞<br>マイクロメカニズム部門：<br>努力賞 |              |
- 15) KISC「学生ベンチャー」ビジネスプランコンテスト
- |      | 【第1回】平成13年度 | 【第2回】平成14年度 | 【第3回】平成15年度 |
|------|-------------|-------------|-------------|
| 最優秀賞 |             | 優秀賞         | 奨励賞2組       |
- 16) Drink'03～鹿児島CGコンテスト(ジュニア部門)
- |     | 【2003】平成15年度 |
|-----|--------------|
| 奨励賞 |              |

平成16・17年度 課外活動成績

1) 九州・沖縄地区国立工業高等専門学校体育大会

	【第41回】平成16年度	【第42回】平成17年度	【第43回】平成18年度
団体戦	優勝 陸上競技 総合優勝 ソフトテニス男子 サッカー	陸上競技 総合優勝 サッカー	
	準優勝 男子バスケットボール	ソフトテニス男子 男子バレーボール	
	第3位 バドミントン男子 卓球男子 剣道男子 男子バレーボール ハンドボール 女子バレーボール	男子バスケットボール 卓球男子 バドミントン男子	
個人戦	第1位 陸上競技 400m、110mH、 4×100mR、 4×400mR、 走幅跳	陸上競技 110mH、走幅跳 4×400mR、 三段跳、やり投	
	第2位 陸上競技 200m、400m、 5000m、110mH 卓球 男子シングルス	陸上競技 100m、800m、 4×100mR、 走高跳、砲丸投、 円盤投 ソフトテニス男子 剣道女子 柔道 男子60kg以下級 テニス 男子ダブルス	
	第3位 陸上競技 800m、1500m、 三段跳、砲丸投、 やり投 ソフトテニス女子 水泳 男子200m自由形 水泳 男子100mバタフライ 剣道 女子 柔道 男子73kg以下級 テニス 女子ダブルス	陸上競技 200m、5000m、 やり投 ソフトテニス女子 水泳 男子100mバタフライ	

2) 全国高等専門学校体育大会

	【第39回】平成16年度	【第40回】平成17年度	【第41回】平成18年度
団体戦	優勝 サッカー		
	準優勝		
	第3位 陸上競技 総合		
個人戦	第1位		
	第2位 陸上競技 200m		
	第3位 陸上競技 4×400m、 走幅跳		

- 3) 西日本地区高等専門学校弓道大会
- |      | 【第34回】平成16年度 | 【第35回】平成17年度 | 【第36回】平成18年度 |
|------|--------------|--------------|--------------|
| 男子団体 | 優勝           | 男子団体 準優勝     |              |
| 男子個人 | 優勝           |              |              |
- 4) 全国高等専門学校通信弓道大会
- |  | 【第20回】平成16年度 | 【第27回】平成17年度 | 【第28回】平成18年度 |
|--|--------------|--------------|--------------|
|  |              |              |              |
- 5) 西日本地区高等専門学校空手道大会
- |      | 【第10回】平成16年度 | 【第11回】平成17年度 | 【第12回】平成18年度 |
|------|--------------|--------------|--------------|
| 個人形  | 3位           |              |              |
| 個人組手 | 3位           |              |              |
- 6) 九州地区高等専門学校サッカー新人大会
- |  | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|--|--------|--------|--------|
|  |        |        |        |
- 7) 南九州地区高等学校総合体育大会
- |  | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|--|--------|--------|--------|
|  |        |        |        |
- 8) 九州沖縄地区国立高等専門学校英語弁論大会
- |      | 【第37回】平成16年度 | 【第38回】平成17年度 | 【第39回】平成18年度 |
|------|--------------|--------------|--------------|
| 暗唱の部 | 準優勝          | 暗唱の部 優勝      | 弁論の部 準優勝     |
- 9) 全国高等専門学校ロボットコンテスト九州沖縄地区大会
- |             | 【ロボコン2004】平成16年度 | 【ロボコン2005】平成17年度 | 【ロボコン2006】平成18年度 |
|-------------|------------------|------------------|------------------|
| 技術賞         |                  | 優勝               |                  |
| 特別賞         |                  |                  |                  |
| 全国大会への出場権獲得 |                  |                  |                  |
- 10) 全国高等専門学校ロボットコンテスト全国大会
- |      | 【ロボコン2004】平成16年度 | 【ロボコン2005】平成17年度 | 【ロボコン2006】平成18年度 |
|------|------------------|------------------|------------------|
| 初戦敗退 |                  | 技術賞              |                  |
- 11) 全国高等専門学校プログラミングコンテスト
- |          | 【第13回】平成16年度 | 【第14回】平成17年度 | 【第15回】平成18年度 |
|----------|--------------|--------------|--------------|
| 自由部門：敢闘賞 |              |              |              |
| 課題部門：敢闘賞 |              |              |              |
- 12) 鳥人間コンテスト
- |  | 【第28回】平成16年度 | 【第29回】平成17年度 | 【第30回】平成18年度 |
|--|--------------|--------------|--------------|
|  |              |              |              |
- 13) HONDAエコノパワー燃費競技九州大会
- |  | 【第20回】平成16年度 | 【第21回】平成17年度 | 【第22回】平成18年度 |
|--|--------------|--------------|--------------|
|  |              |              |              |
- 14) マイクロメカニズムイベント「小さなロボットのコンテスト」
- |                            | 【第16回】平成16年度               | 【第17回】平成17年度              | 【第18回】平成18年度 |
|----------------------------|----------------------------|---------------------------|--------------|
| 障害物走破マイクロメカニ<br>ズム部門：アイデア賞 | 障害物走破マイクロメカニ<br>ズム部門：アイデア賞 | 作業マイクロメカニズム部<br>門有識の部：技術賞 |              |
- 15) KISC「学生ベンチャー」ビジネスプランコンテスト
- |  | 【第4回】平成16年度 | 【第5回】平成17年度 | 【第6回】平成18年度 |
|--|-------------|-------------|-------------|
|  |             |             |             |
- 16) Drink'03～鹿児島CGコンテスト(ジュニア部門)
- |  | 【2004】平成16年度 | 【2005】平成17年度 | 【2006】平成18年度 |
|--|--------------|--------------|--------------|
|  |              |              |              |

(出典：学生課資料)

## 18年度クラブ指導教員名簿

2006/04

体育系クラブ		
クラブ	指導教員	
1 硬式野球	池田 正利	藤崎 恒晏
	原口 誠夫	嶋根 紀仁
2 バスケットボール	鮫島 俊秀	前薊 雅宜
	柴島 史欣	
3 女子バスケットボール	南金山 裕弘	坂元 真理子
4 バレーボール	樫根 健史	平田 登基男
	田畑 隆英	
5 女子バレーボール	椎 保幸	塚崎 香織
6 剣道	松田 忠大	本部 光幸
	野沢 宏大	
7 空手道	中村 格	室屋 光宏
8 柔道	須田 隆夫	島名 賢児
	奥 高洋	堤 隆
9 卓球	入江 智和	玉利 陽三
10 陸上	山内 正仁	新徳 健
	加治屋 徹実	濱川 恭央
11 少林寺流空手道	赤澤 正治	
12 弓道	吉満 真一	河野 良弘
	白坂 繁	西留 清
13 サッカー	山崎 亨	あべ松 伸二
	引地 力男	北薊 裕一
14 水泳	宮田 千加良	鎌田 清孝
15 ワンダーフォーゲル	三角 利之	吉満 真一
16 ソフトテニス	加治屋 徹実	今村 成明
	豊平 隆之	
17 テニス	岸田 一也	山田 一二
	熊谷 博	松本 裕司
18 バドミントン	赤澤 正治	加治佐 清光
	山本 桂一郎	
19 合気道	持原 稔	村上 浩
20 ハンドボール	内田 一平	内容 保
21 極真空手	江崎 秀司	大竹 孝明
22 自転車競技	保坂 直之	山下 登
23 少林拳	小迫 雅裕	

体育系同好会		
同好会	指導教員	
1 トレーニング	原口 誠夫	
2 体操	堤 隆	
3 ラグビーフットボール	(休部中)	
4 フットサル	前野 祐二	
文化系クラブ		
クラブ	指導教員	
1 写真	坪井 克剛	丸山 伸夫
2 天文気象	(休部中)	
3 ブラスバンド	幸田 晃	堤 隆
4 文芸	保坂 直之	松本 裕司
5 英語	嵯峨原 昭次	坂元 真理子
	樫根 健史	
6 軽音楽	今村 成明	岡林 巧
7 美術	池田 英幸	山田 一二
8 エコラン	江崎 秀司	大竹 孝明
9 野生動物研究	赤澤 正治	伊藤 益生
10 メカトロニクス研究	植村 眞一郎	持原 稔
11 映画研究	白坂 繁	あべ松 伸二
	榎園 茂	三原 めぐみ
文化系同好会		
同好会	指導教員	
1 ピアノ	三原 めぐみ	
2 情報処理研究会	村上 浩	疋田 誠
3 イラスト・CG	芝 浩二郎	池田 英幸
4 電子・情報・システム	堂込 一秀	豊平 隆之
5 航空技術研究	丸山 伸夫	中島 正弘
6 デジタルテクノロジー	原田 治行	
7 origin	樫根 健史	
8 環境創造物理研究会	中島 正弘	丸山 伸大
9 韓国文化研究会	(休部中)	

☆指導教員欄の最初に記載されている方に、主担当をお願いいたします。

(出典：学生課資料)



平成 年 月 日

学生主事殿 [学生係長経由]

## 平成 17 年度 [前・後] 期 活動計画書

サッカー 部・同好会 部長(会長)氏名: [ E 工学科 45 年 ]

指導教官名: 山崎 亨 (印) 精松 伸二 (印) 引地 惲 (印)  
北菌 裕一 (印)

## 1. 年間目標:

全国優勝

## 2. 活動内容: (具体的に記入のこと)

	月間目標	練習内容	予定行事(試合など)
10月	技術、戦術の向上	基礎練習   タツツ 練習試合   紅白試合 5vs5の練習   シュート練習等	県外遠征
11月	選手権大会上位入賞 他大会優勝	同上	選手権大会(県) 始良伊佐(秋)
12月	高専新人大会優勝	同上	高専新人大会
12月	黒潮杯優勝 山口杯優勝 高校新人上位入賞	同上	黒潮杯 山口杯 高校新人
2月	KSLカップ 優勝	同上	KSLカップ
3月	体力の向上 技術、戦術の向上	基礎練習   筋肉トレーニング タツツ   紅白試合	春合宿

## 3. 合宿予定: (できるだけ詳しく記入のこと)

- 1) 時期 = 春合宿 3月下旬 ~ 4月上旬
- 2) 場所 = 南薩少年自然の家, 佐多町交流センター等  
(予定)

(出典: 学生課資料)

各部活動部長殿

学生会 書記

平成 18 年度 4 月 活動報告書

陸上 部・同好会 部長(会長) 氏名 【工工学科 5 年】

顧問氏名 新徳 健



月間目標

記録会を各自が自己ベストを出す。

活動内容 (具体的に記入)

	平日					休日		
	月	火	水	木	金	土・日		
第1週	本練前に 2km jog, 走し 100x5, ストレッチを行なう					休み		
第2週	短スプリント練習 300 + 100 長 (400x3) x 3	短 SD 100x3, TT 200x4 長 1000, 800, 500, 300, 600	短 スプリント練習 長 jog	短 120x3, 450x3 長 60分 jog, 補強	短 スプリント練習 水練習 長 30分 jog, 補強	短 千種, 100, 200 桶, 投 長 500x4	第1回鹿児島県陸上競技記録会 (400, 1500, 200, 高)	
第3週	長 jog, 補強	短 100x2, TT 200x4 長 (500+300)x5	短 スプリント練習 長 4000	短 SD 60x2, 500x4 長 40分 jog	短 スプリント練習 水練習 長 400x3	長 jog	第2回鹿児島県陸上競技記録会 (5000)	
第4週	短 スプリント練習 長 60分 jog	短 100x2, 200x3 長 (300x3)x2	短 スプリント練習 長 500+300 +500	短 120x3, 450x3 長 40分 jog	短 スプリント練習 水練習 長 200x3, 補強	短 100x2, 200x1 長 400x2, 1500x1	第3回鹿児島県陸上競技記録会 (100, 800, 桶, 投)	
第5週	短 SD 30x5, 50x2, 100x1, (150+150)x2 長 8000	短 TT 100, 200, 300 長 1000x5	短 スプリント練習 他. 加速, SD 長 3000, 2000	短 120x2, 300x1, 450x2 長 60分 jog	短 スプリント練習 水練習 長 60分 jog, 補強	短 100, 200 水練習 長 1500, 3000	第4回鹿児島県陸上競技記録会 (200, 16種)	

※活動報告書の提出期限は次の月の6日までとする。

※活動報告書は来年度の予算の参考にも使用する。

受け取り 印

(出典：学生課資料)

## 平成17年度 学校行事

日程	項目
4月14・15日	1年生研修
4月22日	学生会・学生委員会話し合い
4月28日	学生総会
5月14日	対都城高専親善試合交流会
5月16日	学生会・学生委員会話し合い
6月10日	学生会・学生委員会話し合い
6月21日	クラスマッチ
7月22日	1日体験入学展示
9月9日	学生会・学生委員会話し合い
10月29日・30日	高専祭
11月22日	学生会・学生委員会話し合い
11月30日	長縄跳び大会
12月8日	隼人駅清掃ボランティア
12月22日	学生総会
1月13日・14日	リーダー研修
1月17日	クラスマッチ
1月21日・22日	高専機構パンフレット作成
1月28日・29日	九州地区学生会合同会議
3月11日・12日	高専機構パンフレット作成

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、教育課程の編成以外に、学生の生活については学生委員会を中心に指導にあたり、人間の素養の涵養がなされるように配慮している。また、学校の指導の下に、学生会活動を中心とする課外活動を実施している。さらに、学生が主体的に企画・参加する多様な学校行事も設けて実施するなど、教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されている。

<専攻科課程>

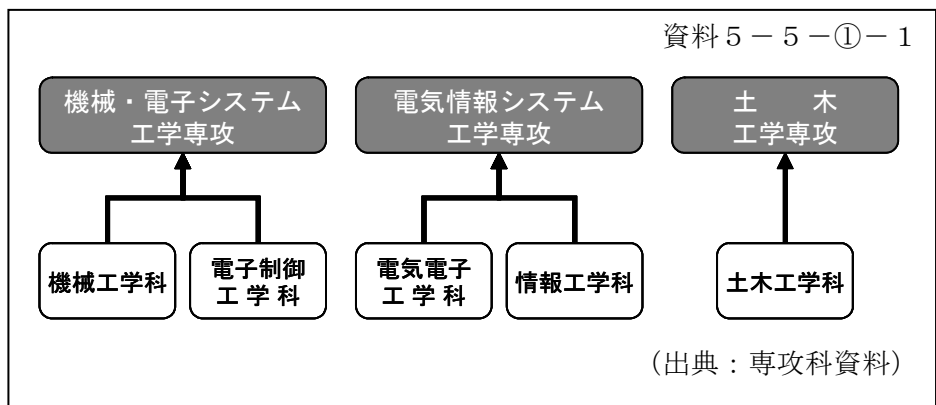
観点5-5-①： 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況)

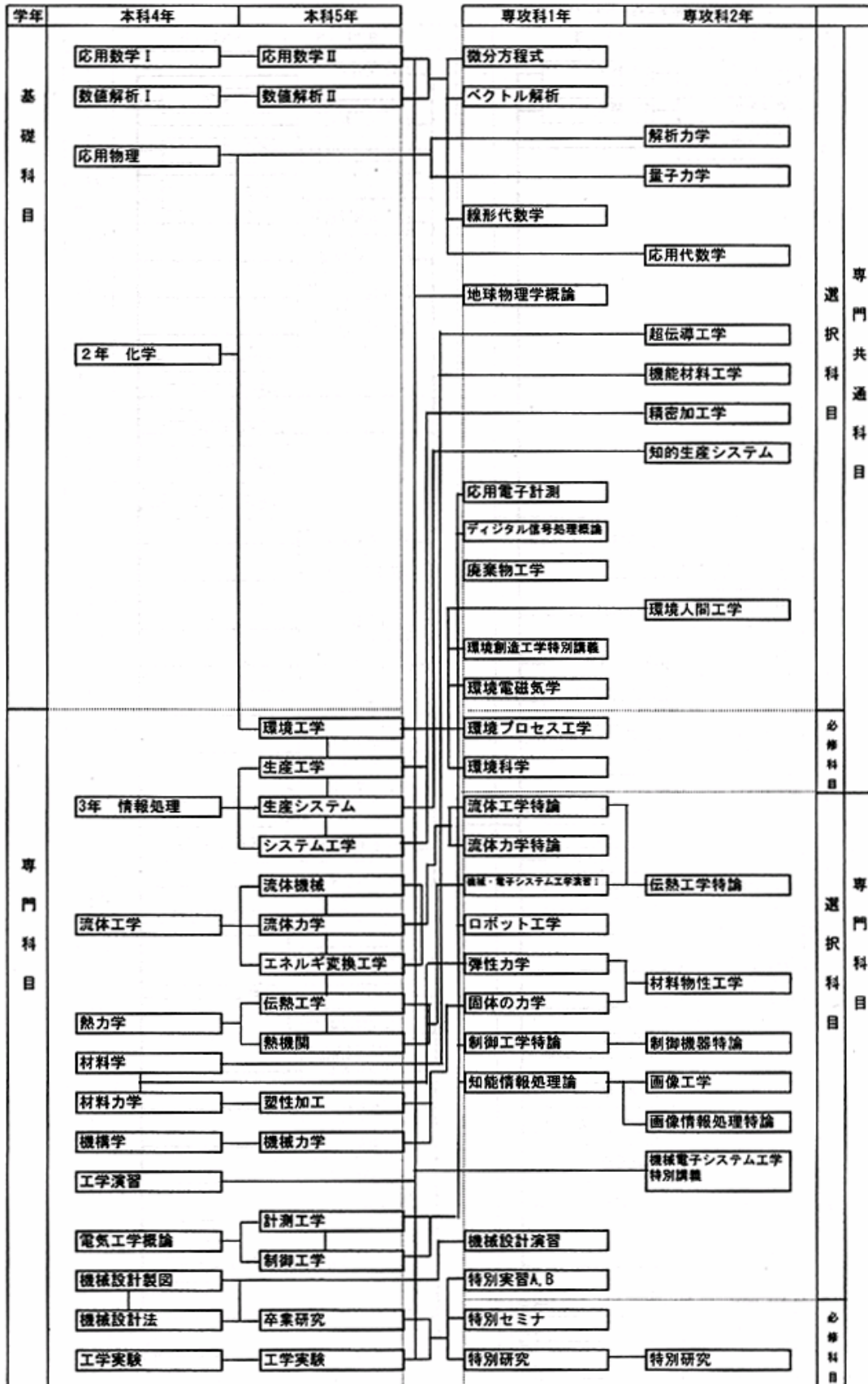
専攻科課程は準学士課程の延長線上に位置しており、教育内容及び専門分野の関連が深い学科で専攻を構成し、5学科が3専攻にまとめられている(資料5-5-①-1)。準学士課程と専攻科課程の教育課程はそれぞれ体系的に編成されており、この間の連携については準学士課程4年生から専攻科2年生までの教育課程系統図に示されている。これらは学習上も重要であるためシラバスに記載して学生に周知している(資料5-5-①-2)。また、準学士課程4年から専攻科課程2年までを一貫した教育課程として位置づけた「環境創造教育プログラム」として(資料5-5-①-3)、教育課程の連続性を一層強いものとしている。

観点5-5-①資料一覧

- (資料5-5-①-1) 学科-専攻関連図 出典：専攻科資料
- (資料5-5-①-2) 専攻科教育課程系統図 出典：平成18年度シラバス
- (資料5-5-①-3) 履修の手引き 出典：平成17年度「環境創造工学」プログラム履修の手引き



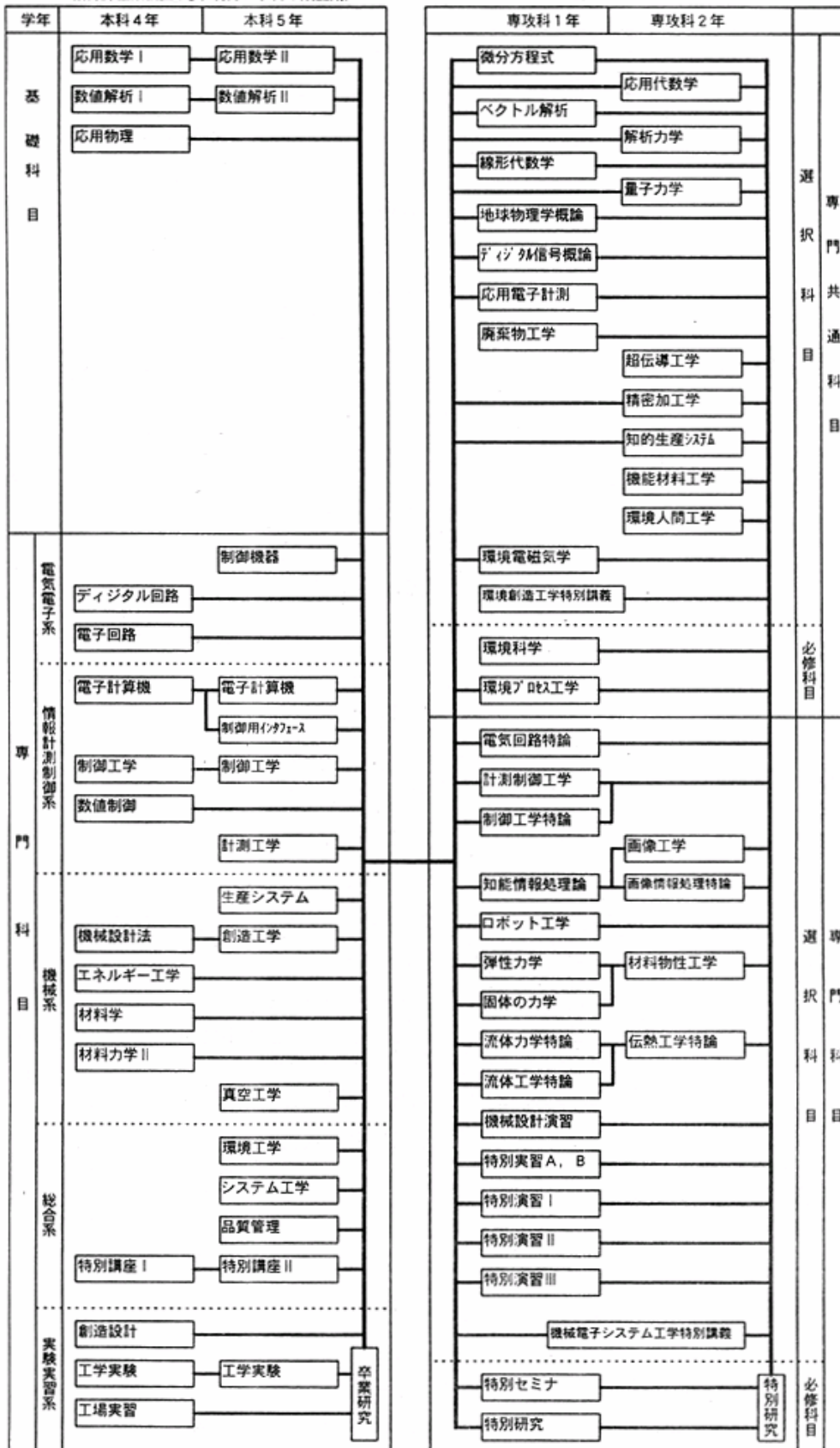
12.3 教育課程系統図(機械工学科卒業生用)



(出典：平成 18 年度シラバス 475頁)

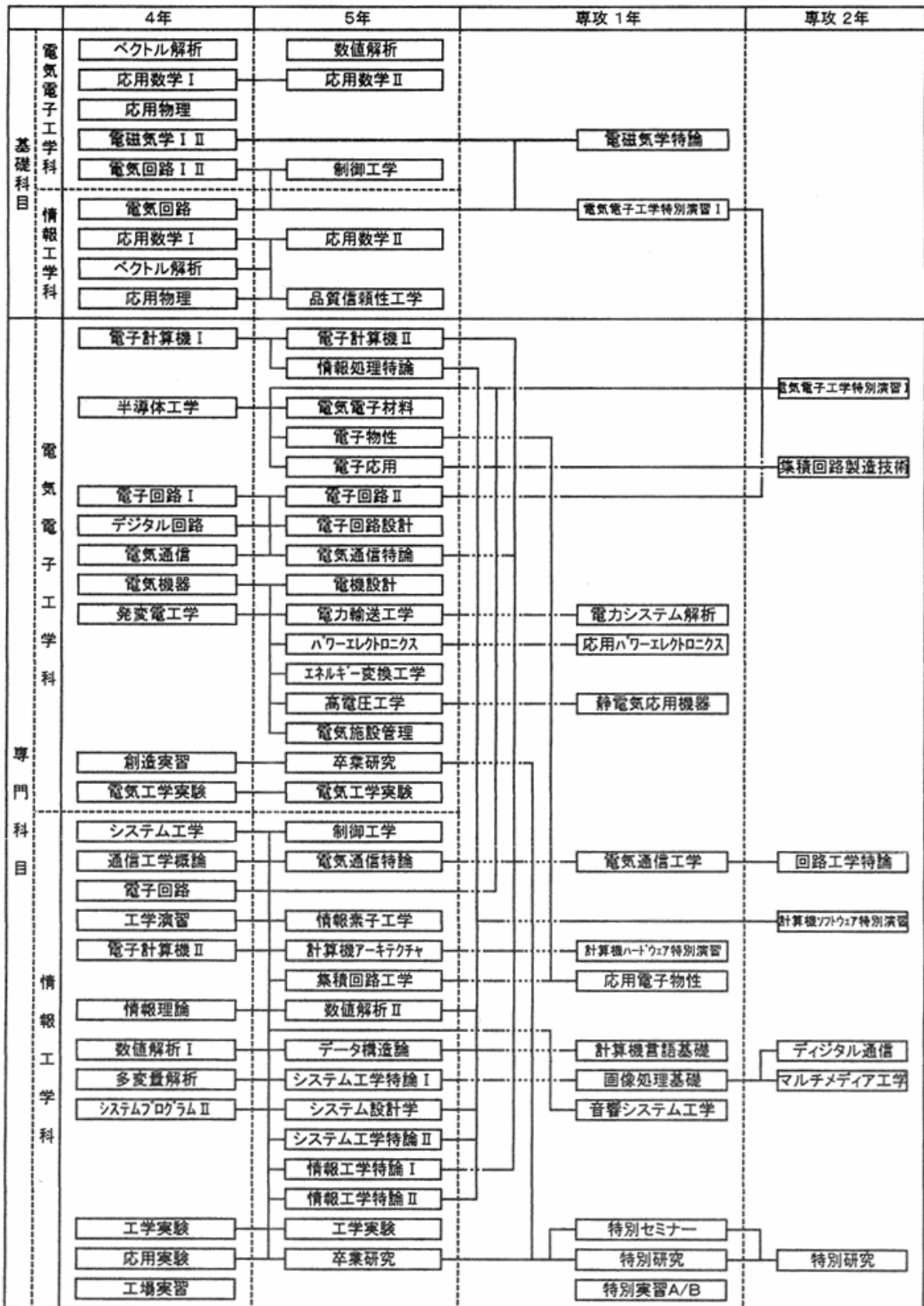


12.3 教育課程系統図(電子制御工学科卒業生用)



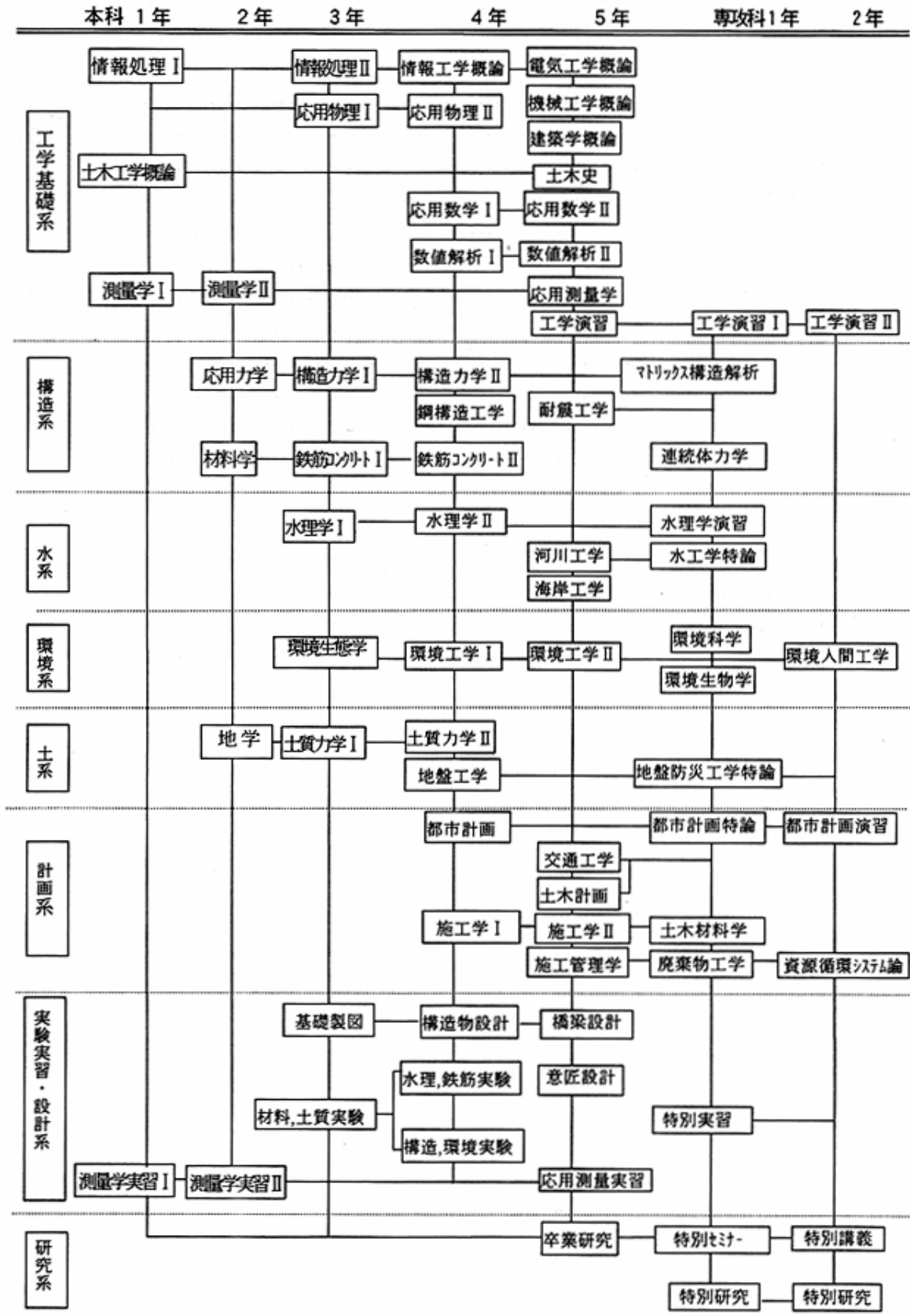
(出典：平成18年度シラバス 476頁)

13.3-2 教育課程系統図 (平成18年度入学)





土木工学専攻 教育課程系統図 (平成17、18年度入学)



(出典：平成18年度シラバス 531頁)

## 平成 17 年度 「環境創造工学」教育プログラム履修の手引き

### 1. はじめに

鹿児島工業高等専門学校は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」を目的として設置され（学校教育法 70 条の 2）、実践的技術者の育成を行ってきました。現代社会においては、産業、科学技術の分野における国際化、融合・複合化が一層進展し、従来の単なる技術者教育ではなく、様々な問題解決能力を有する創造性に富んだ開発型技術者の育成が求められています。このような状況に対応するために、本校は、平成 12 年度、あらたに専攻科の課程を設置しました。これに伴い、本科 4 年次から専攻科 2 年次までを一貫した教育プログラム（教育プログラム名：環境創造工学、以下「本教育プログラム」という）とし、社会のさまざまな要請に応えられる技術者教育を行っています。学生の皆さんは、この手引きをよく読み、本教育プログラム履修のための要件を十分理解したうえで、勉学に取り組んでください。

### 2. 履修対象者

本教育プログラムは、本科 4 年次から専攻科 2 年次までの 4 年間を対象としています。本教育プログラムの履修者の決定は、専攻科入学選抜によって行います。

専攻科の受験資格は次の（1）～（3）のとおりです。

#### （1）推薦による選抜

高等専門学校卒業見込みの者で在籍学校長が人物、学業、健康ともに優れていると認め推薦する者

#### （2）学力試験による選抜

出願資格は以下の①～⑥のうちのいずれかに該当する者です。

- ①高等専門学校を卒業した者及び卒業見込みの者
- ②短期大学を卒業した者及び卒業見込みの者
- ③専修学校の専門課程を修了した者及び修了見込みの者のうち、学校教育法第 82 条の 10 の規定により、大学に編入学することができる者
- ④外国において、学校教育における 14 年の課程を修了した者
- ⑤外国の学校が行う通信教育における授業科目を、我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における 14 年の課程を修了した者
- ⑥その他、本校の専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(分析結果とその根拠理由)

専攻科課程は、カリキュラムの連続性という観点から、大学へ編入学した場合と異なり、準学士課程との連携を十分配慮した、5年間の教育の上に位置する高度な教育課程であり、準学士課程の教育との連携を考慮したものとなっている。

**観点5-5-②：** 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置（例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程では、準学士課程で修得した知識・技術を土台に、地球環境に配慮したものづくりを行うことのできる能力を養うこと、即ちグローバルな観点から「1. 人類の未来と自然との共存をデザインすることができる技術者」を養成することを最大の目的としている。この目的達成のための学習・教育目標（サブ目標）に基づいて教育課程が編成されている（資料5-5-②-1, 2）。即ち、「1-2 人間社会と自然環境とのかかわりを理解」し、「1-3 技術が社会に及ぼす影響を認識し、地球環境に配慮したものづくりが提案できる能力を身につける」ため、環境プロセス工学、環境科学を全専攻の必修科目としている。その他にも全専攻の専門共通科目中に環境関連科目を設定している。

また、学習・教育目標「2. グローバルに活躍する技術者」として「2-3 外国語で意思疎通を行う能力を身につける」ため、全専攻共通の一般科目の総合英語（平成16年度では科学技術英語）を必修科目として設置し（資料5-5-②-3）、このほかに2つの英語科目を開講している。

また、「3. 創造力豊かな開発形技術者」として必要な「3-1 数学、物理、化学など自然科学の基礎知識を身につける」ため、自然科学の基礎を共通科目として配置し、「3-2 自分の必要とするレベルで多様な情報機器を利用する能力を身につけ」、「3-3 専門分野の知識と自主的継続的に学習する能力を身につけ、与えられた制約下で計画的に、ものづくりの手法を活かして問題を解決できる能力を養う」ため、各専攻では専門分野の基礎から応用までの科目とともに、特別研究を行っている（資料5-5-②-4）。

さらに、「4. 相手の立場に立ってものを考える技術者」育成のため、特に技術倫理を共通科目で必修としている（資料5-5-②-5）。

各専攻に、十分な専門科目が配置され、修了要件として62単位以上を設定しているため、学士資格が取得可能な科目編成となっている（資料5-5-②-6）。

#### 観点5-5-②資料一覧

(資料5-5-②-1) 専攻科教育課程表	出典：教育課程表
(資料5-5-②-2) 各専攻の学習教育目標と科目の対応表	出典：平成18年度学生便覧
(資料5-5-②-3) シラバス「総合英語」	出典：平成18年度シラバス
(資料5-5-②-4) シラバス「特別研究」	出典：平成18年度シラバス
(資料5-5-②-5) シラバス「技術倫理」	出典：平成18年度シラバス
(資料5-5-②-6) 鹿児島工業高等専門学校専攻科 授業科目の履修に関する規則	出典：規則集

別表第 3

## 教 育 課 程

機械・電子システム工学専攻

区分	必 ／ 選	授 業 科 目	単位数	学年別開講単位数			
				第 1 学年		第 2 学年	
				前期	後期	前期	後期
一般科目	必修科目	技術倫理	2				2
		総合英語	2	2			
		履修単位数	4	2			2
	選択科目	科学技術英語	2		2		
		論理的英語コミュニケーション	2			2	
		現代企業法論	2		2		
		国際関係論	2	2			
開講単位数	8	2	4	2			
履修単位数	4以上						
専門共通科目	必修科目	環境プロセス工学	2	2			
		環境科学	2	2			
		履修単位数	4	4			
	選択科目	微分方程式	2	2			
		ベクトル解析	2		2		
		応用代数学	2			2	
		線形代数学	2	2			
		解析力学	2			2	
		量子力学	2				2
		地球物理学概論	2		2		
		知的生産システム	2			2	
		精密加工学	2				2
		デジタル信号概論	2		2		
		超伝導工学	2				2
		機能材料工学	2			2	
		応用電子計測	2		2		
		環境電磁気学	2	2			
		廃棄物工学	2		2		
		環境人間工学	2				2
		環境創造工学特別講義	2	2			
	開講単位数	34	8	10	8	8	
	履修単位数	12以上					
	専門科目	必修科目	特別研究	14	2	2	5
特別セミナー			2	1	1		
履修単位数			16	3	3	5	5
選択科目		固体の力学	2	2			
		伝熱工学特論	2			2	
		流体工学特論	2	2			
		流体力学特論	2		2		
		材料物性工学	2			2	
		弾性力学	2		2		
		制御工学特論	2	2			
		計測制御工学	2		2		
		知能情報処理論	2		2		
		画像工学	2			2	
		画像情報処理特論	2				2
		電気回路特論	2	2			
		機械設計演習	2		2		
		ロボット工学	2		2		
		機械・電子システム工学特別演習Ⅰ	1	1			
		機械・電子システム工学特別演習Ⅱ	1	1			
		機械・電子システム工学特別演習Ⅲ	1		1		
特別実習 A (4週間)		4	4				
特別実習 B (2週間)		2	2				
機械・電子システム工学特別講義		2			2		
開講単位数	39	16	13	8	2		
履修単位数	16以上						
開講単位数合計	105	35	30	23	17		
履修単位数合計	62以上						

(出典：教育課程表)

別表第3

## 教育課程

電気情報システム工学専攻

区分	必/選	授業科目	単位数	学年別開講単位数			
				第1学年		第2学年	
				前期	後期	前期	後期
一般科目	必修科目	技術倫理	2				2
		総合英語	2	2			
		履修単位数	4	2			2
	選択科目	科学技術英語	2		2		
		論理的英語コミュニケーション	2			2	
		現代企業法論	2		2		
		国際関係論	2	2			
開講単位数	8	2	4	2			
履修単位数	4以上						
専門共通科目	必修科目	環境プロセス工学	2	2			
		環境科学	2	2			
		履修単位数	4	4			
	選択科目	微分方程式	2	2			
		ベクトル解析	2		2		
		応用代数学	2			2	
		線形代数学	2	2			
		解析力学	2			2	
		量子力学	2				2
		地球物理学概論	2		2		
		知的生産システム	2			2	
		精密加工学	2				2
		デジタル信号概論	2		2		
		超伝導工学	2				2
		機能材料工学	2			2	
		応用電子計測学	2		2		
		環境電磁気学	2	2			
		廃棄物工学	2		2		
		環境人間工学	2				2
		環境創造工学特別講義	2	2			
開講単位数	34	8	10	8	8		
履修単位数	12以上						
専門科目	必修科目	特別研究	14	2	2	5	5
		特別セミナー	2	1	1		
		履修単位数	16	3	3	5	5
	選択科目	電磁気学特論	2	2			
		応用電子物性	2		2		
		集積回路製造技術	2			2	
		電力システム解析	2	2			
		静電気応用機器	2		2		
		応用パワーエレクトロニクス	2		2		
		計算機言語基礎	2	2			
		音響システム工学	2				2
		電気通信工学特論	2	2			2
		回路工学特論	2			2	
		画像処理基礎	2	2			
		デジタル通信	2			2	
		マルチメディア工学	2				2
		電気電子工学特別演習Ⅰ	1	1			
		計算機ハードウェア特別演習	1		1		
		電気電子工学特別演習Ⅱ	1			1	
		計算機ソフトウェア特別演習	1			1	
特別実習A(4週間)	4	4					
特別実習B(2週間)	2	2					
電気情報システム工学特別講義	2			2			
開講単位数	38	17	7	10	4		
履修単位数	16以上						
開講単位数合計			104	36	24	25	19
履修単位数合計			62以上				

(出典：教育課程表)

別表第3

## 教育課程

土木工学専攻

区分	必/選	授業科目	単位数	学年別開講単位数			
				第1学年		第2学年	
				前期	後期	前期	後期
一般科目	必修科目	技術倫理	2				2
		総合英語	2	2			
		履修単位数	4	2			2
	選択科目	科学技術英語	2		2		
		論理的英語コミュニケーション	2			2	
		現代企業法論	2		2		
		国際関係論	2	2			
開講単位数	8	2	4	2			
履修単位数	4以上						
専門共通科目	必修科目	環境プロセス工学	2	2			
		環境科学	2	2			
		履修単位数	4	4			
	選択科目	微分方程式	2	2			
		ベクトル解析	2		2		
		応用代数学	2			2	
		線形代数学	2	2			
		解析力学	2			2	
		量子力学	2				2
		地球物理学概論	2		2		
		知的生産システム	2			2	
		精密加工学	2				2
		デジタル信号概論	2		2		
		超伝導工学	2				2
		機能材料工学	2			2	
		応用電子計測	2		2		
		環境電磁気学	2	2			
		廃棄物工学	2		2		
		環境人間工学	2				2
		環境創造工学特別講義	2	2			
開講単位数	34	8	10	8	8		
履修単位数	12以上						
専門科目	必修科目	特別研究	14	2	2	4	6
		特別セミナー	2	1	1		
		履修単位数	16	3	3	4	6
	選択科目	マトリックス構造解析	2	2			
		連続体力学	2	2			
		水工学特論	2		2		
		水理学演習	1	1			
		環境生物学	2		2		
		地盤防災工学特論	2	2			
		土木材料学	2		2		
		資源循環システム論	2			2	
		都市計画特論	2		2		
		都市計画演習	1			1	
		土木工学特別演習Ⅰ	1	1			
		土木工学特別演習Ⅱ	1			1	
		特別実習A(4週間)	4	4			
		特別実習B(2週間)	2	2			
土木工学特別講義	2			2			
開講単位数	28	14	8	6			
履修単位数	16以上						
開講単位数合計			94	33	25	20	16
履修単位数合計			62以上				

(出典：教育課程表続き)



別表 6.1

機械・電子システム専攻(機械工学科)		2006年度専攻科入学			
学習・教育目標	達成度評価対象科目群				
	1年(本科4年)	2年(本科5年)	3年(専攻科1年)	4年(専攻科2年)	
1	1-1	人文科学選択 ※1	社会科学選択 ※3	国際関係論(2)	
	1-2			地球物理学概論(2)	
	1-3		環境工学(1)	環境プロセス工学(2) 環境科学(2) 廃棄物工学(2)	環境人間工学(2)
2	2-1	国文学(2)	社会科学選択 ※3	国際関係論(2)	
	2-2	国文学(2)	卒業研究(10)	特別セミナー(2) 特別研究(4) 特別実習A(4) 特別実習B(2)	特別研究(10)
	2-3	英語(2) ドイツ語 I (2)	外国語選択 ※5 英語B(1) ドイツ語 II B(1) 外書輪読(1)	科学技術英語(2) 総合英語(2) 特別セミナー(2)	論理的英語コミュニケーション(2)
3	3-1	前・後期数物選択 ※2 応用数学 I (2) 応用物理(2) 数値解析 I (1) 熱力学(2) 電気工学概論(2)	数学選択 ※6 流体力学(1)	微分方程式(2) ベクトル解析(2) 線形代数学(2)	応用代数学(2) 解析力学(2) 量子力学(2) 知的生産システム(2) 機能材料工学(2)
	3-2		卒業研究(10)	特別研究(4)	特別研究(10)
	3-3	材料力学(2) 材料学(1) 機構学(2)(PBL) 機械設計法(2) 機械設計製図(3) 工学実験(3) 工学演習(2) 工場実習(1) 流体工学(2)	機械力学(2) 伝熱工学(1) 熱機関(2) 流体機械(1) 塑性加工(1) 制御工学(2) 計測工学(1) エネルギー変換工学(2) 工学実験(1) システム工学(2) 生産システム(1) 生産工学(1) 卒業研究(10)	固体の力学(2) 流体工学特論(2) 流体力学特論(2) 弾性力学 知能情報処理論(2) 計測制御工学(2) 機械設計演習(2)(PBL) ロボット工学(2) デジタル信号概論(2) 応用電子計測(2) 環境電磁気学(2) 制御工学特論(2) 電気回路特論(2) 環境創造工学特別講義(2) 機械・電子システム工学特別演習 I (1) 機械・電子システム工学特別演習 II (1) 機械・電子システム工学特別演習 III (1) 特別研究(4) 特別実習A(4) 特別実習B(2)	材料物性工学(2) 精密加工学(2) 伝熱工学特論(2) 画像工学(2) 画像情報処理特論(2) 超伝導工学(2) 機械・電子システム工学特別講義(2) 特別研究(10)
4	4-1	人文科学選択 ※1 保健体育(1)	社会科学選択 ※4 保健体育(1) 体育(1)	現代企業法論(2)	
	4-2	工場実習(1)		特別実習A(4) 特別実習B(2) 環境プロセス工学(2)	技術倫理(2)
	4-3	英語(2) ドイツ語 I (2)	外国語選択 ※5 英語B(1) ドイツ語 II B(1)	科学技術英語(2) 総合英語(2)	論理的英語コミュニケーション(2)

( )内の数字は、単位数を示す。

人文科学選択 ※1: 哲学(2)・倫理学(2)・現代史(2)

前・後期数物選択 ※2: 線形代数 II (1)・微分方程式(1)・数学演習(1)・宇宙科学概論(1)・統計学 II (1)・物理学演習(1)

社会科学選択 ※3: 経済学(2)・政治学(2), ※4: 法学(2)

外国語選択 ※5: 英語A(2)・ドイツ語 II A(2)

数学選択 ※6: 応用数学 II (1)・数値解析 II (1)

(出典: 平成 18 年度学生便覧 67 頁)



別表 6.2

機械・電子システム専攻(電子制御工学科)		2006年度専攻科入学			
学習・教育目標	達成度評価対象科目群				
	1年(本科4年)	2年(本科5年)	3年(専攻科1年)	4年(専攻科2年)	
1	1-1	人文科学選択 ※1	社会科学選択 ※3	国際関係論(2)	
	1-2			地球物理学概論(2)	
	1-3	特別講座Ⅰ(1)	特別講座Ⅱ(1) 環境工学(1)	環境プロセス工学(2) 環境科学(2) 廃棄物工学(2)	環境人間工学(2)
2	2-1	国文学(2)	社会科学選択 ※3	国際関係論(2)	
	2-2	国文学(2)	卒業研究(10)	特別セミナー(2) 特別研究(4) 特別実習A(4) 特別実習B(2)	特別研究(10)
	2-3	英語(2) ドイツ語Ⅰ(2)	外国語選択 ※5 英語B(1) ドイツ語ⅡB(1)	科学技術英語(2) 総合英語(2) 特別セミナー(2)	講義的英語コミュニケーション(2)
3	3-1	前・後期数物選択 ※2 応用数学Ⅰ(2) 応用物理(2) 数値解析Ⅰ(1)	数学選択 ※6	微分方程式(2) ベクトル解析(2) 線形代数学(2)	応用代数学(2) 解析力学(2) 量子力学(2) 知的生産システム(2) 機能材料工学(2)
	3-2		卒業研究(10)	特別研究(4)	特別研究(10)
	3-3	機械設計法(2) 電子回路(2) デジタル回路(2) 制御工学(1) 数値制御(1) 電子計算機(2) 創造設計(2)(PBL) 工学実験(3) 材料力学Ⅱ(2) 工場実習(1) 特別講座Ⅰ(1) 材料学(2) エネルギー工学(2)	計測工学(1) 制御工学(2) 電子計算機(2) システム工学(2) 工学実験(1) 制御機器(2) 卒業研究(10) 制御用インターフェース(1) 生産システム(1) 創造工学(1) 真空工学(1) 特別講座Ⅱ(1) 品質管理(1)	固体の力学(2) 流体工学特論(2) 流体力学特論(2) 弾性力学(2) 知能情報処理論(2) 計測制御工学(2) 機械設計演習(2)(PBL) ロボット工学(2) デジタル信号概論(2) 応用電子計測(2) 環境電磁気学(2) 制御工学特論(2) 電気回路特論(2) 環境創造工学特別講義(2) 機械・電子システム工学特別演習Ⅰ(1) 機械・電子システム工学特別演習Ⅱ(1) 機械・電子システム工学特別演習Ⅲ(1) 特別研究(4) 特別実習A(4) 特別実習B(2)	材料物性工学(2) 精密加工学(2) 伝熱工学特論(2) 画像工学(2) 画像情報処理特論(2) 超伝導工学(2) 機械・電子システム工学特別講義(2) 特別研究(10)
4	4-1	人文科学選択 ※1 保健体育(1)	社会科学選択 ※4 保健体育(1) 体育(1)	現代企業法論(2)	
	4-2	工場実習(1) 特別講座Ⅰ(1)	特別講座Ⅱ(1)	特別実習A(4) 特別実習B(2) 環境プロセス工学(2)	技術倫理(2)
	4-3	英語(2) ドイツ語Ⅰ(2)	外国語選択 ※5 英語B(1) ドイツ語ⅡB(1)	科学技術英語(2) 総合英語(2)	講義的英語コミュニケーション(2)

( )内の数字は、単位数を示す。

人文科学選択 ※1: 哲学(2)・倫理学(2)・現代史(2)  
 前・後期数物選択 ※2: 線形代数Ⅱ(1)・微分方程式(1)・数学演習(1)・宇宙科学概論(1)・統計学Ⅱ(1)・物理学演習(1)  
 社会科学選択 ※3: 経済学(2)・政治学(2) ※4: 法学(2)  
 外国語選択 ※5: 英語A(2)・ドイツ語ⅡA(2)  
 数学選択 ※6: 応用数学Ⅱ(1)・数値解析Ⅱ(1)

(出典:平成18年度学生便覧 68頁)

別表 6.3

電気情報システム専攻(電気工学科)		2006年度専攻科入学			
学習・教育目標	達成度評価対象科目群				
	1年(本科4年)	2年(本科5年)	3年(専攻科1年)	4年(専攻科2年)	
1	1-1	人文科学選択 ※1	社会科学選択 ※3	国際関係論(2)	
	1-2			地球物理学概論(2)	
	1-3		電気通信特論(2)	環境プロセス工学(2) 環境科学(2) 廃棄物工学(2)	環境人間工学(2)
2	2-1	国文学(2)	社会科学選択 ※3	国際関係論(2)	
	2-2	国文学(2) 創造実習(2)(PBL)	卒業研究(8)	特別セミナー(2) 特別研究(4) 特別実習A(4) 特別実習B(2)	特別研究(10)
	2-3	英語(2) ドイツ語 I (2)	外国語選択 ※5 英語B(1) ドイツ語 II B(1)	科学技術英語(2) 総合英語(2) 特別セミナー(2)	論理的英語コミュニケーション(2)
3	3-1	前・後期数物選択 ※2 応用数学 I (2) ベクトル解析(1) 応用物理(2) 電磁気学 I (1) 電磁気学 II (1)	数学選択 ※6 電子物性(1)	微分方程式(2) ベクトル解析(2) 線形代数学(2) 応用電子物性(2)	応用代数学(2) 解析力学(2) 量子力学(2) 知的生産システム(2) 機能材料工学(2)
	3-2		情報処理特論(1) 卒業研究(8)	特別研究(4)	特別研究(10) 音響システム工学(2)
	3-3	電気回路 I (1) 半導体工学(2) 電子回路 I (1) 電気機器(1) 電気工学実験(4) 電気回路 II (1) デジタル回路(2) 電子計算機 I (2) 電気通信(2) 発変電工学(2)	電子応用(1) 電子回路 II (1) 電子回路設計(1) 電子計算機 II (1) 制御工学(2) 電気電子材料(2) パワーエレクトロニクス(1) 電力輸送工学(2) 電機設計(1) 高電圧工学(1) 電気施設管理(1) エネルギー変換工学(1) 卒業研究(8) 電気工学実験(2)	デジタル信号概論(2) 応用電子計測(2) 環境電磁気学(2) 環境創造工学特別講義(2) 特別研究(4) 電磁気学特論(2) 電力システム解析(2) 静電気応用機器(2) 応用パワーエレクトロニクス(2) 計算機言語基礎(2) 電気通信工学(2) 画像処理基礎(2) 電気電子工学特別演習 I (1) 計算機ハードウェア特別演習(1) 特別実習A(4) 特別実習B(2)	精密加工工学(2) 超伝導工学(2) 特別研究(10) 集積回路製造技術(2) 回路工学特論(2) デジタル通信(2) マルチメディア工学(2) 電気電子工学特別演習 II (1) 計算機ソフトウェア特別演習(1) 電気情報システム工学特別講義(2)
4	4-1	人文科学選択 ※1 保健体育(1)	社会科学選択 ※4 保健体育(1) 体育(1)	現代企業法論(2)	
	4-2			特別実習A(4) 特別実習B(2) 環境プロセス工学(2)	技術倫理(2)
	4-3	英語(2) ドイツ語 I (2)	外国語選択 ※5 英語B(1) ドイツ語 II B(1)	科学技術英語(2) 総合英語(2)	論理的英語コミュニケーション(2)

( )内の数字は、単位数を示す。

人文科学選択 ※1: 哲学(2)・倫理学(2)・現代史(2)  
 前・後期数物選択 ※2: 線形代数 II (1)・微分方程式(1)・数学演習(1)・宇宙科学概論(1)・統計学 II (1)・物理学演習(1)  
 社会科学選択 ※3: 経済学(2)・政治学(2)、※4: 法学(2)  
 外国語選択 ※5: 英語A(2)・ドイツ語 II A(2)  
 数学選択 ※6: 応用数学 II (1)・数値解析(1)

(出典:平成 18 年度学生便覧 69 頁)

別表 6.4

電気情報システム専攻(情報工学科)		2006年度専攻科入学			
学習・教育目標	達成度評価対象科目群				
	1年(本科4年)	2年(本科5年)	3年(専攻科1年)	4年(専攻科2年)	
1	1-1	人文科学選択 ※1	社会科学選択 ※3	国際関係論(2)	
	1-2			地球物理学概論(2)	
	1-3	電気回路(1)		環境プロセス工学(2) 環境科学(2) 廃棄物工学(2)	環境人間工学(2)
2	2-1	国文学(2)	社会科学選択 ※3	国際関係論(2)	
	2-2	国文学(2)	卒業研究(10)	特別セミナー(2) 特別研究(4) 特別実習A(4) 特別実習B(2)	特別研究(10)
	2-3	英語(2) ドイツ語 I (2)	外国語選択 ※5 英語B(1) ドイツ語 II B(1)	科学技術英語(2) 総合英語(2) 特別セミナー(2)	論理的英語コミュニケーション(2)
3	3-1	前・後期数物選択 ※2 応用数学 I (2) ベクトル解析(1) 応用物理(2)	数学情報選択 ※6 情報素子工学(2) 集積回路工学(1) システム工学特論 II (1)	微分方程式(2) ベクトル解析(2) 線形代数(2) 応用電子物性(2)	応用代数学(2) 解析力学(2) 量子力学(2) 知的生産システム(2) 機能材料工学(2)
	3-2		卒業研究(10)	特別研究(4)	特別研究(10) 音響システム工学(2)
	3-3	多変量解析(2) 電子回路(1) システムプログラム II (2) システム工学(2) 電子計算機 II (2) 工学演習(1) 工場実習(1) 工学実験(4) 応用実験(1) 数値解析 I (1) 情報理論(2) 通信工学(2)	制御工学(2) システム設計学(2)(PBL) データ構造論(2) 計算機アーキテクチャ(2) 情報工学特論 I (1) システム工学特論 I (1) 情報工学特論 II (1) 品質信頼性工学(1) 工学実験(2) 卒業研究(10) 数学情報選択 ※7 電気通信特論(2)	デジタル信号概論(2) 応用電子計測(2) 環境電磁気学(2) 環境製造工学特別講義(2) 特別研究(4) 電磁気学特論(2) 電力システム解析(2) 静電気応用機器(2) 応用パワーエレクトロニクス(2) 計算機言語基礎(2) 電気通信工学(2) 画像処理基礎(2) 電気電子工学特別演習 I (1) 計算機ハードウェア特別演習(1) 特別実習A(4) 特別実習B(2)	精密加工工学(2) 超伝導工学(2) 特別研究(10) 集積回路製造技術(2) 回路工学特論(2) デジタル通信(2) マルチメディア工学(2) 電気電子工学特別演習 II (1) 計算機ソフトウェア特別演習(1) 電気情報システム工学特別講義(2)
4	4-1	人文科学選択 ※1 保健体育(1)	社会科学選択 ※4 保健体育(1) 体育(1)	現代企業法論(2)	
	4-2	工場実習(1)		特別実習A(4) 特別実習B(2) 環境プロセス工学(2)	技術倫理(2)
	4-3	英語(2) ドイツ語 I (2)	外国語選択 ※5 英語B(1) ドイツ語 II B(1)	科学技術英語(2) 総合英語(2)	論理的英語コミュニケーション(2)

( )内の数字は、単位数を示す。

人文科学選択 ※1: 哲学(2)・倫理学(2)・現代史(2)

前・後期数物選択 ※2: 線形代数 II (1)・微分方程式(1)・数学演習(1)・宇宙科学概論(1)・統計学 II (1)・物理学演習(1)

社会科学選択 ※3: 経済学(2)・政治学(2) ※4: 法学(2)

外国語選択 ※5: 英語A(2)・ドイツ語 II A(2)

数学情報選択 ※6: 応用数学 II (1) ※7: 数値解析 II (1)

(出典:平成 18 年度学生便覧 70 頁)



別表 6.5

学習・教育目標		達成度評価対象科目群			
		1年(本科4年)	2年(本科5年)	3年(専攻科1年)	4年(専攻科2年)
1	1-1	人文科学選択 ※1	社会科学選択 ※3	国際関係論(2)	
	1-2		土木史(1)	地球物理学概論(2)	
	1-3		応用測量学(1) 応用測量学実習(1) 建築学概論(1)	環境プロセス工学(2) 環境科学(2) 廃棄物工学(2)	環境人間工学(2)
2	2-1	国文学(2)	社会科学選択 ※3	国際関係論(2)	
	2-2	国文学(2)	卒業研究(9)	特別セミナー(2) 特別研究(4) 特別実習A(4) 特別実習B(2)	特別研究(10)
	2-3	英語(2) ドイツ語 I (2)	外国語選択 ※5 英語B(1) ドイツ語 II B(1)	科学技術英語(2) 総合英語(2) 特別セミナー(2)	論理的英語コミュニケーション(2)
3	3-1	前・後期数物選択 ※2 応用数学 I (2) 応用物理 II (2) 数値解析 I (1)	数学選択 ※6 海岸工学(1)	微分方程式(2) ベクトル解析(2) 線形代数学(2) 連続体力学(2) 環境生物学(2)	応用代数学(2) 解析力学(2) 量子力学(2) 知的生産システム(2) 機能材料工学(2)
	3-2	構造物設計(2) 情報工学概論(1)	橋梁設計(2) 卒業研究(9)	特別研究(4)	特別研究(10)
	3-3	構造力学 II (2) 鋼構造工学(2) 構造工学実験(1) 水理学 II (2) 水理学実験(1) 環境工学 I (2) 環境工学実験(1) 土質力学 II (1) 地盤工学(1) 都市計画(2) 鉄筋コンクリート工学 II (2) 鉄筋コンクリート工学実験(1) 施工学 I (1)	耐震工学(1) 河川工学(1) 環境工学 II (1) 土木計画学(1) 交通工学(2) 施工学 II (1) 施工管理学(1) 意匠設計(1)(PBL) 機械工学概論(1) 電気工学概論(1) 工学演習(1) 卒業研究(9)	デジタル信号概論(2) 応用電子計測(2) 環境電磁気学(2) 環境創造工学特別講義(2) 特別研究(4) マトリックス構造解析(2) 水工学特論(2) 水理学演習(1) 地盤防災工学特論(2) 土木材料学(2) 都市計画特論(2) 土木工学特別演習 I (1) 特別実習A(4) 特別実習B(2)	精密加工学(2) 超伝導工学(2) 特別研究(10) 資源循環システム論(2) 都市計画演習(1)(PBL) 土木工学特別演習 II (1) 土木工学特別講義(2)
4	4-1	人文科学選択 ※1 保健体育(1)	社会科学選択 ※4 保健体育(1) 体育(1)	現代企業法論(2)	
	4-2			特別実習A(4) 特別実習B(2) 環境プロセス工学(2)	技術倫理(2)
	4-3	英語(2) ドイツ語 I (2)	外国語選択 ※5 英語B(1) ドイツ語 II B(1)	科学技術英語(2) 総合英語(2)	論理的英語コミュニケーション(2)

( )内の数字は、単位数を示す。

人文科学選択 ※1: 哲学(2)・倫理学(2)・現代史(2)

前・後期数物選択 ※2: 線形代数 II (1)・微分方程式(1)・数学演習(1)・宇宙科学概論(1)・統計学 II (1)・物理学演習(1)

社会科学選択 ※3: 経済学(2)・政治学(2) ※4: 法学(2)

外国語選択 ※5: 英語A(2)・ドイツ語 II A(2)

数学選択 ※6: 応用数学 II (1)・数値解析 II (1)

(出典: 平成 18 年度学生便覧 71 頁)

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	専攻科1年次・前期・講義
総合英語 (Comprehensive English)	担当教員	塚崎 香織 (Tsukazaki, Kaori)
	教員室	図書館2階 (tel. 42-9061)
	電子メールアドレス	tukazaki@kagoshima-ct.ac.jp
単位数および学習時間と回数	2単位:[授業(100分)+自学自習(200分)]×15回	
[本科目の目標] 実用英語能力の向上を目指し、一例としてTOEIC400点を突破できる英語学力を総合的に養う。 TOEIC関連のリスニング、および語彙力、構文、読解等の学習強化をはかる。		
[本科目の位置付け] TOEIC400点以上相当の英語力を養うための総合学習コース。 本科で習得した英語(語彙・文法・読解等)の復習および発展・強化を主軸とする。		
[学習上の留意点] 常に積極的な態度で予習・復習、その他、授業時に指示した課題に取り組むこと。		
[授業の内容]		
授 業 要 目	時限数	理解すべき内容
1. 定番語彙リスト	2	語彙・文法・読解上の重要事項
2. 定番語彙リスト	2	語彙・文法・読解上の重要事項
3. 定番語彙リスト	2	語彙・文法・読解上の重要事項
4. 定番語彙リスト	2	語彙・文法・読解上の重要事項
5. コア語彙リスト	2	語彙・文法・読解上の重要事項
6. コア語彙リスト	2	語彙・文法・読解上の重要事項
7. コア語彙リスト	2	語彙・文法・読解上の重要事項
8. トラップ語彙リスト	2	語彙・文法・読解上の重要事項
9. トラップ語彙リスト	2	語彙・文法・読解上の重要事項
10. パワーイディオム	2	語彙・文法・読解上の重要事項
11. パワーイディオム	2	語彙・文法・読解上の重要事項
12. パワーイディオム	2	語彙・文法・読解上の重要事項
13. パワー構文	2	語彙・文法・読解上の重要事項
14. パワー構文	2	語彙・文法・読解上の重要事項
15. 定期試験	2	
[教科書] TOEIC TEST READING パーフェクト攻略、TOEIC TEST LISTENING パーフェクト攻略、 TOEIC TEST GRAMMAR パーフェクト攻略		
[参考書・補助教材] プリント		
[成績評価] [TOEIC得点(50%)+定期試験成績(25%)+レポート・小テスト等(25%)]-平常点(上限10%) なお、TOEIC得点はTOEIC試験あるいはTOEIC相当試験において、400点以上取得者のみ評価対象とする(注:400点未満は0点とする)。ただし、上記得点有効期限については、本科目受講前年度および前々年度の過去2年間である。		
[専攻科課程の学習教育目標との関連] 2-3, 4-3		
[JABEEとの関連] (f)		

(出典:平成18年度シラバス 449頁)

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	専攻科2年次・通年・研究
特別研究 (Advanced Graduation Research)	担当教員	機械・電子システム工学専攻教員
	教官室	
	電子メールアドレス	
単位数および学習時間と回数	10単位：〔授業(750分)×30回〕	
〔本科目の目標〕 機械工学および電子制御工学に関する研究題目について実験・研究を行い、その成果を学協会で発表するとともに、特別研究発表会で発表し、特別研究論文にまとめる。一連の研究過程を実際に経験し、諸問題を解決する能力や機械工学及び電子制御工学に関する技術者となるための能力を養う。これらを通じて以下の項目を習得する。 1. 技術者としての社会への貢献と責任 2. 自主的に計画・立案し継続的に学習する能力 3. 文献等(外国語分権を含む)を調査・読解する能力 4. 論文内容を要約して報告するプレゼンテーション能力 5. 研究成果を論文としてまとめ記述する能力		
〔本科目の位置付け〕 特別研究に関連する内容について学習する。学習題目により重点的に必要となる科目は異なるが、本科および専攻科の全授業科目が関連する。		
〔学習上の留意点〕 各研究題目は原則として1年次のもを継続して行なう。担当教員の指示を待つのではなく、各自積極的に取り組み、特別研究を計画的に進めること。正課の時間外に行なうこともあるので、実施報告書の作成が必要。大学評価・学位授与機構へのレポート提出、小論文、学協会での発表等のスケジュールは各自確認しておくこと。		
〔授業の内容〕		
学 習 分 野		担当教員
遺伝的アルゴリズムを用いたマルチエージェントシステムの構築		岸 田
アクティブ高調波フィルタに関する研究		坪 井
火山爆発に起因する電磁気現象の測定と解析に関する研究		鎌 田
モータ駆動制御における表計算ソフトの応用		室 屋
物質拡散を伴う鉛直上向噴流		田 畑
球状粉粒体堆積物の崩壊に関する研究		池 田
柔らかいフィンをもつ円管から流出する噴流		中 島
M系列とニューラルネットワークを用いた故障修復に関する研究		宮 田
ダクト騒音に対する能動制御のシミュレーション		原 田
多分岐管群への急収縮損失特性		江 崎
ロボットによる枝打ちシステムに関する研究		山 田
かしめ締結の最適化設計に関する研究		植 村
〔教科書〕		
〔参考書・補助教材〕		
〔成績評価〕 指導教員50%、特別研究論文評価20%、プレゼンテーション評価30%で評価する。ただし、前刷原稿の提出、特別研究論文の提出および研究発表のいずれかが書けた場合、成績評価は60点未満とする。また、専攻科在学中に各種学協会等が主催あるいは後援する学術講演会等において、特別研究に関する研究発表を必ず行なうこととし、学外発表を行わない場合の成績評価は60点未満とする。ただし、本科における卒業研究指導教員と専攻科における特別研究指導教員が同じで、研究内容が類似である場合に限り、専攻科生が5年次に学協会発表を実施したものであれば、専攻科在学中における研究発表は免除できる。		
〔専攻科課程の学習教育目標との関連〕 2-2, 3-2, 3-3		
〔JABEEとの関連〕 (d) (2) b), (d) (2) c), (e), (f), (g), (h)		

(出典：平成18年度シラバス 498頁)



平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	専攻科2年次・後期・講義																									
技術倫理 (Engineering Ethics)	担当教官	山下 登 (Yamashita, Noboru)、鮫島 俊秀 (Sameshima, Toshihide)、松田 忠大 (Matsuda, Tadahiro)、大竹 孝明 (Ohtake, Takaaki)、坪井 克剛 (Tsuboi, Katsutaka)																									
	教員室	山下：一般科目棟 3 F(42-9043)、鮫島：一般科目棟 3 F(42-9045)、松田：一般科目棟 3 F(42-9044)、大竹：一般科目棟 1 F(42-9056)、坪井：機械工学科棟 1 F(42-9086)																									
	電子メールアドレス	山下：n_yamasi@kagoshima-ct.ac.jp、鮫島：t_samesi@kagoshima-ct.ac.jp 松田：t_matuda@kagoshima-ct.ac.jp、大竹：ohtake@kagoshima-ct.ac.jp、坪井：tuboi@kagoshima-ct.ac.jp																									
単位数および学習時間と回数		2単位：〔授業（100分）＋自学自習（200分）〕×15回																									
<p>【本科目の目標】 科学技術発展の歴史を振り返るとき、科学技術はすべての人間に対して幸福をもたらしてくれたであろうか。あるいは、科学技術は地球環境（自然）との共存を果たしてきたであろうか。すべての科学技術者は、科学技術者である前に一人間としてこの地球上に存在する。人間は、地球という巨大な生命体の一部であるがゆえに、他の生命との共存を考えなければならない。また、人間社会において、ひとりひとりの人間は、他者を思いやる心を持ち、相手の立場に立つてもの考え、すべての人類の幸福を追求してゆかなければならない。そこで、本科目は、人間として不可欠な倫理観を身に付けること、すなわち、人間として、自然および社会に対して負う責任を自覚するとともに、科学技術と人間、自然との係わり合いを深く考え、人類の未来と自然との共存をデザインできる能力を身に付けることを主な目標とする。</p> <p>【本科目の位置付け】 本科目は、学生諸君が、将来、善良な技術者として活躍する上で必要不可欠の科目であると同時に、学生諸君が本学で学んだ人文・社会科学から各専門科目までを含めた学問の総まとめとして位置付けられる。</p> <p>【学習上の留意点】 講義内容をよく理解するために、毎回、教科書等を参考に2時間程度の予習をし、授業時間での質問等に対応できるようにしておくこと。また、講義終了後は、復習として2時間程度の演習問題等の課題に取り組むこと。疑問点があれば、その都度質問すること。 教科書等の指定はないが、各担当教官が配布する資料等に沿って授業が進行する。また、単元が終わる毎にレポートを提出してもらう。</p> <p>【授業の内容】</p>																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>授 業 要 目</th> <th>時限数</th> <th>担当教員</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 技術倫理の基礎知識</td> <td>6</td> <td>山下</td> <td>科学技術と人間性、功利主義と義務論、環境倫理、世代間倫理、互酬性</td> </tr> <tr> <td>2. 科学技術と歴史</td> <td>6</td> <td>鮫島</td> <td>産業革命と科学技術、戦争と科学技術、技術革新がもたらしたものの</td> </tr> <tr> <td>3. 技術者の法的責任</td> <td>10</td> <td>松田</td> <td>民事責任と刑事責任の基礎、契約責任と不法行為責任、証明責任、技術者と組織の法律関係、製造物責任、知的財産権制度の概要</td> </tr> <tr> <td>4. 科学技術と環境</td> <td>4</td> <td>大竹</td> <td>科学技術が地球環境に及ぼす影響、科学技術と公害の発生、地球環境問題への対処</td> </tr> <tr> <td>5. 技術倫理の実際</td> <td>4</td> <td>坪井</td> <td>各組織の倫理綱領・要綱類の具体例、実例による事故の問題点考察と予防倫理の考え方</td> </tr> </tbody> </table>				授 業 要 目	時限数	担当教員		1. 技術倫理の基礎知識	6	山下	科学技術と人間性、功利主義と義務論、環境倫理、世代間倫理、互酬性	2. 科学技術と歴史	6	鮫島	産業革命と科学技術、戦争と科学技術、技術革新がもたらしたものの	3. 技術者の法的責任	10	松田	民事責任と刑事責任の基礎、契約責任と不法行為責任、証明責任、技術者と組織の法律関係、製造物責任、知的財産権制度の概要	4. 科学技術と環境	4	大竹	科学技術が地球環境に及ぼす影響、科学技術と公害の発生、地球環境問題への対処	5. 技術倫理の実際	4	坪井	各組織の倫理綱領・要綱類の具体例、実例による事故の問題点考察と予防倫理の考え方
授 業 要 目	時限数	担当教員																									
1. 技術倫理の基礎知識	6	山下	科学技術と人間性、功利主義と義務論、環境倫理、世代間倫理、互酬性																								
2. 科学技術と歴史	6	鮫島	産業革命と科学技術、戦争と科学技術、技術革新がもたらしたものの																								
3. 技術者の法的責任	10	松田	民事責任と刑事責任の基礎、契約責任と不法行為責任、証明責任、技術者と組織の法律関係、製造物責任、知的財産権制度の概要																								
4. 科学技術と環境	4	大竹	科学技術が地球環境に及ぼす影響、科学技術と公害の発生、地球環境問題への対処																								
5. 技術倫理の実際	4	坪井	各組織の倫理綱領・要綱類の具体例、実例による事故の問題点考察と予防倫理の考え方																								
【教科書】なし																											
【参考書・補助教材】各担当教官が適宜配布・紹介する																											
【成績評価】各担当教員の実施する試験またはレポート課題（各100点満点）の平均点																											
【専攻科課程の学習教育目標との関連】 4-2																											
【JABEEとの関連】 (b)																											

(出典：平成18年度シラバス 464頁)

## ○ 鹿児島工業高等専門学校専攻科授業科目の履修に関する規則

(修了に必要な単位)

第10条 専攻科の修了に必要な単位は、62単位以上（そのうち、すべての必修科目を含み一般科目8単位以上、専門共通科目16単位以上、専門科目32単位以上）修得するものとする。

(出典：規則集)



(分析結果とその根拠理由)

教育課程は、専攻科の教育の目的である学習・教育目標に沿って科目が編成されており体系性が確保されている。特に各目標について必修科目が設定されているなど科目配置も適切である。また内容については、科目の達成基準としてTOEIC、学会発表等の外部評価も一部取り入れるなど、教育の目標を達成するのに十分なものとなっている。

**観点5-5-③： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他専攻の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。**

(観点に係る状況)

学生の多様なニーズへの対応として、他専攻の授業科目の履修を最大6単位まで可能としている。これは「専攻科授業科目の履修に関する規則第10条（修了に必要な単位）」（資料5-5-②-6）において、「修了に必要な単位は、62単位以上（そのうち、すべての必修科目を含み、一般科目8単位以上、専門共通科目16単位以上、専門科目32単位以上）」と規定しており、このことは年度当初のオリエンテーションにおいて学生に説明している（資料5-5-③-1）。

この他にも学生の多様なニーズに対応するため、県内の高等教育機関と単位互換協定（資料5-1-②-2参照）を、また九州地区9国立高専間で単位互換協定（資料5-1-②-3参照）を締結しており、他の教育機関の講義の単位取得を可能としている。特に、夏季休暇中等には他教育機関の集中講義を受講する学生がいる（資料5-5-③-2）。

本専攻科課程の目的である「環境に配慮したものづくりができる技術者の養成」は現代社会の切実な要請であり、環境系科目を専門共通科目として全専攻の学生が受講できるようにしている教育課程はまさにそれに対応したものである。また、この分野の学術の発展動向に対応できるよう、平成17年度より専門共通科目に「環境創造工学特別講義」を設定し、外部講師を招聘して最先端技術についての知識を得られるようにしている。

インターンシップについては特別実習A、Bとして単位化している（資料5-5-③-3）。県内の受入企業に制約があるため履修者は多くないが、海外企業（タイ）や研究機関での実習も行われている（資料5-5-③-4）。

英語コミュニケーション力の充実については内外からの要望が高いことから、英語科目を必修としておりこの中でTOEIC受験、400点以上の取得を義務付けている。また補充教育としてTOEIC対策補習を実施している（資料5-5-③-5）。

#### 観点5-5-③資料一覧

(資料5-5-③-1) オリエンテーション	出典：平成18年度専攻科オリエンテーション資料
(資料5-5-③-2) 平成17年度鹿児島県単位互換協定実績例	出典：学生課資料
(資料5-5-③-3) 特別実習シラバス	出典：平成18年度シラバス
(資料5-5-③-4) インターンシップ実績	出典：高専だより 54号
(資料5-5-③-5) TOEIC と特別補習 実績データ	出典：専攻科資料

平成18年度 専攻科生オリエンテーション

日 時： 平成18年4月6日 9:00～  
 (平成17年4月7日 9:00～ 予備日)

場 所： 専攻科棟2階共用教室

内 容：

- I. 全専攻対象
1. 学生便覧, シラバス, 時間割表の配布
  2. 専攻科スタッフの紹介
  3. 学生心得について
  4. 行事日程等について
  5. 教育課程および専攻科修了要件等について
  6. 学位授与システムについて
  7. JABEE 修了要件について
  8. 時間割について
  9. 特別研究について
  10. 特別セミナーについて
  11. IPTOEIC 日程等について
  12. 特別実習 (インターンシップ) について

(出典：平成18年度専攻科オリエンテーション資料)

平成17年度専攻科単位互換実績

No	学年学科	氏名	健康づくりのための運動 (単位数)	素点	評価	社会福祉計画論(単位数)	素点	評価	言語文化と精神文化 (単位数)	素点	評価
1	1 土木工学専攻					2	70	B	2	78	B
2	1 土木工学専攻					2	70	B	2	77	B
3	1 土木工学専攻					2	60	C	2	83	A
4	1 土木工学専攻					2	80	A			
5	1 土木工学専攻					2	80	A	2	80	A
6	1 土木工学専攻								2	82	A
7	1 機械・電子システム						30	D			
8	1 機械・電子システム					2	60	C			
9	1 機械・電子システム					2	70	B			

(出典：学生課資料)

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	専攻科1年次・休業期間・実習
特別実習 A (Special Practice A)	担当教員	機械・電子システム工学専攻長
	教官室	専攻科棟4階 (tel 42-9084)
	電子メールアドレス	kishida@kagoshima-ct.ac.jp
単位数および学習時間と回数	4単位 4週間	
〔本科目の目標〕 約4週間の期間を持って企業に出向き、会社での業務に触れて実社会での活動を体験し、また実学的な経験を会得する。		
〔本科目の位置付け〕 これまで、主として、座学によって学んだ理論あるいは工学実験で学んだ事柄が、実際の企業でどのように応用されているかを理解する。また、実社会における技術者としての心構えを体得する。		
〔学習上の留意点〕 企業では、学生のために時間と労力を割いてくださるので、そのことを念頭に、礼儀に失することなく社会人としてのマナーを考えながら行動すること。また、実習中は積極的に質問することにつとめる。		
〔授業の内容〕		
授業要目	時間数	理解すべき内容
原則として、協力企業に約4週間程度出向き、受入企業から提供される実習テーマに基づいて実習を行なう。	4週間	(1) 技術者としての社会的責任を自覚し、職業意識の向上を図る。 (2) 与えられた実習テーマに対し、これまでに学んだ専門的知識や現場での学習をもとに課題を解決し、まとめる能力を養う。 (3) 技術者が直面する産業社会での問題点や課題を理解する。
〔教科書〕		
〔参考書・補助教材〕 出向技業での各種パンフレット、カタログ、資料等		
〔成績評価〕 企業での実習評価、成果発表及び報告書による評価する。 企業の評価 60%、報告書の評価20%、成果発表の評価20%		
〔専攻科課程の学習教育目標との関連〕 4-2		
〔JABEEとの関連〕 (d) (2) d)		

(出典：平成18年度シラバス 490頁)

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	専攻科1年次・休業期間・実習
特別実習B (Special Practice B)	担当教員	機械・電子システム工学専攻長
	教官室	専攻科棟4階 (tel 42-9084)
	電子メールアドレス	kishida@kagoshima-ct.ac.jp
単位数および学習時間と回数	2単位 2週間	
〔本科目の目標〕 約2週間の期間を持って企業に出向き、会社での業務に触れて実社会での活動を体験し、また実学的な経験を会得する。		
〔本科目の位置付け〕 これまで、主として、座学によって学んだ理論あるいは工学実験で学んだ事柄が、実際の企業でどのように応用されているかを理解する。また、実社会における技術者としての心構えを体得する。		
〔学習上の留意点〕 企業では、学生のために時間と労力を割いてくださるので、そのことを念頭に、礼儀に失することなく社会人としてのマナーを考えながら行動すること。また、実習中は積極的に質問することにつとめる。		
〔授業の内容〕		
授業要目	時間数	理解すべき内容
原則として、協力企業に約2週間程度出向き、受入企業から提供される実習テーマに基づいて実習を行なう。	2週間	(1) 技術者としての社会的責任を自覚し、職業意識の向上を図る。 (2) 与えられた実習テーマに対し、これまでに学んだ専門的知識や現場での学習をもとに課題を解決し、まとめる能力を養う。 (3) 技術者が直面する産業社会での問題点や課題を理解する。
〔教科書〕		
〔参考書・補助教材〕 出向企業での各種パンフレット、カタログ、資料等		
〔成績評価〕 企業での実習評価、成果発表及び報告書による評価する。 企業の評価 60%、報告書の評価20%、成果発表の評価20%		
〔専攻科課程の学習教育目標との関連〕 4-2		
〔JABEEとの関連〕 (d) (2) d)		

(出典：平成18年度シラバス 491頁)

表 1 平成17年度 専攻科特別実習（インターンシップ）実施状況

	派遣学生	受け入れ先	実習期間	内容
1		ミヤマ工業株式会社 生産開発部 (愛知県西加茂郡三好町)	平成 17 年 7 月 25 日～8 月 5 日	
2		独立行政法人情報通信研究機構 関西先端研究センター ナノ機構 グループ (兵庫県西明石市)	平成 17 年 8 月 1 日～8 月 12 日	
3		独立行政法人情報通信研究機構 関西先端研究センター ナノ機構 グループ (兵庫県西明石市)	平成 17 年 8 月 1 日～8 月 12 日	
4		丸福建設株式会社 (鹿児島市)	平成 17 年 8 月 10 日～8 月 12 日 8 月 16 日～8 月 20 日	
5		丸福建設株式会社 (鹿児島市)	平成 17 年 8 月 10 日～8 月 12 日 8 月 16 日～8 月 20 日	
6		カセサート大学 (タイ)	平成 17 年 7 月 24 日～8 月 20 日	
7		カセサート大学 (タイ)	平成 17 年 7 月 24 日～8 月 20 日	

(出典：高専だより 54号 31頁)

差出人：“嵯峨原 昭次” [\*\*\*\*\*@kagoshima-ct.ac.jp]

送信日時：2005 年 4 月 9 日土曜日 19:29

宛先：\*\*\*\*\*;\*\*\*\*\*

件名：専攻科 2 年生 TOEIC 補講開講嵯峨原

専攻科 2 年生対象の TOEIC 補講が 4 月 11 日（月）～6 月 30 日（木）まで 3 ヶ月間開講されます。昨年度の補講は週 5 回でしたが、今回は週 3 回（月水木）となります。関係の先生方には又ご協力を御願います。

今回、月曜日は英語教員が 1 名、水曜日は専門教員が 1 名、木曜日は非常勤英語教員 1 名、専門教員 1 名という体制で実施します。水曜日、木曜日を担当する専門の先生用にマニュアルを作成しましたので、添付ファイルで送ります。関係のない先生方はこのメールは消去してください。

このマニュアルは補講用の帳簿類に貼ってありますが、監督を予定しておられる先生方は前もって読んでおいてください。

この補講の責任者は嵯峨原です。問合せは嵯峨原までお願いします。

添付ファイル：専門の先生方に各曜日ごとに特にお願いしたいこと.doc

(出典：英語科資料)

## 水曜日・木曜日監督される専門の先生方に特にお願いしたいこと

(何か分からないときは図書館 2 階にいる英語教員か、嵯峨原の携

帯 ( ■■■■ — ■■■■ — ■■■■ ) にご連絡ください。

### 1. 水曜日監督される先生へ

- 1) 先生にお願いしたいことは①第 2 ゼミの鍵開けと閉め①出席確認②単語試験の実施③復習試験の実施④自習の監督です。1 名で監督をお願いします。
- 2) 補講の実施される教室は第 2 ゼミ (図書館 2 階) です。鍵は図書館 1 階の事務室にありますので、事務の方から借りてください。補講終了後、事務室が閉っていたら、帳簿が入っている引出しに入れておいてください。嵯峨原が翌日返却します。
- 3) 帳簿は 3 冊 (①出席簿②成績綴③報告書綴) 嵯峨原研究室前のプラスチックケースの右一番上の引き出しの中に入っています。補講の始まる前に取って第 2 ゼミナール室に持って行ってください。
- 4) 補講時間は 16:50~18:30 (9, 10 時間目) です。
- 5) まず出席を取ってください。出席簿への記入をお願いします。
- 6) 次に指定された単語試験 (帳簿類の入っている下の引き出しに入っています) をやらせて、制限時間は設けずに済み次第、解答を配布して採点させてください。点数を成績綴 (B 表: 単語テスト) に記入してください。問題・解答は回収する必要はありません。
- 7) 次に復習試験 (単語試験と同じ場所にあります) をやらせて、済んだら、解答を配布して採点させてください。点数を成績綴 (C 表: 復習テスト) に記入してください。問題・解答は回収する必要はありません。
- 8) 残った時間は翌日の補講の予習や、ネットアカデミーなどさせて、自習させてください。
- 9) 時間が来たら解散させて第 2 ゼミの戸締りをしてください。鍵は図書事務室に返却してください。図書事務室が閉っていたら、帳簿を返す場所に入れておいてください。嵯峨原が翌日返却します。帳簿類は持ち帰らないで、元あった場所に返してください。
- 10) その日のうちにメールで報告をしてください。①宛先: maeda, kyoukan ②タイトル: (TOEIC(4/11) \*4 月 11 日補講の場合の例 ③本文: ・補講の年月日及び時間帯 例)4 月 11 日 (月) 16:50~18:30 ・出欠状況 (受講者のうち、欠席、遅刻、早退した者の氏名) ・コメント (受講態度等で特記すべき事項 (試験の点数他)、その他があればコメントする ・担当者 (主担当教員、(木曜日の場合は補佐教員) の氏名)

(出典: 英語科資料)



## 専攻科生TOEIC補講講義予定表・当番表(平成17年度)

回数	月日曜日	講師	教室	時間帯	専門教員監督者
1	4月11日(月)	嵯峨原	LL教室	9,10	×
2	13日(水)	×	第2ゼミ	9,10	須田
3	14日(木)	上園	第2ゼミ	7,8	岡林
4	18日(月)	嵯峨原	LL教室	9,10	×
5	20日(水)	×	第2ゼミ	9,10	持原
6	21日(木)	上園	第2ゼミ	7,8	小迫
7	25日(月)	嵯峨原	LL教室	9,10	×
8	27日(水)	×	第2ゼミ	9,10	室屋
9	28日(木)	上園	第2ゼミ	7,8	山田(I)
10	5月9日(月)	嵯峨原	LL教室	9,10	×
11	11日(水)	×	第2ゼミ	9,10	江崎
12	12日(木)	上園	第2ゼミ	7,8	堤
13	16日(月)	嵯峨原	LL教室	9,10	×
14	18日(水)	×	第2ゼミ	9,10	宮田
15	19日(木)	上園	第2ゼミ	7,8	小暮
16	23日(月)	嵯峨原	LL教室	9,10	×
17	25日(水)	×	第2ゼミ	9,10	池田
18	26日(木)	上園	第2ゼミ	7,8	榎園
19	6月6日(月)	嵯峨原	LL教室	9,10	×
20	8日(水)	×	第2ゼミ	9,10	原田
21	9日(木)	上園	第2ゼミ	7,8	前野
22	13日(月)	嵯峨原	LL教室	9,10	×
23	15日(水)	×	第2ゼミ	9,10	中島
24	16日(木)	上園	第2ゼミ	7,8	加治佐
25	20日(月)	嵯峨原	LL教室	9,10	×
26	22日(水)	×	第2ゼミ	9,10	河野
27	23日(木)	上園	第2ゼミ	7,8	西留
28	27日(月)	嵯峨原	LL教室	9,10	×
29	29日(水)	×	第2ゼミ	9,10	桑島
30	30日(木)	上園	第2ゼミ	7,8	幸田

(出典：英語科資料)

(分析結果とその根拠理由)

環境関連科目を全専攻共通科目としていることなど、社会からの要請等に対応した教育課程の編成となっている。また、他専攻の単位取得を可能にしていること、他の教育機関との単位互換協定を締結していること、TOEIC 対策補習の実施等、学生の多様なニーズに配慮した教育課程となっている。

**観点 5-6-①：** 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。)

(観点到に係る状況)

専攻科課程の授業形態は、授業科目の特徴に応じて講義、演習、実験・実習に分けられており、それぞれ単位に対する授業時間が定められている(資料 5-6-①-1)。それぞれの授業形態の単位数の割合は、一般科目を含めた開講単位数全体に対して、演習は 6%程度、実験実習は 17~19%程度であるが、講義形態の授業であっても専攻科の特徴である少人数教育を生かして、ゼミ形式やプレゼンテーションを課題とする等、通常のものとは異なる教育方法を取り入れている科目も多い(資料 5-6-①-2)。

また、実験・実習科目である特別研究については、実際の実施時間が単位数からの授業時間(1年次 150 時間、2年次 375 時間)を大幅に上回っており、事実上は実験・実習に多くの時間を充てていることが分かる(資料 5-6-①-3)。これにより、学習・教育目標の「論理的な記述及びプレゼンテーション能力」、「情報機器を利用する能力」、「自主的継続的に学習する能力」、「問題を解決できる能力」の育成が効果的に行われている。

#### 観点 5-6-①資料一覧

(資料 5-6-①-1) 専攻科授業科目の履修に関する規則	出典：平成 18 年度学生便覧
(資料 5-6-①-2) シラバス 科学技術英語、環境科学、応用電子計測	出典：平成 18 年度シラバス
(資料 5-6-①-3) 専攻科学習時間に占める、特別セミナー、特別研究の実時間	出典：専攻科資料

資料 5-6-①-1

#### ○ 鹿児島工業高等専門学校専攻科授業科目の履修に関する規則

(単位の計算方法)

第 2 条 各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 1 単位時間は 50 分を標準とする。
- (2) 講義については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (3) 演習については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (4) 実験及び実習については、45 時間の授業をもって 1 単位とする。

(出典：平成 18 年度学生便覧 158 頁)

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	1年次・後期・講義
科学技術英語 (Sci-Tech, English)	担当教員	坂元 真理子(Sakamoto, Mariko)
	教官室	図書棟 2階 (tel. 42-9067)
	電子メールアドレス	sakamoto@kagoshima-ct.ac.jp
単位数および学習時間と回数	〔授業(100分)+自学自習(200分)〕×15回	
〔本科目の目標〕 社会や科学について聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 英語を使った学習活動を通して社会や自分のことに目を向け、物事を論理的に考え発表する力を育てる。		
〔本科目の位置付け〕 「論理的コミュニケーション」の基礎レベル。		
〔学習上の留意点〕 与えられた題材に対し、自分の考えをまとめて書いたり発表したりする。そのため十分なやる気と、人前で自分の意見を英語で発表することをいとわない姿勢が必要とされる。 社会問題や科学的な事柄について真剣に考えることが嫌いな学生の受講は勧めない。 与えられた課題を真剣に行い、読解力の強化と内容理解に努めること。		
〔授業の内容〕		
授 業 要 目	時限数	理解すべき内容
コミュニケーションに必要な能力	2	英語でコミュニケーションを行なうときに必要とされる「論理的思考」と「プレゼンテーション能力」について
演習 1	4	テーマについての speaking, writing 活動
コミュニケーションに必要な要素	2	cohesion と coherence, パラグラフ 等
論理的な展開のパターン	6	論理展開を意識した reading, writing 活動
演習 2	10	テーマについてのプレゼンテーション作成 題材について reading, writing, speaking 活動
発表・全体のまとめ	4	作成したプレゼンテーションの発表、活動の反省
定期試験	2	
〔教科書〕 Introduction to Paragraph Reading (三修社) 〔参考書・補助教材〕 英和・和英辞書が必要。		
〔成績評価〕 プレゼンテーション (60%) + レポート等 (40%) - 授業態度 (上限 20%)		
〔専攻科課程の学習教育目標との関連〕 2-3, 4-3 〔JABEE との関連〕 (f)		

(出典：平成18年度シラバス 450頁)

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	専攻科1年次・前期・講義
環境科学 (Environmental Science)	担当教員	西留 清 (Nishidome, Kiyoshi)
	教員室	土木工学科棟3階 (tel 42-9119)
	電子メールアドレス	nisidome@kagoshima-ct.ac.jp
単位数および学習時間と回数	2単位：[授業(100分) + 自学自習(200分)] × 15回	
【本科目の目標】環境科学の理論構造の概略を明らかにし、これをとおして環境科学の体系化の試みを行なおうとするものである。このため本科目では、主に環境科学に対する基本的考え方についての概略を学ぶ。		
【本科目の位置付け】本科で学習する環境工学を踏まえ、本科目では生活と健康、室内環境、都市環境を中心に学習する。		
【学習上の留意点】授業要目毎にゼミ形式で各自和英でのプレゼンテーションを行なう。このため、十分な予習が必要である。		
【授業の内容】		
授業要目	時限数	理解すべき内容
1. 序にかえて	2	なぜ今、地球環境の時代なのか 資源循環と環境保全
2. 生活と健康	2	飲み水と健康
3. 室内環境	4	居住環境と人間 気候と室内環境 室内空気質と健康
4. 都市環境	8	自然エネルギーの有効利用 都市とアメニティ 都市の大気汚染 都市の用水と廃水 上水道システム 下水道システム し尿の処理と浄化槽 ごみのリサイクル 廃棄物の処理 廃棄物の埋め立て処分
5. 自然環境	4	水の循環と水資源 河川の汚濁と水質の浄化 湖、海の富栄養化 酸性雨と排ガス処理 地球温暖化
6. 環境をはかる/評価する	4	水環境をはかる 大気をはかる ごみの量と質をはかる 環境アセスメント
7. 地球環境と国際協力	4	世界の水道事情と国際協力 途上国のごみ問題 地球規模の水環境保全、エネルギーと国際協力
8. 定期試験	2	
【教科書】健康と環境の工学 北海道大学衛生工学科編 技報道出版		
【参考書・補助教材】衛生工学入門 朝倉書店 衛生工学演習 森北出版 水質工学演習(演習編) 丸善(株)		
【成績評価】ノート、レポート、定期試験(70%) + プレゼンテーション(30%) - 授業態度(上限10%)		
【専攻科課程の学習教育目標との関連】1-3		
【JABEEとの関連】(d)(2)(a)		

(出典：平成18年度シラバス 454頁)



平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	専攻科1年次・後期・講義
応用電子計測 (Application of Electronic Measurements)	担当教員	須田隆夫 (Suda, Takao)
	教員室	電気電子工学科棟3階 (tel 42-9070)
	電子メールアドレス	suda@kagoshima-ct.ac.jp
単位数および学習時間と回数	2単位：〔授業(100分)＋自学自習(200分)〕×15回	
〔本科目の目標〕工学分野において必須である、計測の基本とデータの処理に係わる知識(単位系、誤差、最小二乗法、補間法、相関)を整理・復習し実際の計測へ応用できるようにする。また、計測におけるコンピュータ等、電子機器の利用のための電気電子計測技術、とりわけ計測量－電気信号変換技術と信号のデジタル化技術について修得する。		
〔本科目の位置付け〕現代の各種計測においては、電気電子計測技術が用いられており、その重要性は言うまでもない。本科目では、本科において数学および各専門科目の計測関連科目で学習したことを、復習しながら実際の測定とデータ処理への応用へ生かせるようになること、並びに各種信号のコンピュータへの取り込みと言う立場から、物理量－電気信号変換、デジタル化技術について取り上げる。		
〔学習上の留意点〕データや誤差についての統計的理解のためには、実際に計算を行うことが必要である。データ処理の学習では実際にパソコンで表計算ソフト等を用いて演習を行うので、その時間にはパソコンを用意すること。このデータ処理に関する課題のほかに、授業内容に関する課題を提示するので、これらについては必ず自学自習によりレポートを作成して提出すること。		
〔授業の内容〕		
授業要目	時限数	理解すべき内容
1、計測の基本とデータ処理		
1.1 計測の基本量と単位系	2	量、計測の定義、SI単位系の基本量と組立量、単位間の換算
1.2 誤差と統計処理	4	誤差とは、計算による誤差、誤差の種類、正規分布、標準偏差、母集団と標本、不変分散、標本標準偏差、確率誤差、 演習(グラフにおける誤差、ばらつきを表示)
1.3 計測器の精度と信頼性	2	精密さ、正確さ、感度と分解能、確度、測定の精度
1.4 最小二乗法と補間	2	最小二乗法の原理、直線近似、適用例、補間法
1.5 測定量の関係と検定	4	回帰分析、検定、t検定、分散分析、 演習(最小二乗近似、補間法、回帰分析、検定)
2、計測量－電気信号変換		
2.1 電気信号処理のための基礎知識	2	電圧・電流計測、インピーダンスと等価回路、周波数特性
2.2 各種物理量の計測法	4	機械量(長さ、速度、圧力等)の電気信号への変換、温度計測(熱電対、サーミスタ)、光計測、電磁界計測
2.3 アナログ信号処理と雑音	2	増幅器、オペアンプ、フィルタ、誘導雑音、熱雑音、
3、デジタル計測システム		
3.1 AD/DA変換と標本化定理	2	量子化と標本化、標本化定理、エイリアシング
3.2 AD変換器と周辺回路	2	各種AD/DA変換器の種類と特徴、マルチプレクサ、LPF、S&H
3.3 コンピュータによる計測の実際	2	計測装置の接続、GPIO、各種インターフェース、
定期試験	2	
〔教科書〕特定の教科書は用いない。授業要目に関する資料を配布する。		
〔参考書・補助教材〕西原、山藤「計測システム工学の基礎」(森北出版)、統計の教科書類、「トランジスタ技術」「インターフェース」(CQ出版)などの技術雑誌の記事。		
〔成績評価〕定期試験(50%)＋レポート(50%) レポートは、Excel等アプリケーションによるデータ処理の演習に関する課題と提示された各種問題の解答を提出すること。		
〔専攻科課程の学習教育目標との関連〕3-3		
〔JABEEとの関連〕(d)(2)a)、(d)(2)c)		

(出典：平成18年度シラバス 460頁)

平成17年度修了生		特別研究	実施時間	
専攻	No.	氏名	1年次	2年次
			4単位 (時間)	10単位 (時間)
AMS	1		450.0	1105.0
	2		380.0	1230.0
	3		300.7	1235.0
	4		165.0	1083.0
	5		168.0	562.3
	6		337.0	1425.0
	7		129.0	606.2
	8		440.0	1015.0
AEI	9		482.0	777.6
	10		482.0	1976.0
	11		482.0	602.0
ACC	12		420.0	792.0
	13		960.0	1920.0
	14		468.0	961.0
	15		482.0	830.0
	16		730.0	1640.0
備考	AMS:機械・電子システム工学専攻			
	AEI:電気情報システム工学専攻			
	ACC:土木工学専攻			

(出典：専攻科資料)

(分析結果とその根拠理由)

授業形態は単位認定上、講義、演習、実験・実習に分けられており、それぞれの単位数の割合は、開講単位数全体に対して、演習は約6%、実験実習は17~19%程度であるが、講義形態の授業であっても少人数教育を生かして、ゼミ形式やプレゼンテーションを課題とするなどの教育指導上の工夫がなされている。また、実験・実習科目である特別研究の実施時間は、単位数上の時間を大幅に上回っており、演習、実験・実習に関する教育目標の達成が効果的に行われている。



**観点5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。**

（観点に係る状況）

専攻科における創造性を育む教育方法であるPBL科目は、3専攻のうち、土木工学専攻と機械・電子システム工学専攻で開講されている。土木工学専攻では2年次に都市計画演習（資料5-6-②-1）が開講され、加えて平成17年度より機械・電子システム工学専攻では1年次に機械設計演習（資料5-6-②-2）が開講されている。

特別実習（インターンシップ）については、休業中に2～4週間、専攻科課程の学習内容にふさわしい業務に従事させ、その成果を報告書（資料5-6-②-3）にまとめさせるとともに、学内で報告会を開催し実習内容を発表させている（資料5-6-②-4）。

**観点5-6-②資料一覧**

（資料5-6-②-1）都市計画演習のシラバス	出典：平成18年度シラバス
（資料5-6-②-2）機械設計演習のシラバス	出典：平成18年度シラバス
（資料5-6-②-3）インターンシップ報告書フォーマット	出典：専攻科資料
（資料5-6-②-4）特別実習報告会プログラム	出典：特別実習報告会プログラム

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	専攻科2年次・前期・演習(PBL)
都市計画演習 (Practice of City Planning)	担当教員	内田 一平 (Uchida, Ippei)
	教員室	土木工学科棟2階 (TEL 42-9117)
	電子メールアドレス	uchida@kagoshima-ct.ac.jp
単位数および学習時間と回数	1単位：〔授業(100分)＋授業時間外活動(200分)〕×15回	
〔本科目の目標〕 身近な環境のなかで具体的に計画対象地域(新・霧島市の一部(旧国分市または旧隼人町))を設定し、環境、構造、計画に関する理論を基礎に社会的・地理的・空間的・歴史的な観点から調査し、地域の特質と問題点を分析した上で、その地域にふさわしい将来計画をまとめ、設計図書やコンピュータ画像として完成させ表現させる。本演習は、主に計画の基礎となる調査・解析手法の修得と論理的思考の鍛錬およびプレゼンテーション能力の向上を目的とする。		
〔本科目の位置付け〕 都市計画演習は、都市計画(本科4年次開講)および都市計画特論および都市環境に関連する分野の講義科目で修得した内容を総合化することを目標としている。また、本科目はグループによるマスタープランの擬似的策定過程を体験することからPBLとしての要素を含む。		
〔学習上の留意点〕 毎回、時間の初めにその日にやることの方針等を確認し、時間の終わりに成果のチェックを行う。演習で用いる基礎資料および基礎データは年度当初に予め教員側で用意しておくが、調査内容により諸君に現地踏査や資料収集をしてもらう機会があると思われるので、そのときは十分に注意し行動すること。また、調査に必要なデジタルカメラ・ボイスレコーダなどは担当教員側で用意する。		
〔授業内容〕		
授 業 要 目	時 限 数	理 解 す べ き 内 容
1. イントロダクション	2	課題説明, 対象地域, 対象地区現地踏査
2. 各種データの読み込みと分析	10	都市計画のための調査内容と調査方法, 解析方法
3. 都市計画課題の抽出	4	国分・隼人地区の都市問題, 地区環境像等のまちづくりの目標設定
4. 中間発表	2	プレゼンテーション能力, 報告書の作成方法
5. 都市計画マスタープランの策定	10	都市計画マスタープランの策定課程と実際の都市への計画反映実態, 問題解決の考案手法
6. 最終発表	2	プレゼンテーション能力, 報告書の作成方法
〔教科書〕 都市計画教科書 都市計画教育研究会 彰国社		
〔参考書・補助教材〕 講義時配布プリント		
〔成績評価〕 毎回、時間の初めにその日にやることの方針等を議論し、時間の終わりに成果のチェックを行う。平常点および完成図面、完成資料およびプレゼンテーションで評価。 平常点(50%)＋最終成果物(30%)＋発表能力(20%)		
〔本科(準学士課程)の学習教育目標との関係〕 3-3		
〔JABEEとの関係〕 (d)(2)c		

(出典：平成18年度シラバス 547頁)

平成18年度 シラバス	学年・期間・単位数	専攻科1年次・後期・PBL
機械設計演習 (Exercises in Machine Design)	担当教員	椎 保幸 (Shii, Yasuyuki)
	教員室	機械工学科棟3階 (tel 42-9104)
	電子メールアドレス	shii@kagoshima-ct.ac.jp
単位数および学習時間と回数	2単位：〔授業(200分)＋自学自習(100分)〕×15回	
〔本科目の目標〕本科で学んだ機械工学全般の知識を基に、与えられた課題を少人数のグループで自主的に解決するPBL(Problem-Based Learning)を行い、実際に企画・設計・製作と一連の作業を通してものづくりを体験し、問題解決能力および実践的な技術を養うことを目標とする。		
〔本科目の位置付け〕 機械工学科4年次の機械設計製図(うず巻ポンプの設計)の発展的内容である。		
〔学習上の留意点〕2, 3名ずつのグループに分け、それぞれのグループは与えられた課題に対して自主的に問題を解き、最終的に実際に製品を製作する。毎回、設計書を作成するので、これまでに学習してきた基礎的な内容を1時間程度予習し、さらに与えられた課題に対して毎回1時間程度の復習およびレポート作成を行い、内容の理解に努めること。		
〔授業の内容〕		
授業要目	時限数	理解すべき内容
1. オリエンテーション	2	・PBLの概要説明
2. 企画 (1)設計仕様について (2)仕様書作成	8	与えられた課題に対する解決方法の検討 ・うず巻ポンプの設計仕様を通知 ・ポンプ性能と形態についての調査 ・基本仕様作成と条件設定
3. 設計 (1)羽根車の設計 (2)ケーシングの設計 (3)主軸と軸受部の設計	20	仕様に基づき設計作業開始 ・羽根車の形状の決定 ・ケーシングの形状の決定 ・主軸の強度および軸受部の決定
4. 製作 (1)羽根車の製作 (2)ケーシングの製作 (3)主軸の製作 (4)組み立て	24	各自実習工場にて製作 ・レーザー加工機による羽根車、ケーシング等の切出し ・旋盤等による主軸の切出し ・組立て
5. 試験 (1)ポンプの性能試験	4	ポンプ性能試験およびレポート作成
6. プレゼンテーション	2	完成品のプレゼンテーション
〔教科書〕		
〔参考書・補助教材〕うず巻ポンプの設計(設計シリーズ③) 大町 昌義 パワー社		
〔成績評価〕レポート(70%)＋プレゼンテーション(30%)		
〔専攻科課程の学習教育目標との関係〕3-3		
〔JABEEとの関連〕(d)(2)c)		

(出典：平成18年度シラバス 486頁)

## 株式会社〇〇〇〇〇〇〇〇〇におけるインターンシップ報告

電気情報システム工学専攻 2年 国分 隼人

実習場所：株式会社〇〇〇〇〇〇〇〇〇 △△△△事業所 生産管理部 品質管理課

実習期間：平成15年12月1日～平成16年1月14日（20実習日，火曜を除く）

## 1. 実習先

## 1.1 会社概要

会社名：株式会社〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

所在地：〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

社員数：〇〇名

事業内容：

## 1.2 配属先

生産管理部 品質管理課

業務内容：

## 1.3 勤務形態

## 2. 実習概要

## 3. 実習内容1

3.1 〇〇〇〇〇

3.2 〇〇〇〇〇

## 4. 実習内容2

4.1 〇〇〇〇〇

4.2 〇〇〇〇〇

## 5. 感想

## 6. 謝辞

参考文献（あれば）

[1] 〇〇，△△△△△△△△△△△△△△，◇◇出版，2003.

（出典：専攻科資料）

## 特別実習報告会プログラム

平成16年2月16日（月）

15:00～16:15

専攻科棟2F共用教室

（発表10分，質疑応答5分，1鐘：8分，2鐘：10分，3鐘：15分経過）

予定時間	実習先 大学・企業名	実習期間	学年	報告者	特別研究指導教官
15:00～	九州大学システム情報科学研究所	4週	2年	A君	須田
15:15～	西部電気工業（株）川内営業所	2週	2年	B君	三重野
15:30～	（株）親和電機	2週	2年	C君	中村
15:45～	南日本マイクロコンピュータ（株）	2週	2年	D君	榎園
16:00～	（株）グローバル・アーバンネット	4週	2年	E君	加治佐

（出典：特別実習報告会プログラム）

(分析結果とその根拠理由)

創造性を育む教育方法の一環として、インターンシップが特別実習として単位化され、その受入を国内外の企業、研究所、大学等に依頼しているが、参加学生はまだ十分とは言えない状況である。しかし、本校では準学士課程の全学科において、ものづくり実習を中心としたPBLが取り入れられており、専攻科課程においては一部の専攻において実施されている。このことから、インターンシップに関しては今後も改善の余地はあるが、準学士課程との一貫性を考慮した場合、創造性を育む教育は十分に工夫されているといえる。

**観点 5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。**

(観点に係る状況)

シラバスには、当該科目の目標、位置付け、学習上の留意点が記載されているとともに、準備学習、教育方法や内容、達成目標及び成績方法が記載されている。また、専攻科課程の学習・教育目標との関連も示されている(資料5-5-②-2参照)。なお、シラバスの作成に際しては、準学士課程と共通の作成要領が全教員に配布されている(資料5-2-②-1, 2参照)。

専攻科課程では全科目のシラバスを冊子で、学年当初に学生・教員に配布し、担当教員は、学期初めにシラバスを用いて学生に授業内容や授業の進め方及び評価方法について説明している。また、平成15年度から本校ホームページ上に全科目のシラバスを掲載し、学生及び教員が随時閲覧できるようにしている。なお、半数以上の教員が、授業進度や試験範囲の確認などに活用している(資料5-2-②-4参照)。

(分析結果とその根拠理由)

本校のシラバスには、各科目の具体的な達成目標、他の科目との関連、目標達成のための学習上の留意点、授業内容が明確に記載され、また、本校の学習・教育目標と当該科目との関連も明示されていることから、当該科目の教育課程における位置づけ、理解すべき内容等がよりよく理解されるように配慮されている。成績評価については、具体的な割合を示すことで適切な評価を行えるように配慮している。シラバスは、学生及び教員に活用されるように、ウェブページで公開されるとともに、冊子で配布している。また、科目の担当教員が最初の授業の時に学生にこれを用いて説明も行っている。なお、半数以上の教員が、授業進度や試験範囲の確認などに活用している。

**観点5-7-①：** 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば，技術職員などの教育的機能の活用，複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

（観点に係る状況）

特別研究の指導体制，特別研究テーマ，到達目標，履修する上での諸注意事項はシラバス（資料5-7-①-1）に明記されている。特別研究テーマは，指導教員の専門を生かした研究内容を事前に開示し，それらの中で専攻科生が興味を抱いたものを選択させ，決定している。

また，指導教員以外からの提案や指導が活かされるよう，専攻科1年生には中間発表を課し，各専攻ごとに全指導教員により質疑応答がなされる（資料5-7-①-2）。2年生には特別研究発表が義務づけられており，全専攻共通の評価基準に基づいて，各専攻の全指導教員が評価を行い，専攻科での修学の到達度を評価し，確認している。また，特別研究の成果を，学会において発表することが義務づけられている（資料5-7-①-3）。

#### **観点5-7-①資料一覧**

- |                          |                         |
|--------------------------|-------------------------|
| （資料5-7-①-1）専攻科特別研究シラバス   | 出典：平成18年度シラバス           |
| （資料5-7-①-2）専攻科特別研究中間発表会  | 出典：平成17年度特別研究中間発表会予稿集表紙 |
| （資料5-7-①-3）学生の学会発表（専攻科生） | 出典：学生課資料                |



平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	1年次・通年・研究
特別研究 (Advanced Graduation Research)	担当教員	電気情報システム工学専攻全教員
	教員室	
	電子メールアドレス	
単位数および学習時間と回数	4単位：研究〔300分〕×30回	
〔本科目の目標〕 本科において実施された卒業研究の経緯を踏まえ、更にレベルの高い電気情報システム工学それぞれの専門分野において、各指導教員のもとで研究を行い、専門知識の総合化と深化を図り、問題解決に向けての広い視野から理論的、実践的に考究する能力と独創性を養う。また、自主的に計画・立案し、継続的に学習・研究を行う能力や、研究成果を論文としてまとめて記述する能力も養う。本専攻科で行った研究成果は所属する学会や協会等が主催あるいは共催する講演会で発表することを義務づけるとともに各専門の学会論文誌等に投稿し、公表することを目標とする。		
〔本科目の位置付け〕 研究題目により重点的に必要となる科目は異なるが、本科および専攻科の全授業科目が関連する。		
〔学習上の留意点〕 各研究題目の割振りは年度始めに通知する。担当教員の指示を待つばかりではなく、各自積極的に取り組み、特別研究を計画的に進めること。正課の時間外に行うこともあり得る。学年末には中間発表を行う。大学評価・学位授与機構へのレポート提出、小論文試験、学協会の講演会などスケジュールを確認しておく。		
〔授業の内容〕		
研究分野		担当教員
結晶成長に関する分子動力学シミュレーション		本部・今村
セルフ・テンプレート層による超伝導薄膜の特性改善		須田・奥
オンライン手書き文字認識に関する基礎研究 学習支援システムの作成に関する基礎研究		榎園
予測符号化における予測係数の最適化に関する研究 JPEG-LSロスレス・ニアロスレス符号化(拡張版)の考察		加治佐
class A レーザカオスに対する反転分布の揺らぎ及び偏光特性の影響に関する研究		桑島
線形予測分析に関する研究		幸田
エポキシナノコンポジットの高電界下における絶縁劣化特性		中村・小迫
半導体微細加工技術を用いた医用デバイスの開発		須田
磁気刺激コイルによる磁束密度分布推定とその視覚化 生体磁気刺激における刺激電流分布の制御に関する研究		濱川・玉利
高電圧パルスパワー技術による液体絶縁物の絶縁破壊試験 放電ランプ点灯回路における高調波の挙動		中村
高電圧化インバータ -SiCパワー素子の応用と平滑キャパシタ容量低減-		本部
ニューラルネットワークに関する研究		濱川
〔教科書〕		
〔参考書・補助教材〕		
〔成績評価〕 指導教員 50%+発表 50%、詳細は別に定める。		
〔本校の学習教育目標との関係〕 2-2, 3-2, 3-3		
〔JABEEとの関連〕 (d) (2)b), (d) (2)c), (e), (f), (g), (h)		

(出典：平成18年度シラバス 506頁)

## 平成17年度特別研究中間発表会 予稿集

### 発表会プログラム

1鐘:8分, 2鐘:10分, 3鐘:15分経過  
発表10分, 質疑応答+予備5分

予定時間	発表者	特別研究のテーマ	指導教官	司会
9:00~		走査型プローブ顕微鏡による細胞膜の物性測定について	須田	
9:15~		予測符号化における予測係数の最適化に関する研究	加治佐	
9:30~		任意軸MOSドレイン電流の応力依存性	山田	
9:45~		分子動力学法による表面拡散のシミュレーション	今村	
10:00~		生体磁気刺激における生体内刺激電流の推定とその視覚化	玉利	
10:15~		雑音環境下における適応フィルタを用いた漏水音抽出	幸田	
10:30~		エポキシナノコンポジットの高電界下における絶縁劣化特性	小迫	
10:45~		JPEG-LSロスレス・ニアロスレス符号化(拡張版)の考察	加治佐	
11:00~		単一モードclass A レーザカオスに対するエネルギー準位の影響	桑島	
11:15~		水銀ランプ定電力形安定器を構成する各素子の高調波特性についての考察	中村	
11:30~		永久磁石式同期モータのトルク制御精度	本部	
12:00~		高電圧化インバータへのSiCパワー素子応用	本部	
		昼休み		
13:00~		線形予測による音響管の断面積推定	幸田	
13:15~		超伝導薄膜作製に向けた薄膜作製装置の調整と改良	奥	
13:45~		オンライン文字認識の認識率改善の試み	榎園	
14:00~		VBIによる簡易学習支援システムの作成研究	榎園	

平成18年3月6日(月) 合併教室  
主催 鹿児島工業高等専門学校  
電気情報システム工学専攻

(出典:平成17年度特別研究中間発表会予稿集 表紙)

学生の学会発表(専攻科生)						
学会名	会場	開催日	学科・専攻科名	氏名	テーマ	指導教員
火の国情報シンポジウム2003	宮崎大学	H15.3.7	専攻科電気情報システム工学専攻2年		「コンテキストベース適応型ロスレス画像符号化CALICの考察」	加治佐 清光
土木学会西部支部発表会	西日本工業大学(福岡県京都郡)	H15.3.8	専攻科土木工学専攻1年		パイプアーチで補強された多径間高架橋走行車両応答特性の検討	前野 祐二
		H15.3.8	専攻科土木工学専攻2年		都市ごみ焼却灰の化学特性と固化への検討	前野 祐二
					焼酎蒸留粕で作成したエコポットの土壌分解特性	前野 祐二
九州学生会 第34回学生員卒業研究発表会	琉球大学工学部(沖縄県中頭郡)	H15.3.11	専攻科機械・電子システム工学専攻2年		交互流回転円盤法の付着生物膜と脱離法に関する研究	前野 祐二
					内面が加熱された垂直円管内自然対流の流動と伝熱	江崎 秀司
					動的エリクセン試験に関する研究	江崎 秀司
平成15年電気学会産業応用部門大会(ヤングエンジニアポスターコンペティ)	東京工科大学	H15.8.26	機械・電子システム工学専攻2年 電気情報システム工学専攻2年		管路における急収縮損失特性	江崎 秀司
					多体ポテンシャルによる鉄中の空孔と溶質原子間の相互作用	江崎 秀司
第19回ファジィシステムシンポジウム	大阪府立大学	H15.9.8~9.9	専攻科機械・電子システム工学専攻1年		シミュレータを用いた誘導電導機駆動システム解析の応用	室屋 光宏
第11回電子情報通信学会九州支部学生会講演会	崇城大学	H15.9.25	専攻科機械・電子システム工学専攻2年		水銀ランプ電子式定電力形点灯回路の解析	中村 格
					遺伝的アルゴリズムを用いたマルチエージェントシステムの構築: 移動目標物捕獲問題への応用	岸田 一也
					桜島火山爆発に伴う電磁気現象の測定と解析に関する研究	岸田 一也 宮田 千加良 原田 治行 加治佐 清光
					M系列相関とニューラルネットワークを用いた論理ボードの故障修復に関する研究	岸田 一也 宮田 千加良 原田 治行 加治佐 清光
					離散コサイン変換を用いた画像復元に関する研究	岸田 一也 宮田 千加良 原田 治行 加治佐 清光
2003年度精密工学会九州支部主催「大分地方学術講演会」第4回学生研究発表会	大分大学	H15.11.15	専攻科機械・電子システム工学専攻2年		ウェーブレット変換を用いた画像への情報埋め込みに関する考察	岸田 一也 宮田 千加良 原田 治行 加治佐 清光
					画像可逆圧縮における基礎的手法の考察	岸田 一也 宮田 千加良 原田 治行 加治佐 清光
平成15年度 第2回電子情報系高専フォーラム	熊本電波工業高等専門学校	H15.11.15	専攻科電気情報システム工学専攻2年 専攻科電気情報システム工学専攻2年 専攻科電気情報システム工学専攻2年		手書き文字認識における歪み修正手法の検討	榎園 茂 三重野 保男
日本生物環境調節学会九州支部第2回集会	ホテル グランメール長崎	H15.11.29	専攻科電気情報システム工学専攻2年		ニューラルネットワークによる経済指標の予測	榎園 茂 三重野 保男
平成15年度 応用物理学会九州支部学術講演会	ハウステンボス	H15.12.6	専攻科電気情報システム工学専攻2年		遮光葉面の電位変動とその伝達状況について	榎園 茂 三重野 保男
第9回高専シンポジウム	有明工業高等専門学校	H16.1.17	機械・電子システム工学専攻1年		遮光葉面の電位変動とその伝達状況について	三重野 保男
日本機械学会2004年度年次大会	札幌市	H16.9.6	機械電子システム工学専攻2年		水素吸蔵合金を用いた水道水冷却装置の開発	江崎 秀司
					傾斜切断面をもつ円管群から流出する噴流	中島 正弘 田畑 隆英 椎 保幸
					噴流の拡散制御に関する研究(ウェーブレット解析による検討)	中島 正弘 田畑 隆英 椎 保幸

(出典：学生課資料)

学会名	会場	開催日	学科・専攻科名	氏名	テーマ	指導教員
平成16年度電気学会産業応用部門大会	サンポートホール高松	H16.9.14	機械・電子システム工学専攻2年		チョップパルスインバータシステムに関する研究	室屋 光宏
電気関係学会九州支部連合大会	鹿児島大学(鹿児島市)	H16.9.27~9.28	電気情報システム工学専攻2年		高圧水銀ランプ点灯回路における可飽和リアクトルのインピーダンスについての考察	中村 格
					伝搬速度を考慮した漏水音検知	幸田 晃
					繰り返し光照射による葉面電位変化の考察	加治佐 清光 三重野 保男
					JPEG-LS のニアロスレス符号化の考察	加治佐 清光
					MOSTランジスタの高速化(その2)	山田 一二
電気情報システム工学専攻1年	MOSTランジスタの高速化(その3)	山田 一二				
					MOSTランジスタの高速化(その1)	山田 一二
日本音響学会2004年秋季研究発表会	琉球大学	H16.9.29	電気情報システム工学専攻2年		無響室内シミュレーションによる漏水音検知	幸田 晃
平成16年度 第3回電子情報系高専フォーラム	熊本電波工業高等専門学校	H16.11.13	電気情報システム工学専攻2年		静止画像の可逆符号化高速化に関する考察	加治佐 清光
					電気情報システム工学専攻2年	ニューラルネットワークのモジュール化について
第82期日本機械学会流体工学部門講演会	北九州学術研究都市	H16.11.25~11.26	機械・電子システム工学専攻1年		物質拡散を伴う鉛直上向噴流	田畑 隆英 中島 正弘
					機械・電子システム工学専攻2年	柔らかいひれを用いた噴流の拡散制御に関する研究
応用物理学会九州支部大会	琉球大学	H16.11.27~11.28	電気情報システム工学専攻2年		AFMIによる赤血球細胞膜の局所粘弾性測定	須田 隆夫
平成16年度土木学会西部支部研究発表会	九州大学箱崎キャンパス(福岡市)	H17.3.5	土木工学専攻1年		桜島土石流流出火山灰の三軸せん断特性	岡林 巧
			土木工学専攻1年		トラス橋の車両走行応答特性の検討	内谷 保
			土木工学専攻1年		15Nトレーサー法による焼酎粕由来窒素の動態解析	山内 正仁
日本機械学会九州支部第58期総会・講演会	九州産業大学(福岡市)	H17.3.11	機械・電子システム工学専攻2年		平行におかれた2円管から流出する噴流	中島 正弘 田畑 隆英
第39回日本水環境学会年会	千葉大学(千葉市)	H17.3.18	土木工学専攻1年		円筒型サイクロン分離器内の流動特性(入口流速の影響)	椎 保幸
日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2005	神戸国際展示場	H17.6.9~6.11	機械・電子システム工学専攻1年		実規模多段型高温UASBリアクターによる焼酎蒸留粕廃液の連続処理特性	山内 正仁
平成17年電気学会産業応用部門大会	福井大学	H17.8.29	機械・電子システム工学専攻2年		ロボットによる林業用枝打ちシステムに関する研究(ロボット用ユニットの試作)	山田 隆明
化学工学会第37回秋季大会	岡山大学(岡山市)	2005.9.15~9.17	機械・電子システム工学専攻2年		表計算ソフトによる電導機駆動シミュレーションの応用	室屋 光宏
The 3rd International Structural Engineering and Construction Conference (ISEC-03)	徳山大学(山口県周南市)	H17.9.22	土木工学専攻1年		アクティブフィルタの各種補償電流指令値検出方式の特性比較	坪井 克剛
日本音響学会[2005年秋季研究発表会]	東北大学(仙台市)	2005.9.27~9.29	電気情報システム工学専攻2年		急収縮流れ場における流動特性	江崎 秀司
第13回電子情報通信学会九州支部学生会講演会	福岡工業大学(福岡市)	H17.9.28	機械・電子システム工学専攻2年		Improvement of buried rosette gage for measurement strain due to autogenous shrinkage of cement paste	堤 隆
日本機械学会大分地方講演会	大分大学工学部(大分市)	H17.10.15~10.17	機械・電子システム工学専攻2年		Measurement strain due to autogenous shrinkage of cement paste	堤 隆
			機械・電子システム工学専攻2年		スペクトルサブトラクション係数の理論的導入	幸田 晃
			機械・電子システム工学専攻1年		自動車の移動に起因する磁気雑音の予測手法に関する研究	岸田 一也 鎌田 清孝
			機械・電子システム工学専攻1年		M変換を用いたノイズ除去に関する研究	宮田 千加良
			機械・電子システム工学専攻2年		衝撃水圧を用いた深絞り加工の研究	南金山 裕弘
			機械・電子システム工学専攻2年		物流拡散を伴う鉛直上向噴流(流れの可視化による検討)	田畑 隆英 中島 正弘
			機械・電子システム工学専攻2年		物流拡散を伴う鉛直上向噴流(PIV解析による検討)	田畑 隆英 中島 正弘
			機械・電子システム工学専攻2年		平行におかれた2円管から流出する脈動噴流	中島 正弘 田畑 隆英
			機械・電子システム工学専攻1年		柔らかいフィンをもつ円管から流出する噴流	中島 正弘 田畑 隆英
			機械・電子システム工学専攻2年		はばたき機の基礎研究(つばさの試作)	持原 稔
第4回電子情報系高専フォーラム	熊本電波高専(熊本県菊池郡)	H17.11.12	電気情報システム工学専攻2年		衝撃水圧を用いた深絞り加工の基礎研究	南金山 裕弘 持原 稔
			電気情報システム工学専攻1年		確率概念を用いた重ね合わせ法による手書き文字確認	榎園 茂
					ストローク特徴を用いた手書き文字認識	榎園 茂

(出典：学生課資料)

### (分析結果とその根拠理由)

シラバスには専攻科の特別研究の修学にふさわしい研究テーマが明記され、同時に到達目標が明示されている。特に、特別研究の質の高さは、学外の学会において発表することで保証されている。また、特別研究に関わる試験装置等の製作は、技術室に所属する技術職員の教育的機能の活用がなされているなど、専攻科で修学するにふさわしい研究指導が複数の教員及び技術職員により行われている。

**観点 5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。**

(観点に係る状況)

各科目の成績評価は、シラバスに記載された成績評価方法(資料5-5-③-3シラバス参照)によりなされており、各教員は評価の内容を記載した総合評価表(資料5-3-①-9参照)を試験など成績評価に用いた資料とともに保管している。

単位認定及び修了判定は、「鹿児島工業高等専門学校専攻科授業科目の履修に関する規則(資料5-8-①-1)」に則って行われている。これは、学生便覧に記載され、入学時のオリエンテーションでも説明を行い、学生に周知されている。

各学期の成績評価、単位認定については専攻科委員会、及び科目担当者により確認が行われている。修了判定については、専攻科修了判定会議を開催し、その席で審議し校長が認定している(資料5-8-①-2)。

#### **観点 5-8-①資料一覧**

(資料5-8-①-1) 専攻科授業科目の履修に関する規則 出典：規則集

(資料5-8-①-2) 専攻科修了判定 出典：平成17年度専攻科修了判定会議議事要旨

## ○ 鹿児島工業高等専門学校専攻科授業科目の履修に関する規則

(成績の評価)

第6条 学業成績（以下「成績」という。）の評価は、出席時数が所定の授業時数の3分の2以上の科目についてのみ行う。

2 成績は、授業科目ごとに第5条に規定する試験の成績、その他を総合して評点で評価する。

3 標語及び評点は、次の区分による。

評語	A	B	C	D
評点	100～80	79～70	69～60	59～0

4 100点法で評価しない授業科目については、合否で評価する。

(再試験)

第7条 再試験は、Dの評語の授業科目に対して行う。

2 再試験を受験しようとする者は、別に定める「再試験願」を所定の期日までに校長に提出し、その許可を得た者に対して実施する。

3 再試験によって習得した科目の評点は60点とし、Cの評語とする。

(単位の認定)

第8条 第6条第3項、第4項及び前条第3項の規定に基づき、評語がA、B、C及び合に評価された授業科目については、当該授業科目を修得したのものとして、単位を認定する。

(他の大学等で修得した単位の認定)

第9条 大学及び他の教育施設で修得した単位は、16単位を越えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

(修了に必要な単位)

第10条 専攻科の修了に必要な単位は、62単位以上（そのうち、すべての必修科目を含み一般科目8単位以上、専門共通科目16単位以上、専門科目32単位以上）修得するものとする。

(出典：規則集)

## 平成17年度 専攻科修了判定会議議事要旨

日 時：平成18年3月3日（金） 13：30～13：55

場 所：管理棟大会議室

出席者：別紙のとおり

議事

## 【審議事項】

## 1. 専攻科2年生の修了判定について

専攻科長から修了要件に基づき説明があったあと、各専攻長から専攻生の単位修得状況について説明があった。なお、塚本機械・電子システム工学専攻長は欠席のため岸田教員から説明があった。

審議の結果、専攻科2年生22名のうち機械・電子システム工学専攻●●●●●●、●●●●●●、●●●●●●、●●●●●●、●●●●●●、●●●●●●、●●●●●●の6名を除き16名の修了が校長から認定された。

機械・電子システム工学専攻	8名
電気情報システム工学専攻	3名
土木工学専攻	5名

修了認定ができない学生6名へ、3月6日に各専攻長から指導教員を通じて説明する。

(出典：平成17年度 専攻科修了判定会議議事要旨)



(分析結果とその根拠理由)

成績評価は、シラバスの成績評価方法に則って行われており、成績評価に用いた資料も保管してある。単位の認定及び専攻科修了は規則に則って行われている。また、この規則は学生便覧に記載され、入学時のオリエンテーションでも説明し、学生に周知している。さらに、教育プログラム修了の判定も専攻科修了判定会議と併せて行われている。このことから、成績評価、単位認定、修了認定は適切に行われている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 準学士課程、専攻科課程とも、教育課程は、授業科目が学習・教育目標に対応した形で体系的に編成されており、その修得により、本校の教育の目的が達成されるようになっている点
- ・ 準学士課程、専攻科課程とも、シラバスには、具体的な達成目標、成績評価基準、学習・教育目標との関連等が明記され、また、ウェブページで公開されている点
- ・ 準学士課程においては、全学科にPBLを取り入れた科目が設定されており、創造性を育む教育法の工夫がなされている点

(改善を要する点)

- ・ 専攻科課程において、インターンシップ参加者を増加させる点

## (3) 基準5の自己評価の概要

### (a) 準学士課程

授業科目が各学習・教育目標に対応しており、その修得により、学生が学習・教育目標を達成できるようになっている。また、各科目間における連携も考慮され、専門科目を効率よく修得できるように科目が配置されている。各科目の授業内容及び水準も適切なものとなっており、講義、演習、実験・実習等の授業形態の割合も適切なものとなっている。さらに、各授業科目においては、種々の学習指導上の工夫がなされている。

学生のニーズへの対応として、鹿児島県内の大学及び九州地区の他高専との単位互換協定を結び、また、インターンシップを実施し、所定の単位を認定している。

シラバスには、各科目の具体的な達成目標、他の科目との関連、目標達成のための学習上の留意点、授業内容、成績評価基準が明確に記載され、本校の学習・教育目標との関連も明示されていることから、各科目の教育課程における位置づけ、理解すべき内容等がよく分かるように配慮されている。また、シラバスは、ウェブページでも公開されており、さらに担当教員が最初の授業で配布し説明を行っている。なお、半数以上の教員が、授業進度や試験範囲の確認などに活用している。

創造性を育む教育方法として、各学科においてPBLを取り入れた科目を配置している。また、各学科においてインターンシップを導入し、実社会での企業活動を体験し実学的な経験をさせることにより、創造力豊かな開発型技術者の育成を図っている。

成績評価、課程修了及び卒業については、学則並びに関連規則にその要件が明確に定められ、これらは、学生便覧により学生に十分に周知されている。また、単位認定、進級又は卒業については、

学年末に開催される進級判定会議及び卒業判定会議において適切に行われている。

人間の素養の涵養については、特別活動が、設置基準で定められている90単位時間以上実施されているほか、学校の指導の下に行う学生会活動としての課外活動や、学生が主体的に企画・参加する多様な学校行事も設けて実施している。

#### (b) 専攻科課程

教育課程は、学習・教育目標に沿って科目が編成され、また体系性も確保されており、準学士課程との連携に十分配慮したものとなっている。5年間の教育の上に位置する高度な教育課程となっており、専攻科課程まで含めた連続性が考慮されている。特に各目標について必修科目が設定されているなど科目配置は適切であり、達成基準としてTOEICや学会発表の外部評価も取り入れるなど、教育内容の水準は十分なものになっている。

学生の多様なニーズ・社会からの要請に対応して、環境関連科目を全専攻共通科目とし、他専攻や他の教育機関の単位取得を可能にし、TOEIC対策補習も実施している。

授業形態は単位認定上、講義、演習、実験・実習に分けられており、それぞれの単位数の割合は、開講単位数全体に対して、演習は約6%、実験実習は17~19%程度であるが、講義形態の授業であっても少人数教育を生かして、ゼミ形式やプレゼンテーションを課題とするなどの教育指導上の工夫がなされている。また、実験・実習科目である特別研究の実施時間は、単位数上の時間を大幅に上回っており、演習、実験・実習に関する教育目標の達成が効果的に行われている。

創造性を育む教育方法の一環として、インターンシップが特別実習として単位化され、その受入を国内外の企業、研究所、大学等に依頼しているが、参加学生はまだ十分とは言えない状況である。しかし、本校では準学士課程の全学科において、ものづくり実習を中心としたPBLが取り入れられており、専攻科課程においては一部の専攻において実施されている。このことから、インターンシップに関しては今後も改善の余地はあるが、準学士課程との一貫性を考慮した場合、創造性を育む教育は十分に工夫されているといえる。

シラバスには、当該科目の具体的な達成目標、他の科目との関連、目標達成のための学習上の留意点、授業内容、成績評価基準が明確に記載されているとともに、本校の学習・教育目標との関連も明示されており、その各科目の教育課程における位置づけ、理解すべき内容等がよりよく理解できるように配慮されている。また、シラバスは、ウェブページでも公開されているとともに、科目の担当教員が授業の最初に学生に配布して説明を行っている。なお、半数以上の教員が、授業進度や試験範囲の確認などに活用している。

特別研究については、シラバスに研究テーマ・到達目標が明示されている。特に、特別研究の質の高さは、学外の学会において発表することで保証され、専攻科で修学するにふさわしい研究指導が複数の教員により行われている。

単位の認定及び課程修了の認定は規則に明記され、適切に行われている。

## 基準6 教育の成果

### (1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点到に係る状況）

準学士課程卒業時ならびに専攻科修了時に身につけておくべき学力や資質・能力は、それぞれの学習・教育目標とサブ目標（資料1-1-①-4，5参照）に示されている。それぞれのサブ目標に対して科目が割り当てられており、これらの科目を修得することにより、学習教育目標が達成される。したがって、卒業及び修了要件を満たした学生の単位取得状況から達成状況を把握・評価している。

準学士課程を卒業した学生についての単位取得状況の分析は、教務委員会及び教育プログラム改善委員会（資料6-1-①-1）で行われ、その結果については、教育プログラム点検会議（資料6-1-①-2）で評価・検討が行われる（資料6-1-①-3）。

専攻科については、教育プログラム改善委員会が、「各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価基準」（資料6-1-①-4）に基づいて、個々の学生の達成度評価を行っている（資料6-1-①-5）。専攻科修了生については、これらの結果に基づき（資料6-1-①-6～8），JABEE 教育プログラム修了判定会議（資料6-1-①-9）で審議の上、JABEE プログラム修了を認定している。

#### 6-1-①資料一覧

（資料6-1-①-1）教育プログラム改善委員会規則	出典：規則集
（資料6-1-①-2）教育プログラム点検会議規定	出典：規則集
（資料6-1-①-3）達成度評価・検討	出典：平成18年度第1回教育プログラム点検会議議事要旨
（資料6-1-①-4）各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価基準	出典：平成18年度学生便覧
（資料6-1-①-5）達成度評価	出典：平成17年度第28回教育プログラム改善委員会議事要旨
（資料6-1-①-6～8）専攻科学習・教育目標の達成状況一覧	出典：教育プログラム判定会議資料
（資料6-1-①-9）JABEE 修了の判定	出典：平成17年度「環境創造工学」教育プログラム修了判定会議議事要旨

## 資料 6 - 1 - ① - 1

## ○ 鹿兒島工業高等専門学校教育プログラム改善委員会規則

(設置)

第1条 鹿兒島工業高等専門学校に、「教育プログラム」の点検・改善を目的として、教育プログラム改善委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、校長の諮問に応じて次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 「教育プログラム」の改善に関する事
- (2) 学生、卒業生、企業からの「教育プログラム」への要望等に関する事
- (3) 「教育プログラム」履修生の学習・教育目標達成度評価に関する事
- (4) 日本技術者教育認定機構の審査に関する事

2 前項の審議の結果を踏まえ、点検報告書並びに改善提案書を作成のうえ、教育プログラム点検会議に提出しなければならない。

(出典：規則集)

## 資料 6 - 1 - ① - 2

## ○ 鹿兒島工業高等専門学校教育プログラム点検会議規程

(設置)

第1条 鹿兒島工業高等専門学校に、「教育プログラム」の継続的な向上を図るための評価・点検や提言等を行うことを目的として、鹿兒島工業高等専門学校教育プログラム点検会議（以下「点検会議」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 点検会議は、校長の諮問に応じて次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 学習・教育目標の設定及び改善に関する事
- (2) 学習・教育目標に基づく教育の内容と質の保証に関する事
- (3) 教育プログラムについて本科と専攻科の調整に関する事
- (4) 教育プログラム履修生の修了に関する事
- (5) 教育プログラム点検報告書並びに改善提案書に関する事
- (6) その他教育プログラムに必要とする事項

(出典：規則集)

## 資料 6 - 1 - ① - 3

## 平成18年度 第1回教育プログラム点検会議議事要旨

日 時：平成18年5月19日（金）16：30～16：55

場 所：校長室

議題

- (1) 本科学習教育目標に対する達成度評価について

山田教育プログラム改善委員長より本科学習教育目標に対する達成度評価について、資料に基づき、説明があった。学習・教育目標のサブ目標に割り当てられた科目の単位取得率は92%～100%であり、卒業時において学習・教育目標が達成されている状況である。なお、全体的には学習・教育目標が達成されていると判断されるが、個人の達成度が充分であるかを判断するため、成績不良者数名をピックアップし達成度を調査することとした。

また、退学者推移及び進級率推移については、最近5年間のデータを基に各学科の状況について詳細な説明があった。この結果から、3年次の退学者および留年者数が多いことが示された。この件については、教務委員会においても検討していく必要がある。

専攻科生については、参考資料に基づき説明された。

(出典：平成18年度第1回教育プログラム点検会議議事要旨)

資料 6 - 1 - ① - 4

表 6

## 各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価基準

学習・教育目標	達成度評価対象	各対象の評価方法と評価基準	総合評価方法及び評価基準
(1-1)	別表 6.1~6.5 に掲げる科目	①各目標 (1-1~1-3) に対応する科目について、それぞれ 1 科目以上の修得 ②環境科学、環境プロセス工学の修得	左記評価基準および以下の要件 (①~⑤) をすべて満たすこと  ①全体で <u>124 単位</u> 以上の修得
(1-2)			
(1-3)			
(2-1)	別表 6.1~6.5 に掲げる科目	①各目標 (2-1~2-3) に対応する科目について、それぞれ 1 科目以上の修得 ②外国語科目群から 2 科目以上の修得 ③卒業研究、特別研究、特別セミナーの修得	② <u>学士</u> の取得 ③TOEIC スコア <u>400 点</u> 相当以上の英語力を有すること  ④各学協会等における <u>発表</u> を行うこと
(2-2)			
(2-3)			
(3-1)	別表 6.1~6.5 に掲げる科目	①数学・自然科学の科目について 5 科目以上の修得 ②専門工学共通科目から 1 科目以上の修得 (ただし、環境科学を除く) ③実験 (工学)、卒業研究、特別研究の修得	⑤インターンシップ (工場実習または特別実習 A または B) もしくは PBL の修得
(3-2)			
(3-3)			
(4-1)	別表 6.1~6.5 に掲げる科目	①各目標 (4-1~4-3) に対応する科目について、それぞれ 2 科目以上の修得 ②技術倫理の修得	* 各科目はシラバス記載の評価基準で評価し、 <u>60 点以上</u> の成績をもって修得とする
(4-2)			
(4-3)			

(出典：平成 18 年度学生便覧 66 頁)

資料 6 - 1 - ① - 5

## ○平成 17 年度第 28 回教育プログラム改善委員会議事要旨

開催日時：平成 18 年 3 月 1 日 (水) 9:00-10:20  
場 所：第 1 会議室

## 3. その他

## (1) 教育プログラム認定成績書の確認について

各科で修得基準を満たしているか、カウント数に誤りはないか等を確認し、本日中にメールで教務係の山崎さんまで回答することとした。

(出典：平成 17 年度第 28 回教育プログラム改善委員会議事要旨)

資料 6-1-①-6

平成15(2003)年度 教育プログラム修了判定一覧表

専攻	氏名	専攻科 修了 要件	124単位	学士	総学習保証時間				5科目群		4つの学習 教育目標	TOEIC	技術倫理	2004(H16).3.11		教育プロ グラム修 了判定
					人文	科学	専門	総時間	各群 1教科	6教科 以上				インター (特別実 習、工場 実習)	学協会 の発表	
					250h	250h	900h	1800h								
機械・電子	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
電気情報	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
土木	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

合計19名

(出典：平成 15 年度教育プログラム修了判定会議資料)

資料 6-1-①-7

平成16年度 教育プログラム実質的修了生判定一覧表

専攻	氏名	専攻科 修了 要件	124単位	学士	総学習保証時間				5科目群		4つの学習 教育目標	TOEIC	技術倫理	インター (特別実 習、工場 実習)	学協会 の発表	教育プロ グラム修 了判定
					人文	科学	専門	総時間	各群 1教科	6教科 以上						
					250	250	900	1800								
機械・電子	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
電気情報	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
土木	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

合計22名

(出典：平成 16 年度教育プログラム修了判定会議資料)

資料 6-1-①-8

平成17年度 教育プログラム(仮)修了生判定一覧表

専攻	氏名	専攻科 修了 要件	124単位	学士	総学習保証時間				5科目群		4つの学習 教育目標	TOEIC	技術倫理	インター (特別実 習、工場 実習)	学協会 の発表	教育プロ グラム修 了判定
					人文	科学	専門	総時間	各群 1教科	6教科 以上						
					250	250	900	1800								
機械・電子	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	13	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
電気情報	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
土木	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(出典：平成 17 年度教育プログラム修了判定会議資料)



## 平成 17 年度「環境創造工学」教育プログラム修了判定会議議事要旨

日 時 : 平成 18 年 3 月 3 日 (金) 14:00~14:30

場 所 : 管理棟大会議室

出席者 : 専攻科担当教員及び専攻科 2 年生が, 本科 4 年・5 年時において授業を担当した教員

1. 資料に基づき専攻科 2 年生 22 名について, 「環境創造工学」教育プログラム修了要件抵触者の確認がなされた。

## 1) 修得単位 124 単位

機械・電子専攻 1 名 (●●) の抵触が確認された。

## 2) TOEIC 400 点

機械・電子専攻 5 名 (●●・●●・●●・●●・●●) 及び土木専攻 1 名 (●●) の抵触が確認された。

その他の要件については, 全員が修了要件を満たしていることが確認され, 上記の抵触者 6 名を除く, 16 名 (機械・電子専攻 8 名, 電気情報専攻 3 名, 土木専攻 5 名) の修了が確認された。

## 2. 認定について

校長 16 名の修了認定をする。

## 3. 修了証授与について

現在本校は, JABEE 中間審査中であり, 結果発表は本年 5 月頃になる予定である。

このことから, 修了式当日に「環境創造工学」プログラム修了証を授与できない。正式な JABEE 継続認定が決定次第, 修了証を授与する予定である。

(出典:平成 17 年度「環境創造工学」教育プログラム修了判定会議議事要旨)

## (分析結果とその根拠理由)

準学士課程卒業時ならびに専攻科修了時に身につけておくべき学力や資質・能力は, それぞれの学習・教育目標とサブ目標に割り当てられた科目を修得することにより, 達成される。したがって, 卒業及び修了要件を満たした学生の単位取得状況から, その達成状況を把握・評価している。

準学士課程では, 教務委員会及び教育プログラム改善委員会で単位取得状況の分析が行われ, その結果については, 教育プログラム点検会議で評価・検討が行われる。専攻科課程については, 教育プログラム改善委員会が, 個々の学生の達成度評価を行っている。

このことから, 本校では, 教育の目的に沿った形で, 課程に応じて学生が卒業 (修了) 時に身につける学力や資質・能力, 養成する人材等について, その達成状況を把握・評価するための適切な取り組みが行われていると判断される。

観点 6-1-②：各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況，進級の状況，卒業（修了）時の状況，資格取得の状況等から，あるいは卒業研究，卒業制作などの内容・水準から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

（a）準学士課程

卒業した学生の学習・教育目標達成度については，教育プログラム点検会議で，サブ目標に割り当てられた科目の単位取得率（合格者数／受講者数）から検討している（資料 6-1-①-3 参照）。平成15～17年度卒業生の5年間を通じた学習・教育目標達成度は，サブ目標2-c以外の他の全てで97%以上を達成している（資料 6-1-②-1）。サブ目標2-cでは，92%以上とやや低いが，これは，サブ目標2-cに配置された選択科目の単位取得率が低いためである（資料 6-1-②-2～6）。なお，平成13～17年度の全クラスの科目評価平均点は70点を越えている（資料 6-1-②-7）。

次に，平成15～17卒業年度の5年間の学生全員を対象とした進級率の分析では，学年別の進級率（5年次は卒業率）は，3年次にやや低下するが，他学年では90%以上である。また，5年間における全退学者は23～37人で，3年次が最多で14～23人を占め，3年次の進級率がやや低いことから，ストレートで卒業する率が76～83%となっている（資料 6-1-②-8）。

学習の集大成である卒業研究は，科ごとに学習・教育目標に沿った評価方法で，複数教員によって評価が行われ，研究の水準確保が図られている（資料 6-1-②-9～13）。また，卒業研究内容を，学会で発表している事例もある（資料 6-1-②-14）。

（b）専攻科課程

教育プログラム改善委員会では，「各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価基準」（資料 6-1-①-4 参照）に基づき，学生一人ひとりに対して学習・教育目標達成度評価（資料 6-1-②-15，16）を行っており，平成16年度以降の修了生は，4つの学習・教育目標を全て達成している（資料 6-1-①-7，8 参照）。特別研究では，修了生全員が関係学会で発表を行っており，高い水準が確保されている（資料 6-1-②-17）。なお，学習・教育目標の達成を修了のための一つの要件とした教育プログラムはJABEE認定を受けていることから，教育の水準が保証されている。

## 6-1-②資料一覧

- (資料6-1-②-1) 2003, 2004, 2005年度卒業生の本科(準学士課程)における学習・教育目標の達成度評価  
出典: 教育プログラム点検会議資料
- (資料6-1-②-2) 準学士課程(本科)の学習・教育目標と対応科目の達成度評価  
2005年度卒業生 機械工学科 出典: 教育プログラム点検会議資料
- (資料6-1-②-3) 準学士課程(本科)の学習・教育目標と対応科目の達成度評価  
2005年度卒業生 電気電子工学科 出典: 教育プログラム点検会議資料
- (資料6-1-②-4) 準学士課程(本科)の学習・教育目標と対応科目の達成度評価  
2005年度卒業生 電子制御工学科 出典: 教育プログラム点検会議資料
- (資料6-1-②-5) 準学士課程(本科)の学習・教育目標と対応科目の達成度評価  
2005年度卒業生 情報工学科 出典: 教育プログラム点検会議資料
- (資料6-1-②-6) 準学士課程(本科)の学習・教育目標と対応科目の達成度評価  
2005年度卒業生 土木工学科 出典: 教育プログラム点検会議資料
- (資料6-1-②-7) 平成13~17年度 成績評価の分布表 出典: 学生課資料
- (資料6-1-②-8) 平成15~17年卒業年度生のストレート卒業率 出典: 学生課資料
- (資料6-1-②-9) 卒業研究評価方法 機械工学科 出典: 機械工学科資料
- (資料6-1-②-10) 卒業研究評価方法 電気電子工学科 出典: 電気電子工学科資料
- (資料6-1-②-11) 卒業研究評価方法 電子制御工学科 出典: 電子制御工学科資料
- (資料6-1-②-12) 卒業研究評価方法 情報工学科 出典: 情報工学科資料
- (資料6-1-②-13) 卒業研究評価方法 土木工学科 出典: 土木工学科資料
- (資料6-1-②-14) 学生の学会発表(本科生) 出典: 学生課資料
- (資料6-1-②-15) 「環境創造工学」教育プログラム認定成績証明書(表紙)  
出典: 教育プログラム改善委員会資料
- (資料6-1-②-16) 学習・教育目標の達成一覧 出典: 教育プログラム改善委員会資料
- (資料6-1-②-17) 学生の学会発表(専攻科生) 出典: 学生課資料

## 2003, 2004, 2005年度卒業生の準学士課程における学習・教育目標の達成度評価

No.	大目標	Sub. No.	学習・教育サブ目標	対応科目履修学生数									配置単位
				1999年度1年-2003年度卒			2000年度1年-2004年度卒			2001年度1年-2005年度卒			
				受講者数	合格者数	合格率	受講者数	合格者数	合格率	受講者数	合格者数	合格率	
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生きるための基礎的知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	1588	1561	98%	1732	1728	100%	1566	1559	100%	141
		1-b	様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。	1150	1129	98%	1274	1253	98%	1100	1082	98%	101
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	855	855	100%	932	931	100%	842	841	100%	87
		2-b	英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。	1681	1669	99%	1841	1836	100%	1668	1657	99%	101
		2-c	英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。	283	260	<b>92%</b>	298	292	98%	264	247	94%	25
3	創造力豊かな開発型技術者	3-a	専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。	3688	3619	98%	4148	4112	99%	3821	3772	99%	227
		3-b	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	646	643	100%	703	702	100%	608	608	100%	69
		3-c	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	7181	6980	<b>97%</b>	7719	7568	98%	6888	6705	<b>97%</b>	357
		3-d	ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。	540	540	100%	606	606	100%	529	529	100%	65
4	相手の立場に立つてものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。	1428	1413	99%	1585	1578	100%	1426	1415	99%	116
		4-b	様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立つて物事を考えることができる。	2169	2139	99%	2474	2465	100%	2233	2207	99%	121

(出典：教育プログラム点検会議資料)

本科(進学士課程)の学習・教育目標と対応科目の達成度状況 2005年度卒業生 機械工学科

#N/A : 受講者指し

No.	大目標	Sub No.	学習・教育サブ目標	対応科目(受講学生数)																				配置単位											
				1年(2001年度)				2年(2002年度)				3年(2003年度)				4年(2004年度)				5年(2005年度)															
				科目名	一般	専門	合格者数	合格者率	科目名	一般	専門	合格者数	合格者率	科目名	一般	専門	合格者数	合格者率	科目名	一般	専門	合格者数	合格者率		5年間	合格者数	合格者率								
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生きるための基礎的知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語 I	2	33	33	100%	国語 II	2	33	33	100%	国語 政治・経済	2	33	33	100%	国文学	2	36	36	100%	法学	2	4	2	50%	316	314	99%	28			
		1-b	様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。																	工学実験4	3	36	36	100%	工学実験5	1	36	36	100%	136	135	99%	15		
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	国語 I	2	33	33	100%	国語 II	2	33	33	100%	国語	2	33	33	100%	国文学	2	36	36	100%	卒業研究	10	36	36	100%	171	171	100%	18			
		2-b	英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。	英語 I	3	33	33	100%	英語 II	3	33	33	100%	英会話3	1	33	33	100%	英語4	2	36	36	100%	英語A	2	32	30	94%	371	364	98%	21			
		2-c	英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。																	ドイツ語 I	2	36	36	100%	ドイツ語 II A	2	4	4	100%	48	46	96%	5		
3	創造力豊かな開発型技術者	3-a	専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。	数学基礎 I	2	33	33	100%	線形代数 I	2	33	33	100%	応用物理3	2	33	33	100%	応用物理4	2	36	36	100%	応用数学 II	1	29	27	93%	763	748	98%	44			
		3-b	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	数学基礎 II	2	33	33	100%	微積分学 I	2	33	33	100%	微積分学 III	2	33	33	100%	応用数学 I	2	36	36	100%	数値解析 II	1	7	7	100%							
		3-c	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	数学基礎 III	2	33	33	100%	微積分学 II	2	33	33	100%	微積分学 IV	2	33	33	100%	数値解析 I	1	36	28	78%												
		3-d	ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。	物理 I	2	33	33	100%	物理2	3	33	33	100%	統計学 I	1	33	33	100%	線形代数 II	1	8	8	100%	微分方程式	1	7	7	100%							
				化学 I	1	33	33	100%	化学2	1	33	33	100%	ポランディア活動論	1	19	16	84%	統計学 II	1	2	2	100%	統計学 II	1	15	14	93%							
				生物	1	9	9	100%													数学演習	1	31	31	100%	宇宙科学概論	1	9	9	100%					
4	相手の立場に立つものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。																																
		4-b	様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立つて物事を考えることができる。	工作実習1	3	33	33	100%	倫理	2	33	33	100%	工作実習2	3	33	33	100%	哲学	2	5	5	100%	法学	2	4	2	50%	237	235	99%	22			

(出典：教育プログラム点検会議資料)

本科(準学士課程)の学習・教育目標と対応科目の達成度状況 2005年度卒業生 電気・電子工学科

#N/A : 受講者指し

No.	大目標	Sub. No.	学習・教育サブ目標	対応科目(受講学生数)																				5年間	配置 単位										
				1年(2001年度)				2年(2002年度)				3年(2003年度)				4年(2004年度)				5年(2005年度)															
				科目名	一割	専門	受講者数	合格者数	合格率	科目名	一割	専門	受講者数	合格者数	合格率	科目名	一割	専門	受講者数	合格者数	合格率	科目名	一割			専門	受講者数	合格者数	合格率						
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生きるための基礎的知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語 I	2	29	29	100%	国語 II	2	29	29	100%	国語 政治・経済	2	29	29	100%	国文学 哲学	2	2	31	31	100%	法学 経済学	2	2	5	5	100%	271	270	100%	28	
			様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。																																
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	国語 I	2	29	29	100%	国語 II	2	29	29	100%	国語	2	29	28	97%	国文学	2	2	31	31	100%	卒業研究	8	31	31	100%	149	148	99%	16		
			英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。	英語 I 英語演習	3	29	29	100%	英語 II 英文法 英会話2	3	29	29	100%	英会話3 英語3	1	29	29	100%	英語4	2	2	31	30	97%	英語A 英語B	2	1	20	20	100%	285	284	100%	20	
			英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。																																
3	創造力豊かな開発型技術者	3-a	専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それを継続的に学習することができる。	数学基礎 I	2	29	29	100%	線形代数 I	2	29	29	100%	応用物理3	2	29	29	100%	応用物理4	2	2	31	31	100%	応用数学 II 数値解析	1	1	31	30	97%	666	657	99%	46	
			コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	情報基礎	2	29	29	100%																											
			電気基礎 電気製図	3	29	29	100%	電気工学実験2	1	29	29	100%	電気工学実験3	3	29	29	100%	電気工学実験4	4	3	31	31	100%	電気工学実験5	2	3	31	31	100%	1292	1251	97%	72		
			専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。																																
			ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。																																
4	相手の立場に立つてものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。						倫理 電気工学実験2	2	1	29	29	100%	電気工学実験3	3	29	29	100%	哲学 倫理学	2	2	#N/A	#N/A	100%	法学 電気工学実験5	2	2	5	5	100%	191	191	100%	20
			様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立つて物事を考えることができる。	歴史1 保健体育1	2	29	29	100%	歴史2 保健体育2	2	29	29	100%	保健体育3	2	29	29	100%	現代史 保健体育4 英語4 ドイツ語 I	2	2	25	25	100%	保健体育5 体育 英語A ドイツ語 II A 英語B ドイツ語 II B	1	1	31	31	100%	409	397	97%	24	

(出典：教育プログラム点検会議資料)



本科(進学士課程)の学習・教育目標と対応科目の達成度状況 2005年度卒業生 電子制御工学科

#N/A : 受講者指し

No.	大目標	Sub. No.	学習・教育サブ目標	対応科目(受講学生数)																				配置単位										
				1年(2001年度)				2年(2002年度)				3年(2003年度)				4年(2004年度)				5年(2005年度)														
				科目名	一期	二期	合格率	科目名	一期	二期	合格率	科目名	一期	二期	合格率	科目名	一期	二期	合格率	科目名	一期	二期	合格率											
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生きるための基礎的知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語 I	2	32	32	100%	国語 II	2	32	32	100%	国語	2	32	32	100%	国文学	2	35	35	100%	法学	2	11	11	100%	304	304	100%	28		
			1-b	様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。									創造設計3 工学実験3	2	33	33	100%	創造設計4 工学実験4	2	36	36	100%	環境工学 卒業研究 工学実験5	1	22	22	100%	234	234	100%	22			
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	国語 I	2	32	32	100%	国語 II	2	32	32	100%	国語	2	32	32	100%	国文学	2	35	35	100%	卒業研究		10	37	37	100%	168	168	100%	18	
			2-b	英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。	英語 I 英語演習	3	32	32	100%	英語 II 英文法 英会話2	3	32	32	100%	英会話3 英語3	1	33	33	100%	英語4	2	36	36	100%	英語A 英語B	2	31	29	94%	327	325	99%		20
			2-c	英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。													ドイツ語 I	2	36	36	100%	ドイツ語 II A ドイツ語 II B	2	6	6	100%	60	60	100%	5				
3	創造力豊かな開発型技術者	3-a	専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。	数学基礎 I	2	32	32	100%	線形代数 I	2	32	32	100%	応用物理3	2	33	33	100%	応用物理4	2	36	36	100%	応用数学 II	1	27	26	96%	735	726	99%	45		
			3-b	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	電子制御基礎	1	32	32	100%	情報処理2	2	32	32	100%	情報処理3	2	33	33	100%					卒業研究	10	37	37	100%	134	134	100%		15	
			3-c	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	機械工作法 電子制御基礎 設計製図1 工作実習1	1	33	33	100%	情報処理2 電気回路 設計製図2 工作実習2	2	32	32	100%	情報処理3 材料力学 I 機械工作法 機構学 電気工学 工学実験3	2	33	33	100%	材料力学 II 材料学 エネルギー工学 機械設計法 電子回路 デジタル回路 制御工学4 数値制御 電子計算機4 工学実験4	2	36	36	100%	計測工学 制御工学5 電子計算機5 システム工学 制御機器 制御用インターフェース 生産システム 創造工学 環境工学 真空工学 品質管理 工学実験5	1	37	37	100%	1240	1222		99%	67
			3-d	ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。									創造設計3	2	33	33		創造設計4 工場実習	2	36	36		卒業研究	10	37	37		123	123	100%	15			
		3	3	32	32	100%																												
4	相手の立場に立つものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。	工作実習1	3	32	32	100%	倫理 工作実習2	2	32	32	100%	工学実験3 創造設計3	3	33	33	100%	哲学 倫理学 工学実験4 創造設計4 特別講座 I 工場実習	2	3	3	100%	法学 工学実験5 特別講座 II	2	11	11	100%	382	382	100%	28		
			4-b	様々な文化、歴史などを通じて多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立つて物事を考えることができる。	歴史1 保健体育1	2	32	32	100%	歴史2 保健体育2	1	32	32	100%	保健体育3	2	33	33	100%	現代史 保健体育4 英語4 ドイツ語 I	2	25	25	100%	保健体育5 体育 英語A ドイツ語 II A 英語B ドイツ語 II B	1	37	37	100%	451	449		100%	24

(出典：教育プログラム点検会議資料)

本科(進学士課程)の学習・教育目標と対応科目の達成度状況 2005年度卒業生 情報工学科

#N/A : 受講者無し

No.	大目標	Sub. No.	学習・教育サブ目標	対応科目(受講学生数)																								配置単位																																																										
				1年(2001年度)						2年(2002年度)						3年(2003年度)						4年(2004年度)							5年(2005年度)																																																									
				科目名	一割	二割	三割	合格	科目名	一割	二割	三割	合格	科目名	一割	二割	三割	合格	科目名	一割	二割	三割	合格	科目名	一割	二割	三割		合格																																																									
1	人間の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生きるための基礎的知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語 I	2	39	39	100%	国語 II	2	39	39	100%	国語	2	39	39	100%	国文学	2	2	41	100%	法学	2	10	10	100%	経済学	2	28	28	100%	政治学	2	3	3	100%	367	366	100%																																													
			様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。					工学実験2	3	39	38	97%	工学実験3	4	40	38	95%	工学実験4	4	42	42	100%	卒業研究	10	42	42	100%	工学実験5	2	42	42	100%	205	202	99%																																																			
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	国語 I	2	39	39	100%	国語 II	2	39	39	100%	国語	2	39	39	100%	国文学	2	41	41	100%	卒業研究	10	42	42	100%	200	200	100%																																																							
			英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。	英語 I	3	39	39	100%	英語 II	3	39	39	100%	英会話3	1	40	40	100%	英語4	2	42	42	100%	英語A	2	30	30	100%	英語B	1	36	36	100%	383	383	100%																																																		
			英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。													ドイツ語 I	2	42	42	95%	ドイツ語 II A	2	12	10	83%	ドイツ語 II B	1	12	#N/A	#N/A	54	50	93%																																																					
3	創造力豊かな開発型技術者	3-a	専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。	数学基礎 I	2	39	39	100%	線形代数 I	2	39	39	100%	応用物理3	2	40	40	100%	応用物理4	2	42	42	100%	応用数学 I	2	42	40	95%	数値解析 II	1	6	6	100%	933	926	99%																																																		
			コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	技術実習	1	39	39	100%									応用実験	1	13	13	100%	卒業研究	10	42	42	100%	94	94	100%																																																									
			専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	留学	1	39	39	100%	情報処理 II	2	39	39	100%	計測工学	1	40	40	100%	多変量解析	2	42	42	100%	制御工学	2	42	39	93%	システム設計学	2	42	42	100%	1638	1608	98%																																																		
			ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。	情報基礎	2	39	39	100%	論理回路	2	39	39	100%	電子回路3	2	40	40	100%	数値解析 I	1	42	42	100%	システム設計学	2	42	42	100%	数値解析 II	1	6	6	100%	電気通信特論	2	34	33	97%	データ構造論	2	14	14	100%	計算機アーキテクチャ	2	40	37	93%	情報工学特論 I	1	42	40	95%	システム工学特論 I	1	38	37	97%	情報工学特論 II	1	23	22	96%	品質信頼性工学	1	32	32	100%	工学実験5	2	42	42	100%	情報回路工学	2	42	36	86%	システム工学特論 II	1	15	11	73%	454	433	
				創造教室	1	39	39	100%									応用実験	1	13	13	100%	卒業研究	10	42	42	100%	システム設計学	2	42	42	100%	136	136	100%																																																				
4	相手の立場に立つてものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。	倫理	2	39	38	97%	工学実験2	3	39	38	97%	工学実験3	4	40	38	95%	哲学	2	10	10	100%	倫理学	2	2	2	100%	工学実験4	4	42	42	100%	工場実習	1	14	14	100%	238	234	98%																																													
			様々な文化、歴史などを通じて多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立つて物事を考えることができる。	歴史 I	2	39	39	100%	歴史2	1	39	39	100%	保健体育3	2	40	40	100%	現代史	2	29	29	100%	保健体育4	1	42	42	100%	英語4	2	42	42	100%	ドイツ語 I	2	42	40	95%	保健体育5	1	42	42	100%	体育	1	24	23	96%	英語A	2	30	30	100%	ドイツ語 II A	2	12	10	83%	英語B	1	36	36	100%	#N/A	#N/A																					

(出典：教育プログラム点検会議資料)

本科(准学士課程)の学習・教育目標と対応科目の達成度状況 2005年度卒業生 土木工学科

#N/A : 受講者指し

No.	大目標	Sub. No.	学習・教育サブ目標	対応科目(受講学生数)																				配置単位															
				1年(2001年度)					2年(2002年度)					3年(2003年度)					4年(2004年度)						5年(2005年度)														
				科目名	1-割	2-割	3-割	合格	科目名	1-割	2-割	3-割	合格	科目名	1-割	2-割	3-割	合格	科目名	1-割	2-割	3-割	合格		科目名	1-割	2-割	3-割	合格										
1	人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a	現代社会を生きるための基礎的知識を身に付け、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	国語 I	2	30	30	100%	国語 II	2	30	30	100%	国語	2	30	30	100%	国文学	2	32	32	100%	法学	2	30	27	90%	経済学	2	30	27	90%	政治学	2	30	27	90%	29
		1-b	様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。																	土質工学実験	1.5	30	30	100%	環境工学 I	2	32	32	100%	卒業研究	9	32	32	100%	343	329	96%	21	
2	グローバルに活躍する技術者	2-a	日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	国語 I	2	30	30	100%	国語 II	2	30	30	100%	国語	2	30	30	100%	国文学	2	32	32	100%	卒業研究	9	32	32	100%	154	154	100%	17							
		2-b	英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意見を英語で伝えることができる。	英語 I	3	30	30	100%	英語 II	3	30	30	100%	英会話3	1	30	30	100%	英語4	2	32	31	97%	英語A	2	30	30	100%	302	301	100%	20							
		2-c	英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。																	ドイツ語 I	2	32	32	100%	ドイツ語 II A	2	2	2	100%	ドイツ語 II B	2	3	3	100%	37	37	100%	5	
3	創造力豊かな開発型技術者	3-a	専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。	数学基礎 I	2	30	29	97%	線形代数 I	2	30	30	100%	応用物理 I	2	2	30	30	100%	応用物理 II	2	32	32	100%	応用数学 II	1	15	15	100%	700	691	99%	46						
		3-b	コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	情報処理 I	1	30	30	100%					情報処理 II	2	30	30	100%	構造物設計	2	32	32	100%	卒業研究	9	32	32	100%	188	188	100%	17								
		3-c	専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	土質工学概論	1	30	29	97%	測量学 II	2	30	30	100%	構造力学 I	4	30	30	100%	構造力学 II	2	32	29	91%	応用測量学	1	32	32	100%	1336	1293	97%	68							
		3-d	ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。	測量学 I	2	30	30	100%	応用力学	2	30	30	100%	土質力学 I	2	30	30	100%	水理学 II	2	32	31	97%	河川工学	1	32	31	97%											
4	相手の立場に立つてものを考える技術者	4-a	技術者の社会的な責任を理解することができる。	測量学実習 I	3	30	30	100%	倫理	2	30	30	100%	環境生態学	1	30	30	100%	哲学	2	2	2	100%	法学	2	2	2	100%	378	373	99%	24							
		4-b	様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立つて物事を考えることができる。	歴史 I	2	30	30	100%	保健体育 1	2	30	30	100%	歴史 2	1	30	30	100%	保健体育 3	2	30	30	100%	現代史	2	28	28	100%	保健体育 5	1	32	32	100%	431	430	100%	25		

(出典：教育プログラム点検会議資料)

2001(平成13)～2005(平成17)年度 成績評価の分布表

年 度	学 年	機械工学科				電気工学科				電子制御工学科				情報工学科				土木工学科				学校全体			
		最低	最高	平均	在籍	最低	最高	平均	在籍	最低	最高	平均	在籍	最低	最高	平均	在籍	最低	最高	平均	在籍	最低	最高	平均	在籍
2001 (H13)	1年	52	91	75	43	58	86	69	42	61	90	76	42	51	88	76	43	56	88	71	44	51	91	<b>73</b>	214
	2年	43	90	72	43	55	89	76	41	58	91	75	43	48	91	74	44	53	83	69	41	43	91	<b>73</b>	212
	3年	33	93	70	44	44	91	76	43	41	92	68	40	55	93	72	43	33	95	72	41	33	95	<b>71</b>	211
	4年	59	92	73	35	53	87	72	39	40	91	74	43	46	95	73	46	52	86	74	35	40	95	<b>73</b>	198
	5年	64	89	74	33	63	91	76	39	62	89	74	37	63	91	76	44	60	91	74	34	60	91	<b>75</b>	187
	平均,在籍合計	50	91	73	198	54	89	74	204	52	91	73	205	53	92	74	220	50	89	72	195	50	92	<b>73</b>	1022
2002 (H14)	1年	41	90	73	44	67	89	81	42	58	88	77	43	59	90	79	42	58	88	72	43	41	90	<b>76</b>	214
	2年	55	90	77	41	47	87	67	42	49	92	75	42	43	90	72	41	46	90	68	45	43	92	<b>72</b>	211
	3年	38	91	72	39	59	91	77	42	43	91	73	44	57	90	72	42	48	87	70	41	38	91	<b>73</b>	208
	4年	44	91	70	41	54	92	75	42	53	92	68	41	53	91	72	40	55	94	75	36	44	94	<b>72</b>	200
	5年	60	89	75	33	59	88	73	39	52	92	76	37	60	91	75	44	67	88	75	34	52	92	<b>75</b>	187
	平均,在籍合計	48	90	74	198	57	89	75	207	51	91	74	207	54	90	74	209	55	89	72	199	48	91	<b>74</b>	1020
2003 (H15) 50点制	1年	59	90	73	43	62	94	78	41	61	88	73	44	55	94	78	41	53	89	75	42	53	94	<b>75</b>	211
	2年	53	90	72	42	54	89	77	44	41	92	73	44	36	92	76	43	48	90	68	47	36	92	<b>73</b>	220
	3年	49	88	74	43	43	93	67	42	49	92	74	42	56	90	72	42	34	89	65	42	34	93	<b>70</b>	211
	4年	38	89	73	43	46	86	73	43	59	91	76	45	58	90	77	41	53	90	73	42	38	91	<b>75</b>	214
	5年	62	92	75	36	53	93	72	43	55	92	72	38	53	90	76	36	64	94	78	37	53	94	<b>74</b>	190
	平均,在籍合計	52	90	73	207	52	91	74	213	53	91	74	213	52	91	76	203	50	90	72	210	50	91	<b>74</b>	1046
2004 (H16) 60点制	1年	56	89	79	44	63	92	77	44	63	94	81	42	53	94	80	43	62	91	78	43	53	94	<b>79</b>	216
	2年	57	91	74	42	55	93	77	41	62	88	76	46	52	94	77	41	57	91	75	43	52	94	<b>76</b>	213
	3年	32	92	72	42	46	94	78	48	50	94	77	41	57	90	76	44	24	93	72	53	24	94	<b>75</b>	228
	4年	43	93	76	42	43	93	72	37	51	91	79	42	63	92	79	42	32	93	77	35	32	93	<b>77</b>	198
	5年	64	91	79	39	70	91	79	40	63	91	80	44	61	94	83	44	68	89	79	39	61	94	<b>80</b>	206
	平均,在籍合計	50	91	76	209	55	92	77	210	58	92	78	215	57	93	79	214	49	91	76	213	49	93	<b>77</b>	1061
2005 (H17)	1年	66	91	78	42	47	91	82	41	70	95	81	41	68	92	81	42	64	89	78	42	47	95	<b>80</b>	208
	2年	38	90	78	44	54	94	75	45	52	96	80	43	52	94	76	44	39	95	74	43	38	96	<b>76</b>	219
	3年	18	89	64	45	36	95	71	44	48	93	76	47	40	95	74	38	31	89	72	42	18	95	<b>72</b>	216
	4年	52	89	70	39	61	93	77	42	48	92	76	43	56	91	77	43	65	93	77	42	48	93	<b>75</b>	209
	5年	61	90	78	38	67	93	79	31	53	90	80	39	64	91	80	42	68	93	79	32	53	93	<b>79</b>	182
	平均,在籍合計	47	90	74	208	53	93	77	203	54	93	79	213	56	93	78	209	53	92	76	201	47	93	<b>76</b>	1034

(出典：教育プログラム点検会議資料)

## 資料6-1-②-8

2003,2004及び2005卒業年度生のストレート卒業率, 原級留置, 退学者数

学科	内 容	2003卒業年度						2004卒業年度						2005卒業年度						
		1年	2年	3年	4年	5年	ストレート 卒業率 又は合計	1年	2年	3年	4年	5年	ストレート 卒業率 又は合計	1年	2年	3年	4年	5年	ストレート 卒業率 又は合計	
		1999	2000	2001	2002	2003		2000	2001	2002	2003	2004		2001	2002	2003	2004	2005		
学校全体	在籍数	210	205	211	200	190	0	217	212	208	214	206	0	214	211	211	198	182		
	ストレート(入学-卒業)	210	0	0	0	161	77%	213	0	0	0	176	83%	211	0	0	0	161	76%	
	進級者	204	196	188	189	184	0	211	204	187	201	204	0	210	202	183	181	178		
	進級率(卒業率)	97%	96%	89%	95%	97%		97%	96%	90%	94%	99%		98%	96%	87%	91%	98%		
	原級留置	6	9	23	11	6	55	6	8	21	13	2	50	4	9	28	17	4	62	
	退学者	2	1	23	6	1	33	3	9	14	10	1	37	3	1	14	5	0	23	
	編入学(在籍内数;入学-卒業)	0	0	0	13	12		0	0	0	19	19		0	0	0	11	11		
	留学(在籍内数;入学-卒業)	0	0	2	1	1		0	0	2	2	2		0	0	3	3	2		
	休学者数	0	0	1	1	0	2	1	0	1	1	0	3	1	0	0	1	0	2	
	機械工学科	在籍数	42	39	44	41	36		45	43	39	43	39		43	41	43	42	38	
ストレート(入学-卒業)		42				30	71%	43				33	77%	42				33	79%	
進級者		39	38	38	39	36		43	39	35	39	39		40	41	39	38	36		
進級率(卒業率)		93%	97%	86%	95%	100%		96%	91%	90%	91%	100%		93%	100%	91%	90%	95%		
原級留置		3	1	6	2	0	12	2	4	4	4	0	14	3	0	4	4	2	13	
退学者		1	0	7	0	0	8	1	3	2	4	0	10	2	0	3	1	0	6	
編入学(在籍内数;入学-卒業)					3	3					4	4					3	3		
留学(在籍内数;入学-卒業)					0	0					0	0				0	0	0		
電気工学科		在籍数	43	43	43	42	43		42	41	42	43	40		42	42	42	37	31	
		ストレート(入学-卒業)	43				38	88%	42				38	90%	42				29	69%
	進級者	43	41	40	41	43		41	41	39	40	40		42	40	34	31	31		
	進級率(卒業率)	100%	95%	93%	98%	100%		98%	100%	93%	93%	100%		100%	95%	81%	84%	100%		
	原級留置	0	2	3	1	0	6	1	0	3	3	0	7	0	2	8	6	0	16	
	退学者	0	0	2	0	0	2	1	0	1	2	0	4	0	0	4	2	0	6	
	編入学(在籍内数;入学-卒業)				2	2					2	2					2	2		
	留学(在籍内数;入学-卒業)			1	0	0					0	0				1	1	0		
	電子制御工学科	在籍数	42	42	40	41	38		42	43	44	45	44		42	42	42	42	39	
		ストレート(入学-卒業)	42				31	74%	42				35	83%	42				32	76%
進級者		42	40	35	37	36		42	43	39	42	43		42	40	38	38	37		
進級率(卒業率)		100%	95%	88%	90%	95%		100%	100%	89%	93%	98%		100%	95%	90%	90%	95%		
原級留置		0	2	5	4	2	6	0	0	5	3	1	9	0	2	4	4	2	12	
退学者		0	0	4	2	0	6	0	2	4	3	0	9	0	0	4	1	0	5	
編入学(在籍内数;入学-卒業)					4	3	7				4	4					3	3		
留学(在籍内数;入学-卒業)				0	0	0				1	1	1				1	1	1		
情報工学科		在籍数	41	41	43	40	36		44	44	42	41	44		43	41	42	42	42	
		ストレート(入学-卒業)	41				32	78%	44				37	84%	43				39	91%
	進級者	41	40	40	36	33		44	42	37	41	43		42	40	40	42	42		
	進級率(卒業率)	100%	98%	93%	90%	92%		100%	95%	88%	100%	98%		98%	98%	95%	100%	100%		
	原級留置	0	1	3	4	3	11	0	2	5	0	1	8	1	1	2	0	0	4	
	退学者	0	0	2	4	0	6	0	3	4	0	1	8	1	1	1	0	0	3	
	編入学(在籍内数;入学-卒業)				0	0					4	4					2	2		
	留学(在籍内数;入学-卒業)			1	1	1				0	0	0				1	1	1		
	土木工学科	在籍数	42	40	41	36	37		44	41	41	42	39		44	45	42	35	32	
		ストレート(入学-卒業)	42				30	71%	42				33	79%	42				28	67%
進級者		39	37	35	36	36		41	39	37	39	39		44	41	32	32	32		
進級率(卒業率)		93%	93%	85%	100%	97%		93%	95%	90%	93%	100%		100%	91%	76%	91%	100%		
原級留置		3	3	6	0	1	13	3	2	4	3	0	12	0	4	10	3	0	17	
退学者		1	1	8	0	1	11	1	1	3	1	0	6	0	0	2	1	0	3	
編入学(在籍内数;入学-卒業)					4	4					5	5					1	1		
留学(在籍内数;入学-卒業)				0	0	0				1	1	1				0	0	0		

(出典:教育プログラム点検会議資料)

資料 6 - 1 - ② - 9

平成 18 年 1 月 24 日

## 卒業研究の評価方法（機械工学科）

(1) 指導教員 50%

5 項目 各 10 点の配点で評価する。

- ・理解度、問題解決能力
- ・達成度
- ・創意工夫、自主性、計画性
- ・教員指導に対する対応状況
- ・実績報告書の記述状況（出席状況）

(2) 卒業研究論文 20% 指導教員を除く 2 名の教員で査読

4 項目 各 5 点の配点で評価する。

- ・目的，結果，結論を通しての内容の整合性
- ・図表式のまとめ
- ・文章力
- ・論文全体の体裁

(3) プレゼンテーション 30% 当日、授業はないものの、他の業務と重なる場合を考え、指導教員を除く 3 名の教員で評価する。

6 項目 各 5 点の配点で評価する。

- ・発表態度
- ・分かり易さ
- ・プレゼンテーション資料の出来 (OHP, パワーポイント等)
- ・理解度 (質問への対応)
- ・発表時間
- ・前刷の出来

担当者は上記 (2), (3) の評価を指導教員に報告し、指導教員は (1) ~ (3) の合計点を、5 年担任に報告する。

発表会日時：3 月 2 日 (木)

発表会場：専攻科棟 2 階共用教室

締切日について

論文提出日時：2 月 27 日 (月) 9:00

前刷提出日時：2 月 27 日 (月) 9:00

論文査読締切：3 月 1 日 (水)

総合評価の担任への報告：3 月 2 日 (木)

(出典：機械工学科資料)

## 卒業研究の評価に関する申し合わせ事項（電気電子工学科）

## ◇成績評価に関して

研究に取り組む姿勢等に対して指導教員が下した評価(60%)と、発表や論文に対する電気電子工学科の全教員の評価等(40%)で、総合評価する。

## 【指導教員による評価ポイント（60点満点）】

- |                  |      |
|------------------|------|
| ・ 自主性, 計画性       | 10 点 |
| ・ 理解度, 達成度, 創意工夫 | 10 点 |
| ・ 問題等を解決する能力     | 10 点 |
| ・ 実験記録           | 10 点 |
| ・ 指導教官への報告/議論 等  | 10 点 |

<b>合 計</b>	<b>50 点</b>
<b>評 価</b>	<b>合計×(6/5) = 60 点満点</b>

## 【発表や論文に対する電気電子工学科の全教員の評価のポイント（40点満点）】

- 論 文：10 点
  - 1) 図表, 数式, 参考文献, 引用等の書式,
  - 2) ページの使い方, 図表の大きさ, 位置
  - 3) 書籍/論文等からの転載の有無,
  - 4) 章立て, 構成,
  - 5) 全体の体裁 等
- 予稿集：10 点
  - 1) 図表, 数式, 参考文献, 引用等の書式,
  - 2) 用紙の使い方, 図表の大きさ, 位置
  - 3) 転載の有無,
  - 4) 論旨の明確性, 目的と結果の対応
  - 5) 全体の体裁 等
- 発表態度：10 点
  - 1) 服装,
  - 2) 姿勢
  - 3) 指示棒, ポインタの使い方,
  - 4) 声の大きさ/抑揚, 効果的な所作
  - 5) 話し方 等
- プレゼン資料(スライド/OHP)：10 点
  - 1) 文字, 図表のサイズ,
  - 2) OHP/スライドの分量
  - 3) 分かりやすさ,
  - 4) 効果的な工夫
  - 5) 全体の構成等
- 理解度/質問への対応：10 点
  - 1) 質問への対応,
  - 2) 応答の内容 等
- 発表時間：10 点
 

時間の余り/超過

<b>合 計</b>	<b>60 点</b>
<b>評 価</b>	<b>合計×(4/6) = 40 点満点</b>

(出典：電気電子工学科資料)



## 電子制御工学科 卒業研究評価の流れおよび方法

2004/02/22  
2006/03/03 改

### 評価の流れ

- 1) 学生  
卒業研究論文を2部作成し、1部を指導教員に、他の1部を審査教員に提出締め切り日までに提出。
- 2) 指導教員  
指導学生個人の取り組み姿勢の評価、および卒業研究論文を評価し、卒業研究発表日までに5年担任に提出。
- 3) 卒業研究論文審査教員  
指定された卒業研究論文を評価し、卒業研究発表日までに5年担任に提出。
- 4) プレゼンテーション審査教員  
指定された卒業研究発表プレゼンテーションを審査し、卒業研究発表終了までに5年担任に提出。

### 評価方法

- 1) 取り組み姿勢 50%  
指導教員による評価。  
5項目 各10点の配点で評価する。(卒業研究成績評価シート(学生個人用))
  - (1) 理解度、問題解決能力
  - (2) 達成度
  - (3) 創意工夫、自主性、計画性
  - (4) 教官指導に対する対応状況
  - (5) 実績報告書の記述状況(出席状況)
- 2) 卒業研究論文 20%  
指導教員および他1名の教員による評価の平均。  
4項目 各5点の配点で評価する。(卒業研究成績評価シート(指導教員・審査教員用))
  - (1) 目的, 結果, 結論を通しての内容の整合性
  - (2) 図表式のまとめ
  - (3) 文章力
  - (4) 論文全体の体裁
- 3) プレゼンテーション 30%  
3名の教員による評価の平均。  
6項目 各5点の配点で評価する。(卒業研究成績評価シート(プレゼンテーション用))
  - (1) 発表態度
  - (2) 分かり易さ
  - (3) プレゼンテーション資料の出来(OHP, パワーポイント等)
  - (4) 理解度(質問への対応)
  - (5) 発表時間
  - (6) 予稿集の出来

(出典：電子制御工学科資料)

資料 6 - 1 - ② - 1 2

平成 16 年 2 月 10 日

情報工学科

## 卒業研究評価方法（改定）

卒業研究は、指導教官による評価と客観性を持たせるために指導教官以外の教官による評価を総合して評価する。その評価割合、評価項目は、以下に示す。

### 1. 指導教官による評価 70%（個人への評価）

研究全般に対して指導教官が以下の項目について評価する。

- (1) 卒業研究の達成度（自主性、計画性、問題解決能力）
- (2) 卒業研究への取り組み具合（継続性、卒業研究日誌の状況等）
- (3) 予稿ならびに卒業研究論文における目的、結果、結論を通しての整合性および文章力（論理的な記述）
- (4) 卒業研究論文等（論文、予稿、発表スライド）の体裁（図表式等）（情報機器を利用する能力）

### 2. 指導教官以外の教官による評価 30%（テーマ別の評価）

卒業研究発表会における発表および予稿に対して、指導教官を除く、原則学科教官全員で以下の項目について評価する。

- (1) 理解度（質問への対応）
- (2) 表現力（プレゼンテーションや予稿）

--参考--

下線は、卒業研究に割り振られている本校の教育・学習目標（サブ目標）のキーワードである。

S2-2 論理的な記述およびプレゼンテーション能力を身につける

S3-2 自分の必要とするレベルで多様な情報機器を利用する能力を身につける

S3-3 専門分野の知識と自主的継続的に学習する能力を身につけ、与えられた制約下で計画的にもものづくりの手法を活かして問題を解決できる能力を養う

（出典：情報工学科資料）

## 平成 17 年度卒業研究の評価方法

1. 卒業研究の評価は、シラバスに記載している評価法に則り行う。評価は 100 点満点とし、指導教員が 60 点分、他の土木工学科教員が 40 点分の採点権を持つ。
2. 指導教員は 60 点分の評価に当たり、次に示す項目で評価を行う。なお、各項目の括弧内は対象項目に対する満点を示す。
  - ・ 自主性および計画性(10 点)
  - ・ 理解度(10 点)
  - ・ 達成度(10 点)
  - ・ 創意工夫および問題解決能力(10 点)
  - ・ 卒業研究の取り組み状況(20 点)
3. 指導教員以外の教員は、40 点分の評価に当たり、次に示す項目で評価を行う。なお、各項目の括弧内は対象項目に対する満点を示し、評価担当教員の平均値を持って評価点とする。
  - (1) 研究概要および論文の評価に係わるもの(20 点)
    - ・ 目的・結果・結論を通じたの整合性(5 点)
    - ・ 図・表・式のまとめ方(5 点)
    - ・ 文章力(5 点)
    - ・ 論文全体の体裁(5 点)
  - (2) 卒業研究発表の評価に係わるもの(20 点)
    - ・ 発表態度(5 点)
    - ・ 分かり易さ(5 点)
    - ・ プレゼンテーション資料(5 点)
    - ・ 理解度(質問への対応)(5 点)
4. 評価点を決定するにあたっての規準を以下に示す。
 

レベル	5 点配当	10 点配当	20 点配当
特優	5	10	18～20
優	5	8～9	16～17
良	4	7	14～15
可	3	6	12～13
不可	0～2	0～5	0～11
5. 評価シートは、別紙の通り定める。

(出典：土木工学科資料)

## 資料 6 - 1 - ② - 1 4

## 学生の学会発表(本科生)

学会名	会場	開催日	学科・専攻科名	氏名	テーマ	指導教員
土木学会西部支部発表会	西日本工業大学 (福岡県京都郡)	H15.3.8	土木工学科5年		シラス土壌を用いた発芽試験に関する研究	前野 祐二
					エコポット量産化装置の開発に関する基礎的研究	前野 祐二
					桜島火山灰の繰返し単純せん断特性	前野 祐二
					水搬送しらずで埋立てられた地盤の三軸せん断特性	前野 祐二
					桜島火山灰の単調単純せん断特性	前野 祐二
					有機系廃棄物を生育基盤材として用いた樹木の引抜き強度特性	前野 祐二
九州学生会 第34回学生会卒業研究発表会	琉球大学工学部(沖縄県中頭郡)	H15.3.11	機械工学科5年		傾斜回転切断面をもつ円管から流出する噴流	江崎 秀司
2003年度精密工学会九州支部主催「大分地方学術講演会」第4回学生研究発表会	大分大学	H15.11.15	電子制御工学科5年		CAEを用いたマイクロマシン用センサに関する研究	鳥名 賢児 吉丸 日出紀
			電子制御工学科5年		工具画像に及ぼす諸因子の影響	鳥名 賢児 吉丸 日出紀
			機械工学科5年		共削り加工の切削機構に関する研究	鳥名 賢児 吉丸 日出紀
第6回化学工学会学生発表会	九州大学	H16.3.6	機械工学科5年		水素吸蔵合金を用いた水道水の冷却特性	江崎 秀司
平成15年度土木学会西武研究発表会	日本文理大学	H16.3.6	土木工学科5年		ハイプラスチックペレットの土木材料への有効利用	前野 祐二
					エコ石灰セメントの長期強度特性	前野 祐二
					セメントを添加したエコ石灰セメントの強度特性	前野 祐二
					細骨材における軽石の影響	池田 正利
					土石流検知警報システムの開発	疋田 誠
					渓谷河川における土石流シミュレーション実験	疋田 誠
					焼酎粕で作製したエコポットの量産化稼働条件の検討	山内 正仁
					パイロットスケール高温UASBリアクターによる麦、甘藷焼酎蒸留粕廃液の処理特性	山内 正仁
					傾斜切断面を持つ円管群から流出する噴流	田畑 隆英
					噴流の拡散制御に関する研究	田畑 隆英
第35回学生会卒業研究発表講演会	九州大学	H16.3.17 ~3.18	機械工学科5年		NiTi/ポリエステル形状記憶合金複合材料の引張試験に関する研究	持原 稔
					傾斜切断面を持つ円管群から流出する噴流	中島 正弘
2004年度精密工学会九州支部主催「宮崎地方学術講演会」第5回学生	ウエルシティ宮崎	H16.12.2	電子制御工学科5年		噴流の拡散制御に関する研究	中島 正弘
			電子制御工学科5年		CCD画像による小径エンドミルの工具挙動	河野 良弘
平成16年度土木学会西部支部研究発表会	九州大学箱崎キャンパス(福岡市)	H17.3.5	土木工学科5年		監視制御システム開発ツールによるCNC監視技術の研究	吉満 真一
			土木工学科5年		鹿児島市防災都市造りへの桜島降灰の影響	平田 登基男
			土木工学科5年		土石流検知警報システムの開発・第2報	疋田 誠
			土木工学科5年		シラスプラスチックペレットの有効利用	前野 祐二
			土木工学科5年		エコ石灰セメントの強度特性について	前野 祐二
			土木工学科5年		桜島における流下土砂の細骨材への有効利用	池田 正利 原口 誠夫
第7回化学工学会学生会発表会研究発表講演要旨集	同志社大学(京都市)	H17.3.5	機械工学科5年		大規模小売店舗における車両の駐車時間調査	平田 登基男
日本機械学会九州学生会第36回学生会卒業研究発表講演会	長崎大学総合教育研究棟(長崎市)	H17.3.16	機械工学科5年		管群における急収縮損失特性	江崎 秀司
			機械工学科5年		熱交換器の変流量特性	江崎 秀司
			機械工学科5年		急収縮流れ場の流動特性	江崎 秀司
			機械工学科5年		柔らかいフィンをもつ円管から流出する噴流	中島 正弘 田畑 隆英
電気関係学会九州支部連合大会	福岡工業大学(福岡市)	H17.9.30	電気情報システム工学専攻1年		物質拡散を伴う鉛直上向噴流	田畑 隆英 中島 正弘
					新コイルを用いた磁気刺激における刺激部位の制御	山田 一二 玉利 陽三
2005年度精密工学会九州支部鹿児島地方講演会第6回学生研究発表会	本校(霧島市)	H17.11.12	機械工学科5年		永久磁石同期電動機のトルク制御精度-電流センサ誤差の影響-	本部 光幸
			機械工学科5年		永久磁石同期電動機のトルク制御精度-位置センサ誤差の影響-	本部 光幸
			電子制御工学科5年		共削り穴加工における加工面品位に関する研究	引地 力男
			電子制御工学科5年		管内走行ロボットのメカニズムに関する研究	引地 力男
					Windowsアプリケーションを用いたCNC監視技術の研究	河野 良弘
					Windowsアプリケーションを用いたCNC監視技術の研究	吉満 真一

(出典：学生課資料)

資料 6 - 1 - ② - 1 5

## 「環境創造工学」教育プログラム認定成績証明書

プ ロ グ ラ ム 修 了 生			
所 属	専攻科	鹿児島工業高等専門学校 電気情報システム工学専攻	氏 名
	本科	鹿児島工業高等専門学校 情報工学科	

総 合 評 価			
基 準		判 定	備 考
①	124単位以上の取得	合 格	7頁参照
②	学士学位の取得	合 格	
③	学習保証時間の総計1800時間以上	合 格	7頁参照
④	人文科学、社会科学等の学習250時間以上	合 格	4頁参照
⑤	数学、自然科学、情報技術の学習250時間以上	合 格	5頁参照
⑥	専門分野の学習900時間以上	合 格	6頁参照
⑦	すべての学習・教育目標の達成	合 格	2頁参照
⑧	基礎工学各群から最低1科目の修得	合 格	6頁参照
⑨	基礎工学各群から合計最低6科目の修得	合 格	6頁参照
⑩	TOEICスコア400点相当以上の英語力	合 格	スコア
⑪	各学協会等での発表経験	合 格	
⑫	インターンシップ(工場実習または特別実習AまたはB)もしくはPBLの修得	合 格	

## 日本技術者教育認定機構「日本技術者教育認定基準」より抜粋

## ●基準2 学習・教育の量

(1)プログラムは4年間に相当する学習・教育で構成され、**①124単位以上を取得し、②学士の学位を得た者**を修了生としていること。

(2)プログラムは**③学習保証時間(教員等の指導のもとに行った学習時間)の総計が1800時間以上**を有していること。さらに、その中には、**④人文科学、社会科学等(語学教育を含む)の学習250時間以上、⑤数学、自然科学、情報技術の学習250時間以上**、および**⑥専門分野の学習900時間以上**を含んでいること。

## ●基準5 学習・教育目標の達成

(4)修了生全員がプログラムの**⑦すべての学習・教育目標を達成**していること。

## ●補則 分野別要件—工学(融合複合・新領域)関連分野—

## 1. 修得すべき知識・能力

本プログラムの修了生は以下の知識・能力を身に付けている必要がある。

## (1)基礎工学の知識・能力

基礎工学の内容は①設計・システム系科目群、②情報・論理系科目群、③材料・バイオ系科目群、④力学系科目群、⑤社会技術系科目群の5群からなり、**⑧各群から少なくとも1科目、⑨合計最低6科目**についての知識と能力

## 鹿児島工業高等専門学校「教育プログラム履修の手引き」より抜粋

## ●6.教育プログラムの修了要件(表1内)

**⑩③TOEICスコア400点相当以上の英語力**を有すること

**⑪④各学協会等における発表**を行うこと

**⑫⑤インターンシップ(工場実習または特別実習AまたはB)もしくはPBL**の修得

(出典：教育プログラム改善委員会資料)

学 習 ・ 教 育 目 標 の 達 成 一 覧													
学 習 ・ 教 育 目 標 番 号		1			2			3			4		
		1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
1	各目標に対応する科目についてそれぞれ1科目以上	○	○	○									
2	環境科学、環境プロセス工学			○									
3	各目標に対応する科目についてそれぞれ1科目以上				○	○	○						
4	外国語科目について2科目以上						○						
5	卒業研究、特別研究、特別セミナー						○						
6	数学・自然科学の科目について5科目以上							○					
7	専門工学共通科目から1科目以上 (ただし環境科学を除く)							○					
8	実験(工学)、卒業研究、特別研究								○				
9	各目標に対応する科目についてそれぞれ2科目以上									○	○	○	
10	技術倫理										○		

鹿兒島工業高等専門学校「教育プログラム履修の手引き」表1参照

## 鹿兒島工業高等専門学校「教育プログラム履修の手引き」より抜粋

## ●3.学習・教育目標

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者
  - (1-1)人類の歴史や文化を理解する
  - (1-2)人間社会と自然環境とのかかわりを理解する
  - (1-3)技術が社会に及ぼす影響を認識し、  
地球環境に配慮したものづくりが提案できる能力を身につける
2. グローバルに活躍する技術者
  - (2-1)日本について深く認識し、世界的な物事に関心をもつ
  - (2-2)論理的な記述およびプレゼンテーション能力を身につける
  - (2-3)外国語で意思疎通を行う能力を身につける
3. 創造力豊かな開発型技術者
  - (3-1)数学、物理、化学など自然科学の基礎知識を身につける
  - (3-2)自分の必要とするレベルで多様な情報機器を利用する能力を身につける
  - (3-3)専門分野の知識と自主的継続的に学習する能力を身につけ、  
与えられた制約下で計画的に、ものづくりの手法を活かして問題を解決できる能力を養う
4. 相手の立場に立ってものを考える技術者
  - (4-1)人としての倫理観を身につけ、善良な市民として社会生活を営む能力を養う
  - (4-2)技術者が社会に対して負う責任を理解する
  - (4-3)異文化を理解し尊重する

(出典：教育プログラム改善委員会資料)

資料 6 - 1 - ② - 1 6 続き

学 習 ・ 教 育 目 標 の 対 応 科 目 群				
学習・教育 目標番号	本 科		専 攻 科	
	4 年	5 年	1 年	2 年
1	1	人文科学選択 ※1	社会科学選択 ※3	0
	2	0	0	地球物理学概論
	3	電気回路	0	環境プロセス工学
	0	0	環境科学	環境人間工学
2	1	国文学	社会科学選択 ※3	0
	0	国文学	卒業研究	論理的英語コミュニケーション
	0	0	0	特別研究
	0	0	0	特別セミナー
	0	0	0	特別実習A
	0	0	0	特別実習B
3	0	英語	外国語選択 ※5	科学技術英語
	0	ドイツ語 I	英語B	特別セミナー
	0	0	ドイツ語 II B	0
	0	0	0	0
	0	0	0	0
	0	0	0	0
	0	0	0	0
	0	0	0	0
	0	0	0	0
	0	0	0	0
3	0	前・後期数物選択 ※2	数学情報選択 ※6	微分方程式
	0	応用数学 I	情報素子工学	ベクトル解析
	0	ベクトル解析	集積回路工学	解析力学
	0	応用物理	システム工学特論 II	線形代数
	0	0	0	量子力学
	0	0	0	応用代数学
	0	0	0	応用電磁気学
	0	#REF!	0	応用電子物性
	0	0	0	機能材料工学
	0	0	0	知的生産システム
	0	0	卒業研究	特別研究
	0	0	0	音響システム工学
	0	0	0	信号処理工学
	0	0	0	0
3	0	多変量解析	制御工学	特別研究
	0	電子回路	システム設計学(PBL)	0 特別研究
	0	システムプログラム II	データ構造論	0 集積回路製造技術
	0	システム工学	計算機アーキテクチャ	0 パルスパワー工学
	0	電子計算機 II	情報工学特論 I	0 回路工学特論
	0	工学演習	システム工学特論 I	0 特別実習A
	0	工場実習	0 情報工学特論 II	0 特別実習B
	0	工学実験	品質信頼性工学	0 電気通信工学
	0	応用実験	工学実験	0 画像処理基礎
	0	数値解析 I	卒業研究	0 知能情報工学
	0	情報理論	0 数学情報選択 ※7	0 計算機言語基礎
	0	通信工学	電気通信特論	0 静電気応用機器
	0	0	0	0 デジタル信号処理
	0	0	0	0 精密加工工学
0	0	0	0 応用パワーエレクトロニクス	
0	0	0	0 電気機器特論	
0	0	0	0 生体電磁気学	
0	0	0	0 超伝導工学	
0	0	0	0 環境電磁気学	
0	0	0	0	
4	1	人文科学選択 ※1	社会科学選択 ※4	0 現代企業法論
	0	保健体育	保健体育	0 株式会社特論
	0	0	0	0
	0	0	0	0
	0	0	0	0
	0	0	0	0
4	2	0	0	0 特別実習A
	0	0	0	0 特別実習B
	0	0	0	0 環境プロセス工学
3	0	英語	外国語選択 ※5	0 論理的英語コミュニケーション
	0	ドイツ語 I	英語B	0 科学技術英語
0	0	ドイツ語 II B	0	0

- ※1: 哲学・倫理学・現代史 ■ 修得科目
- ※2: 線形代数 II・微分方程式・統計学 II・数学演習・宇宙科学概論・物理学演習
- ※3: 経済学・政治学
- ※4: 法学
- ※5: 英語A・ドイツ語 II A
- ※6: 応用数学 II
- ※7: 数値解析 II

(出典：教育プログラム改善委員会資料)



資料 6 - 1 - ② - 1 6 続き

履 修 一 覧 (1/4)											
分類	科	学年	区分	授 業 科 目	開 講 単 位	点 数	取 得 単 位	開 講 時 間 (hr)	欠 課 (時 限)	学 習 時 間 (hr)	
(1) 人文科学・社会科学・社会科学・外国語系科目群	① 人文科学・社会科学・社会科学	4 年	必修	国 文 学	2	85	2	45.0		45.0	
			選択	哲 学	2			45.0			
				倫 理 学							
		5 年	選択	現 代 史		93	2		2	43.5	
				法 学	2			45.0			
			選 択	経 済 学		85	2		4	42.0	
	専攻科	1 年	選 択	現 代 企 業 法 論	2			25.0			
		2 年	必 修	技 術 倫 理	2	82	2	25.0		25.0	
	選 択		株 式 会 社 特 論	2			25.0				
	小 計 ①					12		8	210.0		155.5
	② 外国語	4 年	必修	英 語	2	71	2	45.0	2	43.5	
				ド イ ツ 語 I	2	85	2	45.0	2	43.5	
			5 年	必修	英 語 A	2			45.0		
					ド イ ツ 語 II A		79	2		2	43.5
選 択		英 語 B	1	79	1	22.5	2	21.0			
		ド イ ツ 語 II B	1			22.5					
専攻科		1 年	必 修	科 学 技 術 英 語	2	89	2	25.0	4	22.0	
		選 択	論 理 的 英 語 コミュニケーション	2			25.0				
小 計 ②					12		9	230.0		173.5	
合 計 ①					24		17	440.0		329.0	
履 修 一 覧 (2/4)											
分類	科	学年	区分	授 業 科 目	開 講 単 位	点 数	取 得 単 位	開 講 時 間 (hr)	欠 課 (時 限)	学 習 時 間 (hr)	
(2) 数学・自然科学・情報技術系科目群	① 数学・自然科学	4 年	必修	保 健 体 育	1	83	1	22.5		22.5	
				応 用 数 学 I	2	99	2	45.0		45.0	
				ベ ク ト ル 解 析	1	100	1	22.5	2	21.0	
				応 用 物 理	2			45.0			
				数 値 解 析 I	1	82	1	22.5	2	21.0	
			選 択	線 形 代 数 II							
		微 分 方 程 式									
		統 計 学 II		1			22.5				
		数 学 演 習			99	1			22.5		
		物 理 学 演 習									
	5 年	必修	保 健 体 育	1	93	1	22.5		22.5		
			体 育	1	81	1	22.5	4	19.5		
		選 択	応 用 数 学 II	1	73	1	22.5		22.5		
			数 値 解 析 II								
専攻科	1 年	必修	環 境 プ ロ セ ス 工 学	2			25.0				
			選 択	地 球 物 理 学 概 論	2			25.0			
		選 択	微 分 方 程 式	2	80	2	25.0		25.0		
	ベ ク ト ル 解 析		2	80	2	25.0	6	20.5			
	解 析 力 学		2	88	2	25.0		25.0			
	2 年	選 択	量 子 力 学	2	78	2	25.0	4	22.0		
応 用 代 数 学			2	69	2	25.0	2	23.5			
線 形 代 数 学			2	70	2	25.0		25.0			
小 計 ①					28		22	470.0		357.8	
② 情報技術	4 年	必修	情 報 理 論	2			45.0				
			シ ス テ ム プ ロ グ ラ ム II	2			45.0				
	5 年	選 択	デ ー タ 構 造 論	2			45.0				
小 計 ②					6			135.0			
合 計 ②					34		22	605.0		357.8	

は次頁との重複科目(基準を満たすよう、各自でどちらか片方の取得単位・学習時間を合計から引くこと)

(出典：教育プログラム改善委員会資料)

資料 6-1-②-16 続き

履 修 一 覧 (3/4)											
分類	科	学年	区分	授 業 科 目	開 講 単 位	点 数	取 得 単 位	開 講 時 間 (hr)	欠 課 (時 限)	学 習 時 間 (hr)	
3 基 礎 工 学 科 目 群	① 設 計 ・ シ ス テ ム	本 科	4 年	必 修	シ ス テ ム 工 学	2	87	2	45.0	2	43.5
					電 子 計 算 機 II	2	80	2	45.0		45.0
			5 年	必 修 選 択	シ ス テ ム 設 計 学 (PBL)	2	84	2	45.0	4	42.0
					計 算 機 ア ー キ テ ク チ ャ	2	89	2	45.0	2	43.5
	小 計 ①					8		8	180.0		174.0
	② 情 報 ・ 論 理	本 科	4 年	必 修	数 値 解 析 I	1			22.5		
					情 報 理 論	2	77	2	45.0	2	43.5
					シ ス テ ム プ ロ グ ラ ム II	2	71	2	45.0		45.0
			5 年	選 択	数 値 解 析 II	1			22.5		
					デ ー タ 構 造 論	2	75	2	45.0	2	43.5
	小 計 ②					8		6	180.0		132.0
	③ 材 料	本 科	5 年	必 修	情 報 素 子 工 学	2	70	2	45.0	2	43.5
		専 攻 科	1 年	選 択	集 積 回 路 工 学	1	96	1	22.5		22.5
					応 用 電 子 物 性	2	63	2	25.0	2	23.5
	小 計 ③					5		5	92.5		89.5
④ 力 学	本 科	4 年	必 修	応 用 物 理	2	90	2	45.0	2	43.5	
	専 攻 科	1 年	選 択	解 析 力 学	2			45.0			
				量 子 力 学	2			45.0			
小 計 ④					6		2	135.0		43.5	
⑤ 社 会 技 術	専 攻 科	1 年	必 修 選 択	環 境 プ ロ セ ス 工 学	2	73	2	25.0		25.0	
				地 球 物 理 学 概 論	2	85	2	25.0		25.0	
	小 計 ⑤					4		4	50.0		50.0
	合 計 ③					31		25	637.5		489.0

は前頁との重複科目(基準を満たすよう、各自でどちらか片方の取得単位・学習時間を合計から引くこと)

(出典：教育プログラム改善委員会資料)

資料 6 - 1 - ② - 1 6 続き

履 修 一 覧 (4/4)											
分類	科	学年	区分	授 業 科 目	開 講 単 位	点 数	取 得 単 位	開 講 時 間 (hr)	欠 課 (時 限)	学 習 時 間 (hr)	
① 専 門 工 学 共 通	専 攻 科	1 年	必 修	環 境 科 学	2	79	2	25.0		25.0	
				知 的 生 産 シ ス テ ム	2			25.0			
				精 密 加 工 学	2			25.0			
			選 択	デ ィ ジ タ ル 信 号 処 理	2	85	2	25.0	2	23.5	
				超 伝 導 工 学	2	92	2	25.0	2	23.5	
				機 能 材 料 工 学	2	88	2	25.0		25.0	
				応 用 電 子 計 測	2	78	2	25.0		25.0	
		2 年	選 択	環 境 電 磁 気 学	2			25.0			
				廃 棄 物 工 学	2	98	2	25.0		25.0	
				環 境 人 間 工 学	2			25.0			
	小 計 ①				20		12	250.0		147.0	
	② 電 気 工 学 情 報 環 境 シ ン 造 テ 工 学 専 攻 科	本 科	4 年	必 修	多 変 量 解 析	2	80	2	45.0		45.0
					電 気 回 路	1	83	1	22.5		22.5
					電 子 回 路	1	83	1	22.5		22.5
					工 学 実 験	4	75	4	90.0	4	87.0
				選 択	通 信 工 学	2	78	2	45.0		45.0
					工 場 実 習	1			22.5		
					工 学 演 習	1	84	1	22.5	2	21.0
					応 用 実 験	1	80	1	22.5	2	21.0
5 年			必 修	制 御 工 学	2	70	2	45.0	2	43.5	
				工 学 実 験	2	79	2	45.0		45.0	
				卒 業 研 究	10	94	10	225.0	24	207.0	
				情 報 工 学 特 論 I	1	85	1	22.5	2	21.0	
			選 択	情 報 工 学 特 論 II	1			22.5			
				シ ス テ ム 工 学 特 論 I	1	95	1	22.5	4	19.5	
				シ ス テ ム 工 学 特 論 II	1	87	1	22.5		22.5	
				電 気 通 信 特 論	2	84	2	45.0	4	42.0	
専 攻 科		1 年	必 修	特 別 研 究	4	87	4	150.0		150.0	
				特 別 セ ミ ナ ー	2	93	2	50.0		50.0	
			選 択	電 気 通 信 工 学	2	89	2	25.0		25.0	
				画 像 処 理 基 礎	2	82	2	25.0	2	23.5	
				電 力 シ ス テ ム 解 析	2	85	2	25.0		25.0	
				応 用 電 磁 気 学	2			25.0			
				知 能 情 報 工 学	2			25.0			
				計 算 機 言 語 基 礎	2	96	2	25.0		25.0	
				音 響 シ ス テ ム 工 学	2			25.0			
				信 号 処 理 工 学	2			25.0			
				静 電 気 応 用 機 器	2	88	2	25.0	2	23.5	
				応 用 パ ワ ー エ レ ク ト ロ ニ ク ス	2			25.0			
				電 気 機 器 特 論	2			25.0			
				生 体 電 磁 気 学	2	85	2	25.0		25.0	
				特 別 実 習 A	4			150.0			
				特 別 実 習 B	2			75.0			
2 年	必 修	特 別 研 究	10	91	10	375.0		375.0			
		集 積 回 路 製 造 技 術	2			25.0					
	選 択	パ ル ス パ ワ ー 工 学	2			25.0					
		回 路 工 学 特 論	2			25.0					
		パ タ ー ン 認 識 論	2	95	2	25.0		25.0			
		デ ィ ジ タ ル 通 信	2			25.0					
		マ ル チ メ デ ィ ア 工 学	2	95	2	25.0		25.0			
		小 計 ②	92		63	2015.0		1436.5			
合 計 ④					112		75	2265.0		1583.5	
単 位 総 計 ( 合 計 ①+②+③+④ )					201		139	3947.5		2759.3	

(出典：教育プログラム改善委員会資料)

資料 6 - 1 - ② - 17

## 学生の学会発表(専攻科生)

学会名	会場	開催日	学科・専攻科名	氏名	テーマ	指導教員	
火の国情報シンポジウム2003	宮崎大学	H15.3.7	専攻科電気情報システム工学専攻2年		「コンテキストベース適応型ロスレス画像符号化CALICの考察」	加治佐 清光	
土木学会西部支部発表会	西日本工業大学 (福岡県京都郡)	H15.3.8	専攻科土木工学専攻1年		パイプアーチで補強された多径間高架橋走行車両応答特性の検討	前野 祐二	
		H15.3.8	専攻科土木工学専攻2年		都市ごみ焼却灰の化学特性と固化への検討	前野 祐二	
					焼酎蒸留粕で作成したエコポットの土壌分解特性	前野 祐二	
九州学生会 第34回学生員卒業研究発表会	琉球大学工学部 (沖縄県中頭郡)	H15.3.11	専攻科機械・電子システム工学専攻2年		交互流回転円盤法の付着生物膜と脱膜法に関する研究	前野 祐二	
					内面が加熱された垂直円管内自然対流の流動と伝熱	江崎 秀司	
					動的エリクセン試験に関する研究	江崎 秀司	
					管路における急収縮損失特性	江崎 秀司	
平成15年電気学会産業応用部門大会(ヤングエンジニアポスターコンペティ)	東京工科大学	H15.8.26	機械・電子システム工学専攻2年 電気情報システム工学専攻2年		多体ポテンシャルによる鉄中の空孔と溶質原子間の相互作用	江崎 秀司	
					シミュレータを用いた誘導電導機駆動システム解析の応用	室屋 光宏	
第19回ファジィシステムシンポジウム	大阪府立大学	H15.9.8~9.9	専攻科機械・電子システム工学専攻1年		水銀ランプ電子式定電力形点灯回路の解析	中村 格	
第11回電子情報通信学会九州支部学生会講演会	崇城大学	H15.9.25	専攻科機械・電子システム工学専攻2年		遺伝的アルゴリズムを用いたマルチエージェントシステムの構築: 移動目標物捕獲問題への応用	岸田 一也	
					桜島火山爆発に伴う電磁気現象の測定と解析に関する研究	岸田 一也 宮田 千加良 原田 治行 加治佐 清光	
					専攻科機械・電子システム工学専攻2年	M系列相関とニューラルネットワークを用いた論理ボードの故障修復に関する研究	岸田 一也 宮田 千加良 原田 治行 加治佐 清光
					専攻科機械・電子システム工学専攻2年	離散コサイン変換を用いた画像復元に関する研究	岸田 一也 宮田 千加良 原田 治行 加治佐 清光
					専攻科電気情報システム工学専攻2年	ウェーブレット変換を用いた画像への情報埋め込みに関する考察	岸田 一也 宮田 千加良 原田 治行 加治佐 清光
	専攻科電気情報システム工学専攻2年	画像可逆圧縮における基礎的手法の考察	岸田 一也 宮田 千加良 原田 治行 加治佐 清光				
2003年度精密工学会九州支部主催「大分地方学術講演会」第4回学生研究発表会	大分大学	H15.11.15	専攻科機械・電子システム工学専攻2年		回転工具の実撮影位置に関する研究	島名 賢児 吉丸 日出紀	
平成15年度 第2回電子情報系高専フォーラム	熊本電波工業高等専門学校	H15.11.15	専攻科電気情報システム工学専攻2年 専攻科電気情報システム工学専攻2年 専攻科電気情報システム工学専攻2年		手書き文字認識における歪み修正手法の検討	榎園 茂 三重野 保男	
					ニューラルネットワークによる経済指標の予測	榎園 茂 三重野 保男	
					遮光葉面の電位変動とその伝達状況について	榎園 茂 三重野 保男	
日本生物環境調節学会九州支部第2回集会	ホテル グランメール長崎	H15.11.29	専攻科電気情報システム工学専攻2年		遮光葉面の電位変動とその伝達状況について	三重野 保男	
平成15年度 応用物理学会九州支部学術講演会	ハウステンボス	H15.12.6	専攻科電気情報システム工学専攻2年		赤血球の電気泳動へヘモグロビン酸素飽和度が及ぼす影響	須田 隆夫	
第9回高専シンポジウム	有明工業高等専門学校	H16.1.17	機械・電子システム工学専攻1年		水素吸蔵合金を用いた水道水冷却装置の開発	江崎 秀司	
日本機械学会2004年度年次大会	札幌市	H16.9.6	機械電子システム工学専攻2年		傾斜切断面をもつ円管群から流出する噴流	中島 正弘 田畑 隆英 椎 保幸	
					噴流の拡散制御に関する研究(ウェーブレット解析による検討)	中島 正弘 田畑 隆英 椎 保幸	

(出典: 学生課資料)

## 資料 6 - 1 - ② - 17 続き

学会名	会場	開催日	学科・専攻科名	氏名	テーマ	指導教員
平成16年度電気学会産業応用部門大会	サンポートホール高松	H16.9.14	機械・電子システム工学専攻2年		チョップパルスインバータシステムに関する研究	室屋 光宏
電気関係学会九州支部連合大会	鹿児島大学(鹿児島市)	H16.9.27~9.28	電気情報システム工学専攻2年		高圧水銀ランプ点灯回路における可飽和リアクトルのインピーダンスについての考察	中村 格
					伝搬速度を考慮した漏水音検知	幸田 晃
					繰り返し光照射による葉面電位変化の考察	加治佐 清光 三重野 保男
					JPEG-LS のニアロスレス符号化の考察	加治佐 清光
					MOSTランジスタの高速化(その2)	山田 一二
			電気情報システム工学専攻1年		MOSTランジスタの高速化(その3)	山田 一二
					MOSTランジスタの高速化(その1)	山田 一二
日本音響学会2004年秋季研究発表会	琉球大学	H16.9.29	電気情報システム工学専攻2年		無響室内シミュレーションによる漏水音検知	幸田 晃
平成16年度 第3回電子情報系高専フォーラム	熊本電波工業高等専門学校	H16.11.13	電気情報システム工学専攻2年		静止画像の可逆符号化高速化に関する考察	加治佐 清光
		H16.11.13	電気情報システム工学専攻2年		ニューラルネットワークのモジュール化について	加治佐 清光
第82期日本機械学会流体工学部門講演会	北九州学術研究都市	H16.11.25~11.26	機械・電子システム工学専攻1年		物質拡散を伴う鉛直上向噴流	田畑 隆英 中島 正弘
			機械・電子システム工学専攻2年		柔らかいひれを用いた噴流の拡散制御に関する研究	中島 正弘 田畑 隆英 椎 保幸
応用物理学会九州支部大会	琉球大学	H16.11.27~11.28	電気情報システム工学専攻2年		AFMによる赤血球細胞膜の局所粘弾性測定	須田 隆夫
平成16年度土木学会西部支部研究発表会	九州大学箱崎キャンパス(福岡市)	H17.3.5	土木工学専攻1年		桜島土石流流出火山灰の三軸せん断特性	岡林 巧
			土木工学専攻1年		トラス橋の車両走行応答特性の検討	内谷 保
			土木工学専攻1年		15Nトレーサー法による焼酎粕由来窒素の動態解析	山内 正仁
日本機械学会九州支部第58期総会・講演会	九州産業大学(福岡市)	H17.3.11	機械・電子システム工学専攻2年		平行におかれた2円管から流出する噴流	中島 正弘 田畑 隆英
			機械・電子システム工学専攻2年		円筒型サイクロン分離器内の流動特性(入口流速の影響)	椎 保幸
第39回日本水環境学会年会	千葉大学(千葉市)	H17.3.18	土木工学専攻1年		実規模多段型高温UASBリアクターによる焼酎蒸留粕廃液の連続処理特性	山内 正仁
日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2005	神戸国際展示場	H17.6.9~6.11	機械・電子システム工学専攻1年		ロボットによる林業用枝打ちシステムに関する研究(ロボット用ユニットの試作)	山田 隆明
平成17年度電気学会産業応用部門大会	福井大学	H17.8.29	機械・電子システム工学専攻2年		表計算ソフトによる電導機駆動シミュレーションの応用	室屋 光宏
					アクティブフィルタの各種補償電流指令値検出方式の特性比較	坪井 克剛
化学工学会第37回秋季大会	岡山大学(岡山市)	2005.9.15~9.17	機械・電子システム工学専攻2年		急収縮流れ場における流動特性	江崎 秀司
The 3rd International Structural Engineering and Construction Conference (ISEC-03)	徳山大学(山口県周南市)	H17.9.22	土木工学専攻1年		Improvement of buried rosette gage for measurement strain due to autogeneous shrinkage of cement paste	堤 隆
					Measurement strain due to autogeneous shrinkage of cement paste	堤 隆
日本音響学会[2005年秋季研究発表会]	東北大学(仙台市)	2005.9.27~9.29	電気情報システム工学専攻2年		スペクトルサブトラクション係数の理論的導入	幸田 晃
第13回電子情報通信学会九州支部学生会講演会	福岡工業大学(福岡市)	H17.9.28	機械・電子システム工学専攻2年		自動車の移動に起因する磁気雑音の予測手法に関する研究	岸田 一也 鎌田 清孝
日本機械学会大分地方講演会	大分大学工学部(大分市)	H17.10.15~10.17	機械・電子システム工学専攻2年		M変換を用いたノイズ除去に関する研究	宮田 千加良
			機械・電子システム工学専攻2年		衝撃水圧を用いた深絞り加工の研究	南金山 裕弘
			機械・電子システム工学専攻2年		物流拡散を伴う鉛直上向噴流(流れの可視化による検討)	田畑 隆英 中島 正弘
			機械・電子システム工学専攻1年		物流拡散を伴う鉛直上向噴流(PIV解析による検討)	田畑 隆英 中島 正弘
			機械・電子システム工学専攻2年		平行におかれた2円管から流出する脈動噴流	中島 正弘 田畑 隆英
			機械・電子システム工学専攻2年		柔らかいフィンをもつ円管から流出する噴流	中島 正弘 田畑 隆英
			機械・電子システム工学専攻1年		はばたき機の基礎研究(つばさの試作)	持原 稔
			機械・電子システム工学専攻2年		衝撃水圧を用いた深絞り加工の基礎研究	南金山 裕弘 持原 稔
			機械・電子システム工学専攻2年		確率概念を用いた重ね合わせ法による手書き文字確認	榎園 茂
第4回電子情報系高専フォーラム	熊本電波高専(熊本県菊池郡)	H17.11.12	電気情報システム工学専攻2年		ストローク特徴を用いた手書き文字認識	榎園 茂
			電気情報システム工学専攻1年			

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

(a) 準学士課程

平成15～17年度卒業生の5年間を通じた学習・教育目標達成度は、各サブ目標に対応した科目の単位取得率が90%以上を達成していること、全クラスの科目評価平均点は70点を越えていること、また、卒業研究は評価基準が明確になっており水準の確保が図られていることなどから、教育の成果や効果が十分に上がっていると判断できる。一方、3年次の進級率がやや低いことから、低学年に対する学習の動機付けを、さらに図る必要がある。

(b) 専攻科課程

平成16年度以降の修了生は、4つの学習・教育目標を全て達成している。特別研究では、修了生全員が関係学会で発表しており研究水準が確保されている。これらのことから、教育の成果や効果は上がっていると判断できる。

**観点6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。**

(観点到に係る状況)

準学士課程卒業生の進路状況は、50%～60%が企業へ就職し、40%程度が大学や専攻科へ進学しており、未決定者が5%程度である。専攻科課程修了生の進路状況は、60%以上が企業へ就職し、30%程度が大学院へ進学している（資料6-1-③-1）。準学士課程卒業生の進路の50%～60%を占める企業への就職については、求人数はほとんどの学科で200社を超えており、多くの学生が有力企業へ就職している（資料6-1-③-2, 3）。専攻科修了生の就職先についても多くの学生が有力企業へ就職している（資料6-1-③-4）。本科卒業生の職業別就職者数については、機械・電気技術者や情報処理技術者、その他技術者が大部分を占めており、本校で学んだ専門知識や技術を活用できる職業に就いている。専攻科修了生についても、機械・電気技術者や情報処理技術者、その他技術者が大部分を占めている（資料6-1-③-5）。卒業（修了）後の進学先としては資料6-1-③-6に示すように、本校で学んだ専門知識を基に、さらに高度な知識を得ることのできる大学（大学院）へ進学している。

**6-1-③資料一覧**

(資料6-1-③-1) 卒業（修了）生進路状況	出典：学生課資料
(資料6-1-③-2) 卒業予定者就職進学状況	出典：学生課資料
(資料6-1-③-3) 卒業後の進路	出典：学生課資料
(資料6-1-③-4) 専攻科生の進路	出典：学生課資料
(資料6-1-③-5) 卒業後の状況調査票	出典：学生課資料
(資料6-1-③-6) 卒業（修了）後の進学先	出典：学生課資料

資料 6 - 1 - ③ - 1

卒業(修了)生進路状況

	平成15年度							平成16年度							平成17年度							
	就職		進学		未定		計	就職		進学		未定		計	就職		進学		未定		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合		人数	割合	人数	割合	人数	割合		人数	割合	人数	割合	人数	割合		
本科	機械工学科	18	50.0	16	44.4	2	5.6	36	22	56.4	16	41.0	1	2.6	39	25	69.4	11	30.6	0	0.0	36
	電気工学科	15	34.9	26	60.5	2	4.7	43	15	37.5	22	55.0	3	7.5	40	20	64.5	10	32.3	1	3.2	31
	電子制御工学科	26	72.2	10	27.8	0	0.0	36	31	72.1	12	27.9	0	0.0	43	24	64.9	12	32.4	1	2.7	37
	情報工学科	22	66.7	11	33.3	0	0.0	33	20	46.5	20	46.5	3	7.0	43	21	50.0	18	42.9	3	7.1	42
	土木工学科	19	52.8	10	27.8	7	19.4	36	16	41.0	16	41.0	7	17.9	39	18	56.3	13	40.6	1	3.1	32
計	100	54.3	73	39.7	11	6.0	184	104	51.0	86	42.2	14	6.9	204	108	60.7	64	36.0	6	3.4	178	
専攻科	機械電子システム専攻	7	77.8	2	22.2	0	0.0	9	7	70.0	3	30.0	0	0.0	10	5	62.5	3	37.5	0	0.0	8
	電気情報システム専攻	2	28.6	4	57.1	1	14.3	7	7	87.5	1	12.5	0	0.0	8	2	66.7	1	33.3	0	0.0	3
	土木工学専攻	2	66.7	1	33.3	0	0.0	3	3	100.0	0	0.0	0	0.0	3	4	80.0	1	20.0	0	0.0	5
	計	11	57.9	7	36.8	1	5.3	19	17	81.0	4	19.0	0	0.0	21	11	68.8	5	31.3	0	0.0	16

(出典：学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 2

平成 17 年度 進路別卒業生数

学科・専攻名 <small>[大学・短期大学・高等専門学校は学科名、大学院は専攻名を記入する。]</small>	符号	性別	7 進路別卒業生数											計 (a)	
			A	B	C	D	E	就	職	職	職	職	職		
			大研 学究	大 学部	短本 期 大 学 科	専 攻 科	別 科	職 者	職 者	職 者	職 者	職 者	職 者		職 者
土木工 学専攻	G110	男	1		5		9		16		1		4		25
		女	2								1		3		4
情報工 学専攻	G080	男	1		9		8		6				2		25
		女	2		2				14		1		1		18
電子制 御工学 専攻	G060	男	1		5		7		28					40	
		女	2						3					3	
電気工 学専攻	G040	男	1		13		8		14				3	38	
		女	2		1				1					2	
機械工 学専攻	G010	男	1		11		5		22					38	
		女	2						1					1	
計	9 9 9 9	男	1		43		37		86		1		9	176	
		女	2		3		0		19		2		4	28	
計				0	46	0	37	0	105	0	3	0	13	0	204

(出典：学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 2 続き

平成17年 3 月 卒業予定者就職進学状況

		機械工学科		電気電子工学科			電子制御工学科			情報工学科			土木工学科			
		計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
求人数	県内	20			13			9			13			15		
	県外	299			299			269			181			49		
	計	319			312			278			194			64		
卒業予定者		39	38	1	40	38	2	43	40	3	43	25	18	39	35	4
求職者	県内	3	2	1	2	2		6	5	1	13	3	10	6	5	1
	県外	19	19		13	12	1	25	23	2	9	4	5	7	7	
	計	22	21	1	15	14	1	31	28	3	22	7	15	13	12	1
就職決定	県内	3	2	1	2	2		6	5	1	11	2	9	5	5	
	県外	19	19		13	12	1	25	23	2	9	4	5	7	7	
	計	22	21	1	15	14	1	31	28	3	20	6	14	12	12	
就職未決定	県内										2	1	1	1		1
	県外															
	計										2	1	1	1		1
公務員	就職決定													5	4	1
	就職未決定					2								5	4	1
進学		16	16		23	22	1	12	12		21	18	3	16	15	1
その他		1	1													

(出典：学生課資料)



## 資料 6 - 1 - ③ - 3

## 卒業後の進路(機械工学科, 平成15年度～17年度)

連絡先	H15	H16	H17	計	連絡先	H15	H16	H17	計
三菱重工長崎研究所	1			1	安川ロジステック	1			1
三菱重工長崎造船所		1		1	日本貨物鉄道		1		1
三菱重工神戸造船所		1		1	ユニチカグラスファイバー		1		1
京セラ国分隼人		2	1	3	アイシン精機			1	1
東芝プラント	1			1	花王			1	1
京セラ川内		1	3	4	クレオ			1	1
三興コントロール		1		1	ニコン			1	1
日本自動ドア		1		1	神戸製鋼所			1	1
いすゞエンジニアリング	1	1	1	3	プレス工業			1	1
三菱化学エンジニアリング		1		1	三菱ビルテクノサービス			1	1
堀口内燃機工業	1			1	三菱重航空宇宙システム			1	1
森精機	1	1		2	日立ハイテクノロジーズ			1	1
コマツ		1		1	サントリー			1	1
コスモテック	1	1		2	トヨタ車体研究所			1	1
日立エンジニアリング		1		1	明治乳業			1	1
ソニー九州	1	1	1	3	シード			1	1
京セラミタジャパン	1			1					
テックス	1			1	長岡技術科学大学	1			1
大分キャン	1	1		2	鹿児島大学		1		1
JAL航空機整備東京	1			1	豊橋技術科学大学	1	3		4
JAL航空機整備成田		1	2	3	熊本大学	1	1	1	3
日立ビルシステム	1		1	2	宮崎大学			1	1
JR西日本		1	1	2	九州工業大学	1	4	1	6
トヨタ車体	1	1	1	3	九州大学	2	1		3
ヤマハ熊本プロダクツ			1	1	岡山大学	1			1
アルバック九州		1		1	香川大学		1		1
ソニーEMCS木更津	1			1					
テクモ	1			1	鹿児島高専専攻科	9	5	8	22
川崎造船	1			1					
ファナック	1	1		2					

(出典：学生課資料)

## 資料 6 - 1 - ③ - 3 続き

## 卒業後の進路(電気電子工学科, 平成15年度～17年度)

連絡先	H15	H16	H17	計	連絡先	H15	H16	H17	計
京セラ国分隼人			2	2	日信電子サービス	1			1
日立ビルシステム	1		2	3	明治乳業	1			1
中部電力	1	1	1	3	ダット	1	1		2
三菱電機ビルテクノサービス	1	1	1	3	アルバック九州		1		1
全農サイロ	1	1	1	3	ソニーEMCS木更津テック		1		1
旭化成	1	1	1	3	ディー・エス・テック		1		1
JR九州		1	1	2	日本モレックス	1			1
九州電力			1	1	阪神エレクトリック	1			1
日立メディコ		1	1	2	ダイダン		1		1
ヤマハ鹿児島セミコンダクタ	1		1	2	三菱電機システムサービス		1		1
JR西日本			1	1	南国殖産	1			1
ソニーセミコンダクタ九州		1	1	2	京セラ川内		1		1
パナソニックエレクトロニクスデバイス			1	1	津田工業		1		1
大分キャン			1	1	いわさきコーポレーション	1			1
日立製作所			1	1	花王	1			1
リコーテクノシステムズ			1	1					
大阪ガス			1	1					
行政システム九州			1	1	医療事務管理士	1			1
JAL航空機整備成田		1		1	公務員希望		2		2

## 【進学先一覧】

学校名	H15	H16	H17	計	学校名	H15	H16	H17	計
鹿児島高専専攻科		8	3	11	九州大学	2			2
鹿児島大学	7	4	2	13	東京農工大学	1			1
長岡技術科学大学	3	5	2	10	長崎大学	1			1
豊橋技術科学大学	2	2	1	5	広島大学	1			1
岡山大学	1		1	2	専門学校	1		1	2
九州工業大学	2	1		3	進学希望	1	1	1	3
熊本大学	1	2		3					
宮崎大学	4			4					

(出典：学生課資料)

## 資料 6 - 1 - ③ - 3 続き

## 卒業後の進路(電子制御工学科, 平成15年度～17年度)

連絡先	H15	H16	H17	計	連絡先	H15	H16	H17	計
日産テクノ	1	2	1	4	鹿児島リコー		1		1
日立ビルシステム	1	1		2	九州タブチ	1			1
イーオス21	1	2		3	九州テン		1		1
トヨタ車体	1	1	1	3	サザンテック	1			1
JR九州	1	1	1	3	ソニーファシリティー・マネージメント	1			1
アベックス	1			1	TMCシステム		1		1
京セラ国分		3	2	5	日立エンジニアリング		1		1
ソニー一宮	1			1	日立メディコ	1			1
ソニー木更津		1		1	ファナック	1			1
ソニーEMCS長野			1	1	三菱ビジネスシステム		1		1
ニッソーサービス	1	2		3	安川エンジニアリング		1		1
アイフォーコム		1		1	富士重工業	1			1
タイヨーインターナショナル		1	1	2	JR西日本	1		1	2
ミヤマ精工	1			1	大阪ガス	1			1
森精機		1		1	森永乳業	1			1
ヤマサキ	1			1	東レ			1	1
飛鳥電気	1		1	2	パイオニアサービス			1	1
京セラ川内		2	1	3	富士電機システムズ			1	1
ソニーセミコンダクタ九州	1		1	2	ブラザー			1	1
三菱電機システムサービス			1	1					
BPA	1	1	1	3	鹿児島高専専攻科	4	7	5	16
ミヤマ工業		1	1	2	九州工業大学	1	1	1	3
日本貨物鉄道	1	1		2	長岡技術科学大学		1	1	2
ダッド			1	1	豊橋技術科学大学	1			1
JAL成田			1	1	熊本大学	3	1		4
中越バルブ			1	1	鹿児島大学		2	2	4
テクシア		2		2	電気通信大学			1	1
ダイダン	1			1	名古屋大学	1			1
日研工作所	1			1	千葉大学			1	1
三菱電機ビルテクノ		1	1	2					
旭化成		1	1	2	専門学校			2	2
大分キャン	1		1	2					

(出典：学生課資料)

## 資料 6 - 1 - ③ - 3 続き

## 卒業後の進路(情報工学科, 平成15年度～17年度)

連絡先	H15	H16	H17	計	連絡先	H15	H16	H17	計
旭化成			1	1	TSG		1		1
アルファシステムズ	1			1	デンソーテクノ			1	1
イーオス21	1		1	2	南国テレホン	1			1
インタープロジェクト	2			2	南国殖産	1			1
NECシステム建設エンジニアリング		1		1	日本有機			1	1
NECフィールディング		1		1	NHK	2		1	3
NTTドコモ九州	1			1	日立メディコ		1		1
エス・テー・ラボ	2	1		3	富士ソフトABC	1		1	2
オムロンフィールドエンジニアリング九州	1			1	南日本放送		1		1
鹿児島ファコム		1		1	メルコパワーシステム	1			1
京セラ川内		3	1	4	ライオン			1	1
京セラSLCテクノロジー		1		1	リコーテクノシステムズ	1	1		2
京セラ隼人		2		2					
京セラ国分		3	5	8					
クリスタルファクトリー	1			1	鹿児島大学	3		4	7
サンメイク・ジャパン	1			1	九州工業大学	2	2	2	6
サンリツオートメーション		1		1	佐賀大学		1		1
JAL航空機整備東京			1	1	島根大学		1		1
JFEスチール			1	1	豊橋技術科学大学	2	6		8
JR西日本	1		1	2	宮崎大学			1	1
ソニーEMCS一宮	1			1	前橋工科大学			1	1
ソニーEMCS木更津	1			1	久留米大学			1	1
ソニーセミコンダクタ九州			2	2	志学館大学		1		1
ソフト流通センタ		1	1	2	鹿児島高専専攻科	3	8	7	18
大信情報システム		1		1	熊本電波高専専攻科			1	1
ダイワボウ情報システム		1		1	大村美容専門学校			1	1
ダッド	1		1	2	日本ビジネススクール		1		1
TSG		1		1	パンタン映画映像学院	1			1
デンソーテクノ			1	1					
南国テレホン	1			1					

(出典：学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 3 続き

## 卒業後の進路(土木工学科, 平成15年度～17年度)

連絡先	H15	H16	H17	計	連絡先	H15	H16	H17	計
インフラテック			1	1	鹿児島県庁	1			1
大阪ガス			1	1	国土交通省				0
小野田ケミコ		1		1	国家三種		1		1
家村測量設計事務所			1	1	始良中部農業共済組合		1		1
九鉄工業			3	3	始良町役場	1			1
建設技術コンサルタンツ		1		1	隼人町役場	1			1
建設情報コンサルタンツ	1			1					
コーアツ工業	1	1		2					
五洋建設			1	1	鹿児島高専専攻科	6	9	8	23
ジェアール九州コンサルタンツ	1			1	九州工業大学	1		1	2
大進	1	1		2	九州大学		1		1
タイセイグループ	1			1	熊本大学	2	2	1	5
東海旅客鉄道			1	1	佐賀大学		1		1
東洋建設			1	1	豊橋技術科学大学	1	1	1	3
南生建設	1	1		2	長岡技術科学大学			2	2
西日本旅客鉄道	2	2	3	7					
日建技術コンサルタント		1		1	専門学校進学		2		2
日産プリンス熊本販売	1			1					
日本貨物鉄道	1			1	大学進学希望	1			1
林建設	2			2	公務員希望	4	5		9
久永コンサルタント	1			1	就職希望	3	1	1	5
日立造船		1		1					
フジオ・ネ・テクノソリューションズ*		1		1					
松下産業	1			1					
丸福建設			1	1					
三菱重工業長崎造船所			1	1					
三菱重工業広島製作所			1	1					
ミヤマ精工			1	1					
向井建設			1	1					
ヤマサキ	1	1		2					
横河工事			1	1					

(出典：学生課資料)

## 15. 専攻科生の進路

機械・電子システム工学専攻						電気情報システム工学専攻						土木工学専攻						
【就職先】	H13	H14	H15	H16	H17	【就職先】	H13	H14	H15	H16	H17	【就職先】	H13	H14	H15	H16	H17	
アルバック九州	1					オートメイション・テクノロジー	1					九州テクノリサーチ	1					
三洋化成工業	1					西部電気工業	1					日本鋪道	1					
西田機械工作所	1					ソニーEMCS一宮テック	1					森山清建設		1				
日本計器	1					ソニーセミコンダクタ九州	1				1	(株)ニチア			1			
サンエツ	1					インフォーコム		1				(株)鹿児島航測			1			
共立		1				鹿児島インフォネット		1				五洋建設				1		
クレオ		1				信興テクノミスト		1				S. K. ALPHA CO., LTD					1	
ホシザキ南九州		1		1		東京エレクトロン九州		1				石川島プラント建設株式会社					1	
飛鳥電気		1				ノダック		1				奥村組土木興業株式会社					1	
ソニーイーエムシーエス		1				パイオネット・ソフト		1				日本ヒューム株式会社					1	
日立ビルシステム		1				フォース		1										
富士電機システムズ		1				三菱自動車エンジニアリング		1										
Misumi		1				三菱電機プラントエンジニアリング		1				自営業					1	
本田技研工業		1	1	2	2	鹿児島ファコムセンター			1	1								
プレス工業			1			中越バルブ工業			1									
コンチネンタル・チーベース			1			九州富士電機				1								
メイキコウ			1			日本電気システム建設エンジニアリング				2								
コーアガス			1			日本自動ドア				1								
テック・インテグレーション				1		アイフォーコム				1								
ナプテスコ				1		日産テクノ				1								
富士精工				1		エス・イー・シー・パテック				1								
三菱電機ビルテクノサービス				1		京セラコミュニケーションシステム(株)					1							
日立ビルソリューション(株)					1													
日本モレックス					2													
旭化成					1													
ANAテクノアビエーション					1													
トヨタ車体					1													
海上自衛隊	1															2		
鹿児島市役所			1															1
【進学先】						【進学先】						【進学先】						
九州工業大学大学院	4		1	1	3	長岡技術科大学大学院	1					熊本大学大学院	1					
福岡教員養成所			1			九州工業大学大学院		1	3	1		長岡技術科大学大学院		1			1	
長岡技術科大学大学院				1		鹿児島大学大学院				1								
宮崎大学大学院				1		奈良先端科学技術大学院大学					1							

(出典：学生課資料)

## 資料 6 - 1 - ③ - 5

## 準学士課程卒業後の就職先(産業別)

学科	機械工学科			電気工学科			電子制御工学科			情報工学科			土木工学科			計	
	H15	H16	H17	H15	H16	H17	H15	H16	H17	H15	H16	H17	H15	H16	H17		
建設業	1					1								5	7	9	23
製造業	食料品・飲料・たばこ飼料製造業			2	1	1		2									6
	繊維工業、衣服・その他の繊維製品製造業							1	2								3
	化学工業・石油・石炭製品製造業		2	1	2	1	1					3					10
	鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業								1					1	1	2	5
	一般機械器具製造業	3	10		2	2		7	2	1						1	28
	電気・情報通信機械器具製造業					2	6		1	1	5	6	8				28
	電子部品・デバイス製造業	4	5	6	3		1	4	7	4		8					42
	輸送機械器具製造業	5	2	7		1	3	5	1	2							26
	精密機械器具製造業	2	1			1	2	1		1							8
	その他の製造業							1		1						1	3
電気・ガス・熱供給・水道業				1	1	3	1									1	7
情報通信業	1			2		1	1			16	6	7					34
運輸業		3	3	2	2	3	3	2	2	1		2	3	2	4		32
金融・保険業															1		1
卸売・小売業	卸売業							1									1
	小売業				1								1		2		4
飲食店、宿泊業													1				1
医療・福祉				1													1
サービス業		2		2		3		17	10				3		1		38
公務	国家公務														2		2
	地方公務														2		2
計	18	23	21	15	15	20	26	31	24	22	20	20	14	16	20		305
クラス人数	36	39	36	43	40	31	36	43	37	33	43	42	36	39	32		566
就職率(%)	50	59	58.3	34.9	37.5	64.5	72.2	72.1	64.9	66.7	46.5	47.6	38.9	41	62.5		53.9

(出典：学生課資料)

## 資料 6 - 1 - ③ - 5 続き

## 専攻科修了後の就職先(産業別)

専攻	機械電子システム			電気情報システム			土木工学			計
	H15	H16	H17	H15	H16	H17	H15	H16	H17	
建設業								3	3	6
製造業	電気・情報通信機械器具製造業					2	2			4
	電子部品・デバイス製造業			1						1
	輸送機械器具製造業	4	5	4		1				14
	その他の製造業				1					1
電気・ガス・熱供給・水道業	1									1
情報通信業	1			1	5					7
サービス業			1					2		3
公務	国家公務									1
	地方公務	1								1
計	7	6	5	2	8	2	2	3	4	39
クラス人数	9	10	8	7	8	3	3	3	5	56
就職率(%)	77.8	60	62.5	28.6	100	66.7	66.7	100	80	69.6

(出典：学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 5 続き

## 準学士課程卒業後の就職先(職業別)

学科		機械工学科			電気工学科			電子制御工学科			情報工学科			土木工学科			計	
年度		H15	H16	H17	H15	H16	H17	H15	H16	H17	H15	H16	H17	H15	H16	H17		
専門的・技術的職業従事者	農林水産業・食品技術者						1										1	
	機械・電気技術者	機械	16	20	24													60
		電気				11	14	18										43
		その他							20	24	24	5		12			1	86
	鉱工業技術者	化学																0
		その他												1		1		2
	建築・土木・測量							1						16	13	17	47	
	情報処理技術者				2	1	1	1	5		9	5	8				32	
	その他の技術者	1						1	1		8	15				1	27	
	その他の保健医療従事者	その他				1												1
事務従事者													1	1			2	
販売従事者				1												1	2	
サービス職業			1										1				2	
運輸・通信	1	3					3	1					1				9	
計		18	23	25	15	15	20	26	31	24	22	20	21	19	16	19	314	
クラス人数		36	39	36	43	40	31	36	43	37	33	43	42	36	39	32	566	
就職率(%)		50	59	69.4	34.9	37.5	64.5	72.2	72.1	64.9	66.7	46.5	50	52.8	41	59.4	55.5	

(出典：学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 5 続き

## 専攻科修了後の就職先(職業別)

専攻		機械電子システム			電気情報システム			土木工学			計	
年度		H15	H16	H17	H15	H16	H17	H15	H16	H17		
専門的職業従事者	機械・電気技術者	機械	4	5	5							14
		電気				1	2	2				5
	建築・土木・測量								2	3	4	9
	情報処理技術者	1				1	5					7
その他の技術者		2	1								3	
計		7	6	5	2	7	2	2	3	4	38	
クラス人数		9	10	8	7	8	3	3	3	5	56	
就職率(%)		77.8	60	62.5	28.6	87.5	66.7	66.7	100	80	67.9	

(出典：学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 6

## 平成17年度卒業(修了)後の進学先

		機械	機械電子	電気電子	電気情報	情報	土木	その他工学	その他	計
本科	機械工学科	2	8			1				11
	電気工学科			5	3			1		9
	電子制御工学科	1	5	2		2		1		11
	情報工学科				8	8			1	17
	土木工学科									0
計	3	13	7	11	11	0	2	1	48	
専攻科	機械電子システム専攻					1		2		3
	電気情報システム専攻					1				1
	土木工学専攻							1		1
	計					2		3		5

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程卒業生の95%が企業・官公庁に就職または大学・本校専攻科に進学し、専攻科課程修了生も同様の状況である。進路未決定者は公務員または進学希望である。卒業生・修了生は、本校で学んだ専門知識や技術を活用できる職業に就いている。また、進学先は、本校で学んだ専門知識をさらに発展させることができる大学・大学院等である。

このことから、本校の教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、卒業後の進路状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっていると判断される。

**観点 6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等から判断して、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。**

(観点に係る状況)

(a) 準学士課程

平成17年度に学生に対して、FD委員会が行った「学習・教育目標」達成度評価アンケート(資料6-1-④-1)の結果を資料6-1-④-2に示す。この結果と、本校の学習教育目標に対応する科目の達成度評価(資料6-1-②-1参照)とを比較すると、対応科目の達成度評価値が90%以上であるのに対して、学生の「学習・教育目標」達成度評価アンケートの結果(資料6-1-④-2)は低い。このアンケートにおいては達成度の基準を特に示さずに、達成したか否かをyes, noで問うものであったため、このような結果になったものと考えられる。個々の学生の達成度に対する意識レベルの差を考慮すれば、60%程度の達成度が本アンケートでは妥当な値だと考えられる。これを大きく下回るサブ目標、たとえば英語教育については、教科内容の改善等が検討されている(資料6-1-④-3)。

(b) 専攻科課程

平成14, 15, 17年度に、学生に対して行った「学習・教育目標」達成度評価アンケート(資料6-1-④-4)の結果を資料6-1-④-5に示す。専攻科においては、「各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価基準」が示されており、達成度は平均80%と高くなっている。また、年度別に見ると、サブ目標2-3, 3-3, 4-3の達成度に向上が見られる。これらは、平成16年度から、英語コミュニケーション力強化のための「総合英語」の新設、環境・国際問題へも関心を深めるための、専門共通科目の見直し、国際関係論の新設等専攻科のカリキュラムを変更した(資料6-1-④-6, 7)効果が現れてきているものと思われる。



6-1-④資料一覧

(資料6-1-④-1) 「学習・教育目標」達成度評価アンケート用紙(本科準学士課程用)

出典:FD委員会資料

(資料6-1-④-2) 平成17年度「学習・教育目標(本科)」達成度評価アンケート結果

出典:FD委員会資料

(資料6-1-④-3) 平成16年度英語教育改善プロジェクト校長答申

出典:英語科教育改善プロジェクト校長答申資料

(資料6-1-④-4) 「学習・教育目標」達成度評価アンケート用紙(専攻科課程用) 出典:FD委員会資料

(資料6-1-④-5) 「学習・教育目標(専攻科)」達成度評価アンケート結果 出典:FD委員会資料

(資料6-1-④-6) 平成18年度週当たり授業時間数(平成17,18年度入学) 一般科目・専門共通科目

出典:平成18年度シラバス

(資料6-1-④-7) 平成17年度週当たり授業時間数(平成16年度入学) 一般科目・専門共通科目

出典:平成17年度シラバス

資料 6 - 1 - ④ - 1

**「学習・教育目標」達成度評価アンケート** (本科準学士課程用)

※記入上の注意：①の枠を正確に塗りつぶすこと。  
 ・不正な場合は、消しゴムで消してから塗り直すこと。  
 ・用紙を汚したり、折る行為はしないこと。

学科・専攻  学年  フォト   
 氏名

学習・教育目標	サブ目標	評価	「達成した」または「達成していない」と思った理由
1 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-a 現代社会を生きるための基礎的知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	<input type="checkbox"/>	
	1-b 様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。	<input type="checkbox"/>	
2 グローバルに活躍する技術者	2-a 日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	<input type="checkbox"/>	
	2-b 英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。	<input type="checkbox"/>	
	2-c 英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。	<input type="checkbox"/>	
3 創造力豊かな開発型技術者	3-a 専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。	<input type="checkbox"/>	
	3-b コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して有用な情報を取得することができる。	<input type="checkbox"/>	
	3-c 専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	<input type="checkbox"/>	
	3-d ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。	<input type="checkbox"/>	
4 相手の立場に立ってものを考える技術者	4-a 技術者の社会的な責任を理解することができる。	<input type="checkbox"/>	
	4-b 様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。	<input type="checkbox"/>	

鹿児島工業高等専門学校

(出典：FD委員会資料)

資料 6 - 1 - ④ - 2

平成17年度 「学習・教育目標(本科)」達成度評価アンケート結果 (平成18年2月実施)

本科(準学士課程)の学習・教育目標			'Y'と答えた割合(%)											
学習・教育目標	サブ目標	4年						5年						
		M	E	S	I	C	全体	M	E	S	I	C	全体	
		34	34	41	42	41	192	33	29	36	36	29	163	
1 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-1 現代社会を生きるための基礎的知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。	74	68	85	67	63	71	93	88	45	92	58	75	
	1-2 様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。	50	47	49	33	51	46	69	70	31	64	33	53	
2 グローバルに活躍する技術者	2-1 日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。	88	65	76	64	61	67	48	58	41	50	50	50	
	2-2 英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。	12	32	24	17	29	23	10	18	7	19	19	15	
	2-3 英語以外の外国語を用いて、簡単な用を足すことができる。	47	38	44	19	27	34	28	30	28	22	39	29	
3 創造力豊かな開発型技術者	3-1 専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。	53	47	41	43	59	48	52	61	28	28	31	39	
	3-2 コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。	65	59	80	93	80	77	79	97	76	94	92	88	
	3-3 専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。	85	62	80	79	78	77	76	97	48	69	78	74	
	3-4 ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。	38	47	51	26	34	39	17	48	24	31	28	30	
4 相手の立場に立ってものを考える技術者	4-1 技術者の社会的な責任を理解することができる。	76	59	83	45	63	65	86	73	34	81	39	63	
	4-2 様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。	71	65	66	60	63	65	69	58	41	64	67	60	

(出典：FD委員会資料)

## 英語教育改善プロジェクト校長答申

平成 16 年 5 月 12 日 (水) 16:00-17:00

プロジェクトリーダー 一般教育科文系教授 嵯峨原昭次

英語科は毎月定期的に会議を持ち全員連携して現在までいろいろな取組をしている。科内の研究授業、校内英語暗唱・弁論大会の立上げ、実用英語検定・工業英語検定の受験促進、公開講座、IPTOEIC の導入などである。各英語教官はシラバスに基づいてきめ細かい授業を行い、問題点を見つけたら、その都度話し合い（英語科会議）をして対応している。

今回 JABEE 審査を受けるにあたり、専攻科生に対し TOEIC400 点以上が課せられたが半数が 400 点以上を取ることができず、それに対して W という評価がなされた。そこで専攻科生が 400 点を取得するためにどういう方策を立てればいいのか検討される中で、鹿児島高専の英語教育を改善することも検討され始めた。そこで、嵯峨原がプロジェクトリーダーとして、他の英語教官 4 名の協力を得て、鹿児島高専英語教育改善プロジェクトを進めていくことにする。

## 1. 現状分析

## (1) 学生について

## 1) 専攻科生について

A. 英語の能力の高い学生もいるが、必ずしも英語の能力の高いものが全員入学しているとは限らない。専攻科入学後から 2 年間だけで TOEIC400 点を目指して取組ませるのはやはり無理があるので、卒業の段階で TOEIC400 点取得を求めるのであれば、入学の段階で英語の試験において何かしらの制限を求めることも考えられる。

## 2) 本科生について

A. 英語に対して目的意識を持ち、実用英語検定・工業英語・TOEIC 受験を目指して日々勉強している学生もいるが、英語に目的意識を持っていない学生が多く、クラスの中には授業を成立させるのでさえ困難を感じるクラスも存在する。

B. 日々の 5 分間テストは真面目に取り組む高得点を取るが、それを全部まとめた試験になると着度が極端に落ちる。基本的にじっくり腰を据えて勉強する姿勢が感じられない。

## (2) 授業方法・教材について

1) 定期試験の問題が総合問題になっているものがあり、Communicative Testing になっていないものもある。

2) 1 年～5 年の教科担当を毎年変わることで、その科目に対して長期的な教材研究・教授法の取組ができていないところもある。

3) 1, 2 年で検定教科書を利用し、3 年では大学レベルの基本的な教科書を利用しているが、検定教科書は中身が濃く量も多く、1, 2 年では消化しきれていないところもある。

4) 1 年生～5 年生対象の統一実力試験を実施したことがないので、各学年の学生が現時点でどれほどの英語の実力があるのか把握できていない。

## 2. 中・長期計画

英語科で話し合った結果、1 年～5 年の間で特に 1 年～3 年までの 3 年間で基礎的な英語力を

(出典：英語科教育改善プロジェクト校長答申資料)

## 資料 6 - 1 - ④ - 3 続き

集中して定着させて、それを後の 2 年間につなぐ方向でプロジェクトを進めていきたい。それで、1 年から 3 年に集中して本校常勤の教官、不足分は指導能力の高い非常勤教官を配置することにする。そして、定期試験問題の学年共通化、検定教科書の 2 年間利用を 3 年間利用に延長、教科担任の定着化と責任体制、低学年から高学年への英語授業の連携、全学年一斉の英語実力試験実施、英文法の 2 年次導入を 1 年次からの導入に変更、1 年～3 年に対して実用英語検定の受験奨励、TOEIC ソフトの積極的活用などを大きな柱にこのプロジェクトを進めていきたい。

3 年間をめどにして具体的に次のような取組を行っていきたい。

## (1) 1 年目 (平成 16 年度)

- 1) 定期試験 (年 4 回) の問題作成を **Communicative Testing** へと転換し、共通問題とする。
- 2) 検定教科書を今までの 2 年間利用 (1 年次、2 年次) から 3 年間利用 (1 年次、2 年次、3 年次) へと変更するので、1 年生、2 年生はそのつもりで現在利用している検定教科書の進捗を考える。3 年生については 1, 2 年次に利用した検定教科書を 3 年で採用した教科書 (大学基礎教科書) と併用する。
- 3) 英文法の参考書を 2 年次に購入させていたものを平成 17 年度から 1 年次購入に切り替えるので、今年の 1 年は英語 I の中に英文法の授業を入れていく。
- 4) 1～5 年生全員に対して現在の英語実力を把握するために英語実力試験を実施する。  
(後期末試験を予定)
- 5) 1 年生全員に実用英語検定準 2 級の受験を薦める。
- 6) 科目によっては可能な科目は 1 年間の取組の成果を **Pretest, Posttest** で確認する。
- 7) 3 年「英会話」の時間にパソコン室で TOEIC のソフトを利用して演習を行う。

## (2) 2 年目 (平成 17 年度)

- 1) 1 年次から文法参考書を購入開始し、英文法を英語 I の中に取り入れていく (2 年生は 1 年次購入していないので 2 年生も購入する)。
- 2) 1 年～3 年の検定教科書利用の体制を開始する。3 年生は今までのような大学基礎教科書の購入をしない。
- 3) 1 年生全員に実用英語検定準 2 級の受験を薦める (2 年生で準 2 級を受験していない学生、又合格していない学生に受験を薦める)。
- 4) 1 年～5 年対象の英語実力試験を実施する (後期期末試験)
- 5) 教科担任を定着化し、その科目に対して責任体制を確立する。

例：嵯峨原 英語演習専従 (10) 英文法専従 (4) 合計 14 時間  
 あべ松 3 年英語専従 (12) 5 年英語 A (2) 合計 14 時間  
 金岡 3 年英会話専従 (5) 英語 I [II] (6) 5 年英語 A (2) 専攻科論理英語専従 (2)  
 合計前期 13 時間、後期 15 時間  
 坂元 英語 I [II] 専従 (9) 英文法 (2) 5 年英語 A (2)  
専攻科科学技術英語専従 (2) 合計前期 15 時間、後期 13 時間  
 塚崎 英語 I [II] 専従 (12) 5 年英語 A (2) 合計 14 時間

\*海江田 (非常勤) 英語 I [II] (3) 3 年英語 (3) 英文法 (4) 合計 10 時間

## (3) 3 年目 (平成 18 年度)

- 1) 1 年次文法参考書を購入させ、英文法を英語 I の中に取り入れていく。

(出典：英語科教育改善プロジェクト校長答申資料)

資料 6 - 1 - ④ - 3 続き

- 2) 1年～3年検定教科書利用体制を確立させる。
- 3) 1年生全員に実用英語検定準2級の受験を薦める。
- 4) 3年生全員に実用英語検定2級の受験を薦める。
- 5) 1年～5年対象の英語実力試験を実施する。(後期期末試験)
- (4) 外人講師(常勤)を1名確保する。

「英語演習」の Team Teaching。論文などの Proof Reading。本校教員の研修。

### 3. 英語科の役割分担 (①役割 ②教科責任者 ③担当作業 ④その他)

	教官名	役職	仕事内容
1.	嵯峨原昭次	教授・Project Leader	①全体のまとめ ②教科責任者(英語演習、英文法) ③校内英語暗唱・弁論大会 ④英語演習・英文法教材研究
2.	あべ松伸二	助教授・英語科主任・Project Subleader	①リーダーの補佐 ②教科責任者(3年英語) ③実用英語検定・工業英語検定、英語実力試験作成 ④1年～3年英語(検定教科書利用)の連携・ 3年英語の授業方法研究
3.	金岡正夫	助教授	①リーダーの補佐 ②教科責任者(3年英会話、専攻科論理英語) ③TOEIC実施準備、英語実力試験作成 ④論理英語、ESPの研究
4.	坂元真理子	講師	①リーダーの補佐 ②教科責任者(英語I[II]、専攻科科学技術英語) ③TOEIC実施準備、英語実力試験成績処理 ④1年～3年英語(検定教科書利用)の連携・ 英語I[II]の授業方法研究
5.	塚崎香織	講師	①リーダーの補佐 ②教科責任者(英語I[II]) ③TOEIC実施準備、英語実力試験成績処理 ④1年～3年英語(検定教科書利用)の連携・ 英語I[II]の授業方法研究

### 4. まとめ

なかなか英語を勉強してくれない高専学生ではあるが、この改善プロジェクトで示されている具体案を基に、英語教官で連携しあい、平成16年度より実際に取組を始めたいと思う。各英語教官がそれぞれ得意分野を持っているので最大限の能力を発揮してくれるものと信じている。現1年生が3年間の取組の後、4、5年でTOEICの演習を集中的に行い、卒業試験としてのTOEIC受験時に400点以上の取得者が現時点より増加することを期待している。

(出典：英語科教育改善プロジェクト校長答申資料)

資料 6 - 1 - ④ - 4

**「学習・教育目標」達成度評価アンケート**

学科・専攻: \_\_\_\_\_ 学年: \_\_\_\_\_ 氏名: \_\_\_\_\_

学習・教育目標	サブ目標	評価	「達成した」または「達成していない」と思った理由
1 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-1 人類の歴史や文化を理解する。		
	1-2 人間社会と自然環境とのかかわりを理解する。		
	1-3 技術が社会に及ぼす影響を認識し、地球環境に配慮したもののづくりが提案できる能力を身につける。		
2 グローバルに活躍する技術者	2-1 日本について深く認識し、世界的な物事に関心をもつ。		
	2-2 論理的な記述およびプレゼンテーション能力を身につける。		
	2-3 外国語で意思疎通を行う能力を身につける。		
3 創造力豊かな開発型技術者	3-1 数学、物理、化学など自然科学の基礎知識を身につける。		
	3-2 自分の必要とするレベルで多様な情報機器を利用する能力を身につける。		
	3-3 専門分野の知識と自主的継続的に学習する能力を身につけ、与えられた制約下で計画的に、ものづくりの手法を活かして問題を解決できる能力を養う。		
4 相手の立場に立ってものを考える技術者	4-1 人としての倫理観を身につけ、善良な市民として社会生活を営む能力を養う。		
	4-2 技術者が社会に対して負う責任を理解する。		
	4-3 異文化を理解し尊重する。		

(出典：FD 委員会資料)

資料 6 - 1 - ④ - 5

「学習・教育目標(専攻科)」達成度評価アンケート結果

専攻科課程の学習・教育目標			‘Y’ と答えた割合 (%)							
学習・教育目標	サブ目標									
		1 年				2 年				
		H14	H15前	H15後	H17	H14	H15前	H15後	H17	
		18	21	21	36	18	14	15	17	
1 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者	1-1 人類の歴史や文化を理解する	67	71	86	61	50	53	100	88	
	1-2 人間社会と自然環境とのかかわりを理解する	89	81	90	94	72	87	100	94	
	1-3 技術が社会に及ぼす影響を認識し、地球環境に配慮したもののづくりが提案できる能力を身につける	44	48	38	69	61	80	80	53	
2 グローバルに活躍する技術者	2-1 日本について深く認識し、世界的な物事に関心をもつ	72	29	90	67	67	47	80	88	
	2-2 論理的な記述およびプレゼンテーション能力を身につける	72	43	48	92	89	80	93	82	
	2-3 外国語で意思疎通を行う能力を身につける	33	10	19	42	17	7	47	35	
3 創造力豊かな開発型技術者	3-1 数学、物理、化学など自然科学の基礎知識を身につける	67	71	81	86	89	73	87	82	
	3-2 自分の必要とするレベルで多様な情報機器を利用する能力を身につける	67	62	71	92	89	73	80	94	
	3-3 専門分野の知識と自主的継続的に学習する能力を身につけ、与えられた制約下で計画的に、ものづくりの手法を活かして問題を解決できる能力を養う	56	38	43	61	56	67	73	76	
4 相手の立場に立ってものを考える技術者	4-1 人としての倫理観を身につけ、善良な市民として社会生活を営む能力を養う	89	90	95	89	89	93	100	94	
	4-2 技術者が社会に対して負う責任を理解する	61	62	81	69	61	60	100	94	
	4-3 異文化を理解し尊重する	50	52	57	61	28	40	67	76	

(出典：FD 委員会資料)

資料 6 - 1 - ④ - 6

## 11.1 平成 18 年度週当たり授業時間数 (平成 17, 18 年度入学)

## 一般科目・専門共通科目

区分	必 ／ 選	授 業 科 目	単位数	学年別配当				備 考	
				第 1 学年		第 2 学年			
				前期	後期	前期	後期		
一般科目	必修科目	技術倫理	2				2		
		総合英語	2	2					
	選択科目	科学技術英語	2		2				
		論理的英語コミュニケーション	2			2			
		現代企業法論	2		2				
		国際関係論	2	2					
	開講単位数	12	4	4	2	2			
専門共通科目	必修科目	環境プロセス工学	2	2					
		環境科学	2	2					
	選択科目	微分方程式	2	2					
		ベクトル解析	2		2				
		応用代数学	2			2			
		線形代数学	2	2					
		解析力学	2			2			
		量子力学	2				2		
		地球物理学概論	2		2				
		知的生産システム	2			2			
		精密加工学	2				2		
		デジタル信号概論	2		2				
		超伝導工学	2				2		
		機能材料工学	2			2			
		応用電子計測	2		2				
		環境電磁気学	2	2					
		廃棄物工学	2		2				
		環境人間工学	2				2		
	環境創造工学特別講義	2	2						
	開講単位数	38	12	10	8	8			
合計		開講時間数合計	50	16	14	10	10		
		履修可能時間数合計	50	16	14	10	10		

(出典：平成 18 年度シラバス 446 頁)



資料 6 - 1 - ④ - 7

## 11.1-1 平成17年度週当たり授業時間数 (平成16年度入学)

一般科目・専門共通科目

区分	授業科目	単位数	学年別配当				備考
			1年		2年		
			前	後	前	後	
一般科目	必修	技術倫理	2			2	
		科学技術英語	2	2			
	選択	現代企業法論	2				
	択	株式会社特論	2	2			
	科目	論理的英語コミュニケーション	2		2		
				2			
		小計	10	2	4	2	2
専門共通科目	必修	環境プロセス工学	2	2			
		環境科学	2	2			
	選択	微分方程式	2	2			
		ベクトル解析	2		2		
		応用代数学	2		2		
	共通	線形代数学	2	2			
	択	解析力学	2	2			
		量子力学	2		2		
	科目	地球物理学概論	2	2			
		知的生産システム	2	2			
		精密加工学	2		2		
		デジタル信号処理	2		2		
		超伝導工学	2	2			
		機能材料工学	2	2			
		応用電子計測	2		2		
		環境電磁気学	2		2		
		廃棄物工学	2	2			
		環境人間工学	2			2	
		小計	36	20	14		2
合計	開講時間数	(46)	22	18	2	4	
	履修可能時間数	(46)	22	18	2	4	

(出典：平成17年度シラバス 417頁)

(分析結果とその根拠理由)

学生の自己評価による学習目標達成度評価を実施した結果、準学士課程では、本校の学習・教育目標に対応する科目の達成度評価に比べ、学生自身の達成度評価は低いという結果が得られている。アンケート形式に原因があるものの、達成度が特に低く評価されているサブ目標に対応する科目については、すでに改善の取り組みが実施されている。

専攻科課程の学生の達成度評価は、本校が意図したレベルに近いものである。語学や国際問題についての科目の増強、専門共通科目の見直し等のカリキュラム改善を行った効果が見られる。

これらのことから、準学士課程においては、学生に対して学習・教育目標が要求している達成レベルを明確に示し、学生が達成度を実感できるようにする必要がある。また、専攻科課程では、本校の意図する教育の効果は上がっていると判断される。

**観点 6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。**

(観点に係る状況)

本校では、卒業生や進路先などの関係者に対して在学時に身につけた学力や資質・能力に関するアンケート調査を実施している。平成14年度には、本校の卒業生に対するアンケート調査を実施した。資料 6-1-⑤-1 に示すように、「ご自身が経験された高専教育の中で、これまでの社会生活において特に有意義で、現在役立っていること」を質問している。その回答によると、各学科の専門科目の知識と実験・実習が役立っているとの意見が多い。

また、平成16年には、本校の教育課程改定の参考とするために、卒業生の就職先、進学先、卒業生に対してのアンケート調査を実施した。資料 6-1-⑤-2 に示すように、「他校卒業生と比べて、鹿兒島高専卒業生の優れた点、見劣りする点等、学力以外でもお気づきのことがありましたらお教えてください」との質問項目を設けている。その回答によると、専門分野の知識・能力については概ね高いとの意見が多い。しかし、その一方で、語学を含むコミュニケーション能力が弱いとの指摘もある。

#### 6-1-⑤資料一覧

(資料 6-1-⑤-1) 卒業生へのアンケート

出典：鹿兒島高専40周年誌

(資料 6-1-⑤-2) 教育課程改定にかかるアンケート結果

出典：学生課資料

## 6.2 卒業生へのアンケート

### 6.2.1 はじめに

本校では創立40周年を機に、卒業生から多くの意見を聞き、今後の教育並びに学校運営に役立たせようと、同窓会との協力によりアンケート調査を行なった。アンケートは、住所の判明している全卒業生を対象に行なわれ、平成14年10月末に発送した。アンケートの締め切りは、平成14年11月末とし、封書またはインターネットにより回

答いただいた。215名の方がアンケートに答えてくれた。回収率は、4%余りである。

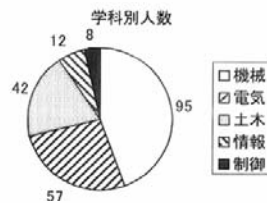
### 6.2.2 アンケート調査結果

(1) アンケートに答えていただいた総数

男性206名、女性9名、総数215名

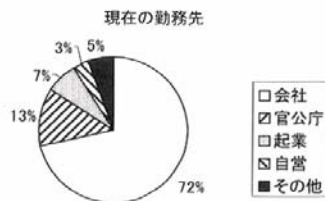
(2) アンケートに答えていただいた卒業学科

機械95名、電気57名、  
土木42名、情報12名、  
制御 8名



(3) 現在の勤務先

会社144名、  
官公庁26名、  
起業14名、  
自営7名、  
その他11名



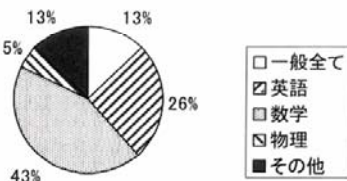
(4) 意見等

①ご自身が経験された高専教育（生活）の中で、これまでの社会生活において特に有意義で、現在役立っていること。

ア 教科科目

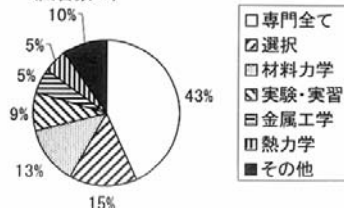
ア-1 一般科目

有益な一般科目(回答数39)



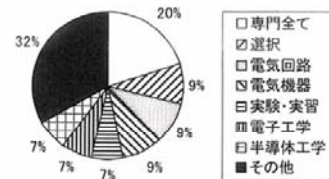
ア-2 専門科目(機械工学科)

有益な機械工学科専門科目  
(回答数97)



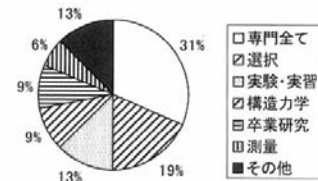
ア-3 専門科目(電気工学科)

有益な電気工学科専門科目(回答数58)



ア-4 土木工学科

有益な土木工学科専門科目(回答数42)



電子制御は材料力学2（その他4）、情報工学科はプログラミング3（その他5）であった。

特徴的な意見を以下にまとめる。

- ①どの教科もそれなりに役立つが、語学力はもっと重視すべき。
- ②幅広い知識（専門分野以外の）
- ③法学・哲学など、心理的なことが心の自立に役立つ。
- ④英語教育。理系学生には文系科目も大事。バランスが必要。
- ⑤英語の原書で心理学を学んだ。現在でも役に立つ。
- ⑥長野先生の数学。面白かったし、“解く”意欲を養えた。
- ⑦早い時期から専門を取り入れることで、その後の学問に大いに役立っている。
- ⑧大学卒業者と少なくとも専門分野の学識と変わらない点。
- ⑨土木総論 新しい物の考え方と自分に対する厳しき。
- ⑩応用数学をはじめとする専門科目一般/入社し、大卒には知識・理論で頭を下げることはなかった。
- ⑪実験、実習（学生時代はそれほど感じなかったが、社会人になってからは書籍だけの理論ではなく実際に経験したことが役に立つ）

(出典：鹿児島高専 40 年誌 133, 134 頁)

資料 6-1-⑤-2

平成 17 年 1 月 26 日

企業の担当者各位<sup>(※)</sup>

アンケート調査について (お願い)

鹿児島工業高等専門学校長  
前 田 滋

拝啓 貴下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
ご承知のとおり、近年、高専教育への期待が「専門技術知識の付与」から「考える力や創造性の育成」へと大きく変化しつつあります。また、本校には 5 年間一環教育の本科の上に、修業年限 2 年の専攻科も平成 12 年 4 月に設置されております。  
鹿児島高専ではこのような内外の変化を踏まえて、授業内容改善の継続と共に、より効果的な教育を実践するため、平成 18 年度施行を目指した教育課程の改訂作業に着手しております。その一環として、下記要領で校外の貴重な意見を収集し、改訂に反映させたいと考えております。かかる趣旨をご理解の上、ご多忙の折りではありますが、アンケート調査にご協力下さるようお願い致します。

記

1. 調査依頼先：合計 500 箇所（卒業生自身及び卒業生の就職先、進学先）
2. 同封書類等：アンケート用紙、現在の教育課程、返信用封筒
3. アンケート用紙送付先：〒 899-5193 鹿児島県始良郡集人町真孝 1460-1  
鹿児島工業高等専門学校 学生課 教務係  
  
※郵送の代わりに FAX される場合、FAX:0995-43-2584 へご送信下さい。
4. 回答期限：平成 17 年 2 月 14 日
5. 問い合わせ先：鹿児島工業高等専門学校 学生課 教務係  
TEL:0995-42-9014

注) 指導教員各位 (編入学先大学の場合)、卒業生各位 (本校卒業生の場合)

(出典：学生課資料)

資料 6-1-⑤-2 続き

アンケート用紙

1. 学力について

鹿児島高専卒業生に学力面で弱いところがあるとすれば、それはどこでしょうか。授業科目名、または分野名 (例：人文科学、自然科学、専門知識等) でお答え下さい。

2. 教育課程の精選について

教育課程 (添付) の中で削除、または単位数を減じざるを得ないものを敢えて選ぶとすれば、どの授業科目を対象とすべきでしょうか。

3. その他

他校卒業生と比べて、鹿児島高専卒業生の優れた点、見劣りする点等、学力以外でもお気づきのことがありましたらお教え下さい。

4. 回答者の所属・氏名等

回答者のご所属		※本欄は内部作業用です。 さしつかえなければ、 ご記入ください。
回答者のご氏名		
卒業年及び学科 (卒業生のみ)	平成・昭和 年 月 工学科	

(出典：学生課資料)

資料 6-1-⑤-2 続き

教育課程改訂にかかるアンケート結果

教務委員会  
平成 17 年 3 月 8 日

I. アンケート調査期日

郵送年月日：平成 17 年 1 月 26 日  
回答期限：平成 17 年 2 月 14 日

II. アンケート依頼基送数及び回答数

	就職先	進学先	卒業生	不明	計
発送数	185	36	239		460*
回答数	17	14	35	3	69
回答率	9.2%	38.9%	14.6%		15.0%

\*宛先不明で戻ってきたもの(23 通)を含む

III. 発送書類

1. 依頼文書 2
2. アンケート用紙 3
3. 教育課程表 (略)

IV. アンケート回答内容

1. 学力について 4
  - 1-1 就職先企業等 4
  - 1-2 進学先大学 4
  - 1-3 卒業生 5
  - 1-4 回答者不明 7
2. 教育課程の精選について 7
  - 2-1 就職先企業等 7
  - 2-2 進学先大学 7
  - 2-3 卒業生 8
  - 2-4 回答者不明 10
3. その他 10
  - 3-1 就職先企業等 10
  - 3-2 進学先大学 11
  - 3-3 卒業生 11
  - 3-4 回答者不明 13

(出典：学生課資料)

### 3. その他

他校卒業生と比べて、鹿児島高専卒業生の優れた点、見劣りする点等、学力以外でもお気づきのことがありましたらお教え下さい。

#### 3-1【就職先企業等】

k-1)鹿児島高専卒業生に限られたわけではありませんが、人文学科分野が弱い様に思います。

k-2)個人差によるところが大きいですが、コミュニケーション能力、指導者としての基礎能力に関しては見劣りする傾向にある。(貴校に限らず高専全般)

k-3)優秀な卒業生に来ていただいている。

k-4)大卒と比べた場合、多少コミュニケーション能力が見劣りする印象がある。

k-5)個人的には私自身も鹿児島県人ですが、鹿児島に『泣くよか、ひっ飛ば』ということわざがありますが、潔さを表した言葉と考えます。人と付き合うことでは美德となりますが、反面、業務進捗を図る上では、ものごとをじっくり考えるタフさがあってもいいものと考えます。

k-6)専門教育を行う学校でありながら、平均的主義から抜けきれない面があるように思います。特出された専門技術・技能の養成が課題ではないかと思えます。

k-7)記載なし

k-8)学力的に他校の生徒さんと比べて劣っている部分は少なく、優秀である。ただ高校卒よりも在学期間が長い為、同僚、先輩との年齢差からギクシャクしている部分を感じられる。

k-9)不明(当社、採用実績なし)

k-10)やる気もあり、がんばっている。四大の人達よりも良いかんじです。

k-11)別になし

k-12)貴校の生徒が劣っているとは思いませんが、基礎学力を徹底的に教え込むことが必要だと思います。

k-13)明るく、積極性に優れている。

k-14)記載なし

k-15)専門的な知識や技能は優れています。国語力(文章表現力)、自分の考えを相手に伝える、企画書、報告書等の表現力が不足していると思われる。相手を説得し、納得させるためのコミュニケーション能力や文章表現力は専門知識や技能と同等以上に必要と考える。

k-16)業務に対する適応力もあり、ソツなくこなしますが、専門知識を更に磨けば、研究開発部門でも適応出来るのではないのでしょうか。

k-17)\*\*君の場合だと、学力はもちろん基準より上だが、それよりも遠くはなれた群馬に自ら強い意志をもって志望したやる気がかわれてと言った所だと思います。御校生徒\*\*君へは高い期待をよせています。

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、本校学生が在学時に身につけた学力や資質・能力に関する意見を聴取するために、卒業生や進路先などの関係者に対してアンケート調査を実施している。その結果によると、専門的な資質・能力については概ね高いとの評価が得られ、本校の教育理念の一つである開発型技術者の育成の点においては、教育の効果が上がっていると判断される。一方、語学力を含むコミュニケーション能力については、不足しているとの意見も見られたため、教育方法の改善に取り組んでいる。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 学習・教育目標に科目が対応付けられており、その単位取得状況から、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力についての達成状況を把握・評価するシステムが整備されている点
- ・ 専攻科課程の学習・教育目標の達成を修了要件とした教育プログラムはJABEE認定を受けており、教育の水準が保証されている点

(改善を要する点)

- ・ 低学年における学習に対する動機付けをさらに図り、本科3年次の進級率を向上させる点

## (3) 基準6の自己評価の概要

準学士課程卒業時ならびに専攻科修了時に身につけておくべき学力や資質・能力は、それぞれの学習・教育目標とサブ目標に割り当てられた科目の単位取得状況から、その達成状況を把握・評価している。準学士課程では、最近3年間の卒業生の各サブ目標に対応した科目の単位取得率が90%以上を達成しており、全クラスの科目評価平均点は70点を超えている。また、卒業研究は評価基準が明確になっており水準の確保が図られている。専攻科課程では、平成16年度以降の修了生は、4つの学習・教育目標を全て達成している。特別研究では、修了生全員が関係学会で発表しており研究水準が確保されている。これらのことから、両課程における教育の成果や効果は上がっていると判断できる。ただし、準学士課程3年次の進級率がやや低いことから、低学年に対する学習の動機付けを、さらに図る必要がある。

卒業生・修了生は、本校で学んだ専門知識や技術を活用できる職業に就いている。また、進学先は、本校で学んだ専門知識をさらに発展させることができる大学・大学院等である。このことから、卒業後の進路状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっている。

学生の自己評価による学習目標達成度評価を実施した結果、準学士課程では、本校の学習・教育目標に対応する科目の達成度評価に比べ、学生自身の達成度評価は低いという結果が得られている。アンケート形式に原因があるものの、達成度が特に低く評価されているサブ目標に対応する科目については、すでに改善の取り組みが実施されている。専攻科課程の学生の達成度評価は、本校が意図したレベルに近いものである。これらのことから、準学士課程においては、学生に対して学習・教育目標が要求している達成レベルを明確に示し、学生が達成度を実感できるようにする必要がある。また、専攻科課程では、本校の意図する教育の効果は上がっていると判断される。

本校学生が在学時に身につけた学力や資質・能力に関する意見を聴取するために、卒業生や進路

先などの関係者に対してアンケート調査を実施している。その結果によると、専門的な資質・能力については概ね高いとの評価が得られ、本校の教育理念の一つである開発型技術者の育成の点においては、教育の効果が上がっていると判断される。一方、語学力を含むコミュニケーション能力については、不足しているとの意見も見られたため、教育方法の改善に取り組んでいる。



## 基準7 学生支援等

## (1) 観点ごとの分析

観点7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

## (a) 学習を進める上でのガイダンスの実施

各学科と専攻科の1年生を対象に、入学当初にオリエンテーション(資料7-1-①-1)や、集団研修を行って学習についてのガイダンスを実施している(資料7-1-①-2)。また、各学科で教員によるチューター制度を取り入れ、1年生に対して学習指導を中心とした支援を行っている(資料7-1-①-3)。各授業科目については、学期始めに教員が担当科目のシラバスを配布し、当該科目の学習に関するガイダンスを行なっている(資料7-1-①-4)。さらに、低学年(1~3年生)については、特別活動を利用して、各学級担任が専門学科教員と連携をとりながら、当該学年以降の進級規定や学習の進め方についてのガイダンスを行っている(資料5-4-①-1参照)。

## (b) 学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制の整備

一般的な学習については、学級担任または特別研究指導教員が、必要に応じて個別面談、助言・指導を行っている(資料7-1-①-5, 6)。また、個々の教員がオフィス・アワーズを設けており、学習上の相談等をはじめ種々の相談を受け付け、指導・助言が行われる体制が整備され、機能している(資料7-1-①-7)。なお、平成13年度には、「学生何でも相談室」が開設され(資料7-1-①-8)、学習に関する相談事例もある(資料7-1-①-9)。

## 観点7-1-①資料一覧

(資料7-1-①-1) 1年生オリエンテーション学習上の注意事項	出典：学生課資料
(資料7-1-①-2) 学習ガイダンス(日程表)	出典：1年生集団研修資料
(資料7-1-①-3) 平成17年度の班分けと担当チューター	出典：電子制御工学科資料
(資料7-1-①-4) シラバスを配布して説明を要求する旨の通知	出典：学生課資料
(資料7-1-①-5) 教員内部組織規程	出典：規則集
(資料7-1-①-6) 学級担任と学年主任に関すること	出典：教務の手引き
(資料7-1-①-7) オフィス・アワーズの案内と一覧表の例	出典：ウェブページ
(資料7-1-①-8) 学生何でも相談室 相談員	出典：学生何でも相談室資料
(資料7-1-①-9) 学生何でも相談室 主な相談内容	出典：学生何でも相談室資料

平成17年4月5日

## 1年生オリエンテーション学習上の注意事項

教務主事

1. 1年修了の条件<学生便覧>

次の条件を全て満足しないと2年へ進級できません。

- (1) 出席した日数が出席すべき日数の3分の2以上であること
- (2) 特別活動の出席時数が所定の時数の3分の2以上であること
- (3) 第1学年末での修得単位の合計が **26単位以上**であること

※1年次に修得可能な最大単位数

27単位(一般科目)+7単位(専門科目)=34単位  
 (「自然のしくみ」又は「論理のしくみ」を含む)

2. 単位修得できる条件<学生便覧>

- (1) 最終の成績評価点が60点以上であること
- (2) 授業時数の3分の2以上出席していること
  - ※単位：授業時数30時間で1単位，授業時数60時間で2単位に相当
  - ※遅刻，早退は3回で欠課1時間
  - ※15分以上の遅刻，早退は欠課と同じ扱いになる

3. 成績評価<シラバスに記載>

- (1) 教科によって成績評価のしかたが異なる
- (2) 通常は定期試験や平常テスト，出席状況等を基に評価される
- (3) 定期試験を実施せず，レポートや実技重視の教科もある(実験，実習等)

4. 授業全般について

- (1) 授業中は授業をしっかり受け，私語，脇見，居眠りをしない
  - ※最初は授業進度が早いと感じるかも知れない
- (2) 高専に対応する学習塾はないので，自学自習の習慣をつける(予習・復習)
- (3) かねての勉強が大事，試験前の一夜漬けは通用しなくなる
- (4) 分からないところをそのままにしない，遠慮なく先生に聞いてみる
  - ※先生は質問等大歓迎，オフィス・アワーズを利用する
- (5) 先生に言いにくい場合，「授業評価アンケート」を活用する

5. その他

- (1) バランスのとれた学生生活(睡眠，食事)
- (2) 部活や学校行事(体育祭，文化祭)
- (3) 悩みごと(担任やカウンセラー，「学生何でも相談室」へ)
- (5) 時間割と行事予定を確認
- (6) 掲示物や連絡事項に注意
- (7) 1年生集団研修について

(出典：学生課資料)

## 日程(4月18日(火)、1日目)

時間	内容	場所	担当	備考
8:40	SHR(点呼、健康チェック)	各教室	各担任	最終人員を確認
9:00 9:10 10:40	乗車(バス5台) 鹿児島高専出発 大隅少年自然の家到着 (各自の荷物は玄関ロビーの荷物棚へ)	ロータリー 付近	担任等	公用車(ワゴン) 1台(教職員)
10:50~11:00	出合いのつどい(入所式) 1.団長挨拶 2.自然の家からの挨拶・説明	プレイホール (体育館)	司会:松田 挨拶:団長	上履きに履き替え (土足厳禁)
11:00~11:20 11:20~11:40 11:40~12:00 12:00~12:20	【研修1】 1.校長講話 2.教務主事講話 3.学生主事講話	プレイホール (体育館)	司会:松田 前田 河野 西留	オリエンテーリング の準備:楳根・学生会
12:30~13:30	昼食 M,E 12:30~ S,I,C 12:50~	食堂		テーブル拭きなどの 指導(学生会)
13:40~14:00	【研修2】クラスレクレーション (自己紹介など)	つどいの広場	各担任	※最後に学生会役員より オリエンテーリング説明
14:00~16:30	【研修3】 野外活動(オリエンテーリング) ※最後にクラスごとに集合して 反省会	オリエンテーリ ングコース	全教職員 学生会	※オリエンテーリ ングは16:00には必 ず終了する  雨天の場合※1
16:40~16:50	つどいの広場へ移動			外履きに履き替え (上履き厳禁)
17:00~17:30	夕べのつどい 1.国旗、所旗、団体旗降納 2.夕べの挨拶 3.自然の家からの連絡	つどいの広場	司会:松田 旗係 事務部長	※夕べの挨拶: 事務部長
17:30~18:00	荷物の移動・整理など 寝具の受け取り・配布	各宿泊室 貸出室	担任 寝具係 学生会	※指導:学生会
18:00~19:00	夕食 S,I:18:00~ C,M,E:18:20~	食堂		テーブル拭きなどの 指導:学生会
18:20~20:20	入浴(18:20~20:20) 体育祭DVD放映(19:00~20:30) ※教職員は保護者との懇談	大、中浴場 プレイホール (体育館)	全教職員 学生会	風呂場の整理・ 忘れ物の点検: 1年生と学生会  ※DVD準備:学生会
20:30~21:30	【研修4】 先輩学生(学生会)とのQ&A ※クラス毎	学習室 1M:第1 1E:第2 1S:第3 1I:クラフト室 1C:コミュニテ ィーホール	学生会役員 専門学科教員 担任	
22:00	消灯就寝		担任等 学生会	静かに就寝

(出典:1年生集団研修資料)

## 資料 7-1-①-3

電子制御工学科チュータ制度  
平成17年度の班分けと担当チュータ

1S	番号	学生氏名	ふりがな	出身校	チュータ氏名	おもな担当教科	クラブ指導	教員室	
	1			男 垂水南	河野良弘	情報処理(3S), 工学実験(3S・5S), 数値制御(4S), 生産システム(5S)	弓道	機械工学科棟1階	
	2			男 加世田	かわのよしひろ				
	3			男 隼人					
	4			男 武					
	5			男 川辺	坪井克剛	電子工学(3S), 電子回路(4S), 工学実験(3S・5S)	写真	機械工学科棟1階	
	6			男 舞鶴	つばいかつたか				
	7			男 大崎第一					
	8			男 国見					
	9			男 霧島	原田治行	電磁気学(3S), 創造設計(3S), 電子計算機(5S), 制御用インターフェース(5S), 工学実験(5S)	デジタルテクノロジー	機械工学科棟1階	
	10			男 太田布					はらだはるゆき
	11			男 大根占					
	12			男 桜丘					
	13			男 加治木	宮田千加良	設計製図(2S), 制御工学(4S・5S), システム工学(5S), 工学実験(5S)	水泳	機械工学科棟1階	
	14			男 緑					みやたちから
	15			男 星峯					
	16			男 星峯					
	17			男 重富	植村真一郎	情報処理(2S), 材料力学(3S), 機械設計法(4S), 創造設計(4S), 工学実験(5S)	メカトロニクス研究	制御工学科棟3階	
	18			男 紫原					うえむらしんいちろう
	19			男 伊敷					
	20			男 国分					
	21			男 金峰	岸田一也	電磁気学(3M), 電子計算機(4S), 工学実験(4S)	テニス	専攻科棟4階	
	22			男 平成					きしだかずや
	23			男 山川					
	24			男 小瀬田					
	25			男 南指宿	室屋光宏	電磁気学(3S), 工学実験(4S), 制御機器(5S)	空手道	制御工学科棟3階	
	26			男 東谷山					むろやみつひろ
	27			男 皇徳寺					
	28			男 日当山					
	29			男 国分南	鎌田清孝	電気回路(2S), 工作実習(2S), 創造設計(3S), デジタル回路(4S), 工学実験(5S)	水泳	電気電子工学科棟1階	
	30			女 帖佐					かまたきよたか
	31			女 舞鶴					
	32			男 吹上					
	33			男 第一鹿屋	島名賢児	設計製図(1S), 工作実習(2S), 情報処理(3S), 機械工作法(3S), 工学実験(4S)	柔道	電気電子工学科棟1階	
	34			男 谷山					しまなけんじ
	35			男 大口					
	36			男 鴨池					
	37			男 内之浦	吉満真一	機械工作法(1S), 電子制御基礎(1S), 工作実習(1S), 創造設計(3S・4S), 工学実験(4S)	弓道 ワンダーフォーゲル	一般科目棟2階	
	38			男 隼人					よしみつしんいち
	39			男 国分南					
	40			女 南指宿					
	41			男 舞鶴					

(出典：電子制御工学科資料)

## 資料 7-1-①-4

日時 2006/4/6 (木) 12:12:12  
教員各位

河野@教務主事です。

10日(月曜日)から授業が開始されます。担当されている科目の最初の授業時に、担当科目のシラバスを学生に配布して説明ください。シラバスの製本ができ次第、先生方には配布いたします。

なお、シラバスの変更をされる場合は学生に周知ください。宜しく御願いたします。

鹿児島高専 電子制御工学科 教授

(出典：学生課資料)

## 資料 7-1-①-4 続き

## 揭示版

平成18年度シラバス(合冊)について 2006年4月7日 15時33分

教員各位

標記のことについて、本日納品されましたので、各人のレターケースに配布しました。

教員用に各1冊、クラス用(本科担任のみ)に各2冊配布してありますので、ご確認ください。

なお、10日(月)から授業が開始されますが、担当されている科目の最初の授業時に、担当科目のシラバスを、学生に配布して説明をお願いいたします。

また、シラバスの変更をされる場合は、学生に周知くださいますようお願いいたします。

(出典：学生課資料)

資料 7-1-①-5

○ 鹿児島工業高等専門学校教員内部組織規程

(学級担任)

第 13 条 各学科の学級に、それぞれ学級担任（以下「担任」という。）を置く。

- 2 担任は、教授又は助教授若しくは専任講師をもって充てる。
- 3 担任は、それぞれ担当する学級の教務、厚生補導及び運営に関することをつかさどる。
- 4 担任は校長が任命し、その任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(出典：規則集)

資料 7-1-①-6

## 7 章 学級担任と学年主任に関すること

### 7-1. 学級担任

#### 1. 学級担任の配置

各学科の学級に、それぞれ学級担任を置き、教授又は助教授若しくは専任講師をもって充てる（教員内部組織規程第6条第1項、第2項）。

#### 2. 学級担任の職務

学級担任は、それぞれ担当する学級の教務、厚生補導及び運営に関することをつかさどる（教員内部組織規程第6条第3項）。

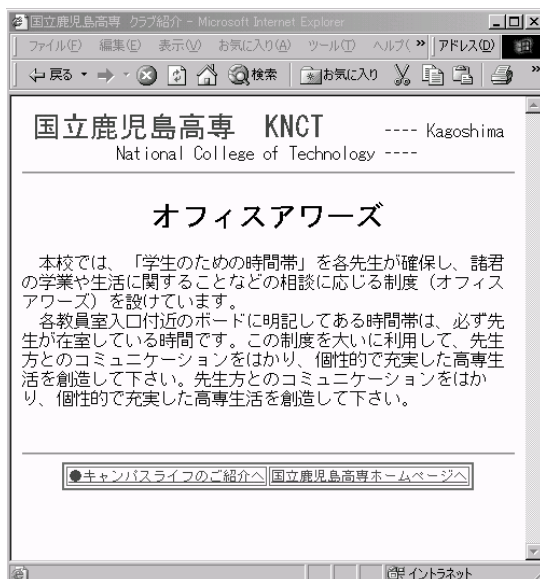
#### 3. 日常業務

##### (1) ショートホームルーム

個々の学生の日々の実態把握と指導、学級全体の実態把握と指導、行事等の伝達を円滑に行なうことを目的として、低学年（第1学年から第3学年）ではショートホームルームを実施する。第4学年と第5学年については、担任が必要と認める場合に実施する。

(出典：教務の手引き 18頁)

資料 7-1-①-7



### 機械工学科

教員氏名	教員室	曜日	時間帯
池田 英幸	機械工学科棟3F	月、火	9限目
江崎 秀司	機械工学科棟2F	月、金	17:00~18:00
椎 保幸	機械工学科棟3F	火	13:15~15:15
		木	09:00~12:00
田畑 隆英	機械工学科棟2F	月、火	17:00~18:00
中島 正弘	機械工学科棟3F	木、金	7限目
南金山裕弘	機械工学科棟3F	火、水	16:05~17:30
引地 力男	機械工学科棟1F	水、木	17:30~18:30
		月	16:00~17:00
三角 利之	機械工学科棟2F	金	17:00~18:00
		月、金	17:00~18:00
持原 稔	機械工学科棟1F	月、金	17:00~18:00
山本桂一郎	土木工学科棟3F	月、木	17:00~18:30

(出典：ウェブページ)

資料 7-1-①-8

## 学生何でも相談室 相談員

平成16年度

	所 属	氏 名
室 長	情報工学科	堂込 一秀
相談員	一般教育科文系	松田 忠大
相談員	一般教育科理系	三原 めぐみ
相談員	情報工学科	入江 智和
相談員	土木工学科	池田 正利
相談員	学生課	有薊 俊子
相談員	退職教員	桐野 弘城
相談員	退職教員	新保 利和
相談員	退職教員	森 隆
カウンセラー	非常勤	平川 忠敏
カウンセラー	非常勤	森岡 玲子
相談補助員	保健室	南田 直子

平成17年度

	所 属	氏 名
室 長	情報工学科	堂込 一秀
相談員	一般教育科文系	松田 忠大
相談員	一般教育科理系	三原 めぐみ
相談員	情報工学科	入江 智和
相談員	土木工学科	池田 正利
相談員	学生課	有薊 俊子
相談員	退職教員	桐野 弘城
相談員	退職教員	新保 利和
相談員	退職教員	森 隆
カウンセラー	非常勤	平川 忠敏
カウンセラー	非常勤	森岡 玲子
相談補助員	保健室	南田 直子

(出典：学生何でも相談室資料)

資料 7-1-①-9

## 学生何でも相談室 主な相談内容

平成16年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	3	8	2	2		3	0	5	2	12	5	3	45
時間	300	405	140	125		120	0	180	65	180	290	130	1935
学生生活	1	6		1		1		5	1			1	16
学業		2	1	1		1				10	3		18
対人関係											1		1
健康													0
進路	2		1			1			1	1		2	8
その他										1	1		2

平成17年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	3	3	11	2	2	5	8	7	6	6	10	2	65
時間	235	105	365	180	115	290	1180	1160	860	1920	2280	480	9170
学生生活	2	1	6		2	3	1						15
学業		1	5	1			6	7	6	4	6		36
対人関係						1							1
健康				1									1
進路	1	1				1	1				1		5
その他										2	3	2	7

単位 時間以外：件  
時間単位：分

(出典：学生何でも相談室資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程及び専攻科課程の双方において、入学時のガイダンス、シラバスを用いた授業のガイダンスなどを行う体制が整備され、適切に実施されている。また、学生の自主的学習を進める上では、担任、特別研究指導教員による相談・助言体制が整備され、機能している。さらに、オフィス・アワーや学生相談室も、学生の相談を受け付け適切な助言を行う体制として機能している。

**観点7-1-②： 自主的学習環境（例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる。）及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。**

(観点に係る状況)

(a) 自学自習スペース

本校における自主的学習スペースとして学生が利用できる施設には次のものがある。

①図書館

本校の図書館利用案内は資料7-1-②-1に示すとおりである。学生が、授業終了後20:00まで、また土曜日も開館し、自主的学習スペースとして利用できるようにしている。自主学習に配慮した館内配置をとり、パソコンなどの設備も整えられている(資料7-1-②-2)。図書館の利用者は、一日当たり300人程度である(資料7-1-②-3)。

②情報教育システムセンター

情報教育システムセンターのパソコン室は資料7-1-②-4に示すとおりであり、利用時間・設備とも学生の自主的学習に対応できるよう整備されている。また、情報棟パソコン室(パソコン46台設置)も平日8:30~17:00の時間帯でそれぞれ利用可能となっている。情報教育システムセンターのパソコン室の利用者数は、一日あたり約30人程度(資料8-1-②-8参照)である。

③教室

本校では、学科学年ごとにホームルームとして教室が割当てられている。これらの教室は、休み時間、放課後は自由に開放されている。

④専攻科共用教室・ゼミ室

専攻科課程の学生は、専攻科棟の共用教室及びゼミ室が、自主的学習スペースとして開放され、必要に応じて利用されている。

(b) 厚生施設・コミュニケーションスペース

学生のための福利厚生施設として厚生会館があり、食堂及びホールなどのコミュニケーションスペースがある(資料7-1-②-5)。この他、専攻科棟2階のリフレッシュコーナーなどが、休み時間や昼食時間に利用されている(資料7-1-②-6)。



## 観点 7-1-②資料一覧

(資料 7-1-②-1) 図書館利用案内	出典：ウェブページ
(資料 7-1-②-2) 図書館配置図	出典：学生課資料
(資料 7-1-②-3) 入館者数の推移	出典：学生課資料
(資料 7-1-②-4) 情報教育システムセンターの設備	出典：情報教育システムセンターパンフレット
(資料 7-1-②-5) 厚生会館図面	出典：平成18年度学生便覧
(資料 7-1-②-6) 専攻科棟施設概要	出典：専攻科パンフレット

資料 7-1-②-1

図書館概要

http://www.kagoshima-ct.ac.jp/~tosho/intro-lib/

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 検索 お気に入り アドレス http://www.kagoshima-ct.ac.jp/~tosho/intro-lib/ 移動

●MENU

- ⇒トップページ
- ⇒利用案内
- ⇒蔵書検索・リクエストサービス(OPAC)
- ⇒OPACの使い方について
- ⇒図書館カレンダー
- ⇒図書館配置図
- ⇒新着図書
- ⇒購入希望図書の紹介
- ⇒学生用配架雑誌
- ⇒図書館だより
- ⇒図書館サービス
- ⇒鹿児島高専研究報告投稿要領
- ⇒「図書購入依頼等手続き」についてのマニュアル
- ⇒コピー機利用
- ⇒更新履歴

鹿児島高専ホームページへ

## 利用案内

◆ **開館時間**

月～金 8:30～20:00  
土 9:00～17:00

☐ 休業期間 (夏季休暇、冬季休暇、春季休暇) 中

月～金 8:30～17:00

◆ **休館日**

日曜日 (ただし、休業期間中は土曜日、日曜日)  
国民の祝日  
年末年始 (12月29日～1月3日)

※上記以外を休館にする際には、予め本ホームページ及び館内掲示板によりお知らせいたします。

◆ **貸出冊数および、期間**

(図書)

★ 本校学生	・・・	5冊まで、2週間
★ 本校学生(卒研用)	・・・	5冊まで、90日間
★ 本校教職員	・・・	10冊まで、30日間
★ 一般利用者	・・・	5冊まで、2週間

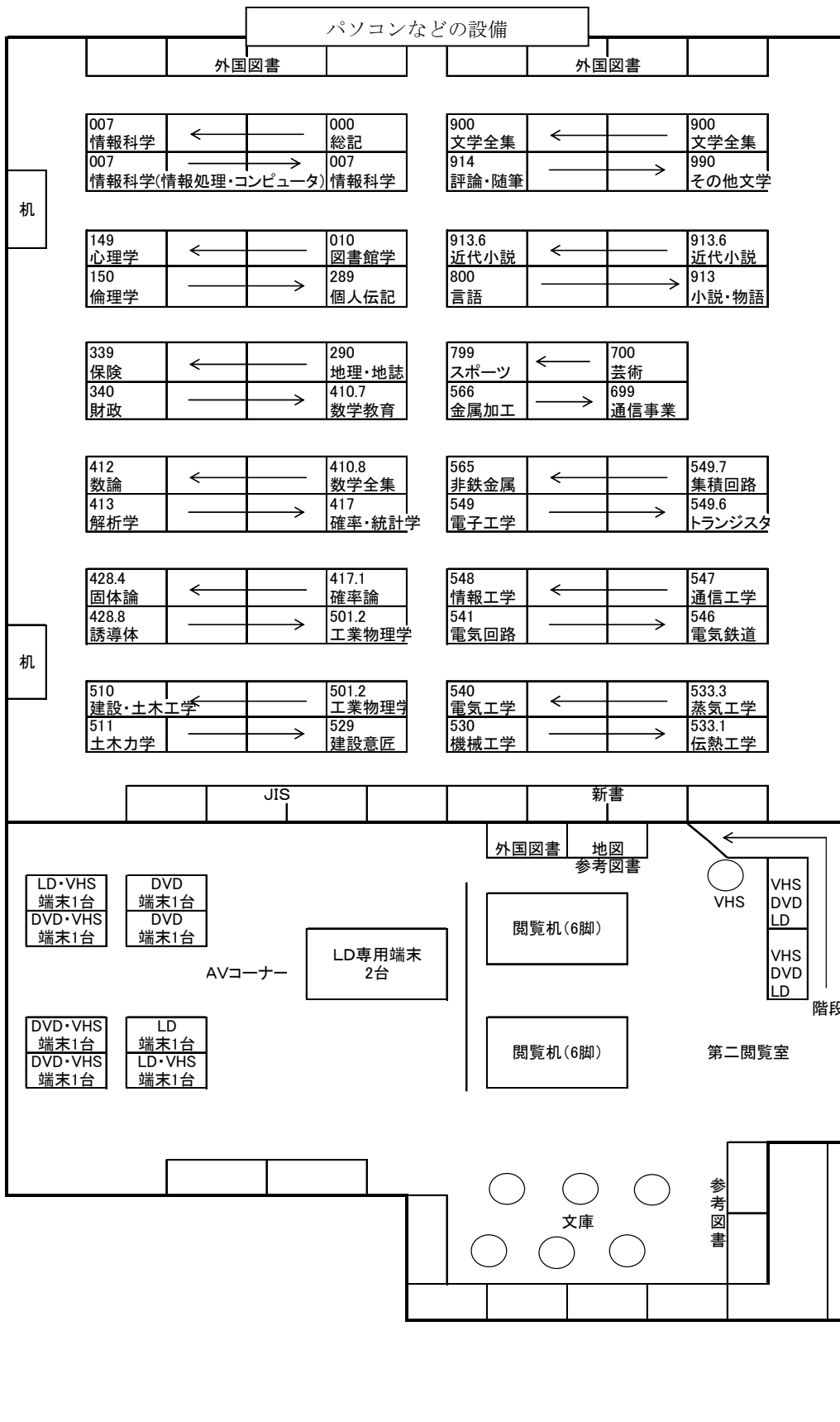
(禁帯出図書)

本校学生 教職員 卒業生

インターネット

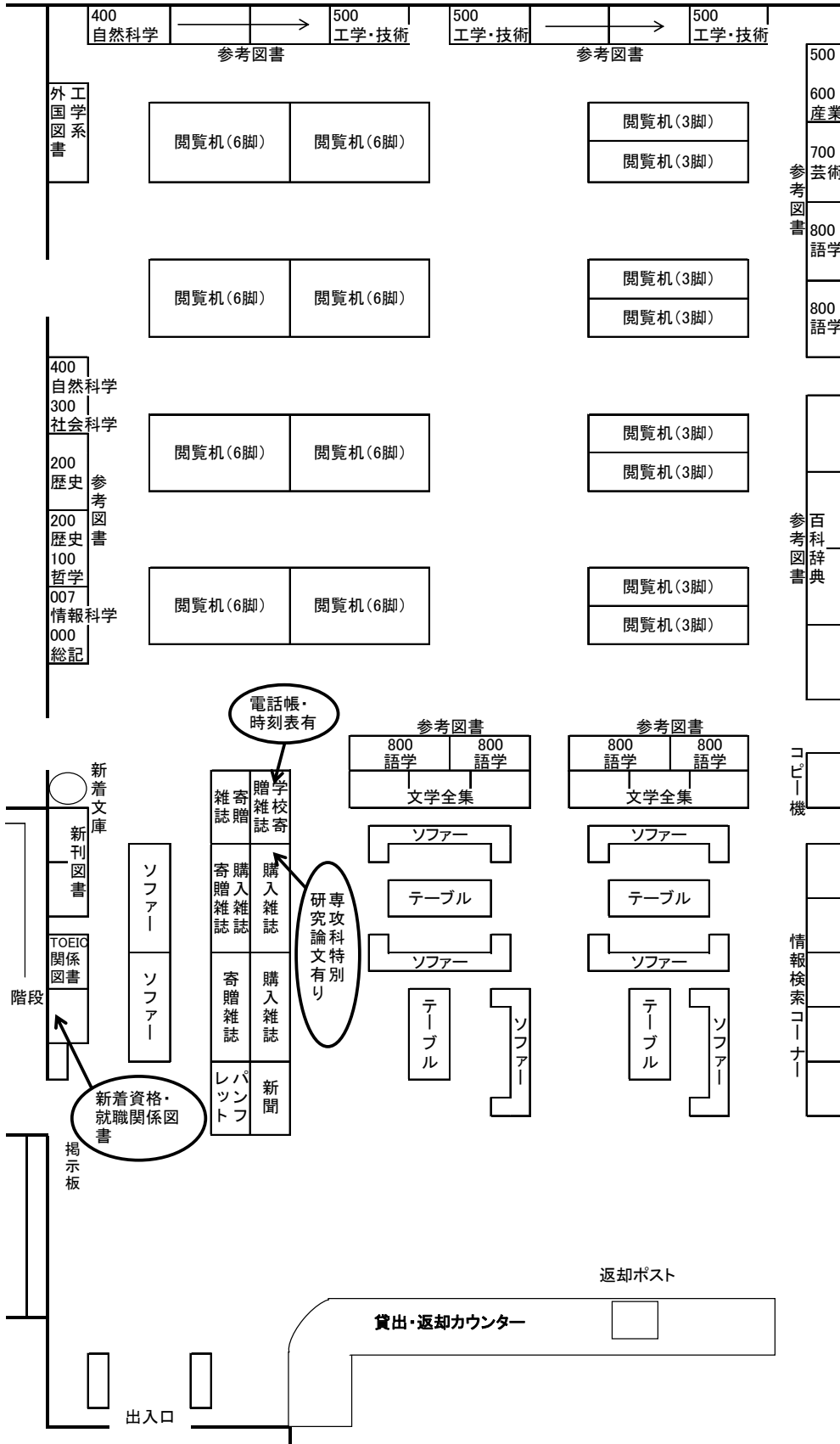
(出典：ウェブページ)

資料 7-1-②-2



(出典：学生課資料)

資料 7 - 1 - ① - 2 続き



(出典：学生課資料)

## 資料 7-1-②-3

## 入館者数の推移(平成13年度～平成17年度)

年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
入館者数	100809	104476	105161	81708	77193
開館日数	277	288	294	282	283
1日当たり入館者数	364	363	358	290	272
土日入館者数(内数)	5559	6962	6871	4609	3227
土日開館日数(内数)	31	45	47	40	37
1日当たり入館者数	179	155	146	115	87

(出典：学生課資料)

## 資料 7-1-②-4

## ■ 情報教育システムの設備について

中央電子計算機室には、教育用のコンピュータ・システムのワークステーション、およびデュアルブートパソコンが設置されており、UNIX及びWindowsによる情報処理教育がクラス単位で実施されています。また、他の場所にはWindows XP, 98端末室があります。本校では、これらのコンピュータ・システムと、各学科のEWS、ミニコン、パソコン等をネットワークで結んでおり、学内のあらゆる場所から目的とするコンピュータを利用することが可能になっています。更に、この学内のネットワークは、学外のネットワーク（学術情報ネットワーク：SINET）を通じて国内のみならず、世界のコンピュータネットワークと結合されています。これにより、本校の教職員や学生は、世界中と情報のやりとりを行うことができます。特に留学生には喜ばれています。

## ■ サーバールーム

教育用の副サーバ4台を含む総計20台のUNIXマシンにより、学内のネットワークの管理計算処理を行っています。本校の情報ネットワークの心臓部にあたります。

## 副サーバ

システム	
機種名	HITACHI HA8000/70W
プロセッサ	PentiumIII 1.4GHz
内蔵メモリ	2Gbytes
OS	Linux



サーバールーム

## ■ 情報処理演習室(Windows XP, Linux)

総計45台のデュアルブートパソコンが配置されており、授業で使用されています。休み時間や放課後などに利用することもできます。

システム	
機種名	HITACHI FLORA330W
プロセッサ	Pentium4 2GHz
内蔵メモリ	256MB
ディスプレイ	17CRT(1280×1024 256色, トリニトロン準拠)
ソフト	Office XP, 一太郎12c, Pascal, Fortran



情報処理演習室

## ■ 準備室

B0プロッターやレーザーカラープリンタ等が置かれ、学会や卒業研究の発表に使う資料の作成に役立っています。



レーザーカラープリンタ

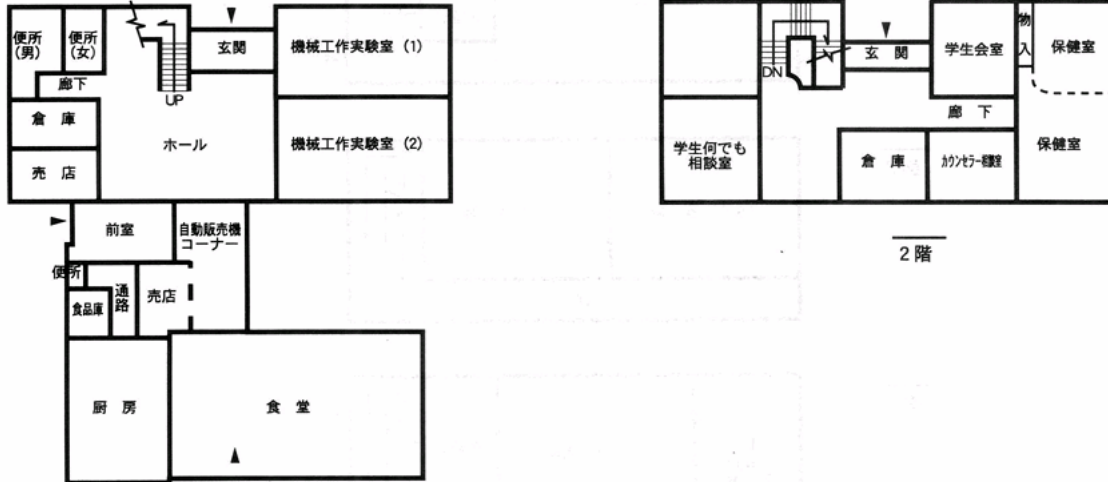


B0プロッター

(出典：情報教育システムセンターパンフレット)

資料 7-1-②-5

### ⑮ 厚生会館

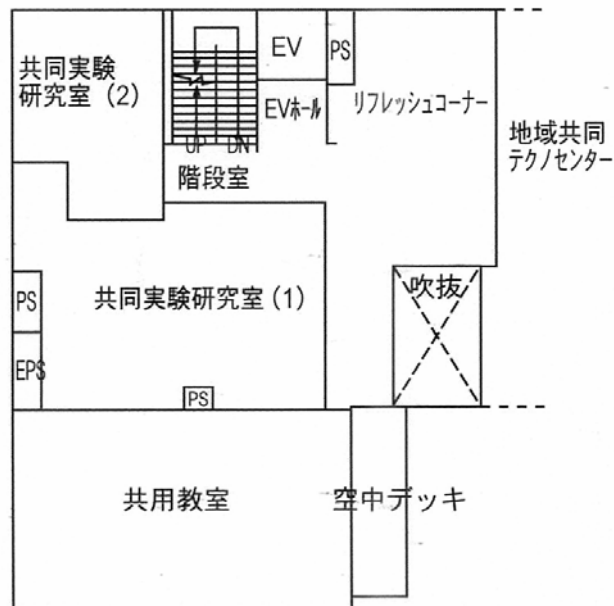


(出典：平成 18 年度学生便覧 227 頁)

資料 7-1-②-6

## 専攻科棟施設概要

2階平面図



(出典：専攻科パンフレット)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、自主的学習スペースとして、図書館・情報教育システムセンター、教室・ゼミ室等が整備されている。これらのうち、図書館については、1日約300人の入館者がある。また、情報教育システムセンター、教室等が効果的に利用されている。さらに、厚生会館も整備され、休み時間等に学生が利用している。このことから、本校では、自主的学習環境及び厚生施設などが整備され、効果的に利用されていると判断される。

**観点7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。**

(観点に係る状況)

FD委員会による「学生による授業評価アンケート」を年2回実施しており、アンケートの中の自由記述欄を利用して学生らは様々な要望等を伝えることが出来る（資料7-1-③-1）。これまでに資料7-1-③-2に示されるように授業の補講実施の要望が出され、試験期間前の補講が実施されている（資料7-1-③-3）。その他、各授業科目に関連する資格試験等について、担当教員が学生の要望を受け、受験にあたっての学習支援等も必要に応じて行っている（7-1-③-4）。

#### 観点7-1-③資料一覧

(資料7-1-③-1) 記述式回答用紙(授業評価アンケート)	出典：FD委員会資料
(資料7-1-③-2) 平成17年度後期記述式アンケート抜粋	出典：FD委員会資料
(資料7-1-③-3) 平成17年度後期末試験補習実施まとめ	出典：学生課資料
(資料7-1-③-4) 資格試験 学習支援の内容	出典：学生課資料

## 資料 7 - 1 - ③ - 1

## 記述式回答用紙(授業評価アンケート)

鹿兒島高専	学年	M、E、S、I、C	氏名
-------	----	-----------	----

校長も目を通します。後日詳しい話を聞くことがあるかも知れませんので、できるだけ氏名も記入して下さい。  
記述式回答はすべてフープロ文書に変換し、記名の有無を付加して無記名で担当教員に渡されますので、筆跡から名前が分かることはありません。

教科名:	担当者名:

教科名:	担当者名:

教科名:	担当者名:

\* 追加用紙が必要な場合は申し出て下さい

(出典：FD 委員会資料)

## 資料 7 - 1 - ③ - 2

## H17後期記述式アンケート抜粋

授業がわからないのもっとわかりやすい授業をしてほしい。補講もしてほしい。このままだと赤点で単位とれない人が多数いると思います。

テスト前に何度も補講を行ってくれて、わからないところを何度も教えてくれた。

教え方は、うまいと思うけど、いまいち理解できない。授業中に、もう少し頭のできぐあまり良くない人のために復習の時間を増やしてもらいたい。テスト前に補講なども開いて欲しい

テスト期間の時に補講をしてほしい。

情報処理室で、もっとパソコンを使う授業をしてほしい。テストで出る問題を補講してほしい。

(出典：FD 委員会資料)



## 資料7-1-③-3

平成17年度 後期末試験補習実施まとめ				H18.4 担当 岸田			
種別	教員名	日時	場所	対象学年	対象科目	参加人数	コメント
1 補習	蛭嶋原先生	2月6日(月) 7~8時間目	L.L教室	4M、21学生(2M5名、215名、合計10名出席)	英文法	10	後期末試験範囲を教科書を中心に総復習した。各課の練習問題を何も見ないで解かせて間違ったところについて質問を受けるやり方で実施した。積極的に質問が出て、それに対応した。既習箇所の復習ができて期末試験対策ができたと思う。
2 補習	引地先生	1月30日 8、9時限	3M教室	3M	情報処理	17	受講生はみな熱心であった。
3 補習	引地先生	2月6日 8、9時限	3M教室	3M	情報処理	15	受講生はみな熱心であった。
4 補習	塚崎先生	2月15日(水) 8時限	階段教室	1年生	英語I	40	
5 補習	中島先生	2月9日、8時限	4M教室	4M	流体工学	35	学年末試験範囲の演習を行った。「強制ではない」と言ったが、ほぼ、全員、補講に出席した。いずれも熱心に取り組んでいた。
6 補習	中島先生	2月16日、8時限	4M教室	4M	流体工学	36	
7 補習	桑島先生	2月3日 7、8時限	4E教室	4E	電気回路II	27	いつものようにまじめに受けていました。
8 補習	桑島先生	2月14日 7、8時限	3E教室	3E	電気回路I	32	いつも以上にまじめに受けていました。
9 補習	岸田先生	2月20日 13:10~14:40	3M教室	3M	電磁気学	19	
10 補習	北藤先生	1/30、1/31、2/2、2/6、2/7、2/9、2/13、2/14	1S教室、寮多目的ホール	1S	国語、基礎数学III	延べ124	本クラスで赤点の多かった国語と数学基礎IIIに的を絞り、その教科赤点者は強制。その他の学生には自由参加を募った。
11 補習	あべ松先生	2月8日 8時限	旧3I教室	3年生	英語I	20	
12 補習	あべ松先生	2月15日 9時限	情報棟合併教室	2年生	英文法	6	
13 補習	丸山先生	2月13日 16:00~17:30	視聴覚教室	1年生	物理	80	概ね熱心に受講し、個別質問もあった。
14 補習	丸山先生	2月14日 16:00~17:15	階段教室	3年生	応用物理	25	熱心に受講していた。
15 補習	山内先生	2月17日(金) 13:00-14:00	情報棟3階パソコン	3C	情報処理2	10	
16 補習	山内先生	2月21日(火) 11:40-12:40	3C教室	3C	情報処理2	25	
17 補習	小迫先生	2月1日 7時限、2月15日 7時限、2月22日 4時限	2E教室	2E	電気回路I	延べ65	みな良く勉強に取り組んでいた。補習に出席した学生は、全員最後の試験はパスしました。
18 補習(専攻科)	宮田先生	2月13日(月) 8、9時限	専攻科4Fゼミ室	AMS1	計測制御工学	11	測制御工学、2/13試験予定でしたが、学生が2/17金曜日を希望し、変更可能でしたので、2/17金に変更しました。そのため、2/13の78限は時間が空きましたので、希望者には、計測制御についての質問などに対する補講をすることにしました。なお、補講ですので授業日数に入らず、参加者も希望者ということで、設定しました。
19 質問応答	原田先生	2月13日、17日 いずれも40分	教員室	3M	電磁気学	13日は2名、17日は3名	授業中に何度も説明している基本的なことがわかっていない。欠課時数の多い学生が来てわからないと言うので、「もっと早く聞きに来なさい」と言って説明しましたが、これには閉口します。
20 再評価補習	疋田先生	平成18年1月21日(土)、9:00-12:00	4C教室	4C	水理学II	4	前期に実施して60点以下だった学生を対象に、定期試験(24回)の内容について勉強。真面目。皆、熱心でした。

(出典：学生課資料)

資格試験	学習支援の内容	
	受験案内、ガイダンス	補講に関して
電気主任技術者国家試験	主に授業時や特活時に行うほか、個別の質問にも対応しています。	主に個別指導の形で補講するほか、人数がまとまれば講義スタイルでも行います。本年度は、申込書を科でまとめて取り寄せ、科として補講・勉強会を計画しています。
土木施工技術者試験 (H18 2級施工管理技術者試験)	授業中に行っています。	毎年行っています。放課後10時間程度行っています。 平成16年度16人受験で全員合格 平成17年度18人受験で11人合格
ドイツ語検定3級 ドイツ語検定4級	ドイツ語の授業(4年、5年)で、春と秋の各時期に行っています。	補講は受験前の2ヶ月くらい、毎週1~2回2コマくらい、直前はさらに増やして行っています。週2回になるのは受講者の時間が合わないために分けて行うためです。 H16年度は14名受験して12名合格 H17年度は12名受験して12名合格
実用英語技能検定 工業英語能力検定	中央掲示板に受験案内・願書を配置します。 校内アナウンスで知らせることもあります。	・ 前もって希望者には資料等を配布しております。 ・ 試験2週間程前から開講しております。
情報処理技術者試験	毎年1月と7月の2回、情報処理技術者試験センターから願書を200冊、私費で取り寄せています。到着後、情報工学科の全学生に授業中に配布し説明をしています。ちなみに、私が授業を担当していない学年は、協力者の先生に配布を依頼しています。他学科の希望者は、申し出があった時に配布しています。ポスターは、私ではなくて学生課あるいは学科長へ送付されてくるので、掲示はお任せしています。	補講を希望する学生が申し出てきたときに実施しています。最近3年間では2回実施しました。
デジタル検定	検定協会から送られてきている受験案内のポスターを学内に掲示している。	これまで、受験前に3級試験のみについて2回ほど補講を行ってきたが、年々受講者数は減り、昨年は、1回目3名、2回目0名であった。今年は、補講の予定はない。質問者に対して、個別に対応する予定である。
ボイラー技士免許	2級ボイラ技師の資格試験を受験するには、ボイラ実技講習を受けておく必要があります。そこで、添付ファイルに示すように実技講習会の案内(平成17年度)を学生に配布し、私のほうで受講申請をとりまとめて、実技講習のサポートを行っています。また、資格試験の申請書についても、私の方でとりまとめ、ボイラ協会の方に申請しています。	資格試験の補講については、とくに時間をきめてやっではありませんが、学生にテキストの紹介等のアドバイスはしております。

(出典：学生課資料)

## 資料7-1-③-4 続き

資格試験	学習支援の内容	
	受験案内, ガイダンス	補講に関して
TOEIC	受験案内を掲示板や教員室の近くに掲示したり、受験申込書を図書館2階に常備したりしています。3/4年生:授業の中で一部TOEIC用の教材を使用しています。将来受験する旨を4月の開講時や普段の授業中に触れ、指導しています。5/専攻科生:4月のオリエンテーションで学内のTOEIC IPのスケジュールについて説明すると共に、県で行なわれるTOEICの日程や受験方法等についても説明します。	3-5年生ではTOEIC対策の教材を使用し、授業の中で指導を行なっています。専攻科生については、TOEIC400点以下の学生に対し特別補講を実施しました。専攻科1年生では「総合英語」にTOEIC対策の教材を盛り込み、指導を行なっております。その他、質問は随時受け付けており、各指導教員が個別に学生の指導に当たっていると聞いております。
第1級陸上無線技術士 第2級陸上無線技術士	特になし	特になし
乙種第4類危険物取扱者試験	毎年、乙種第4類危険物取扱者試験は第1回目は6月中旬、第2回目は11月中旬の2回行われる。毎年度当初に、各クラス担任を通じて第1回目の試験案内を行う旨全学生に連絡し、受験希望学生全員を対象として、資格試験の内容、取り組み方および申込書の配布を行っている。なお、第2回目の受験案内は第1回目同様、各クラス担任を通じて試験日程等を連絡するとともに、申込書の配布を行っている。	3年ぐらいまでは、放課後に授業を行っていたが、クラブ等に出席できないなどの理由で受講者が少ないことから行っていなかったが、平成17年度に電子メールによる補講を試みている。

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、学生の学習支援に関するニーズを、年2回実施される授業評価アンケートにおいて把握している。これまでに出示された学生のニーズとして補講の要望があり、これに対応して補講を行っている。また、各授業担当教員は、関連する資格試験等について学生のニーズを直接把握し、個別に対応している。このことから、本校では、学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されている。

**観点7-1-④： 資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。**

(観点到に係る状況)

資格試験及び検定試験の奨励、支援の一環として、準学士課程においては、特別学修の単位認定がある(資料7-1-④-1)。各授業科目に関連する資格試験等について担当教員が授業において、学生の要望を受け、受験にあたっての学習支援等も必要に応じて行っている(7-1-③-4参照)。また、英語特別学習単位取得の支援の一環として、学内で、TOEIC BRIDGE(3年次)、TOEIC IPテスト(5年次)を、後援会から財政支援を受け、全員無料で受験させている。なお、ボイラー資格の取得には、学外での講習が必要とされているため、公欠扱いとするなどの支援もしている(資料7-4-④-2)。

外国留学に関しては、留学先で修得した単位を本校の規則に従って認定している(資料7-1-④-3, 4)。また、海外の3つの大学と国際交流協定を結んでおり、ホームステイ・インターンシップ等、学生の海外研修を支援している(7-1-④-5~7)。

## 観点 7-1-④ 資料一覧

(資料 7-1-④-1) 技能検定等合格に係る単位認定に関する内規	出典：平成18年度学生便覧
(資料 7-1-④-2) 公欠報告 (ボイラー)	出典：学生課資料
(資料 7-1-④-3) 単位認定	出典：規則集
(資料 7-1-④-4) 単位認定例	出典：平成15年度第5回教務委員会議事要旨
(資料 7-1-④-5) 釜山情報大学との交流協定 (更新)	出典：釜山情報大学との国際交流協定書の更新
(資料 7-1-④-6) カセサート大学との交流協定	出典：カセサート大学との国際学術交流協定書
(資料 7-1-④-7) 南京航空航点大学機電学院との交流協定	出典：南京航空航天大学機電学院との国際学術交流協定書

## 資料 7-1-④-1

## 技能検定等合格に係る単位認定に関する内規

**第1条** 学則第14条第2項の別表第1に規定する特別学修A及び別表第2に規定する特別学修Bは、鹿児島工業高等専門学校が適当と認める技能検定について、教員の指導のもとに学習し、合格した者に対して単位の修得を認定する。資格、認定単位数等は別表第1特別学修A、別表第2特別学修Bに掲げるとおりとする。

**第2条** 前条の規定する特別学修A・Bのいずれかに合格等したことにより、単位の認定を受けようとする者は、技能検定合格等による特別学修A・B単位認定申請書 (別紙様式) に、合格したことを証明する書類を添えて、校長に申請しなければならない。

2 前項の規定による申請は、毎年2月に行うものとする。

**第3条** 前条の規定による申請があったときは、校長は教務委員会において確認し、本校における授業科目の履修とみなし、修得単位として認定する。

2 技能検定合格等は、すべて本校在学中の取得に限る。

3 同一検定等で、複数の級に合格等した場合は、上位の級に対応する単位数とする。

4 既に単位を修得していて、新たに同一試験の上位の級に合格等した場合は既に修得している単位との差の単位数を認定する。

**第4条** 学則第32条第1項に規定する文部科学大臣が定める学修 (以下「特別学修C」という。) 及び認定単位数は、別表第3特別学修Cに掲げるとおりとする。

**第5条** 前条に規定する単位の認定を受けようとする者は、技能検定合格等による特別学修C単位認定申請書 (別紙様式) に、合格したことを証明する書類を添えて、校長に申請しなければならない。

2 前項の規定による申請は、毎年2月に行うものとする。

(出典：平成18年度学生便覧 149頁)

## 資料 7-1-④-1 続き

別表第1 特別学修A

名称・資格・得点	単位数	表記	備考
TOEIC	850点以上	6	TOEIC
	700-849	4	
	500-699	2	
	400-499	1	
ドイツ語検定	3級	2	独語検
	4級	1	
法学検定	4級	2	法学検
教養講座 I			詳細は別途定める

別表第2 特別学習B

名称・資格・得点	単位数	表記	備考	
技術士第一次試験	4			
危険物取扱者試験 乙種第4類	1			
陸上無線技術士	1級	4	陸上無線技術士	
	2級	2		
電気主任技術者 国家試験	2種	4	電気主任	
	3種	2		
ボイラー一技士	2級	1	ボイラー	
工事担任者試験	アナログ第3種	1	工事担任者	
	デジタル第3種			
情報処理技術者試験	テクニカルエンジニア (全区分)	3	情報処理	
	上級システムアドミニストレータ	2		3科目中1科目選択
	ソフトウェア開発技術者			
	情報セキュリティアドミニストレータ			
初級システムアドミニストレータ	1	2科目中1科目選択		
				基本情報技術者
土木施工技術者試験	1	土木施工		
教養講座 II			詳細は別途定める	

(出典：平成18年度学生便覧 151頁)



資料 7-1-④-1 続き

別表第 3 特別学修 C

名称・資格・得点	単位数	表記	一般科目・専門科目の別備考
実用英語技能検定	1級	実用英検	一般科目
	準1級		
	2級		
工業英語能力検定	1級	工業英検	一般科目
	2級		
	3級		
日本漢字能力検定	1級	漢字検定	一般科目
	準1級		
	2級		
	準2級		
デジタル技術検定	1級	デジタル	専門科目 3級は3年次までの 合格に限る
	2級		
	3級		

(出典：平成 18 年度学生便覧 152 頁)

資料 7-1-④-2

校長 教務主事 学生主事 学生課長 専門員 教務係長 学生係長 専門職員 係

鹿児島工業高等専門学校 校長 殿

教官名 三 角 利 之 (印)

関 係 ホイロー技術講習担当

先に許可された公欠は、下記の通り、実施しましたので報告します。

報告日時 平成 19 年 6 月 27 日

公欠の事由	二種ホイロー技術完成講習のため		
行き先(場所)	サン・あむり(算人町)		
引率者	三 角 利 之		
該当者名	年 組	内 容 選手補欠等	公 欠 の 期 間 (日 時 ・ 時 限 等)
山田 太郎	2E	マネージャー	5月30日3限～6月1日4限
	3A		6月21日～6月22日
	3A		〃
	3A		〃
	3A		〃
	3A		〃
	3A		〃
	3A		〃

(出典：学生課資料)

資料 7-1-④-3

○ 鹿児島工業高等専門学校学則

第 6 章 入学、転学科、休学、退学、転学及び留学

(留学)

第 27 条 校長は教育上有益と認めるときは、学生が外国の高等学校又は大学に留学することを許可することができる。

2 校長は、前項の規定により留学を許可された学生について、外国の高等学校又は大学における履修を本校における履修とみなし、30 単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。

3 校長は、前項の規定により単位の修得を認定された学生について、学年の途中においても、各学年の課程の修了又は卒業を認めることができる。

4 前 3 項に関し必要な事項は、別に定める。

(出典：規則集)

資料 7-1-④-4

○平成 15 年度第 5 回教務委員会議事要旨

日 時：平成 15 年 7 月 8 日 (火) 15:30～16:45

場 所：第一会議室

【審議事項】

1. ●●●●君 (3 I) の単位認定について

主事から、●●●●君 (3 I) に係る米国シルバートン高校の単位について、学則第 27 条第 2 項に基づく外国留学における単位認定を審議願いたいと提案があった。成績証明書の資料に基づき確認したところ、同高校では 180 h が 1 単位なので、これを本校の 6 単位に換算し、同高校での取得単位を 27 単位だけ認めることが承認された。これにより、●●君は本校入学後合計 94 単位を取得したことになるので、退学願の提出があれば、3 年課程修了になるとの説明があった。

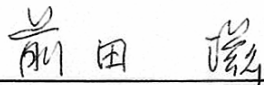
(出典：平成 15 年度第 5 回教務委員会議事要旨)

鹿児島工業高等専門学校と釜山情報大学との交流に関する  
協定の更新について

1999年12月23日付けで締結された、鹿児島工業高等専門学校と釜山情報大学との間における協定に関し、協定書第5条に基づき、同協定を2004年12月24日から5年間継続することとして更新する。

2004年12月13日


鹿児島工業高等専門学校長



前田 滋

2004年12月17日

釜山情報大学長



KANG, KI SUNG

(出典：釜山情報大学との国際交流協定書の更新)

## 鹿児島工業高等専門学校とカセサート大学との国際学術交流協定

鹿児島工業高等専門学校とカセサート大学（以下「両校」という。）は、学術・教育の交流を推進するために、この協定を締結する。

第1条 両校は、下記の学術・教育交流活動を奨励し、実施することに同意する。

- (1) 教職員の交流
- (2) 学生の交流
- (3) 学術・教育に関する共同研究及び交流
- (4) 学術出版物等の交換

第2条 両校は、上記の事項の推進に当たっては、相互に相手校の規則並びに制度を尊重し、十分協議を行い、合意の上実施する。

第3条 上記の事項の推進に当たり、交流活動に伴う各自の必要経費は、それぞれの学校がその予算で負担するものとする。

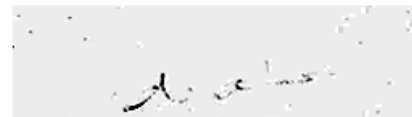
第4条 両校は、この協定に基づく学術・教育の交流については、必要に応じて協議し、覚書を交わして実施する。

第5条 この協定は、両校の代表者が署名した日から効力を発する。協定の修正または廃棄は、必ず両校の協議により行われる。両校は、交流の進捗を評価し、その質を高めるために、5年おきに協定を検討するものとする。

第6条 この協定は日本語、タイ語及び英語で作成され、全ての文書は等しく正文である。

前田 滋

鹿児島工業高等専門学校長  
工学博士 前田 滋  
2002年11月15日



カセサート大学長  
Viroch Impithuksa, Ph.D.  
2002年 月 日

(出典：カセサート大学との国際学術交流協定書)

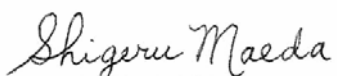



AGREEMENT FOR ACADEMIC AND EDUCATIONAL EXCHANGE PROGRAMS  
BETWEEN  
KAGOSHIMA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY  
AND  
COLLEGE OF MECHANICAL & ELECTRICAL ENGINEERING,  
NANJING UNIVERSITY OF AERONAUTICS & ASTRONAUTICS

Kagoshima National College of Technology and College of Mechanical & Electrical Engineering, Nanjing University of Aeronautics & Astronautics have agreed to promote academic and educational exchange between the two institutions as follows.

1. The two institutions agree to encourage and operate the following academic and educational activities:
  - (1) Exchange of faculty members and staffs;
  - (2) Exchange of students;
  - (3) Joint research activities and conferences for academic and educational purposes;
  - (4) Exchange of academic publications.
2. Before these activities can be implemented, the two institutions shall discuss in detail the procedures and preparations, paying attention to each other's educational policy, rules and institutional system. Programs shall be implemented only after approval of both institutions.
3. In conducting the exchange program, all the necessary expenses required by each institution, shall be covered by each respective institution.
4. All the academic and educational exchange activities shall be preceded by the exchange of memoranda between the institutions. They shall also discuss the details whenever necessary.
5. This agreement shall become effective as of the dates of signature by representatives of both institutions. This agreement will not be amended or terminated without deliberation between the two institutions. Both institutions agree that this agreement shall be reviewed every five years in order to evaluate progress and improve the quality of the exchange.

In witness of the above, two sets of Agreement are issued in English and each side shall retain one copy.

  
\_\_\_\_\_  
Shigeru Maeda, Dr. Eng.  
President  
Kagoshima National College of Technology

  
\_\_\_\_\_  
Di Zhu, Dr. Eng., Prof.  
Dean  
College of Mechanical & Electrical Engineering  
Nanjing University of Aeronautics & Astronautics

Date: Nov. 12, 2003

Date: Nov. 12, 2003

(出典：南京航空航天大学機電学院との国際学術交流協定書)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、資格試験や検定試験の合格者には所定の単位を認定している。また、資格試験等によっては、受験希望者に対して、受験案内や手続き、受験勉強の支援等を行っている。特に、英語に関しては、TOEIC BRIDGE、TOEIC IPテストを後援会から財政支援を受けて、学内で実施している。外国留学に関しては、留学先で修得した単位を、本校の基準に則って単位を認定している。また、海外の大学との国際交流協定を結んでおり、学生の海外研修を支援している。

このことから、本校では、資格試験や検定試験受講などの支援体制が整備され、機能している。

**観点7-1-⑤： 特別な学習支援が必要な者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）がいる場合には、学習支援体制が整備され、機能しているか。**

(観点に係る状況)

準学士課程4年次編入生に対しては、数学の学力を補うために、一般教育科理系（数学科）で適宜補講を実施している（資料7-1-⑤-1）。

留学生については、学習支援や生活支援のために、学級担任を指導教員として割り当て、また、日本人学生をチューターとして割り当てている（資料7-1-⑤-2, 3）。また、留学生に対しては、日本語や日本語事情など語学文化に関する教科や数学の補講を実施し、さらに専門科目についても必要に応じて補講を実施している（資料5-1-②-10参照）。

#### 観点7-1-⑤資料一覧

(資料7-1-⑤-1) 第2年次および第3年次数学使用教科書購入のお願い	出典：数学科資料
(資料7-1-⑤-2) 平成18年度外国人留学生・チューター名簿一覧表	出典：留学生専門委員会資料
(資料7-1-⑤-3) 留学生に対する基本方針	出典：留学生専門委員会資料

## 資料7-1-⑤-1

平成17年3月

平成17年度鹿兒島工業高等専門学校  
第4年次編入学生のみなさまへ

## 第2年次および第3年次数学使用教科書購入のお願い

平成17年度鹿兒島工業高等専門学校第4年次編入学おめでとうございます。  
本校の第3年次までの数学は高等学校学習指導要領と異なる内容を含んでいます。そのため、編入学までに書店にて下記の3冊の教科書の購入をお願いいたします。また、4月より編入学生に向けて補講を行う予定ですので補講内容の予習をされるよう合わせてお願いいたします。

## 記

## 購入教科書

1. 新訂 微分積分Ⅰ 高遠節夫・斎藤齊ほか著 大日本図書
2. 新訂 微分積分Ⅱ 高遠節夫・斎藤齊ほか著 大日本図書
3. 新訂 線形代数 高遠節夫・斎藤齊ほか著 大日本図書

## 補講内容

「微分積分Ⅰ」 第1章 微分法、第3章 積分法  
(高等学校学習指導要領の数学Ⅱ・Ⅲにある微分積分に逆三角関数を加えた内容です。使った慣れた教科書または参考書等がございましたらご活用下さい。)

なお、質問等ございましたら4月以前でも結構ですのでご連絡下さい。

以上

〒899-5193 鹿兒島県始良郡隼人町真孝1460-1  
鹿兒島工業高等専門学校  
一般教育科理系(数学) 嶋根 紀仁  
電話:0995-42-9000(代表)

(出典:数学科資料)

## 資料7-1-⑤-2

平成18年度外国人留学生・チューター名簿一覧表

工学科・学年	担任	チューター	留学生氏名	国籍	
	(内線)	連絡先	連絡先		
土木3年	疋田 誠			インドネシア	国費
電子制御4年	鎌田 清孝			タイ	国費
機械5年	椎 保幸			マレーシア	政府派遣
電子制御5年	室屋 光宏			マレーシア	政府派遣
情報5年	榎園 茂			イラン	国費
土木5年	内谷 保			カンボジア	国費

留学生統括官 あべ松 伸二 連絡先

(出典:留学生専門委員会資料)

## 平成18年度・外国人留学生専門委員会

基本方針： 留学生と蜜に連絡を取り、いつも新しい情報を得て、留学生が抱えている悩み・問題点が統括官のもとに吸い上げられるような体制を作り、大きい問題が起こってからそれに対応するのではなく、普段から留学生の心のケアにつとめ、留学生が抱える問題を初期の段階で予防するようにする。万一、問題が発生したら、教務・学生・寮務の三主事と深い連携を取りながら早急に対処する。

- 年間計画：
- ① 三主事による留学生へのオリエンテーション
  - ② 外国人留学生専門委員会
  - ③ 留学生支援の会
  - ④ チューター・ミーティング
  - ⑤ 留学生ミーティング
  - ⑥ 里親の会
  - ⑦ 1年生 LHR
  - ⑧ クラスレクレーション(3年留学生、ボーリング)
  - ⑨ 学寮行事(七夕祭、留学生パーティー他)
  - ⑩ 日本文化勉強会(書道、陶芸)
  - ⑪ 各地域との交流会(隼人町、笠沙町)
  - ⑫ 鹿児島大学・鹿屋体育大学主催行事
  - ⑬ 留学生支援懇談会
  - ⑭ 実地見学旅行
  - ⑮ ……

## 緊急連絡網

教員名	研究室	自宅	携帯
三原 めぐみ	■■■■■	■■■■■	
疋田 誠	■■■■■	■■■■■	
～			
奥 高洋	■■■■■		■■■■■
南田 直子	■■	■■■■■	
清水 純子		■■■■■	
あべ松 伸二	■■■■■	■■■■■	■■■■■

(出典：留学生専門委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

編入生については、特に数学の補習授業を行っている。また、留学生については、日本語や日本文化に関する科目、数学、専門科目の補習を行うとともに、留学生指導教員、日本人学生のチューターを割り当てて学習支援を行っている。このことから、本校では、特別な学習支援が必要な者に対して学習支援体制が整備され、機能していると判断される。

**観点7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。**

(観点に係る状況)

本校では、クラブ・同好会の結成につき規則を定め(資料7-1-⑥-1)、現在、11の文科系部活動と23の体育系部活動、13の同好会の活動が認められている。これらのクラブ・同好会については、その活動を支援するために指導教員を配置し(資料2-2-③-7参照)、後援会が必要な経費を予算配分し支援している(資料7-1-⑥-2)。また、クラブ活動に関する大会等については、その実施にあたっての準備・運営に教職員が支援を行っている(資料7-1-⑥-3)。クラブや同好会が活動するために、体育施設(資料7-1-⑥-4)を放課後・休日に開放し、部室も整備している(資料7-1-⑥-5)。また、高専ロボコンについては、指導教員の他に特命統括官を任命している。さらに、同窓会や後援会の支援の下、ロボットの製作場として「夢工房ハヤト」が設置されている。また、学生会活動を支援するために、学生会室を厚生会館に設置し(資料7-1-②-5参照)、必要なパソコン等も提供している(資料7-1-⑥-6)。学生会活動については、学生主事を中心に学生委員会が支援にあたっている(資料7-1-⑥-7)。

#### 観点7-1-⑥資料一覧

(資料7-1-⑥-1) 学生準則	出典：平成18年度学生便覧
(資料7-1-⑥-2) 平成17年度後援会特別会計決算	出典：後援会資料
(資料7-1-⑥-3) 第41回九州地区高専大会(鹿児島高専担当種目)業務分担表	出典：学生課資料
(資料7-1-⑥-4) 学校配置図	出典：総務課資料
(資料7-1-⑥-5) 部室の整備状況	出典：学生課資料
(資料7-1-⑥-6) 学生室に設置されている物品	出典：学生課資料
(資料7-1-⑥-7) 学生主事・主事補関係引継ぎ事項一覧(役割分担表)	出典：学生課資料

資料7-1-⑥-1

学生準則

第27条 学生が学生会のほか、本校の学生をもつて会員とする団体を結成しようとするときは、指導教員を定め、団体の規約並びに指導教員及び会員の名簿を添え、責任代表者2名以上の署名捺印のうえ学生主事を経て校長に別記第11号の様式による学生団体結成願を提出してその許可を受けなければならない。

(出典：平成18年度学生便覧 138頁)

資料7-1-⑥-2

平成17年度 鹿児島工業高等専門学校後援会特別会計決算(支出の部)(案)

科 目	予算額	支出額	過不足額	備 考
1.九州沖縄地区高専体育大会等経費 陸上・ソフトテニス・バドミントン・水泳・ハンドボール(佐 世 保) 硬式野球・バスケット・卓球・剣道 (北 九 州) サッカー・柔道・バレーボール・テニス (久 留 米) 西日本地区空手道大会 (大 分) 西日本地区弓道大会 (新 潟 浜)				
小 計	5,079,000	4,576,944	502,056	
2.全国高専体育大会等経費 陸上競技 (小 山) バレーボール(男) (長 岡) ソフトテニス (茨 城) 卓 球 (長 野) 柔 道 (長 岡) 剣 道 (小 山) サッカー (群 馬) バドミントン (東 京 都 立) 水 泳 (群 馬) 弓 道 (茨 城) テニス (長 野)				
小 計	5,781,000	3,967,835	1,813,165	
3.分担金・正会員会費等 九州沖縄地区国立高専体育大会経費分担金 全国大会九州地区代表選手補助負担金 西日本地区高専弓道大会分担金 全国高専体育協会会費 全国高専体育大会分担金 連盟・協会等団体登録料 高等学校体育連盟負担金 指導者(柔道・ハンドボール)登録料 ロボットコンテスト分担金 プログラミングコンテスト負担金				
小 計	1,628,000	1,582,905	65,095	

科 目	予算額	支 出 額	過不足額	備 考
4.対外行事活動費 対都城高専親善試合 ロボコン九州地区大会(制作補助金) (有 明) ロボットコンテスト全国大会 (東 京 都) プログラミングコンテスト (茨 城) エコノパワー総務競技九州地区大会 (熊 本) 島人闘コンテスト (群 馬) 九州沖縄地区英語弁論大会 (熊 本 電 波) プラスバンド部定期演奏旅行 (指 宿 地 区) 都城高専との合同練習及び定期演奏会賛助 デザインコンペティション2005 (神 戸) 文化系クラブ・同好会活動補助費 体育系行事活動経費(サッカー、バレー、剣道、テニス、ハンド) 学生会発表補助 マイクロメカニクスイベント (千 葉)				
小 計	6,288,000	3,713,765	2,584,235	
5.高校体育連盟経費 高校総体九州大会(陸上) (熊 本) 九州高校新人大会(陸上) (佐 賀) 高校総体九州大会(自転車) (大 分) 高校総体九州大会(自転車) (鹿児島・大分) 高校総体全国大会(自転車) (千 葉) 九州高校新人大会(ソフトテニス) (熊 本)				
小 計	472,000	342,817	129,183	
6. TOEIC等受験経費 TOEIC Bridge 送料・銀行振込手数料				
小 計	1,713,000	1,529,230	183,770	
7.学生褒賞経費 文化賞 スポーツ賞 特別賞 功労賞 学生会主催行事商品 書行賞				
小 計	207,000	121,652	85,348	
8.予備費 予備費				
小 計	324,848	30,647	294,201	
合 計	21,502,848	15,845,795	5,657,053	

(出典：後援会資料)

## 第41回九州地区高専体育大会（鹿児島高専担当種目）業務分担表

委員長 前田 滋

副委員長 加治屋 徹実・丸山 伸夫・岡林 巧・工藤 祝

大会期日 平成16年7月10日（土）・11日（日）〔バレーボール女子〕

平成16年7月16日（金）～18日（日）〔サッカー、柔道、バレーボール、テニス〕

## ◆本部担当者

区分	分 担	担 当 者	業 務 内 容
総務班	総 括	加治屋 徹実 山崎 亨 嶋田 勝憲	1 体育大会実施に関する統括 2 主管校・開催校及び本校各競技担当統括者との連絡調整に関する事。
	企画・運営 連絡調整	原口 誠夫 名越 稔 満富 昭二 安楽 四郎 松本 志保	1 競技実施の計画立案に関する事。 2 競技会場の借上・下見及び関係機関との連絡調整に関する事。 3 競技団体及び関係各機関への協力依頼に関する事。 4 宿舍の選定・確保及び弁当業者等の選定に関する事。 5 各開催競技の予算・決算書及び実施要項の作成に関する事。 6 教職員、学生の役割分担作成及び各競技会場への輸送計画に関する事。 7 九州地区各高専へ連絡事項の送付及び各校との連絡調整に関する事。
	記録集計	吉満 真一 有菌 俊子 満富 昭二 末吉 健一 松本 志保	1 本校開催種目の競技成績の集計・確認に関する事。 2 各開催校担当種目の競技成績の集計・確認に関する事。 3 各開催校担当者との連絡調整に関する事。 4 競技成績（開催4種目）のホームページへの掲載に関する事。 5 各報道機関への競技成績の送付に関する事。
	写 真	古賀 亜彦	1 大会における記録写真撮影に関する事。
渉外班	統 括	安部 武司	1 渉外に関する統括
	渉外・接待	服部 寿夫 中間 勝利	1 各高専校長等の宿舍及び視察会場等の把握に関する事。 2 各競技会場担当者への連絡調整に関する事。
経理班	統 括	大城 清隆	1 経理に関する統括
	経 理 用度・配車	濱村 浩紀 高倉 澄宏 小田原 正享	1 調達物品等の支払に関する事。 2 審判員、補助員、看護師等の謝金の支払に関する事。 3 購入物品、借上物品及び供用物品等の調達並びに配布に関する事。 4 必用物品の輸送に関する計画・配車全般に関する事。 5 その他出納及び輸送・運搬に関する事。

(出典：学生課資料)



資料7-1-⑥-3 続き

## 高専体育大会(鹿兒島高専担当種目)業務分担表(案)

## ◆各会場開・閉会式日時及び挨拶・表彰担当者

種 目	担 当 者	期 日	会 場
バレーボール女子	前 田 滋	7. 11	鹿兒島高専第2体育館
サッカー	前 田 滋	7. 16 ~ 7. 18	鹿兒島高専グラウンド
柔 道	原 田 治 行	7. 17 ・ 7. 18	鹿兒島県総合体育センター武道館
バレーボール	丸 山 伸 夫	7. 17 ・ 7. 18	吹上浜公園体育館
テ ニ ス	岡 林 巧	7. 17 ・ 7. 18	熊本県民総合運動公園パークドーム

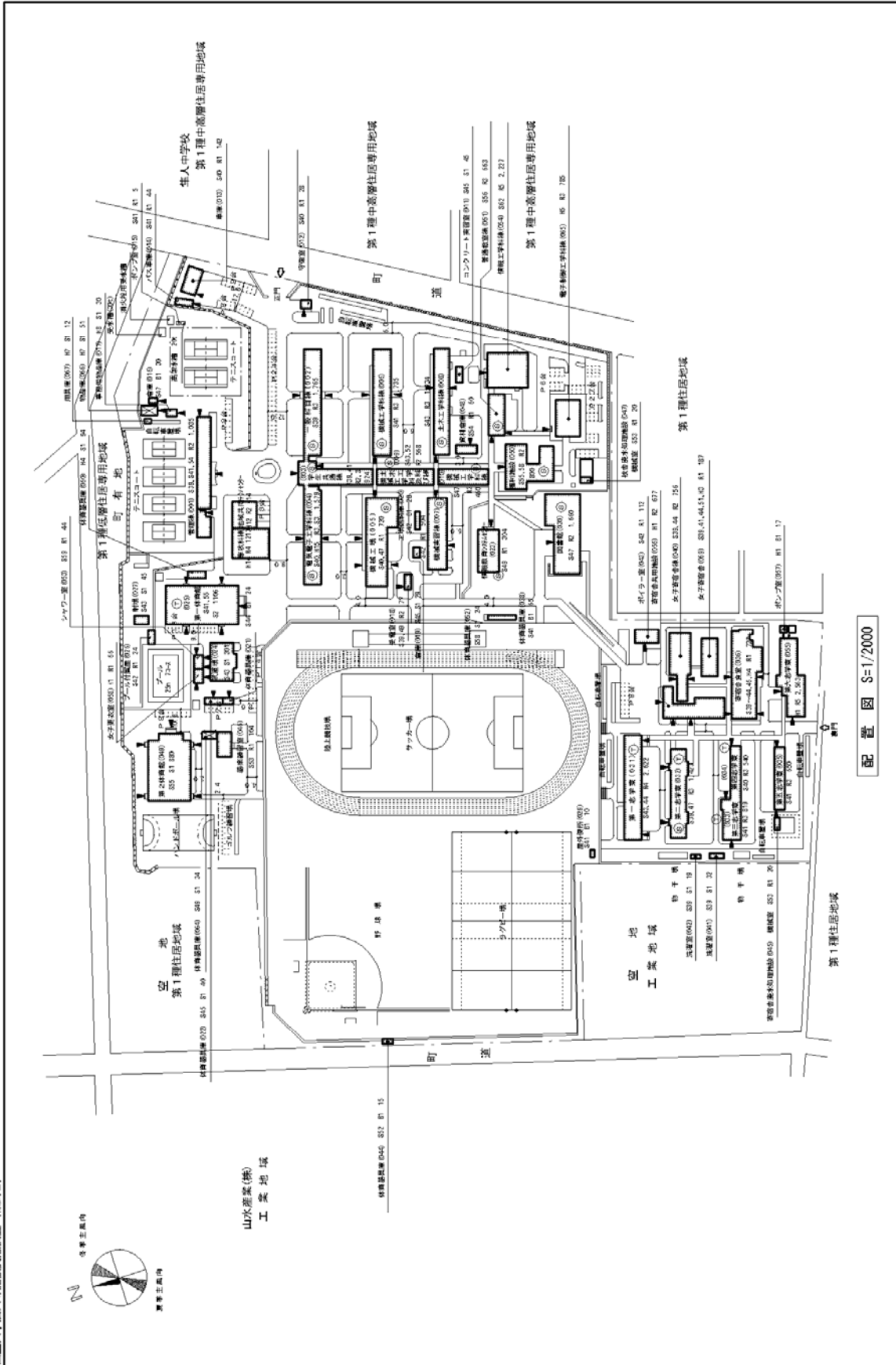
## ◆各競技担当者

種目	統 括 者	教員担当者	事務系担当者	業 務 内 容
サ ッ カ ー	三 角 利 之 木 原 正 人	金 岡 正 夫 堂 込 一 秀 疋 田 誠	荒 卷 勇 輔 奥 村 昌 興 川 上 二 美 子	1 当該競技の準備・運営に関すること。 2 競技運営及び準備について、競技団体との連絡調整及び確認に関すること。 3 教職員、補助学生の役割分担に関すること。 4 会場設営、競技運営、接待等に必要物品の確保及び請求並びに受理に関すること。 5 競技会場への必要物品等の輸送に関すること。 6 借用物品の借上げ、返還に関すること。 7 競技会場のテント、放送設備、掲示板、競技場等全ての設営及び撤収に関すること。 8 競技会場の清掃及びゴミ処理等に関すること。 9 代表者会議の開催及び進行並びに会議録の作成に関すること。 10 プログラムの配付に関すること。 11 開・閉会式の計画・進行・表彰に関すること。 12 受賞章、賞状、トロフィーの受理に関すること。 13 開・閉会式、競技運営等の放送に関すること。 14 審判員、看護師への謝金の支払に関すること。 15 競技役員、審判員等及び監督・選手等の接待に関すること。 16 救急医療薬品の受理に関すること。 17 救急医療処置に関すること。 18 急患発生時における救急車等及び救急医療病院への手配並びに関係者との連絡調整に関すること。 19 競技成績の集計及び記録係への報告に関すること。 20 弁当、氷の受理及び配布に関すること。 21 本校選手、教職員及び補助学生の輸送に関すること。 22 競技に係る事務処理に関すること。
	チ-ム責任者	保 坂 直 之	皿 良 五 夫	
	山 崎 亨 あべ松 伸 二 引 地 力 男 北 薊 裕 一	村 上 浩 山 下 登 山 田 一 二	鳥 丸 讓 長 山 昭 夫 新 野 博 樹 南 田 直 子 森 義 晴 脇 部 政 利	
柔 道	前 野 祐 二 油 田 功 二	原 田 治 行 中 島 正 弘 持 原 稔	岩 崎 絵 理 上 野 孝 行 川 口 寿 孝	
	チ-ム責任者	島 名 賢 児	菌 田 誠 二	
	須 田 隆 夫 奥 高 洋	堤 隆	長 岡 元 彦 成 田 悦 子 松 尾 征 一 郎 皆 元 一 徳	
バ レ ー (男 子)	芝 浩 二 郎 中 原 和 範	丸 山 伸 夫 榎 園 茂 田 畑 隆 英	尾 崎 誠 上 沖 司 串 木 野 香 織	
	チ-ム責任者	塚 本 公 秀	斉 藤 亜 紀	
	櫻 根 健 史 平 田 登 基 男	中 尾 文 俊	中 島 健 一 平 野 謙 一 郎	
バ レ ー (女 子)	植 村 眞 一 郎 山 下 俊 一	池 田 英 幸 佐々木 正 司 坪 井 克 剛	下 脇 勝 美 辻 本 卓 司 永 田 亮 一	
	チ-ム責任者	三 原 め ぐ み	原 田 正 和	
	椎 保 幸 塚 崎 香 織			
テ ニ ス	松 本 裕 司 松 元 悦 郎	岡 林 巧 伊 藤 益 生	徳 田 眞 澄 山 田 孝 行	
	チ-ム責任者			
	岸 田 一 也 熊 谷 博			

(出典：学生課資料)

資料7-1-⑥-4

国立大学法人等施設実態調査（様式2）



敷地面積	建築面積	延べ面積	建築延面積	学生数	学部等	名称	所在地	学校番号	校名	作成年度
121,318 m <sup>2</sup>	16,497 m <sup>2</sup>	14.0 %	33,725 m <sup>2</sup>	1,040人	工業高等科	鹿児島工業高等専門学校	鹿児島市生人町真幸1460-1	6716	鹿児島工業高等専門学校	平成18年度

(出典：総務課資料)

資料 7-1-⑥-5

## 部室の整備状況

クラブ名	部室の広さ(m <sup>2</sup> )	クラブ名	部室の広さ(m <sup>2</sup> )
硬式野球	8	バドミントン	8
バレーボール	8	ハンドボール	8
空手道	8	自転車競技	8
陸上	16	ブラスバンド	32
サッカー	16	軽音楽	16
ワンダーフォーゲル	8	美術	8
ソフトテニス	8	エコラン	16
テニス	8	メカトロニクス研究	40

(出典：学生課資料)

資料 7-1-⑥-6

## 学生室に設置されている物品

輪転機 1 台,      パソコン 3 台,      複合機 1 台,      プリンタ 1 台,      書棚 2 台,  
 会議用机 2 台,      金庫 1 個,      事務机 1 台,      黒板 2 台,      ホワイトボード 1 台,  
 冷蔵庫 1 台,      整理棚 1 台,      洗面台 1 台,      シュレッダー 1 台

(出典：学生課資料)

学生主事・主事補関係引継ぎ事項一覧

分野	担当者	行事	期日	備考	担当者
学生会指導	引地	入学式	4/5	入学式時の交通整理・できれば役員の式典への参加	引地・新徳
		クラブ紹介	4/7	体育局・文化局長を中心として資料を作成。武道館にて説明会開催	引地
		1年生研修	4/18-19	教務主事の依頼があれば役員が研修に参加する。事前準備が必要	西留・桑島
		学生総会(4月)	4/28	予算・決算、その他	引地・田畑
		学生総会(12月)	12/22	高専祭収支報告・学生会則改正など	引地・植村
		役員会	月例	月に2回実施。学生会役員が集まって話し合う。担当主事補参加	引地・田畑・嵯峨原
		総務会	月例	月1回実施。各クラスの総務を集めて話し合う	引地・田畑・嵯峨原
		委員会	各月	2ヶ月に1回程度実施。各クラス委員が会議を行う	引地・田畑・嵯峨原
		九州交流会	年2回程度	学生会役員の代表者が他高専に出向き会議を行う。事前の把握が必要	引地・植村
		教員との話し合い	不定期	学生会と教員が話し合う場を設ける必要がある	西留・全委員
		学生会主催行事	12/13	学生会が使う日。立会演説会や教員の説明会などを実施予定	引地・全委員
		学生会長立合演説会・選挙	12/13	選挙管理委員、議長選出などの作業がある	西留・引地・田畑・植村
		新旧学生会役員引継ぎ会	1月下旬頃	引継ぎ会を行う	西留・全委員
		卒業式	3/14	卒業式への参加	西留・引地
		学校行事	新徳	クラスマッチ(新入生歓迎)	6/27
強化合宿(九州大会)	7/10-14			合宿願い配布、寮との調整	新徳・引地
夏季合宿(全国大会)	7/18-8/12			合宿願い配布、合宿部屋割り、スケジュール表作成、合宿説明会	新徳・引地
体育祭	10/29			実行委員との打合せ、教職員役割分担、応援団・やぐら絵の指導	引地・池田・全委員
冬季合宿				合宿部屋割り、スケジュール表作成	新徳・引地
クラスマッチ(送別)	1/17			学生会体育局との打合せ(種目、時間等)、要項は学生が作成	引地・北園・全委員
引地	春季合宿		3/1-3/31	合宿願い配布、合宿部屋割り、スケジュール表作成、合宿説明会	新徳・引地
	文化祭		10/28	文化祭実行委員長および実行委員を年度始めに決める必要あり	引地・嵯峨原・全委員
	身体測定・写真撮影		4/7	学生課・保健室と連絡をとる。主事補は聴力検査などの手伝い	引地・全委員
引地	学生会・クラブリーダー研修会		1/12-13	16年度は学生会が主体的に立案・実施、研修内容の再検討が必要	西留・引地・全委員
引地	長縄とび大会イベント		12/13		引地・北園
西留	1年生研修会		4/18-19	厚生補導の立場から学生生活の過ごし方を説明、日帰り	西留・桑島
	学生指導研究会		8/23-24	<b>18年度は寮務委員会担当</b>	西留・全委員
	地区別学校紹介				西留・引地
対外行事	西留		前・後期授業料免除判定会議		学生係が作成した資料を、学生委員会で協議の上、承認する
		都城親善試合	5/13	学生係に一任、学生主事は引率代表として都城高専へ	引地・西留・北園
	新徳	高専体育大会(九州・全国)	7/ .8/	18年度は主管校・担当校はなし、学生課長と応援視察	引地・西留・北園
補導	引地	ロボコン大会(九州・全国)	10/8,11/26	ロボコン会議出席、 <b>18年度は九州・沖縄地区の担当校</b>	新徳・西留
		校則違反の事情聴取・調書作成	随時	2名で事情聴取をして、調書を作成。本人の確認署名をもらう。	西留・引地
		賞罰協議会	随時	学生委員会で処分内容を決定し、停学期間の案を持って賞罰協議会へ	引地・西留
		喫煙巡回指導	随時	学生主事補または委員を加えて、学校近辺の巡回を実施	西留・引地・全委員
		服装等検査	随時		西留・全委員
	西留	学内謹慎指導の立案・実施	随時	学生委員で担当の割り振り表を作成(17年度からは不要?)	引地・嵯峨原
		主事説諭	随時	本人と保護者同伴で説諭、日程は担任から親へ連絡して決定	西留・引地
		車両登録・検査	4/	新学期開始時には各教室および掲示板にて案内。4月中に2回ほど実施。	桑島・全委員
		春の交通安全指導	4/	交通安全運動週間に合わせて、正門付近、通学路上などで実施。	桑島・全委員
		交通安全講習会(1・2・3年)	5/17	特活時間を利用(低学年、高学年とも4月上旬に警察と打ち合わせ)	桑島
交通	桑島	交通安全講習会(4.5年)	6/8	中間試験期間に試験終了時間を各クラス合わせて実施。(教務へ相談)	桑島
		二輪車実技講習会	7/	第1土曜日実施。対象はバイク通学生全員。5月には自動車学校と要相談	桑島
		秋の交通安全指導	9/	交通安全運動週間に併せて、正門付近、通学路上などで実施。	桑島・全委員
		駐輪場指導	随時	学生会と共に実施	桑島
		事故・違反の事情聴取	随時	本人や担任あるいはその他から情報が入ったら、事情を聴いて報告書を書かせる	桑島・引地
		高専祭交通指導	10/28-29	特に体育祭に備えて、臨時駐車場の確保が必要。周辺道路への案内看板設置	桑島
		放置車両の始末	随時	定期的に防犯登録番号照会後、廃棄処分	桑島
会議	西留	主事補会議、学生委員会	定例	主事補会議はほぼ毎週実施、委員会は月2回程度実施	西留・引地・全委員
		校務連	月例	16年度は特に重要な案件についてのみ報告、他はオフィス掲示板で	西留・引地
		校長補佐会	月例	重要事項の決定	西留・引地
		九州地区体育大会連絡会議	4/20	九州沖縄地区体育大会の実施要項等、体育教官と学生課長同行	西留・引地
		九州地区学生主事会議	12/5-6	事前に協議題と承合事項を提出、寮務主事会議と同時開催	西留・引地
地区会議	西留	始良・伊佐地区生徒指導会	5/19、10/11	事前に研究協議題のレポート提出、 <b>18年度は本校が研究発表校</b>	西留・引地
		始良・伊佐地区高体連会議	4/ .3/ .3/ ?	地区高体連大会の日程や会計報告等	西留・引地
	西留	始良東部地区六校連絡会	6/9、11/10 ?	生徒指導の情報交換会、後援会長も出席、懇親会あり(18年度本校担当)	主事・主事補
	桑島	国分署暴走族追放推進会議	12/01	出席して話を聴く	桑島・引地
	新徳	隼人町生徒指導連絡協議会	4/ .2/24	各学期の指導上の反省・申し合わせなど。生指研・水防連も同時開催	新徳・西留
その他	西留	初午祭指導	2/18	初午祭の午後に宮内小学校へ出向き、巡視	西留・全委員
		指導教官希望調査	2/	事前に希望調査を行い、調整する	西留・引地
		新旧主事・主事補引継ぎ	2/23	引継ぎを行う	主事・主事補
		書類決裁	毎日	1日1回以上は学生係に向いて、書類を確認し捺印をする必要あり	西留・引地
		夏季休暇生活心得作成		学生会長と連名の心得を作成し、配布する	西留・引地
学生表彰	西留	学生表彰	適時	スポーツ賞や文化賞などの表彰、校長と日程を調整して昼休みに実施	西留・引地
		全体集会	8/28、12/22	夏季休暇中のイベントの成績発表と表彰、全学生への注意の機会	西留・引地

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

各クラブ・同好会の活動及びロボコンへの取り組みを支援するために、指導教員を配置するとともに、活動に必要な資金・施設等を提供している。また、大会等の準備・運営についても教職員が必要な支援を行っている。学生会活動については、学生会室をはじめ、必要な設備を用意し、学生主事・主事補が活動の支援を行っている。このことから、本校では、学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能していると判断される。

**観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。**

(観点に係る状況)

学生の日常生活や経済面に関しての指導・相談・助言を行う体制として、学級担任制が整備されている。学級担任の業務や指導内容は資料7-2-①-1に示すとおりである。学生委員会も学生の生活面に関する事項を審議し、学級担任と連携をとりつつ指導にあたっている(資料7-2-①-2, 7-1-⑥-7参照)。これに加えて、学生委員会は、奨学金や授業免除に関する説明会や事務的手続きも行っている(資料7-2-①-3)。

また、「学生何でも相談室」を設置し、相談員やカウンセラーが学生の諸問題に係わる相談、助言及び援助を行っている(資料7-2-①-4, 資料7-1-①-9参照)。さらに、保健室も、健康面を中心に相談、助言、保健指導を行っている(資料7-2-①-5, 6)。なお、セクシュアル・ハラスメントについては、その防止等に関する規則を定め(資料7-2-①-7)、相談等に対応する体制が整備されている(資料7-2-①-8)。

#### 観点7-2-①資料一覧

(資料7-2-①-1) 学級担任と学年主任に関すること	出典：教務の手引き
(資料7-2-①-2) 学生委員会規則	出典：規則集
(資料7-2-①-3) 平成18年度前期授業料免除説明会の実施について	出典：学生課資料
(資料7-2-①-4) 学生何でも相談室規則	出典：規則集
(資料7-2-①-5) 健康・悩み等の相談	出典：平成18年度学生便覧
(資料7-2-①-6) 平成16年度保健室・来談件数	出典：学生支援のあゆみ 年報2004
(資料7-2-①-7) セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規則	出典：規則集
(資料7-2-①-8) セクシュアル・ハラスメント等に対する組織及び機構図	出典：規則集

資料 7-2-①-1

## 7 章 学級担任と学年主任に関すること

### 7-1. 学級担任

#### 1. 学級担任の配置

各学科の学級に、それぞれ学級担任を置き、教授又は助教授若しくは専任講師をもって充てる（教員内部組織規程第6条第1項、第2項）。

#### 2. 学級担任の職務

学級担任は、それぞれ担当する学級の教務、厚生補導及び運営に関することをつかさどる（教員内部組織規程第6条第3項）

（出典：教務の手引き 18頁）

資料 7-2-①-2

### ○ 鹿児島工業高等専門学校学生委員会規則

（設置）

第1条 鹿児島工業高等専門学校に、学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第2条 委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 課外活動に関すること。
- (2) 保健衛生及び生活指導に関すること。
- (3) 奨学金及び授業料等の減免に関すること。
- (4) 就職指導に関すること。
- (5) 学生会及びその他の学生団体に関すること。
- (6) 交通指導に関すること。
- (7) その他厚生補導に関すること。

（組織）

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学生主事及び学生主事補
- (2) 第1学年及び第2学年学級担任から推薦された教員 各1名
- (3) 学科から推薦された教員 各1名
- (4) 専攻科から推薦された教員 1名
- (5) 学生課長
- (6) その他校長が必要と認めた者

（出典：規則集）

資料7-2-①-3

事 務 連 絡  
平成18年 2月 2日

ク ラ ス 担 任  
専 攻 長 各 位

学 生 課 長

平成18年度前期授業料免除説明会の実施について

標記の件につきましては、かねてよりご協力いただきありがとうございます。

さて、免除申請希望の学生に対して申請書類等の配付と事前説明会を、下記の要領で実施しますので、貴クラス等の学生への周知方よろしくお願ひします。

なお、当日都合により説明会に出席できない学生については、事前に学生係に申し出るようご指導下さい。また、説明会は2回実施しますので、届け出なしで欠席した学生については、その後の申請用紙の交付はしませんので併せてご指導願ひます。

記

期 日	平成18年2月13日(月)
時 間	1回目 16時05分～ 2回目 17時00分～ (概ね20分程度)
場 所	階段教室

(出典：学生課資料)



○ 鹿児島工業高等専門学校「学生何でも相談室」規則

(設置)

第1条 鹿児島工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、「学生何でも相談室」(以下「相談室」という。)を置く。

(目的)

第2条 相談室は、学生が持つ諸問題についての相談活動を行い、学生自身がより良い学生生活を送れるよう支援することを目的とする。

(業務)

第3条 相談室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学生の諸問題に係る相談、助言及び援助に関すること。
- (2) 前号の規定に必要な各種の調査及び報告に関すること。
- (3) 専門カウンセラーとの相談に関すること。
- (4) その他前条の目的達成に必要な事項

(組織)

第4条 相談室は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 室長 1名
- (2) 相談員 若干名
- (3) カウンセラー 若干名
- (4) 相談補助員 1名

(室長)

第5条 室長は、本校の専任教員のうちから、校長が任命する。

- 2 室長は、校長の命を受け、相談室の業務を総括する。
- 3 室長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(出典：規則集)

Ⅶ. 健康・悩み等の相談

平成16年12月17日

鹿児島工業高等専門学校長

前田 滋

保健室

学生並びに教職員の健康診断、健康相談、救急処置等を行うため、保健室を設け救急薬品を常備し、校医(非常勤)の指示のもとに看護師が学内で発生した疾病や傷害に対する応急処置並びに保健指導を行っています。

(1) 定期健康診断

学校保健法等の規定に従い、定期健康診断を毎年4～5月に実施しています。その日時・場所については、事前に各クラスに掲示で通知します。

定期健康診断実施項目(○印は、受診項目です。)

\*印は、要管理者のみ受診し対象者には、個人連絡します。

学年	1	2	3	4	5	専攻科生
身体計測	○	○	○	○	○	○
視力検査	○	○	○	○	○	○
内科	○	○	○	○	○	○
胸部間接撮影	○		新留学生のみ	編入生のみ		
尿検査	○	○	○	○	○	○
歯科検診	○	○	○			
眼科検診	○		新留学生のみ			
耳鼻科検診	○		新留学生のみ			
聴力検査	○		○			
心電図検査	○	*	*	*	*	*
血圧測定	○	○	○	○	○	○

(出典：平成18年度学生便覧 99頁)

各学生の健康管理と、就職・進学の健康診断証明書及びクラブ行事等の参加用の書類の作成は、主として定期健康診断の結果に基づいていますので、必ず受診してください。なお、定期健康診断期間中に受診しなかった場合は、後日各自医療機関で受診しその結果を保健室に提出してもらいます。

(2) 健康相談

月1回は、校医の先生による健康相談を保健室横のカウンセリングルームで実施しています。なお、病気の際、医療機関で治療を受けるためには保険証が必要ですから、自宅通学者以外の学生は、早めに遠隔地保険証の交付を受けてください。

(3) カウンセリング

週1回、カウンセラーの平川忠敏先生と、森岡玲子先生によるカウンセリングをカウンセラー室で実施しています。勉強・家庭・健康・性の悩み等さまざまな悩みや問題に対応しています。保健室で受付します。

(4) 災害共済給付に関する業務

学校の管理下での災害の場合、独立行政法人日本スポーツ振興センターの災害共済給付が申請すると受けられ、その窓口が保健室です。共済掛金は、保護者と学校とで支払っています。

災害に会った場合、保健室で書類を買い申請してください。災害の種類、災害の範囲、給付金額等詳しい内容は、下記「独立行政法人日本スポーツ振興センターの業務と手続き」を見てください。

(5) 学生何でも相談室

「学生何でも相談室」は、皆さんが学生生活を送っていく上で生じるいろいろな疑問や悩み、不安、その他さまざまな問題について相談を受け、それらについて共に考え、解決の糸口を探る手助けをしてくれるので、皆さんの充実した学生生活が送れるようにサポートするのが目的ですので、下記のような場合には気軽に相談室を訪ねてください。相談室では、学外の専門のカウンセラー2名と学内の相談員が皆さん

(出典：平成18年度学生便覧 100頁)

資料 7-2-①-6

表 2.3 平成 16 年度保健室・来談件数

		平成16年度												平成15年度
		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	計
相談	件数	1	7	5	0	1	5	3	3	4	5	2	36	27
	時間 [分]	20	155	155		30	97	80	150	80	100	40	907	490
内容 内訳	学生生活		4			1						1	6	2
	学業	1											1	2
	対人関係			4			4	2	1	4	3	1	19	10
	健康		1				1	1	1		2		6	9
	進路		2	1									3	4
	その他								1				1	0
対応 内訳	保健室		7	5			5	3	2		4		26	
	カウンセラー紹介								1	4	1		6	
	他と連携	1				1						2	4	
		計907分=約15時間												

(出典：学生支援のあゆみ 年報 2004 17頁)

資料 7-2-①-7

## ○ 鹿兒島工業高等専門学校セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規則

(趣旨)

第1条 鹿兒島工業高等専門学校(以下「本校」という。)におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等に関しては、独立行政法人国立高等専門学校機構セクシュアル・ハラスメント防止等に関する規則に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(目的)

第2条 この規則は、本校の職員・学生等及び本校の関係者による、本校内外でのセクシュアル・ハラスメントの防止及び排除のための措置並びにセクシュアル・ハラスメントに起因する問題が生じた場合に、適切に対応するための措置(以下「セクシュアル・ハラスメント等」という。)に関し、必要な事項を定めることにより、本校における職員、学生等が、個人として尊重されるセクシュアル・ハラスメントのない健全な環境をつくることを目的とする。

(定義)

第3条 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) セクシュアル・ハラスメント 本校内外において、本校職員、学生等及び関係者間において、他の者を不快にさせる性的言動
- (2) セクシュアル・ハラスメントに起因する問題 セクシュアル・ハラスメントのため、職員の就労上又は学生等の修学上の環境が害されること及びセクシュアル・ハラスメントへの対応に起因して職員が就労上又は学生等が修学上の不利益を受けること。
- (3) 職員 本校に勤務する常勤及び非常勤の職員
- (4) 学生等 学生、科目等履修生、研究生等本校において修学する者
- (5) 関係者 学生等の保護者及び業者等本校と関係のある者

(職員及び学生等の責務)

第4条 職員及び学生等は、セクシュアル・ハラスメントの防止対策について、次の各号に掲げる責務を果たさなければならない。

- (1) 個人の尊厳や名誉、プライバシー等の人格、勤務環境、修学環境等を害することとなるセクシュアル・ハラスメントをしないよう、各人がその発言や行動に十分注意すること。
- (2) 勤務環境、修学環境等は、職員、学生等の協力の下に形成されるものであることから、本校の構成員として、良好な環境等の維持・確立に努めること。
- (3) セクシュアル・ハラスメントの被害を防止し、又は深刻なものにしないよう、相手に対する明確な意思表示等の行動をためらわないこと。

(監督者の責務)

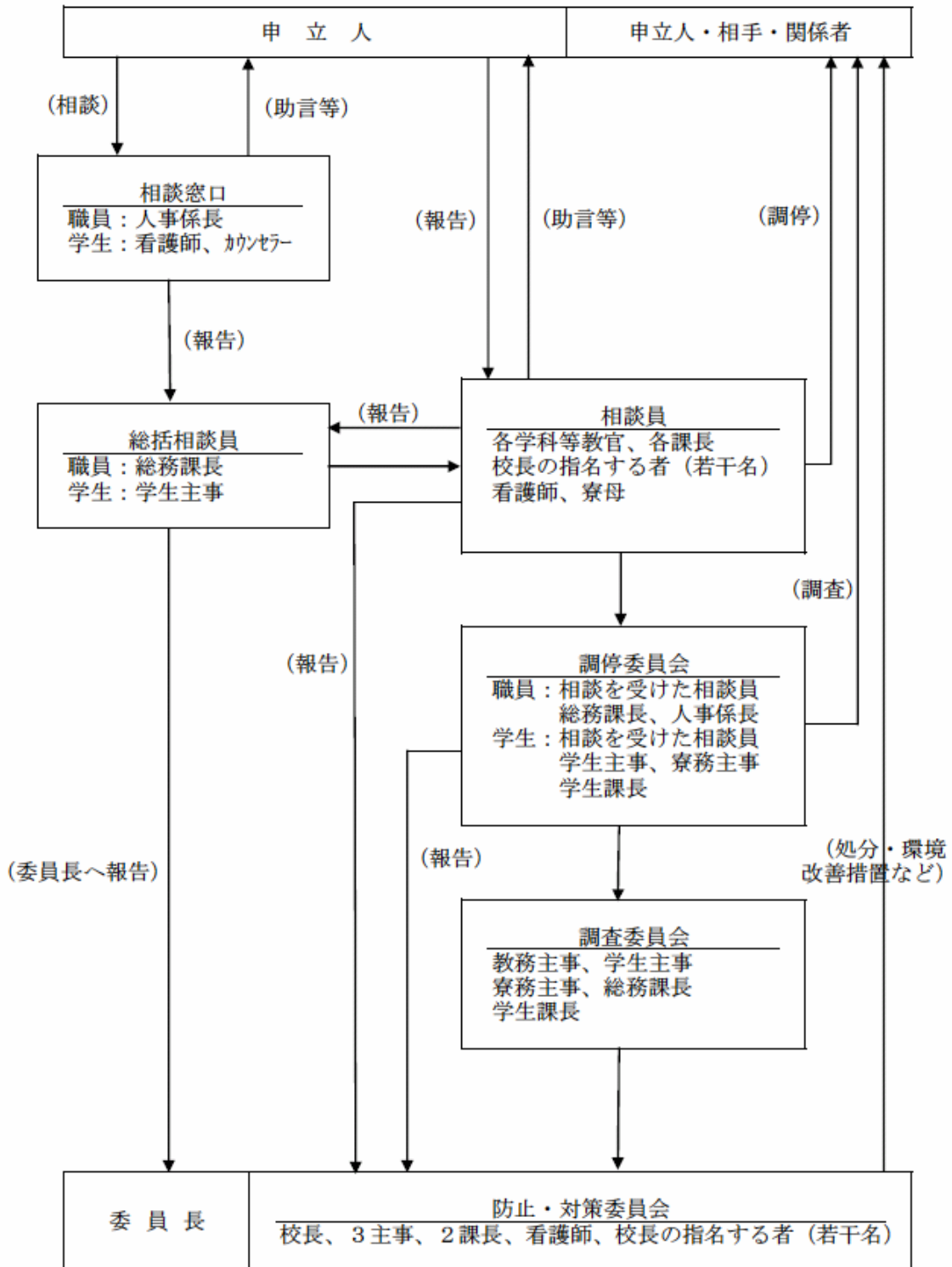
第5条 職員を監督する地位にある者(係長等を含む。)は、次の各号に掲げる事項に注意して、セクシュアル・ハラスメントの防止及び排除に努めるとともに、セクシュアル・ハラスメントに起因する問題が生じた場合には、迅速かつ適切に対処しなければならない。

- (1) 日常の執務を通じた指導等により、セクシュアル・ハラスメントに関し、職員及び学生等の注意を喚起し、セクシュアル・ハラスメントに関する認識を深めさせること。
- (2) 日常の言動に十分な注意を払うことにより、セクシュアル・ハラスメント又はセクシュアル・ハラスメントに起因する問題が生じることがないように配慮すること。

(出典：規則集)

資料 7 - 2 - ① - 8

セクシュアル・ハラスメント等に対する組織及び機構図



(出典：規則集)

## (分析結果とその根拠理由)

学生の生活・学習・経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制として、学級担任制度が整備され、学生委員会も学級担任と密接に連携をとりながら、学生指導にあたっている。そのほか、学生何でも相談室や保健室も、学生の諸問題に係わる相談を受け付け、必要な指導・助言を行っている。なお、セクシュアル・ハラスメントについては、その防止等に関する規則が定められ、相談・助言等の体制が整備されている。このことから、本校では、学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能していると判断される。

**観点7-2-②： 特別な支援が必要な者（例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。）  
がいる場合には、生活面での支援が適切に行われているか。**

## (観点到る状況)

障害のある学生については、階段脇のスロープや校舎にエレベータを設置するなどの必要な支援を行っている。留学生の学習・生活支援については留学生専門委員会が支援内容等を審議し（資料7-2-②-1）、留学生特命統括官が中心となって、定期的な留学生とのミーティング、日本文化に関する勉強会、町内外の国際交流会への参加、ホームステイの手配、住環境の整備への取組みなどの支援を行っている（資料7-2-②-2）。また、留学生に割り当てられたチューターが生活面での支援を行っている（資料7-1-⑤-2参照）。

**観点7-2-②資料一覧**

(資料7-2-②-1) 外国人留学生専門委員会規則 出典：規則集

(資料7-2-②-2) 留学生委員会の主な取組 出典：平成17年度外部評価委員会資料

## 資料7-2-②-1

## ○ 鹿児島工業高等専門学校外国人留学生専門委員会規則

## (設置)

第1条 鹿児島工業高等専門学校国際交流委員会規則第5条の規定に基づき、外国人留学生に関する専門的事項を審議するため外国人留学生専門委員会（以下「委員会」という。）を置く。

## (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育指導に関する事項
- (2) 生活指導に関する事項
- (3) 宿舎その他の施設に関する事項
- (4) その他外国人留学生に関する事項

## (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 特命統括官（留学生担当）
- (2) 一般教育科文系・理系から推薦された教員 1名
- (3) 「学生何でも相談室」から推薦された教員 1名
- (4) 外国人留学生指導教員
- (5) 外国人留学生事務担当職員
- (6) その他委員長が必要と認めた者

## (委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、特命統括官（留学生担当）をもって充てる。

- 2 委員長は会議を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(出典：規則集)

**留学生専門委員会の主な取組**

取組：留学生支援

内容：

平成15年度の留学生統括官保坂先生が留学生支援のために取り組まれたことを基本にして、実際動いているものは更に充実して、あまり動いていないものは早急に立ち上げに入り、これに、更に追加して、今年度まで様々な取組を行ってきた。

- 1) 留学生と日本人学生との交流の充実  
寮内における留学生イベントを通しての日本人学生との交流会、留学生所属クラスでのレクレーション・LHRを使ってのお国紹介。来年度からは1,2年のLHRに留学生交流会を入れていく予定。
- 2) 留学生支援懇談会の充実  
毎年3月上旬、1年間の留学生に対する鹿児島高専の取組の報告、情報交換会、留学生が日頃お世話になっている近辺大学関係者、国際交流委員会関係者、ホームステイ先の方々など多数招待し、報告会と懇親会を行っているが、盛大な会となっている。
- 3) 留学生里親制度の立上げ  
ホームステイ先へ辞令交付をして里親制度を立上げを予定したが、ホームステイ先への辞令交付はあまりにも儀礼的で必要ないと判断し実施しなかった。その代わりに、主要なホームステイ先の3件（財部町、吹上町、知覧町）とは蜜に連絡を取り、広報誌の送付、学生イベントへの招待など積極的に行った。特に財部町のホームステイ先には何回も足を運び、いろいろな話を通して留学生に関する情報交換がスムーズに行われる体制を作った。その後、主要3ホームステイ先以外にもホームステイ先が増え始めているので、全部を登録して、年に3回会合を開き（1回目：4月、2回目：高専祭の時期、3回目：留学生支援懇談会）留学生に関する情報が更にスムーズに行われる体制を今年度中に準備して、来年度から留学生里親制度として発足させたい。
- 4) 留学生支援基金の立上げ  
平成15年度に準備され、平成16年度4月から施行された。実際この基金を利用することはなかったが、規則に従い、役職を決めて体制は整った。
- 5) 留学生の住環境の整備  
新型コロナウイルスなどへの対応のための早急な寮の施設整備。寮務主事と寮務係長と協議して、六志を壁で仕切り、留学生の住居を日本人学生と分離する案を作成して会計課長に提出し、予算化を願い出たが、未だに実現されていない。
- 6) 地域（鹿児島県全域を含む）との積極的な交流  
現在実施されている学外行事に参加しながら、更に地域との交流を深める。
  - ① 小学校（地元、鹿児島県内）への国際交流の出前授業  
まだ実施していない。
  - ② 高校との交換会（伊集院高校書道部との交換会、美山陶遊館での陶芸体験）  
「日本文化勉強会」というイベント名にして、書道体験、陶芸体験を組み入れた。伊集院高校書道部の協力を仰ぎ、現在までに2回この行事を実施し、その作品は高専祭に展示した。
- 7) 連絡網の充実・カウンセリング体制の確立
  - ① 留学生の連絡網、チューターの連絡網  
留学生・チューターの連絡網を作成し、留学生委員会のメンバー、学生係、全留学生、チューターに配布してすぐに連絡が取れるようにした。
  - ② 三主事、学生何でも相談室、保健室先生、寮母さん、留学生日本語担当先生、担任、カウンセラー、留学生専門委員会との連携
  - ③ チューターリーダーの設置（5年生）  
平成16年度、留学生の相談相手、又、日本人チューターのまとめ役として、初めての役職を設けた。1年間、時には姉役、時には母役を務め、留学生の中に入りやすい働きをしてくれた。
- 8) 定期的ミーティング実施
  - ① 留学生ミーティング（毎月最低1回実施）
  - ② チューターミーティング（毎月最低1回実施）
- 9) 留学生ホームページの充実  
古いままになっていた留学生ホームページを情報工学科の留学生が専門の先生の指導のもと、新しいホームページを作成し大幅な更新を行った。
- 10) 留学生卒業生住所録作成  
手付かずの状態であったが、今年度中には完成したい。

（出典：平成17年度外部評価委員会資料 資料3 137, 138頁）

(分析結果とその根拠理由)

障害者に対する支援として、校舎のバリアフリー化を図っている。また、留学生に対しては、外国人留学生専門委員会が必要な支援内容を審議し、留学生の学習面や生活面での支援を行っている。さらに、留学生にはチューターを配置して日常の学習や生活をサポートしている。このことから、特別な支援が必要な者に対して、適切な支援が行われていると判断される。

**観点7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。**

(観点に係る状況)

学生寮は「本校の教育目的の達成に資する」ための「教育施設」として位置づけられており（資料7-2-③-1）、そのため1年生は全員が入寮することとなっている（全寮制）。男子寮6棟、女子寮1棟には、専攻科生までを含む559名が入寮しており（資料7-2-③-2）、全国高専の中でも最大級の規模である。各棟には寮生居室のほかに自習室、談話室、補食室等（全19室）が配置され、このほかに食堂、会議室、多目的ホール等の共用施設が整備されている。

寮生は、生活時間表（資料7-2-③-3）に従って生活している。毎日3回の点呼により、所在の確認がなされ、また、学習面については自習時間が設定されており、特に席を離れないことを原則とする「完全自習時間」となっている。この他、学習支援として、中間・期末試験前に、上級生が下級生の学習を指導する「学寮チュートリアル」を実施しており、平成17年度は延べ207人が参加し好評であった（資料7-2-③-4）。

学生寮の運営及び寮生の指導には、寮務主事を中心とした寮務委員会（資料7-2-③-5）と、職員数名が常駐する学生支援係（係長・主任・寮母・舎監等）が当たっている。また男性教員2名（これに加えて月2回程度の女性教員1名）による当直体制をとっており、当直教員は、主に自習時間中に寮内を巡回し、学習・生活指導を行っている。その内容は、月毎に担任に報告され、学生の指導に生かされている。また寮母と舎監が病気や心のケアに当たっている。

学生による自主的管理体制がよく整備されており、寮長を中心とした寮生会（資料7-2-③-6、7）が、点呼等の生活管理の他、歓迎・送別寮マッチ等の各種イベントを企画・運営している（資料7-2-③-8）。寮生組織として、7棟を53班に分けて、各班に2名ずつの班長が配置されている。班長は、毎日の点呼、自習室や補食室等の清掃の指導の他、下級生の日常の生活相談にも当たっている。寮長は寮務主事・主事補と日常的に情報交換をしている。



観点 7-2-③資料一覧

(資料 7-2-③-1) 学寮規則	出典：平成18年度学生便覧
(資料 7-2-③-2) 学寮紹介	出典：平成17年度学校概要
(資料 7-2-③-3) 学寮日課時間	出典：平成18年度寮生活案内
(資料 7-2-③-4) チュートリアルについて	出典：平成16年度寮生活案内
(資料 7-2-③-5) 寮務委員会規則	出典：規則集
(資料 7-2-③-6) 寮生会会則	出典：規則集
(資料 7-2-③-7) 平成18年度寮生会役員名簿	出典：学生課資料
(資料 7-2-③-8) 学寮行事	出典：平成18年度寮生活案内

資料 7-2-③-1

鹿児島工業高等専門学校学寮規則

(目的)

**第2条** 学寮は、本校の教育施設であって、学生の相互敬愛により学園生活の向上を図るとともに、規律ある共同生活を通して人間形成を助長し、本校の教育目的の達成に資することを目的とする。

(入寮)

**第6条** 第1学年の学生は、全員学寮に入寮して、教育を受けなければならない。

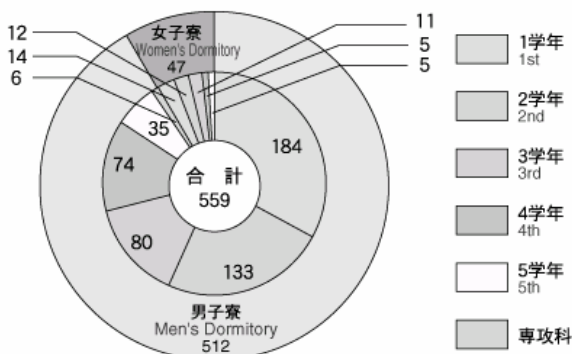
(出典：平成18年度学生便覧 171頁)

資料 7-2-③-2

560人収容できる男子寮5棟、50人収容できる女子寮2棟の寄宿舎があります。1年生は全寮制、2～5年生は希望により寮務委員会の審査を経て校長の許可により、入寮できる自由寮です。(女子の1年生は、収容定員の関係で一部免除)

学寮は豊かな人間性を養う教育寮として位置づけ、規律ある集団生活の中で自制心を養い、相互の理解を深めるようにしています。また、寮生自身の手による寮マッチ、相撲大会など、楽しい行事が行われ親睦をはかっています。

入寮者数 (平成17年4月現在) Number of Dormitory Residents (As of Apr.2005)



居室数 Rooms

	男子寮 male	女子寮 female
個室 Single Rooms	65	6
二人部屋 Double Rooms	232	22
<b>計 Total</b>	<b>297</b>	<b>28</b>

(出典：平成17年度学校要覧 46頁)



## 7. 学寮日課時間

寮生は下記の日課時間に基づいて行動してください。

◎印はチャイム

日 課	日 課	日 課
起 床	◎ 7 : 00	
点呼・体操	7 : 00～7 : 20	晴天時は校庭 (土日、祝日を除く。)
清 掃	◎ 7 : 20～7 : 40	
朝 食	◎ 7 : 20～8 : 20	
登校閉寮	◎ 8 : 30	
昼 食	12 : 25～13 : 15 (短縮授業 11 : 45～12 : 35)	
開 寮	授 業 終 了 時	
入 浴	16 : 30～19 : 50	
夕 食	◎ 17 : 30～19 : 00	
点 呼	◎ 19 : 55	
自 習	20 : 00～23 : 00 (21 : 20～22 : 00は休憩を含めた行為も可)	金土及び休日の前日は 寮舎内での自己研修
点 呼	◎ 23 : 00	
消 灯	24 : 00	

※点呼（7 : 00・19 : 55・23 : 00）は各棟の班長がとり、当直教員に報告します。各自時間を厳守してください。

※自習時間には完全自習時間帯（20 : 00～21 : 20及び22 : 00～23 : 00）と自己研修時間帯（21 : 20～22 : 00）があります。

- ① 完全自習時間は自室で静かに机について自習しなければなりません。
- ② 自己研修時間は完全自習時間に準ずるが、テレビや娯楽誌等を見ることや、他室を訪問すること、また補食室を利用したりすることは認めています。しかし、他人に迷惑をかけないように心がけてください。

なお、翌日が休日となる日は、自己研修日といい、その日の自習時間はすべて自己研修時間の扱いとなります。

※翌日に授業がある日は、20時から23時まで自習時間になっていますが、卒業研究(5年生)や特別研究(専攻科生)では「特別外出許可願」を申請することにより、研究室等で研究活動を行うことができます。高専祭準備等での扱いも同様です。

※女子寮の玄関は23時に閉まり、6時までには開きません。女子学生が大会等で早朝に出る場合は、前夜のうちに高学年当直者に連絡しておいて下さい。

※20時から朝6時までの外出は、保護者同伴でない限り、『深夜徘徊』と見なされます。

※校門は不審者侵入防止上、夜10時に閉まり、朝は食堂業者のために5時に開きます。

(出典：平成18年度寮生活案内 6頁)

資料 7 - 2 - ③ - 4

## 13. チュートリアルについて

定期試験開始の約一週間前から定期試験終了前日まで、定期試験対策として低学年を対象に、本科5年生、専攻科生によるチュートリアルを自習時間帯に実施しています。授業中に解らなかつた箇所や勉強のやり方などを本科5年生、専攻科生に質問し、理解を深めて下さい。

チュートリアルの詳細については、寮務委員会のチュートリアル担当の先生の指示に従ってください。

(出典：平成 16 年度寮生活案内 6 頁)

資料 7 - 2 - ③ - 5

## ○ 鹿児島工業高等専門学校寮務委員会規則

(設置)

第 1 条 鹿児島工業高等専門学校に、寮務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 入寮及び退寮に関する事。
- (2) 寮生の生活指導及び補導に関する事。
- (3) 寮生の福祉厚生及び保健衛生に関する事。
- (4) 寮生の負担となる経費に関する事。
- (5) その他寮務に関する事。

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 寮務主事及び寮務主事補
- (2) 第 1 学年及び第 2 学年学級担任から推薦された教員 各 1 名
- (3) 学科から推薦された教員 各 1 名
- (4) 専攻科から推薦された教員 1 名
- (5) 学生課長
- (6) その他校長が必要と認めた者

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、寮務主事をもって充てる。

2 委員長は、会議を召集し、その議長となる。

(事務)

第 8 条 委員会に関する事務は、学生課が処理する。

(出典：規則集)

資料 7 - 2 - ③ - 6

## ○ 鹿児島工業高等専門学校寮生会会則

## 第 1 章 総則

(名称)

第 1 条 本会は、鹿児島工業高等専門学校寮生会と称する。

(目的)

第 2 条 本会は、寮生の共同生活を自主的に運営し、その活動を円滑に行うことを目的とする。

## 第 2 章 組織

(機関)

第 5 条 本会に、第 2 条の目的を達成するため、次の組織を置く。

- 一 総会
- 二 役員会
- 三 棟長会
- 四 専門委員会
- 五 班長会
- 六 会計監査
- 七 選挙管理委員会

2 前項第 4 号の専門委員会は、文化、体育、風紀、衛生、会計、報道、生活及び交通の各委員会とする。

(出典：規則集)

資料7-2-③-7

## 平成18年度寮生会役員名簿

H18. 4. 14改正版

役職	学年・科	名前	部屋	携帯番号	仕事内容	点呼当番	備考
寮長	4C		2-204		全部。寮生の統率、寮の運営、朝の放送、定例会の実施など	日曜日	2志棟長 2志3階談話室
副寮長	4C		2-201		班長決め、点呼の集計、電話当番表の作成、寮長・統括のサポートなど	火曜日	3志棟長 3・4志2階自習室
	4S		5-201			火曜日	5志棟長、5志2階自習室、3階談話室
統括	4S		6-314		寮生総会・定例会など司会、各委員の仕事把握、選挙管理委員の選出、リーダー研修。引継ぎ式などのしおり作り、寮生会の朝の点呼取り、寮長・各委員の補佐など	月曜日	6志棟長 6志3階自習室
文化	4M		6-414		リーダー研修・留学生パーティーなど各イベント実施、寮文庫の開放、ビデオ放映など(文化)	月曜日	6志副棟長
文化副	4E		6-306		寮マッチの実施、朝点呼のラジオ体操など(体育)	木曜日	6志1階談話室
文化副	3C		4-206		挨拶練習、防犯指導など(風紀)	月曜日	5志1階補食室
衛生	4I		4-304		部屋替え清掃・寮内清掃・ペナルティー清掃・朝の清掃の指導、1年生へのごみの分別指導、掃除当番表の作成と配布、ペナルティー清掃の集計	火曜日	4志棟長 3・4志3階談話室
衛生副	4I		6-516			水曜日	6志5階自習室
衛生補佐	3E		3-101			日曜日	1志1階自習室
生活	4E		1-208		生活指導、寮内の設備使用状況の把握、改善、寮食事についての業者との意見交換など(生活)	木曜日	1志副棟長 1志2階談話室
生活副	4M		6-205		自転車登録、駐輪場整理、フリーマーケット時にバンク修理など(交通)	水曜日	6志2階自習室
報道	4S		1-303		月1回の「志学」の発行、各イベントの写真撮影、「噴煙」の発行など	木曜日	1志棟長 1志3階自習室
報道副	3S		1-212			水曜日	1志1階東補食室
会計	4C		6-305		予算案の作成、決算報告、寮生会費の管理など	日曜日	
会計副	4I		6-418			日曜日	6志4階自習室
補佐	3S		3-202		金・土・祝日の前日の点呼当番、朝点呼の運営、アンケートの集計、すべての寮生会のサポートなど	朝点呼、 金、土、祝日	2志2階自習室
	3S		3-301				2志1階補食室
	3C		1-412				1志4階自習室
	3M		1-312				1志1階西補食室
	3M		4-107				6志1階補食室
指導寮生	3E		4-302				3・4志1階補食室
	5S		6-416		寮生会の指導、寮生会の相談役など		
	5C		6-417				

## 女子寮

棟長	4I				班会を開く、困っている女子寮生の援助、寮母さんのお手伝いなど		
副棟長	4I				新聞代を集め、女子寮の新聞作成、棟長のサポートなど		
風紀	3E				掃除関係全般の指揮、掃除道具の管理など		
風紀副	3C				消耗品の補充、委員長のサポートなど		

(出典：学生課資料)

## 8. 学寮行事

寮生会(寮長、副寮長、統括委員長や各種委員長等約20名)が中心になり、以下の様な行事を順に毎年行っています。

- ・寮新入生歓迎マッチ(4月)
- ・寮避難訓練 (〃)
- ・寮生総会 (〃)
- ・七夕飾りパーティ (7月)
- ・留学生パーティ (9月)
- ・志学寮パーティ (1月)
- ・寮送別マッチ (〃)

(出典：平成18年度寮生活案内 7頁)

(分析結果とその根拠理由)

本校の学生寮には、勉学や生活の場として必要な設備が整備されている。また、寮務委員会を中心に、宿日直教員や寮務系の職員が、学習・生活指導を行っている。さらに、学寮チュートリアル制度も設け、上級生が低学年の学習を支援している。寮生の自主的組織として寮生会が組織され、寮務委員会の指導の下で、寮生の行事や生活について企画・運営をおこなっている。このことから、本校の学生寮は、学生の生活及び勉学の場として有効に機能していると判断される。

**観点7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。**

(観点に係る状況)

準学士課程の進路指導については、各学科の4・5年生学級担任が主にあたっている。4年次では進路アンケート調査(資料7-2-④-1)を実施し、学生との個人面談及び保護者への進路に関する説明等を実施している(資料7-2-④-2)。また、5年次では、学生本人と個別に面談し、応募書類、推薦書等の提出や面接・筆記試験への対応等について、学科長及び学級担任が必要な助言及び支援を行っている(資料7-2-④-3)。

就職企業の求人情報及び進学情報については、学生課が窓口となって各学科に連絡する体制が整っている。これらの情報は、各学科の担任あるいは学科長により整理され、随時学生に提示されている(資料7-2-④-4・5)。また、企業の求人情報の収集のために、後援会の支援を受けてクラス担任と学科長が分担して企業訪問を行っている(資料7-2-④-6)。

専攻科課程における進路指導については、各専攻長と特別研究指導教員が、準学士課程の場合と同様な方法で支援している。

## 観点 7-2-④資料一覧

(資料 7-2-④-1) 就職・進学に関するアンケート調査の例	出典：機械工学科資料
(資料 7-2-④-2) 保護者懇談会の資料	出典：機械工学科資料
(資料 7-2-④-3) 就職・進学活動の手引き	出典：機械工学科資料
(資料 7-2-④-4) 平成17年度求人一覧表の例	出典：機械工学科資料
(資料 7-2-④-5) 平成18年度大学編入学生募集要項一覧	出典：機械工学科資料
(資料 7-2-④-6) 企業訪問実績	出典：学生課資料

資料 7-2-④-1

平成 16 年 5 月 18 日

## 就職・進学に関するアンケート

機械工学科 4 年 No. ■■■ 氏名 ■■■■■

(1) 将来の目標または夢は、何ですか。

- ① 鉄道関係の職について、JR の  
整備、又は運転手になりたい。  
② 自動車会社に就職をして、自動車の製造を  
したい。

(2) 進路希望はどちらですか。(いずれかに○印)

- A. 就職  
 B. 進学

※ A.就職を選択した人は以下の項目について回答してください。

(3) どのような業種を希望しますか？(複数可：優先順に)

1. 鉄道関係 2. 自動車関係 3. 機械メーカー関係  
例えば：重工業関係、自動車関係、機械メーカー関係、ソフト開発関係  
プラント関係、化学素材関係

(4) 希望する職種は何ですか？(複数可：優先順に)

1. 生産技術 2. \_\_\_\_\_ 3. \_\_\_\_\_  
例えば、設計、開発、研究、生産技術、ソフト開発、営業技術

(5) 希望する企業名があれば記入してください。(優先順に)

1. JR 2. トヨタ自動車 3. \_\_\_\_\_

※ B.進学を選択した人は以下の項目について、回答してください。

(6) 希望大学・学科(専攻科を含む)を記入してください。(複数可)

1. \_\_\_\_\_ 2. \_\_\_\_\_ 3. \_\_\_\_\_

(7) 進路について、質問等ありましたら記入してください。

(出典：機械工学科資料)

平成16年7月10日

機械工学科 4年担任 三角利之

## 保護者懇談会資料

本日は、保護者懇談会に御出席いただき誠にありがとうございます。機械工学科4年担任の三角です。この一年間皆様の御協力を得ながら、学生の教育指導を行っていきたいと思いますので、宜しくお願い致します。本日の懇談内容をまとめてみましたので、参考にしてください。

### 【1】カリキュラムと成績について

4年生では、特に機械工学に関する専門基礎知識を修得させるために、多くの専門科目の授業がなされています。さらに、工学実験等のレポート提出も多く、高専5年間の中で最も厳しい学年であると言えます。また、4年生での成績は、就職・進学への推薦等にも大きく影響します。この学年で、しっかりと勉強して、機械工学の幅広い専門知識を身につけてもらいたいと思います。

さて、4年生になって初めての試験（前期中間試験）の結果が出ました。評価は、優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：60点未満となります。なるべく、「優」の評価を取得することが望ましく、また、60点以下（不可）の科目のある学生は、とくに注意する必要があります。夏休みは不得意科目の勉強を行って、成績を上げるように励ましてください。なお、5年生に進級するのに最低必要な単位数は、一般科目67単位、専門科目51単位を含んで、修得した科目の合計が、最低128単位必要です。不可の科目が、約10単位を越えると留年の可能性があります。

### 【8】進路について

5年生に進級しますと、すぐに就職あるいは進学という自分の進路をきめなければなりません。進路について、日頃十分な話し合いを行い、しっかりとした将来の目標を持つようにご指導ください。また、大学受験、就職試験に対応できるように日頃から準備しておくことが大切です。

＊＊ 連絡先

\*

TEL： 0995-42-9105 （教官室）

（出典：機械工学科資料）

平成17年4月7日

## 就職・進学活動の手引き

5M学生へ

5M担任 三角 利之

平成17年度の就職活動は、以下の方針で進めていきます。担任からの指示を待つのではなく、自ら行動すること。

### 就職活動

応募締切が例年より1ヶ月以上早くなっているため、早めに行動すること。(ほとんどの会社の応募締切が4月中旬または下旬です。随時となっている会社も4月末までには応募してください。また、応募してから1週間から2週間後に採用試験があるので、しっかりと準備をしておくこと。)

- ◆ 学校推薦、自由応募のいずれの場合も、決まり次第、担任に連絡すること。
- ◆ 推薦応募期間中(応募から合否がわかるまで)は、他の会社への推薦および自由応募は禁止する。
  - 毎日、「求人新着情報」を確認すること。(担任教員室入口に掲示)
  - 希望先が他の学生と重なっていないか確認し(担任教員室に掲示)、重なった場合はお互いに調整すること。(推薦人数が複数可の場合を除く。)
  - 第1希望が、万一、不合格となった場合に備え、第2希望、第3希望を考えておくこと。応募時期も考慮に入れること。
  - 希望が決まったら、少なくとも1週間前には担任に連絡すること。(推薦書を書くのに時間がかかる。)卒業研究指導教官にも事前に相談しておくこと。
  - 試験日程を確認し、必要な書類を用意し、遅くとも応募締切日の3日前までに書留速達にて投函すること。(写真の裏には氏名、学校名を記入する。スーツ・ネクタイ姿)
  - 一般常識、SPI試験の準備をすること。面接練習は卒業研究の指導教官にお願いすること。少なくとも、「社是、社長名、資本金、従業員数、会社の方針、希望部署、入社する動機、学生時代に打ち込んできたこと、卒業研究」について、具体例を挙げて答えられるようになっていること。
  - 受験の際は、筆記用具、印鑑、交通費の領収書を携帯すること。
  - 面接官に不快感を与えない服装をすること。(茶髪、ピアス、カラーシャツ禁止)
  - 大きな声ではきはきと答える。入室、着席の仕方、姿勢、視線にも注意。
  - 受験終了後は速やかに報告書を提出すること。

### 進学活動

基本的には就職活動に準ずるが、教務係からの案内に注意しておく。

- 教務係で、昨年度の募集要項、ホームページ、過去の入試問題を参考に、予定を把握しておく。
- 推薦基準から外れた場合を考えて、受験勉強をしておくこと。
- 募集要項は基本的に個人で入手すること。教務係がまとめて取寄せる場合もある。

(出典：機械工学科資料)



平成17年度求人一覧表

2006/6/8現在

番号	業種	所在地	募集人数	募集時期	募集職種	勤務地	求人数	専攻科	試験日程	応募期限	応募締切日	応募方法	会社説明会	ホームページ
1	機械材料、樹脂技術	所在地	92/19人	2006年3月	樹脂材料、樹脂技術	所在地	92/19人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
2	食品・パン製造	所在地	411	2006年3月	食品・パン製造	所在地	411	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
3	食品・パン製造	所在地	2420	2006年3月	食品・パン製造	所在地	2420	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
4	食品・パン製造	所在地	92/19人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	92/19人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
5	食品・パン製造	所在地	49/133人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	49/133人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
6	食品・パン製造	所在地	1020/1250人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	1020/1250人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
7	食品・パン製造	所在地	380/3350人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	380/3350人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
8	食品・パン製造	所在地	0/49/133人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/49/133人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
9	食品・パン製造	所在地	2/1283人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	2/1283人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
10	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
11	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
12	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
13	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
14	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
15	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
16	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
17	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
18	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
19	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
20	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
21	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
22	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
23	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
24	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
25	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
26	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
27	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
28	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	
29	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	2006年3月	食品・パン製造	所在地	0/2/265人	専攻科	2006年3月	2006年3月	2006年3月	会社説明会	ホームページ	

(出典：機械工学科資料)

資料 7 - 2 - ④ - 5

## 平成 18 年度大学編入学学生募集要項一覧

No.	大学名	学部名	推薦選抜			一般選抜		
			出願期間	選抜期日	発表日	出願期間	選抜期日	発表日
1	金沢大学	工学部	5/12~5/18	6/7	6/17	5/12~5/18	6/7~7/5	7/15
2	九州工業大学	工学部, 情報工学部	5/16~5/20	6/9	6/20			
3	愛媛大学	工学部	5/23~5/27	6/11	6/22			
4	鹿兒島大学	工学部	5/10~5/12	6/1	6/10	5/10~5/12	6/1	6/10
5	弘前大学	理工学部	5/16~5/24	6/4	6/13	7/19~7/26	8/11	8/19
6	愛媛大学	農学部				6/2~6/10	7/9	7/21
7	北見工業大学	—				5/30~6/2	6/8	6/15
8	広島大学	工学部	5/27~6/2	6/9	6/22			
9	東京大学	工学部						
10	岡山大学	理学部						

※この一覧は、検索用に整理した簡易版であるため、詳細は各募集要項を熟読してください。

(出典：機械工学科資料)

## 平成16年度企業訪問実績

番号	訪問企業名	訪問者	訪問日	
1	日本旅客鉄道	土木工学科 平田 登基男	平成17年3月16日	
2	大阪ガス		}	
3	横河ブリッジ		平成17年3月18日	
4	サンリツオートメーション	情報工学科 山田 一二	平成17年3月21日	
5	SECハイテック		}	
6	日立メディコ		}	
7	NECフィールディング		平成17年3月24日	
8	ルネサンステクノロジー	機械工学科 田畑 隆英	平成17年3月22日	
9	三興コントロール		}	
10	三菱化学エンジニアリング		}	
11	コマツ		}	
12	日本自動ドア		平成17年3月24日	
13	コスモテック	電子制御工学科 宮田 千加良	平成17年3月22日	
14	日研工作所		}	
15	ニッソー		}	
16	ダイキン		}	
17	日産テクノ		}	
18	セイコーインスツルメント		}	
19	アイフォーコム		}	
20	日立ビルシステム		}	
21	三菱電機ビジネスシステム		}	
22	タイヨーインターナショナル		平成17年3月24日	
23	EOS21	電子制御工学科 原田 治行	平成17年3月23日	
24	三菱ビルテクノサービス		}	
25	旭化成		}	
26	クレオ		}	
27	TMC		}	
28	安川エンジニアリング		}	
29	JR九州貨物		}	
30	九州テン		平成17年3月25日	
31	BPA		機械工学科 三角 利之	平成17年3月23日
32	テクシア			}
33	FFCシステムズ	}		
34	ミヤマ工業	}		
35	トヨタ車体	}		
36	津田工業	}		
37	ミヤマ精工	平成17年3月26日		
38	テクノ21グループ	電気電子工学科 今村 成明	平成17年3月28日	
39	ライオン		}	
40	小松製作所		}	
41	トプコン		}	
42	日立メディコ		}	
43	コスモテック	平成17年3月30日		

(出典：学生課資料)

資料7-2-④-6 続き

## 平成17年度企業訪問実績

番号	訪問企業名	訪問者	訪問日
1	五洋建設(株)	土木工学科 平田 登基男	平成18年2月7日 ∩ 平成18年2月10日
2	(株)大本組		
3	(株)熊谷組		
4	オリエンタル建設(株)		
5	横河ブリッジ(株)		
6	JFEシビル(株)		
7	(株)千代田コンサルタント		
8	(株)フジタ		
9	シマノ	機械工学科 池田 英幸	平成18年3月22日 ∩ 平成18年3月25日
10	住友大阪		
11	日本モレックス		
12	ニコン		
13	旭化成		
14	JAL成田整備		
15	ミヤマ工業	電子制御工学科 植村 眞一郎	平成18年3月23日 ∩ 平成18年3月29日
16	プラザー工業		
17	SONY EMCS 長野		
18	出光興産		
19	タイヨーインタナショナル		
20	三菱ビルテクノサービス		
21	東レ	電子制御工学科 坪井 克剛	平成18年3月26日
22	出光興産		
23	三菱重工業名古屋製作所	機械工学科 椎 保幸	平成18年3月28日 ∩ 平成18年3月30日
24	トヨタ自動車		
25	アイシン精機		
26	トヨタ車体		

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程においては、主に各学科のクラス担任が、進路アンケート調査、個別面談、保護者への説明、応募書類等の手続き、面接・筆記試験への対応等、適切な進路指導を行う体制が整っている。また、進路情報の収集については、学生課が窓口となって各学科と連携をとり収集する体制が整えられ、企業訪問等も実施されている。また、専攻科課程においても、準学士課程と同様な進路指導体制が整えられている。このことから、本校では進路指導を行う体制が整備され、機能していると判断される。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 全国最大級規模の学生寮が、教職員の指導と学生による自主管理体制の下で、教育寮として有効に機能している点
- ・ 海外の3つの大学と国際交流協定を結んで、学生の海外研修を支援している点
- ・ 学生何でも相談室を設置し、学生の様々な相談に対して対応している点

(改善を要する点)

特になし

### (3) 基準7の自己評価の概要

準学士課程及び専攻科課程の双方において、入学時のガイダンス、シラバスを用いた授業のガイダンスなどを行う体制が整備され、適切に実施されている。また、学生の自主的学習を進める上では、学級担任や特別研究指導教員による相談・助言体制が整備され、機能している。さらに、オフィス・アワーズや学生何でも相談室においても、学生の相談を受け付ける体制が整備され、機能している。

自主的学習スペースとして、図書館・情報教育システムセンター、教室・ゼミ室等が整備されている。コミュニケーションスペースも整備され、休み時間等に学生が利用している。

学生の学習支援に関するニーズは、授業評価アンケートにおいて把握している。また、各授業担当教員は、関連する資格試験等について、受験案内や手続き、受験勉強の支援等を行っている。資格試験等の合格者には所定の単位を認定しており、特に、英語に関しては、TOEIC BRIDGE、TOEIC IPテストを学内で実施している。外国留学に関しては、留学先で修得した単位を認定している。また、海外の大学との国際交流協定を結んでおり、学生の海外研修を支援している。編入生・留学生についても、数学、日本語等の学習支援を行っている。

各クラブ・同好会の活動、学生会活動を支援するために、指導教員を配置するとともに、必要な資金・施設等を提供している。学生の生活・学習・経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制として、学級担任制度、学生何でも相談室、保健室が整備され、学生委員会も学級担任と密接に連携をとりながら、学生指導にあたっている。なお、セクシュアル・ハラスメントについては、その防止等に関する規則が定められ、相談・助言等の体制が整備されている。

学生寮には、勉学や生活の場として必要な設備が整備されている。また、寮務委員会を中心に、宿日直教員や寮務係の職員が、学習・生活指導を行っている。さらに、学寮チュートリアルの制度も設け、上級生が低学年の学習を支援している。寮生の自主的組織として寮生会が組織され、寮務委員会の指導の下で、寮生の行事や生活について企画・運営を行っている。

進路指導については、各学科のクラス担任や専攻長が、個別面談をはじめとした適切な進路指導を行っている。また、進路情報の収集については、学生課が窓口となって各学科と連携をとり収集する体制が整えられ、企業訪問等も実施されている。

## 基準 8 施設・設備

### (1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。

（観点到に係る状況）

本校の目的に掲げられている「開発型技術者の育成」及び「必要な研究」を行うために、高等専門学校設置基準を満たした教室、研究室、演習室、実験室、実習工場、図書館、情報教育システムセンター、運動場、体育館等各種施設が整備され（資料 8-1-①-1）、それぞれの施設には、教育・研究に必要な設備が整えられている（資料 8-1-①-2～4）。また、校地は121,318㎡、各施設の延べ面積は33,735㎡を有しており、高等専門学校設置基準を満たしている（資料 8-1-①-1）。

教室、演習室等及び実験室等の週当たりの利用率（週当たりの利用時間／40時間）は、教室については約63%、演習室等については約39%であり、実験室等及び実習工場については、約53%である（資料 8-1-①-2～4）。実験室等については、本科及び専攻科を含めて、通常、1学年週当たり4時間～8時間（10～20%）の利用であると考えられるが、本校においては、ほとんどがその利用率を超えており、多目的に利用されていることがわかる。この他に放課後等にも利用されていることから、有効に利用されていると判断される。

#### 観点 8-1-①資料一覧

（資料 8-1-①-1）施設	出典：平成18年度学校要覧
（資料 8-1-①-2）教室利用率	出典：総務課資料
（資料 8-1-①-3）演習室等利用率	出典：総務課資料
（資料 8-1-①-4）実験室等利用率	出典：総務課資料

資料 8 - 1 - ① - 1

# 施設

## Facilities

### 土地 (平成18年5月1日現在) Land (As of May 1,2006)

区分 Classification	校舎敷地 College Buildings	屋外運動場 Sports Field	寄宿舎敷地 Dormitory	小計 Sub-Total	職員宿舎敷地 Staff Housing	合計 Total
面積 Area	56,231㎡	48,193㎡	16,894㎡	121,318㎡	8,467㎡	129,785㎡

### 建物 (平成18年5月1日現在) Buildings (As of May 1,2006)

区分 Classification	名称 Name	構造 Structure	延面積(㎡) Building Area	完成年度 Completion	備考 Notes
校舎	管理棟	R 2	1,035	S 39	
	地域共同テクノセンター	R 2	414	H12	
	専攻科棟	R 4	1,213	H13	
	一般科目棟	R 3	1,765	S 39	
	学生共通棟	R 2, R 3	924	S 39	
	電気電子工学科棟	R 3	1,579	S 39	H15改修
	機械工学科棟	R 3	1,735	S 41	H15改修
	機械及び土木工学科棟	R 2	600	S 43	
	機械工場	R 1	720	S 40	
	土木工学科棟	R 3	1,734	S 43	
	機械工学科棟	R 2	460	S 47	
	機械実習棟	R 1	504	S 42	
	情報工学科棟	R 5	2,227	S 62	
	普通教室棟	R 3	663	S 56	
	福利施設	R 2	800	S 55	
	情報教育システムセンター	R 1	304	S 49	
	電子制御工学科棟	R 3	785	H 5	
	図書室	R 2	1,660	S 47	
	区	第一体育館	S 1	1,106	S 41
武道場		S 1	301	S 43	
第二体育館		S 1	880	S 55	
その他			1,162		
	計		22,571		
寄宿舎地区	第一志学寮	R 4	2,622	S 43	H 3 改修
	第二志学寮	R 3	1,423	S 38	H 2 改修
	第三・第四志学寮	R 3	1,359	S 40, S 41	H 2 改修
	第五志学寮	R 3	650	S 40	H 4 改修
	第六志学寮	R 5	2,563	H 1	
	女子志学寮	R 2	756	S 61	S 61改修
	女子志学寮	R 1	187	S 39, S 43	H 4 改修
	寄宿舎共用施設	R 2	677	H 1	
	寄宿舎食堂	R 1	727	S 39, S 46	H 4 増築
	その他		200		
	計		11,164		
	職員宿舎	W 1	1,636	S 39	26戸
	合計		35,371		

(出典：平成18年度学校要覧)



## 教室利用率

施設名 (棟名)	階	部屋名	面積 (m <sup>2</sup> )	部屋を利用する学科	1人あたり面積 (m <sup>2</sup> /人)	利用時間計 (正規の授業時間)	利用率 (正規の授業)
電気工学科棟	1	1年機械	86	機械工学科	2.00	23	63.89%
電気工学科棟	2	1年電気電子	85	電気電子工学科	1.93	22	64.71%
電気工学科棟	2	1年電子制御	86	電子制御工学科	1.91	22	62.86%
電気工学科棟	3	1年情報	85	情報工学科	1.98	22	64.71%
電気工学科棟	3	1年土木	86	土木工学科	2.00	24	66.67%
機械工学科棟(010)	1	2年機械	77	機械工学科	1.75	22	64.71%
機械工学科棟	1	2年電気電子	85	電気電子工学科	2.07	27	81.82%
機械工学科棟	2	2年電子制御	85	電子制御工学科	1.98	23	67.65%
機械工学科棟	2	2年情報	85	情報工学科	1.93	25	73.53%
機械工学科棟	1	2年土木	85	土木工学科	1.85	27	79.41%
機械工学科棟	2	3年機械	86	機械工学科	1.62	24	66.67%
機械工学科棟	1	3年電気電子	85	電気電子工学科	1.67	27	77.14%
機械工学科棟(010)	2	3年電子制御	76	電子制御工学科	1.65	28	75.68%
土木工学科棟	2	3年情報	76	情報工学科	1.62	28	73.68%
土木工学科棟	2	3年土木	58	土木工学科	1.32	25	67.57%
機械工学科棟	3	4年機械	85	機械工学科	2.18	22	64.71%
機械工学科棟(010)	2	4年電気電子	77	電気電子工学科	2.14	23	65.71%
普通教室棟	2	4年電子制御	73	電子制御工学科	1.55	20	60.61%
普通教室棟	3	4年情報	69	情報工学科	1.82	14	41.18%
土木工学科棟	2	4年土木	58	土木工学科	1.38	20	58.82%
機械工学科棟	3	5年機械	85	機械工学科	2.24	12	38.71%
学生共通棟	2	5年電気電子	81	電気電子工学科	1.93	16	50.00%
普通教室棟	2	5年電子制御	73	電子制御工学科	5.62	16	53.33%
普通教室棟	3	5年情報	69	情報工学科	3.45	10	31.25%
機械工学科棟	2	5年土木	58	土木工学科	1.41	13	40.63%

平均利用率 62.65%

(出典：総務課資料)

## 演習室等利用率

施設名 (棟名)	階	部屋名	面積 (㎡)	部屋を利用 する学科	1人あたり 面積 (㎡/人)	利用時間計 (正規の授業 時間)	利用率 (正規の 授業)
機械及び土木工学科棟	2	土木演習室	77	土木工学科	8.56	10	25.00%
情報教育システムセンター	1	情報処理演習室	101	複数学科	2.46	24	60.00%
学生共通棟	2	階段教室	163	複数学科	7.41	13	32.50%
機械及び土木工学科棟	2	CAD室	116	複数学科	2.97	16	40.00%
情報工学科棟	1	合併講義室	119	複数学科	7.93	15	37.50%
情報工学科棟	1	第4製図室	138	複数学科	3.14	5	12.50%
情報工学科棟	3	情報棟パソコン室	92	複数学科	5.41	31	77.50%
図書館	1	LL教室	128	複数学科	4.13	29	72.50%
図書館	2	視聴覚教室	128	複数学科	5.82	15	37.50%
図書館	2	図書館パソコン室	94	複数学科	2.76	4	10.00%
図書館	2	第2ゼミナール室	64	複数学科	5.82	4	10.00%
専攻科棟	1	土木専攻ゼミ室	22	専攻科	2.44	14	35.00%
専攻科棟	2	専攻科棟共用教室	160	専攻科	14.55	26	65.00%
専攻科棟	3	電気情報専攻ゼミ室	31	専攻科	2.82	12	30.00%
専攻科棟	4	機械・電子専攻ゼミ室	31	専攻科	2.21	14	35.00%

平均利用率 38.67%

(出典：総務課資料)

## 資料 8 - 1 - ① - 4

## 実験室等利用率

建物名称①	部屋名③	面積 (㎡)	学科名④	1人あたり 面積 (㎡/人)	主な施設・設備・実験機 器等名1	正規の 授業時 間	時間外 の利用 時間	利用時 間計	利用率(正 規の授業)	利用率(全 体)
一般科目棟	化学実験室	114	一般科目	2.71	ドラフトチャンパー	12	7	19	30.00%	47.50%
一般科目棟	電気機械工作実験室及び準備室(電気機械実験室)	182	電気電子工学科	9.58	電動発電機実験装置(5台)	40	10	50	100.00%	125.00%
一般科目棟	電子物性実験室	44	電気電子工学科	8.80	超高真空蒸着装置	10	4	14	25.00%	35.00%
一般科目棟	電気機械実験準備室	28	電気電子工学科	5.60	シーケンス制御実験装置	26	10	36	65.00%	90.00%
一般科目棟	電気磁気実験室	142	電気電子工学科	14.20	模擬送電線路	20	2	22	50.00%	55.00%
一般科目棟	物理実験室	124	一般科目	1.55	電圧計	5	0	5	12.50%	12.50%
一般科目棟	応用物理実験室	73	一般科目	0.84	e/m測定器等	10	0	10	25.00%	25.00%
一般科目棟	電子応用実験室	29	電気電子工学科	3.63	PC(6台)	32	9	41	80.00%	102.50%
一般科目棟	電子通信実験室	197	電気電子工学科	10.37	工作機器(ボール盤等)	14	20	34	35.00%	85.00%
学生共通棟	システム解析装置室(マスコブ室)	44	電気電子工学科	7.33	PC(3台)	26	5	31	65.00%	77.50%
機械工場	F Aシステム実験室	144	機械工学科・電子制御工学科	20.57	NC旋盤	22	8	30	55.00%	75.00%
機械工場	プログラミング室	72	機械工学科・電子制御工学科	12.00	パソコン	22	8	30	55.00%	75.00%
機械工場	応用システム実習室	41	機械工学科・電子制御工学科	5.86	炭酸ガスレーザ加工機	19	15	34	47.50%	85.00%
機械工場	機械実習工場(旋盤フロア)	162	機械工学科・電子制御工学科	3.24	普通旋盤	22	0	22	55.00%	55.00%
機械工場	精密測定室(2)	36	機械工学科・電子制御工学科	7.20	3次元測定機	16	9	25	40.00%	62.50%
機械工場	鍛造工場	90	機械工学科・電子制御工学科	18.00	電気炉	6	18	24	15.00%	60.00%
機械工場	鋳造工場	90	機械工学科・電子制御工学科	11.25	溶鋳炉	9	3	12	22.50%	30.00%
機械工場	特殊材料加工室	36	機械工学科	2.25	投影機	20	15	35	50.00%	87.50%
機械実習棟	プロセス制御実験室	72	電子制御工学科	6.00	磁気環境実験装置	31	0	31	77.50%	77.50%
機械実習棟	可視化実験室	36	機械工学科	3.60	可視化情報システム	30	10	40	75.00%	100.00%
機械実習棟	内燃機関実験室(熱機関実験室)	144	機械工学科	13.09	アイソレーションアンプ	32	10	42	80.00%	105.00%
機械実習棟	溶接実験室	144	機械工学科・電子制御工学科	5.54	動力シャー	23	9	32	57.50%	80.00%
機械実習棟	流体力学実験室(流体工学実験室)	108	機械工学科	10.80	風洞	30	10	40	75.00%	100.00%
土木工学科棟	構造実験室・廃棄物実験室	114	土木工学科	22.80	恒温乾燥炉	18	0	18	45.00%	45.00%
土木工学科棟	材料実験室	154	土木工学科	51.33	コンクリートミキサ	40	20	60	100.00%	150.00%
土木工学科棟	水理実験室・準備室	192	土木工学科	4.00	開水路実験装置(緩勾配)	28	20	48	70.00%	120.00%
土木工学科棟	光弾性実験室	29	土木工学科	5.80	光弾性実験装置一式	6	0	6	15.00%	15.00%
土木工学科棟	土木コンピュータ室	29	土木工学科	3.63	パソコン	30	0	30	75.00%	75.00%
機械及び土木工学科棟	機械力学実験室	38	機械工学科	9.50	高速度加工機	4	4	8	10.00%	20.00%
機械及び土木工学科棟	機素実験室	39	機械工学科	7.80	デジタルオシロスコープ	16	0	16	40.00%	40.00%
機械及び土木工学科棟	土質実験室・土質準備室	153	土木工学科・専攻科	3.19	三軸試験装置 1台	36	20	57	90.00%	142.50%
機械及び土木工学科棟	電子デバイス実験室	75	電気電子工学科	8.33	電気炉(熱酸化炉、熱拡散炉)	10	4	14	25.00%	35.00%
機械工学科棟(010)	衛生工学実験室(1)	52	土木工学科	5.78	水質分析機器	30	6	36	75.00%	90.00%
機械工学科棟(010)	衛生工学実験室(2)	25	土木工学科・専攻科	5.00	ガスクロマトグラフ	40	20	75	100.00%	187.50%
機械工学科棟(010)	熱工学実験室	77	機械工学科・電子制御工学科	8.56	ディーゼルエンジン	23	2	25	57.50%	62.50%
機械工学科棟(010)	流体実験室(流体力学実験室)	76	機械工学科	10.86	流体力学実験装置	30	10	40	75.00%	100.00%
車庫	倉庫(高電圧実験準備室)	18	電気電子工学科	2.57	高速回転ミキサー	26	15	41	65.00%	102.50%
バス車庫	バス車庫(高電圧実験室)	44	電気電子工学科	6.29	インパルス電圧発生装置一式	26	15	41	65.00%	102.50%
倉庫	多目的実験室	29	土木工学科・専攻科	5.80	大型電気マッフル炉	38	20	58	95.00%	145.00%

(出典：総務課資料)

## 資料 8 - 1 - ① - 4 続き

## 実験室等利用率

建物名称①	部屋名③	面積 (㎡)	学科名④	1人あたり 面積 (㎡/人)	主な施設・設備・実験機 器等名1	正規の 授業時 間	時間外 の利用 時間	利用時 間計	利用率(正 規の授業)	利用率(全 体)
資材倉庫	資材倉庫	60	土木工学科	7.50	データロガー	32	0	32	80.00%	80.00%
福利施設	工作実験室	112	機械工学科	2.24	プライス	21	10	31	52.50%	77.50%
普通教室棟	材料実験室	147	機械工学科	14.70	各種硬度試験機	15	0	15	37.50%	37.50%
普通教室棟	電気工学実験室	29	電気電子工学科	4.83	パソコン5台	30	20	50	75.00%	125.00%
情報工学科棟	電気基礎実験室	119	情報工学科	19.83	デジタルオシロ	7	0	7	17.50%	17.50%
情報工学科棟	電子回路実験室	89	情報工学科	14.83	デジタルオシロ	7	0	7	17.50%	17.50%
情報工学科棟	デジタル回路実験室	119	情報工学科	3.13	マイコンボード (HS)	4	0	4	10.00%	10.00%
情報工学科棟	計算機室	46	情報工学科	4.60	PC等	10	0	10	25.00%	25.00%
情報工学科棟	データ通信実験室	46	情報工学科	9.20	PC 15台	10	13	23	25.00%	57.50%
情報工学科棟	デジタル回路応用実験室	46	情報工学科・専攻科	7.67	無響室教室	28	0	28	70.00%	70.00%
情報工学科棟	計算機システム実験室	46	情報工学科	13.14	パソコン	6	0	6	15.00%	15.00%
情報工学科棟	情報処理工学実験室	44	情報工学科・専攻科	4.89	パソコン10台	36	0	36	90.00%	90.00%
情報工学科棟	ICデバイス実験室	46	情報工学科・専攻科	7.67	プログラマブルマルチメータ	28	0	28	70.00%	70.00%
情報工学科棟	センサー応用実験室	44	情報工学科	8.80	パソコン	10	8	18	25.00%	45.00%
情報工学科棟	デジタル制御実験室	46	情報工学科・専攻科	5.75	パソコン	28	0	28	70.00%	70.00%
情報工学科棟	電子回路応用実験室	46	情報工学科・専攻科	7.67	コンピュータ,	14	0	14	35.00%	35.00%
電子制御工学科棟	ロボット工学実験室	88	電子制御工学科	7.33	工業用ロボット	12	0	12	30.00%	30.00%
電子制御工学科棟	数値制御実験室	44	電子制御工学科	3.67	パソコン	12	0	12	30.00%	30.00%
電子制御工学科棟	電気工学実験室	32	電子制御工学科・専攻科	6.40	パソコン	29	0	29	72.50%	72.50%
電子制御工学科棟	計測工学実験室	44	電子制御工学科	3.67	G P I B 実習設備	9	0	9	22.50%	22.50%
電子制御工学科棟	電子計算機室	49	電子制御工学科	4.08	パソコン	9	0	9	22.50%	22.50%
電子制御工学科棟	電子工学実験室	88	機械工学科・電子制御工学科	3.73	直流安定化電源	19	0	19	47.50%	47.50%
電子制御工学科棟	シミュレーション実験室(1)	24	電子制御工学科・専攻科	4.80	パソコン	29	0	29	72.50%	72.50%
電子制御工学科棟	シミュレーション実験室(2)	16	電子制御工学科	3.08	パソコン	3	0	3	7.50%	7.50%
電子制御工学科棟	制御工学実験室	88	機械工学科・電子制御工学科	3.83	オシロスコープ	20	0	20	50.00%	50.00%
専攻科棟	解析室	41	土木工学科・専攻科	6.83	SIS	33	1	34	82.50%	85.00%
専攻科棟	土木工学専攻実験室(1)	40	土木工学科・専攻科	6.67	粉砕機、パソコン	6	20	26	15.00%	65.00%
専攻科棟	土木工学専攻実験室(2)	40	土木工学科・専攻科	8.00	全窒素・全炭素測定装置	40	20	60	100.00%	150.00%
専攻科棟	電気情報システム工学専攻実験室(1)	28	電気電子工学科・専攻科	4.67	パワーアナライザ	26	10	36	65.00%	90.00%
専攻科棟	電気情報システム工学専攻実験室(2)	84	電気電子工学科・情報工学科・専攻科(電気・情報)	7.64	パソコン8台、プリンタ2台	28	20	52	70.00%	130.00%
専攻科棟	無響室	18	電気電子工学科	3.00	パソコン	10	0	10	25.00%	25.00%
専攻科棟	機械・電子システム工学専攻実験室(1)	29	専攻科	9.67	パソコン	36	0	36	90.00%	90.00%
専攻科棟	機械・電子システム工学専攻実験室(2)	37	機械工学科・専攻科	5.29	パソコン3台	36	0	36	90.00%	90.00%
専攻科棟	機械・電子システム工学専攻実験室(3)	60	専攻科	8.33	パソコン	38	0	38	95.00%	95.00%
								平均利用率	53.39%	69.83%

(出典：総務課資料)

## (分析結果とその根拠理由)

高等専門学校設置基準を満たし、教育課程の実現に相応しい施設・設備が整備されている。教室、演習室等及び実験室等の利用率は、それぞれ約63%、約39%及び約53%となっている。また、実験室等については、本科及び専攻科を含めて、通常、1学年週当たり4時間～8時間(10～20%)の利用であると考えられるが、本校においては、ほとんどがその利用率を超えており、多目的に利用されていることがわかる。この他に放課後等にも利用されていることから、有効に利用されていると判断される。

**観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。**

## (観点に係る状況)

情報教育設備として、情報教育システムセンター、図書館パソコン室、情報棟パソコン室にWindowsパソコン及びUNIX端末が整備されている(資料8-1-②-1)。このほか、実験・実習・卒業研究用に各教員の研究室や実験室などにもパソコンが整備されている。また、これらのパソコンは、高速キャンパスネットワークによるイントラネットに接続されており、インターネットを通じた学内LANシステムの情報処理教育設備環境は整っている(資料8-1-②-2)。これらの情報教育施設の利用については、利用規則が定められている(資料8-1-②-3)。

学生の情報教育システムセンター設備に関してのニーズを把握するため、意見箱やメールによる意見収集の機会を設けているが(資料8-1-②-4)、現在までに特に学生からの意見はなく、学生にとって現状の情報教育設備への大きな不満はないと考えられる。

本校では、情報セキュリティ・ポリシーを策定し、これに基づき、セキュリティシステムが整備され、情報教育システムセンター長の下、学内LANシステム管理者が必要に応じて管理・運用・保守等を行っている(資料8-1-②-5)。また、各学科とも、1年次の情報処理教育又は情報リテラシー教育において、ウェブブラウザ、電子メールなどのインターネットの利用、著作権に関すること、ネチケットなどのインターネット利用時のルール・マナーなどについて教育している(資料8-1-②-6)。

これらの情報教育設備は、授業・実験において計画的に利用(資料8-1-②-7)されており、また、自主学習でも利用(資料8-1-②-8)されている。

**観点 8-1-②資料一覧**

(資料8-1-②-1) 授業内外で学生の利用可能なパソコンの台数	出典：平成18年度学生便覧
(資料8-1-②-2) ネットワークシステムにおける主要スペック	出典：情報教育システムセンター資料
(資料8-1-②-3) 情報教育システムセンター利用規則	出典：規則集
(資料8-1-②-4) 学生への意見収集の依頼	出典：情報教育システムセンター資料
(資料8-1-②-5) 情報教育システムセンター規則	出典：規則集
(資料8-1-②-6) 情報処理教育の資料等 シラバス	出典：平成18年度シラバス
(資料8-1-②-7) パソコン室利用計画表	出典：学生課資料
(資料8-1-②-8) 自主学習での利用状況(利用人数)	出典：情報教育システムセンター資料

### 2-3 パソコン室の紹介

学生は、当センター内の「情報処理演習室」と、図書館2階の「図書館パソコン室」および「第二ゼミナール室」、情報工学科棟3階の「情報棟パソコン室」を利用できます。

#### ◇情報処理演習室 (当センター内)

デュアルブートパソコン (Windows XP, Linux) 45台

#### ◇図書館パソコン室 (図書館2階)

パソコン (Windows XP) 45台

#### ◇第二ゼミナール室 (図書館2階)

デュアルブートパソコン (Windows XP, Linux) 21台

#### ◇情報棟パソコン室 (情報棟3階)

パソコン (Windows XP) 45台

#### ◇準備室 (当センター内)

B0プロッタ, A0プロッタ, カラーレーザープリンタ, 数台のパソコン (WindowsおよびMac) が備えられています。管理室に届け出てから指導教員または担任の立ち会いの下で利用して下さい。

(出典：平成18年度学生便覧 82, 83頁)

#### ネットワークシステムにおける主要スペック

教職員用ファイルサーバの容量	250GB
学生用ファイルサーバの容量	800GB
バックボーン (建屋間) の速度	1Gbps
学内での接続 (端末間) の速度	一般 100Mbps, 基幹 1Gbps
外部ネットワーク (外部接続) の速度	6Mbps

(出典：情報教育システムセンター資料)

## 資料 8-1-②-3

## ○鹿児島工業高等専門学校情報教育システムセンター利用規則

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島工業高等専門学校情報教育システムセンター規則第9条に基づき、本校の情報教育システムセンター（以下「センター」という。）の利用について定めるものであり、センターの効率的な利用をはかることを目的とする。

(利用者)

第2条 センターを利用できる者は、次に掲げる者とする。

- (1) 本校の職員
- (2) 本校の学生
- (3) その他校長が必要と認めた者

(利用者)

第3条 センターの利用時間は、原則として8時30分から19時までとする。ただし、休業日については、別に定める。

(利用の優先順位)

第4条 センターの施設利用の優先順位は、原則として次に掲げるとおりとし、順位変更の必要が生じたときは、利用者相互の協議を経て情報教育システムセンター長（以下「センター長」という。）が決定するものとする。

- (1) 授業に関するもの
- (2) 卒業研究に関するもの
- (3) 教員の研究及び事務職員の利用に関するもの
- (4) その他

(時間外利用)

第5条 時間外に利用しようとする者は、あらかじめセンター長の許可を受けなければならない。

2 本校職員のうち、次に掲げる者は、時間外においてもセンターの施設を利用し、又はその立会いのもとに、他の者に利用させることができる。

- (1) センター長
- (2) 情報教育システム委員会（以下「委員会」という。）が計算機の操作及び関連する事項について、十分な知識と経験を有すると認めた者

(利用上の遵守事項)

第6条 センターを利用する者は、別に定める情報教育システムセンター利用の手引（以下「手引」という。）に従わなければならない。

2 手引の制定及び改訂は、センター長が委員会の議を経て必要に応じて行うものとする。

(利用の禁止)

第7条 利用者がこの規則に違反して、センターの運営に重大な支障を生じさせたとき、又は生じさせるおそれがあるときは、センター長はセンターの利用を禁止する。

(出典：規則集)

## 資料 8-1-②-4

2006.2.1

学生各位

センターからのお願いです。

情報教育システムセンターおよび各パソコン室(図書館2階 & 情報棟2階)の設備等に関してご意見があれば、メールもしくは紙上で建設的なご意見をお寄せ下さい。

紙上での意見はそれぞれの部屋の前に意見箱が置いてありますので利用してください。

書式は特に設けてありませんので、建設的な意見を自由に記述してください。

メールでの投稿は \*\*\*\*\*@kagoshima-ct.ac.jp です。

以上、よろしくお願い致します。

(出典：情報教育システムセンター資料)



## ○ 鹿兒島工業高等専門学校情報教育システムセンター規則

(設置)

第1条 鹿兒島工業高等専門学校に、情報教育システムセンター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、情報処理教育、教員研究及び事務処理等の充実を図ることを目的とする。

(施設)

第3条 センターに次の各号に掲げる施設を置く。

- (1) 中央電子計算機室
- (2) パーソナルコンピュータ室
- (3) ローカルエリアネットワーク（以下「LAN」という。）

(情報教育システムセンター長)

第4条 情報教育システムセンター長は校長が任命し、その任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センターの業務)

第5条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 電子計算機の操作及び保守、管理
- (2) 情報処理教育における電子計算機演習の補佐
- (3) LANの運用及び整備
- (4) その他センターに関する業務

(情報教育システム管理者)

第6条 センターに、情報教育システム管理者（以下「管理者」という。）を置く。

2 管理者は校長が任命し、その任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(管理者の業務)

第7条 管理者は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 電子計算機の保守、管理
- (2) LANの運用、保守、管理及び運営
- (3) その他電子計算機に関する業務

(出典：規則集)

資料 8 - 1 - ② - 6

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	1年次・前期・講義・演習
情報基礎 (Fundamentals of Information Engineering)	担当教員	田畑隆英 (Tabata, Takahide)
	教員室	機械工学科棟2 階 (tel. 42-9110)
	電子メールアドレス	tabata@kagoshima-ct.ac.jp
単位の種別と単位数 学習時間と回数	履修単位：1単位 授業（100分）×30回	
〔本科目の目標〕 コンピュータをツールとして利用するための基礎知識や基本的な操作方法を習得することを目標とする。		
〔本科目の位置付け〕 2年次以上での情報処理演習がスムーズに行えるようにコンピュータの基本的な操作方法を習得する。		
〔学習上の留意点〕 積極的に学習に取り組み、疑問点があれば、その都度質問すること。レポートの提出期限を守ること。		
〔授業の内容〕		
授 業 要 目	時 限 数	理 解 す べ き 内 容
1. Windows入門	2	(1)Windows の操作方法
2. エディタ	2	(1)メモ帳の操作方法
3. ペイント	2	(1)ペイントブラシの操作方法
4. ワードプロ	2 4	(1)Microsoft Word の操作方法 (2)文書作成演習
5. 表計算	2 4	(1)Microsoft Excel の操作方法 (2)表計算演習
6. WWWブラウザ	2	(1)WWW ページへのアクセス、情報検索、著作権
7. 電子メール	2	(1)電子メール、パスワード管理、ネチケット
8. プレゼンテーション	2 4 2	(1)Microsoft PowerPoint の操作方法 (2)プレゼンテーション作成 (3)プレゼンテーション発表
〔参考書・補助教材〕〔教科書：なし〕 プリントを配布する。		
〔成績評価〕 定期試験成績 (50%) + レポート (50%)		
〔本科（準学士課程）の学習教育目標との関連〕 3-b 〔JABEEとの関連〕		

(出典：平成 18 年度シラバス 116 頁)

資料 8-1-②-6 続き

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	1年次・前期(週2時間)・講義&演習
情報基礎 I (Fundamentals of Information Processing I)	担当教員	加治屋 徹実 (Kajiya, Tetsumi) 須田 聡夫 (Suda, Takao) 奥 高洋 (Oku, Takahiro) 今村 成明 (Imamura, Naoki) 前原 正次 (Maehara, Masaki)
	教員室	加治屋: 電気電子工学科棟2階 (Tel. 42-9078) 須田: 電気電子工学科棟2階 (Tel. 42-9079) 奥: 電気電子工学科棟2階 (Tel. 42-9079) 今村: 電気電子工学科棟2階 (Tel. 42-9022) 前原: 電気電子工学科棟1階 (Tel. 42-9071)
	電子メールアドレス	加治屋: kajiyu@kagoshima-ct.ac.jp 須田: suda@kagoshima-ct.ac.jp 奥: oku@kagoshima-ct.ac.jp 今村: i_mamura@kagoshima-ct.ac.jp 前原: maehara@kagoshima-ct.ac.jp
単位の種別と単位数 学習時間と回数	履修単位: 1単位 授業 (100分) × 15回	
【本科目の目標】 コンピュータの基本的な構成を学び、PC-UNIX、Windowsなどの操作法を習得する。また、ネットワークへのアクセス、メールの利用を通じて、ネットワークにおけるエチケット(ネチケット)を理解する。		
【本科目の位置付け】 本科目は情報処理、情報処理特論など、情報端末の操作を要する科目の基本となる。		
【学習上の留意点】 本科目は演習が主である。これからのエンジニアはコンピュータが扱えることが必須となっているため、学生諸君には、積極的に講義に参加し、各種情報端末に慣れ親しむことを要する。		
【授業の内容】		
授業要目	時間数	理解すべき内容
1. コンピュータの歴史	2	コンピュータの黎明期から現代までの変遷
2. コンピュータの構成 (1) 2進数、16進数 (2) 構成要素	6	2進数表現および16進数表現、その演算 コンピュータを構成する5つの基本要素
3. ソフトウェア	2	オペレーティングシステム、アプリケーションソフトの役割
4. UNIX入門 (1) ログインとログアウト (2) Emacsを用いたテキスト編集 (3) ファイル・ディレクトリの概念	2 4 2	システムへのログイン、ログアウト テキストの編集法 ファイル、ディレクトリの概念、およびツリー構造
5. Windows入門 (1) PC各部の名称とエディタ (2) インターネット	2 8	PC各部の名称、Windowsの名称、メニュー 電子メールの送受信、ネチケット、著作権について
【教科書】 適宜プリントを配布する 【参考書・補助教材】 特になし		
【成績評価】 定期試験成績 (70%) + レポート提出 (30%) - 授業態度		
【本科(準学士課程)の学習教育目標との関連】 3-b 【JABEEとの関連】		

(出典: 平成18年度シラバス 179頁)

資料 8-1-②-6 続き

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	1年次・前期・講義、演習
電子制御基礎 (Introduction to Control Engineering)	担当教員	坪井 克典 (Tsuboi, Katsutaka) 吉澤 真一 (Yoshimitsu, Shinichi)
	教員室	坪井 機械工学科棟1F (Tel. 42-9086) 吉澤 一般科目棟2階 (Tel. 42-9089)
	電子メールアドレス	tsuboi@kagoshima-ct.ac.jp yoshimitsu@kagoshima-ct.ac.jp
単位の種別と単位数 学習時間と回数	履修単位 1単位 授業 (100分) × 15回	
【本科目の目標】 電子制御工学科において学習する内容の導入教育として、メカトロニクス技術に関する基礎知識を習得する。また、Windowsパソコンおよびソフトウェアの基本的な操作法を習得し、ネットワーク通信上のエチケット(ネチケット)、著作権について理解することを目標とする。		
【本科目の位置付け】 2年生以上で学習する専門系科目および3、4年生の新造設計の基礎となる。また本校の計算機システムの利用に際して必要な知識を学ぶ。		
【学習上の留意点】 本科目のメカトロニクス理論は講義、後半の情報技術基礎部分は演習が主となる。積極的に学習に取り組み、疑問点があれば、その都度質問すること。毎目にレポートが課せられるので、その提出期限を守ることを。		
【授業の内容】		
授業要目	時間数	理解すべき内容
1. メカトロニクス概論	4	メカトロニクスとは 電子機構の構成とその周辺技術 コンピュータ センサ アクチュエータ 制御の種類
2. 情報技術基礎 WWWブラウザ 電子メール ワープロソフト 表計算ソフト プレゼンテーションソフト	2 2 4 4 4 2	WWWページへのアクセス、著作権 電子メール パスワード管理、ネチケット Microsoft Wordの操作方法 文書作成 Microsoft Excelの操作方法 データシート・グラフの作成 Microsoft PowerPointの操作方法 プレゼンテーションシートの作成 発表会
【教科書】 なし 【参考書・補助教材】 適宜プリントを配布する		
【成績評価】 中間試験および期末試験成績 (50%) + レポートの成績 (50%) - 授業態度		
【本科(準学士課程)の学習教育目標との関連】 3-b, 3-c 【JABEEとの関連】		

(出典: 平成18年度シラバス 247頁)

資料 8-1-②-6 続き

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	1年次・前期・実習
コンピュータリテラシ (Computer Literacy)	担当教員	新徳 健 (Shintoku, Takeshi)
	教員室	情報工学科棟4階 (Tel. 42-9093)
	電子メールアドレス	shintoku@kagoshima-ct.ac.jp
単位の種別と単位数 学習時間と回数	履修単位: 1単位 授業 (100分) × 15回	
【本科目の目標】 計算機システムに慣れ親しむ、Windowsパソコンの基本的な操作を習得する。またこれらの利用法および使用上の注意を学習すると共にネットワーク通信上のエチケット(ネチケット)、ソフトウェアの著作権について理解することを目標とする。		
【本科目の位置付け】 2年生以上で学習する情報処理関係の科目など、本校の計算機システムの操作を必要とする科目の基礎となる。		
【学習上の留意点】 本科目は演習が主であるので、積極的に学習に取り組み、疑問点があればその都度質問すること。要目ごとにレポートが課せられるのでその提出期限を守ることを。		
【授業の内容】		
授業要目	時間数	理解すべき内容
1. Windows 入門 タイピング練習 エディタ ペイント ワープロ 表計算 WWW ブラウザ プレゼンテーション	2 2 2 2 2 2 2 2	Windowsの起動・終了、機能、ファイル操作 キーボードの操作方法、文字入力 メモ帳の操作方法 ペイントブラシの操作方法 Microsoft Wordの操作方法 Microsoft Excelの操作方法 WWW ページへのアクセス、著作権 Microsoft PowerPointの操作方法
2. UNIX入門 電子メール	2 2	UNIXの基礎知識、ログイン、ログアウト 電子メール、パスワード管理、ネチケット
【教科書】 Microsoft Office XP を使った情報リテラシーの基礎 - 資木邦弘他3名共著、近代科学社 【参考書・補助教材】 必要な時は、その都度担当教員が準備し、配布する。		
【成績評価】 実習・講義等、定期試験成績 (60%) + 提出物 (40%) - 授業態度等 (20%) 最大		
【本科(準学士課程)の学習教育目標との関連】 3-b 【JABEEとの関連】		

(出典: 平成18年度シラバス 306頁)

資料 8-1-②-6 続き

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	1年次・通年・講義&演習
情報基礎 I (Information Processing I)	担当教員	内田 一平 (Uchida, Ipei)
	教員室	土木工学科棟2階 (Tel. 42-9117)
	電子メールアドレス	uchida@kagoshima-ct.ac.jp
単位の種別と単位数 学習時間と回数	履修単位 授業 (105分) × 30回	
【本科目の目標】 本科目は前期において、計算機システムに慣れ親しむとともに、Windows パソコンの基本的な操作法を習得し、それらの利用方法および使用上の注意点を学習することを目的としている。後期においては、Microsoft社のExcel、VBAを通じて、プログラム技術の習得ならびに論理的思考の発展を冀うことを目的としている。		
【本科目の位置付け】 本科目は、2年生以上で学習する情報処理系科目(情報処理Ⅱ・数値解析)ならびに設計製図関連の科目(基礎製図・構造物設計・橋梁設計)の基礎となる科目である。また、本科目で習得するソフトウェアの操作法は、工学実験や卒業研究などレポート・論文の作成には必要不可欠である。		
【学習上の留意点】 本科目は演習を通じて習得する事柄が多いため、積極的に学習に取り組み、疑問点があれば、その都度授業担当者に質問してその疑問点をその場で無くす努力をすること。事情があり欠課する場合は、欠課明けに授業担当者まで配布プリントの有無と次回授業までに完了させるべき作業内容を必ず確認すること。また、授業要目毎にレポートを課すが、提出ルールや提出期限を厳守すること。		
【授業の内容】		
授業要目	時間数	理解すべき内容
1. オリエンテーション	2	情報処理の必要性
2. Windows系パソコン基礎 (1) 構成要素 (2) ログオンとログオフ (3) キーボードとマウスの操作、日本語入力 (4) ファイル操作	2 1 1 2	パソコンの構造と各部役割、OSとアプリケーションソフトの役割 パソコンの起動と終了、パスワードの重要性、デスクトップ内の構成 キーボードとマウスの操作、日本語入力 ファイル操作、ファイル整理法、記憶装置とメディア
3. 通信基礎 (1) ネットワーク基礎知識 (2) 情報検索 (3) 情報伝達	2 2 4	WANとLANの違い、サーバーとクライアントの概念と役割 検索方法、検索方法の選択の考え方、情報の信頼性、著作権保護 電子メールの送受信方法、メールのルール、ネチケット
4. アプリケーション (1) ワープロ (2) 表計算 (3) プレゼンテーション	6 8 8	Microsoft Wordの基本操作方法 Microsoft Excelの基本操作方法 Microsoft PowerPointの基本操作方法
5. Excel VBA 基礎 (1) VBAとEXCELの関係 (2) 定数と変数 (3) 算術演算 (4) 分岐 (5) 繰り返し (6) 演習	2 4 4 4 4	
【教科書】 【参考書・補助教材】 授業時配布プリント(講義内容の要旨・ファイルを用意すること)		
【成績評価】 定期試験成績 (50%) + レポート (30%) + テスト (20%) - 授業態度 (0%)		
【本科(準学士課程)の学習教育目標との関連】 3-b 【JABEEとの関連】		

(出典: 平成18年度シラバス 362頁)

資料 8-1-②-7

平成 18 年度前期

図書館パソコン室・情報処理演習室・第 2 ゼミ室・情報棟パソコン室利用計画表

平成 18 年 4 月 19 日現在

	1	2	3	4	5	6	7	8
月	図書館パソコン室		4 I システムブ・豊平					
	情報処理演習室	1 M 情報基礎・田畑		1 C 情報処理 I・内田	3 M 情報処理・引地			
	第 2 ゼミ室	A 2 論理英コミ・坂元						
	情報棟パソコン室		5 EI 数・榎	1 I コンピュー・新徳	4 I 工学実験・芝			
火	図書館パソコン室							
	情報処理演習室	1 E 情報基礎 I・前菌		5 S システム工・宮田		2 M 情報処理・三角		
	第 2 ゼミ室							
	情報棟パソコン室	専攻 ソフト特演・榎園					4 I 多変量解・幸田	
水	図書館パソコン室							
	情報処理演習室	1 S 電子制基・吉満		2 E 情報処理・前菌				
	第 2 ゼミ室	専攻 計算機基礎・榎園						
	情報棟パソコン室	5 I シス設計・堂込		5 I 情報特論・和田		5 I 工学実験・山田		
木	図書館パソコン室				4 C 水理学実験・疋田			
	情報処理演習室	2 S 情報処理・植村		3 C 情報処理 II・内田				
	第 2 ゼミ室							
	情報棟パソコン室	1 I 情報処理 I・榎園		3 I 電子計算機・芝			3 I 情報処理 III・豊平	
金	図書館パソコン室	5 全 英語 A・坂元						
	情報処理演習室			3 S 情報処理・河野		3 E 情報処理・今村		
	第 2 ゼミ室							
	情報棟パソコン室	4 I 電子計算機・芝		5 E 電子回路・奥		2 I 情報処理 II・豊平		

※空き時間の利用を希望する方は、利用する1週間前までに教務係へ連絡して下さい。  
第 2 ゼミ室にはパソコン 13 台が設置してあります。

(出典：学生課資料)

資料 8-1-②-8

情報処理演習室 自主学習の利用状況 (2006.5.6 現在)

	昼休み	放課後	土曜日
4月10日	月 20	10	
4月11日	火 9	3	
4月12日	水 10	4	
4月13日	木 22	15	
4月14日	金 14	10	
4月15日	土		9
4月17日	月 23	19	
4月18日	火 32	12	
4月19日	水 16	20	
4月20日	木 30	20	
4月21日	金 11	15	
4月22日	土		17
4月24日	月 20	16	
4月25日	火 33	31	
4月26日	水 16	19	
4月27日	木 14	14	
4月28日	金 4	10	
4月29日	土		15
5月1日	月 26	14	
5月2日	火 22	8	
5月6日	土		2
延べ人数	322	240	43
平均	18.9	14.1	10.8

(出典：情報教育システムセンター資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の情報教育設備は、教育を実施するのに十分な設備・環境になっている。学生の設備に関する不満の声も聞かれないことから、学生のニーズも満たしている。また、情報セキュリティ・ポリシーの下、情報教育システムセンターにシステム管理者を置き、学内LANの安定的運用及びセキュリティに関して可能な限りの万全な対策を施している。これらの情報教育設備は、授業・実験において計画的に利用されており、また、自主学習でも利用されるなど、有効に活用されている。

**観点 8-2-①： 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。**

(観点に係る状況)

平成18年3月末現在の蔵書冊数は89,501冊であり(資料8-2-①-1)、学会誌・専門誌等の学術雑誌・教養雑誌や各大学・高専の研究紀要、企業の専門誌等、新聞各紙等(英字新聞を含む)を所蔵している(資料8-2-①-2, 3)。そのほか、DVD・ビデオ・LD等の視聴覚資料も所蔵している(資料8-2-①-4)。さらに、本校以外の図書館の蔵書検索、国立情報学研究所学術コンテンツ・ポータルサービス(GeNii)やKANON(外国雑誌目次データベース)・SD(電子ジャーナル)・MathSciNet(数学文献データベース)・JDream(科学技術振興機構の文献情報検索システム)等の電子ジャーナルやデータベースのオンライン検索サービスも充実させ、必要とする論文等の目次データやフルテキストにアクセスできる環境を整えている(資料8-2-①-5)。図書については、館内の図書は日本十進分類法(NDC)に従い(資料7-1-②-2参照)、雑誌については外国雑誌、国内雑誌、寄贈雑誌に分け、国内雑誌はさらに学科別に分けて、分野別に系統的に配架している。また、資格・就職関係図書新刊書コーナー、洋書コーナー、TOEIC関係図書コーナーを設置して、学生が利用しやすくなるように配慮している。

学生用図書費を学科別に予算配分し、各学科の図書館運営委員(資料8-2-①-6)が中心となって学科学生の学習・研究に必要な図書を計画的に選書し、工業高等専門学校図書館に相応しく工学分野、自然科学分野を中心に購入している(資料8-2-①-1)。

また、工業技術関連分野の貸出冊数は全体の約4割を占め、全学年にわたり有効に活用されている(資料8-2-①-7)。

#### 観点 8-2-① 資料一覧

(資料8-2-①-1) 図書館統計	出典：学生課資料
(資料8-2-①-2) 配架雑誌一覧	出典：学生課資料
(資料8-2-①-3) 受入新聞一覧	出典：学生課資料
(資料8-2-①-4) 閲覧室収蔵視聴覚資料一覧	出典：学生課資料
(資料8-2-①-5) 図書館サービス	出典：ウェブページ
(資料8-2-①-6) 図書館運営委員会規則	出典：規則集資料
(資料8-2-①-7) 分類別貸出冊数	出典：学生課資料

## 資料 8 - 2 - ① - 1

## 1. 図書館蔵書冊数の推移(平成13年度～平成17年度)

3月31日現在

分類		総記	哲学宗教	歴史地理	社会科学	自然科学	工業技術	産業	芸術	語学	文学	計
13年度												
和書		7,448	2,997	3,737	6,021	16,301	24,738	466	2,510	6,555	8,574	79,347
洋書		320	372	126	210	1,224	506	114	89	1,150	1,976	6,087
計		7,768	3,369	3,863	6,231	17,525	25,244	580	2,599	7,705	10,550	85,434
14年度												
和書		7,547	3,105	3,776	6,364	16,486	25,064	479	2,540	6,675	8,622	80,658
洋書		325	382	126	215	1,237	534	114	89	1,183	1,993	6,198
計		7,872	3,487	3,902	6,579	17,723	25,598	593	2,629	7,858	10,615	86,856
15年度												
和書		8,395	3,019	4,271	6,554	15,860	22,980	598	2,576	5,550	9,866	79,669
洋書		351	442	141	226	1,226	448	13	135	1,001	1,877	5,860
計		8,746	3,461	4,412	6,780	17,086	23,428	611	2,711	6,551	11,743	85,529
16年度												
和書		8,618	3,072	4,388	6,796	16,144	23,262	616	2,607	5,806	10,180	81,489
洋書		473	447	141	236	1,316	458	18	136	1,025	1,882	6,132
計		9,091	3,519	4,529	7,032	17,460	23,720	634	2,743	6,831	12,062	87,621
17年度												
和書		8,730	3,176	4,434	7,148	16,292	23,569	622	2,664	5,899	10,430	82,964
洋書		473	448	142	246	1,335	465	18	136	1,379	1,895	6,537
計		9,203	3,624	4,576	7,394	17,627	24,034	640	2,800	7,278	12,325	89,501

(出典：学生課資料)

## 資料 8 - 2 - ① - 2

## 3. 閲覧室配架雑誌一覧(平成17年度) 一部抜粋

誌名	受入区分	誌名	受入区分
ASCII.	購入	明石工業高等専門学校研究紀要	寄贈
English express	購入	秋田工業高等専門学校研究紀要	寄贈
Front	購入	旭川工業高等専門学校研究報文	寄贈
Hir@gana times	購入	阿南工業高等専門学校研究紀要	寄贈
Interface	購入	有明工業高等専門学校紀要	寄贈
Journal of chemical engineering of Japan *	購入	育英工業高等専門学校研究紀要	寄贈
JTB時刻表	購入	石川工業高等専門学校紀要	寄贈
Materials transactions *	購入	一関工業高等専門学校研究紀要	寄贈
National geographic(外国雑誌)	購入	茨城工業高等専門学校研究彙報	寄贈
Nature(外国雑誌)	購入	宇部工業高等専門学校研究報告	寄贈
Newton	購入	大分工業高等専門学校紀要	寄贈
Newton別冊	購入	大阪府立工業高等専門学校研究紀要	寄贈
OHM	購入	大島商船高等専門学校紀要	寄贈
Science. New series(外国雑誌)	購入	木更津工業高等専門学校紀要	寄贈
Training journal	購入	北九州工業高等専門学校研究報告	寄贈
Water environment reseach(外国雑誌) *	購入	岐阜工業高等専門学校紀要	寄贈
オープンソースマガジン	購入	紀要(鈴鹿工業高等専門学校)	寄贈
学術月報 *	購入	近畿大学工業高等専門学校紀要	寄贈
機械技術	購入	釧路工業高等専門学校紀要	寄贈
機械と工具	購入	熊本電波工業高等専門学校研究紀要(CD)	寄贈
機械の研究	購入	久留米工業高等専門学校紀要	寄贈
橋梁と基礎	購入	呉工業高等専門学校研究報告	寄贈
現代化学	購入	群馬高専環境科学最前線	寄贈
現代の図書館 *	購入	研究紀要(神戸市立工業高等専門学校)	寄贈
合格情報処理	購入	研究紀要(仙台電波工業高等専門学校)	寄贈
週刊教育資料 *	購入	研究紀要(東京都立航空工業高等専門学校)	寄贈
週刊行政評価 *	購入	研究紀要(福島工業高等専門学校)	寄贈
数学セミナー	購入	高知工業高等専門学校学術紀要	寄贈
スクリーン	購入	佐世保工業高等専門学校研究報告	寄贈
政経週報 *	購入	札幌市立高等専門学校紀要	寄贈
専門図書館 *	購入	情報処理教育・研究報告(岐阜高専)	寄贈
大学図書館研究 *	購入	高松工業高等専門学校研究紀要	寄贈
地域開発	購入	諺間電波工業高等専門学校研究紀要	寄贈
中央公論	購入	津山工業高等専門学校紀要	寄贈
電気学会誌	購入	鶴岡工業高等専門学校研究紀要	寄贈
電子情報通信学会誌	購入	東京都立工業高等専門学校研究報告	寄贈
図書館雑誌 *	購入	徳山工業高等専門学校研究紀要	寄贈
トランジスタ技術	購入	鳥羽商船高等専門学校紀要	寄贈
土木学会誌	購入	苫小牧工業高等専門学校紀要	寄贈
土木施工	購入	富山工業高等専門学校紀要	寄贈
日経エレクトロニクス	購入	富山商船高等専門学校研究集録	寄贈
日経コンストラクション	購入	豊田工業高等専門学校研究紀要	寄贈
日経コンピュータ	購入	長岡工業高等専門学校研究紀要	寄贈
日経サイエンス	購入	長野工業高等専門学校紀要	寄贈
日経ものづくり	購入	奈良工業高等専門学校研究紀要	寄贈
日本機械学会誌	購入	新居浜工業高等専門学校紀要	寄贈
文藝春秋	購入	沼津工業高等専門学校研究報告	寄贈
理系への数学	購入	函館工業高等専門学校紀要	寄贈
留学交流 *	購入	広島商船高等専門学校紀要	寄贈
ロボコンマガジン	購入	福井工業高等専門学校研究紀要.自然科	寄贈
		福井工業高等専門学校研究紀要.人文・社	寄贈
		舞鶴工業高等専門学校紀要	寄贈
		宮城工業高等専門学校研究紀要	寄贈
		都城工業高等専門学校研究報告	寄贈
		八戸工業高等専門学校紀要	寄贈
		八代工業高等専門学校専攻科特別研究報告集	寄贈
		八代高専紀要	寄贈
		弓削商船高等専門学校紀要	寄贈
		米子工業高等専門学校研究報告	寄贈

\* が付いたものは学生用図書購入費以外の経費で購入して閲覧室に配架してある雑誌である

(出典：学生課資料)



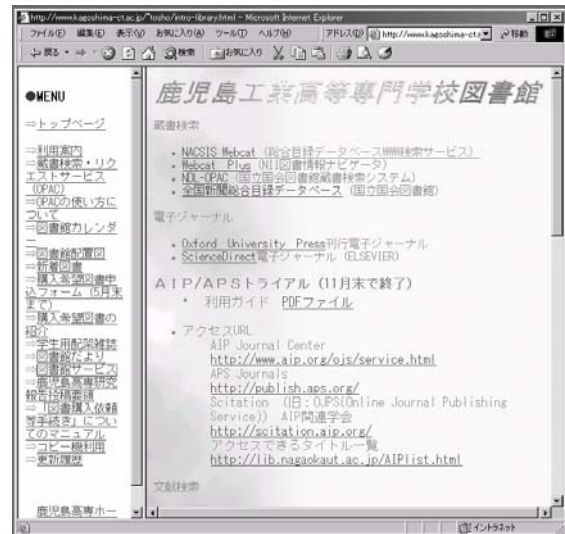
資料 8-2-①-3

受入新聞一覧

購読分	備考
読売新聞	
南日本新聞	
日本経済新聞	
毎日新聞	
朝日新聞	
ヘラルドアサヒ	英字
スチューデントタイムズ	英字
日刊工業新聞	
科学新聞	
寄贈分	
出版ダイジェスト	
燦	
文部科学広報	

(出典：学生課資料)

資料 8-2-①-5



(出典：ウェブページ)

資料 8-2-①-4

閲覧室収蔵視聴覚資料一覧(平成18年3月31日現在)

種類	数	種類	数	種類	数	種類	数
DVD	160	ビデオ	300	LD	139	CD-ROM	3

単位: 本

(出典：学生課資料)

資料 8-2-①-6

○ 鹿児島工業高等専門学校図書館運営委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島工業高等専門学校図書館規則第4条の2の規定に基づき、鹿児島工業高等専門学校図書館運営委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営について定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 図書館の管理運営に関すること。
- 二 図書を選択に関すること。
- 三 その他図書館に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 図書館長
- (2) 一般教育科文系・理系から推薦された教員 各1名
- (3) 学科から推薦された教員 各1名
- (4) 専攻科から推薦された教員 1名
- (5) 学生課長
- (6) その他委員長が必要と認めた者

(任期)

第4条 前条第2号、第3号、第4号及び第6号に規定する委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、図書館長をもって充てる。

2 委員長は、会議を召集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(出典：規則集)

資料 8 - 2 - ① - 7

## 6. 分類別貸出冊数(平成17年度)

	総記	哲学宗教	歴史地理	社会科学	自然科学	工業技術
1年生	45	20	24	28	94	601
2年生	31	19	20	15	31	450
3年生	32	21	23	50	53	719
4年生	50	41	19	89	79	1,107
5年生	163	45	35	133	112	639
専攻科1年	25	40	6	25	59	215
専攻科2年	5	2	3	28	18	96
計	351	188	130	368	446	3,827

	産業	芸術	語学	文学	雑誌	計
1年生	3	48	30	842	86	1,821
2年生	7	32	18	410	54	1,087
3年生	6	80	43	600	48	1,675
4年生	4	43	71	373	151	2,027
5年生	2	50	182	510	205	2,076
専攻科1年	2	9	160	86	67	694
専攻科2年	0	2	95	27	57	333
計	24	264	599	2,848	668	9,713

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

約89,500冊の蔵書と学術雑誌・教養雑誌、DVD・ビデオ・LD等の視聴覚資料を所蔵している。そのほか、電子ジャーナルやデータベースのオンライン検索サービスも充実させ、必要とする論文等の目次データやフルテキストにアクセスできる環境を整え、教育研究上必要な資料が整備されている。館内の図書は、分野別に系統的に配架し、学生が利用しやすくなるように配慮している。

図書の購入にあたっては、各学科の図書館運営委員が中心となって学生の学習・研究に必要な図書を計画的に選書している。また、工業技術関連分野の貸出冊数は全体の約4割を占め、全学年にわたり有効に活用されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 図書館ホームページから蔵書検索が可能であり、電子ジャーナルやデータベースのオンライン検索サービスも充実させ、必要とする論文等の目次データやフルテキストにアクセスできる環境を整えている点

(改善を要する点)

特になし

### (3) 基準 8 の自己評価の概要

高等専門学校設置基準を満たし、教育課程の実現に相応しい施設・設備が整備され、有効に利用されている。

情報教育設備は、教育を実施するのに十分なものであり、授業・実験において計画的に利用され、自主学習でも利用されるなど、有効に活用されており、学生のニーズも満たしている。また、情報セキュリティ・ポリシーの下、システム管理者を置き、学内LANの安定的運用及びセキュリティに関して可能な限りの万全な対策を施している。

図書館には、約89,500冊の蔵書と学術雑誌・教養雑誌、DVD・ビデオ・LD等の視聴覚資料を所蔵している。そのほか、電子ジャーナルやデータベースのオンライン検索サービスも充実させ、教育研究上必要な資料を提供している。また、図書の購入にあたっては、各学科の図書館運営委員が中心となって学生の学習・研究に必要な図書を計画的に選書しており、全学年にわたり有効に活用されている。

## 基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

### (1) 観点ごとの分析

観点9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

#### (a) 教育活動の実態を示すデータや資料の収集・蓄積

本校の教育活動の実態を示すデータには、基礎・基本、シラバス、定期試験等の問題と答案、学業成績一覧、学習・教育目標達成度評価とその学生による評価結果、授業評価アンケート、教員アンケート、授業視察報告書があり、資料9-1-①-1に示すように担当委員会及び担当係により収集・蓄積されている(資料9-1-①-2, 3)。

#### (b) 評価体制

教育の状況についての評価を適切に実施する体制は、教育改善システムとして整備され(資料9-1-①-4)、教育プログラム改善委員会、FD委員会、自己点検・評価委員会、外部評価委員会で構成されている。各委員会は各々の目的・業務に関する規則が整備され、評価・改善活動を行っている(資料9-1-①-5～8)。

成績会議は、学生の学業成績を評価・検討し、教育指導上の問題点を採り上げ、その改善方法等について協議している。成績会議は慣例として教務委員会主催の下で実施され、協議結果は教務委員会に報告され、教務委員会はその改善策を立案する(資料9-1-①-9)。

### 観点9-1-①資料一覧

(資料9-1-①-1) 教育活動の実態を示すデータや資料	出典：学生課資料
(資料9-1-①-2) 定期試験等の問題と答案等の保管状況	出典：保管状況JABEE資料室
(資料9-1-①-3) 学業成績一覧	出典：進級判定会議資料
(資料9-1-①-4) 教育改善システム(図)	出典：総務課資料
(資料9-1-①-5) 教育プログラム改善委員会規則	出典：規則集
(資料9-1-①-6) FD委員会規則	出典：規則集
(資料9-1-①-7) 自己点検・評価委員会規則	出典：規則集
(資料9-1-①-8) 外部評価委員会規則	出典：規則集
(資料9-1-①-9) 学力向上対策	出典：平成17年度第17回教務委員会議事要旨

資料 9 - 1 - ① - 1

教育活動の実態を示すデータや資料の収集・蓄積

	データや資料	担当委員会 担 当 係	データの蓄積状況	本文の 資料番号
1	基礎基本	教務委員会 教務係	本 科平成14年度～ 専攻科平成15年度～	5-1-①-38
2	シラバス	教務委員会 教務係	本 科平成13年度～ 専攻科平成14年度～	9-1-⑥-2
3	定期試験等の問題と答案等	教務委員会 教務係	問題：平成13年度～ 答案：平成15年度～	9-1-①-2
4	学業成績一覧	教務委員会 教務係	平成13年度～	9-1-①-3
5	学習・教育目標達成度評価	教育プログラム改善委員会 教務係	平成15年度～	6-1-②-1
6	学習・教育目標達成度評価アンケート	教育プログラム改善委員会 教務係	平成14年度～	6-1-④-2
7	学生授業評価アンケート	FD委員会 教務係	平成13年度～	3-2-②-5
8	教員アンケート	FD委員会 教務係	平成17年度～	9-1-⑤-2
9	授業視察	FD委員会 教務係	平成17年度～	9-1-⑤-3

(出典：学生課資料)

資料 9 - 1 - ① - 2

定期試験等の問題と答案等の保管状況



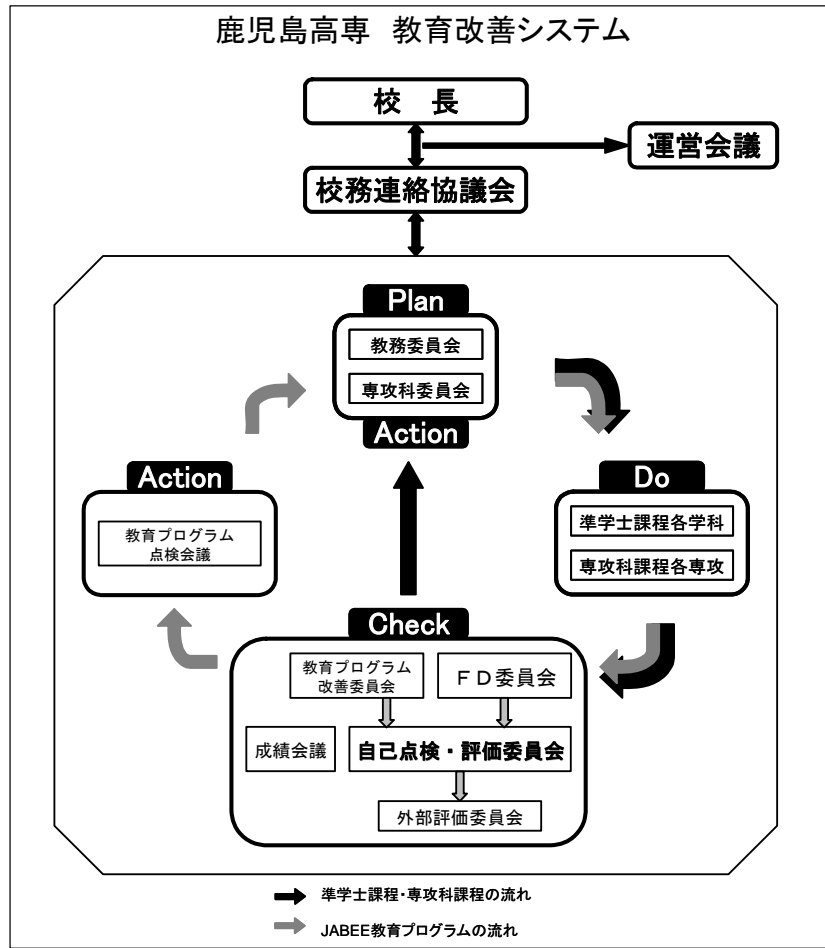
(出典：保管状況 JABEE 資料室)

資料 9 - 1 - ① - 3

【単位：/100点】 (単位：1級試験/年)		【単位：/100点】 (単位：1級試験/年)	
学年	人数	人数	人数
1	12	12	12
2	12	12	12
3	12	12	12
4	12	12	12
5	12	12	12
6	12	12	12
7	12	12	12
8	12	12	12
9	12	12	12
10	12	12	12
11	12	12	12
12	12	12	12
13	12	12	12
14	12	12	12
15	12	12	12
16	12	12	12
17	12	12	12
18	12	12	12
19	12	12	12
20	12	12	12
21	12	12	12
22	12	12	12
23	12	12	12
24	12	12	12
25	12	12	12
26	12	12	12
27	12	12	12
28	12	12	12
29	12	12	12
30	12	12	12
31	12	12	12
32	12	12	12
33	12	12	12
34	12	12	12
35	12	12	12
36	12	12	12
37	12	12	12
38	12	12	12
39	12	12	12
40	12	12	12
41	12	12	12
42	12	12	12
43	12	12	12
44	12	12	12
45	12	12	12
46	12	12	12
47	12	12	12
48	12	12	12
49	12	12	12
50	12	12	12
51	12	12	12
52	12	12	12
53	12	12	12
54	12	12	12
55	12	12	12
56	12	12	12
57	12	12	12
58	12	12	12
59	12	12	12
60	12	12	12
61	12	12	12
62	12	12	12
63	12	12	12
64	12	12	12
65	12	12	12
66	12	12	12
67	12	12	12
68	12	12	12
69	12	12	12
70	12	12	12
71	12	12	12
72	12	12	12
73	12	12	12
74	12	12	12
75	12	12	12
76	12	12	12
77	12	12	12
78	12	12	12
79	12	12	12
80	12	12	12
81	12	12	12
82	12	12	12
83	12	12	12
84	12	12	12
85	12	12	12
86	12	12	12
87	12	12	12
88	12	12	12
89	12	12	12
90	12	12	12
91	12	12	12
92	12	12	12
93	12	12	12
94	12	12	12
95	12	12	12
96	12	12	12
97	12	12	12
98	12	12	12
99	12	12	12
100	12	12	12

(出典：進級判定会議資料)

資料 9-1-①-4



(出典：総務課資料)

資料 9-1-①-5

○ 鹿児島工業高等専門学校教育プログラム改善委員会規則

(審議事項)

第2条 委員会は、校長の諮問に応じて次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 「教育プログラム」の改善に関すること
- (2) 学生、卒業生、企業からの「教育プログラム」への要望等に関すること
- (3) 「教育プログラム」履修生の学習・教育目標達成度評価に関すること
- (4) 日本技術者教育認定機構の審査に関すること

2 前項の審議の結果を踏まえ、点検報告書並びに改善提案書を作成のうえ、教育プログラム点検会議に提出しなければならない。

(出典：規則集)

資料 9-1-①-6

○ 鹿児島工業高等専門学校FD委員会規則

(目的)

第3条 委員会は、校長の諮問に応じ、FDについて本校の基本事項を審議し、対応策を決め、教職員の意識改革の推進を図るとともに、本校における教育機能の充実に寄与する。

(出典：規則集)

資料 9 - 1 - ① - 7

## ○ 鹿児島工業高等専門学校自己点検・評価委員会規程

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 自己点検・評価の基本方針に関すること。
- 二 自己点検・評価の実施に関すること。
- 三 自己点検・評価結果の公表に関すること。
- 四 自己点検・評価結果の外部評価に関すること。
- 五 その他自己点検・評価に関すること。

(出典：規則集)

資料 9 - 1 - ① - 8

## ○ 鹿児島工業高等専門学校外部評価委員会規則

(目的)

第2条 委員会は、本校が行った自己点検・評価結果等について検証を行い、本校の教育・研究等の改善に資することを目的とする

(出典：規則集)

資料 9 - 1 - ① - 9

## 平成17年度第17回教務委員会議事要旨

日 時：平成18年1月24日(火) 15:15～17:30

場 所：第一会議室

## 【報告・審議事項】

## 1. 学力向上対策について

SHRの欠席者の取り扱いについて各学科委員から、1, 2年生はSHRの出席率が良いため欠課としてカウントする必要はないとして反対であるとの意見や、3年生は出席状況が良くないため、基本的な生活習慣を身につけるための手段としてSHRまでに登校させるためにカウントすることは賛成等の意見が出された。

審議の結果、今後SHRのあり方(意義も含めて)について、機会を見て審議し、今回の結論としては、欠課としてカウントはしないことになった。

学力向上対策について、留年者を大量に出しては、学校としてどう対策をしているのか問題になる。補習、補講を実施して面倒見のよい学校にする必要がある。また、補講に強制的に参加させる等指導を行うこと等の意見が出された。前期終了科目については、再評価を行い学年末に成績へ反映させる。後期科目については、学年末成績評価提出までが後期の評価である。今年度も、学年末試験後単位を落とした学生へ何らかの形で指導を行うことはできないかとの提案があり、学力向上策の一つとして後期末試験後学年末成績評価提出までに次の要領でリベンジ試験(仮称)をお願いすることになった。

- ①リベンジ試験は、2月27日(月)～3月3日(金)で実施する。
- ②5年生については、これを踏まえて学科で行う。
- ③リベンジ試験時間割は、後期末試験時間割を基本的には準用する。
- ④寮生は、閉寮になるので、各自宿泊場所を確保する。
- ⑤非常勤講師については、後期末試験までをお願いする。

この提案は、教務主事から文書で依頼する。

(出典：平成17年度第17回教務委員会議事要旨)



(分析結果とその根拠理由)

教育活動の実態を示すデータとして、基礎・基本、シラバス、試験答案、学業成績一覧、各種アンケート調査結果等を収集・蓄積する体制が整備され、適切に保管されている。また、これらのデータを用いて評価を実施する評価機関として、教育プログラム改善委員会、FD委員会、自己点検・評価委員会、外部評価委員会、成績会議が整備されている。

このことから、本校では、教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されている。

**観点 9-1-②：** 学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点到に係る状況)

本校では、FD委員会により年2回、「学生による授業評価アンケート」を、専攻科生を含む全学生を対象に実施している。マークシート式と記述式によるアンケート回答は、FD委員会によって集約・分析されて、校長に報告される。校長は総評を付けて、全教員・全学生にフィードバックする（資料 9-1-②-1～3）。アンケートでの要望や結果を踏まえた改善例として、中間試験の期間延長、エアコンの設置、非常勤講師の任用に当たっての改善などが行われた（資料 9-1-②-4～6）。これらの内容は、自己点検・評価に反映されている。

#### 観点 9-1-②資料一覧

(資料 9-1-②-1) 学生による授業評価アンケート (設問用紙)	出典：FD委員会資料
(資料 9-1-②-2) 学生による授業評価アンケート (記述式回答用紙)	出典：FD委員会資料
(資料 9-1-②-3) 平成17年度前期アンケート分析結果	出典：FD委員会資料
(資料 9-1-②-4) 平成17年度前期アンケート校長見解	出典：FD委員会資料
(資料 9-1-②-5) 非常勤講師の任用に当たっての改善	出典：自己点検・評価報告書 4号
(資料 9-1-②-6) 非常勤講師の任用に当たっての改善	出典：平成13年度第4回校務連絡協議会議事要旨

資料 9-1-②-1

設問用紙 (授業評価アンケート)

本アンケートは、本年度以降の各教科における授業の教育方法を検討・改善する際の参考とするために行うもので、回答結果が成績に影響することはありません。受講中の各教科について自分の感じたままを回答して下さい。設問(1)～(7)は回答用マークシートの該当欄に5段階評価(下記参照)のいずれかにマークして答えて下さい。なお、複数教員が担当する選択科目については、コード番号表(別紙)にあるコード番号を科目コード欄にマークして下さい。

設問(8)は記述式回答用紙に所要事項を記載のうえ回答して下さい。

評価	意味
5	全くその通りである
4	概してその通りである
3	そうであるともないとも言えない
2	概してそうではない
1	全くそうではない

< 設問 >

- (1) 教員が興味を引き出す工夫(発問、事例や教材の提示等)をした。
- (2) この授業は分かりやすかった。
- (3) 教員の話し方・板書(文字や図)は適切だった。  
(実験、実習の実技説明は明快だった)。
- (4) この授業の進み具合は適切だった。
- (5) 授業中は質問しやすい雰囲気、教員は質問に気持ち良く対応した。
- (6) 自分は授業も熱心に受け、宿題やレポート等の提出期限も守った。
- (7) この授業は知識や技術の修得あるいは自分の成長に役立った。
- (8) この授業で感じたこと、良かった点、教員に希望することなど、意見があれば自由に書いて下さい。(記述式回答用紙へ)

(出典：FD 委員会資料)

資料 9-1-②-2

記述式回答用紙(授業評価アンケート)

鹿児島高専	学年	M, E, S, I, C	氏名
-------	----	---------------	----

校長も目を通します。後日詳しい意見を聞くことがあるかも知れませんが、できるだけ氏名も記入して下さい。記述式回答はすべてワープロ文書に変換し、記名の有無を付加して無記名で担当教員に渡されますので、筆跡から名前が分かることはありません。

教科名:	担当者名:

教科名:	担当者名:

教科名:	担当者名:

\* 追加用紙が必要な場合は申し出て下さい

(出典：FD 委員会資料)

## 【資料2】

## 平成17年度前期授業評価アンケート分析結果

平成17年7月1日  
FD委員会

平成17年度前期(6月1日～3日)で実施されました「学生による授業評価アンケート」の集計・分析結果について報告いたします。

1. 表1から、評価値「Q2.この授業は分かりやすかった」の平均得点の分布が評価点の高いほうへ移動していることがわかります。
2. 表2から、評価値Q2の平均得点は平成15年6月で一旦下がってはいますが、以降、少しずつ上昇し、今までの最高点となっています。
3. 図2・図3から、授業の分かりやすさ(Q2)と熱心な授業態度(Q6)とは相関が高いことがわかります。
4. 表4から、「Q7.この授業は知識や技術の修得、あるいは自分の成長に役立った。」の得点が3.64と、かなり上昇していることがわかります。本設問は学生が“実力をつけたか”を調べるために平成16年度から加えた設問で、「Q2.この授業は分かりやすかった」との相関も高いことがわかります。記述式アンケートでも、総件数1226のうち、「分かりやすかった・興味をひかれた」という評価が146件あり、前述の相関の高さを裏付けています。

これらは、先生方が授業改善に努められた成果と考えられます。ただ少数ですが、授業改善の要望を出しても変わらないという指摘もあります。

## 「分析と対策」の提出について

## ○常勤の先生方

全員、今回のアンケート結果に対する教員コメント(分析と対策)の提出をお願いいたします。

7/15までにメールで宮田まで提出ください。

(学生にもアンケートの集計結果を7/1頃フィードバックいたします。再度、教員コメントを含めたフィードバックを8/29頃に行います)

## ○非常勤の先生方

7/22頃までに教務係に提出していただければ、教員コメントを含めて学生へフィードバックいたします。

ぜひ、ご協力をお願いいたします。

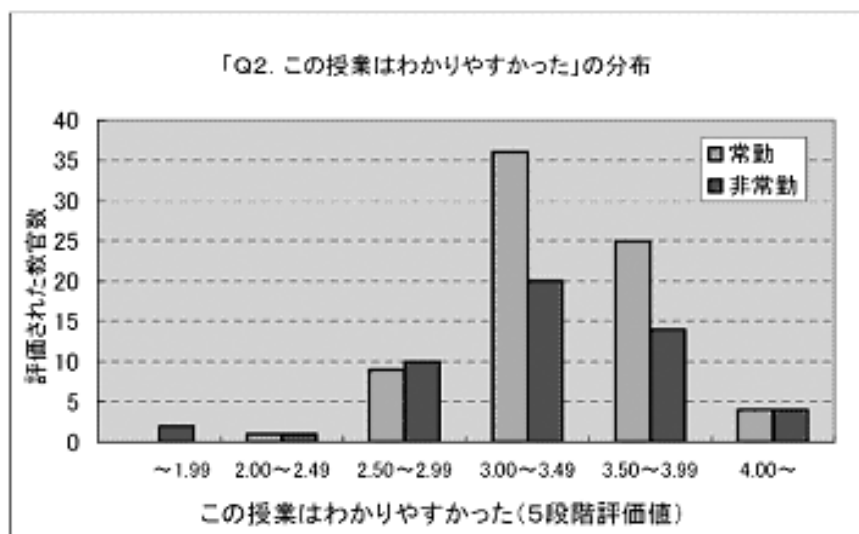


図1. 評価値「Q2:この授業はわかりやすかった」に関する教官数の度数分布

(出典：FD委員会資料)

資料 9 - 1 - ② - 3 続き

【資料 2】

表 1: 評価値(Q2)に関する教官数の分布

	常勤			非常勤		
	H17.06	H16.12	H16.06	H17.06	H16.12	H16.06
～1.99	0	1	0	2	1	2
2.00～2.49	1	2	2	1	3	3
2.50～2.99	9	7	11	10	11	15
3.00～3.49	36	48	41	20	16	15
3.50～3.99	25	15	21	14	16	12
4.00～	4	4	1	4	5	3
教員数	75	77	76	51	52	50
Q2平均値	3.37	3.29	3.32	3.24	3.28	3.18

表 2. 「Q2. この授業はわかりやすかった」の平均評価値

	教員数	H17.6	H16.12	H16.6	H15.12	H15.6	H14.12	H14.6	H13.12	H13.6
一般科目文系	10	3.47	3.30	3.36	3.34	3.23	3.34	3.25	3.32	3.30
一般科目理系	13	3.54	3.43	3.39	3.26	3.23	3.35	3.29	3.17	3.00
機械工学科	10	3.33	3.31	3.43	3.23	3.20	3.29	3.42	3.34	3.36
電気工学科	11	3.02	3.28	3.20	3.07	3.17	3.12	3.08	3.13	3.13
電子制御工学科	10	3.38	3.38	3.36	3.22	3.27	3.29	3.29	3.30	3.22
情報工学科	10	3.07	3.07	3.04	2.87	2.88	2.84	2.82	2.76	2.60
土木工学科	11	3.36	3.27	3.24	3.24	3.27	3.41	3.27	3.17	3.19
常勤全体	75	3.37	3.29	3.32	3.21	3.18	3.26	3.23	3.17	3.11
非常勤全体	51	3.24	3.28	3.18	3.13	3.16	3.12	3.20	3.02	3.02
全教員	126	3.33	3.29	3.28	3.19	3.18	3.23	3.22	3.11	3.07

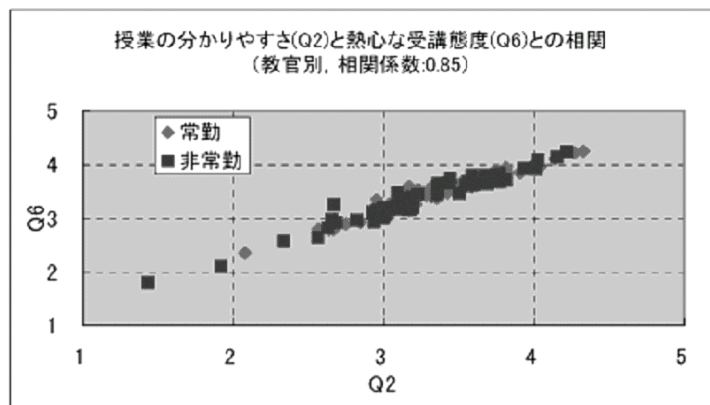
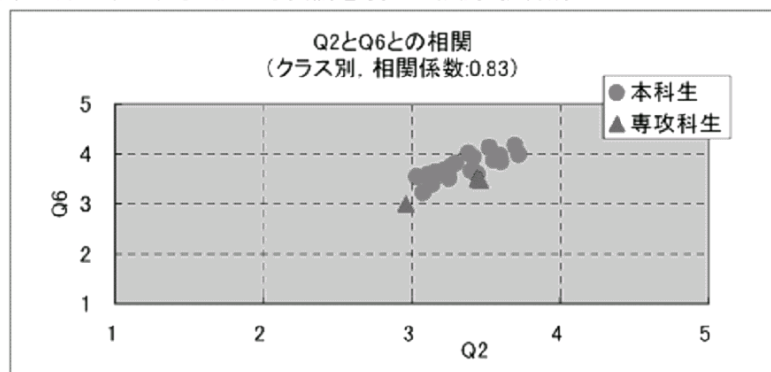


図 2. 授業の分かりやすさと熱心な受講態度との相関(教官別)



(出典: FD 委員会資料)

資料 9-1-②-4

## 2) 校長見解（校長宛の「記述式回答」に対する）

### （1） 中間テストの3日間は短すぎる（21件）：

通常の授業回数を半期で15回以上を保つことを考えて、今期の中間テストは3日間となりました。諸君の要望を考慮して、半期15回の中に中間テストを含めることで、テスト期間を延長することについて、今後検討することにしました。

### （3） エアコン設置、渡り廊下などの改修（10件）

3年計画の校舎改修事業で、全クラスを拡張・改修しエアコンを設備し、全校舎を屋根つき渡り廊下でつなぐことを計画していました。15年度の補正予算で第1次校舎改修が実行されたのですが、補正予算がその後ストップして、第2次、第3次の工事が頓挫しています。第1次から第3次まで、毎年、連続して改修が順繰り実行される計画でありました。政府の引き締め財政のあおりを受けているところでもあります。16年度から毎年何度も足を運んで、改修事業の継続を要求しております。エアコン・未改修建物の不公平さは身にしみて実感しております。学校を挙げて最大の努力をしております。改修工事再開まで今しばらく辛抱してください。

(出典：FD委員会資料)

資料 9-1-②-5

## 9-2-② ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結びついているか。

### 【観点に係る状況】

このアンケート集計結果の年次変化をみると、「授業が分かりやすかった」の評価値は少しずつではあるが向上しており（資料 9-2-①-1）、FD活動の成果が現れている。

学生の授業評価アンケートの回答において、問題がある場合には、校長がその内容が正当であるかどうかを調査するため、授業参観も行っている。その中でも、特に改善が必要と判断される教員については、校長が個別に面談を行い、助言するようになっている。また、授業評価が高かった教員の模範授業も行っている。

### 【分析結果】

相応である。

### 【根拠・理由】

FD委員会は、校長からのコメントを付けた授業評価アンケート結果を教員に伝えている。教員は、そのアンケート結果とコメント等を基に中間試験以降の授業改善に取り組んでいる。また、アンケート集計結果は、学生にも公開している。

アンケートの結果を踏まえた改善事例として、非常勤講師の任用に当たっての改善が行われた。

(出典：自己点検・評価報告書第4号 第1部66頁)

資料 9-1-②-6

## 平成13年度第4回校務連絡協議会議事要旨

日時：平成13年7月13日（金）13：30～16：40

場所：管理棟大会議室

## 1. 校長報告

(7) 学生による授業評価アンケートの意見の中で、高齢の非常勤講師の中に、声が非常に小さく授業が聞き取りにくい先生がいるという意見があり、年齢構成を調べた結果、現在、非常勤講師72名中66歳以上17名、70歳以上11名在籍している。本校、非常勤講師の任用に関しては、原則として65歳までとしており、校長との協議により例外が認められることとしている。このことを踏まえ、来年度以降の任用計画に当たって、年齢制限の取扱を厳格に行うことを教務委員会で検討してもらいたい。

(出典：平成13年度第4回校務連絡協議会議事要旨)

## (分析結果とその根拠理由)

本校では、「学生による授業評価アンケート」により学生の意見が聴取されており、評価・分析がなされ、その結果は全教員及び学生にフィードバックされている。これらの結果は、自己点検・評価に報告されている。このことから、本校では、学生の意見の聴取が行われており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

**観点 9-1-③： 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。**

## (観点に係る状況)

教育の状況に関して学外の意見を求めるため、平成8年度より外部評価委員会（資料9-1-③-1）を設置し、これまで7回の会議を開催している（資料9-1-③-2）。平成18年2月7日に開催された外部評価委員会では、前回の外部評価委員会の評価及び提言を受けた教育の状況に関する事項について、改善の報告がなされている（資料9-1-③-3）。

このほか、必要に応じて学外関係者に教育の状況に関するアンケート調査を実施している。たとえば、平成14年10月には本校卒業生に対して、教育と学校運営に関するアンケート調査を行っている（資料6-1-⑤-1参照）。また、平成15年5月には、本校を中核とした産学官連携組織である錦江湾テクノパーククラブ（KTC）会員企業55社に対して、アンケート調査（資料9-1-③-4）を実施し、本校の学習・教育目標の妥当性が評価された（資料9-1-③-5）。

## 観点 9-1-③資料一覧

(資料9-1-③-1) 外部評価委員会規則	出典：規則集
(資料9-1-③-2) 外部評価委員会の開催一覧	出典：総務課資料
(資料9-1-③-3) 外部評価委員会資料	出典：平成17年度外部評価委員会資料
(資料9-1-③-4) KTC 会員企業へのアンケート調査と結果	出典：学生課資料
(資料9-1-③-5) 学外関係者の意見の反映	出典：自己点検・評価報告書第4号

資料 9-1-③-1

## ○ 鹿児島工業高等専門学校外部評価委員会規則

(設置)

第1条 鹿児島工業高等専門学校（以下「本校」という。）に外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、本校が行った自己点検・評価結果等について検証を行い、本校の教育・研究等の改善に資することを目的とする。

(報告書と公開)

第6条 外部評価を行ったときは、報告書を作成し、公開するものとする。

(運営)

第7条 委員会の運営については自己点検・評価委員会が行う。

(出典：規則集)

資料 9-1-③-2

## 外部評価委員会（有識者懇談会）の開催一覧

	開催日	名 称	報告書 発行年月	公開	製本
平成 3		高専設置基準の一部改正（大綱化と自己点検・評価）			
8		「鹿児島高専と有識者との懇談会」設置 平成8年10月			
9	H9. 2. 3	第1回（平成8年度） 鹿児島高専と有識者との懇談会			
10	H10. 2. 9	第2回（平成9年度） 鹿児島高専と有識者との懇談会			
11	H11. 2. 8	平成10年度 鹿児島高専と有識者との懇談会			
12	H12. 2. 4	平成11年度 鹿児島高専と有識者との懇談会	外部評価結果報告	平成12年2月	自家製本
13	H13. 2. 28	平成12年度 鹿児島高専と有識者との懇談会	平成12年度 外部評価結果報告	平成13年7月	外注製本
15	H15. 3. 13	平成14年度 鹿児島高専と有識者との懇談会	平成14年度 外部評価結果報告	平成15年2月	ウェブ ページ 外注製本
17	H18. 2. 7	平成17年度 外部評価委員会			

(出典：総務課資料)



資料 9 - 1 - ③ - 3

委員からの評価及び提言	評価及び提言に対する達成状況	今後の課題
<b>提言 4</b> 目標を担うためのカリキュラム作りの取り組みが見えない。また、その効果を調査し、評価を行い改善するといった部分が見えない。 (担当：教務委員会)	平成 18 年度新入生から導入される教育プログラムの新学習・教育目標が、平成 17 年度教育プログラム改善委員会で審議され、それに基づくカリキュラム改訂が行われた。 また、現在の学習・教育目標のサブ目標に対する学生の達成度等については、FD 委員会でアンケート調査を行って、教育改善に役立てている。	平成 18 年度新入生から導入される教育プログラムの新学習・教育目標が、現教育プログラムの学習・教育目標との移行措置の時期が課題である。

**(4) 教育方法**

委員からの評価及び提言	評価及び提言に対する達成状況	今後の課題
<b>提言 5</b> 創造性豊かな学生を育てるために、個人を育てる教育も行っていたきたい。 (担当：教務委員会)	各学科では創造教育に力点を置いたカリキュラムが編成され、創造教育に関する授業が行なわれている。自ら解決する学習(PBL)が、それぞれの学科のシラバスに掲載され、個性豊かな開発型の技術者が育成されている。	自ら解決する学習(PBL)の教育方法についての教育研究が必要である。

**(5) カリキュラム改訂**

委員からの評価及び提言	評価及び提言に対する達成状況	今後の課題
<b>提言 6</b> 「2, 3 年以内に抜本的なカリキュラムの改訂が必須となる。」とあるが、何故、「2, 3 年内」なのかが分からない。 (担当：教務委員会)	中学校の指導要領が改訂になって初めての学生が、平成 15 年度に入学してくるため、その状況を調査しながら、本校のカリキュラム改訂に望むことにしていた。高等専門学校の設置基準の一部改正が平成 17 年 9 月 9 日施行された。その設置基準に基づき高等専門学校における単位計算方法の見直しとカリキュラム改訂を行った。	平成 18 年度から本科においては、学修単位の導入によるカリキュラムが実施される。これまでと違い科目ごとに自学自習の時間が設定されており、学生に自学自習の時間を確保させることが必要となっている。

(出典：平成 17 年度外部評価委員会 資料 1 2 頁)

## 資料9-1-③-4

6月12日(木)現在

## KTCへの学習・教育目標アンケート結果

	単位：名					計	単位：名			計	単位：%
	適切	おおむね適切	やや不適切	不適切	無回答		適切・おおむね適切	やや不適切・不適切	無回答		
目標1	14	14	7	1	2	38	28	8	2	38	74
S1-1	12	16	9	0	1	38	28	9	1	38	74
S1-2	18	14	4	1	1	38	32	5	1	38	84
S1-3	21	12	3	1	1	38	33	4	1	38	87
目標2	18	14	5	0	1	38	32	5	1	38	84
S2-1	12	15	10	1	0	38	27	11	0	38	71
S2-2	23	11	4	0	0	38	34	4	0	38	89
S2-3	18	9	11	0	0	38	27	11	0	38	71
目標3	19	17	2	0	0	38	36	2	0	38	95
S3-1	22	16	0	0	0	38	38	0	0	38	100
S3-2	23	11	4	0	0	38	34	4	0	38	89
S3-3	20	15	3	0	0	38	35	3	0	38	92
目標4	17	16	3	0	2	38	33	3	2	38	87
S4-1	20	12	5	0	1	38	32	5	1	38	84
S4-2	16	15	6	0	1	38	31	6	1	38	82
S4-3	10	19	7	0	2	38	29	7	2	38	76
計	283	226	83	4	12	608	509	87	12	608	84

37 社回答  
 - 2 内、2社は回答できないとのこと  
 + 3 社は、4名の回答があった。  
 38 回答総数

回答率  
 67 %

(出典：学生課資料)

## 資料9-1-③-5

## 11-2-①外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

## 【観点に係る状況】

本校では、社会の要求を取り入れるため、外部有識者懇談会を実施している。平成15年3月に実施した有識者懇談会のテーマは、「有識者からの評価、提言に対する本校の取り組みと今後の課題」と称して、平成13年2月に開催した有識者懇談会で、提言等のあった内容について、2年間で改善されたものを中心に報告を行った。

この有識者懇談会で報告した主な改善点として、準学士課程卒業時の出口試験の実施、産学官連携による「椰子の枝払い機」の起業化への取り組み、事務系職員の自己研鑽（放送大学受講）などがあげられる。

また、平成14年10月に卒業生へアンケート実施し、平成15年5月に産学官連携組織である錦江湾テクノパーククラブ（KTC）の55社へ学習・教育目標のアンケートを実施している。

これらの調査を通じてとりまとめられた意見は、その内容により、例えば、学習・教育目標に対する助言・提言は、教育プログラム点検会議において、学生の教育に関する内容であれば、教務委員会等で検討されている。

また、平成15年11月には、JABEE（日本技術者教育認定機構）による審査を受審し、平成16年5月に本校の教育プログラムがJABEEの基準を満たしているとして認定された。

(出典：自己点検・評価報告書 第4号 73頁)

(分析結果とその根拠理由)

教育の状況に関して学外からの意見を求めるため、外部評価委員会を設置し、これまで7回の会議を開催している。また、企業・進学先・卒業生に対してアンケートを実施し、本校の教育の状況に関する社会の意見・要望を聴取し、この結果をもとに改善に向けての取り組みを行っている。これらの結果は、本校の行う自己・点検評価に適切に反映されている。

**観点 9-1-④：** 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

(観点に係る状況)

準学士課程及び専攻科課程における教育の質の向上、改善を行うためのシステムは（資料 9-1-①-4 参照）の黒の矢印で示されるPDCAサイクルとして整備されている。準学士課程では中間試験及び定期試験実施後に、成績会議が開催され、教育活動の点検を行い、その結果を受けて教務委員会が改善策の立案を行う。その例として（資料 9-1-①-9 参照）がある。専攻科課程では教育プログラム改善委員会が学習・教育目標の達成状況や学習・教育目標達成のためのカリキュラムに関する評価を行い、それを基に専攻科委員会が改善を行う（資料 9-1-④-1）。FD委員会は、校長の管理下において、学生の授業評価アンケート、教員アンケート、授業視察の実施結果を基に、教員の教育方法についての評価を実施する。この評価に基づいて、教務委員会または専攻科委員会が改善を行う。FD委員会の評価結果に基づいて教務委員会が改善した例として、非常勤講師の年齢制限がある。なお、本校の教育活動に関する評価結果は、自己点検・評価委員会でとりまとめ、外部評価委員会における提言等を経て、教務委員会または専攻科委員会で改善の取り組みがなされる。

また、準学士課程及び専攻科課程の学習・教育目標の達成度評価については、教育プログラム改善委員会が分析を行い、この評価結果を基に、教育プログラム点検会議が改善を提言する。このサイクルによる教育の質の向上・改善の取り組みがなされた例として、英語力向上のための教育方法の改善などがある（資料 9-1-④-2）。

#### 観点 9-1-④資料一覧

(資料 9-1-④-1) 新カリキュラムの審議

出典：平成16年度第8回専攻科委員会議事要旨

(資料 9-1-④-2) 英語力向上のための教育方法の改善

出典：平成16年度第2・3回教育プログラム改善委員会議事要旨

平成16年度第8回専攻科委員会議事要旨

日時：平成16年12月10日（金）15：00～18：00

場所：第一会議室

3. 審議事項

- (2) 来年度の教育課程改正に伴う「鹿児島工業高等専門学校専攻科授業科目の履修に関する規則」一部改正（案）について（資料4）

平成17年度教育課程改正に伴い、教育課程表には専攻科修了に必要な修得単位は、一般科目が4単位から8単位へ、専門科目が36単位から32単位に変更する提案が審議された。しかし、本件については十分な周知がなされていなかった点が指摘され、再検討の必要も論じられたが、次の点を考慮して変更することが了承された。

（出典：平成16年度第8回専攻科委員会議事要旨）

## 資料 9-1-④-2

## 平成 16 年度第 2 回教育プログラム点検会議議事要旨

日時：平成 16 年 10 月 21 日（木）17:00～18:05

場所：管理棟大会議室

## 議題：TOEIC 緊急補講（案）について

前回本会議で校長から要請のあった TOEIC 対策の具体案について、嵯峨原一般文系科長、丸山教務主事、江崎専攻科長で作成した TOEIC 緊急補講（案）が資料として配付された。

丸山教務主事から、この TOEIC 緊急補講（案）は、来年度 JABEE 中間審査をクリアするため専攻科 2 年生を対象に実施するもので、支援組織と役割分担の確認及び補講期間及び時間割の説明があった。なお、資料の表 2 中火曜日第 2 ゼミ室は視聴覚室と訂正があった。

また、嵯峨原一般文系科長から、英語科教員の指導内容について、（非）海江田先生は 100 分の講義とリーディング指導、嵯峨原一般文系科長はリスニング中心の指導、その他の教員は自習形式で（非）海江田先生から学生へ出された予習課題の指導を行い効果を上げることを目的とし、専門の教員は出欠の確認並びに欠席者の対応をお願いすると、補足説明があった。

審議の結果、配布資料の 5. 補講経費等（2）補講用テキスト購入費は、学生負担とすることが了承され、削除した。補講の実施にあたり、次のことを確認した。

- ①英語教員と専門教員はペアで 100 分勉強させる対応をする。専門教員は欠席者の対応について、特別研究指導教員へ出席を促すよう連絡をとる。なおも欠席が続くようであれば校長が面接指導を行う。
- ②11月1～2日は学位申請論文発表会・休講となっているため、補講は 5. 6 限に時間を変更して実施する。
- ③専攻科生は、空き時間を活用してネットアカデミーを使って学習する。
- ④2年生で 400 点をクリアしている学生でも、補講を受けることは差し支えない。
- ⑤学生の英語力向上を確認するため、実力テストを行う。
- ⑥補講実施状況は、毎日校長へメール等で報告する。

校長から、この緊急補講（案）で示された方針で学校挙げて取り組んで欲しいと要請があった。

丸山教務主事から、この資料は一部修正を行い明日の教員説明会の資料として配布したいと提案があり、了承された。

（出典：平成 16 年度第 2 回教育プログラム点検会議議事要旨）

## 資料 9-1-④-2 続き

## 平成 16 年度第 3 回教育プログラム点検会議議事要旨

日時：平成 16 年 11 月 26 日（金）13:10～14:20

場所：校長室

## 議題：1. TOEIC 特別補講の経過報告

嵯峨原一般文系科長から、資料に基づき特別補講の現況説明があり、毎週金曜日にメールでもお知らせしているとの案内があった。TOEIC400 点達成については期待はできるが予想はできない。●●君、●●君、●●君は 400 点をクリアできるか不安がある。●●君、●●君は努力しているが、●●君はやる気をなくしているため、校長が特別研究指導教官の中村先生から事情を聞くことになった。また、特別補講を欠席する場合は事前に連絡をお願いしたいと要望があった。

12月22日（水）に IPTOEIC を実施し、1 週間後には結果が判明するとの予定が付け加えられた。

## 2. 本校のカリキュラム改定と学習・教育目標の改訂について

山田（一）教育プログラム改善委員から、「学習・教育目標及びカリキュラムの改定について（案）」の資料に基づき趣旨説明があった。JABEE によれば、学習・教育目標を具体化したものが教育課程なので、現行の学習・教育目標を見直してから、教育課程改定作業を開始すること原則である。従って、新「学習・教育目標」を校内の共通認識とすることが重要であるとの考えが示された。

## 3. 教育課程の改訂について

丸山教務主事から、「教育課程の改訂について（案）」の資料に基づき、小中学校の教育課程変更への対応、JABEE への対応、並びに、英語能力や数学の応用力の強化等を視野に入れた教育課程改訂の必要性が示され、平成 18 年度改訂に向けてのタイムスケジュール案について説明があった。また、改訂作業に先だって、校内及び学外へアンケート調査を実施し、改訂の参考資料とすることが提案された。

以上の 2, 3 については「学習・教育目標及びカリキュラムの改定について（案）」及び「教育課程の改訂について（案）」が承認され、改訂作業にあたっては、教務委員会、専攻科委員会、教育プログラム改善委員会が連携しながら進めることになった。また、今後の方向性を教育プログラム点検会議案として校内にお知らせする。そのために、必要があれば 12 月または 1 月に本委員会を開催することになった。

なお、学生課長から平成 16 年 4 月から本校は独立行政法人になったため、学則の変更に関する文部科学省の承認は不要との補足説明があった。

（出典：平成 16 年度第 3 回教育プログラム点検会議議事要旨）

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程及び専攻科課程では、成績会議、教育プログラム改善委員会、FD委員会を評価機関、教務委員会、専攻科委員会を改善機関とした教育の質の向上・改善のためのシステムが整備されている。また、準学士課程及び専攻科課程の学習教育目標の達成度評価については、教育プログラム改善委員会が分析を行い、この評価結果を基に、教育プログラム点検会議が改善を提言する。

以上のことから、各種の評価結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられていると判断される。

**観点 9-1-⑤：** 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

学生による授業評価アンケート結果に基づき、各教員は、学生から出された意見に対するコメント及び改善案等をFD委員会に提出し、これが学生に提示されている(資料9-1-⑤-1)。また、授業改善に関する教員アンケート結果から、板書、プリントの配布、説明の改善など、回答者の90%以上が学生の要望に対応していること、教育の質の向上や授業改善への取り組みについては、パワーポイントの導入や理解度に合わせて演習時間を増やしたり、計画的な資料配布など、学生の理解度を高める多岐に渡る取り組みが行われている(資料9-1-⑤-2)。

さらに、各教員の授業改善の取り組みを把握するために、校長や教員団による授業視察や報告会を行っている(資料9-1-⑤-3)。また、学生による授業評価アンケートの「この授業はわかりやすかった」の評価値は年毎に向上しており、教員による授業改善が効果を上げていることが確認できる(資料9-1-②-3参照)。

#### 観点 9-1-⑤資料一覧

(資料9-1-⑤-1) 平成17年度前期クラスフィードバック一部	出典：FD委員会資料
(資料9-1-⑤-2) 教員の室の向上、シラバスの活用、教員目標などに関する教員へのアンケート	出典：FD委員会資料
(資料9-1-⑤-3) 授業視察時のコメント(抜粋)	出典：平成17年度第2回教員集会資料

## 平成 17 年度前期クラスフィードバック一部

## クラス別教科別集計一覧 (5S)

先頭

年 科 科目	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	平均
5 S 英語A	3.83	4.00	3.83	4.17	3.50	4.17	4.17	3.95
5 S 英語A	3.75	3.50	3.50	3.25	3.50	3.33	3.67	3.50
5 S 英語A	4.33	4.00	3.83	4.00	4.17	4.33	4.50	4.17
5 S 英語A	4.08	3.92	4.00	3.92	4.08	4.08	3.83	3.99
5 S 英語A	4.00	3.00	3.00	4.00	4.00	5.00	4.00	3.86
5 S 独ⅡA	4.33	4.67	4.33	4.50	4.67	4.50	4.33	4.48
5 S 法 学	4.27	4.18	4.27	4.27	4.36	4.27	4.36	4.29
5 S 経済学	3.43	3.29	3.43	3.43	3.33	3.52	3.33	3.39
5 S 政治学	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
5 S 応数Ⅱ	3.73	3.67	3.67	3.50	3.58	4.08	4.25	3.78
5 S 応数Ⅱ	2.93	3.07	3.07	3.07	2.93	3.20	2.93	3.03
5 S 数解Ⅱ	3.63	3.88	3.63	4.00	3.63	3.88	3.50	3.73
5 S 独ⅡB	3.60	3.75	3.70	3.85	3.80	3.90	4.00	3.80
5 S シスエ	3.24	3.27	3.16	3.62	3.49	3.89	3.53	3.46
5 S 英語B	3.68	3.88	3.82	3.85	3.85	3.79	3.83	3.81
5 S 計測工	3.86	3.83	3.83	3.92	3.89	4.05	3.67	3.87
5 S 工実験	4.00	4.03	3.95	4.11	4.00	4.27	3.97	4.05
5 S 制機器	3.89	4.00	4.08	4.11	3.95	4.22	3.89	4.02
5 S 制御工	3.32	3.14	3.24	3.35	3.54	3.73	3.43	3.39
5 S 生シス	3.73	3.81	3.73	3.86	3.72	4.00	3.68	3.79
5 S 体 育	4.54	4.62	4.62	4.70	4.68	4.68	4.68	4.64
5 S 電算機	3.00	3.03	2.73	3.16	3.00	3.65	3.24	3.12

## マークシート5段階評価

- (1) 教員が興味を引き出す工夫(発問、事例や教材の提示等)をした。
- (2) この授業は分かりやすかった。
- (3) 教員の話し方・板書(文字や図)は適切だった。  
(実験、実習の実技説明は明快だった)。
- (4) この授業の進み具合は適切だった。
- (5) 授業中は質問しやすい雰囲気、教員は質問に気持ち良く対応した。
- (6) 自分は授業も熱心に受け、宿題やレポート等の提出期限も守った。
- (7) この授業は知識や技術の修得あるいは自分の成長に役立った。

平均 : 上記(1)~(7)の5段階評価値の平均値

科目	対象学科	教員コメント (5S)
応数Ⅱ	全	板書の字が小さくて読みづらいようなので、大きく書くように努めます。見難いときには言って下さい。
計測工学	5S	甘い評価を頂きました。理解しやすかったのは、授業法よりも、学生の能力が高かったこと、低学年から実験、実習を経験して復習的な面もあったと分析しています。 (対策)①内容の精選に努める(1単位なので) ②要望:低学年(例えば2年)で履修させ2単位にする。(低学年でも三角関数、微積を修得しておれば、理解できる内容です)
制御機器	5S	興味を引き出す工夫や自分の成長に役立つなどのアンケート項目において他の項目に比べ少し評価が低いように感じますが、これは学生への問い掛けや関連事項の話題が少なかったことに起因しているのかもしれませんが、今後、この点については意識しておきたいと思います。

(出典 : FD 委員会資料)



資料 9 - 1 - ⑤ - 2

授業の質の向上、シラバスの活用、教育目標などに関する教員へのアンケート No.1

平成17年度3月実施  
224 合計科目数

53 シート数

解答欄

1. 授業の最初にシラバスを配布し、簡単に説明しましたか？		
1. 配布して十分説明した	107	47.8%
2. 配布して簡単に説明した	92	41.1%
3. 配布だけした		0.0%
4. しなかった	20	8.9%
その他 : 配布せずOHPで説明した 2件	219	

2. 最初の授業以外にもシラバスを活用しましたか？		
1. 進捗の確認、テスト範囲の確認などに頻繁に用いた	37	16.5%
2. 数回活用した	86	38.4%
3. 活用しなかった	93	41.5%
その他の活用例などございましたら、ご記入下さい。	216	

3. 授業内容や評価はシラバスに沿ったものでしたか？		
1. おおむね沿ったものであった	190	84.8%
2. 理解度合いを勘案し、途中でシラバスを少し変更した	33	14.7%
	223	

4. アンケート等で出された授業の改善の要望に対して、対応しましたか？		
1. 要望がなかった	107	47.8%
2. 十分対応した	56	25.0%
3. 少しは対応した	52	23.2%
4. 対応しなかった	9	4.0%
また、対応された場合はその内容を、対応しなかった場合はその理由を、ご記入下さい。	224	

5. 教育の質の向上や授業の改善に何か取り組みましたか？		
1. 大いに取り組んだ	17	32.1%
2. 少し取り組んだ	25	47.2%
3. 特になし	8	15.1%

また、取り組んだ場合、その内容をご記入下さい。

(出典 : FD 委員会資料)

## 資料 9 - 1 - ⑤ - 2 続き

授業の質の向上、シラバスの活用、教育目標などに関する教員へのアンケート No.2

平成17年度3月実施

6. FD活動(授業の改善・質の向上)として、今後取り組んで欲しいという内容がありましたらご記入下さい。

7. 本校の目的を知っていますか？

1. はい  
2. いいえ

44 83.0%  
8 15.1%

8. 本校の教育理念、および教育理念を達成するための目標を知っていますか？

1. はい  
2. いいえ

35 66.0%  
11 20.8%

9. 本科(準学士課程)の学習・教育目標を知っていますか？

1. はい  
2. いいえ

43 81.1%  
9 17.0%

10. 専攻科課程の学習・教育目標を知っていますか？

1. はい  
2. いいえ

44 83.0%  
8 15.1%

11. 本校入学者(本科1年生、および編入学生)に対するアドミッションポリシーを知っていますか？

1. はい  
2. いいえ

40 75.5%  
6 11.3%

12. その他何かありましたらお書き下さい。

(出典：FD委員会資料)

## 資料 9 - 1 - ⑤ - 2 続き

## 質問 4 に対する回答

項目 4 : 授業の改善の要望に対して？

「計算力不足の学生が多い」と判断し、数式処理上のヒントの数を少し多くした。

要望は「PowerPointを使わないで欲しい」の1件だったが、学生との日常会話では「分かりやすくてよい」の評価が多数だったので、特殊な事情のある個人の意見と判断した。

板書するスピードが速すぎる。との意見に対して、板書後にノートする時間を与えた。

板書の仕方についての要望であったので、書いた後に時間をおいて説明した。

ノートに記録することを厭がるため、授業の進度が思うように進まなかった。それへの対応は少ししかできない

板書：文字できるだけ大きく、分かりやすく書くよう気をつけた。文字色にも配慮。

計算機アーキテクチャ：授業内容、試験内容に関するコメントがあり、授業中に科目の必要性を説いた。授業がわからないとの回答の学生が多かったため、教科書の授業範囲をせばめた。

計算機ハードウェア特別演習：院学力試験程度の基礎と応用の実力をつける意図で新設した科目であり、実際の院学力試験過去問題を使用した演習のため、各大学独特の難しい応用問題も多く、難しいとの声やわからないとの回答が多かった。しかし、今後もレベルは下げられない問題は残る。

学生が板書内容をノートに写す時間を増やした

授業評価アンケートが適切な要望で無いことが多いため。

使用していた教科書が難しい分は、他の参考書を中心に説明した。また、後半時間の余裕が出来た分に着いては積極的に演習を取り入れた。

早口を少し注意した。

(出典：FD委員会資料)

## 視察時のコメント(抜粋)

FD委員長 宮田

## 授業視察で見受けられた良い点

- 1 指示を与える時、学生の名前を呼んでから話かける。親近感を感じさせ、クラスの雰囲気を良くしている。
- 2 重要ポイントを強調した話し方が良い
- 3 全身を使って学生に語りかける授業スタイル
- 4 学生に読ませながら、質問しながら授業が進められており、わかりやすい授業が行われている
- 5 タイミング良く発問し、学生もよく答えている
- 6 一方通行ではなく、皆の反応を見ながら授業を進めているのが良い
- 7 最近の技術動向・エピソードをからめて説明を行っている点がgood
- 8 抑揚がありわかりやすい
- 9 歩きながら、学生を見ながら話している
- 10 演習問題: 学生間を良く回っている。
- 11 黒板を写している間、回って質問などチェック
- 12 学生に教科書を読ませ、その間に他の学生が読んでいる箇所をきちんと把握しているか、席を回りチェック
- 13 事前に講義プリントを配布し、学生は講義を聞きながら空欄に書き入れている。
- 14 教材を利用し、実験しながら説明。学生にも実験させている
- 15 机の配置がつめて見やすくしてある
- 16 出席票を学生に配布、氏名だけでなくその日の授業の感想や質問も記入させている
- 17 左にポイントをまとめている
- 18 板書の時間をとっている
- 19 まず図を書かせてから順に説明していくところがいい
- 20 寝ている学生を適宜、近くの学生に依頼して起こしていたのは参考にしたい

## 改善したほうが良いと思われる点

- 1 黒板を書きながら黒板に向かって話す場合が多い。学生のほうをもう少し向くようにしたほうが良い
- 2 一方的に講義されている。学生への問いかけを増やしてはどうか
- 3 説明が少し単調
- 4 聞いていない学生が多いのでは？(160人くらい) 後ろは騒がしい
- 5 図を写すのに一生懸命で説明をほとんど聞いていない学生がいる。まずは図をノートに書かせてから説明に入ればどうでしょうか？
- 6 書いて即説明なので説明しているとき学生は板書している。
- 7 私語が多い。学生の私語をやめさせる工夫が必要と思われる。
- 8 ゆっくりと話したほうが良い
- 9 字や添字が小さい、大きく書いて欲しい(学生から要望)、マーカーのインクが薄くて見にくい
- 10 作図は定規を使ったほうが良い
- 11 少し体勢を入れ替えて説明した方が良い。(常に黒板が見づらい場所があります)
- 12 ここが大事と、線を引くなどするとよいかも
- 13 コンピュータ操作についていけない学生を的確に把握して指導する工夫が必要
- 14 パワーポイントの中身、字が小さい、一枚の文字量が多い
- 15 プロジェクターのスクリーンが室内が明るすぎて少し見づらい。
- 16 プロジェクターを使うため部屋を暗くして説明しているのも原因の一つと思われるが約2/3が寝ている

(出典：平成17年度第2回教員集会資料)

(分析結果とその根拠理由)

学生による授業評価アンケートに基づき、各教員は教育方法の改善を提示し、FD委員会はこれを集約している。さらに、校長等による授業視察や教員アンケートを実施し、各教員が授業内容や教授方法の改善を行っていることを学校として把握している。

このことから、個々の教員は、授業についての評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容等について継続的改善を行っている。また、個々の教員の改善活動状況も学校として把握している。

**観点 9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。**

(観点に係る状況)

本校教員の研究活動を教育内容や教育方法の改善に結びつけた例として、資料 9-1-⑥-1 に示されるものがある。これらの教育方法の改善についての研究成果は、担当教員の授業科目の内容に反映されている。その一例として、「創造学習を取り入れた電子制御技術への導入教育の充実」を課題とした研究の成果を電子制御工学科 1 年の工作実習に取り入れたものを資料 9-1-⑥-2 に示す。また、教員が研究している専門分野を活かして、教科書として執筆し、授業で活用している例もある(資料 9-1-⑥-3)。

また、準学士課程の卒業研究や専攻科課程の特別研究においては、指導教員の専門分野の研究を活かした指導が行われ、その成果を学生が学会で発表できるレベルまで内容や質が高められている(資料 6-1-②-14, 17 参照)。

**観点 9-1-⑥資料一覧**

- |                             |               |
|-----------------------------|---------------|
| (資料 9-1-⑥-1) 研究報告・高専教育投稿一覧  | 出典：学生課資料      |
| (資料 9-1-⑥-2) シラバス「工作実習 I」   | 出典：平成18年度シラバス |
| (資料 9-1-⑥-3) 本校教員が執筆した教科書一覧 | 出典：学生課資料      |

資料 9 - 1 - ⑥ - 1

## 鹿児島高専研究報告, 高専教育 投稿一覧

## 研究報告

氏名	課題	雑誌, 号, 年度, ページ等	対応科目
塚本 公秀	シミュレーターを用いた生産管理学習でゲーム的要素を持ち込んだ講義の展開	鹿児島工業高等専門学校研究報告, 40号, 2005, pp.1~4	機械・電子システム工学専攻 1年 知的生産システム
榎園 茂 境田 小百合 脇部 政利	ExcelとPowerPointを活用した学習支援システム	鹿児島工業高等専門学校研究報告, 40号, 2005, pp.13~18	情報工学科 5年 卒業研究
山田 孝行 池田 英幸	デジタル顕微鏡導入による工学実験の教育改善	鹿児島工業高等専門学校研究報告, 40号, 2005, pp.57~59	機械工学科 4年 工学実験
加治佐 清光	ウェブレット画像変換の学習ソフトの試作	鹿児島工業高等専門学校研究報告, 39号, 2004, pp.1~10	情報工学科 4年 応用実験
引地 力男 油田 功二 東川内 久志 原田 正和 上野 孝行 西原 紀男	最新の加工技術に適應できる技術者の育成のための工作実習の授業の工夫	鹿児島工業高等専門学校研究報告, 38号, 2003, pp.15~22	機械工学科 3年 工作実習

## 高専教育

引地 力男 油田 功二 原田 正和 上野 孝行	学生が能動的に参加するための工作実習の工夫	論文集「高専教育」, 第28号, 2005, pp.291~296	機械工学科 3年 工作実習
吉満 真一 植村 真一郎 原田 治行 山下 俊一 上沖 司	創造学習を取り入れた電子制御技術への導入教育の充実	論文集「高専教育」, 第26号, 2003, pp.519~524	電子制御工学科 1年 工作実習
引地 力男 桐野 弘城	創造力を育成するための機構学における授業の工夫 -マイクロロボットの導入-	論文集「高専教育」, 第25号, 2002, pp.115~120	機械工学科 3年 機構学
疋田 誠 榎並 利征 大脇 貴司	地域社会に生きる河川技術者教育	論文集「高専教育」, 第24号, 2001, pp.331~336	土木工学科 3年 環境生態学 3, 4年 環境工学 I・II 4年 環境工学実験 4, 5年 水理学 I・II 5年 河川工学 5年 応用測量学実習
原田 治行 上沖 司 宮田 千加良 鎌田 清孝 吉満 真一 室屋 光宏 岸田 一也	創造設計教育における基礎教育の実践	論文集「高専教育」, 第24号, 2001, pp.325~329	電子制御工学科 3年 創造設計

(出典：学生課資料)

平成18年度 シラバス	学年・期間・教育の形態	1年次・通年・実習
工作実習 I (Hands-on Technical Training)	担当教員	吉満 真一 (Yoshimitsu, Shinichi)
	教員室	一般科目棟 2階 (tel 42-9089)
	電子メールアドレス	yosimitu@kagoshima-ct.ac.jp
単位の種別と単位数 学習時間と回数	履修単位 3単位 授業(150分)×30回	
〔本科目の目標〕 各種工作法の基礎実技習得を通して、理論と実際の対比、原理・原則に基づく仕組みの体得、応用力・判断力・総合力の養成を図り、あわせて安全作業の重要性を体得させることを目標とする。また、実習項目に相当する科目の基礎基本のAを到達目標とする。		
〔本科目の位置付け〕 各実習テーマ毎に行われる解説を基に、理論と実際とを総合的に学習していく。2年生以上の工作実習・工学実験および創造設計の基礎となるものである。		
〔学習上の留意点〕 実習心得を守り安全に作業すること。実習テーマの終了時に、担当者から実習レポートの提出の指示があるので、指示された日時までに必ず提出すること。また、報告書作成のために実習内容や実習手順等を実習ノートにメモしておくこと。		
〔授業の内容〕		
授 業 要 目	時限数	理解すべき内容
1. 導入教育	6	(1) 工作実習の意義 (2) 実習に際しての注意事項と安全対策 (3) 実習報告書について
2. 機械加工 (旋盤)	15	(1) 機械操作と工具の取扱い (2) 課題の加工 (3) 測定器具の使用法と心出し (4) 外丸削り、端面削り、段削り (5) 仕上げ記号の理解 (6) ノギスとマイクロメータの使い方 (7) ネジ加工
3. 溶接加工	12	(1) 溶接の種類等の説明及び器具、用具等の説明 (2) ガス器具の取扱い (3) ガス切断・ガス溶接の実習 (4) アーク溶接・スポット溶接の取り扱い
4. 鋳造加工	9	(1) 単一型木型による造型基本作業 (2) 電気炉によるアルミ・亜鉛鋳物の鋳込み作業 (3) 各種鋳物の縮み代測定
5. 鍛造加工	6	(1) 鍛造法の種類等の説明及び鍛造用機械、工具類の説明 (2) 大ハンマ振りの練習ならびに横座と先手の練習 (3) 加熱材の鍛錬
6. 制御 I (1)	21	走行車モデルの製作と制御 (1) アルミ材の加工・組み立て (2) 操作ボックスの製作と配線 (3) 電気回路基礎実験
7. 制御 I (2)	21	(1) アームロボットの操作と制御 (2) 機械要素の基礎 (3) ロボラボ制御プログラム (4) ロボラボによる課題モデル製作、コンテスト
〔教科書〕 なし		
〔参考書・補助教材〕 機械工作法 I で使用する教科書、電卓、筆記用具、メモ帳		
〔成績評価〕 レポート評価 (50%) + 実習態度 (50%)		
〔本科 (準学士課程) の学習教育目標との関連〕 3-c, 4-a		
〔JABEEとの関連〕		

(出典：平成18年度シラバス 249頁)

資料 9-1-⑥-3

## 本校教員が執筆した教科書、書籍一覧

著者	平田 登基男・(2002.3.20)(共著者: 梶木 武、横田 漢、堤 昌文、天本 徳治)
題名	エース土木工学シリーズ エース交通工学
出版社	朝倉書店
著者	堤 隆・2005年
題名	環境・都市システム系教科書シリーズ11 測量学 I
出版社	コロナ社
著者	山口純一、家村道雄、中村格 ・ 1999年
題名	送配電の基礎
出版社	森北出版
著者	江崎秀司・2001年
題名	一年間で学ぶ「熱力学の基礎」
出版社	工房糸車
著者	幸田晃 2005年
題名	パソコンで学ぶ言語聴覚士・高専学生のための音響・音声工学入門
出版社	斯文堂
	<a href="http://www.geocities.jp/koudaflute/onkyouonsei.htm">http://www.geocities.jp/koudaflute/onkyouonsei.htm</a>

(出典：学生課資料)

## (分析結果とその根拠理由)

本校では、本校の研究報告や高専教育に掲載された研究成果が、教育内容・方法の改善に活かされている。また、教員の研究分野の知見を活かして教科書が執筆され、授業に活用されている。さらに、卒業研究や特別研究においては、教員の専門分野の研究を活かした指導が行われ、その内容を学会発表ができるレベルまで内容や質を向上させている。このことから、本校では、教員の研究活動が教育の質の改善に寄与していると判断される。

**観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。**

## (観点に係る状況)

教育の内容及び方法の改善については、教育改善システム（資料 9-1-①-4 参照）の中で取り扱っている。学生及び教職員のニーズは、FD委員会（資料 9-2-①-1）が行う授業評価アンケートや教員アンケート（資料 9-1-②-1, 2, 9-1-⑤-2 参照）等により汲み上げられる（資料 9-2-①-2）。その結果を基に、FD委員会と教務委員会（資料 9-2-①-3）が連携し、研究集会、分かりやすい授業と評価された教員による公開授業及び教員視察団による全教員を対象とした授業視察が行われている。また、これらの結果報告に関する教員集会も行っている（資料 9-2-①-4～11）。その他、英語力向上に関する教育方法の改善ために、英語教育検討小委員会が組織され検討が行われている（資料 9-2-①-12）。



### 観点 9-2-① 資料一覧

(資料 9-2-①-1) 鹿兒島工業高等専門学校FD委員会規則	出典：規則集
(資料 9-2-①-2) 教員アンケート結果	出典：FD委員会資料
(資料 9-2-①-3) 鹿兒島工業高等専門学校教務委員会規則	出典：規則集
(資料 9-2-①-4) 平成16年度学生指導研究会	出典：平成16年度学生指導研究会資料
(資料 9-2-①-5) FD委員会議事要旨	出典：平成15年度第1回FD委員会議事要旨
(資料 9-2-①-6) 公開授業の報告	出典：学生課資料
(資料 9-2-①-7) 授業視察の案内	出典：FD委員会資料
(資料 9-2-①-8) 平成17年度授業視察計画表	出典：FD委員会資料
(資料 9-2-①-9) 授業視察担当者（抜粋）	出典：FD委員会資料
(資料 9-2-①-10) 教員集会の開催について	出典：総務課資料
(資料 9-2-①-11) 授業視察報告に関する教員集会 議事要旨	出典：平成17年度授業視察報告に関する 教員集会議事要旨
(資料 9-2-①-12) 英語教育検討小委員会	出典：英語教育検討小委員会議事要旨

#### 資料 9-2-①-1

### 鹿兒島工業高等専門学校FD委員会規則

(設置)

第1条 鹿兒島工業高等専門学校に、FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(定義)

第2条 この規則においてFD（ファカルティ・ディベロップメント）とは、高専教員の教育、特に授業に関する資質と能力を高めるための組織的かつ継続的な取り組みをいう。

(目的)

第3条 委員会は、校長の諮問に応じ、FDについて本校の基本事項を審議し、対応策を決め、教職員の意識改革の推進を図るとともに、本校における教育機能の充実に寄与する。

(組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 特命統括官（FD担当）
- (2) その他本校の講師以上の教員のうち校長が指名する者若干名

(出典：規則集)

#### 資料 9-2-①-2

### 教員アンケートによる回答

項目6：FD活動として、今後取り組んで欲しい内容

- ・FDの最終目標は学生の学力向上と思う。学生の学力向上を測るにはどうすべきかを検討して欲しい。
- ・他の教員の授業参観ができるように期間を設定
- ・本科低学年(15歳～)、高学年、専攻科生(~22歳)間で授業評価アンケート内容が同一であることの検討。
- ・本校の教員の授業は基本的に自己満足で終わっていると思う。どこが良くてどこが悪いのか、その判断も自分自身である。授業視察を行ったのならば、行ったあとにミーティングを開いて今後の改善策を話し合うべきである。また、授業視察を行うならば、本校の教員同士で視察を行うのではなく、他大学や高校の教員などに参加してもらうべきである。
- ・まず、学生の記名式にかえて、適切な記述でない場合は、氏名を教科担当教員にフィードバックするなど、学生が誠意ある回答するような工夫をして欲しい。校長、教務主事が視察をするのではなく、学科の先生方で視察をし合い、授業改善を行うほうが良いと思います。
- ・就職先(企業)に対して、本校卒業生の学力/技術レベルが適正な水準にあるか？を調べて欲しい。また卒業生に対して、在学中にもっと詳しく学んでおけば良かったと思うものを聞いて欲しい。

(出典：FD委員会資料)

## 資料 9-2-①-3

○ 鹿児島工業高等専門学校教務委員会規則  
(設置)

第1条 鹿児島工業高等専門学校に、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。  
(審議事項)

第2条 委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成に関する事。
- (2) 年間教育計画及び授業時間の編成に関する事。
- (3) 入学、退学、転学、休学及び卒業に関する事。
- (4) 試験及び学業成績等に関する事。
- (5) 出席簿及び指導要録に関する事。
- (6) 授業の指導方法・教育方法改善等に関する事。
- (7) 視聴覚教育等に関する事。
- (8) 大学及び専攻科の進学に関する事。
- (9) その他教務に関する事。

(出典：規則集)

## 資料 9-2-①-4

## 平成16年度学生指導研究会

## 1. 実施概要

- (1) 目的：～10年後を視野に入れた鹿児島高専教育のあり方～を検討する。
- (2) 日程：平成16年8月25日(水)～平成16年8月26日(木)
  - 1日目：現状報告 教務上の問題と課題  
研究討議①教育課程の改善について
  - 2日目：研究討議②学生指導上の課題、寮生活の課題  
研究討議③教員の指導体制について  
研究討議④国際的視点を持つ技術者の育成について  
総括討議 これまでの討議を踏まえて
- (3) 場所：霧島ハイツ(始良郡霧島町)
- (4) 参加者：別紙のとおり

## 1. 討議対象となった主な事項

- (1) 一般科目・専門科目の教育課程において、外国語、数学の学力が弱いのは、普通高校に比べて授業時間数が少ないためと思われる。以前にもアンケート結果で指摘されたことであり検討されていないため、現状は改善されていない。なお、専門科目の授業時間数を削減して外国語教育数学に充てることは本末転倒であり、基礎教育を重視すべきである。
- (2) 工業高校では、授業以外に補習を行い資格取得を勧めている。高専の学生は、資格取得はいつでも可能であるためこれまで取り組んでいない。今後、企業が資格取得を求めるともあり学生の間で取得できる資格は取るように勧める。
- (3) 服装問題は、1～3年生について、学生を高校生と同様とみなすか大学生と扱うかで意見が分かれた。本校は、あくまでも高等教育機関であり、学生として高専の独自性を持つことが大切であるが15、16才という年齢を考慮しながら指導する。制服については9月末までに検討する。
- (4) 授業評価アンケート・学生何でも相談室、学科長又は主事への苦情、保護者懇談会での意見交換等により情報の収集に努め教員の資質向上、人格の問題等に対処している。なお、本校の教員は教員免許が要らず教育実習の経験が無く担任業務、講義を担当する。学校全体として担任業務の指導を行うことが必要である。又、ベテランの先生が若手教員を指導する体制、公開授業の実施も有効と思われる。
- (5) 国際的視点を持つ技術者の育成について、製造業を中心とした技術立国を目指してきた我が国は、これから技術力に加え外国語をコミュニケーションのツールとして活用することが要求される。TOEIC400点をクリアするためには低学年での語学研修など動機付けを行うことも考えられる。
- (6) 後援会から、地区別の後援会支部を立ち上げ意見交換、情報交換を行うことを計画しているので協力をお願いしたいと要望があった。

(出典：平成16年度学生指導研究会資料)

資料 9-2-①-5

## 平成 15 年度第 1 回 FD 委員会 議事要旨

## 2. 公開授業について

佐々木委員長より、教務主事から公開授業を担当して頂く教官を 10 名程度推薦してほしいと依頼があったと報告があった。審議の結果、この前の授業評価アンケートで、“分かりやすい授業”の項目評価値が上位の教官の中から各学科 1 名推薦することとなり、次の教官を推薦することとなった。

鮫島教官（文系）、藤崎教官（理系）、  
 中島教官（機械）、新保教官（電気）、  
 岸田教官（電子制御）、加治佐教官（情報）、  
 内谷教官（土木）

(出典：平成 15 年度第 1 回 FD 委員会議事要旨)

資料 9-2-①-6

平成 15 年 10 月 14 日

教 官 各 位

教 務 主 事

## 公 開 授 業 の ご 報 告

今回の公開授業にあたりまして、ご協力をいただきました先生方、大変ありがとうございました。  
 有意義なご意見をいただいておりますので、以下に掲載致します。

-----  
 授業科目 微積分学 I (藤崎先生)  
 日 時 6 月 26 日 (木) 1 限目  
 場 所 2M 教室  
 参観者数 計 5 名  
 コメント①:

授業を受けている学生をうまく引きつけていらっしゃるため、学生は飽きが来ず居眠りしていない。アドリブが交えられるので授業が生き生きとしている。ニュース原稿を読むだけのニュース番組ではなく、キャスターのアドリブが入るニュース番組は分かり易く、面白いのと同様である気がする。また、毎回の授業内容や欠席者をシステムチェックに記録され(それを公開して貰えたのも嬉しい)、「何を教え、誰が休んだ」かが後から見ても整然として分かり易い。欠課入力時など大いに便利のように感じた。

-----  
 授業科目 構造力学 I (内谷先生)  
 日 時 6 月 19 日 (木) 1・2 限目  
       6 月 26 日 (木) 3・4 限目  
       6 月 20 日 (金) 3・4 限目  
 場 所 3C 教室 木)

(出典：学生課資料)

資料 9 - 2 - ① - 7

H17. 12. 1

教員各位（常勤・非常勤）

FD 委員長 宮田千加良

## 授業視察の案内

FD活動の一環として、下記のような授業視察を計画しております。本視察は、授業改善の一環として実施するもので、視察結果（参考にしたい点、気づいた点等）を該当教員へフィードバックするとともに、後日意見交換会を開催し、参考にして欲しい点、気づいた点などを総括・意見交換等、していきたいと考えております。なお、前期だけを担当される非常勤教員につきましては、9月初旬に実施済みです。

視察者 : 校長, ほか数名 (教務主事, FD 委員長, 各学科長)

視察対象者 : 全教員 (常勤・非常勤含め)

視察期間 : 1月10日～1月31日

本視察は全教員について1科目行うことを考えております。複数の科目を担当される方で、この科目を視察してほしい等のご希望がございましたら、12/7までに宮田までご連絡下さい。なお、クラス・日時につきましては流動的ですので、上記期間内に前ぶれなしに参観させていただくことになります。

御面倒をおかけいたしますが、よろしく願いいたします。

(出典 : FD 委員会資料)

資料 9 - 2 - ① - 8

平成 17 年度 授業 視察 計画 表

		1/10 (火)			1/11 (水)			1/12 (木)			1/13 (金) 8限以降リーダ研修			1/16 (月)										
1	電算 熱機	4S 5M	制御 機械	岸田 一也 三角 利之	微IV 設計	3E 3M	一般理系 機械	村上 浩 稚 保幸	電測 英会	2E 3M	電気 一般文系	本部 光幸 金岡 正夫	英文 電磁	2M 3E	一般文系 電気	嵯峨原昭次 小迫 雅裕								
2	電機 計画	4M 5C	専門非 土木	栗屋 三郎 内田 一平	英 I 国 I	1M 1S	一般文系 一般非	塚崎 香織 上村 忠昌					材力 環工	3S 4C	制御 土木	植村真一郎 西留 清	水 I 物理	3C 1C	土木 一般理系	疋田 誠 丸山 伸夫				
3	構 II 輸送	4C 5E	土木 電気	内谷 保 中村 格	論理 国 II	2 i 2M	情報 一般文系	芝 浩二郎 松本 裕司	微IV 半導	3C 4E	一般理系 電気	熊谷 博 加治屋徹実	実習 電回	1S 3E	制御 電気	吉満 真一 *9 柴島 史欣	情処 情処	1 i 2M	情報 機械	榎園 茂 *1 江崎 秀司 *6				
4	線形 英語	2M 4M	一般非 一般非	宮嶋 公夫 森 隆																				
5	機構 ロボ	4M 専攻	機械 機械	引地 力男 山田 隆明	歴史 政経	1C 3C	一般文系 一般文系	鮫島 俊秀 松田 忠大	応物 応物 実験 実験	4 i 4 i 2i 2i	一般理系 一般理系 情報 情報	佐々木正司 *5 赤澤 正治 *5 入江 智和 *7 新徳 健 *7	測実	1C	土木	池田 正利 *10	微 II 電磁	2M 3 i	一般理系 情報	伊藤 益生 山田 一二				
6													自然 鉄 II	専攻 4C	土木 土木	岡林 巧 *11 堤 隆								
7	製図 製図	1E 1E	電気 電気	櫻根 建史 *2 前歯 正宜 *2					数 III 化学	1C 2C	一般非 一般理系	赤塚思無邪 大竹 孝明	材力	3M	機械	南金山裕弘	制工 施工	5M 4C	機械 土木	田畑 隆英 *4 前野 祐二 *4				
8									情特 英語	5i 3S	情報 一般文系	加治佐清光 あべ松伸二												

1/10 (火) 12  
1/11 (水) 8  
1/12 (木) 13  
1/13 (金) 10  
1/16 (月) 8  
1/18 (水) 12  
1/19 (木) 15  
1/20 (金) 6  
1/23 (月) 11  
1/24 (火) 12  
1/27 (金) 14  
1/30 (月) 8  
1/31 (火) 2  
計 131

専攻科時間割  
記載教室  
\*1 情報棟PC  
\*2 図書館PC  
\*3 旧JABEE室  
\*4 合併教室  
\*5 応物実験室  
\*6 情報処理演習室  
\*7 1棟2F実験室  
\*8 1F実験室  
\*9 S棟1F実験室  
\*10 寮12志間  
\*11 臨時共用室  
\*12 物理実験室(2F)  
\*13 5S(1/20)  
\*14 専攻科棟1Fガ:  
\*15 土木演習室

		1/17(火) 成績会議・クラスマッチ			1/18 (水)			1/19 (木)			1/20 (金) 校務連			1/23 (月)										
1					意匠 電算	5C 5S	専門非 制御	星野 裕司 原田 治行	倫理 エネ変	4選 5M	一般文系 機械	山下 登 中島 正弘	子回	4S	制御	坪井 克剛	英 II 電材	2 i 5E	一般文系 電気	坂元真理子 須田 隆夫				
2					歴史 生シス	2E 5M	一般非 専門非	西田 豊穰 谷口 功二	海岸 制工	5C 5S	専門非 制御	佐藤 道郎 宮田千加良	英 A 環境	5選 専攻	一般非 土木	James Scott *13 山内 正仁 *15	地学 電概	2C 5C	専門非 電機	横山 健二 会田 和義				
3					微 II 多変	2S 4i	一般理系 情報	白坂 繁 幸田 晃 *1	数解 英語	4C 4 i	一般理系 一般非	嶋根 紀仁 *2 上園 機俊	工法 電磁	3M 3S	機械 制御	塚本 公秀 室屋 光宏	材料	3M	機械	池田 英幸				
4					物理 独 I	1M 4M	一般非 一般文系	下園 勝一 保坂 直之	システ 通特	5 i 5E	専門非 専門非	森 邦彦 西牟田一三	応 I	4S	一般非	磯川 幸直	経済 政治	5選 5選	一般非 一般非	八木 正 森田 豊子				
5					国語 体育	3M 4M	一般非 一般非	梶島 三夫 武隈 晃	数 II 化学	1 i 1E	一般理系 一般理系	藤崎 恒実 三原めぐみ					都市 デ回	4C 4S	土木 制御	平田登基男 鎌田 清孝				
6					図学 デ回	1 i 4E	専門非 専門非	川畑 孝和 新保 利和	工法 応測	3S 5C	専門非 専門非	近藤 英二 *4 小林 清文					機構 電算	3S 4E	専門非 専門非	桐野 弘城 古賀 亜彦				
7									体育 体育	3M 5E	一般理系 一般非	北園 裕一 鬼塚 幸一												
8									機概	3 i	専門非	福原 稔												

		1/24 (火)			1/25(水)、1/26(木)			1/27 (金)			1/30 (月)			1/31 (火)										
1	統計 子回	3S 4E	一般非 電気	新森 修一 奥 高洋				情 III 線形	3 i 2S	情報 一般非	豊平 隆之 西田 詩	情処 情処 計算	3S 3S 専攻	制御 制御 情報	河野 良弘 *6 島名 賢児 *6 濱川 恭央									
2	化学 電回	2 i 4 i	一般非 専門非	有馬 一成 田中 哲郎				英会	2 i	一般非	Carl Mantzel													
3	情処 英語	3E 3i	電気 一般非	今村 成明 *6 海江田恵里子				音楽 美術	1C 1C	一般非 一般非	中原 博子 重久 哲也													
4	生物 数 II	1C 1E	一般非 一般非	押尾 幸雄 徳重 修一				シス設 応 I	5 i 4C	情報 一般非	堂込 一秀 山元 完二	通工 材料	4i 4S	専門非 専門非	柚木 謙一 西田 智幸									
5	地理 応物	1M 3E	一般非 一般非	佐野 武則 眞竹 善徳				材力 電回	4M 2 i	機械 情報	持原 稔 玉利 陽三													
6	体育 物理	1ES 2C	一般非 一般非	松尾美穂子 溜池 誠一 *12				鉄 I 建概	3C 5C	土木 専門非	原口 誠夫 山口 得雄	品質	5S	専門非	坂元真一郎	施管 計測	5C 5M	専門非 専門非	徳丸 昌敬 *4 日高 基次					
7												真空 発変	5S 4E	専門非 専門非	吉川 秀司 山本 潤二									
8								体育 体育	5C 5 i	一般理系 一般非	山崎 享 藤島 仁兵													
9								留学 留学	5 i 留學	一般非	清水 純子 *14													

(出典 : FD 委員会資料)

授業視察担当者 (抜粋)

教官名・内線	1/10 火									1/11 水									1/12 木									1/13 金(8限以降リーダー研修会)									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
9001 前田 滋																																					
9062 嵯峨原昭次		英演 1 i	英演 1 S	英演 1 M		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*							英演 1 M	英演 1 S	英演 1 i	英演 1 C	英演 1 E	英文 2 M	英文 2 M			校務	校務	校務				
9049 藤崎 恒晏	*	*	*	*	*		数Ⅱ 1 I	数Ⅱ 1 S					数Ⅱ 1 S	数Ⅲ 1 M	数Ⅲ 1 M							統計 3 E	留数 3 S	留数 3 S	数Ⅱ 1 S	数Ⅱ 1 i	数Ⅱ 1 S			校務	校務	校務					
9100 池田 英幸													卒研 5 M	卒研 5 M	卒研 5 M	卒研 5 M	卒研 5 M					外書 5 M	卒研 5 M	卒研 5 M	卒研 5 M	卒研 5 M					校務	校務	校務				
9077 本部 光幸						応パ 専攻	応パ 専攻			卒研 5 E	卒研 5 E	卒研 5 E	卒研 5 E	卒研 5 E	卒研 5 E	卒研 5 E					電測 2 E	電測 2 E			実験 4 E	実験 4 E	実験 4 E	実験 4 E				校務	校務	校務			
9082 河野 良弘						実験 3 S	実験 3 S	教務	教務	教務			卒研 5 S	卒研 5 S	卒研 5 S	卒研 5 S	卒研 5 S					卒研 5 S	卒研 5 S	卒研 5 S	卒研 5 S	卒研 5 S					校務	校務	専攻	専攻	専攻		
9085 原田 治行			寮務	寮務									電算 5 S	電算 5 S	卒研 5 S	卒研 5 S	卒研 3 S					卒研 5 S	卒研 5 S	卒研 5 S	卒研 5 S	卒研 5 S				画像 専攻	画像 専攻						
9081 宮田千加良	シスエ 5 S	シスエ 5 S								製図 2 S	製図 2 S	卒研 5 S	卒研 5 S	制工 4 S	制工 4 S	卒研 5 S					制工 5 S	制工 5 S	卒研 5 S	卒研 5 S	卒研 5 S	卒研 5 S	卒研 5 S		*	*	*	*	校務	校務	校務		
9130 加治佐清光			卒研 5 i	卒研 5 i	卒研 5 i	卒研 5 i	卒研 5 i	卒研 5 i		卒研 5 i	卒研 5 i	卒研 5 i	卒研 5 i	卒研 5 i	卒研 5 i	卒研 5 i					創造 1 i	創造 1 i			情特 5 i	情特 5 i				マルチ 専攻	マルチ 専攻	校務	校務	校務			
9121 平田登基男			卒研 5 C	卒研 5 C									卒研 5 C	卒研 5 C	卒研 5 C	卒研 5 C							卒業 専攻	卒業 専攻					交通 5 C	交通 5 C	測実 1 C	測実 1 C	測実 1 C				
9044 松田 志大						教務	教務	教務		政経 3 i	政経 3 i	技倫 専攻	技倫 専攻	政経 3 C	政経 3 C	特活 1 M					政経 3 S	政経 3 S	政経 3 M	政経 3 M					現企 専攻	現企 専攻							
9087 室屋 光宏			制機 5 S	制機 5 S									卒研 5 S	卒研 5 S	卒研 5 S	卒研 5 S							卒研 5 S	卒研 5 S	卒研 5 S				電磁 3 S	電磁 3 S	実験 4 S	実験 4 S	実験 4 S				
9096 堂込 一秀			寮務	寮務	情基 1 i	情基 1 i	卒研 5 i	卒研 5 i		卒研 5 i	卒研 5 i	卒研 5 i	卒研 5 i	卒研 5 i	卒研 5 i	実験 4 i	実験 4 i				創造 1 i	創造 1 i	*	*	*	*	*	*	*				シス 5 i	シス 5 i	校務	校務	校務
教官名・内線	1/17 火 (成績会議・クラスマッチ)									1/18 水									1/19 木									1/20 金(校務連)									
9001 前田 滋																																					
9062 嵯峨原昭次										*	*	*	*	*	*						英演 1 M	英演 1 S	英演 1 i	英演 1 C	英演 1 E	英文 2 M	英文 2 M			校務	校務	校務					

(出典：FD委員会資料)

資料 9 - 2 - ① - 1 0

件名 【至急】教員集会の開催について

日時 2006/2/19 (日) 17:32:53

教員各位

関係各位 様

本日の入学者選抜学力検査及び採点、大変お疲れ様でした。  
さて、標記教員集会を下記により開催しますので、御出席  
願います。

なお、都合（出張等）で欠席される場合は、事前に庶務係  
あてご連絡ください。

よろしくお願いたします。

記

1. 日 時 2月22日(水) 16:00～
2. 場 所 階段教室
3. 議 題 1) 授業視察について  
2) その他

\*\*\*\*\*

鹿兒島工業高等専門学校 庶務課 庶務係

(出典：総務課資料)

資料 9 - 2 - ① - 1 1

## 授業視察報告に関する教員集会 議事要旨

日時：平成 18 年 2 月 22 日(水) 16 時～16 時 40 分

出席者：教員（約 35 名）

記録：宮田

校長議事進行のもとで、下記について説明が案された。

## ①教員団による授業視察結果報告 (FD 委員長)

FD 委員長から資料 1 にもとづき、説明がなされた。

- ・平成 18 年 1 月 10 日から 31 日にかけて、全教員 131 名（常勤 77 名、非常勤 54 名）の  
授業視察を、校長、教務主事、FD 委員長、学科長、FD 委員、他 の 13 名で 2～3 名  
の教員団を作り、1 科目あたり 15 分程度で行った。
- ・視察団が授業視察を行って感じたことについて説明があり、  
ぜひ、ほかの先生の授業を見てみて、参考にし欲しい旨、要望があった。
- ・資料 2 は視察委員のコメントで授業視察で見受けられた良い点と、改善したほうが  
良いと思われる点の代表的なコメントなので、参考にしたい旨、案内があった。

## ②教員団による授業視察の今後の進め方 (FD 委員長)

FD 委員長から資料 1 にもとづき、

今回と同様の形態を考えているが、さらに

- ・視察計画の時間は他の教員も参観できるようにしたい
- ・公開授業などにもつなげたい

旨、提案がなされた。

## ④質疑・要望など

下記のような意見・提案がなされた。

- ・ほかの人の授業も参考になるので、授業参観もいいのでは。
- ・FD 活動として、学外からも人を呼んで、いろいろな話や、  
模擬授業なども行ってみたら。
- ・FD で授業改善を行っているが、学力向上はどうか？
- ・学力の向上、基礎学力をつけるためにも、目標や動機付けも必要である

(出典：平成 17 年度授業視察報告に関する教員集会議事要旨)



## 英語教育検討小委員会議事要旨

日 時：平成16年3月3日（火）14：30～17：45

場 所：鹿児島高専地域共同テクノセンター共同研究・受託研究室

## 【議事】

3. 鹿児島大学教育学部 樋口晶彦教授によるゼミナール形式の説明と示唆（14：35～）

TOEIC 400 到達を目指した英語教育推進プロジェクト

- I. TOEIC 代用試験問題に関して
- II. TOEIC 400 到達を目指す計画立案に関して
- III. TOEIC 英語教育推進プロジェクトに関して

（出典：英語教育検討小委員会議事要旨）

（分析結果とその根拠理由）

教育の内容及び方法の改善については、FD委員会と教務委員会が連携し、研究集会、公開授業、授業視察及び結果報告に関する教員集会などを行っている。その他、英語力向上に関する教育方法の改善のために、英語教育検討小委員会が組織され、活動が行われている。これらのことから、本校では、ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されていると判断される。

### 観点 9-2-②： ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか

（観点に係る状況）

公開授業（資料 9-2-①-6 参照）や授業視察の結果（資料 9-1-⑤-3 参照）等を参考に、各教員が取り組んだ授業改善の状況を、教員アンケートで確認している（資料 9-1-⑤-2 参照）。これらの授業改善の効果は、学生による授業評価アンケートの「この授業はわかりやすかった」の評価値が向上していることに表れている（資料 9-1-②-3 参照）。

また、英語教育の改善に関する英語教育検討小委員会では、英語力向上のための教育方法の改善について検討し（資料 9-2-②-1）、これに基づいて改善が行われ、TOEIC の導入や海外語学研修の実施などの英語コミュニケーション能力の向上策が実施されている。（資料 9-2-②-2, 3）。

### 観点 9-2-②資料一覧

（資料 9-2-②-1）英語力向上の審議	出典：英語教育検討小委員会議事要旨（H16/3/15）
（資料 9-2-②-2）TOEIC400点到達の学生数の推移	出典：英語科資料
（資料 9-2-②-3）海外語学研修	出典：高専だより第 55 号 2 頁

資料 9 - 2 - ② - 1

英語教育検討小委員会議事要旨

(TOEIC 相当試験及び試験終了後の話し合い)

日 時 平成 1 6 年 3 月 1 5 日 ( 月 ) 15:00~17:20

場 所 専攻科棟 2 階 共用教室

出席者 外部出席者 鹿児島大学教育学部 樋口教授

英語科教官 あべ松, 嵯峨原, 金岡, 坂元

JABEE 委員長 池田

事務 鳥丸, 末吉

4. その他

嵯峨原助教授

- ・ 1~3 年のカリキュラムの見直し, 3 年までは検定教科書を使用することも検討しなければならない。低学年で力をつけることにより, 4~5 年はその流れでいけるのではないか。

計画書の作成

- ・ 計画書作成の提言が, 樋口教授からあった。  
春休みに, 計画書を作り, 校長へ提出したらどうか。  
嵯峨原助教授を中心として, 5 名又は 2 名の WG で。
- ・ 嵯峨原助教授が了承された。

(出典: 英語教育検討小委員会議事要旨 (H16/3/15) )

資料 9 - 2 - ② - 2

TOEIC 400 点到達の学生数の推移

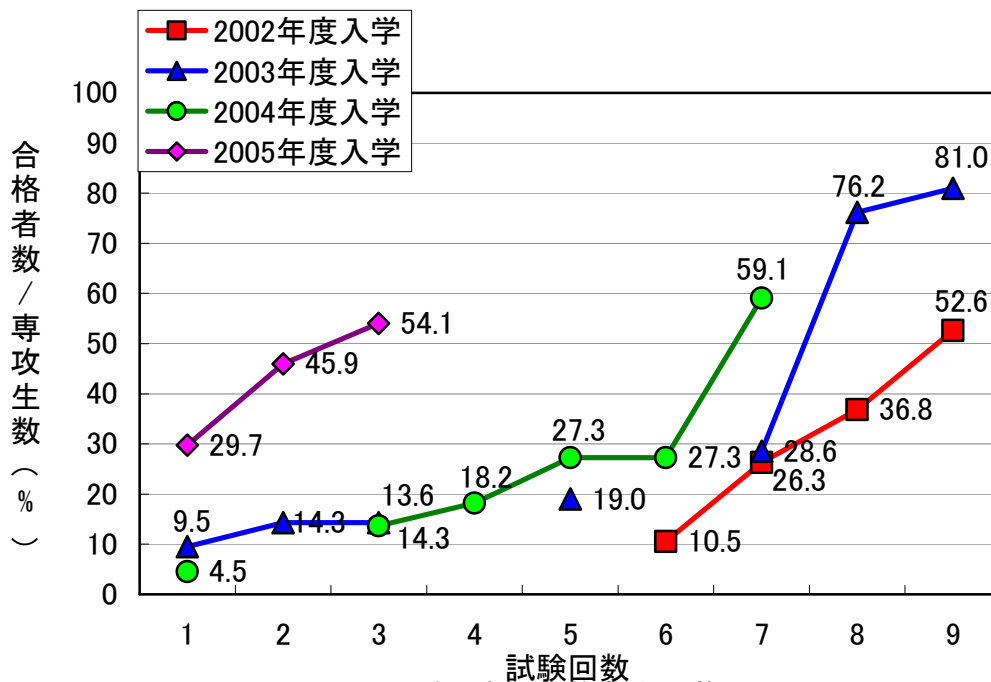


図4 試験回数と合格割合の推移

(出典: 英語科資料)



## 特 集

### 「海外語学研修」

#### 海外語学研修の実施について

教務主事補 松田 忠大

##### 1. 海外語学研修実施の目的と経緯

外国語によるコミュニケーション能力の向上は、本校の学習・教育目標の一つである「グローバルに活躍する技術者」を育成するためには不可欠である。また、平成15年度には、JABEE（日本技術者教育認定機構）による教育プログラムの認定を受け、特に、専攻科では、TOEICにおける400点以上修得が修了のための要件ともなっていることから、学生の語学力（特に英語力）の向上が急がれるところである。

このようなこともあって、本校では、カリキュラムの改定、補講の実施などを通じて学生の外国語（特に英語）の能力向上のための様々な取り組みを実施してきたが、平成15年度以降、教務委員会を中心に、学生の英語学習への動機付けを主な目的として、海外語学研修の実施を検討することになった。

海外語学研修の検討に際して、本校教職員及び学生へのアンケート調査を実施したところ、学生においては実施について肯定的な意見が多く、教職員においては賛否がほぼ同数との結果が得られた。

この結果をもとに、平成17年度の教務委員会において海外語学研修の実施の可否について審議したところ、希望者を対象として実施の方向で検討すると結論に至り、平成18年3月に7日間の海外語学研修を実施することになった。

##### 2. 海外語学研修の内容

この研修は、学生の英語力向上のための一方策であり、低学年のうちに海外での生活や海外の学校での授業を体験することで、今後の英語学習への意欲を高めてもらうこと（動機付け）を主な目的とした。

したがって、対象となる学生を準学士課程の2、3年生に設定し、単なる海外旅行や修学旅行にならないように、ホームステイと研修地の高等学校において授業を受けることを主な研修内容とし、旅行会社と協議の上、表に示すような内容で実施することに決定した。また、この研修を本校のカリキュラム上の特別学習と位置づけ、参加した学生は、課題等の提出を条件に1単位を認定す

ることも決定された。

##### 3. 研修の成果と課題

今回の研修は、2名の教員（三原先生、北菌先生）の引率の下、最終的には、12名の学生（2年生（現3年生）7名、3年生（現4年生）5名）が参加し、ホームステイでは、参加学生が2人組に別れてカナダ人の家庭で過ごし、Notre Dame Regional Schoolでは、現地生徒とともに授業を受けた。

英語ばかりの世界を経験し、帰国した学生たちは、外国語を話せるようになることの重要性を認識したようで、5月10日に開催された研修報告会においては、今後の英語の学習に対する意欲を語ってくれた。

今回の研修は、第1回目ということで試行的意味合いもあり、学生たちにどれほどの効果があるか不安であったが、参加した学生たちの感想を聞き、この研修の所期の目的は達成されたのではないかと考えている。また、今回の受け入れ先の学校が、今後も本校との交流を継続させたい意向を示していることも喜ばしいことである。しかし、語学研修実施に関する課題もいくつか残されたように思われる。まず、今回は、年度途中で研修の実施が決定されたことにより参加者募集の期間が極端に短かったこと、また、保護者に案内が周知されていなかったことが問題点として挙げられる。

当初、計画では、2年生を中心に30名を募集人員としていたが、このような事情もあって最終的には参加者数が12名にとどまり、途中で費用の増額を余儀なくされ、結果として、参加学生の保護者の皆様にご迷惑をおかけすることにもなった。また、参加した学生からは、研修期間が短すぎたとの声も聞かれ、研修期間の延長を望む要望も出された。

今年度も海外語学研修を実施するために、教務委員会で検討を始めているが、このような問題点を踏まえて、今年度は学生向けの説明会を6月または7月に実施し、さらには、保護者懇談会においても保護者への説明を行うことなどを計画している。また、実質的な研修期間が最低でも1週間となるように、研修期間の延長につき、既に、旅行会社との検討も行っている。

教務委員会では、今後、この研修がさらに充実した内容で継続するよう努めていくつもりである。保護者の皆様のご理解をいただければ幸いである。



（出典：高専だより第55号 2頁）

(分析結果とその根拠理由)

公開授業や授業視察の結果等を参考に、各教員が授業改善に取り組んでいることが、教員アンケートにより確認されている。これらの授業改善の効果は、学生による授業評価アンケートに表れている。また、英語教育の改善に関する取り組みがなされ、TOEICの導入や海外語学研修の実施などの英語コミュニケーション能力の向上策が実施されている。これらのことから、ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いていると考えられる。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 教育活動の実態を示すデータや資料等として、シラバスをはじめとして教材や成績の根拠となる証拠資料の収集・蓄積が、組織的に行われている点
- ・ 成績会議の定期的な開催、「学生による授業評価アンケート」とその定期的・継続的なフィードバックの実施など、教育の状況について評価を適切に実施する体制が十分整備されている点
- ・ 各種評価結果を教育の質の向上と改善に結び付ける複数のPDCAサイクルが「教育改善システム」として整備されている点
- ・ 全教員の授業視察や視察報告の教員集会、教員アンケートによる各教員の教育改善への取り組み状況の把握や、英語教育検討小委員会による指導内容の検討など、教員の資質向上を図る取り組みを組織として行っており、これが教育の質の向上や授業の改善に結び付いている点

(改善を要する点)

特になし

## (3) 基準 9 の自己評価の概要

教育活動の実態を示すデータとして、基礎・基本、シラバス、試験答案、学業成績一覧、各種アンケート調査結果等を収集・蓄積する体制が整備され、適切に保管されている。また、これらのデータを用いて評価を実施する評価機関として、教育プログラム改善委員会、FD委員会、自己点検・評価委員会、外部評価委員会、成績会議が整備されている。

本校では、授業評価アンケートにより学生の意見が聴取されており、その評価・分析がなされ、自己点検・評価に適切な形で反映されている。また、学外からの意見を求めるため、外部評価委員会を設置している他、企業・進学先・卒業生に対してアンケートを実施し、本校の教育の状況に関する社会の意見・要望を聴取し、その結果は自己点検・評価に適切に反映されている。

準学士課程及び専攻科課程では、成績会議、教育プログラム改善委員会、FD委員会を評価機関、教務委員会、専攻科委員会、教育プログラム点検会議を改善機関とした教育の質の向上・改善のためのシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられている。

学生による授業評価アンケートに基づき、各教員は教育方法の改善を提示し、FD委員会はこれを集約している。さらに、校長等による授業視察や教員アンケートを実施し、各教員が授業内容や教授方法の改善を行っていることを学校として把握している。

教員の教育研究の成果が、教育内容・方法の改善に活かされている例や、教員の研究分野の知見を活かして教科書が執筆され、授業に活用されている例もある。さらに、卒業研究や特別研究において

は、教員の専門分野の研究を活かした指導が行われている。

ファカルティ・ディベロップメントについては、FD委員会と教務委員会が連携し、研究集会、公開授業、授業視察及び結果報告に関する教員集会などを行っている。公開授業や授業視察の結果等を参考に、各教員が授業改善に取り組んでいることが、教員アンケートにより確認されている。これらの授業改善の効果は、学生による授業評価アンケートに表れている。また、英語力向上に関する教育方法の改善のために、英語教育検討小委員会が組織され、TOEICの導入や海外語学研修の実施などの英語コミュニケーション能力の向上策が実施されている。これらのことから、ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いていると考えられる。

## 基準10 財務

## (1) 観点ごとの分析

観点10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。  
また、債務が過大ではないか。

(観点に係る状況)

本校の「目的」に基づいて教育研究活動が行われている。この教育研究活動を安定して遂行していくために、相応の資産が必要であり、債務が過大であってはならない。

平成17年度期末決算の財産額（有形固定資産）は、資料10-1-①-1～5に記載のとおり「資産合計額」は4,682,568千円の資産を有している。また、事業費は運営費交付金及び授業料等の自己収入により収入が確保され、その範囲内で適正に支出されている。

## 観点10-1-①資料一覧

(資料10-1-①-1) 損益計算書 (17年度)	出典：総務課資料
(資料10-1-①-2) 貸借対照表 (17年度)	出典：総務課資料
(資料10-1-①-3) 固定資産一覧表	出典：総務課資料
(資料10-1-①-4) 使用現況等表	出典：総務課資料
(資料10-1-①-5) 土地・建物一覧	出典：総務課資料

資料 10-1-①-1

事業年度： 17年度  
 支部： 54 鹿兒島工業高等専門  
 会計区分： 国立高専機構  
 部 署： 総括  
 アドレス： 総括  
 セグメント：

## 損益計算書

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

(単位：円)

## [経常費用]

## 業務費

## 教育・研究経費

消耗品費			64,885,791
備品費			22,609,336
印刷製本費			4,570,525
水道光熱費			
電気料	11,743,514		
ガス料	1,428,172		
水道料	1,434,013	14,605,699	
旅費交通費			22,205,594
通信運搬費			2,065,573
賃借料			1,351,514
車両燃料費			27,062
福利厚生費			0
保守費			5,078,684
修繕費			7,237,705
損害保険料			0
広告宣伝費			0
行事費			116,235
諸会費			2,079,317
会議費			48,372
委託調査研究費			0
文献複写費			186,513
支払派遣費			0
プログラム開発費			0
支払報酬			
諸謝金	153,975	153,975	
奨学費			
奨学交付金	18,709,350		
留学生給与	0	18,709,350	
減価償却費			22,689,318
貸倒損失			117,300
貸倒引当金繰入額			0
徴収不能引当金繰入額			0
雑費			

1 / 7

(出典：総務課資料)



資料10-1-①-1 続き

事業年度： 17年度  
 支部： 54 鹿兒島工業高等専門  
 会計区分： 国立高专機構  
 部署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 切替日：

## 損益計算書

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

		(単位：円)	
備船料	0		
特許出願費	0		
移設撤去費	240,000		
損害賠償費	0		
雑役務費	4,470,800	4,710,800	193,448,663
教育研究支援費			
消耗品費		14,896,934	
備品費		3,660,566	
印刷製本費		410,000	
水道光熱費			
電気料	3,189,739		
ガス料	426,972		
水道料	174,678	3,791,389	
旅費交通費		1,233,473	
通信運搬費		3,901,918	
賃借料		7,131,726	
車両燃料費		0	
福利厚生費		0	
保守費		1,744,889	
修繕費		167,370	
損害保険料		0	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		162,570	
会議費		0	
支払派遣費		0	
プログラム開発費		0	
支払報酬			
諸謝金	2,072,490	2,072,490	
減価償却費		17,471,381	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
移設撤去費	0		
損害賠償費	0		

2 / 7

(出典：総務課資料)

資料10-1-①-1 続き

事業年度： 17年度  
 支部： 54 鹿児島工業高等専門  
 会計区分： 国立高专機構  
 部署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 コメント：

## 損益計算書

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

		(単位：円)	
雑役務費	1,064,467	1,064,467	57,709,173
受託研究費			
謝金		5,926,950	
旅費交通費		1,437,672	
人件費		0	
物件費		6,225,085	
減価償却費		0	
その他の受託研究費		310,293	13,900,000
受託事業費			
謝金		3,662,075	
旅費交通費		2,145,349	
人件費		3,084,459	
物件費		16,623,784	
減価償却費		359,100	
その他の受託事業費		2,587,855	28,462,622
教員人件費			
常勤教員給与			
常勤教員給与	464,381,262		
常勤教員賞与	179,478,571		
常勤教員賞与引当金繰入額	0		
常勤教員退職給付費用	84,718,298		
常勤教員法定福利費	10,445,931	739,024,062	
非常勤教員給与			
非常勤教員給与	38,595,500		
非常勤教員賞与	0		
非常勤教員賞与引当金繰入額	0		
非常勤教員退職給付費用	0		
非常勤教員法定福利費	192,979	38,788,479	777,812,541
職員人件費			
役員報酬			
役員報酬	0		
役員賞与	0		
役員賞与引当金繰入額	0		
役員退職給付費用	0		
役員法定福利費	0	0	
常勤職員給与			

3 / 7

(出典：総務課資料)

資料10-1-①-1 続き

事業年度：17年度

支部：54 鹿兒島工業高等専門

会計区分：国立高専機構

部署：総括

プロジェクト：総括

セグメント：

## 損益計算書

平成17年4月1日～平成18年3月31日

(単位：円)

常勤職員給与	221,290,017		
常勤職員賞与	73,769,433		
常勤職員賞与引当金繰入額	0		
常勤職員退職給付費用	0		
常勤職員法定福利費	4,869,454	299,928,904	
非常勤職員給与			
非常勤職員給与	11,343,028		
非常勤職員賞与	0		
非常勤職員賞与引当金繰入額	0		
非常勤職員退職給付費用	0		
非常勤職員法定福利費	1,223,663	12,566,691	312,495,595
一般管理費			
一般管理費			
消耗品費		8,271,318	
備品費		1,615,224	
印刷製本費		1,393,998	
水道光熱費			
電気料	6,191,080		
ガス料	8,868		
水道料	446,851	6,646,799	
旅費交通費		9,327,112	
通信運搬費		3,132,430	
賃借料		1,523,745	
車両燃料費		352,093	
福利厚生費		817,881	
保守費		11,756,539	
修繕費		20,741,693	
損害保険料		38,354	
広告宣伝費		2,586,200	
行事費		0	
諸公費		299,579	
会議費		0	
委託調査研究費		0	
支払派遣費		0	
プログラム開発費		0	
諸謝金		782,250	

資料10-1-①-1 続き

事業年度： 17年度  
 支部： 54 鹿児島工業高等専門  
 会計区分： 国立高専機構  
 部署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 セグメント：

## 損益計算書

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

(単位：円)			
支払手数料			
銀行手数料	936,515		
その他手数料	0	936,515	
租税公課			
自動車重量税	69,300		
固定資産税	775,100		
収入印紙代	0		
消費税等	0		
その他の租税公課	0	844,400	
減価償却費		5,558,736	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
環境整備費	2,270,680		
移設撤去費	0		
雑役務費	22,349,856	24,620,536	101,245,402
財務費用			
財務費用			
支払利息		0	
その他の財務費用		0	0
雑損			
雑損			0
[経常費用] 合計		1,485,073,996	
[経常収益]			
[経常収益] 運営費交付金収益			1,090,621,734
[経常収益] 授業料収益			
[授業料収益] 授業料収益	253,719,900		
[授業料収益] 講習料収益	125,800	253,845,700	
[経常収益] 入学金収益			21,742,200
[経常収益] 検定料収益			7,870,500
[経常収益] 受託研究等収益			
受託研究収益	8,100,000		
共同研究収益	5,800,000	13,900,000	
[経常収益] 受託事業等収益			28,474,500
[経常収益] 補助金等収益			0

資料 10-1-①-1 続き

事業年度： 17年度  
 支部： 54 鹿児島工業高等専門  
 会計区分： 国立高専機構  
 部署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 セグメント：

## 損益計算書

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

		(単位：円)
[経常収益] 寄附金収益		12,294,782
[経常収益] 施設費収益		2,275,350
[経常収益] 資産見返負債戻入		
資産見返運営費交付金等戻入	10,067,005	
資産見返補助金等戻入	0	
資産見返寄附金等戻入	137,200	
資産見返物品受贈額戻入	35,515,230	
特許権仮勘定見返運営費交付金戻入	0	45,719,435
[経常収益] 財務収益		
受取利息	43	
その他の財務収益	0	43
[経常収益] 雑益		
財産貸付料収入	7,344,923	
文献複写料	1,640	
物品受贈益	0	
債権受贈益	0	
承継剰余金債務戻入	0	
その他の雑益	1,341,225	8,687,788
[経常収益] 合計		1,485,432,032
経常利益		358,036
[臨時損失]		
[臨時損失] 固定資産除却損		0
[臨時損失] 固定資産売却損		0
[臨時損失] 災害損失		0
[臨時損失] その他の臨時損失		0
[臨時損失] 合計		0
[臨時利益]		
[臨時利益] 固定資産売却益		0
[臨時利益] 貸倒引当金戻入		0
[臨時利益] 徴収不能引当金戻入		0
[臨時利益] 退職給付引当金戻入		0
[臨時利益] 資産見返負債戻入		
資産見返運営費交付金等戻入	0	
資産見返補助金等戻入	0	
資産見返寄附金戻入	0	
資産見返物品受贈額戻入	0	0

資料10-1-①-1 続き

事業年度： 17年度  
 支部： 54 鹿兒島工業高等専門  
 会計区分： 国立高専機構  
 部署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 セグメント：

## 損益計算書

平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日

	(単位：円)
[臨時利益] その他引当金戻入	0
[臨時利益] その他の臨時利益	0
[臨時利益] 合計	0
[当期純利益 (純損失)]	358,036
[目的積立金取崩額]	0
[当期総利益 (総損失)]	358,036

7 / 7

(出典：総務課資料)

資料10-1-①-2

事業年度： 17年度  
 支部： 54 鹿兒島工業高等専門学校  
 会計区分： 国立高専機構  
 部署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 セグメント： 総括

## 貸借対照表

平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日

資 産 の 部		負 債 及 び 資 本 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
[資産の部]	4,823,327,251	[負債の部]	250,905,778
流動資産	137,928,654	流動負債	137,745,352
現金及び預金	131,871,930	運営費交付金債務	5,239,900
現金	0	授業料債務	0
当座預金	0	承継剰余金債務	0
普通預金	131,871,930	預り施設費	0
定期預金	0	預り補助金等	0
その他預金	0	預り寄附金	27,403,575
有価証券	0	前受受託研究費等	0
有価証券	0	前受受託事業費等	0
受取手形	0	短期借入金	0
受取手形	0	1年以内返済予定長期借入金	0
未取学生納付金収入	253,800	未払金	94,065,564
未取学生納付金収入	253,800	未払消費税等	0
棚卸資産	0	未払費用	10,980,986
未成研究支出金	0	給与	3,033,145
未成事業支出金	0	法定福利費	211,007
貯蔵品	0	賃借料	764,673
未収入金	5,436,900	水道光熱費	1,894,940
未収入金	5,436,900	未払利息	0
前渡金	0	その他未払費用	5,077,221
前渡金	0	前受金	0
前払費用	94,266	預り金	55,327
前払費用	94,266	科学研究費	0
法定福利費	68,832	社会保険料	28,727
未経過賃借料	0	源泉所得税等	26,600

1 / 6

(出典：総務課資料)



## 資料10-1-①-2 続き

事業年度： 17年度  
 支部： 54 鹿兒島工業高等専門学校  
 会計区分： 国立高専機構  
 部署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 タイトル： 総括

## 貸借対照表

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 及 び 資 本 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
未経過保険料	25,434	職員宿舍貸付料	0
未経過支払利息	0	その他預り金	0
その他の前払費用	0	前受収益	0
未収収益	0	前受利息	0
未収収益	0	その他前受収益	0
短期貸付金	0	引当金	0
短期貸付金	0	賞与引当金	0
その他の流動資産	271,758	修繕引当金	0
仮払金	237,399	損害補償損失引当金	0
仮払消費税	0	その他の引当金	0
旅費仮払	237,399	その他の流動負債	0
立替金	34,359	仮受金	0
その他流動資産	0	その他の流動負債	0
徴収不能引当金	0	固定負債	113,160,426
徴収不能引当金	0	資産見返負債	113,160,426
貸倒引当金	0	資産見返運営費交付金等	71,547,516
貸倒引当金	0	資産見返運営費交付金	71,547,516
固定資産	4,685,398,597	資産見返授業料	0
有形固定資産	4,682,568,435	資産見返補助金等	0
建物	2,187,180,175	資産見返寄附金	891,800
建物	1,593,253,527	資産見返物品受贈額	40,721,110
建物附属設備	593,926,648	建設仮勘定見返運営費交付金等	0
建物減価償却累計額	-435,910,027	建設仮勘定見返運営費交付金	0
構築物	321,358,922	建設仮勘定見返授業料	0
構築物減価償却累計額	-78,461,758	建設仮勘定見返施設費	0
機械装置	0	建設仮勘定見返補助金等	0

2 / 6

(出典：総務課資料)

## 資料10-1-①-2 続き

事業年度： 17年度  
 支部： 54 鹿兒島工業高等専門学校  
 会計区分： 国立高専機構  
 部署： 総括  
 プロジェクト： 総括  
 タイトル： 総括

## 貸借対照表

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 及 び 資 本 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
機械装置減価償却累計額	0	建設仮勘定見返寄付金	0
船舶	0	特許権仮勘定見返運営費交付金等	0
船舶減価償却累計額	0	長期預り金補助金等	0
車両運搬具	6,180,804	長期預り金寄附金	0
車両運搬具減価償却累計額	-2,265,966	長期前受委託研究費等	0
工具器具備品	186,492,210	長期前受委託事業費等	0
工具器具備品減価償却累計額	-104,205,925	長期借入金	0
土地	2,600,200,000	長期未払金	0
建設仮勘定	0	引当金	0
その他の有形固定資産	2,000,000	退職給付引当金	0
その他の有形固定資産減価償却累計額	0	追加退職給付引当金	0
無形固定資産	2,822,702	その他の引当金	0
特許権	0	その他の固定負債	0
借地権	0	[資本の部]	4,544,980,756
実用新案権	0	資本金	5,036,702,136
意匠権	0	政府出資金	5,036,702,136
ソフトウェア	2,597,702	その他出資金	0
電話加入権	225,000	資本剰余金	-491,721,380
その他の無形固定資産	0	資本剰余金	40,448,570
著作権	0	資本剰余金施設費	38,223,570
特許権仮勘定	0	資本剰余金運営費交付金	0
投資その他の資産	7,460	資本剰余金授業料	0
投資有価証券	0	資本剰余金補助金等	0
長期貸付金	0	資本剰余金寄附金	0
長期前払費用	7,460	資本剰余金目的積立金	0
未収財源措置予定額	0	資本剰余金譲与	2,225,000

3 / 6

(出典：総務課資料)



資料10-1-①-2 続き

事業年度：17年度  
 支部：54 鹿兒島工業高等専門学校  
 会計区分：国立高専機構  
 部署：総括  
 プロジェクト：総括  
 シフト：総括

## 貸借対照表

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 及 び 資 本 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
敷金・保証金	0	その他の資本剰余金	0
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに類する債権	0	損益外減価償却累計額	-529,879,526
その他の投資その他の資産	0	損益外固定資産除売却差額	-2,290,424
[本店勘定]	-27,082,681	利益剰余金	0
[本店] 南館工業高専	0	前中期目標期間繰越積立金	0
[本店] 苫小牧工業高専	0	目的積立金	0
[本店] 鋼路工業高専	0	教育研究・福利厚生・地域貢献充実積立金	0
[本店] 旭川工業高専	0	目的積立金	0
[本店] 八戸工業高専	0	目的積立金	0
[本店] 一関工業高専	0	積立金	0
[本店] 宮城工業高専	0	当期末処分利益	0
[本店] 仙台電波工業高専	0	繰越欠損金	0
[本店] 秋田工業高専	0	当期末処理損失	0
[本店] 鶴岡工業高専	0	その他の有価証券評価差額金	0
[本店] 福島工業高専	0		
[本店] 茨城工業高専	0		
[本店] 小山工業高専	0		
[本店] 群馬工業高専	0		
[本店] 木更津工業高専	0		
[本店] 東京工業高専	0		
[本店] 長岡工業高専	0		
[本店] 富山工業高専	0		
[本店] 富山商船高専	0		
[本店] 石川工業高専	0		
[本店] 福井工業高専	0		
[本店] 長野工業高専	0		

4 / 6

(出典：総務課資料)

資料10-1-①-2 続き

事業年度：17年度  
 支部：54 鹿兒島工業高等専門学校  
 会計区分：国立高専機構  
 部署：総括  
 プロジェクト：総括  
 シフト：総括

## 貸借対照表

平成17年 4月 1日 ～ 平成18年 3月31日

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 及 び 資 本 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
[本店] 岐阜工業高専	0		
[本店] 沼津工業高専	0		
[本店] 豊田工業高専	0		
[本店] 鳥羽商船高専	0		
[本店] 鈴鹿工業高専	0		
[本店] 舞鶴工業高専	0		
[本店] 明石工業高専	0		
[本店] 奈良工業高専	0		
[本店] 和歌山工業高専	0		
[本店] 米子工業高専	0		
[本店] 松江工業高専	0		
[本店] 津山工業高専	0		
[本店] 広島商船高専	0		
[本店] 呉工業高専	0		
[本店] 徳山工業高専	0		
[本店] 宇部工業高専	0		
[本店] 大島商船高専	0		
[本店] 阿南工業高専	0		
[本店] 高松工業高専	0		
[本店] 詫間電波工業高専	0		
[本店] 新居浜工業高専	0		
[本店] 弓削商船高専	0		
[本店] 高知工業高専	0		
[本店] 久留米工業高専	0		
[本店] 有明工業高専	0		
[本店] 北九州工業高専	0		

5 / 6

(出典：総務課資料)



資料10-1-①-4

様式2(機関計)

使用現況等表(法人設立時承継財産)

(鹿児島工業高等専門学校 計)

省 庁 名 文部科学省  
 (機 関 名) 鹿児島工業高等専門学校

区 分	使 用 現 況		現物出資を希望するもの		備 考
	数 量	価 格 (円)	数 量	価 格 (円)	
国 有 財 産 台 帳 記 載 事 項	土 地	( ) m <sup>2</sup> ( )	( ) m <sup>2</sup> ( )	( )	
	立 樹木	129,785.05 2,913,368,083	129,785.05 2,913,368,083	( )	
	木 立木	850 6,136,018	850 6,136,018	( )	
	竹 竹	( ) 束 ( )	( ) 束 ( )	( )	
	計	( )	( )	( )	
	建 (建築様)	( ) m <sup>2</sup> ( )	( ) m <sup>2</sup> ( )	( )	
	物 (証券様)	17,403.14 ( )	17,403.14 ( )	( )	
	工作物	35,539.12 1,937,470,129	35,539.12 1,937,470,129	( )	
	船 汽船	( ) 隻 ( )	( ) 隻 ( )	( )	
	船 雑船	( ) 隻 ( )	( ) 隻 ( )	( )	
	計	( )	( )	( )	
	航空機	( ) 機 ( )	( ) 機 ( )	( )	
	地上権等	( ) m <sup>2</sup> ( )	( ) m <sup>2</sup> ( )	( )	
	特許権等	( ) 件 ( )	( ) 件 ( )	( )	
	計	( )	( )	( )	
			5,876,757,163		5,876,757,163
借 上 財 産	土 地	6.70 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>		
	立 樹木	本	本		
	木 立木	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>		
	竹 竹	束	束		
	計	( )	( )	( )	
	建 (建築様)	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>		
	物 (証券様)	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>		
	工作物	( )	( )		
	船 汽船	( ) 隻 ( )	( ) 隻 ( )	( )	
	船 雑船	( ) 隻 ( )	( ) 隻 ( )	( )	
	計	( )	( )	( )	
	航空機	( ) 機 ( )	( ) 機 ( )	( )	
	地上権等	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>		
	特許権等	件	件		
	計	( )	( )	( )	

(出典：総務課資料)



資料 10 - 1 - ① - 5

## 土地・建物一覽

鹿兒島高専

区分	種目	用途	建物名称	延面積	単位
土地				129,785.05	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	学校用	管理棟	1,035.47	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	学校用	一般科目棟	1,765.15	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	学校用	学生共通棟	983.84	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	学校用	機械及び土木工学科棟	619.15	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	学校用	機械工学科棟	459	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	学校用	機械工学科棟	1,735.05	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	学校用	情報工学科棟	2,215.22	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	学校用	電気電子工学科棟	1,579.92	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	学校用	電子計算機室	304	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	学校用	電子制御工学科棟	785.42	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	学校用	土木工学科棟	1,733.98	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	学校用	普通教室棟	663.39	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	学校用	専攻科棟	1,213.00	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	学校用	地域共同テクノセンター	420	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	学校用	図書館	1,660.09	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	学校用	共用施設	677.45	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	寄宿舎用	寄宿舎管理棟	77.99	m <sup>2</sup>
建物	住宅建	寄宿舎用	第一志学寮	2,623.14	m <sup>2</sup>
建物	住宅建	寄宿舎用	第二志学寮	1,423.72	m <sup>2</sup>
建物	住宅建	寄宿舎用	第三志学寮	819.48	m <sup>2</sup>
建物	住宅建	寄宿舎用	第四志学寮	539.99	m <sup>2</sup>
建物	住宅建	寄宿舎用	第五志学寮	649.73	m <sup>2</sup>
建物	住宅建	寄宿舎用	第六志学寮	2,562.70	m <sup>2</sup>
建物	住宅建	寄宿舎用	女子志学寮	677.5	m <sup>2</sup>
建物	住宅建	寄宿舎用	女子寮	186.63	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	寄宿舎用	食堂・厨房	814.27	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	寄宿舎用	洗濯室	51.82	m <sup>2</sup>
建物	工場建	工場用	機械工場	719.99	m <sup>2</sup>
建物	工場建	工場用	機械実習棟	504	m <sup>2</sup>
建物	工場建	工場用	工場燃料庫	27.9	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	車庫用	車庫	185.63	m <sup>2</sup>
建物	倉庫建	倉庫用	倉庫	213.63	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	倉庫用	体育器具庫	261.7	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	体育館用	体育館	1105.66	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	体育館用	第二体育館	879.87	m <sup>2</sup>
建物	事務所建	学校用	福利施設	800.74	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	学校用	水泳プール付属屋	24	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	学校用	変電室	74.67	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	学校用	女子更衣室	66	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	学校用	コンクリート実習室	45	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	学校用	シャワー室	44	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	演奏場用	器楽練習室	104	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	その他のもの	武道場	300.75	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	その他のもの	(弓道場)射場	45	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	その他のもの	ボイラー室	112	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	その他のもの	ポンプ室	22.15	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	その他のもの	屋外便所	9.99	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	その他のもの	機械室(寄宿舎廃水処理施設)	19.95	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	その他のもの	機械室(校舎廃水処理施設)	19.95	m <sup>2</sup>
建物	雑屋建	その他のもの	守衛室	27.49	m <sup>2</sup>
建物	住宅建		高専宿舎	1647.95	m <sup>2</sup>
			建物 計	35,539.12	m <sup>2</sup>

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

有形固定資産については鑑定評価を行い、出資財産評価委員会で評価・出資されたもので、適正に建物及び設備等は管理運営されている。また、当期末処理損失も無く、過大な債務は保有していない。

**観点10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。**

(観点に係る状況)

教育研究活動を行う経費は、運営費交付金及び自己収入で運営され、本校全体の教育研究活動経費については、本来機構本部で定めている。経常的収入の確保については、経済状況の厳しい中において過去3年間の収入平均額(資料10-1-②-1, 2)を目標として、自己収入の確保がなされている。特に、平成15年度以降、産学連携等研究収入として、30,000千円以上の収入があり、年々増加している。また、寄附金については、毎年10,000千円以上の受入がある。

**観点10-1-②資料一覧**

(資料10-1-②-1) 収納決算額調 出典：総務課資料

(資料10-1-②-2) 収入見積額調 出典：総務課資料

資料10-1-②-1

収納決算額調

(単位：円)

歳入科目	平成15年度 収納額	平成16年度 収納額	平成17年度 収納額
授業料及び入学検定料			
授業料及び入学検定料	256,807,300	235,695,800	264,631,750
授業料	227,182,600	207,024,000	234,893,250
入学料及検定料	29,495,100	28,593,600	29,612,700
入学料	21,657,600	21,234,600	21,742,200
検定料	7,837,500	7,359,000	7,870,500
講習料	129,600	78,200	125,800
雑収入	52,837,292	62,553,034	67,644,077
産学連携等研究収入			
産学連携等研究収入	30,037,400	32,558,200	36,937,600
雑収入	22,799,892	29,994,834	30,706,477
学校財産貸付料	1,003,495	1,311,895	1,554,490
公務員宿舍貸付料	1,098,218	1,413,237	1,358,859
寄宿料	4,676,000	4,264,700	4,355,900
用途指定寄附金受入	13,930,000	11,362,538	12,883,013
不用物品売払代	315,000	152,250	0
学校災害共済掛金保護者負担金	1,599,360	1,622,880	1,658,320
労働保険料被保険者負担金	120,511	6,536,642	7,477,313
雑収入	57,308	3,330,692	1,418,582
計	309,644,592	298,248,834	332,275,827

(出典：総務課資料)

資料 10-1-②-2

平成17年度検定料収入見積額調

様式 1

学校名：鹿児島工業高等専門学校

区分	単価 円	14年度		15年度		16年度		3か年平均		17年度		入学志願見込者数 G=P×M	収入見積額 R=A×Q	15年度 収納済収入額 円	備考						
		入学志願者数 A	入学定員 B	志願倍率 C=D÷B	入学定員 E	入学志願者数 F	志願倍率 G=H÷E	入学定員 H	入学志願者数 I	志願倍率 J=K÷H	入学定員 L=(C+F)÷3					入学志願者数 M=(D+G+J)÷3	16年度入学定員 N	17年度入学定員 O	17年度入学定員 P=N+O		
高等専門学校(専攻科含む)	16,500	220	483	2,241	220	482	2,191	434	1,973	220	470	2,135	220	0	220	470	7,755	7,161,000			
編入学試験分	16,500		22			42		41			35					35	578	876,500 (R=A×L)			
研究生等																					
研究生	4,900																				0 (R=A×L)
聴講生	4,900																				0 (R=A×L)
合計																505	8,333	7,837,500			

(注)  
 1. 「16年度入学定員」の内訳である〇欄の「学年進行」は、16年度以前(16年度を含む)の新規組織整備によって17年度から入学定員が増減する員数を記入すること。(17年度新規要求に係るものは含まないこと。)  
 2. 「17年度入学定員」は、入学料収入見積額調の「17年度入学定員」と一致すること。  
 3. 志願倍率は小数点以下4桁を四捨五入し、小数点以下3桁とすること。  
 4. 編入学試験分の収入見積額については、3か年平均入学志願者数に単価を乗じて算出すること。  
 5. 研究生等の収入見積額については、3か年平均入学志願者数に単価を乗じて算出すること。  
 6. 15年度収納済収入額は、15年度歳入決算書附属内訳書と一致すること

(出典：総務課資料)



様式 2

平成17年度入学料収入見積額調

学校名 鹿兒島工業高等専門学校

区分	単価		入学見込者数		標準		特定		収入見込額		15年度 収納済歳入額	備 考
	A	B(n)	C	D	E=80×C	F=K×E	G=K×D	H=H+E	I=F+G	千円		
高等専門学校(専攻科含む)	84,600	235	220	15	220	18,612	1,269	235	19,881	20,473		
編入学部	84,600			16			1,354	16	1,354	1,184		
小計					220	18,612	2,623	251	21,235			
上記の99.5%(免除後)						18,519	2,610		21,129	21,657		
研究生等	25,100			0				0	0	0		
研究 生	8,400			0				0	0	0		
聴 講 生				0				0	0	0		
小計								0	0	0		
合 計					220	18,612	2,623	251	21,235			
免除後合計						18,519	2,610		21,129	21,657		

本科学生員数概算(専攻科を含む)

14年度		15年度		16年度		平均入学定員年度入学 員充足率	
入学	入学者	入学	入学者	入学	入学者	入学	入学者
220	233	220	234	220	237	106.7%	235
a	b	c	d	e	f	g	h

※ $e = (b+d+f)/3 \times 100/3h$ : 小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで記入  
 ※ $h = c \times g(A)$ : 繰数は四捨五入

編入学生員数概算

区分	14入学者数	15入学者数	16入学者数	平均員数
編入学生	14	14	20	14

※繰数は四捨五入

研究生等員数概算

区分	14入学者数	15入学者数	16入学者数	平均員数
研 究 生	0	0	0	0
聴 講 生	0	0	0	0

※繰数は四捨五入

(注) 1. 研究生等の員数は標準の平均員数とすること。  
 2. C欄「17入学定員」は、特定料収入目標額の「17入学定員」と一致すること。  
 3. B欄「入学見込者数」は、14～16年度の入学定員に対する入学者の割合の3年平均(平均入学定員充足率)を算出し、この率(C欄)をC欄「17入学定員」の員数に乘じた員数(D欄)とする。  
 4. D欄「入学見込者数」は、B欄「入学見込者数」からC欄「17入学定員」を減じた員数とする。(入学見込者数が17入学定員より少数の場合は0とする。)

(出典：総務課資料)



様式 3

学校名 鹿児島工業高等専門学校

平成17年度 授業料収入見積額調

区分	単価		在籍者数		16年度収容定員		収容定員		金額		高専分(収容定員分)		備考								
	A	B	人	人	C	D	E=C+D	F=D-E	G=H+K	H=I+J	K=A×F	千円	千円	14年度	15年度	16年度	平均収容17年度 定員充足率 定員充足率	基礎額 算入者 数			
高等専門学校																					
本科	228,000	1,038	0	1,000	0	1,000	38	214,320	205,656	228,000	22,344	8,664		1,090	1,017	1,000	1,042	1,056	103.8%	1038	
船舶高専半課程	102,900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0.0%	0	
専攻科	228,000	42	42	0	40	40	2	7,296	6,940	9,120	2,280	456		40	46	40	44	40	44	111.7%	45
小計			1,080	1,040	0	1,040	40	221,616	212,496	237,120	24,624	9,120									
上記の3.4.2% (免除後)								208,762	200,171												
研究生等			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									
研究生・専攻生	12,400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									
聴講生・専攻生	6,100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									
小計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									
合計			1,080	1,040	0	1,040	40	221,616	212,496	237,120	24,624	9,120									
免除後合計								208,762	200,171												

※ $a = (b \times 4 + c) / (d + e) \times 100 / 3$  (K): 小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで記入  
 ※平成15年度に専攻科を設置した高専については、 $a = (c + f) / (d + e) \times 100 / 2$   
 (K): 小数点第2位を四捨五入とし、平成16年度に専攻科を設置した高専については、 $a$ は四捨五入  
 ※ $b = c \times g$  (人): 乗数は四捨五入  
 ※(H)は基礎額等調様式1-2の在籍申込者数を記入すること  
 研究生・専攻生在籍者数積算  
 年度 歳入決算額(A) 単価(B) 単位(C=A/B)  
 13 0 11,900 0  
 14 0 11,900 0  
 15 0 12,400 0  
 平均 - - 0  
 聴講生・専攻生在籍者数積算  
 年度 歳入決算額(A) 単価(B) 単位(C=A/B)  
 13 0 5,900 0  
 14 0 5,900 0  
 15 0 5,100 0  
 平均 - - 0

(注) 1. 在籍者数については、編入者のH欄とI欄の員数の少ない方を記入すること。  
 2. 在籍者数については、各年5月1日現在を記入すること。  
 3. 「収容定員」の内訳である「16年度収容定員」欄は、「様式3-1 平成16年度学生数調」の16年度収容定員の員数と一致すること。  
 4. 「収容定員」の内訳である「学年進行」欄は、15年度以前(16年度を含む)の新規編入者数によって17年度に収容定員が増減する員数を記入すること。(平成17年度新規要求に係るものは含めないこと。)  
 ※「収容定員」の合計は、平成16年度収容定員とは必ずしも一致しないことに留意すること。  
 5. 収容定員外については、在籍者数から収容定員を減じた人数とすること。(在籍者数が収容定員より少ない場合は0とすること。)  
 6. 前項し分については15年度実績の計数を記載すること。(歳入決算附属内訳書の前項し分と一致すること。)  
 7. 研究生等の在籍者数は編入者の平均単位(平均単位)とすること。  
 10. I欄「収容定員外」は、B欄とE欄の員数のうち少ない方に単価を乗じて算出する。

(出典：総務課資料)

資料10-1-②-2 続き

様式 4

## 平成17年度 雑収入見積額調

学校名 鹿兒島工業高等専門学校

(単位:千円)

区 分	平成16年度 予算見積額	平成17年度 見 積 額	比 較 額		備 考
			比 増	△ 減 額	
	A	B	B-A		
雑 収 入	7440	7353		-87	
職員宿舍貸付料収入	1463	1527		64	
寄宿舎料収入	4590	4587		-3	
学校財産貸付料収入	-	952		-	
刊行物等売払代	-	0		-	
そ の 他 収 入	-	287		-	
講習料収入	-	109		-	
不用物品売払代	-	105		-	
弁償及違約金	-	0		-	
雑 収 入	-	73		-	

(出典:総務課資料)

資料10-1-②-2 続き

様式 5

## 平成17年度 受託事業等収入見積額調

学校名 鹿兒島工業高等専門学校

(単位:千円)

区 分	平成16年度 予算見積額	平成17年度 見 積 額	比 較 額		備 考
			比 増	△ 減 額	
	A	B	B-C		
受託事業等収入	37400	43981		6581	
産学連携等研究収入	27400	26602		-798	
共同研究収入	7400	4569		-2831	
受託研究収入	0	11034		11034	
その他の収入	20000	10999		-9001	(補助金間接経費受入を含めること。)
奨学寄附金収入	10000	17379		7379	
著作権及特許権等収入	0	0		0	

(出典:総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

経常的収入に該当する自己収入分については、本校において毎年度授業料等の収入の見積額を自ら策定し、その見積額以上の収納を本校が自ら確保（収入見積額と収納決算額の比較）しており、経常的収入は継続的（毎年度）に十分確保できていると判断される。

**観点10-2-①： 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。**

(観点に係る状況)

機構本部からの予算配分通知に基づき、校務連絡協議会等（資料10-2-①-1, 2）の会議にて予算の基本方針の計画を立案し、当該事業年度の予算配分方針を決定する。その方針・計画に基づいて、予算協議会（資料10-2-①-3）で具体的な予算配分が審議され、校務連絡協議会の議を経て校長が決定する。決定された予算配分は教職員に通知される。

#### 観点10-2-①資料一覧

(資料10-2-①-1) 平成17年度学内予算配分(案)	出典：平成17年度第3回校務連絡協議会資料
(資料10-2-①-2) 平成17年度予算の基本方針	出典：平成17年度第1回校長補佐連絡会議事要旨
(資料10-2-①-3) 予算の審議(予算協議会)	出典：平成17年度第1回予算協議会議事
(資料10-2-①-4) 予算の審議(校務連絡協議会)	出典：平成17年度第5回校務連絡協議会議事

平成17年度学内予算配分(案)

法人移行により、これまでの国の行政機関と異なり、既定経費にとらわれない柔軟で安定的な予算配分が可能となったが、従前に増して高専を取り巻く財政状況は極めて厳しいものがある。よって、平成16年度第8回校務連絡協議会(平成16年12月17日)において承認されたとおり機構本部より予算配分されたうち人件費、光熱水料等学校運営に必要な経費・新規事業経費等及び緊急性を必要とする経費を確保した上で、教育・研究経費の効率化・重点化を図りつつ、年間執行計画の早期策定や学内配分手続等の簡素・合理化を図るなど、限りある経費の計画的・効率的・弾力的執行に努めるようにする。

なお、当初配分額は機構本部からの資金送金上限額を基準としているため、自己収入額等の増減により年度途中で配分額等の補正を行うこととなる。

	17年度配分額 1,345,995千円 (①・②について予算協議会で協議する)	積算根拠	16年度配分額 1,423,516千円 1,358,959千円	15年度配分額 1,421,796千円
<b>1. 当初配分額</b>				
<b>学科等教育研究経費</b>				
①教育研究費(各科へ配分)・・・56,140千円 (担任経費、卒研経費、学生実習実験経費、専攻科生特別研究費を含む)	} 機構積算を 基に学内 積算	教育研究基盤経費(各科へ配分) 59,788千円 (48,814千円)	62,337千円	3,000千円
②専攻科担当教員研究費・・・2,900千円				
<b>人件費</b>				
③常勤教職員人件費・・・999,139千円	機構積算額	960,423千円	966,421千円	
④退職手当・・・59,388千円	機構積算額	97,007千円	125,229千円	
⑤超過勤務手当・・・16,569千円	機構積算額	17,194千円	16,797千円	
⑥非常勤講師(人件費)・・・33,039千円	機構積算額	33,373千円	33,711千円	
⑦学校医(医員手当)・・・1,164千円	機構積算額	1,176千円	1,187千円	
<b>旅費</b>				
⑧赴任旅費・・・604千円	機構積算額	634千円	1,320千円	
⑨非常勤講師(旅費)・・・3,317千円	機構積算額	3,350千円	3,787千円	
<b>管理運営費</b>				
⑩教育研究設備維持運営費・・・8,122千円	学内積算	7,803千円	7,435千円	
⑪学生用図書購入費・・・1,154千円	機構積算額	1,166千円	1,166千円	
⑫学校災害共済掛金設置者負担金・・・千円		425千円		
⑬下水道受益者負担金・・・542千円	学内積算	638千円		
⑭共通管理経費 { (共通経費)・・・99,373千円 (事項立管理経費)・・・34,043千円 (その他:予備費)・・・4,000千円 }	} 学内積算	120,571千円	103,773千円	
		(112,071千円)		
		84,259千円(42,083千円含む) (42,176千円)		
		4,153千円 (1,153千円)	64,032千円	
<b>特別教育費(従前の校長裁量経費)</b>				
校内研究助成金・・・7,000千円	} 機構積算を 基に学内 積算	6,900千円	13,000千円	2,000千円
教育改善プロジェクト・・・1,000千円				
教育研究補助経費・・・10,000千円	積算	600千円	12,501千円	
地域共同テクノセンター基盤整備費・・・1,746千円	学内積算	1,746千円	1,800千円	
専攻科学生図書購入費・・・300千円	学内積算	291千円	300千円	
⑮教室関連経費(クーラー)・・・	学内積算	6,218千円		
研究者総覧システム・・・3,000千円	学内積算	3,000千円		
教務システム構築経費・・・2,000千円	学内積算	4,850千円		
技術職員経費・・・1,455千円	学内積算	1,455千円	1,500千円	
ロボコン経費・・・1,000千円	学内積算	2,000千円	500千円	
看板経費(校門、専攻科屋上看板)・・・	学内積算	1,586千円		
PRビデオ作成・・・2,000千円	学内積算			
追加配分		365,452千円		
当初配分	286,864千円 (15年度比12.7%減)	300,895千円 (15年度比8.4%減)	328,826千円	

赤字=その他経費以外  
黒字+青字=その他経費(うち青字については学科等へ配分)

(出典:平成17年度第3回校務連絡協議会資料)



資料10-2-①-2

## 平成17年度第1回校長補佐連絡会議事要旨

日 時 平成17年7月1日(金) 15:00~15:35

場 所 校長室

出席者 前田校長、河野、西留、赤澤、大竹各主事、須田専攻科長、  
倉狩事務部長、磯田庶務課長、大城会計課長、嶋田学生課長

記録者 安楽庶務係長

## 議 事

## 1. 平成17年度予算の基本方針について

会計課長より機構の予算配分方針に基づき、教員・専攻科・本科学分を積算した結果、学内予算配分額は、教育研究費 40,080 千円、教育研究支援経費(学生支援経費) 16,060 千円、専攻科担当教員研究費 2,900 千円、校内研究助成金 7,000 千円、教育改善プロジェクト 1,000 千円、教育研究補助経費 10,000 千円の計 77,040 千円となることが説明された。

うち予算協議会に諮問する項目は、教育研究費、教育研究支援経費(学生支援経費)、専攻科担当教員研究費、教育研究補助経費の計 69,040 千円である。

配分基準について、実験・非実験系、職名による傾斜配分、端数額の一般教育科文系への配分の可否等について審議いただきたい旨諮られたが、前回の予算協議会において結論が出ず、新予算協議会で決定する事になっているので、補佐連では決定することはできないことが確認された。

補佐連では、予算協議会に諮問する額は 69,040 千円であることの確認にとどめ、具体的な配分は協議会に任せることとし、会計課で①全教員均一、②従来の傾斜配分ベース、③非実験のみ均一、他は傾斜配分の3案を作成し、予算協議会へ提出することとした。

## 2. その他

須田専攻科長より、概算要求等は学科長等で取りまとめて提出しているが、提出前に学科長、補佐連等でチェック・調整する場を設け、獲得の可能性が高いプロジェクトを提出できるようにしたい旨提案があった。

(出典：平成17年度第1回校長補佐連絡会議事要旨)

資料10-2-①-3

## 平成17年度第1回予算協議会

日時：平成17年7月12日(火) 16:00~

場所：管理棟大会議室

## 議 事

## 1. 平成17年度学内予算配分(案)

## 2. その他

(出典：平成17年度第1回予算協議会議事)

## 平成17年度第5回校務連絡協議会議事

日 時：平成17年9月16日（金） 13：30～  
場 所：管理棟大会議室

出席者の確認

前回議事要旨の確認

## 議 事

## 1. 校長報告

- (1) 高専間教員交流について
- (2) 定員削減について . . . . . 資料 1
- (3) 事務組織の再編について . . . . . 資料 2
- (4) 高等専門学校設置基準の一部改正について . . . . . 資料 3
- (5) 平成16年度業務実績に関する文部科学省評価について . . . . . 資料 4
- (6) 学習教育目標について

## 2. 協議題

- (1) 鹿兒島工業高等専門学校図書館利用規則の一部改正(案) . . . . . 資料 5
- (2) 鹿兒島工業高等専門学校図書館文献複写規則の一部改正(案) . . . . . 資料 6
- (3) 鹿兒島工業高等専門学校図書館文献料金徴収猶予実施細則の廃止について . . . . . 資料 7
- (4) 鹿兒島工業高等専門学校学内校費移算による文献複写取扱要項の廃止について . . . . . 資料 8
- (5) 鹿兒島工業高等専門学校学則の一部改正 (案) . . . . . 資料 9
- (6) 鹿兒島工業高等専門学校専攻科授業科目の履修に関する規則の一部改正 (案) . . . . . 資料 10

## 3. 報告事項

## (1) 主事等報告

- イ. 教務主事報告 . . . . . 資料 11
- ロ. 学生主事報告
- ハ. 寮務主事報告
- ニ. 研究主事・地域共同テクノセンター長報告 . . . . . 資料 12
- ホ. 専攻科長報告 . . . . . 資料 13
- ヘ. 情報教育システムセンター長報告
- ト. 特命統括官（FD担当）報告
- チ. 特命統括官（JABEE担当）報告 . . . . . 資料 14
- リ. 予算協議会議長報告 . . . . . 資料 15

(裏面につづく)

## (2) 事務部報告

- イ. 事務部長報告 . . . . . 資料 16
- ロ. 庶務課長報告 . . . . . 資料 17
- ハ. 会計課長報告

## (3) その他

- イ. 一般教育科理系（物理：講師又は助教授）推薦委員会報告
- ロ. 一般教育科理系（物理：講師又は助教授）審査委員会の設置
- ハ. 電子制御工学科（教授）審査委員会報告
- ニ. 電子制御工学科（助教授）審査委員会報告
- ホ. 情報工学科（助教授）審査委員会報告
- ヘ. 一般教育科文系（教授）審査委員会の設置

## 4. 連絡事項等

- (1) 次回校務連絡協議会の日程（10月14日（金）13時30分～）
- (2) その他

(出典：平成17年度第5回校務連絡協議会議事)

(分析結果とその根拠理由)

予算の学内配分について、運営会議（旧校長補佐連絡会）・校務連絡協議会・予算協議会での審議を経て、校長が決定し教職員へ通知している。このことから、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されていると判断される。

**観点10-2-②：** 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点に係る状況)

平成17年度決算損益計算書（資料10-1-①-1参照）において、「経常収益合計」1,485,432千円に対し、「経常費用合計」1,485,074千円である。

(分析結果とその根拠理由)

平成17年度決算損益計算書にて示したとおり、収入部分の経常収益合計額が支出部分である経常費用合計額を上回っているため、過大な支出超過ではない。

**観点10-2-③：** 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

(観点に係る状況)

平成17年度学内校務連絡協議会等において、直接経費として教員の教育研究費及び学生のための教育研究支援経費として56,140千円が承認され、さらに校長裁量経費の中から教育研究補助経費10,000千円を追加配分した。また、校長裁量経費の中から校内研究助成金7,000千円と教育改善プロジェクト1,000千円を確保し、教育研究活動費（資料10-2-③-1）として配分を行った。

#### **観点10-2-③資料一覧**

(資料10-2-③-1) 平成17年度校内研究助成金採択者 出典：総務課資料



資料10-2-③-1

◎ 平成17年度校内研究助成金採択者

科学研究(個人) (単位:千円)

所属・職名・氏名	研究課題	助成額
情報工学科・助手 新徳 健	集団コミュニケーション支援のためのインタラクション解析に関する研究	500
一般教育科・助教授 保坂直之	Wie 比喩、Als ob 比喩(直喩)と自然風景描写 - 18世紀末以降の自然描写から見たゲオルク・トラークルの詩の風景 -	180
情報工学科・助手 入江智和	重み付けされた DHCP (Weighted DHCP:wDHCP)に関する研究	200
技術室・技術職員 長山昭夫	桜島火山灰の養浜土砂としての利用価値を検証する基礎的研究	100
情報工学科・講師 玉利隆三	刺激電流制御可能な多目的磁気刺激装置の提案及びその試作	100
電気電子工学科・助教授 菜島史欣	Class A レーザーのダイナミクスに関する研究	500
一般教育科・教授 松本裕司	戦前期における学習経済の研究 - 大正新教育との関わりを中心にして -	300
技術室・技術専門職員 原田正和	共削り加工における加工面品位に関する研究	100
電子制御工学科・講師 鎌田清孝	生体磁気計測用多層構造磁気シールドルームの最適設計	500
機械工学科・助教授 田畑隆英	鉛直上向き噴流の混合に関する研究	300
合計	10件	2,780

(出典:総務課資料)

資料10-2-③-1 続き

科学研究(共同) (単位:千円)

研究代表者 所属・職名・氏名	研究協力者			研究課題	助成額
	所属	職名	氏名		
機械工学科・講師 山田隆明	電気電子工学科	講師	今村成明	林業用枝打ちロボットに関する研究	500
一般教育科・教授 大竹孝明	土木工学科 技術室	教授 技術専門職員	岡林 巧 木原正人	竹炭等の自然物を利用した河川等の水質環境の改善	500
機械工学科・教授 池田英幸	土木工学科 一般教育科 電気電子工学科 情報工学科 情報工学科 機械工学科 技術室	教授 教授 教授 助教授 助教授 助教授 技術職員	岡林 巧 赤澤正治 須田隆夫 芝 浩二郎 堂込一秀 塚本公秀 山田孝行	桜島斜面の浸食崩壊機に関するフラクタル解析および分子動力学計算機実験による解明	500
土木工学科・助教授 前野祐二	一般教育科	講師	三原めぐみ	都市ごみ焼却灰の 5mm 以下の通過物を原料とした薄板で安全な高強度固化材の開発	600
機械工学科・教授 中島正弘	機械工学科 電気電子工学科 機械工学科	助教授 助教授 講師	田畑隆英 小迫雅裕 山田隆明	円管群を周囲に配置した噴流拡散の方向制御	500
電子制御工学科・助手 吉満真一	電子制御工学科 電子制御工学科 技術室	教授 助教授 技術専門職員	河野良弘 植村眞一郎 山下俊一	CCD 画像による小径エンドミルの挙動監視とインプロセス制御	380
技術室・技術専門職員 松元悦郎	技術室	技術職員	全員	ワシントン椰子の枝払い機の開発	600
合計	7件				3,580
科学研究合計	17件				6,360

(出典:総務課資料)

資料10-2-③-1 続き

教育研究(個人) (単位:千円)

所属・職名・氏名	研究課題	助成額
一般教育科・助教授 金岡正夫	創造性を重視した言語学習モデルと TOEIC スコアとの相関性について	200
技術室・技術専門職員 皆元一徳	公開講座「お母さんのものづくり教室 燭台をつくらう」の実践	100
一般教育科・講師 北園裕一	本学学生の性に対する意識をもとにした性教育授業の研究	440
一般教育科・講師 塚崎香織	英語教育における多読指導 - 高等専門学校生の動機づけの観点から	400
合計	4件	1,140

教育研究(共同) (単位:千円)

研究代表者 所属・職名・氏名	研究協力者			研究課題	助成額
	所属	職名	氏名		
電子制御工学科・教授 原田治行	電子制御工学科 電子制御工学科 電子制御工学科 技術室	助教授 講師 助手 技術職員	植村眞一郎 鎌田清孝 吉満真一 上沖 司	高専の電子制御工学科における「創造教育」の授業改革に向けたトータル・アプローチ計画	300
電子制御工学科・講師 鎌田清孝	電子制御工学科	教授	坪井克剛	電子制御工学科における制御工学実験の改善	200
合計	2件				500

教育研究合計	6件	1,640
--------	----	-------

校内研究助成 総計	23件	8,000
-----------	-----	-------

(出典:総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

平成17年度の教育研究活動について、学科等教育研究経費56,140千円を確保し配分したが、校長の判断により教育研究補助経費10,000千円を更に増額配分し、平成16年度より6,352千円の増額となっている。

また、平成17年度において校内研究助成金及び教育改善プロジェクト計8,000千円を確保し、教員等からの教育研究経費の募集を行い配分しており、目的を達成する資源が確保でき、公募等による適切な資源配分がなされている。

**観点10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。**

(観点到に係る状況)

法人全体の決算報告及び公表(資料10-3-①-1)は、機構本部が行う。本校の平成17年度決算に伴う財務諸表関係書類は、総務課において編纂し閲覧できるように備えている。

**観点10-3-①資料一覧**

(資料10-3-①-1) 財務諸表 出典：高専機構ウェブページ

(資料 国立高等専門学校機構 <http://www.kosen-k.go.jp/documents/zaimusyohyo.pdf>)

資料10-3-①-1



(出典：高専機構ウェブページ)

資料10-3-①-1 続き

**財務諸表**

第1期事業年度

(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

独立行政法人 国立高等専門学校機構

(出典：高専機構ウェブページ)

(分析結果とその根拠理由)

財務諸表等関係書類は、機構本部が公表している。

観点10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

(観点に係る状況)

会計監査については、会計検査院による監査、機構本部による監査、監査法人による監査があり、機構本部の監事監査(資料10-3-②-1)を平成16年度に受検した。

### 観点10-3-②資料一覧

(資料10-3-②-1) 平成16年度監事監査報告書 出典：機構監事監査報告書

資料10-3-②-1

平成16年度  
監事監査報告書

平成17年6月  
独立行政法人 国立高等専門学校機構  
監事 漆館 日出明

#### I 監査項目

- (1) 施設整備工事等の実施状況について
- (2) 国から承継した資産等に係る会計経理について
- (3) 外部資金の導入状況及び地域共同テクノセンターの使用状況について
- (4) 各高专における会計事務処理の実施状況について
- (5) 法人化に伴う諸手続(登記申請、各役所への届出、報告)の実施状況について

#### II 監査実施箇所及び実施期日

- |              |          |                 |
|--------------|----------|-----------------|
| ①宮城          | 工業高等専門学校 | 平成16年10月18日～20日 |
| ②秋田          | 工業高等専門学校 | 同 16年10月21日、22日 |
| ③鳥羽          | 商船高等専門学校 | 同 16年11月15日～17日 |
| ④豊田          | 工業高等専門学校 | 同 16年11月24日～26日 |
| ⑤鹿児島工業高等専門学校 | 同        | 16年12月15日～17日   |
| ⑥福井          | 工業高等専門学校 | 同 17年 1月17日～19日 |
| ⑦明石          | 工業高等専門学校 | 同 17年 1月24日～26日 |
| ⑧高松          | 工業高等専門学校 | 同 17年 2月14日～16日 |
| ⑨群馬          | 工業高等専門学校 | 同 17年 2月23日～25日 |
| ⑩津山          | 工業高等専門学校 | 同 17年 3月 2日～ 4日 |
| ⑪機構          | 本部       | 同 17年 3月25日、28日 |

(出典：平成16年度機構監事監査報告書 表紙)

(分析結果とその根拠理由)

平成16年度において、財務に関する機構監事監査を受検しており、会計監査等は適正に行われていると判断される。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 支出については、校長裁量経費にて校内研究助成金等を確保し、校内研究助成の公募を行い重点的な配分を図り、教育研究活動に適正に資源配分を行っている点
- ・ 収入については、教育研究活動を安定して遂行するための経常的収入の確保について自ら収入の見積額を策定し、その策定した額を収納している点
- ・ 産学連携等研究収入として、平成15年度以降30,000千円以上の収入があり、年々増加している点

(改善を要する点)

特になし

## (3) 基準10の自己評価の概要

本校の目的に沿った教育研究活動を遂行していくための校舎・設備等を有し、授業料等の自己収入及び高専機構からの運営費交付金により経常的な収入が確保され、債務超過となっておらず、安定した資産を有している。特に、平成15年度以降、産学連携等研究収入として、30,000千円以上の収入があり、年々増加している。また、寄附金については、毎年10,000千円以上の受入がある。

財務計画・予算配分等は校務連絡協議会等で審議決定され、関係職員に報告・明示されている。

財務諸表については、国立高等専門学校機構で公表されている。

会計監査については、機構本部の監事監査を平成16年度に受検している。

## 基準11 管理運営

### (1) 観点ごとの分析

観点11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点に係る状況)

校長の役割は、学校教育法で明確に定められている。教務主事、学生主事、寮務主事は校長により任命され、その役割は、本校学則及び教員内部組織規程で定められている(資料11-1-①-1, 2)。本校では教務主事を副校長に、また学生主事、寮務主事、専攻科長及び地域共同テクノセンター長を校長補佐として位置づけ、これに事務部長、総務課長、学生課長が加わり運営会議を構成している。運営会議(旧校長補佐連絡会)は、校長を補佐するとともに、教育、研究、管理・運営等についての校長の諮問に答えている(資料11-1-①-3)。

また、上記運営会議委員のほかに、各科長、情報教育システムセンター長、学生何でも相談室長、図書館長、特命統括官、技術室長で構成する校務連絡協議会が設置されている(資料11-1-①-4)。同協議会は、各部門の連絡を緊密にし、校務の円滑なる運営を図ることを目的としており、本校の管理・運営に関する全ての事項は関係委員会で審議された後、同協議会の協議を経て校長により決定される(資料11-1-①-5, 6)。

これらのほか、本校では現在37の各種委員会等が設置されており、それらの趣旨、目的、組織等が規則に明記されている。また、主要委員会は、関係主事(副校長及び校長補佐)及び各科等の代表委員で構成されているため、各科の意見を十分汲み取り、各事項についての意思決定とその周知徹底が図られる体制になっている(資料11-1-①-7)。

#### 観点11-1-①資料一覧

(資料11-1-①-1) 学則	出典：規則集
(資料11-1-①-2) 教員内部組織規程	出典：規則集
(資料11-1-①-3) 運営会議規則	出典：規則集
(資料11-1-①-4) 校務連絡協議会規則	出典：規則集
(資料11-1-①-5) 委員会等組織図	出典：総務課資料
(資料11-1-①-6) 組織図	出典：総務課資料
(資料11-1-①-7) 会議・委員会の主な審議事項	出典：総務課資料

資料 1 1 - 1 - ① - 1

## ○ 鹿児島工業高等専門学校学則

(教務主事、学生主事及び寮務主事)

第10条 本校に教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。

- 2 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
- 3 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。
- 4 寮務主事は、校長の命を受け、学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

(出典：規則集)

資料 1 1 - 1 - ① - 2

## ○ 鹿児島工業高等専門学校教員内部組織規程

(教務主事、学生主事及び寮務主事)

第2条 学則第10条に定める教務主事、学生主事及び寮務主事（以下「主事」という。）のうち、教務主事は、教授をもって、学生主事及び寮務主事は、教授又は助教授をもって充てる。

- 2 主事の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 教務主事は、副校長として、校長の職務を補佐し、校長に事故あるときはその職務を代行する。
- 4 学生主事及び寮務主事は、校長補佐として、校長の職務を補佐する。

(専攻科長)

第6条 専攻科に専攻科長を置く。

- 2 専攻科長は、教授又は助教授をもって充てる。
- 3 専攻科長は、専攻科に関することをつかさどる。
- 4 専攻科長は、校長補佐として、校長の職務を補佐する。

(地域共同テクノセンター長)

第11条 地域共同テクノセンターに地域共同テクノセンター長を置く。

- 2 地域共同テクノセンター長は、教授をもって充てる。
- 3 地域共同テクノセンター長は、地域共同テクノセンターの運営に関することをつかさどる。
- 4 地域共同テクノセンター長は、校長補佐として、校長の職務を補佐する。

(出典：規則集)

資料 1 1 - 1 - ① - 3

## ○ 鹿児島工業高等専門学校運営会議規則

(目的)

第2条 運営会議は、校長を補佐するとともに、次の各号に掲げる事項に関して校長の諮問に応えることを目的とする。

- (1) 本校の将来構想に関する事。
- (2) 予算の基本方針に関する事。
- (3) 教育及び研究上の組織運営に関する事。
- (4) 地域社会等との交流に関する事。
- (5) 資金の管理及び運用に関する事。
- (6) その他校長が必要と認めた事項

(組織)

第3条 運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事、学生主事、寮務主事及び専攻科長
- (3) 地域共同テクノセンター長
- (4) 事務部長
- (5) 総務課長及び学生課長
- (6) その他校長が必要と認めた者

(議長)

第4条 校長は、運営会議を召集し、議長として議事を総括する。

(出典：規則集)

資料 1 1 - 1 - ① - 4

## ○ 鹿児島工業高等専門学校校務連絡協議会規則

(設置)

第1条 鹿児島工業高等専門学校（以下「本校」という。）各部門の連絡を緊密にし、校務の円滑なる運営をはかる目的をもって校務連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(組織)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事、学生主事及び寮務主事
- (3) 一般教育科文系・理系科長
- (4) 学科長
- (5) 専攻科長
- (6) 図書館長、情報教育システムセンター長及び地域共同テクノセンター長
- (7) 事務部長
- (8) 学生何でも相談室長
- (9) 特命統括官（J A B E E 担当、F D 担当、留学生担当及びロボコン担当）
- (10) 総務課長及び学生課長
- (11) 技術室長
- (12) その他校長が必要と認めた者

(議長)

第3条 協議会は、校長が必要と認めたときにこれを召集し、その議長となる。

(協議事項)

第4条 協議会は、各部門相互連絡の緊密化に努めると共に、校長が本校の運営上必要と認め諮問した事項について協議する。

(出典：規則集)



### 委員会等組織図

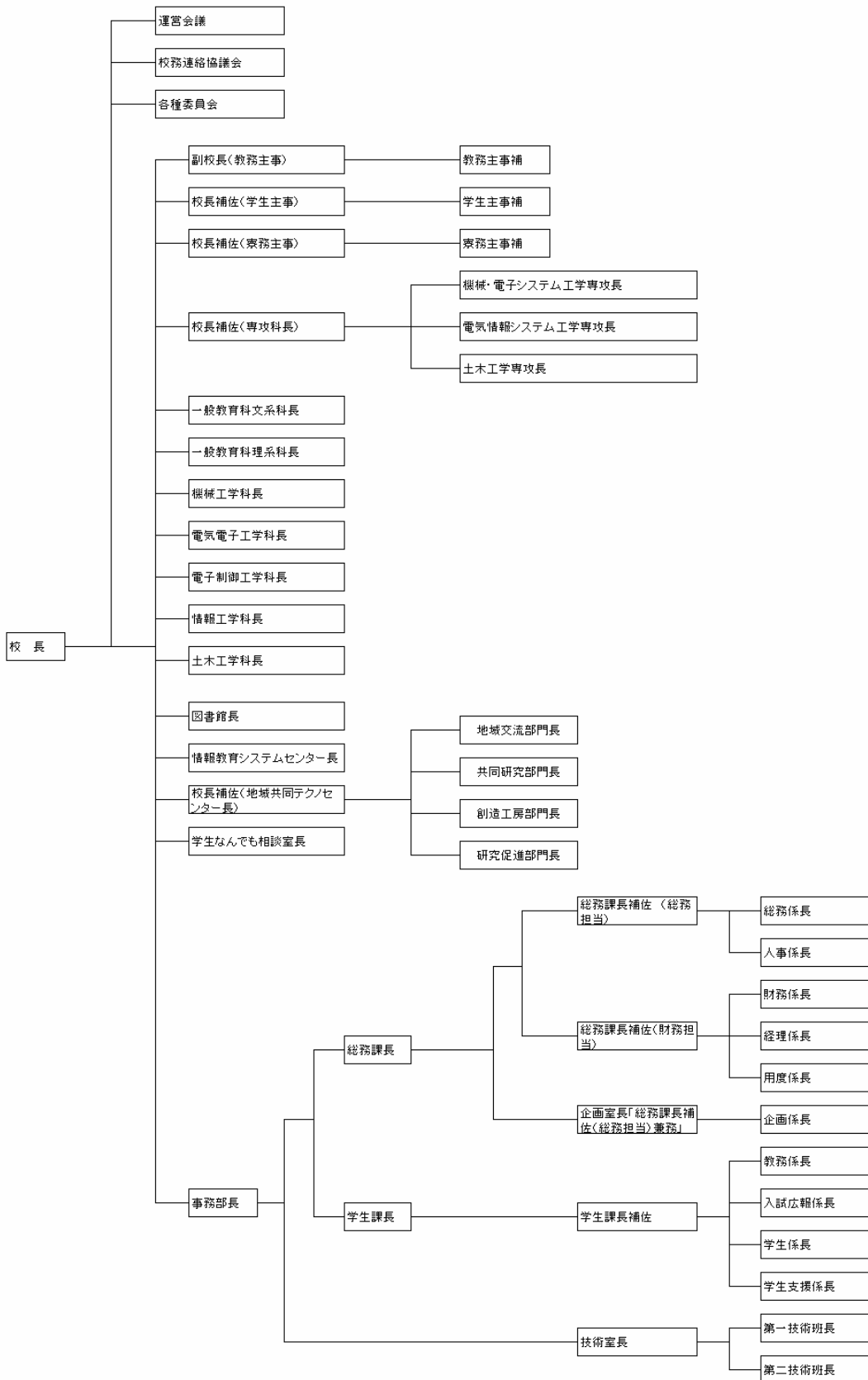


(出典：総務課資料)

資料 1 1 - 1 - ① - 6

鹿児島工業高等専門学校組織図

平成18年4月1日現在



(出典：総務課資料)

## 会議・委員会等の主な審議事項等

委員会・会議名	主な審議事項	主な委員構成
1 校務連絡協議会	協議会は、各部門相互連絡の緊密化に努めると共に、校長が本校の運営上必要と認め諮問した事項について協議する。	◎校長、副校長、校長補佐、各学科等の長、図書館長、情報教育システムセンター長、学生何でも相談室長、特命統括官等、部課長、技術室長、その他
2 運営会議	本校の将来構想、予算の基本方針、教育及び研究上の組織運営、地域社会等との交流、資金の管理及び運用、その他	◎校長、副校長、校長補佐、部課長、その他
3 安全衛生委員会	教職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策、教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策、労働災害の原因及び再発防止対策で衛生に係るもの、その他教職員の健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項	◎校長、事務部長、産業医、衛生管理者、安全管理者、過半数代表者が推薦した者
4 情報公開・セキュリティ委員会	情報公開の実施体制、開示・不開示の判断基準、行政文書の開示・不開示、開示実施手数料の減額又は免除、不服申立て、訴訟、行政文書の管理、その他情報公開の円滑な実施、情報セキュリティポリシーに関する重要な事項、情報セキュリティ対策に関する重要な事項、その他情報セキュリティに関する重要な事項	◎校長、副校長、校長補佐、各学科等の等、図書館長、情報教育システムセンター長、部課長、技術室長、その他
5 入学試験委員会	入学試験、編入学、入学者募集、入学案内その他	◎校長、教務主事、各学科等の長、専攻科長、事務部長、学生課長、その他
6 教務委員会	教育課程の編成、年間教育計画及び授業時間の編成、入学、退学、転学、休学及び卒業、試験及び学業成績等、出席簿及び指導要録、授業の指導方法・教育方法改善等、視聴覚教育等、大学及び専攻科の進学、その他	◎教務主事、教務主事補、各学科等から推薦された教員、専攻科から推薦された教員、学生課長、その他
7 教員審査委員会	推薦書に記載された候補適任者について、資格審査を行う	校長、◎教務主事、選考を行おうとする学科の教授、当該学科等以外の本校の教授、選考される教員の専門分野を熟知する本校の教授又は学外の有識者
8 教育プログラム点検会議	学習・教育目標の設定及び改善、学習・教育目標に基づく教育の内容と質の保証、教育プログラムについて本科と専攻科の調整、教育プログラム履修生の修了、教育プログラム点検報告書並びに改善提案書、その他	教務主事、専攻科長、特命統括官(FD担当及びJABEE担当)、学生課長、その他
9 自己点検・評価委員会	自己点検・評価の基本方針、実施、結果の公表、結果の外部評価、その他	◎教務主事 校長補佐、特命統括官(FD及びJABEE担当)、各学科等から推薦された教員、部課長、課長補佐(総務担当、財務担当)その他
10 国際交流委員会	外国の大学等との学術交流の協定、外国の大学等からの教職員及び学生の受入れ等、外国の大学等への教職員及び学生の派遣、学術の情報及び研究資料の交換、留学生、その他	◎教務主事、学生主事、寮務主事、特命統括官(留学生担当)、各学科等から推薦された教員、専攻科から推薦された教員、第5条に規定する専門委員会の長、部課長、その他
11 釜山情報大学交流専門委員会	一 釜山情報大学との教職員の交流、学生の交流、共同研究・調査及び学術出版物等の交換についての具体的な企画、立案及び実施、二 協定の更新、修正及び破棄についての検討 三 その他	◎委員長は互選 各学科等から推薦された教員、特命統括官(留学生担当)、総務課長、学生課長、その他
12 カセサート大学交流専門委員会	一 カセサート大学との教職員の交流、学生の交流、共同研究・調査及び学術出版物等の交換についての具体的な企画、立案及び実施、二 協定の更新、修正及び破棄についての検討、三 その他	◎委員長は互選 各学科等から推薦された教員、総務課長、学生課長、その他
13 南京航空航天大学機電学院交流専門委員会	一 南京航空航天大学機電学院との教職員の交流、学生の交流、学術・教育に関する共同研究、学術出版物等の交換についての具体的な企画、立案及び実施、二 協定の更新、修正及び破棄についての検討、三 その他	◎委員長は互選 各学科等から推薦された教員、特命統括官(留学生担当)、総務課長、学生課長、その他

(出典：総務課資料)

## 資料 1 1 - 1 - ① - 7 続き

14	学生委員会	課外活動、保健衛生及び生活指導、奨学金及び授業料等の減免、就職指導、学生会及びその他の学生団体、交通指導に関すること、その他厚生補導	◎学生主事、学生主事補、1年及び2年学級担任から推薦された教員、専門学科から推薦された教員、専攻科から推薦された教員、学生課長、その他
15	賞罰協議会	学生の表彰、学生の懲戒	◎校長、副校長、校長補佐(除:地域共同テクノセンター長)、三委員会から推薦された教員各1名、当該学生の学級担任、当該学生の事情調査に携わった主事補、その他
16	セクシュアルハラスメント防止・対策委員会	セクシュアル・ハラスメントの防止に関する研修・啓発活動の企画・立案並びにセクシュアル・ハラスメントの防止及び排除のために実施する措置に関する調整・指導及び助言、セクシュアル・ハラスメントに関する苦情の申出及び相談に適切に対応するための措置、その他	校長、教務主事、◎学生主事、寮務主事、学生何でも相談室長、部課長、看護師、その他
17	寮務委員会	入寮及び退寮、寮生の生活指導及び補導、寮生の福祉厚生及び保健衛生、寮生の負担となる経費、その他	◎寮務主事、寮務主事補、1年及び2年学級担任から推薦された教員、専門学科から推薦された教員、専攻科から推薦された教員、学生課長、その他
18	専攻科委員会	教育課程の編成及び実施、教育計画及び授業時間の編成、入学者選抜、入学、退学、転学、休学、復学及び修了、試験及び学業成績、学生の進学及び就職、学生の厚生補導、専攻科における特別研究指導教員及び授業担当教員の資格の認定ただし、教員審査委員会に係るものを除く、その他専攻科の運営	◎専攻科長、教務主事、学生主事、寮務主事、各専攻長、専攻科を担当する教員若干名、学生課長、その他
19	研究・知財委員会	機構知的財産ポリシーⅡ・1・六の各号に掲げる事項、知的財産権の対象となり得る事項、共同研究受託研究及び受託試験等、科学研究費補助金及び校内研究助成、研究成果の公表、その他研究促進、研究報告の原稿の検討、研究報告の編集及び出版、その他	◎地域共同テクノセンター長、地域共同テクノセンター研究促進部門長、各学科等から推薦された教員、専攻科から推薦された教員、総務課長、総務課課長補佐(総務担当及び財務担当)、その他
20	地域共同テクノセンター運営委員会	民間機関等との共同研究受託研究及び技術相談等の連絡調整、民間機関等の技術者に対する高度技術教育及び研修、民間機関等に対する科学技術情報の提供、創造教育及び共同研究活動に対する技術開発支援の基本計画策定等、研究の促進、各部門の連絡調整、その他	◎地域共同テクノセンター長、副センター長、各学科等から推薦された教員、専攻科から推薦された教員、センター各部門長、総務課長、総務課課長補佐(総務担当)、技術室長、その他
21	図書館運営委員会	図書館の管理運営、図書の見直し、その他	図書館長、各学科等から推薦された教員、専攻科から推薦された教員、学生課長、その他
22	情報教育システム委員会	情報処理及び情報通信の教育・研究、情報教育システムセンターの管理運営、情報教育システムセンターの維持経費、その他	◎情報教育システムセンター長、各学科等から推薦された教員、専攻科から推薦された教員、その他
23	情報セキュリティポリシー等策定専門委員会	情報セキュリティポリシーの策定、ポリシーの見直し、その他	◎情報教育システムセンター長、各学科等から推薦された教員、専攻科及び地域共同テクノセンターから推薦された教員情報教育システムセンター担当技術職員、総務課情報処理担当職員、地域共同テクノセンターシステム管理
24	情報セキュリティ監査専門委員会	情報セキュリティ対策の監査、その他	◎委員長は互選 情報教育システムセンターから推薦された教職員、専攻科から推薦された教員、情報工学科から推薦された教員、事務部から推薦された職員
25	FD委員会	FDについて本校の基本事項を審議し、対応策を決め、教職員の意識改革の推進を図るとともに、本校における教育機能の充実に寄与する。	◎特命統括官(FD担当)、講師以上の教員のうち校長が指名する者若干名
26	外国人留学生専門委員会	教育指導、生活指導、宿舎その他の施設、その他	◎特命統括官(留学生担当)、一般教育科文系・理系から推薦された教員、「学生何でも相談室」から推薦された教員、外国人留学生指導教員、外国人留学生事務担当職員、その他

(出典：総務課資料)

## 資料 1 1 - 1 - ① - 7 続き

27	教育プログラム改善委員会	「教育プログラム」の改善, , 学生卒業生企業からの「教育プログラム」への要望等, 「教育プログラム」履修生の学習・教育目標達成度評価, 日本技術者教育認定	◎特命統括官(JABEE担当), 教務主事から推薦された教務主事補, 各学科等の教員のうち校長が指名した教員, 専攻科から推薦された教員, 学生課長, その他
28	部課長・補佐会議	事務部各課の連絡調整並びに綱紀の点検調査等を行い, もつて校務の適正, 円滑な運営を諮ることを目的とする。	◎事務部長, 各課長, 課長補佐, 技術室長
29	事務連絡会議	事務部各課及び技術室の日常業務の相互連絡を行い, その円滑な運営を諮ることを目的とする。	◎事務部長, 各課長, 課長補佐, 技術室長, 各係長
30	技術室運営委員会	技術室の管理運営, 技術室の業務, 技術室員の研修, その他	◎事務部長, 技術室長, 技術室次長, 技術班長, 学科から推薦された教員, 情報教育システムセンター及び地域共同テクノセンターから推薦された教員, その他
31	教員推薦委員会	一 学内及び関係機関等に公募を行うこと。 二 応募者の書類選考を行い, その中から複数の者に順位を付けて, 候補適任者とする。 三 推薦に係る経緯及び候補適任者名を記した「推薦書」を校長に提出すること。	◎選考を行おうとする学科長等, 選考を行おうとする学科の教授又は選考しようとする専門分野の教授 若干名, 校長補佐の中から互選により1名, 専攻科における特別研究及び授業を担当することとなる教官の選考にあつては関係する専攻長, 講師又は助手を選考する場合は, 教授を教授又は助教と読み替える
32	広報委員会	広報誌の編集及び発行, WWWサーバによる情報公開, その他	◎委員長は互選 教務委員会, 学生委員会, 寮務委員会から推薦された教員, 情報教育システム委員会から推薦された教員, 地域共同テクノセンター運営委員会から推薦された教員, 各学科等から推薦された教員, 専攻科から推薦された教員, 部課長, その他
33	職員レクリエーション委員会	予算, 計画及び運営, その他	◎委員長は互選 各学科等から推薦された教員, 各課長, 各課から互選された者, 技術職員
34	施設委員会	施設利用の基本計画, 学校敷地利用計画, 建物及び工作物の配置等, その他	◎委員長は校長が指名 校長補佐, 各学科等の長, 図書館長, 情報教育システムセンター長, 部課長, 総務課課長補佐(財務担当), その他校長が必要と認めた者
35	予算協議会	校費の配分, 教員研究旅費の配分, その他予算配	◎議長は校長が指名 各学科等から推薦された教員, 専攻科から推薦された教員, 総務課長, 総務課課長補佐(財務担当), その他
36	機種選定委員会	購入しようとする物品に関し, 機種の選定を行う必要がある場合で, その予定価格が300万円以上のときに設置する。 仕様・企画及び性能, , 使用目的・使用者・使用態様等に関する適合性, 類似他機種との比較, 現有機器との関連, その他	関係する学科等又は各種委員会の教員及び関係する事務部門の課長又は係長 総務課長をもつて構成することを原則とする
37	外部評価委員会	本校が行った自己点検・評価結果等について検証を行い, 本校の教育・研究等の改善に資することを目的とする。	◎委員長は互選 大学高等専門学校等の高等教育機関の教員及び経験者等, 本校の所在する地域の教育関係者, 地方自治体等研究機関の研究者等, 産業界の有識者, 報道機関の有識者, その他

副校長:教務主事

校長補佐:教務主事, 学生主事, 寮務主事, 専攻科長, 地域共同テクノセンター長

各学科等の長:一般教育科(文系)科長, 一般教育科(理系)科長, 機械工学科長, 電気電子工学科長, 電子

三委員会:教務委員会, 学生委員会, 寮務委員会

特命統括官等(JABEE担当, FD担当, 留学生担当, ロボコン担当)

部課長:事務部長, 総務課長, 学生課長

課長補佐:総務課長補佐(総務担当), 総務課長補佐(財務担当), 学生課長補佐

その他:校長又は委員長が必要と認めた者

(出典:総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

校長の役割は学校教育法で明確に定められている。また、三主事は、校長により指名され、その役割については、学則等で明確に定められている。学校の目的を達成するため、本校の重要な管理運営に関しては、校長が副校長及び校長補佐等に諮問し、その結果を基に意思決定をしており、リーダーシップを発揮できる体制となっている。

運営会議や校務連絡協議会をはじめ、各種委員会はいずれもその趣旨、目的、組織、役割等が規則に明確に定められている。また、主要委員会は、関係主事（副校長及び校長補佐）及び各科等の代表委員で構成されており、各科の意見を十分汲み取り、各事項についての意思決定とその周知徹底が図られる体制になっている。

**観点11-1-②： 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。**

(観点到に係る状況)

管理運営に関する委員会として、運営会議並びに校務連絡協議会をはじめとした主要委員会が、それぞれの役割を分担し活動している（資料11-1-①-5参照）。

事務組織の役割については、事務組織及び事務分掌規程が定められており、管理運営上の役割分担が明確であり、規則に基づいて効果的な活動がなされている（資料11-1-②-1）。重要事項については、事務連絡会議等（資料11-1-②-2）を通じて事務系全体に情報の提供と周知がされる体制になっている（資料11-1-②-3）。

#### 観点11-1-②資料一覧

- |                           |          |
|---------------------------|----------|
| (資料11-1-②-1) 事務組織及び事務分掌規程 | 出典：規則集   |
| (資料11-1-②-2) 事務連絡会議内規     | 出典：規則集   |
| (資料11-1-②-3) 事務系職員配置状況    | 出典：総務課資料 |

## 資料 1 1 - 1 - ② - 1

## ○ 鹿兒島工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規程

## 第1章 総則

第1条 この規程は、国立学校設置法施行規則第36条及び鹿兒島工業高等専門学校学則第11条の規則に基づき、鹿兒島工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び事務分掌について定めることを目的とする。

## 第2章 事務組織

第2条 本校に事務部を置き、事務部に総務課、学生課及び技術室を置く。

- 2 総務課に企画室を置く。
- 3 事務部に事務部長を、課に課長を、技術室に室長を置く。

第3条 課に課長補佐を置くことができる。

- 2 課長補佐は、課長を補佐し課の事務を調整する。

第3条の2 企画室に企画室長を置くことができる。

- 2 企画室長は、課長補佐（総務担当）をもって充て、企画室の事務を調整する。

第3条の3 技術室に技術専門員及び技術専門職員を置くことができる。

- 2 技術専門員は、極めて高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する企画及び連絡調整を行う。
- 3 技術専門職員は、高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき技術に関する事務を処理する。
- 4 技術専門員及び技術専門職員に関する選考基準は、別に定める。

第4条 各課にその所掌事務を処理するため係を置く。

- 2 総務課に総務係、人事係、財務係、経理係及び用度係を置く。
- 3 総務課企画室に企画係を置く。
- 4 学生課に教務係、学生係、入試広報係及び学生支援係を置く。

第5条 係に係長を置く。

- 2 係長は上司の命を受け、係の事務を処理する。
- 3 係に主任を置くことができる。
- 4 主任は高度の知識又は経験を必要とする事務に従事する。

## 第3章 課の所掌事務

第6条 総務課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 諸規則の整備に関する事。
- (2) 事務部の所掌事務に関し、連絡調整すること。
- (3) 公文書類を接受し、発送し、編集し、及び保存すること。
- (4) 公印を管守すること。
- (5) 職員の人事に関する事。
- (6) 職員の衛生・医療及び福利厚生に関する事。
- (7) 校内の警備に関する事。
- (8) 予算に関する事。
- (9) 収入・支出及び決算その他会計経理に関する事。
- (10) 資産・物品及び債権の管理に関する事。
- (11) 奨学を目的とする寄附金の委任経理に関する事。

- (12) 共済組合に関する事。
- (13) 施設・設備の維持及び管理に関する事。
- (14) 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属しないこと。

第7条 学生課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 教務に関する事。
- (2) 入試広報に関する事。
- (3) 学生の厚生補導に関する事。
- (4) 寄宿舎に関する事。
- (5) 図書館に関する事。

## 第4章 課長補佐及び係の事務分掌

第8条 総務課の所掌事務は、課長補佐及び各係において次のとおり分掌する。

- 2 総務課課長補佐（総務担当）は、次の事務をつかさどる。
  - (1) 所管事項の事務改善の推進に関する事。
  - (2) 総務課（総務担当所管）各係の業務調整に関する事。
  - (3) 職員の能率に関する事。
  - (4) 安全衛生委員会に関する事。
- 3 総務課企画室長は、次の事務をつかさどる。
  - (1) 高専の将来計画及び組織改革の企画立案及び連絡調整に関する事。
  - (2) 高専改革に係る情報の収集及び分析に関する事。
  - (3) 地域共同テクノセンターに関する事。
  - (4) 発明・知財に関する事。
- 4 総務課課長補佐（財務担当）は、次の事務をつかさどる。
  - (1) 所管事項の事務改善の推進に関する事。
  - (2) 総務課（財務担当所管）各係の業務調整に関する事。
  - (3) 総務課（財務担当）に関する諸規則等に関する事。
  - (4) 予算の総括に関する事。
  - (5) 決算の総括に関する事。
  - (6) 公印（総務に関する公印を除く。）の管守に関する事。
- 5 総務係においては、次の事務をつかさどる。
  - (1) 学則その他諸規程の制定・改廃に関する事。
  - (2) 事務部の所掌事務に関し、連絡調整すること。
  - (3) 公印（財務に関する公印を除く。）の管守に関する事。
  - (4) 公文書類の接受・浄書・発送並びに保存に関する事。
  - (5) 儀式その他諸行事に関する事。
  - (6) 会議等に関する事。
  - (7) 所管の旅行命令に関する事。
  - (8) 宿日直に関する事。
  - (9) 職員の願・届及び諸証明に関する事。
  - (10) 渉外事務に関する事。
  - (11) 電話の交換業務に関する事。
  - (12) 校内の警備・取締に関する事。
  - (13) 各種委員の選出に関する事。
  - (14) 課程認定申請（学生課所管を除く。）に関する事。
  - (15) 国際交流（学生課所管を除く。）に関する事。
  - (16) 地域との連携協力に関する事。
  - (17) 公開講座に関する事。
  - (18) 情報公開に関する事。
  - (19) 表彰に関する事。
  - (20) 後援会（学生課所管を除く。）に関する事。
  - (21) その他他係の所掌に属さないこと。

（出典：規則集）



## ○ 鹿児島工業高等専門学校事務連絡会議内規

## (設置)

第1条 本校に、鹿児島工業高等専門学校事務連絡会議（以下「会議」という。）を置く。

## (目的)

第2条 会議は、事務部各課及び技術室の日常業務の相互連絡を行い、その円滑な運営を諮ることを目的とする。

## (組織)

第3条 会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 事務部長
- (2) 総務課長及び学生課長
- (3) 各課長補佐
- (4) 技術室長
- (5) 各係長

## (議事)

第4条 会議は、事務部長が招集しその議長となる。ただし、事務部長が不在のときは、総務課長がその職務を代行する。

## (開催等)

第5条 会議は、必要に応じて開催する。

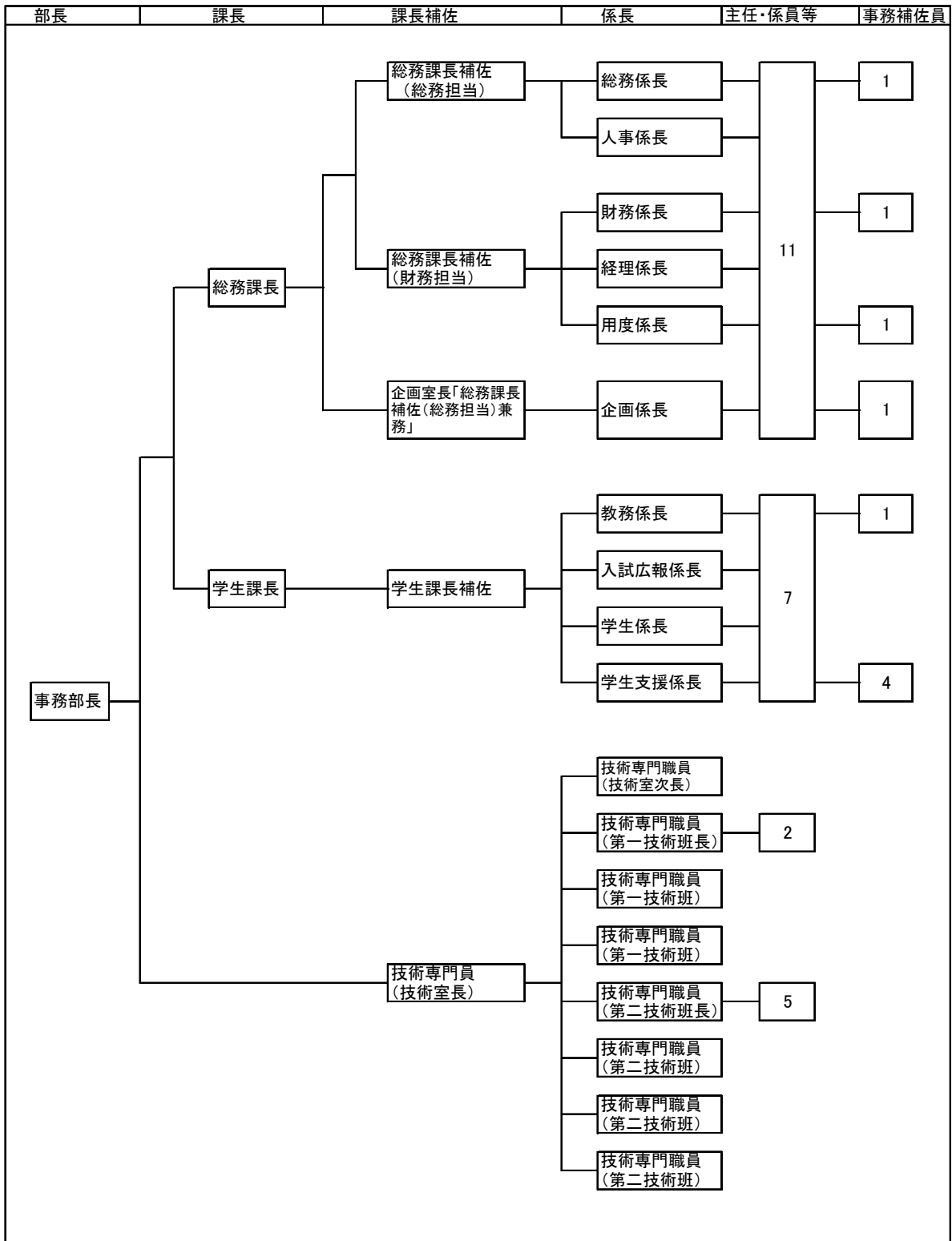
2 会議開催の通知は、原則として開催日の一週間前までに構成員に通知するものとする。ただし、急を要する場合はこの限りでない。

(出典：規則集)

資料 1 1 - 1 - ② - 3

鹿児島工業高等専門学校事務系職員配置状況

平成18年4月1日現在



(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

管理運営に関する委員会として、校長を議長とする運営会議及び校務連絡協議会、その他各種委員会が設置されている。いずれもその委員会の趣旨、目的、組織等が規則等に明記され、各委員会の役割分担が明確に定められている。

事務組織の役割については、ほとんどの委員会に事務職員が構成員として加わっており、委員会の事務担当が明記されている。また、技術職員を含め、事務組織及び事務分掌規程が定められ、管理運営に関する役割分担が明確となっており、効果的に活動している。

**観点11-1-③： 管理運営の諸規定が整備されているか。**

(観点到に係る状況)

学則、組織・運営、委員会、総務、財務、教務・学生、学寮、その他、関係する事項に対応できるように各種規則等が整備されており、これらの規則は本校ウェブページで確認することができる(資料11-1-③-1)。

**観点11-1-③資料一覧**

(資料11-1-③-1) 規則集

出典：ウェブページ

資料11-1-③-1



(出典：ウェブページ)

(分析結果とその根拠理由)

学則、組織・運営、その他の全般にわたる管理運営の諸規則が整備され、これらの規則は本校ウェブページで確認することができる。

**観点11-2-①： 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。**

(観点に係る状況)

本校では、外部評価委員会を設置しており、自己点検・評価結果等についての検証を行い、提言を受けることにより、本校の管理運営面についての外部有識者の意見を反映させている(資料11-2-①-1)。平成18年2月に開催された外部評価委員会では、本校での主な取り組み及び自己点検・評価結果についての報告を行い(資料11-2-①-2～5)、それについての意見・提言をいただいた。

外部評価委員からの意見・提言は報告書としてとりまとめ、関係委員会等で検討・対応している。例えば、「理念・目標等を達成するための委員会の機能が見えない。」との提言に対しては、学習・教育目標の達成度評価を行うための「教育プログラム点検会議」を設置した。また、「高専のPRに積極的に取り組むべきである。」との提言に対しては、広報委員会で「MBC南日本放送において、高専の特別番組を放映」するなどの取り組みを実施した(資料11-2-①-6, 7)。

また、平成17年度から本校の近況及び今後の教育方針等を説明・報告するとともに、住民の方から意見をいただき、今後の本校の学校運営に役立てることを目的として、近郊公民会長との懇談会を実施している(資料11-2-①-8～10)。

**観点11-2-①資料一覧**

(資料11-2-①-1) 外部評価委員会規則	出典：規則集
(資料11-2-①-2) 外部評価委員会(有識者懇談会)開催一覧	出典：総務課資料
(資料11-2-①-3) 外部評価委員会日程表	出典：平成17年度外部評価委員会資料
(資料11-2-①-4) 外部評価資料結果報告	出典：平成17年度外部評価委員会資料
(資料11-2-①-5) 外部評価委員会資料(主な委員会・学科等における3年間の主な取り組み状況)	出典：平成17年度外部評価委員会資料
(資料11-2-①-6) 外部評価資料結果報告(提言)	出典：平成14年度外部評価結果報告書
(資料11-2-①-7) 外部評価委員会資料(有識者からの評価・提言の達成状況及び今後の課題)	出典：平成17年度外部評価委員会資料
(資料11-2-①-8) 近郊公民会長との懇談会実施要項	出典：近郊公民会長との懇談会資料
(資料11-2-①-9) 近郊公民会長との懇談会第2回懇談会日程表	出典：近郊公民会長との懇談会資料
(資料11-2-①-10) 近郊公民会長との懇談会実施状況	出典：近郊公民会長との懇談会議事要旨

資料 1 1 - 2 - ① - 1

○ 鹿児島工業高等専門学校外部評価委員会規則

(設置)

第1条 鹿児島工業高等専門学校（以下「本校」という。）に外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、本校が行った自己点検・評価結果等について検証を行い、本校の教育・研究等の改善に資することを目的とする。

(組織)

第3条 委員会は、人格識見が高く、かつ、本校の発展に理解ある次の各号に掲げる学外者の中から、校長が委嘱した若干名の委員をもって組織する。

- (1) 大学、高等専門学校等の高等教育機関の教員及び経験者等
- (2) 本校の所在する地域の教育関係者
- (3) 地方自治体等研究機関の研究者等
- (4) 産業界の有識者
- (5) 報道機関の有識者
- (6) その他校長が必要と認める者

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。  
2 委員長は委員会を召集し、その議長となる。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(報告書と公開)

第6条 外部評価を行ったときは、報告書を作成し、公開するものとする。

(運営)

第7条 委員会の運営については自己点検・評価委員会が行う。

附 則

- 1 この規則は、平成16年5月21日から施行する。
- 2 この規則施行後、最初に第3条に規定する委員となる者の任期は、第5条の規定にかかわらず、平成18年3月31日までとする。
- 3 鹿児島工業高等専門学校と有識者との懇談会要項は、廃止する。

(出典：規則集)

資料 1 1 - 2 - ① - 2

外部評価委員会（有識者懇談会）の開催一覧

	開催日	名 称	報告書 発行年月	公開	製本
平成 3		高専設置基準の一部改正（大綱化と自己点検・評価）			
8		「鹿児島高専と有識者との懇談会」設置 平成8年10月			
9	H9. 2. 3	第1回（平成8年度） 鹿児島高専と有識者との懇談会			
10	H10. 2. 9	第2回（平成9年度） 鹿児島高専と有識者との懇談会			
11	H11. 2. 8	平成10年度 鹿児島高専と有識者との懇談会			
12	H12. 2. 4	平成11年度 鹿児島高専と有識者との懇談会	外部評価結果報告	平成12年2月	自家製本
13	H13. 2. 28	平成12年度 鹿児島高専と有識者との懇談会	平成12年度 外部評価結果報告	平成13年7月	外注製本
15	H15. 3. 13	平成14年度 鹿児島高専と有識者との懇談会	平成14年度 外部評価結果報告	平成15年2月	ウェブ ページ 外注製本
17	H18. 2. 7	平成17年度 外部評価委員会			

(出典：総務課資料)

資料 1 1 - 2 - ① - 3

鹿児島工業高等専門学校外部評価委員会

1. 日時 平成18年2月 7日(火)  
13:30~16:30
2. 場所 鹿児島工業高等専門学校 管理棟2階 大会議室
3. 会次第
- (1) 開会
  - (2) 校長あいさつ
  - (3) 委員及び本校出席者の紹介
  - (4) 委員長選出
  - (5) 学校概要説明及び各主事、各委員長等説明
  - (6) 意見交換
  - (7) 閉会

(出典：平成17年度外部評価委員会 資料)

資料 1 1 - 2 - ① - 4

(1) 教育理念		
委員からの評価及び提言	評価及び提言に対する達成状況	今後の課題
<b>提言1</b> 教育理念の2番目の文中の「また特別の事項について」という意味が分かりにくい。 (担当：校長補佐連絡会)	本校においては、「実践的技術者の育成」を掲げて、単なる理論学習ではなく、実験・実習を重視した教育方法による人材育成を図ってきており、「また、実践的技術の発展のため」という内容に改正予定である。	改正した理念を教職員及び学生に周知していきたい。
(2) 委員会等		
委員からの評価及び提言	評価及び提言に対する達成状況	今後の課題
<b>提言2</b> 理念・目標等を達成するための委員会の機能が見えない。 (担当：校長補佐連絡会)	準学士課程の理念・目標の達成を目指す教務委員会及び専攻科の理念・目標の達成を目指す専攻科委員会の連携を図るため、平成16年度に教育プログラム点検会議を設置した。	理念・目標を達成するために、さらに他の委員会（FD委員会等）とも連携を図っていきたい。
(3) 教育目標		
委員からの評価及び提言	評価及び提言に対する達成状況	今後の課題
<b>提言3</b> シラバスには、本科の教育目標との関連は記載されているが、学科の教育目標との関連が記載されていない。 (担当：教務委員会)	JAIBEの教育プログラムでの学習・教育目標を本校の目標としてきたが、準学士課程と専攻科課程の双方の学習・教育目標の策定が必要となり、平成17年度本科（準学士課程）の学習・教育目標を定めている。各学科はこの目標に沿ってカリキュラムの構成を検討している。	本科（準学士課程）の学習・教育目標を今後学生に周知し、各学生がこの目標を達成するように教育改善にも努め、学習支援等を行うことが必要である。  また、教育目標と各学科のカリキュラムにおける科目の対応関係、並びにその科目群の関係を示す教育課程系統図がシラバスに記載されている。

(出典：平成17年度外部評価委員会 資料1 1頁)

資料 1 1 - 2 - ① - 5

(2.4) 事務部

取り組み	内容	資料名
1 独立行政法人への移行	<p>平成16年4月1日、国立高等専門学校は、独立行政法人として生まれ変わり、北は北海道から南は九州沖縄地区の国立55高専（工業高専47校、電波高専3校、商船高専5校）が、一つの独立行政法人にまとまり、「独立行政法人国立高等専門学校機構」という名称で新たなスタートをきった。</p> <p>独立行政法人とは国民生活や社会経済の安定等公共の見地から確実に実施されることが必要な事務及び事業であって、国が主体となって直接に実施する必要のないもので、民間の主体に委ねる場合には必ずしも実施されないおそれがあるもの。または、一つの主体に独占して行われることが必要であるものを効率的に行うことを目的として法律の定めにより設立される法人とされている。</p> <p>法人化になって変わったこととしては、まず、教職員の身分が「国家公務員」から「非公務員型」に変わり、これに合わせて適用される規則等も変更となった。基本的な適用法律等は、「国家公務員法や人事院規則」から「労働基準法、労働安全衛生法、労働組合法及び労働関係調整法」へと変わり、その中で、身分や服務関係等については、就業規則により定められることになった。労働組合法が適用されるようになったことに伴い、労働基本権としての団結権及び団体交渉権（労働協約締結権は除く）は従前から認められていたが、新に争議権が認められることになった。また、財務会計的には、運営費交付金という形で予算配分され、企業会計原則が導入された。</p> <p>別な観点から見た大きな相違は、目標と評価ということにあると言える。高専機構では、中期目標（5年間の目標）として、業務運営の効率化をはじめ、教育に関する事項、研究に関する事項、社会との連携に関する事項、国際交流に関する事項、管理運営に関する事項等目標を設定し、その目標を達成するために取るべき措置として、中期計画（5年間の計画）と年度計画（その年度に取り組む計画）を具体的に掲げ、目標達成に向け取り組んでいる。そして、その達成度を独立行政法人評価委員会が審査し、機構としての評価が確定する。と同時にそれぞれの高専においても、教育研究活動等の総合的な状況に関して、大学評価・学位授与機構から評価されることになった。</p>	・高専の評価

2 事務組織再編	<p>全国55高専においては、事務効率化及び専攻科設置等による教職員の重点的な資源配分に資する財源を確保するため、平成18～20年度までに事務組織再編及び一律2名の定員削減を実施することになった。本校においても、3課（庶務課・会計課・学生課）体制から2課（総務課・学生課）体制（別紙参照）へ移行し、その下に3課長補佐及び10係長を配置した組織に変更し、平成18年4月から実施する予定である。</p>	・事務組織再編（案）
3 委員会等の見直し	<p>委員会等については、現在45あるが、その中にはほとんど稼働していない委員会や審議内容が似通ったものがあり、教職員の負担軽減及び機動的な組織編成とするため、別紙のとおり見直しを行う予定にしている。</p>	・委員会等組織見直し（案）
4 法人化に伴う財務会計システムの導入	<p>財務会計システム（複式簿記）の導入により教育経費、研究経費、管理運営費等の使途が国立時代より詳細になった。</p>	

図2.5 技術室

取り組み	内容	資料名
1 技術室の充実	<p>平成15年度に教育・業務・広報研修の3部会を立ち上げ現在に至っている。</p> <p>教育支援部会</p> <p>① 全学科と一般理系（物理・化学）に教育支援依頼書を提出してもらい工作実習・実験等を多岐に亘り円滑に行う体制を整えた。</p> <p>② 技術室の中期目標である、学科を越えた教育支援は16年度試行、17年度から完全実施している。</p> <p>業務支援部会</p> <p>① 製作・業務依頼書を提出してもらい諸業務が円滑且つ効率的に行える体制を整えた。</p> <p>② 16年度の抜法に伴い安全衛生法が適用された為、現場の安全管理を徹底させる。</p> <p>広報研修部会</p> <p>① 技術職員の資質向上の為、各種資格取得等の広報を行っている。</p> <p>② 技術職員の技術向上の為、各種講習会等を開いている。</p> <p>その他</p> <p>① 課外活動（ロボコン・エロラン・プロコン等）</p>	・技術室概要 ・各種依頼書

(出典：平成17年度外部評価委員会 資料2 30～32頁)

## 資料 1 1 - 2 - ① - 6

## 有識者からの提言に対する本校の今後の対応等

	有識者からの評価及び提言	提言に対する現状分析	提言に対する今後の対応又は意見	
1	教育理念	教育理念の2番目の文中の「また特別の事項について」という意味が分かりにくい。	地域や産業界からの要請があった場合の研究やすぐには教育に結びつかないが将来に可能性のある研究等を「特別の事項」として捉えている。	教育理念において、より具体的に明記するよう、検討していく。
2	委員会等	理念・目標等を達成するための委員会の機能が見えない。		教務委員会及び専攻科委員会の連携を図り、教育プログラムを点検・改善し、理念・目標等を達成するための組織の設置を検討する。
20	高専 PR	高専のPRは、高専の状況を社会へ知らせるといった説明責任もあることから、積極的に取り組むべきである。	広報誌やホームページによるPRを行っている。	マスメディアを利用した鹿児島高専のPRを検討する。

(出典：平成14年度外部評価結果報告書 33, 34頁)

## 資料 1 1 - 2 - ① - 7

## (1) 教育理念

委員からの評価及び提言	評価及び提言に対する達成状況	今後の課題
提言 1 教育理念の2番目の文中の「また特別の事項について」という意味が分かりにくい。 (担当：校長補佐連絡会)	本校においては、「実践的技術者の育成」を掲げて、単なる理論学習ではなく、実験・実習を重視した教育方法による人材育成を図っており、「また、実践的技術の発展のため」という内容に改正予定である。	改正した理念を教職員及び学生に周知していきたい。

## (2) 委員会等

委員からの評価及び提言	評価及び提言に対する達成状況	今後の課題
提言 2 理念・目標等を達成するための委員会の機能が見えない。 (担当：校長補佐連絡会)	準学士課程の理念・目標の達成を目指す教務委員会及び専攻科の理念・目標の達成を目指す専攻科委員会の連携を図るため、平成16年度に教育プログラム点検会議を設置した。	理念・目標を達成するために、さらに他の委員会（FD委員会等）とも連携を図っていきたい。

## (14) 高専 PR

委員からの評価及び提言	評価及び提言に対する達成状況	今後の課題
提言 20 高専のPRは、高専の状況を社会へ知らせるといった説明責任もあることから、積極的に取り組むべきである。 (担当：広報委員会)	平成17年8月21日（日）、午前10時30分～11時までの間、MBC南日本放送において鹿児島高専の特別番組「未来のエンジニアを目指して～魅力あふれる鹿児島高専～」が放映され、翌週には再放送された。 これは、高専の制度、学科紹介、専攻科紹介、寮紹介、課外活動、卒業生メッセージ等を含む25分で構成され、放映後は高専紹介DVDとして、鹿児島県下の中学校に配布した。	今後も引き続き、高専の制度を広く一般にアピールし、新入生獲得へ結びつけていく必要がある。

(出典：平成17年度外部評価委員会 資料1 1, 7頁)



資料 1 1 - 2 - ① - 8

鹿児島工業高等専門学校近郊公民会長との懇談会実施要項

平成17年1月21日

1. 目的

この要項は、鹿児島工業高等専門学校（以下「本校」という。）の近郊の住民の皆様  
に、本校の学校運営に関する理解と協力を得るため、「鹿児島工業高等専門学校近郊公  
民会長との懇談会」を開催し、本校の近況、今後の教育方針等を説明・報告すると共に  
住民の皆様から御意見を拝聴し、今後の本校の学校運営等に役立てることを目的とす  
る。

2. 開催時期

年1回とする。ただし、校長が認める場合はこの限りでない。

3. 参加者

本 校 校長、4主事、専攻科長、事務部長、3課長、関係主事補等  
公民会長 単人駅から本校近郊における、学生の主な通学路付近の関係公民会長  
とする。  
具体的には、富隈小学校区全域（67区）及び宮内小学校区の一部  
（25区）の公民会長 計92区のうち、特にお世話になると思われる  
公民会長 23区（別添のとおり）

4. 実施方法等

本校からの説明・報告と公民会長からの質疑応答を中心に行う。

（出典：近郊公民会長との懇談会資料）

資料 1 1 - 2 - ① - 9

第2回鹿児島工業高等専門学校近郊公民会長との懇談会

1. 日 時 平成18年3月8日（水）19時～
2. 会 場 鹿児島工業高等専門学校 大会議室
3. 出席者 鹿児島高専 校長、主事、専攻科長、事務部長、課長、関係主事補等  
町内会長 単人駅から高専近郊における、学生の主な通学路付近の  
関係公民会長とする。  
具体的には、富隈小学校区全域（67区）及び宮内小学  
校区の一部（25区）の公民会長 計92区のうち、特  
にお世話になると思われる公民会長23区
4. 議題等  
司会進行・・・庶務課長  
議事1 出席者の紹介  
議事2 本懇談会の趣旨説明  
議事3 鹿児島高専校長挨拶  
議事4 鹿児島高専の近況報告について  
（成人学生の喫煙 等）  
議事5 公民会長からの質疑及びその応答
5. その他

（出典：近郊公民会長との懇談会資料）

資料 1 1 - 2 - ① - 10

第2回鹿児島工業高等専門学校近郊公民会長との懇談会議事要旨

日 時：平成18年3月8日（水）19：00～20：00

場 所：管理棟大会議室

出席者：〔公民会長〕

■■■■（真孝4公民会長）、■■■■（真孝6公民会長）、  
■■■■（真孝10公民会長）、■■■■（単人塚田地公民会長）

（敬称略。以下同じ。）

〔鹿児島高専〕

前田校長、河野教務主事、西留学生主事、引地学生主事補、あべ松学生主  
事補、内田寮務主事補、倉狩事務部長、磯田庶務課長、大城会計課長、嶋  
田学生課長、安楽庶務係長、満富学生係長、尾崎庶務係主任

4. 続いて、各公民会長からご意見等をいただいた。

(1) ■■■■（真孝4公民会長）

- ・ 駐車問題などの努力は理解したが、ごみ回収日の前夜から駐車しており、  
ごみを運んできた人が駐車できないことがあるので、ブロック等を置いて、  
駐車スペースを確保している。
- ・ 草むらにタバコの吸い殻、弁当がら、飲み物の容器等が捨ててあり、きれ  
いに草刈りをしてある場所には捨てていないことから、きれいな場所では自  
粛するのではと思われるが、町内会は高齢化もありなかなか対応できないの  
で、学校側で草刈りをお願いしたい。
- ・ 昨年に続き、今年も校内で花見をさせていただきたい。また、他の地区か  
らも申し出があれば、許可していただきたい。

本件について、本校側より次のとおり回答があった。

（学生主事）

草刈り等については入学式までには何らかの形で対応したい。

（庶務課長）

花見にご利用いただいて良いが、できれば事前にご連絡をいただければあ  
りがたい。

（出典：第2回近郊公民会長との懇談会議事要旨）

(分析結果とその根拠理由)

本校では、外部評価委員会を設置し、自己点検・評価結果等についての検証を行い、提言を受けることにより、本校の管理運営面について外部有識者の意見を反映させている。外部評価委員からの意見・提言は報告書としてとりまとめ、関係委員会等で検討・対応している。また、近郊公民会長との懇談会では、本校の近況、今後の教育方針等を説明・報告するとともに、地域住民の方から意見をいただき、本校の学校運営に役立てている。

このことから、本校では、外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されていると判断される。

**観点11-3-①： 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。**

(観点に係る状況)

本校には、自己点検・評価委員会が設置されており、本委員会が、教育、研究、組織、運営、施設、設備等の総合的な状況等を全て網羅した自己点検・評価報告書を、3年ごと（第4号平成13～15年度）に作成している。直近は、平成17年2月の発行である。自己点検・評価の結果は、関係機関（資料11-3-①-1）に配布するとともに、本校ウェブページでも公開している（資料11-3-①-2）。また、外部評価委員会（旧有識者懇談会）の報告書も「外部評価結果報告」として冊子にまとめるとともに、ウェブページへ公開している（資料11-3-①-2）。

**観点11-3-①資料一覧**

- (資料11-3-①-1) 自己点検・評価報告書配布先一覧 出典：総務課資料
- (資料11-3-①-2) 自己点検・評価報告書、外部評価結果報告 出典：ウェブページ

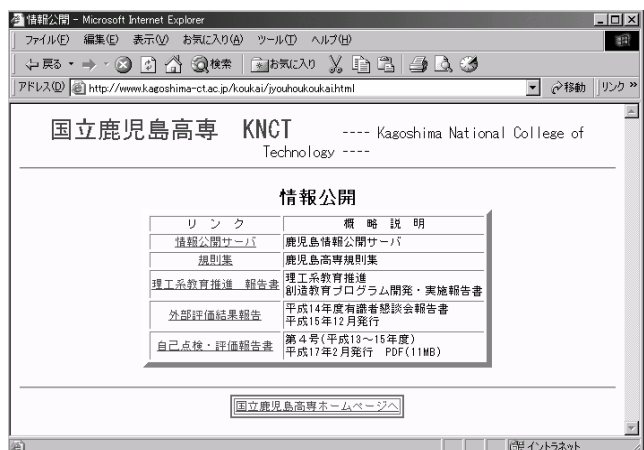
資料11-3-①-1

自己点検・評価報告書 第4号 発行部数内訳

部数	400部
1 文部科学省	25
2 国立高等専門学校機構	5
3 国公私立高専	62
4 九州管内国立大学	11
5 九州管内 自然の家	4
6 技術科学大学	2
7 県内公私立大学	8
8 名誉教授	20
9 県教育長・近隣市町教育委員会	13
10 県関係 (工業技術センター、頭脳センター、始良教育事務所、県商工労働部)	4
11 隼人町・国分市	2
12 有識者懇談会委員	10
13 本校教員	79
14 本校事務員 部長・課長・各係・技術室	20
15 予備	135

(出典：総務課資料)

資料11-3-①-2



(出典：ウェブページ)

(分析結果とその根拠理由)

本校には、自己点検・評価委員会が設置されており、本委員会が、教育、研究、組織、運営、施設、設備等の総合的な状況等を全て網羅した自己点検・評価報告書を定期的に作成している。また、自己点検・評価の結果は、関係機関に配布し、本校ウェブページでも公開している。外部評価委員会（旧有識者懇談会）の結果も外部評価結果報告書としてまとめ、ウェブページへ公開している。

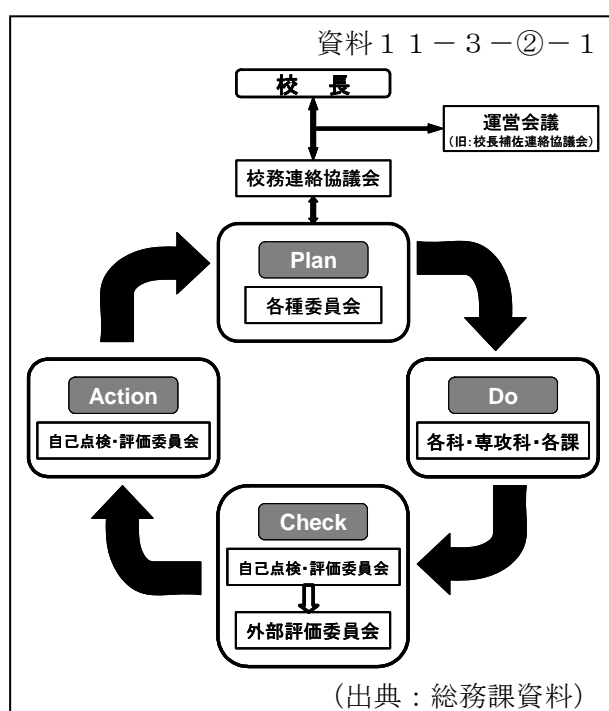
このことから、自己点検・評価が本校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されていると判断される。

観点11-3-②： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

(観点に係る状況)

外部評価委員会開催後、自己点検・評価委員会を中心となって、外部評価委員からの意見・提言をとりまとめ、提言に対する現状分析を行った上で、関係する各種委員会等へフィードバックする。各種委員会等は、現状分析の確認及び提言に対する今後の対応を検討の上、改善案を作成する。これらを取りまとめたものが、外部評価結果報告書である（資料11-2-①-6, 7参照）。

その後、各種委員会等は、今後の対応について、目的達成のための具体的プランを立て、校長のリーダーシップの下、各科・専攻科及び各課等において改善策を実行する。改善結果は、自己点検・評価委員会で取りまとめられ、次回の外部評価委員会で報告を行うシステムが確立されている（資料11-3-②-1）。



### 観点 11-3-②資料一覧

(資料 11-3-②-1) 管理運営に関するPDCAサイクル

出典：総務課資料

(分析結果とその根拠理由)

自己点検・評価委員会を中心となって、外部評価委員からの意見・提言をとりまとめ、分析を行った上で、関係する委員会等へフィードバックする。各種委員会等は、今後の対応を検討の上、改善案を作成する。その後、各科・専攻科及び各課等において改善策が実行される。改善結果は、自己点検・評価委員会で取りまとめられ、次回の外部評価委員会で報告を行うシステムが確立されている。

このことから、評価結果がフィードバックされ、本校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されていると判断される。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 学校の目的を達成するために、校長、各主事、各種委員会等の役割と分担が明確になっており、意志決定が効果的に行われているとともに、校長がリーダーシップを発揮できる体制となっている点
- ・ 管理運営に関する各種委員会等の役割等が規則で明確に定められており、ウェブ上で確認できるようにしている点
- ・ 外部評価委員からの意見・提言を、関係する委員会等へフィードバックし、その改善結果を再び外部評価委員会で報告するシステムが確立されている点

(改善を要する点)

特になし

## (3) 基準11の自己評価の概要

校長の役割は学校教育法で、校長が指名する教務主事、学生主事、寮務主事の役割については、学則等で明確に定められている。また、教務主事を副校長に、学生主事、寮務主事、専攻科長及び地域共同テクノセンター長を校長補佐として位置づけている。学校の目的を達成するため、本校の重要な管理運営に関しては、校長が副校長及び校長補佐等に諮問し、その結果を基に意思決定をしており、リーダーシップを発揮できる体制となっている。

運営会議や校務連絡協議会をはじめとした管理運営に関する各種委員会は、いずれもその趣旨、目的、組織、役割等が規則に明確に定められている。また、主要委員会は、関係主事（副校長及び校長補佐）及び各科等の代表委員で構成されており、各科の意見を十分汲み取り、各事項についての意思決定とその周知徹底が図られる体制になっている。

事務組織の役割については、ほとんどの委員会に事務職員が構成員として加わっており、委員会の事務担当が明記されている。また、技術職員を含め、事務組織及び事務分掌規程が定められ、管理運営に関する役割分担が明確になっており、効果的に活動している。

学則、組織・運営、その他の全般にわたる管理運営の諸規則が整備され、これらの規則は本校ウェブページで確認することができる。

本校には、自己点検・評価委員会が設置されており、本委員会が、教育、研究、組織、運営、施設、設備等の総合的な状況等を全て網羅した自己点検・評価報告書を定期的に作成している。また、自己点検・評価の結果は、関係機関に配布し、本校ウェブページでも公開している。自己点検・評価結果等についての検証のために、外部評価委員会を設置しており、本校の管理運営面についての外部有識者の意見を反映させている。外部評価委員からの意見・提言については、自己点検・評価委員会が中心となっており、分析を行った上で、関係する委員会等へフィードバックしている。各種委員会等は、今後の対応を検討の上、改善案を作成する。その後、各科・専攻科及び各課等において改善策を実行する。改善結果は、自己点検・評価委員会で取りまとめられ、次回の外部評価委員会で報告を行うシステムが確立されている。

#### IV 選択的評価事項に係る目的

##### (選択的評価事項A「研究活動の状況」に係る目的)

本校では、教育理念において「2. 教育内容を学術の進展に対応させるため、また、実践的技術の発展のため、必要な研究を行う。」が掲げられており、これを達成するために、次のような目標が定められている。

1. 教育・研究活動の高度化・活性化を図る。
2. 地域の交流を推進し、教育・研究成果を地域に還元するとともに、国際交流を推進する。

これらの目標が、研究の目的すなわち「研究活動の状況」に係わる目的である。

目標1の「教育・研究活動の高度化・活性化を図る」については、各教員がその専門分野における研究を行い、その成果を、査読付論文、国際会議プロシーディングス、及び口頭発表等で公開し、外部評価を受けること、さらに、これを著書や教材、本科の卒業研究及び専攻科の特別研究に取り入れることにより達成される。

一方、目標2の「地域との交流を推進し、教育・研究成果を地域に還元する」については、地域の産業界からの技術相談への対応、共同研究の推進により達成される。この目的のために、学内に地域共同テクノセンターが設置され、積極的な産学連携の推進を図っている。すなわち、各教員の研究シーズを当センターで集約し、地域企業等へ紹介することにより、技術相談、受託研究、共同研究の受け入れを推進し、本校の研究成果を地域に還元している。

(選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的)

本校では、正規課程の学生以外に対する教育サービスとして、主に公開講座等を実施している。これは「本校の教育・研究を広く社会に解放し、社会人の生涯教育の一助とすると共に地域社会の文化の向上に貢献すること。」が目的であり、本校の教育理念を達成するための3つの目標の一つである「地域との交流を推進し、教育・研究成果を地域に還元するとともに国際交流を推進する。」の中の「地域との交流を推進し、教育・研究成果を地域に還元する。」ことに対応している。

## 選択的評価事項A

### 研究活動の状況

観点A-1-①： 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

#### (a) 研究体制

各教員は、各科に所属し研究活動を行なっており、研究設備については、各科において管理・運営している。科内で関連する専門分野の教員が、共同研究や情報交換を行っているほか、個々の教員が単独又は他の機関の研究者とも共同研究を行っている。さらに、各科を横断して共同研究が行われる場合もある(資料A-1-①-1)。

#### (b) 支援体制

目標1の「教育・研究活動の高度化・活性化を図る」ために、本校教職員が行う教育・研究活動に必要な経費の一部を助成する校内研究助成制度が設けられている(資料A-1-①-2, 3)。これは、校長裁量経費の一部をもって充てられ、申請された研究課題に対して、校長が採択課題と助成額を決定する。

研究成果の公表に関しては、研究・知財委員会(平成17年度までは研究促進委員会)が、研究報告を編集・出版し、これを支援している(資料A-1-①-4)。

目標2の「地域との交流を推進し、教育・研究成果を地域に還元する」に関しては、研究・知財委員会が、研究者総覧システムにより研究業績等を公開し、地域の産業界との共同研究の推進を支援している。このシステムは、本校教員が有する研究シーズの学外への公開を目的として、2004年に作成され、各教員の研究業績に関するデータベースの機能も有している(資料A-1-①-5)。

また、地域共同テクノセンターが、共同研究・受託研究あるいは奨学寄付金等の助成の受け入れを推進するために、本校教員の研究シーズと企業のニーズとのマッチングを図る活動を行っている。その活動の一つとして、2006年2月に本校の研究シーズ集の冊子を作成し、本校を中核とした産官学連携組織である「錦江湾テクノパーククラブ」の一般会員(47社)及び特別会員(15社)と「鹿児島県工業倶楽部」の会員(244社)へ配布し、教員の研究活動(内容)について広く公表した(資料A-1-①-6)。

### 観点A-1-①資料一覧

(資料A-1-①-1) 研究業績一覧	出典：鹿児島工業高等専門学校研究報告40号
(資料A-1-①-2) 校内研究助成金制度	出典：鹿児島工業高等専門学校校内研究助成金運用要項
(資料A-1-①-3) 校内研究助成金採択一覧	出典：校内研究助成金採択テーマ一覧(H15~17年度)
(資料A-1-①-4) 研究報告の目次	出典：鹿児島工業高等専門学校研究報告40号
(資料A-1-①-5) 研究者総覧システム表紙	出典：ウェブページ
(資料A-1-①-6) 教員の研究活動の公表	出典：研究シーズ集



鹿児島工業高等専門学校  
研究報告 40(2005)  
61~70

## 研究業績

2004年4月1日~2005年3月31日  
ゴシック 本校の発表者 \*印 講演発表者

校長

氏名	課題	雑誌, 講演会, または発行所等
T. Nakajima Y. H. Xu Y. Mori M. Kishita H. Takanashi S. Maeda A. Ohki	Combined use of photocatalyst and adsorbent for the removal of inorganic arsenic(III) and organoarsenic compounds from aqueous media	Journal Hazard Materials B120 巻 pp.75~80 2005-03
T. Nakajima T. Kawabata H. Kawabata H. Takanashi A. Ohki S. Maeda	Degradation of phenylarsinic acid and its derivatives into arsenate by hydrothermal treatment and photocatalytic reaction	Applied Organometallic Chemistry 19 巻 pp.254~259 2005-03

機械工学科

氏名	課題	雑誌, 講演会, または発行所等
加藤隼人* 池田真悟 江崎秀司	管群における急収縮損失特性	第7回化学工学会学生会発表会研究発表講演要旨集 同志社大学 pp.48~ 2005-03
今里裕司* 江崎秀司	熱交換器の変流量特性	日本機械学会九州学生会第36回卒業研究発表講演会論文集 長崎大学 pp.315~316 2005-03
岩切和史* 江崎秀司	急収縮流れ場の流動特性	日本機械学会九州学生会第36回卒業研究発表講演会論文集 長崎大学 pp.365~366 2005-03
引地力男 油田功二 原田正和 上野孝行	学生が能動的に参加するための工作実習の工夫	論文集「高専教育」 28号 pp.291~296 2005-03
HIKIKI Rikio* HARADA Masakazu KAWANO Yoshihiro KONDO Eiji ARAI Minoru	STUDY ON DEPTH OF WORK HARDENED SURFACE LAYER IN ORTHOGONAL NON-FERROUS METAL CUTTING	ICPMT'2004 Proceedings of the Seventh International Conference on Progress of Machining Technology Suzhou, China pp.687~692 2004-12
原田正和* 引地力男 塚本公秀	高専における創造性を育成するための工作実習の工夫(第2報)・低学年への試み	2004年度精密工学会九州支部宮崎地方講演会/精密工学会九州支部宮崎 pp.9~10 2004-12
引地力男* 上野孝行 山下俊一	レーザ加工で発生する粉じんの分布解析に関する研究	2004年度精密工学会九州支部宮崎地方講演会/精密工学会九州支部宮崎 pp.77~78 2004-12
引地力男* 河野良弘 近藤英二 新井実	二次元切削における切れ刃の丸みが加工硬化層に及ぼす影響	2005年度精密工学会春季大会学術講演会講演論文集/精密工学会横浜市 pp.599~600 2005-03
西尾一政 益本広久 松田日出彦 池田英幸	タンタルとCu-Cr合金との拡散接合性に及ぼすCrの影響	溶接学会 22巻 3号 pp.451~467 2004-08
MASUMOTO, Hirohisa* NISHIO, Kazumasa MATSUDA, Hidehiko IKEDA, Hi deyuki	Diffusion Bonding between Molybdenum and Titanium alloys	International Institute of Welding IIW 2004 Annual Assembly 大阪 pp.2136~ 2004-07
池田英幸* 益本広久 西尾一政 松田日出彦	高融点金属とチタン合金との拡散接合におけるポイド生成に関する研究	溶接学会九州支部 溶接学会九州支部講演論文集 福岡 pp.62~68 2004-07

(出典: 鹿児島工業高等専門学校研究報告40号 61頁)

資料A-1-①-1 続き

2004年4月1日～2005年3月31日

氏名	課題	雑誌, 講演会, または発行所等
段本智則* 池田英幸 西尾一政 加藤光照 山口富子	モンテカルロ法による結晶粒の粗大化シミュレーション	溶接学会九州支部 溶接学会九州支部講演論文集 福岡 pp.69～73 2004-07
持原稔 室屋秀人*	微細材料を材料試験するための基礎研究	日本機械学会 M&M2004 材料力学カンファレンス講演論文集 秋田市 pp.373～374 2004-07
Masahiro NAKASHIMA Akira RINOSHIKA Takahide TABATA Tsutomu NOZAKI	Application of Wavelet Multi-resolution Analysis to Jet Flow Issuing from Rotating Circular Pipe with Inclined Section	International Journal of Wavelets, Multi-resolution and Information Processing Vol.2 No.2 pp.1～8 2004-12
Satoshi SOMEYA* Takahide TABATA Yuta KUBOMOTO Satoshi YOSHIDA Masahiro NAKASHIMA	Effects of the Chemical Reaction on an Interfacial Instability of Upward Round Free Jet	VSJ-SPIE04 International Conference on Advanced Optical Diagnostics in Fluids, Solids and Combustion Tokyo 2004-12
西田 雅* 中島正弘 田畑隆英 椎 保幸 野崎 勉 李 輝 輝	噴流の拡散制御に関する研究 (ウェーブレット解析による検討)	日本機械学会 2004 年度年次大会講演論文集 札幌市 pp.269～270 2004-09
中島正弘* 李 輝 輝 田畑隆英 野崎 勉	柔らかなフィンを用いた噴流の拡散制御	可視化情報学会全国講演会 (愛媛 2004) 講演論文集 愛媛大学 pp.125～126 2004-09
西田 雅* 中島 正弘 李 輝 田畑 隆英	柔らかいひれを用いた噴流の拡散制御に関する研究	日本機械学会 流体工学部門講演会 北九州市 pp.249～249 2004-11
徳満 智和* 椎 保幸 福原 稔	円筒型サイクロン分離器内の流動特性 (入口流速の影響)	日本機械学会九州支部第 58 期総会講演会論文集 福岡市 pp.365～366 2005-03
加藤 隆樹* 福原 稔 阿多 洋輔 椎 保幸 飯野 直子	吹出し口を備えた粉粒体吸込みノズルの性能に関する研究 (管径比の影響)	日本機械学会九州支部第 58 期総会講演会論文集 福岡市 pp.363～364 2005-03
田畑隆英* 中島正弘 李輝 野崎勉	噴流の拡散制御に関する研究 - ウェーブレット多重解像度解析による検討 -	可視化情報学会第 3 2 回可視化情報シンポジウム 東京都 pp.95～96 2004-07
中野雄太* 中島正弘 田畑隆英 椎 保幸 野崎 勉	傾斜切断面をもつ円管群から流出する噴流	日本機械学会 2004 年度年次大会講演論文集 札幌市 pp.271～272 2004-09
染矢聡 窪元勇太* 田畑隆英 中島正弘 野崎勉	物質拡散を伴う鉛直上向噴流	日本機械学会 第 82 期日本機械学会流体工学部門講演会 北九州市 pp.242～242 2004-11
山田隆明 桑波田修平* 境田幸和	ロボットによる林業用枝打ちシステムに関する研究 (基本概念の提案)	第 5 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門学術講演会 茨城県つくば市 pp.933～934 2004-12

## 電気電子工学科

氏名	課題	雑誌, 講演会, または発行所等
M. Kozako N. Fuse Y. Ohki T. Okamoto T. Tanaka	Surface Degradation of Polyamide Nanocomposites Caused by Partial Discharges Using IEC (b) Electrodes	IEEE Transactions on Dielectrics and Electrical Insulation 11 巻 5 号 pp.833～839 2004-10
小迫雅裕 田中紀捷	画期的な絶縁特性の向上が期待される高分子ナノコンポジット	放電学会誌 47 巻 4 号 4 2004-11

(出典: 鹿児島工業高等専門学校研究報告 40 号 62 頁)

## 鹿児島工業高等専門学校校内研究助成金運用要項

## 校長裁定

(趣旨)

1. 鹿児島工業高等専門学校(以下「本校」という。)校内研究助成金(以下「研究助成金」という。)の運用については、この要項の定めるところによる。

(目的)

2. 研究助成金は、本校教職員が行う教育・研究活動に必要な経費の一部を助成し、もって、科学研究費補助金の獲得あるいは委託研究や共同研究の進展を図り、本校の更なる教育・研究の充実に資することを目的とする。

(研究助成金の種目)

3. 研究助成金は、原則として、教官または技術職員等が行う研究期間が2年から4年までの次の研究に助成する。

(1) 個人または共同で行う科学研究(以下「科学研究」という。)

(2) 個人または共同で行う科学教育・教科教育に関する研究(以下「教育研究」という。)

(申請方法)

4. 助成を希望する教官、技術職員等(以下「申請者」という。)の代表者(個人を含む。以下同じ。)は、申請書(様式1)または研究経過報告書(様式2)により、別に定められた日までに校長に提出しなければならない。

(採択課題等の決定)

5. 校長は、提出された申請書または研究経過報告書等を調査・審査のうえ、採択課題と研究助成金の額を決定する。

なお、校長は、その過程において、申請者に対し、ヒアリングを行うことがある。

(研究助成金額)

6. 研究助成金の1件の単年度における上限額は、原則として次のとおりとする。

(1) 科学研究 200万円

(2) 教育研究 100万円

(研究助成金の使途)

7. 研究助成金は、設備・備品・消耗品等の校費のみであり、旅費・謝金には使用できない。

(研究の報告等)

8. 採択された研究は、次のとおり報告するものとする。

(1) 採択された課題の研究代表者は、助成期間中の年度末ごとに研究経過報告書(様式2)を校長に提出し、研究の進捗状況および成果を報告しなければならない。

(2) 助成金に採択された課題の研究代表者は、研究期間最終年度の年度末には、研究実績報告書(様式3)を校長に提出し、研究の最終報告を行わなければならない。

(3) 研究分担者は、年度末に採択された課題における役割分担を明記した研究経過報告書(様式4)を校長へ提出しなければならない。

(4) 研究分担者は、研究期間最終年度の年度末に、研究実績報告書(様式5)を校長に提出し、研究の最終報告を行わなければならない。

(5) 校長は、研究実績報告書(様式3及び様式5)を公開する。

(科学研究費補助金等の申請)

9. 研究助成金に採択された課題の研究代表者は、科学研究費補助金等にその内容に沿った研究課題で当該年度に申請をしなければならない。

また、共同研究等の受入れを積極的に推進しなければならない。

(研究成果の公表)

10. 研究助成金に採択された課題の研究代表者は、次のとおり当該研究の成果を公表しなければならない。

(1) 研究の成果を当該研究期間の終了後、翌年度の学内研究発表会で発表するとともに翌々年度発行の鹿児島工業高等専門学校研究報告(以下「鹿児島高専研究報告」という。)に成果を公表しなければならない。

(2) 採択された課題に沿って行われた研究が、当該研究期間終了後、研究代表者を第一著者として国内外の査読のある学協会誌あるいは国際会議プロシーディングスに翌年度中に掲載されることが決定した場合は、論文掲載報告書(様式6)で校長に報告しなければならない。

ただし、その場合は、鹿児島高専研究報告に公表することを要しない。

(3) 研究報告に公表後に研究成果を査読のある学協会誌あるいは国際会議プロシーディングスで発表した場合は、論文掲載報告書(様式6)で校長に報告しなければならない。

(申請の制限)

11. 専攻科特別研究のテーマと同一内容のテーマではこの研究助成金に申請できない。

(その他)

12. この要項に定めるもののほか、研究助成金の取扱いについては、校長が別に定める。

(庶務)

13. 研究助成金に関する事務は、総務課とする。

(出典：総務課資料)

平成15年度校内研究助成金 採択一覧				
科学研究(個人)	学科・職名	氏名	研究題目	助成額 (千円)
	電気電子工学科・教授	須田 隆夫	永久磁石を用いたローレンツ力による血球成分の分離用マイクロ流体デバイスの開発	750
	技術室・技術専門職員	原田 正和	非鉄金属の切削加工におけるバリの生成機構に関する研究	300
	機械工学科・助手	吉丸 日出紀	共削り加工における加工面品位に関する研究	200
	情報工学科・助手	入江 智和	符号化方式「論理演算三角法」を用いた高速ロスレスデータ圧縮方式	300
	機械工学科・教授	三角 利之	垂直平行平板間の自然対流の流動と伝熱(2平板の熱流束が異なる場合)	750
	電子制御工学科・助手	吉満 真一	オープンCNC工作機械によるエンドミル加工の認識と加工制御	500
	一般教育科・教授	松本 裕司	大正期における師範学校附属小学校と地方小学校の連合研究体制	500
	電気電子工学科・助教授	中村 格	メタルハライドランプ高周波点灯回路の検討・開発	500
	電子制御工学科・助手	島名 賢児	マイクロマシン用センサの開発に関する研究	210
	一般教育科・助教授	松田 忠大	海上衝突事件における国際民事裁判管轄	500
	機械工学科・助教授	田畑 隆英	ウェーブレット多重解像度解析を用いた、物質拡散を伴う鉛直噴流の混合に関する研究	500
	土木工学科・助教授	堤 隆	コンクリート硬化時に発生するひずみ測定のための埋め込み型3軸ロゼットゲージの開発	300
	電子制御工学科・教授	原田 治行	回折トモグラフィにおける全電界成分分離非線形フィルタの設計に関する研究	500
	機械工学科・教授	江崎 秀司	水素吸蔵合金を用いた携帯用屋外簡易飲料水冷却装置の開発	800
	一般教育科・助教授	保坂 直之	ドイツ近代詩での比喩の機能の網羅的な分析	200
	電子制御工学科・講師	鎌田 清孝	電磁気変化の信号処理解析による桜島火山爆発の予測	500
	技術室・技術職員	上野 孝行	配水管に堆積した火山灰を除去するための管内走行ロボットのメカニズムに関する研究	400
	技術室・技術職員	油田 功二	高速切削加工の効率的利用について	200
	計	18件		7,910
教育研究(個人)	学科・職名	氏名	研究題目	助成額 (千円)
	技術室・技術専門職員	皆元 一徳	地域の技術教育普及を目指した「お母さんのものづくり教室、燗台づくり」の実践	190
	一般教育科・講師	坂元 真理子	日本人英語学習者の文法性判断の処理速度に関する研究	600
	技術室・技能補佐員	西原 紀男	ハイテク産業のニーズに対応した新素材における材料特性の簡易評価法に関する研究	200
	機械工学科・助教授	塚本 公秀	シュミレーターを用いた生産管理学習でゲーム的要素を持ち込んだ講義の展開	500
	計	4件		1,490
平成16年度校内研究助成金 採択一覧				
科学研究(個人)	学科・職名	氏名	研究題目	助成額 (千円)
	技術室・技術専門職員	原田 正和	非鉄金属の切削加工におけるバリの生成機構に関する研究	100
	情報工学科・助手	入江 智和	符号化方式「論理演算三角法」を用いた高速ロスレスデータ圧縮方式	200
	機械工学科・教授	三角 利之	垂直平行平板間の自然対流の流動と伝熱(2平板の熱流束が異なる場合)	250
	電子制御工学科・助手	吉満 真一	オープンCNC工作機械によるエンドミル加工の認識と加工制御	250
	一般教育科・教授	松本 裕司	大正期における師範学校附属小学校と地方小学校の連合研究体制	200
	電子制御工学科・助手	島名 賢児	マイクロマシン用センサの開発に関する研究	200
	一般教育科・助教授	松田 忠大	海上衝突事件における国際民事裁判管轄	200
	機械工学科・助教授	田畑 隆英	ウェーブレット多重解像度解析を用いた、物質拡散を伴う鉛直噴流の混合に関する研究	300
	土木工学科・助教授	堤 隆	コンクリート硬化時に発生するひずみ測定のための埋め込み型3軸ロゼットゲージの開発	100
	電子制御工学科・教授	原田 治行	回折トモグラフィにおける全電界成分分離非線形フィルタの設計に関する研究	250
	機械工学科・教授	江崎 秀司	水素吸蔵合金を用いた携帯用屋外簡易飲料水冷却装置の開発	500
	電子制御工学科・講師	鎌田 清孝	電磁気変化の信号処理解析による桜島火山爆発の予測	150
	技術室・技術職員	上野 孝行	配水管に堆積した火山灰を除去するための管内走行ロボットのメカニズムに関する研究	200
	技術室・技術職員	油田 功二	高速切削加工の効率的利用について	100
	一般教育科・助教授	金岡 正夫	創造性を重視した言語学習モデルとTOEICスコアとの相関性について	200
	計	15件		3,200
教育研究(個人)	学科・職名	氏名	研究題目	助成額 (千円)
	一般教育科・講師	坂元 真理子	日本人英語学習者の文法性判断の処理速度に関する研究	200
	技術室・技術専門職員	皆元 一徳	公開講座「お母さんのものづくり教室 燗台をつくらう」の実践	100
	計	2件		300
平成17年度校内研究助成金 採択一覧				
科学研究(個人)	学科等・職名	氏名	研究題目	助成額 (千円)
	情報工学科・助手	新徳 健	集団コミュニケーション支援のためのインタラクション解析に関する研究	500
	一般教育科・助教授	保坂 直之	Wie 比喩、Als ob 比喩(直喩)と自然風景描写 -18世紀末以降の自然描写から見たゲオルク・トラークルの詩の風景-	180
	情報工学科・助手	入江 智和	重み付けされたDHCP(Weighted DHCP/wDHCP)に関する研究	200
	技術室・技術職員	長山 昭夫	桜島火山灰の養浜土砂としての利用価値を検証する基礎的研究	100
	情報工学科・講師	玉利 陽三	刺激電流制御可能な多目的磁気刺激装置の提案及びその試作	100
	電気電子工学科・助教授	栗島 史欣	Class Aレーザのダイナミクスに関する研究	500
	一般教育科・教授	松本 裕司	戦前期における学習経済の研究 -大正新教育との関わりを中心として-	300
	技術室・技術専門職員	原田 正和	共削り加工における加工面品位に関する研究	100
	電子制御工学科・講師	鎌田 清孝	生体磁気計測用多層構造磁気シールドルームの最適設計	500
	機械工学科・助教授	田畑 隆英	鉛直上向き噴流の混合に関する研究	300
	計	10件		2,780
教育研究(個人)	学科・職名	氏名	研究題目	助成額 (千円)
	一般教育科・助教授	金岡 正夫	創造性を重視した言語学習モデルとTOEICスコアとの相関性について	200
	技術室・技術専門職員	皆元 一徳	公開講座「お母さんのものづくり教室 燗台をつくらう」の実践	100
	一般教育科・講師	北園 裕一	本学学生の性に対する意識をもとにした性教育授業の研究	440
	一般教育科・講師	塚崎 香織	英語教育における多読指導-高等専門学校生の動機づけの観点から	400
	計	4件		1,140

(出典：総務課資料)

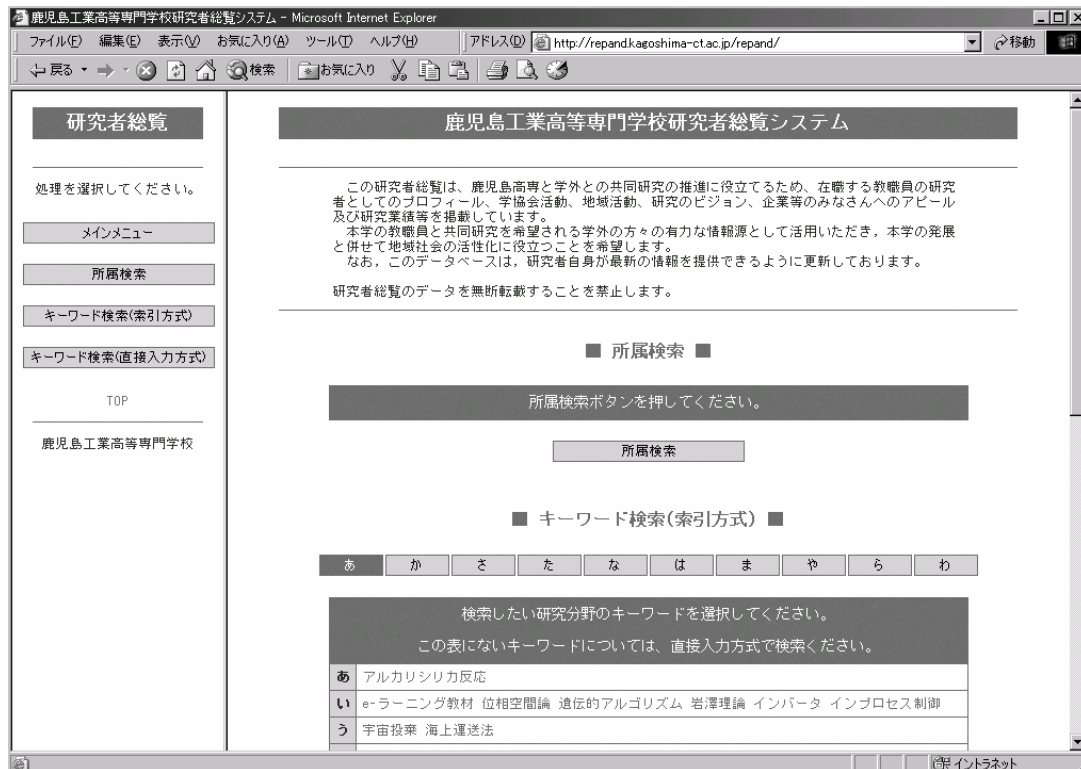
資料A-1-①-3 続き

平成15年度校内研究助成金 採択一覧														
科学研究(共同)														
研究代表者			研究分担者											
学科	職名	氏名	学科・職名	学科	職名	氏名	研究題目	助成額						
技術室	技術専門官	松元 悦郎	技術室・次長	技術室	次長	中原 和範	フシントン椰子の枝払い機の開発	1,000						
			技術室・第1班長	技術室	第1班長	山下 俊一								
			技術室・第2班長	技術室	第2班長	原田 正和								
			技術室・第1班員	技術室	第1班員	荒巻 勇輔								
			技術室・第2班員	技術室	第2班員	松尾 征一郎								
			技術室・第1班員	技術室	第1班員	西原 紀男								
			技術室・第2班員	技術室	第2班員	菅原 光宏								
電気電子工学科	教授	本部 光幸	電気電子工学科・助教授	電子制御工学科	助教授	小暮 晴美	HEV/FCHEV駆動用昇圧チョップレギュレータ・モータシステム	600						
			電気電子工学科・助手	電子制御工学科	助手	今村 成明								
			電気電子工学科・助手	電子制御工学科	助手	櫻根 健史								
土木工学科	助教授	前野 祐二	一般教育科・講師	一般教育科	講師	三原 めぐみ	エコ石灰セメントの添加剤にセメントを加えた場合の強度特性	1,000						
機械工学科	講師	山田 隆明	電気電子工学科・助手	電気電子工学科	助手	今村 成明	林業用枝打ちロボットに関する研究	500						
電子制御工学科	教授	河野 良弘	中国南京航空航天大学機電学院・教授	中国南京航空航天大学機電学院	教授	左 敦穂	マシニングセンタにおける小径工具挙動の遠隔監視とその加工過程の遠隔制御	1,000						
			機械工学科・助教授	機械工学科	助教授	引地 力里								
			電子制御工学科・助手	電子制御工学科	助手	島名 賢規								
			電子制御工学科・助手	電子制御工学科	助手	吉満 真一								
			技術室・第二技術班	技術室	第二技術班	山下 俊一								
土木工学科	教授	疋田 誠	電子制御工学科・講師	電子制御工学科	講師	鎌田 清孝	大規模土砂災害の予知・警報システムに関する研究	500						
			薬城大学環境建設工学科・助教授	薬城大学環境建設工学科	助教授	森山 聡之								
			土木工学科・非常勤講師	土木工学科	非常勤講師	会田 和義								
機械工学科	教授	中島 正弘	機械工学科・助教授	機械工学科	助教授	田畑 隆英	円形ノズルから流出する自由噴流の拡散促進効果の実証	1,000						
			機械工学科・助教授	機械工学科	助教授	権 保幸								
			電子制御工学科・助教授	電子制御工学科	助教授	岸田 一也								
			機械工学科・講師	機械工学科	講師	山田 隆明								
計		7件						5,600						
教育研究(共同) 申請なし														
平成16年度校内研究助成金 採択一覧														
科学研究(共同)														
研究代表者			研究分担者											
学科	職名	氏名	学科・職名	学科	職名	氏名	研究題目	助成額						
技術室	技術専門官	松元悦郎	技術室	技術室	全員		フシントン椰子の枝払い機の開発	1,000						
			電子制御工学科・助教授	電子制御工学科	助教授	菅原 光宏								
			電気電子工学科・助教授	電気電子工学科	助教授	小暮 晴美								
			電気電子工学科・講師	電気電子工学科	講師	今村 成明								
			電気電子工学科・助手	電気電子工学科	助手	櫻根 健史								
			土木工学科	助教授	前野 祐二	一般教育科・講師			一般教育科	講師	三原 めぐみ	エコ石灰セメントの添加剤にセメントを加えた場合の強度特性	250	
			機械工学科	講師	山田 隆明	電気電子工学科・助手			電気電子工学科	助手	今村 成明	林業用枝打ちロボットに関する研究	250	
電子制御工学科	教授	河野 良弘	電子制御工学科・助手	電子制御工学科	助手	吉満 真一	マシニングセンタにおける小径工具挙動の遠隔監視とその加工過程の遠隔制御	250						
			技術室・第二技術班	技術室	第二技術班	山下 俊一								
			機械工学科・助教授	機械工学科	助教授	田畑 隆英								
			電子制御工学科・助教授	電子制御工学科	助教授	権 保幸								
			電子制御工学科・助教授	電子制御工学科	助教授	岸田 一也								
機械工学科	教授	中島 正弘	機械工学科・講師	機械工学科	講師	山田 隆明	円形ノズルから流出する自由噴流の拡散促進効果の実証	500						
			土木工学科・教授	土木工学科	教授	岡林 巧								
			技術室・技術専門職員	技術室	技術専門職員	木原 正人								
一般教育科	教授	大竹 幸明	土木工学科・教授	土木工学科	教授	岡林 巧	竹炭等の自然物を利用した河川等の水質環境の改善	500						
			一般教育科・教授	一般教育科	教授	赤澤 正治								
			電気電子工学科・教授	電気電子工学科	教授	須田 隆夫								
			情報工学科・助教授	情報工学科	助教授	芝 浩二郎								
			情報工学科・助教授	情報工学科	助教授	堂込 一秀								
機械工学科	教授	池田 英幸	情報工学科・助教授	情報工学科	助教授	堂込 一秀	核島斜面の浸食崩壊に関するフラクタル解析および分子動力学計算機実験による解明	1,000						
			情報工学科・助教授	情報工学科	助教授	塚本 公秀								
			機械工学科・助教授	機械工学科	助教授	山田 孝行								
			技術室・技術職員	技術室	技術職員	山田 孝行								
			技術室・技術職員	技術室	技術職員	山田 孝行								
計		8件						4,000						
教育研究(共同) 申請なし														
平成17年度校内研究助成金 採択一覧														
科学研究(共同)														
研究代表者			研究分担者											
学科	職名	氏名	学科・職名	学科	職名	氏名	研究題目	助成額						
電気電子工学科	教授	本部 光幸	電子制御工学科・助教授	電子制御工学科	助教授	菅原 光宏	HEV/FCHEV駆動用昇圧チョップレギュレータ・モータシステム	不採択						
			電気電子工学科・教授	電気電子工学科	教授	小暮 晴美								
			電気電子工学科・講師	電気電子工学科	講師	今村 成明								
			電気電子工学科・助手	電気電子工学科	助手	櫻根 健史								
機械工学科	講師	山田 隆明	電気電子工学科・講師	電気電子工学科	講師	今村 成明	林業用枝打ちロボットに関する研究	500						
			土木工学科・教授	土木工学科	教授	岡林 巧								
一般教育科	教授	大竹 幸明	技術室・技術専門職員	技術室	技術専門職員	木原 正人	竹炭等の自然物を利用した河川等の水質環境の改善	500						
			土木工学科・教授	土木工学科	教授	岡林 巧								
			一般教育科・教授	一般教育科	教授	赤澤 正治								
			電気電子工学科・教授	電気電子工学科	教授	須田 隆夫								
			情報工学科・助教授	情報工学科	助教授	芝 浩二郎								
機械工学科	教授	池田 英幸	情報工学科・助教授	情報工学科	助教授	堂込 一秀	核島斜面の浸食崩壊に関するフラクタル解析および分子動力学計算機実験による解明	500						
			情報工学科・助教授	情報工学科	助教授	塚本 公秀								
			機械工学科・助教授	機械工学科	助教授	山田 孝行								
			技術室・技術職員	技術室	技術職員	山田 孝行								
			技術室・技術職員	技術室	技術職員	山田 孝行								
土木工学科	助教授	前野 祐二	一般教育科・講師	一般教育科	講師	三原 めぐみ	都市ごみ焼却灰の5mmふるい通過物を原料とした廉価で安全な高強度固化材の開発	600						
			機械工学科・助教授	機械工学科	助教授	田畑 隆英								
機械工学科	教授	中島 正弘	電気電子工学科・助教授	電気電子工学科	助教授	小迫 雅裕	円管群を周囲に配置した噴流拡散の方向制御	500						
			機械工学科・講師	機械工学科	講師	山田 隆明								
			電子制御工学科・教授	電子制御工学科	教授	河野 良弘								
電子制御工学科	助手	吉満 真一	電子制御工学科・助教授	電子制御工学科	助教授	植村 真一郎	CCD画像による小径エンドミルの挙動監視とインプロセス制御	380						
			電子制御工学科・助教授	電子制御工学科	助教授	山下 俊一								
			技術室・技術専門職員	技術室	技術専門職員	山下 俊一								
技術室	技術専門員	松元 悦郎	技術室	技術室	全員		フシントン椰子の枝払い機の開発	600						
計		8件(継続4件、新規4件)							3,580					
教育研究(共同)														
研究代表者			研究分担者											
学科	職名	氏名	学科・職名	学科	職名	氏名	研究題目	助成額						
電子制御工学科	教授	原田 治行	電子制御工学科・助教授	電子制御工学科	助教授	植村 真一郎	高専の電子制御工学科における「創造教育」の授業改革に向けたトータル・アプローチ計画	300						
			電子制御工学科・講師	電子制御工学科	講師	鎌田 清孝								
			電子制御工学科・助手	電子制御工学科	助手	吉満 真一								
			技術室・技術職員	技術室	技術職員	上坪 司								
電子制御工学科	講師	鎌田 清孝	電子制御工学科・教授	電子制御工学科	教授	坪井 克剛	電子制御工学科における制御工学実験の改善	200						
計		2件(継続0件、新規2件)						500						

(出典：総務課資料)

鹿児島工業高等専門学校研究報告		
第40号 2005		
目次		
シミュレーターを用いた生産管理学習でゲーム的要素を持ち込んだ講義の展開 塚本公秀	1~4	
垂直スロット内を流れる自然対流の流動と伝熱 三角利之	5~8	
全電界成分分離非線形フィルタによる回折トモグラフィの再構成アルゴリズム 原田治行	9~12	
ExcelとPowerPointを活用した学習支援システム 椋園茂、境田小百合、脇部政利	13~18	
トラス橋の車両走行応答特性の検討 山下良純、内谷保	19~23	
桜島土石流流出火山灰の三輪せん断特性 岡林巧、宮田俊哉、兵動正幸、荒牧憲隆	25~30	
土石流の検知警報システムに関する研究 橋口孝行、足田誠	31~40	
地域総合型スポーツクラブが高等学生に及ぼす教育効果 北園裕一	41~44	

(出典：鹿児島工業高等専門学校研究報告40号 目次)




(出典：ウェブページ)



資料A-1-①-6

**研究シーズ集**



平成 18 年 2 月

独立行政法人 国立高等専門学校機構  
鹿児島工業高等専門学校  
<http://www.kagoshima-ct.ac.jp/>

(出典：研究シーズ集)

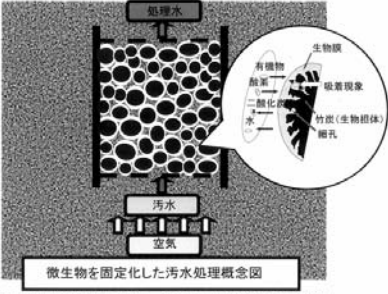
資料A-1-①-6 続き

**技術シーズ 竹炭等の自然物を利用した河川等の水質浄化**

**研究概要**

目的：環境問題が注目される中、地球温暖化の問題など地球規模にまで拡大していますが、河川等の水質汚染などまだまだ地域に限定した環境問題が数多く残っています。これらの問題を解決するため、下のようなテーマについて現在主に取り組んでいます。

鹿児島島の地場産業である竹炭は、多孔質であり、木炭などに比べても比表面積が大きく、ろ過機能や吸着能力に優れています。本研究では、竹炭に生物膜を付着させ、この付着微生物の基礎的な浄化処理能力を調べ、さらに実際の河川に適用してその処理性能を検討中です。



**微生物を固定化した汚水処理概念図**

**企業メリット** ・自然にやさしい水処理設備の構築 ・竹炭などの地域資源の有効活用  
・地場産業の活性化 ・地域経済の推進


**キーワード** 水処理、竹炭、微生物、自然物、河川

**主要な研究テーマ** ・竹炭等の自然物を利用した河川等の水質浄化  
・都市ごみ焼却灰中の重金属元素の有効利用  
・シラスおよび火山灰を用いた水質浄化材等の開発

**技術種別に応じられる分野**  
化学工学・反応工学・環境工学

**利用可能な装置等**  
CODメーター・マルチ水質モニター・DOメーター  
レーザー回折粒度分布測定装置・原子吸光分光分析器

所属学科 一般教育科理系(化学)  
職名 教授 大竹 秀明 Ohtake Takashi  
TEL (0995) 42-9056 FAX (0995) 42-9056  
E-mail ohtake@kagoshima-ct.ac.jp  
所属学会 化学工学会、日本溶媒抽出学会、南九州化学工学懇話会  
研究分野(専門分野) 化学工学、反応工学、環境工学



(出典：研究シーズ集 42頁)

(分析結果とその根拠理由)

本校での研究体制は、各科を基本としており、科内で関連する専門分野の教員が、共同研究や情報交換を行っているほか、個々の教員が単独又は他の機関の研究者とも共同研究を行っている。さらに、各科を横断して共同研究が行われる場合もある。

研究支援体制としては、校長裁量経費による校内研究助成制度が設けられている。共同研究・受託研究あるいは奨学寄付金等の助成の受け入れを推進するために、地域共同テクノセンターが、本校教員の研究シーズと企業のニーズとのマッチングを図る活動を行っている。この他に、研究・知財委員会による研究報告の編集・出版、研究者総覧システムによる研究業績等の公開が行われている。



**観点A-1-②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。**

(観点に係る状況)

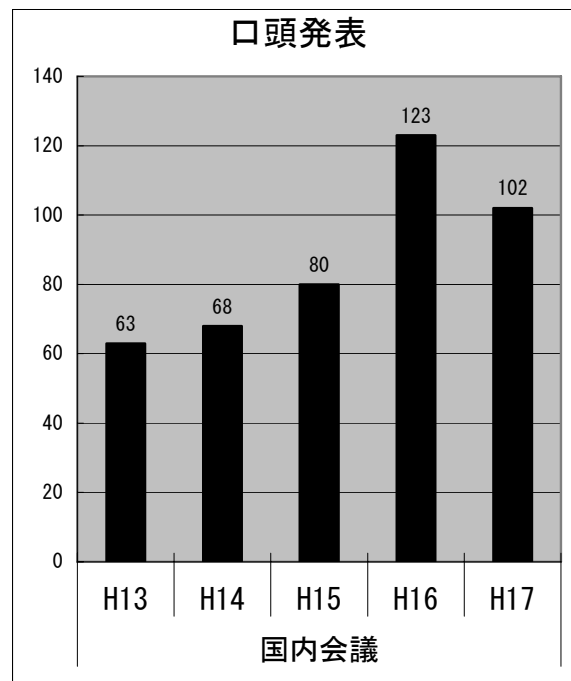
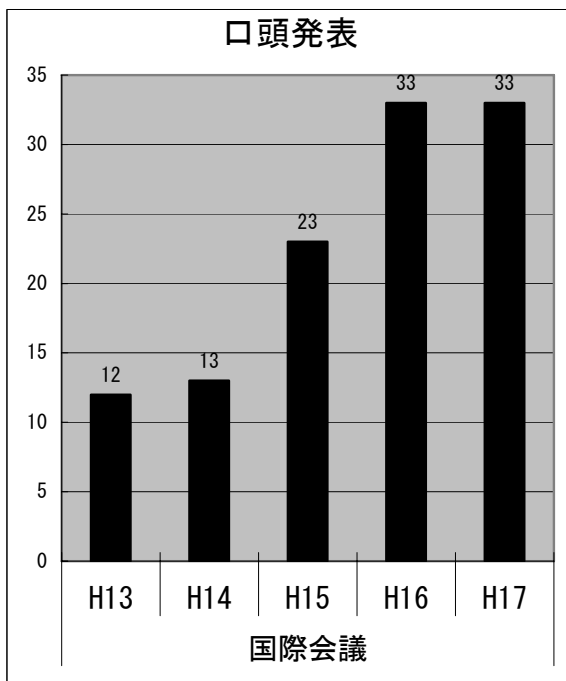
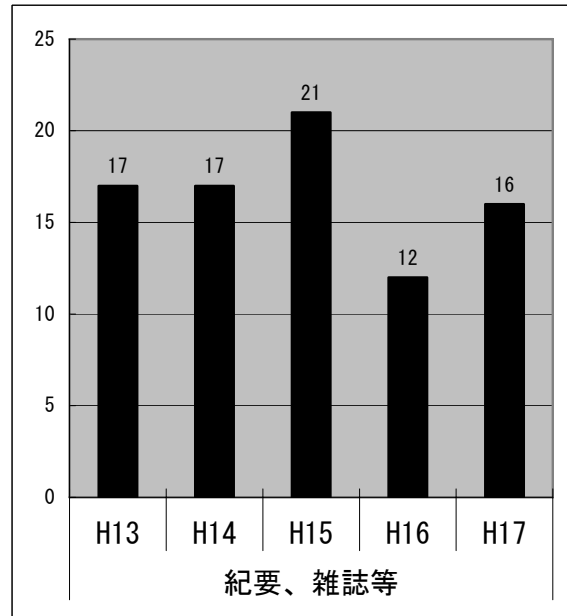
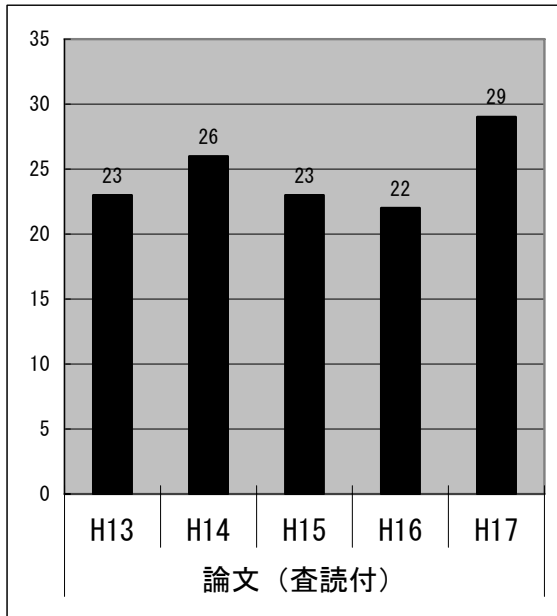
教員の「教育・研究活動の高度化・活性化」は、各教員の査読付論文、国際会議プロシーディングス、口頭発表、紀要・雑誌等への掲載論文の数で評価できる(資料A-1-②-1)。査読付論文数に大きな変化はないが、国際会議での発表件数は顕著な増加を示しており、研究の高度化・活性化が図られている。これらの研究活動の取り組みが評価されて、科学研究費補助金の獲得に繋がっている(資料A-1-②-2)。さらに、これらの教育研究成果は、教員の著書(資料A-1-②-3)や教材、及び本科の卒業研究及び専攻科の特別研究にも反映されている(資料A-1-②-4)。また、研究成果は講義にも活用され、最新の技術情報が学生教育に役立てられている。

「地域との交流を推進し、教育・研究成果を地域に還元する」ことに関しては、地域共同テクノセンターを中心として、地域企業への技術相談や技術支援、共同研究、受託研究等の推進が図られている。その成果として、技術相談及び共同研究等への積極的な取り組みが行われ、外部資金を受け入れている(資料A-1-②-5～7)。

**観点A-1-②資料一覧**

(資料A-1-②-1) 研究業績(公表論文発表者)	出典：地域共同テクノセンター資料
(資料A-1-②-2) 科学研究費補助金採択一覧	出典：総務課資料
(資料A-1-②-3) 本校教員が執筆した教科書、書籍一覧	出典：学生課資料
(資料A-1-②-4) 学生の学会発表	出典：学生課資料
(資料A-1-②-5) 共同研究実績一覧	出典：総務課資料
(資料A-1-②-6) 受託研究 受託事業実績一覧	出典：総務課資料
(資料A-1-②-7) 寄附金受入状況	出典：総務課資料

研究業績（公表論文発表者数）



（出典：地域共同テクノセンター資料）

資料A-1-②-2

## 科学研究費補助金採択一覧

年度	研究種目	研究題目	研究代表者	金額(千円)	小計(千円)
15	基盤研究(C)(2) (継続)	傾斜切断面をもつ回転円管から流出する噴流のウェーブレット多重解像度解析	中島 正弘	700	6,000
	基盤研究(C)(2) (継続)	しらす斜面の地震崩壊に及ぼす原位置における雨水の不飽和浸透特性に関する研究	岡林 巧	600	
	基盤研究(C)(2) (継続)	ゴミ焼却灰中の重金属元素(アンチモンなど)の有効利用	前田 滋	1,300	
	基盤研究(C)(2)	旋回水噴流を用いた火山灰除去用ロードスウィーパの開発	内谷 保	1,900	
	基盤研究(C)(2)	地盤振動を利用した土石流警報ロボットに関する研究	疋田 誠	1,500	
	若手研究(B)	焼酎蒸留粕で作製した高付加価値エコポットの土壌中における窒素の動態解析と分解特性	山内 正仁	1,700	1,700
	計	6件	6名	7,700	1,700
16	基盤研究(C)(2) (継続)	傾斜切断面をもつ回転円管から流出する噴流のウェーブレット多重解像度解析	中島 正弘	900	2,800
	基盤研究(C)(2) (継続)	地盤振動を利用した土石流警報ロボットに関する研究	疋田 誠	1,200	
	基盤研究(C)(2) (継続)	旋回水噴流を用いた火山灰除去用ロードスウィーパの開発	内谷 保	700	
	若手研究(B) (継続)	焼酎蒸留粕で作製した高付加価値エコポットの土壌中における窒素の動態解析と分解特性	山内 正仁	1,100	2,100
	若手研究(B)	海上衝突事件における国際民事裁判管轄に関する研究	松田 忠大	1,000	
	奨励研究	公開講座「お母さんのものづくり教室・燭台づくり」の実践	皆元 一徳	290	
	奨励研究	焼酎粕を主原料としたエコ資材作製過程で生じる廃液の性状と微生物分解特性	木原 正人	740	
計	7件	7名	5,930	5,930	
17	基盤研究(C) (継続)	地盤振動を利用した土石流警報ロボットに関する研究	疋田 誠	600	5,800
	基盤研究(C) (継続)	旋回水噴流を用いた火山灰除去用ロードスウィーパの開発	内谷 保	1,000	
	基盤研究(C)	人口筋肉をノズル部に用いた噴流拡散のフィードバック制御	中島 正弘	1,900	
	基盤研究(C)	竹炭等の自然物を利用した河川等の水質環境の改善	大竹 孝明	2,300	
	若手研究(B) (継続)	焼酎蒸留粕で作製した高付加価値エコポットの土壌中における窒素の動態解析と分解特性	山内 正仁	700	4,000
	若手研究(B) (継続)	海上衝突事件における国際民事裁判管轄に関する研究	松田 忠大	700	
	若手研究(B)	高熱伝導・電気絶縁性のポリマーナノコンポジットの創製と適用評価	小迫 雅裕	2,600	
	奨励研究	地域貢献を目指した「お母さんのものづくりクラブ」の立ち上げと講座の定期開催	皆元 一徳	270	1,030
	奨励研究	ワシントン椰子の枝払いロボットの開発	松元 悦郎	760	
計	9件	9名	10,830	10,830	

(出典：総務課資料)

資料A-1-②-3

## 本校教員が執筆した教科書、書籍一覧

著者	平田 登基男・(2002.3.20)(共著者:梶木 武、横田 漢、堤 昌文、天本 徳治)
題名	エース土木工学シリーズ エース交通工学
出版社	朝倉書店
著者	堤 隆・2005年
題名	環境・都市システム系教科書シリーズ11測量学 I
出版社	コロナ社
著者	山口純一、家村道雄、中村格 ・ 1999年
題名	送配電の基礎
出版社	森北出版
著者	江崎秀司・2001年
題名	一年間で学ぶ「熱力学の基礎」
出版社	工房糸車
著者	幸田晃 2005年
題名	パソコンで学ぶ言語聴覚士・高専学生のための音響・音声工学入門
出版社	斯文堂
	<a href="http://www.geocities.jp/koudaflute/onkyouonnsei.htm">http://www.geocities.jp/koudaflute/onkyouonnsei.htm</a>

(出典：学生課資料)

## 学生の学会発表(本科生)

学会名	会場	開催日	学科・専攻科名	氏名	テーマ	指導教員
土木学会西部支部発表会	西日本工業大学 (福岡県京都郡)	H15.3.8	土木工学科5年		シラス土壌を用いた発芽試験に関する研究	前野 祐二
					エコボット量産化装置の開発に関する基礎的研究	前野 祐二
					桜島火山灰の繰返し単純せん断特性	前野 祐二
					水搬送しらずで埋立てられた地盤の三軸せん断特性	前野 祐二
					桜島火山灰の単調単純せん断特性	前野 祐二
					有機系廃棄物を生育基盤材として用いた樹木の引抜き強度特性	前野 祐二
九州学生会 第34回学生会卒業研究発表会	琉球大学工学部 (沖縄県中頭郡)	H15.3.11	機械工学科5年		傾斜回転切断面をもつ円管から流出する噴流	中島 正弘 田畑 隆英
2003年度精密工学会九州支部主催「大分地方学術講演会」第4回学生研究発表会	大分大学	H15.11.15	電子制御工学科5年		CAEを用いたマイクロマシン用センサに関する研究	島名 賢児 吉丸 日出紀
			電子制御工学科5年		工具画像に及ぼす諸因子の影響	島名 賢児 吉丸 日出紀
			機械工学科5年		共削り加工の切削機構に関する研究	島名 賢児 吉丸 日出紀
第6回化学工学会学生発表会	九州大学	H16.3.6	機械工学科5年		水素吸蔵合金を用いた水道水の冷却特性	江崎 秀司
平成15年度土木学会西武研究発表会	日本文理大学	H16.3.6	土木工学科5年		ハイプラスチックベレットの土木材料への有効利用	前野 祐二
					エコ石灰セメントの長期強度特性	前野 祐二
					セメントを添加したエコ石灰セメントの強度特性	前野 祐二
					細骨材における軽石の影響	池田 正利
					土石流検知警報システムの開発	疋田 誠
					渓谷河川における土石流シミュレーション実験	疋田 誠
					焼酎粕で作製したエコボットの量産化稼働条件の検討	山内 正仁
					パイロットスケール高温UASBリアクターによる麦、甘藷焼酎蒸留粕廃液の処理特性	山内 正仁
					第35回学生会卒業研究発表講演会	九州大学
噴流の拡散制御に関する研究	田畑 隆英					
H16.3.19	NiTi/ポリエステル形状記憶合金複合材料の引張試験に関する研究	持原 稔				
	傾斜切断面を持つ円管群から流出する噴流	中島 正弘				
2004年度精密工学会九州支部主催「宮崎地方学術講演会」第5回学生	ウェルシティ宮崎	H16.12.2	電子制御工学科5年		CCD画像による小径エンドミルの工具挙動	河野 良弘
			電子制御工学科5年		監視制御システム開発ツールによるCNC監視技術の研究	吉満 真一
平成16年度土木学会西部支部研究発表会	九州大学箱崎キャンパス (福岡市)	H17.3.5	土木工学科5年		鹿兒島市防災都市造りへの桜島降灰の影響	平田 登基男
			土木工学科5年		土石流検知警報システムの開発・第2報	疋田 誠
			土木工学科5年		シラスプラスチックベレットの有効利用	前野 祐二
			土木工学科5年		エコ石灰セメントの強度特性について	前野 祐二
			土木工学科5年		桜島における流下土砂の細骨材への有効利用	池田 正利 原口 誠夫
			土木工学科5年		大規模小売店舗における車両の駐車時間調査	平田 登基男
第7回化学工学会学生会発表会研究発表講演要旨集	同志社大学 (京都市)	H17.3.5	機械工学科5年		管群における急収縮損失特性	江崎 秀司
日本機械学会九州学生会第36回学生会卒業研究発表講演会	長崎大学総合教育研究棟 (長崎市)	H17.3.16	機械工学科5年		熱交換器の変流量特性	江崎 秀司
			機械工学科5年		急収縮流れ場の流動特性	江崎 秀司
			機械工学科5年		柔らかいフィンをもつ円管から流出する噴流	中島 正弘 田畑 隆英
			機械工学科5年		物質拡散を伴う鉛直上向噴流	田畑 隆英 中島 正弘
電気関係学会九州支部連合大会	福岡工業大学 (福岡市)	H17.9.30	電気情報システム工学専攻1年		新コイルを用いた磁気刺激における刺激部位の制御	山田 一二 玉利 陽三
					永久磁石同期電動機のトルク制御精度-電流センサ誤差の影響-	本部 光幸
					永久磁石同期電動機のトルク制御精度-位置センサ誤差の影響-	本部 光幸
2005年度精密工学会九州支部鹿兒島地方講演会第6回学生研究発表会	本校 (霧島市)	H17.11.12	機械工学科5年		共削り穴加工における加工面品位に関する研究	引地 力男
			機械工学科5年		管内走行ロボットのメカニズムに関する研究	引地 力男
			電子制御工学科5年		Windowsアプリケーションを用いたCNC監視技術の研究	河野 良弘
			電子制御工学科5年		Windowsアプリケーションを用いたCNC監視技術の研究	吉満 真一

(出典：学生課資料)

## 資料A-1-②-4 続き

## 学生の学会発表(専攻科生)

学会名	会場	開催日	学科・専攻科名	氏名	テーマ	指導教員	
火の国情報シンポジウム2003	宮崎大学	H15.3.7	専攻科電気情報システム工学専攻2年		「コンテキストベース適応型ロスレス画像符号化CALICの考察」	加治佐 清光	
土木学会西部支部発表会	西日本工業大学 (福岡県京都郡)	H15.3.8	専攻科土木工学専攻1年		パイプアーチで補強された多径間高架橋走行車両応答特性の検討	前野 祐二	
		H15.3.8	専攻科土木工学専攻2年		都市ごみ焼却灰の化学特性と固化への検討	前野 祐二	
					焼酎蒸留粕で作成したエコポットの土壌分解特性	前野 祐二	
九州学生会 第34回学生員卒業研究発表会	琉球大学工学部 (沖縄県中頭郡)	H15.3.11	専攻科機械・電子システム工学専攻2年		交互流回転円盤法の付着生物膜と脱離法に関する研究	前野 祐二	
					内面が加熱された垂直円管内自然対流の流動と伝熱	江崎 秀司	
					動的エリクセン試験に関する研究	江崎 秀司	
					管路における急収縮損失特性	江崎 秀司	
平成15年電気学会産業応用部門大会(ヤングエンジニアポスターコンペティ)	東京工科大学	H15.8.26	機械・電子システム工学専攻2年 電気情報システム工学専攻2年		多体ポテンシャルによる鉄中の空孔と溶質原子間の相互作用	江崎 秀司	
					シミュレータを用いた誘導電導機駆動システム解析の応用	室屋 光宏	
第19回ファジィシステムシンポジウム	大阪府立大学	H15.9.8~9.9	専攻科機械・電子システム工学専攻1年		水銀ランプ電子式定電力形点灯回路の解析	中村 格	
					遺伝的アルゴリズムを用いたマルチエージェントシステムの構築: 移動目標物捕獲問題への応用	岸田 一也	
第11回電子情報通信学会九州支部学生会講演会	崇城大学	H15.9.25	専攻科機械・電子システム工学専攻2年		桜島火山爆発に伴う電磁気現象の測定と解析に関する研究	岸田 一也 宮田 千加良 原田 治行 加治佐 清光	
					専攻科機械・電子システム工学専攻2年	M系列相関とニューラルネットワークを用いた論理ボードの故障修復に関する研究	岸田 一也 宮田 千加良 原田 治行 加治佐 清光
					専攻科機械・電子システム工学専攻2年	離散コサイン変換を用いた画像復元に関する研究	岸田 一也 宮田 千加良 原田 治行 加治佐 清光
					専攻科電気情報システム工学専攻2年	ウェーブレット変換を用いた画像への情報埋め込みに関する考察	岸田 一也 宮田 千加良 原田 治行 加治佐 清光
					専攻科電気情報システム工学専攻2年	画像可逆圧縮における基礎的手法の考察	岸田 一也 宮田 千加良 原田 治行 加治佐 清光
2003年度精密工学会九州支部主催「大分地方学術講演会」第4回学生研究発表会	大分大学	H15.11.15	専攻科機械・電子システム工学専攻2年		回転工具の実撮影位置に関する研究	島名 賢児 吉丸 日出紀	
平成15年度 第2回電子情報系高専フォーラム	熊本電波工業高等専門学校	H15.11.15	専攻科電気情報システム工学専攻2年 専攻科電気情報システム工学専攻2年 専攻科電気情報システム工学専攻2年		手書き文字認識における歪み修正手法の検討	榎園 茂 三重野 保男	
					ニューラルネットワークによる経済指標の予測	榎園 茂 三重野 保男	
					遮光葉面の電位変動とその伝達状況について	榎園 茂 三重野 保男	
日本生物環境調節学会九州支部第2回集会	ホテル グランメール長崎	H15.11.29	専攻科電気情報システム工学専攻2年		遮光葉面の電位変動とその伝達状況について	三重野 保男	
平成15年度 応用物理学会九州支部学術講演会	ハウステンボス	H15.12.6	専攻科電気情報システム工学専攻2年		赤血球の電気泳動へヘモグロビン酸素飽和度が及ぼす影響	須田 隆夫	
第9回高専シンポジウム	有明工業高等専門学校	H16.1.17	機械・電子システム工学専攻1年		水素吸蔵合金を用いた水道水冷却装置の開発	江崎 秀司	
日本機械学会2004年度年次大会	札幌市	H16.9.6	機械電子システム工学専攻2年		傾斜切断面をもつ円管群から流出する噴流	中島 正弘 田畑 隆英 椎 保幸	
					噴流の拡散制御に関する研究(ウェーブレット解析による検討)	中島 正弘 田畑 隆英 椎 保幸	

(出典: 学生課資料)

資料A-1-②-4 続き

学会名	会場	開催日	学科・専攻科名	氏名	テーマ	指導教員
平成16年度電気学会産業応用部門大会	サンポートホール高松	H16.9.14	機械・電子システム工学専攻2年		チョッパレスインバータシステムに関する研究	室屋 光宏
電気関係学会九州支部連合大会	鹿児島大学(鹿児島市)	H16.9.27~9.28	電気情報システム工学専攻2年		高圧水銀ランプ点灯回路における可飽和リアクトルのインピーダンスについての一考察	中村 格
					伝搬速度を考慮した漏水音検知	幸田 晃
					繰り返し光照射による葉面電位変化の考察	加治佐 清光 三重野 保男
					JPEG-LS のニアロスレス符号化の考察	加治佐 清光
					MOSTランジスタの高速化(その2)	山田 一二
					MOSTランジスタの高速化(その3)	山田 一二
			電気情報システム工学専攻1年		MOSTランジスタの高速化(その1)	山田 一二
日本音響学会2004年秋季研究発表会	琉球大学	H16.9.29	電気情報システム工学専攻2年		無響室内シミュレーションによる漏水音検知	幸田 晃
平成16年度 第3回電子情報系高専フォーラム	熊本電波工業高等専門学校	H16.11.13	電気情報システム工学専攻2年		静止画像の可逆符号化高速化に関する考察	加治佐 清光
					ニューラルネットワークのモジュール化について	加治佐 清光
第82期日本機械学会流体工学部門講演会	北九州学術研究都市	H16.11.25~11.26	機械・電子システム工学専攻1年		物質拡散を伴う鉛直上向噴流	田畑 隆英 中島 正弘
					機械・電子システム工学専攻2年	中島 正弘 田畑 隆英 椎 保幸
応用物理学会九州支部大会	琉球大学	H16.11.27~11.28	電気情報システム工学専攻2年		AFMIによる赤血球細胞膜の局所粘弾性測定	須田 隆夫
					桜島土石流流出火山灰の三軸せん断特性	岡林 巧
					土木工学専攻1年	
平成16年度土木学会西部支部研究発表会	九州大学箱崎キャンパス(福岡市)	H17.3.5	土木工学専攻1年		トラス橋の車両走行応答特性の検討	内谷 保
					土木工学専攻1年	
					土木工学専攻1年	山内 正仁
日本機械学会九州支部第58期総会・講演会	九州産業大学(福岡市)	H17.3.11	機械・電子システム工学専攻2年		平行におかれた2円管から流出する噴流	中島 正弘 田畑 隆英
					円筒型サイクロン分離器内の流動特性(入口流速の影響)	椎 保幸
第39回日本水環境学会年会	千葉大学(千葉市)	H17.3.18	土木工学専攻1年		実規模多段型高温UASBリアクターによる焼酎蒸留粕廃液の連続処理特性	山内 正仁
日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2005	神戸国際展示場	H17.6.9~6.11	機械・電子システム工学専攻1年		ロボットによる林業用枝打ちシステムに関する研究(ロボット用ユニットの試作)	山田 隆明
平成17年電気学会産業応用部門大会	福井大学	H17.8.29	機械・電子システム工学専攻2年		表計算ソフトによる電導機駆動シミュレーションの応用	室屋 光宏
					アクティブフィルタの各種補償電流指令値検出方式の特性比較	坪井 克剛
化学工学会第37回秋季大会	岡山大学(岡山市)	2005.9.15~9.17	機械・電子システム工学専攻2年		急収縮流れ場における流動特性	江崎 秀司
The 3rd International Structural Engineering and Construction Conference (ISEC-03)	徳山大学(山口県周南市)	H17.9.22	土木工学専攻1年		Improvement of buried rosette gage for measurement strain due to autogeneous shrinkage of cement paste	堤 隆
					Measurement strain due to autogeneous shrinkage of cement paste	堤 隆
日本音響学会[2005年秋季研究発表会]	東北大学(仙台市)	2005.9.27~9.29	電気情報システム工学専攻2年		スペクトルサブトラクション係数の理論的導入	幸田 晃
第13回電子情報通信学会九州支部学生会講演会	福岡工業大学(福岡市)	H17.9.28	機械・電子システム工学専攻2年		自動車の移動に起因する磁気雑音の予測手法に関する研究	岸田 一也 鎌田 清孝
日本機械学会大分地方講演会	大分大学工学部(大分市)	H17.10.15~10.17	機械・電子システム工学専攻2年		M変換を用いたノイズ除去に関する研究	富田 千加良
					衝撃水圧を用いた深絞り加工の研究	南金山 裕弘
					物流拡散を伴う鉛直上向噴流(流れの可視化による検討)	田畑 隆英 中島 正弘
					物流拡散を伴う鉛直上向噴流(PIV解析による検討)	田畑 隆英 中島 正弘
					平行におかれた2円管から流出する脈動噴流	中島 正弘 田畑 隆英
					柔らかいフィンをもつ円管から流出する噴流	中島 正弘 田畑 隆英
					はばたき機の基礎研究(つばさの試作)	持原 稔
					衝撃水圧を用いた深絞り加工の基礎研究	南金山 裕弘 持原 稔
					確率概念を用いた重ね合わせ法による手書き文字確認	榎園 茂
					ストローク特徴を用いた手書き文字認識	榎園 茂

(出典：学生課資料)



資料A-1-②-5

共同研究 実績一覧				
年度	研究 題 目	氏 名	相 手 方	金 額
15		土木工学科 助手 池田 正利		
15		土木工学科 教授 西留 清		
15		電子制御工学科 教授 河野 良弘		
15		土木工学科 助教授 前野 祐二		
15		機械工学科 教授 江崎 秀司		
		計	5	4,700,000
16		土木工学科 助手 池田 正利		
16		土木工学科 教授 西留 清		
16		機械工学科 教授 江崎 秀司		
16		土木工学科 助教授 山内 正仁		
16		土木工学科 助教授 山内 正仁		
16		土木工学科 助教授 前野 祐二		
16		土木工学科 教授 西留 清		
16		機械工学科 教授 三角 利之		
		計	8	7,800,000
17		土木工学科助教授 助教授 山内 正仁		
17		土木工学科教授 教授 西留 清		
17		機械工学科 教授 江崎 秀司		
17		電子制御工学科 教授 植村真一郎		
17		土木工学科 助教授 前野 祐二		
		計	5	5,800,000

(出典：総務課資料)

資料A-1-②-6

受託研究 実績一覧				
年度	研究 題 目	氏 名	相 手 方	金 額
15		土木工学科 助教授 山内 正仁		
		計	1	4,221,000
16		土木工学科 助手 池田 正利		
16		土木工学科 助手 池田 正利		
		計	2	2,000,000
17		土木工学科 助手 池田 正利		
17		土木工学 助教授 山内 正仁		
		計	2	8,100,000
受託事業 実績一覧				
※平成16年度以前は実績なし				
年度	研究 題 目	氏 名	相 手 方	金 額
17				
		計	1	5,436,900

(出典：総務課資料)

資料A-1-②-7

		寄附金受入状況		単位：千円	
年度	No	寄附金の名称	研究者等名	寄附者	金額
15	1		引地 力男		
	2		山田 隆明		
	3		池田 正利		
	4		原田 治行		
	5		原口 誠夫		
	6		中島正弘		
	7		引地 力男		
	8		—		
	9		山内 正仁		
	10		引地 力男		
	11		—		
	12		幸田 晃		
	13		島名 賢児		
	14		河野 良弘		
	15		池田 正利		
	16		池田 正利		
	17		鎌田 清孝		
	18		—		
	19		—		
	20		中島 正弘		
平成15年度計				242	13,930
16	1		----		
	2		中島 正弘		
	3		----		
	4		西留 清		
	5		山内 正仁		
	6		技術室		
	7		池田 正利		
	8		原口 誠夫		
	9		引地 力男		
	10		引地 力男		
	11		引地 力男		
	12		山内 正仁		
	13		三角 利之		
	14		山内 正仁		
	15		引地 力男		
	16		鎌田 清孝		
	17		河野 良弘		
	18		----		
	19		----		
	20		----		
	21		----		
平成16年度計				21	11,364
17	1		西留 清		
	2		西留 清		
	3		疋田 誠		
	4		三角 利之		
	5		小迫 雅裕		
	6		皆元 一徳		
	7		引地 力男		
	8		----		
	9		前野 祐二		
	10		中島 正弘		
	11		引地 力男		
	12		----		
	13		皆元 一徳		
	14		植村真一郎		
	15		引地 力男		
	16		池田(正)		
	17		鎌田清孝		
	18		池田(正)		
	19		引地 力男		
	20		----		
	21		池田(正)		
	22		皆元 一徳		
	23		----		
	24		持原 稔		
	25		----		
	26		前野 祐二		
	27		----		
平成17年度計				27	12,885

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

教員の「教育・研究活動の高度化・活性化」については、各教員の査読付論文、国際会議プロシーディングス、口頭発表、紀要・雑誌等への掲載論文の数より、国際会議での発表者数は顕著な増加を示していることから成果が上がっていることがわかる。また、これらの教育研究成果は、学生教育にも役立てられている。

「地域との交流を推進し、教育・研究成果を地域に還元する」ことに関しては、地域共同テクノセンターを中心として、地域企業への技術相談や技術支援、共同研究、受託研究の推進が図られ、その成果として、技術相談及び共同研究への積極的な取り組みが行われ、外部資金を受け入れていることから、その成果が上がっていると判断される。

**A-1-③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。**

(観点に係る状況)

研究活動の実態に関しては、研究・知財委員会が研究報告の編集及び研究者総覧システムの運用を通して、把握している。それらの研究実績をまとめ、自己点検・評価委員会で自己点検し、その結果に基づき外部評価委員会で評価・提言を受けている。

また、地域共同テクノセンターの共同研究部門及び研究促進部門が「地域との交流を推進し、教育・研究成果を地域に還元する」という目的に沿った研究活動の実施状況等を把握している(資料A-1-③-1)。

本校では、研究・知財委員会(旧研究促進委員会)が平成15年度に研究実績の評価を行い、これまで研究成果の公表が任意であった点を改善し、校内研究助成の採択者に研究成果の公表を義務づけている(資料A-1-①-2参照)。

これらのことから、研究・知財委員会が研究活動の実態を把握し、評価すると共に、その結果を踏まえて改善を行う体制が整備され、機能している。

**観点A-1-③資料一覧**

(資料A-1-③-1) 地域共同テクノセンタースタッフ 出典：地域共同テクノセンターパンフレット

## 地域共同テクノセンタースタッフ

地域共同テクノセンター長（併任）

一般教育科 教授 大竹孝明  
地域共同テクノセンターの総括

地域共同テクノセンター副センター長（併任）

機械工学科 助教授 引地力男  
地域共同テクノセンター長の補佐

地域交流部門長（併任）

電子制御工学科 助教授 鎌田清孝  
地域企業と鹿児島高専との産学協同の推進、地域企業相互と、鹿児島高専および行政機関等を含めた情報交換、科学技術、環境問題やリフレッシュ教育講座などに関する講演会や公開講座の開催

共同研究部門長（併任）

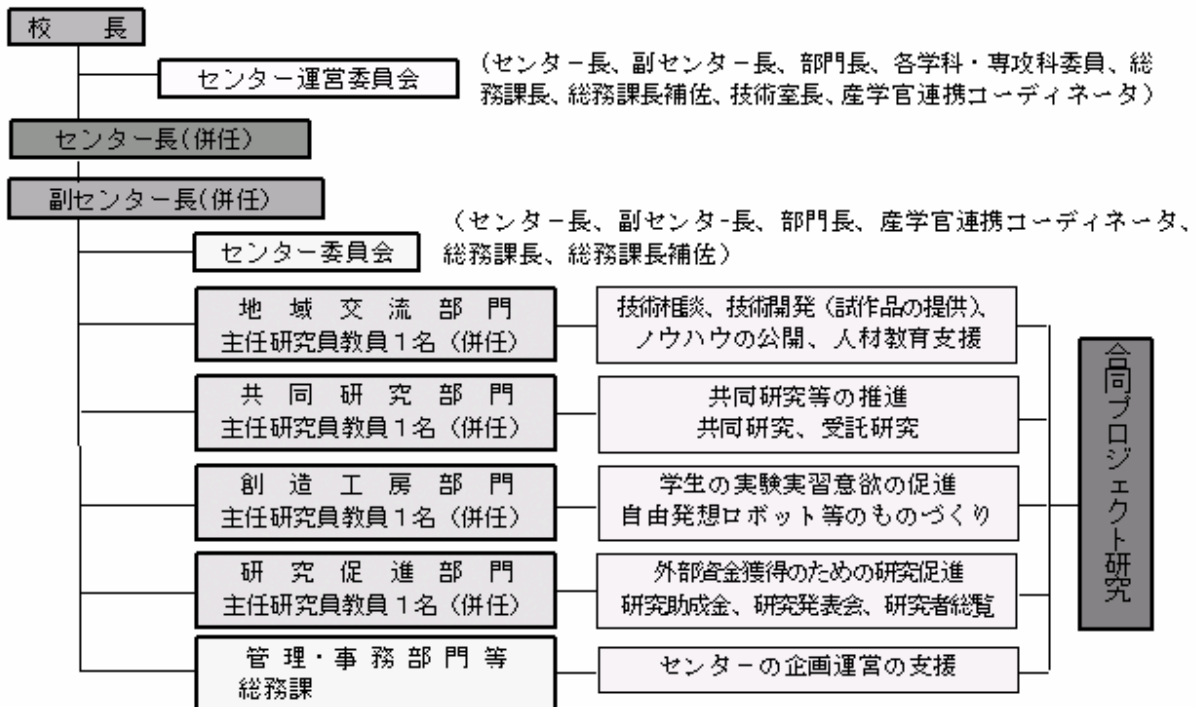
電気電子工学科 教授 本部光幸  
学際的なグループ研究やプロジェクト研究の推進、センターを利用した研究活動の効率化・迅速化、学生の高度な先端技術の習得と創造的な技術能力を育成、地域企業の技術相談、ソフトプラザ鹿児島の維持管理

創造工房部門長（併任）

機械工学科 助教授 引地力男  
創造教育および先進技術に関するソフトの開発、センターにおけるデスクワークとフィールドワークの融合教育、学生の実験実習意欲の促進、自由発想ロボットの開発および技術支援、受託試験の実施、地域共同テクノセンターの維持管理

研究促進部門長（併任）

電気電子工学科 助教授 中村 格  
共同研究部門長とともに、学内外の研究活動の活性・促進のために、科学研究費補助金等の外部資金による研究助成金の獲得件数の増進をはかるほか、本校の研究者総覧システムの維持管理と学内研究発表会の企画・実施



地域共同テクノセンター組織図

(出典：地域共同テクノセンターパンフレット)

(分析結果とその根拠理由)

研究活動の実態に関しては、研究・知財委員会及び地域共同テクノセンターが把握し、自己点検・評価委員会で自己点検し、その結果に基づき外部評価委員会で評価・提言を受けることにしている。また、研究・知財委員会（旧研究促進委員会）が研究実績の評価を行い、この評価をもとに改善を行う取り組みがなされている。

このことから、研究・知財委員会が研究活動の実態を把握し、評価すると共に、その結果を踏まえて改善を行う体制が整備され、機能している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 研究・知財委員会及び地域共同テクノセンターを中心に全学的に研究活動の促進を図っている点
- ・ 産官学交流組織「錦江湾テクノパーククラブ」を設立し、地域共同テクノセンターが、共同研究の推進や産官学連携の促進等のため、地元企業からの技術相談や本校の研究シーズと企業のニーズのマッチングを図っている点

(改善を要する点)

特になし

## (3) 選択的評価事項Aの自己評価の概要

本校での研究体制は、各科を基本としており、科内で関連する専門分野の教員が、共同研究や情報交換を行っているほか、個々の教員が単独又は他の機関の研究者とも共同研究を行っている。さらに、学科を横断して共同研究が行われる場合もある。支援体制としては、校長裁量経費による校内研究助成制度が設けられている。共同研究・受託研究あるいは寄附金等の助成の受け入れを推進するために、地域共同テクノセンターが、本校教員の研究シーズと企業のニーズとのマッチングを図る活動を行っている。この他に、研究・知財委員会による研究報告の編集・出版、研究者総覧システムによる研究業績等の公開が行われている。

教員の「教育・研究活動の高度化・活性化」については、各教員の査読付論文、国際会議プロシーディングス、口頭発表、紀要・雑誌等への掲載論文の数より、国際会議での発表件数は顕著な増加を示していることから成果が上がっていることがわかる。また、これらの教育研究成果は、学生教育にも役立てられている。「地域との交流を推進し、教育・研究成果を地域に還元する」ことに関しては、地域共同テクノセンターを中心として、地域企業への技術相談や技術支援、共同研究、受託研究の推進が図られ、その成果として、技術相談及び共同研究への積極的な取り組みが行われ、外部資金を受け入れていることから、その成果が上がっていることがわかる。

研究活動の実態に関しては、研究・知財委員会及び地域共同テクノセンターが把握し、自己点検・評価委員会で自己点検し、その結果に基づき外部評価委員会で評価・提言を受けることにしている。また、研究・知財委員会（旧研究促進委員会）が研究実績の評価を行い、この評価をもとに改善を行う取り組みがなされている。これらのことから、研究・知財委員会が研究活動の実態を把握し、評価すると共に、その結果を踏まえて改善を行う体制が整備され、機能している。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。

## 選択的評価事項B

### 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

#### (1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観点到に係る状況)

本校では、教育理念を達成するための3つの目標の一つに「地域との交流を推進し、教育研究成果を地域に還元する。」ことを掲げて、これを教育サービスの目的としている。この目的を達成するために学則に「本校に公開講座を開設することができる。」と定め(学則第57条)、公開講座を実施するための基本方針として、公開講座規則を定めている(資料B-1-①-1)。近年では、一般社会人、中学生、小学生を対象として、平成16年度には9講座13回、平成17年度は9講座14回の公開講座が実施されている(資料B-1-①-2)。

公開講座については、学生課教務係で前年度に公開講座の計画・募集を行い、年度当初に担当教員が公開講座実施計画書(資料B-1-①-3)を提出している。ウェブページでの案内の他、募集ポスター(資料B-1-①-4)を鹿児島県内の中学校等に配布している。公開講座の中には出前講座と呼ばれるものもあり、先方の機関からの要請により、小・中学生、教員、保護者を対象に本校の教職員が出向いて実施するものもあり、平成16年度は6回、平成17年度は5回実施した(資料B-1-①-2参照)。

昭和59年度より中学生、中学校の教員及び保護者を対象に一日体験入学が実施されている。これは、本校及び各学科の説明、施設見学、体験学習等を実施し、本校をPRすることが主たる目的であるが、本校の教育・研究成果を一般に公開し、地域との交流を推進し、教育研究成果を地域に還元することも目的に含まれている。一日体験入学は、教務主事及び担当教務主事補が中心となって計画し、教職員及び本校学生(特に5年生)の協力のもとに全学的に実施している(資料B-1-①-5)。案内はウェブページに掲載するほか、各中学校にポスターや各学科の体験実習内容パンフレットを郵送している(資料B-1-①-6)。

本校図書館は、中学生以上の学外者に開放されている。このことは、図書館ウェブページで案内しており(資料B-1-①-7)、現在12名が利用登録し、貸出冊数は年々増加している。近隣の企業に勤務し、学術研究、技術調査研究のための専門図書の利用が主である(資料B-1-①-8)。

さらに、本校では、「地域との交流を推進し、教育研究成果を地域に還元する。」ために、県内の各機関との共催や連携による事業にも積極的に取り組んでいる。その事業として次のようなものがある。いずれの事業も、関係機関と協定を結び、両者の連携の下で計画的に実施されている。

#### (a) 鹿児島市立科学館共催事業

鹿児島市立科学館との共催で「パソコンでロボットを動かそう」及び「鹿児島高専のロボットがやってきた」を毎年実施している。平成17年度は、平成17年8月3日と平成18年1月28～29日にそれぞれ実施した。対象は小・中学生で、教職員が講座の説明にあたっている。

「鹿児島高専のロボットがやってきた」の事業では、高専ロボットコンテストに出場しているメカトロニクス研究部の部員(本校学生)も参加し、ロボットの説明に当たっている(資料B-1-①-9～11)。

#### (b) パワーアップ研修

これは、鹿児島県の小中高校教員を対象とした研修で、鹿児島県総合教育センターの依頼



に応じて、平成17年度は4講座を提供した（資料B-1-①-12）。

(c) ニューライフカレッジ隼人

旧隼人町教育委員会（現霧島市）、志學館大学生涯学習センター、本校の3者が連携して、地域社会人の生涯学習の機会を提供することを目的として、大学教育入門程度のコースを設置している。この活動に、本校は平成16年度から参画し、16年度に1講座、17年度に2講座を提供している（資料B-1-①-13）。

(d) 隼人錦江スポーツクラブ

隼人錦江スポーツクラブは、文部科学省が打ち出した生涯スポーツ社会の実現に向けた「スポーツ振興基本計画」の理念と施策を踏まえ、本校と旧隼人町教育委員会（現霧島市）が平成15年4月に共同で設立した総合型地域スポーツクラブである。

この隼人錦江スポーツクラブの設立、運営、活動に当たっては本校が主体となり、本校が有する物的財産（広大な体育運動施設）及び人的財産（クラブ顧問やクラブ学生等指導者）を広く地域住民に還元するため様々な事業を実施している。現在、グラウンドゴルフ、ソフトテニス、サッカーを始め7種目を開講しており、地域の体育協会や体育指導員会、各種競技団体等と連携協力し、運営並びに技術指導を行っているが、うち4種目については本校の教職員が指導者として、また、本校学生が指導補助者としてボランティアで携わっている（資料B-1-①-14）。

種目の開講に当たっては、種目毎に開講回数、開講時間帯、技術や年齢に応じたグループ分け等、会員の多様なニーズに応えられるように、週単位のプログラムを作成し、年間を通じて計画的に実施されている（資料B-1-①-15）。さらに、通常のプログラム以外にも会員相互の交流と親睦を図る行事や、隼人錦江スポーツクラブが主催する各種クラブ杯大会等を実施している（資料B-1-①-16）。

なお、本クラブは、行政に依存することなく、地域住民が主体となったクラブ運営を行い、地域に密着したクラブとして活動することが良策と考え、平成18年1月に特定非営利活動（NPO）法人格の認可を受けた。

## 基準B-1-①資料一覧

(資料B-1-①-1) 公開講座規則	出典：規則集
(資料B-1-①-2) 公開講座・出前講座一覧	出典：学生課資料
(資料B-1-①-3) 平成18年度公開講座実施計画書（個別表）	出典：学生課資料
(資料B-1-①-4) 公開講座ポスター	出典：学生課資料
(資料B-1-①-5) 一日体験入学スケジュール	出典：学生課資料
(資料B-1-①-6) 一日体験入学ポスター	出典：学生課資料
(資料B-1-①-7) 図書館の学外開放	出典：ウェブページ
(資料B-1-①-8) 貸出冊数の推移（平成13年度～平成17年度）	出典：学生課資料
(資料B-1-①-9) 鹿児島市立科学館共催事業新聞記事	出典：南日本新聞 H170206
(資料B-1-①-10) 第11回「パソコンでロボットを動かそう」実施計画	出典：メカトロニクス研究部資料
(資料B-1-①-11) 鹿児島市立科学館との共催事業「鹿児島高専のロボットがやってきた」について（実施概要）	出典：メカトロニクス研究部資料
(資料B-1-①-12) パワーアップ研修平成17年度開設講座一覧	出典：講座選択研修のしおり
(資料B-1-①-13) ニューライフカレッジ開催案内	出典：パンフレット
(資料B-1-①-14) NP0 法人隼人錦江スポーツクラブ指導者一覧	出典：隼人錦江スポーツクラブ資料
(資料B-1-①-15) 隼人錦江スポーツクラブプログラム	出典：隼人錦江スポーツクラブプログラム
(資料B-1-①-16) 平成17年度事業報告書	出典：隼人錦江スポーツクラブ資料

## 資料B-1-①-1

## ○ 鹿児島工業高等専門学校公開講座規則

(趣旨)

第1条 鹿児島工業高等専門学校学則第57条第2項の規定に基づき、この規則を定める。

(目的)

第2条 公開講座は、本校の教育・研究を広く社会に解放し、社会人の生涯教育の一助とすると共に地域社会の文化の向上に貢献することを目的とする。

(開設時期及び時間等)

第3条 公開講座は、授業に支障のない時期に開設するものとする。

2 公開講座は、本校の諸施設を使用して行う。ただし、必要がある場合は、学外で実施することができる。

(出典：規則集)

## 公開講座・出前講座一覧

年度	区分	講座名	日程	担当学科等	募集人員	受講者数	対象者
16	公開	アイデア勝負！ 手作りロボット講座	8/21	機械工学科 電子制御工学科	20名	4名	中学生以上
	公開	英語発音演習から リスニング・スピーキングへ	11/20～ 11/21	一般文系	20名	4名	一般社会人
	公開	小学生のためのものづくり講座	7/24	機械工学科	20名	11名	小学生高学年 以上
	公開	VC++によるグラフィック・プログラミング入門	8/21	電気電子工学科	10名	1名	中・高校生
	公開	オリジナルロボットをコンピュータで制御しよう ◇LEGOブロックでロボット作り	8/20	電子制御工学科	10名	9名	小学5年生～ 中学生
	公開	電磁スイッチを用いてモーターカーを制御しよう	8/27	電子制御工学科 情報工学科	10名	1名	小・中学生
	公開	わいわいパソコン教室	7/26～ 7/27	情報工学科	15名	5名	小学生高学年 以上
	出前	手作りロボット講座	4/18	機械工学科	40名	20名	小・中学生
	出前	手作りロボット講座	7/10	機械工学科	40名	33名	小学生・保護者
	出前	手作りロボット講座	8/22	機械工学科	40名	55名	小・中学生
	出前	手作りロボット講座	8/24	機械工学科	40名	27名	小・中学生、教員
	出前	手作りロボット講座	11/27	機械工学科	40名	83名	小学生・保護者
	出前	熱と空気の不思議（エンジンはなぜ回るの）	2/17	機械工学科	20名	6名	中学生
	17	公開	アイデア勝負！ 手作りロボット講座	8/27	機械工学科 電子制御工学科	20名	12名
公開		英語発音演習から リスニング・スピーキングへ	11/19～ 11/20	一般文系	10名	7名	一般社会人
公開		小学生のためのものづくり講座	7/30・8/28	機械工学科	20名	40名	小学生・保護者
公開		作ってみようエレクトロニクス ◇ワンチップマイコンで自走ロボットカー	8/20	電気工学科	10名	5名	小学生高学年 以上
公開		災害時に役に立つ電池のいらないラジオ をつくろう	8/23	電子制御工学科	5名	4名	中学生以上
公開		オリジナルロボットをコンピュータで制御しよう ◇LEGOブロックでロボット作り	8/22	電子制御工学科	10名	13名	小学5年生～ 中学生
公開		ICを用いた簡単なロボット（ライントレーサ） を作ろう	7/29	電子制御工学科 情報工学科	6名	5名	中学生
公開		お母さんのものづくり教室、燭台作り	6/11～ 6/12	機械工学科	20名	22名	一般女性
公開		お母さんのものづくり教室、燭台作り	11/26～ 11/27	機械工学科	20名	25名	一般女性
出前		手作りロボット講座	7/11～ 7/12	機械工学科	40名	20名	小・中学生、教員
出前		手作りロボット講座	8/1	機械工学科	40名	65名	中学生・保護者
出前		手作りロボット講座	8/17～ 8/20	機械工学科	40名	50名	小学生・教員
出前		手作りロボット講座	9/7	機械工学科	40名	68名	中学生・教員
出前		手作りロボット講座	11/26	機械工学科	40名	100名	小学生・保護者・教員

(出典：学生課資料)

資料B-1-①-3

(様式2)

平成18年度公開講座実施計画書(個別表)

機関名：鹿児島工業高等専門学校

講座番号		内容	A-5	形態	Y, A
講座名	アイデア勝負! 手作りロボット講座				
開催会場	地域共同テクノセンター				
開催期間	7/22	時間帯	13:00 ~ 17:00	時間数	5 時間
受講対象者	中学生以上			募集人数	20 人
講座の開設 趣旨・目的	身近な素材を用いてロボット工学の基礎となるリンク機構を学習し、簡単な作業ロボットを製作し、それを用いて競技を行う。 受講生に実社会のロボットの必要性と、メカニズムについて理解してもらうと同時に、手作りロボットに触れることで創造の世界の魅力を味わってもらう。				
主催(共催など)	鹿児島工業高等専門学校 機械工学科および電子制御工学科				
地方自治体等との連携による実施計画					
講習料収入予定額	104,000円 (積算内訳) @ 5,200円 × 20人				
要 求 額	区分	員数	単価	金額	備 考
		人	円	千円	
	諸謝金				
	職員旅費				
	講師等旅費				
積 算 内 訳	校 費	30	4500	135	教材
		100	100	10	ポスター
		30	200	6	テキスト
	合 計			151	
講 師 予 定 者 の 職 ・ 氏 名 及 び 担 当 時 間 数	職 名	氏 名	時間数	備 考	
	助・教授 講 師	引地 力男 鎌田 清孝	5 5	責任者 引地 力 男	
	計	2人	15時間		
備 考					

(出典：学生課資料)

資料B-1-①-4

**鹿児島高専公開講座**

**オリジナルロボットを  
コンピュータで制御しよう**

— LEGOブロックでロボット作り —



LEGOブロックで作ったロボットを  
コンピュータでプログラムを作って  
思い通りにコントロールしてみよう!!

対象 小学5年生~中学生 10名(先着順)

日時 平成17年8月22日(月) 午前10時~午後3時

場所 鹿児島高専 電子制御工学科棟2F 電子工学実験室

講師 鹿児島高専教員

受講料 無料

申し込み期間 7月1日~8月17日

申し込み方法 電話・FAXまたはE-mailにて講座名・氏名・年齢  
住所・連絡先電話番号をお知らせ下さい。

〒899-5193 鹿児島県人町真栄 1460-1  
鹿児島工業高等専門学校 学生課 教務係  
電話 (0995) 42-9014 (直通)  
FAX (0995) 43-2584  
E-mail: kyomu@kagoshima-ct.ac.jp

(出典：学生課資料)

## 平成 17 年度 鹿児島高専一日体験入学スケジュール

5月17日(火)

第1回実行委員会——実施要領の検討・依頼

- ① 各学科のキャッチフレーズ・体験テーマ及び受け入れ人数の調査票  
[提出用紙-1]
- ② 学科当日コース名&内容紹介文+写真等(A4 1枚)を載せた  
電子ファイルおよびハードコピー [コース内容説明一覧表] (業者印刷)

(①&amp;②) 5月31日 火曜 午後3時までに教務係へ提出)

- ③ 各学科一日体験入学(実習)の会場と担当者の割当て  
[提出用紙-2]

④ 調査回答書(以下項目ほか)

- 体験実習時の中学生の集合場所
- 学科展示に使用する教室等
- パネルの必要枚数(M:13, E:8, S:12, I:10, C:15, 他:10 H16)  
68枚は確認済み H17.5.17 現在
- 説明補助学生数と寮食数

[提出用紙-3] (担当主事補取り扱い)

(③&amp;④) 6月10日 金曜 午後3時までに教務係へ提出)

- ⑤ 1日体験入学用 学科説明用パンフレット(印刷用原稿)(業者印刷)

[要:各学科1500部]

(⑤) 6月24日 金曜 午後3時までに教務係へ提出)

6月14日(火)

\*各中学校へ 1)公文書 2)案内状 3)[コース内容説明一覧表](②) 送付

6月17日(金)～

各中学校訪問 --- 2) &amp; 3) 配布

7月1日(金)

7月8日(金)

各中学からの受付締切

7月12日(火)

第2回実行委員会開催 調査資料の確認等

7月19日(火)

コース別割り振りの決定 → 教務係へ提出

7月22日(金)

1日体験入学

(各学科アンケート結果集約 → 担当主事補へ提出)

9月13日(火)

第3回実行委員会

アンケート分析, 反省・総括

(出典:学生課資料)



「確実な進路・有意義な学生生活」が見える  
「鹿児島高専」を一度訪ねてみませんか。

就職率100%、高専専攻科・大学編入学希望者は、ほぼ全員合格

「一日体験入学」でわかりやすく説明します。

先輩の指導で、授業で実際に行っている実験実習の一部を体験していただきます。

**期 日 平成18年7月21日(金)**

**日 程**

7:00～	8:30	8:50	9:20	10:50	11:00	12:20	12:40	13:20	14:30
隼人駅 迎え	受 付	日程説明	体験実習	休 憩	学科展示 見 学	概要説明	昼 食	進学相談 自由見学	隼人駅 送 り

※参加者が、多数の場合は、2班(A・B班)に分けて案内します(受付時にお知らせします。)

**参加申込方法**

参加希望者は、「体験コース(学科)と体験テーマ」を案内書の中から選び、別添の申込書により申し込んでください。

※対 象 中学2、3年生・教職員・保護者(体験実習は中学生のみとさせていただきます。)

(見学・進学相談だけでもかまいません。保護者又は生徒だけの参加でも結構です。)

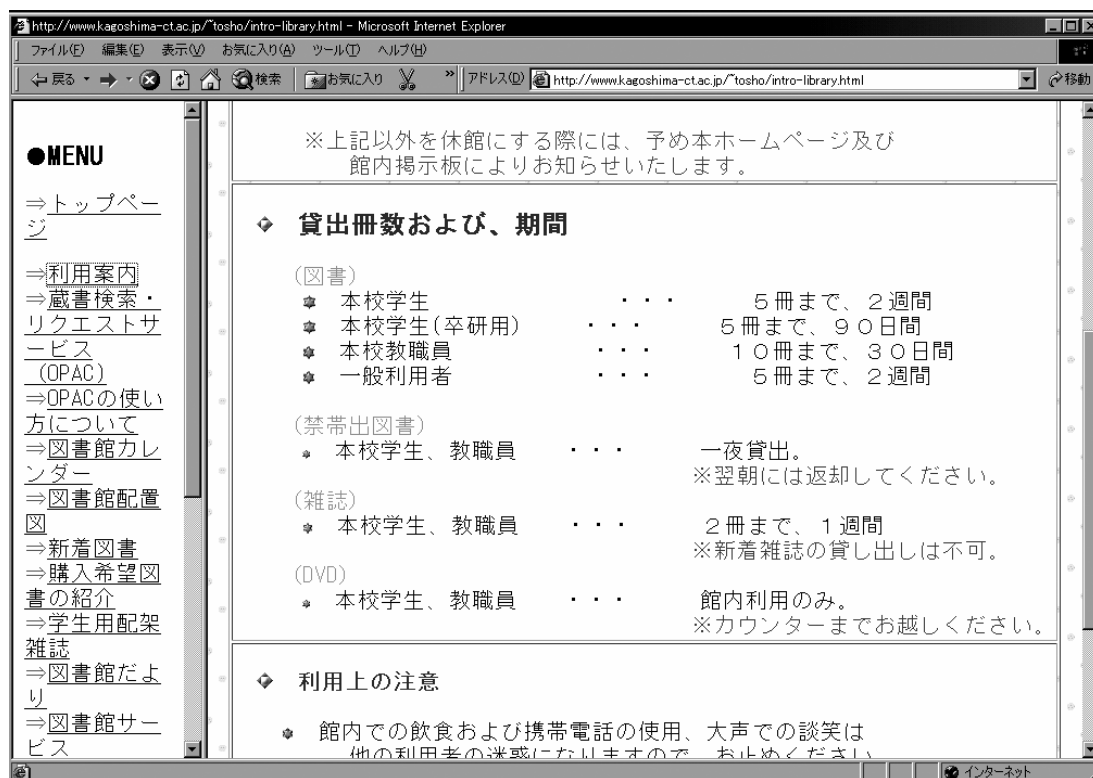
進学相談を希望される方は、参加申込書の進学相談欄に○をしてください。

**参加申込締切 平成18年7月7日(金)**

**その他**

1. 昼食は無料です。ご希望の方は、参加申込書の昼食申込欄に○をしてください。
2. 隼人駅-学校間は、バスで送迎します(7:00から15:00)

(出典：学生課資料)



(出典：ウェブページ)

## 5. 貸出冊数の推移(平成13年度～平成17年度)

年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
貸出冊数(総数)	9960	8552	9101	9469	10449
学生(内数)					
機械工学科	2080	2027	2424	2371	2064
電気・電子工学科	1878	1945	2035	1385	1856
制御工学科	2025	1916	1905	2204	2136
情報工学科	2011	1546	1330	893	1710
土木工学科	997	611	496	529	920
専攻科	727	265	530	1218	1027
計	9718	8310	8720	8600	9713
教職員(内数)	242	507	357	828	676
一般学外者(内数)	0	0	24	41	60

\* 電気・電子工学科は平成15年度電気工学科から名称変更した

(出典：学生課資料)



資料B-1-①-9

現地閲覧資料を参照

(出典：南日本新聞 H170206)

資料B-1-①-10

平成17年7月13日

## 第11回「パソコンでロボットを動かそう」実施計画

- 1 ねらい  
産業界で自動化、省力化に活用されている多関節ロボットについて、そのしくみや働きを知るとともに、実際にパソコンでプログラムをつくり、多関節ロボットを動かす実験、実習を行い、中学生の科学への興味・関心を高める。
- 2 日時 平成17年8月3日(水) 9:45~16:00
- 3 場所 鹿児島市立科学館 3階企画展示室・3階会議室(先生方控え室)
- 4 受講対象者 中学生(24名)
- 5 主催 鹿児島市立科学館  
共催 国立鹿児島工業高等専門学校
- 6 受講料 無料
- 7 指導者 国立鹿児島工業高等専門学校 電子制御工学科の先生方(5名)
- 8 日程(案) 進行 鯉坂

時間	内容	備考
9:45~10:00	受付 鹿児島市立科学館	科学館2階 ロビー
10:00~10:10	開会のことば及び講師紹介	科学館(鯉坂)
10:10~12:00	実験・実習「ロボットを動かしてみよう」 ・ティーチングボックスによる動作 ・プログラム転送による動作	鹿児島高専 河野、植村、鎌田、 山下、松尾先生
12:00~13:00	休憩(昼食)	
13:00~15:30	実験・実習「プログラムを作成して動かしてみよう」	鹿児島高専 河野、植村、鎌田、 山下、松尾先生
15:30~15:50	発表「作成したプログラムを発表しよう」	
15:50~16:00	閉会のことば	科学館(鯉坂)

- 9 準備等
- (1) 使用機器 多関節ロボット —— 三菱電気ムーブマスターEX 6台  
パソコン —— NEC PC-MY24XBZED 6台  
(科学館で準備する)
- (2) 機材等の搬入・搬出  
8月1日(月) 高専を9時頃出発し、10時頃到着  
8月3日(水) 終了後、ロボットを固定し搬出

(出典：メカトロニクス研究部資料)

資料B-1-①-11

平成18年1月23日

鹿児島市立科学館との共催事業

「鹿児島高専のロボットがやってきた」 について

本校は、鹿児島市立科学館との共催事業「鹿児島高専のロボットがやってきた」について、NHK ロボコンに出場したマシンのデモを毎年実施している。本年度の実施概要は以下の通りである。

対象： 小・中学生

実施する内容： 本校のロボコン出場マシンのデモおよび子供とのふれあい

日時： 平成18年1月28（土）、29日（日）

場所： 鹿児島市立科学館

スケジュール： 1回目 11：00 ～

2回目 13：30 ～

3回目 14：30 ～

4回目 15：30 ～

本校参加者： メカトロニクス研究部学生 延20名

指導教職員 植村真一郎、上野孝行、上沖 司

(出典：メカトロニクス研究部資料)

資料B-1-①-12

講座番号	3103	実施機関	鹿児島工業高等専門学校
講座名	エクセルとパワーポイントを活用した学習支援システムの作成		
対象	小学校	中学校	高等学校 盲聾養護学校
講座概要	<p>近年、インターネットやLANの通信機能を利用して、いつでもどこでも学べるいわゆるeラーニングシステムが目目されるようになってきた。しかし、まだ非常に高価なシステムである。</p> <p>そこで、本講座では Windows パソコンに標準的にインストールされているエクセルとパワーポイントを活用して作成する簡便な学習支援システムについて解説する。本システムはパソコン上に構築するもので、クイズ形式で自学自習するシステムである。エクセルやパワーポイントの利用経験があれば、プログラミングの未経験者であっても比較的容易に理解し作成できるレベルのものである。講座では講義と演習を交互に行い、簡単な学習支援システムを自作できる力を身に付けていくようにする。</p>		
日程	【1日講座】		
7月27日(水)	9:00~10:25 10:40~12:00 13:00~14:30 14:45~16:15 16:15~18:30	学習支援システムの概要とエクセルのマクロによる問題データベースの作成 パワーポイントのマクロによるエクセルデータの抽出とスライドへの展開 簡単な学習支援システムの作成演習1 簡単な学習支援システムの作成演習2 諸連絡	講義、演習 演習、演習 演習 演習
持参する物	筆記具、作成したシステムを保存するフラッシュメモリなど		

講座番号	3403	実施機関	鹿児島工業高等専門学校
講座名	情報処理		
対象	小学校	中学校	高等学校 盲聾養護学校
講座概要	<p>成績評価や各種データの集計解析など、Excelを使用する機会が多々ある。これは、Excelに数多くの便利な関数が備わっており、種類の集計や解析などが行え、更に、マクロ機能も備わっているため、各種の効率化を図ることができるところである。</p> <p>本講座では、ワークシート関数とマクロを取り混ぜて、効率よく集計作業や解析を行う手法を紹介する。</p>		
日程	【1日講座】		
8月10日(水)	9:00~10:30 10:45~12:00 13:00~14:30 14:45~16:15 16:15~18:30	Excelの基本操作の説明 ワークシート関数の用法、及び演習 簡単なマクロの操作方法、及び演習 演習、質疑 諸連絡	講義 講義、実習 講義、実習 実習
持参する物	フロッピーディスク		

講座番号	3404	実施機関	鹿児島工業高等専門学校
講座名	エクセルとパワーポイントを活用した学習支援システムの作成		
対象	小学校	中学校	高等学校 盲聾養護学校
講座概要	<p>近年、インターネットやLANの通信機能を利用して、何時でも何処でも学べるいわゆるeラーニングシステムが目目されるようになってきた。しかし、まだ非常に高価なシステムである。</p> <p>そこで、本講座では Windows パソコンに標準的にインストールされているエクセルとパワーポイントを活用して作成する簡便な学習支援システムについて解説する。本システムはパソコン上に構築するもので、クイズ形式で自学自習するシステムである。エクセルやパワーポイントの利用経験があれば、プログラミングの未経験者であっても比較的容易に理解し作成できるレベルのものである。講座では講義と演習を交互に行い、簡単な学習支援システムを自作できる力を身に付けていくようにする。</p>		
日程	【1日講座】		
8月10日(水)	9:00~10:25 10:40~12:00 13:00~14:30 14:45~16:15 16:15~18:30	学習支援システムの概要とエクセルのマクロによる問題データベースの作成 パワーポイントのマクロによるエクセルデータの抽出とスライドへの展開 簡単な学習支援システムの作成演習1 (エクセル上に問題データベースを作成する) 簡単な学習支援システムの作成演習2 (問題データベースから必要な項目を抽出し、パワーポイントスライドへ展開する) 諸連絡	講義、演習 講義、演習 演習 演習
持参する物	筆記用具、作成したシステムを保存するフラッシュメモリなど		

講座番号	3530	実施機関	鹿児島工業高等専門学校
講座名	最新ものづくり教育		
対象	小学校	中学校	高等学校 盲聾養護学校
講座概要	<p>わたしたちの身の回りにある衣、食、住といった生活は、たとえば自動車、エアコン、テレビ、パソコンなどのいろいろなものを基盤に支えられている。機械工学科は、このような製品の製作いわゆるものづくり及びエネルギーの有効利用に関する学科である。そこで本研修では、ものづくりに必要な設計図面の製作と機械工作法及びエネルギー有効利用のための熱工学と流体工学について、本校機械工学科に設置されている最新の設備を使用した実験実習を行う。</p>		
日程	【2日間講座】		
8月11日(木)	9:00~12:00 (※8:15分を含む) 13:00~16:30 (※8:15分を含む)	CAD実習 概要:CAD(Computer Aided Design)による図面製作を体験する。3D表示による図面についても簡単な立体を描いてみる。 コンピュータによるデザインとものづくり 概要:コンピュータで自由にデザインし、コンピュータで工作機械を自動制御して材料を加工する基礎をCAD/CAMシステムによって学習する。	講義・実験 講義・実験
8月12日(金)	9:00~12:00 (※8:15分を含む) 13:00~16:00 (※8:15分を含む)	赤外線熱画像装置による温度計測と熱伝導率の測定 概要:赤外線熱画像装置による温度計測について説明し、これを利用して物体の熱伝導率を測定し、熱移動の基本について学習する。 流れの計測と画像処理 概要:最近の流れの計測技術について説明し、さらに最先端技術であるレーザーと画像処理を用いた計測について学習する。	講義・実験 講義・実験
持参する物	作業服、筆記用具		

(出典：平成17年度パワーアップ研修 講座選択研修のしおり)

資料B-1-①-13

平成16年度

8月	しらす山を緑豊かな森へ	園林 巧	鹿児島工業高等専門学校 教授	8月21日(土) 町農村環境改善センター 9:30~11:30
----	-------------	------	----------------	---------------------------------------

平成17年度

PROGRAM	
テーマ「単人学で世界がみえる」	
実施日	8月10日(水)
実施時間	9:30~12:00
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 講義室
講師	中島 正弘(鹿児島工業高等専門学校 教授)
協賛	鹿児島工業高等専門学校
主催	鹿児島工業高等専門学校
後援	鹿児島工業高等専門学校
お問い合わせ	鹿児島工業高等専門学校 総務課
電話	099-233-1111
ファクス	099-233-1112
Eメール	total@kai.ac.jp
ホームページ	http://www.kai.ac.jp

12	鹿児島のエネルギー	中島 正弘	鹿児島工業高等専門学校 機械工学科教授	12月10日(土) 鹿児島工業高等専門学校 9:30~11:30
1	鹿児島の橋いろいろ	内谷 保	鹿児島工業高等専門学校 土木工学科教授	1月14日(土) 鹿児島工業高等専門学校 9:30~11:30
2	シンポジウム ~単人学で 世界がみえる~	コーディネーター シンポジスト	中島 正弘(鹿児島高専教授) 小野 郁子(郷土史家) 森田 豊子(鹿児島高専講師) 岩橋 恵子(志学館大学教授)	2月11日(土) 鹿児島工業高等専門学校 9:30~12:00
	閉講式	河野 良弘	鹿児島工業高等専門学校 副校長	

(出典：ニューライフカレッジのパンフレット)

資料B-1-①-14

## NPO法人隼人錦江スポーツクラブ指導者一覧

※高専関係者のみ抜粋

種目	指導者分類	氏名	所属	備考
グラウンドゴルフ				外部指導者
ソフトテニス	指導者	安楽 四郎	鹿児島高専職員	
	指導補助	高専学生		
バドミントン	指導責任者	赤澤 正治	鹿児島高専教員	
	指導者	小暮 晴美	鹿児島高専非常勤教員	
バスケットボール	指導責任者	鮫島 俊秀	鹿児島高専教員	
	指導者	■■■■■	鹿児島高専学生	
	指導補助	高専学生		
サッカー	管理責任者	木原 正人	鹿児島高専	
	指導責任者	北 園 裕 一	鹿児島高専 顧問	
	指導者	あべ松 伸 二	鹿児島高専 顧問	
	指導者	引地 力 男	鹿児島高専 顧問	
	指導補助	高専学生		
陸上競技				外部指導者
ゴルフ				外部指導者

(出典：隼人錦江スポーツクラブ資料)

平成18年度(平成19年3月まで)

# 隼人錦江スポーツクラブ フログラム

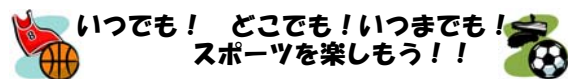
曜日	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	会 場
月			グラウンドゴルフ														高専グラウンド
			ゴルフ														高専ゴルフ練習場 高専グラウンド
火			グラウンドゴルフ														高専グラウンド
			ゴルフ (プロ指導日)														高専ゴルフ練習場 高専グラウンド
水			グラウンドゴルフ														高専グラウンド
			ゴルフ														高専ゴルフ練習場 高専グラウンド
木			グラウンドゴルフ														高専グラウンド
			ゴルフ														高専ゴルフ練習場 高専グラウンド
金			グラウンドゴルフ														高専グラウンド
			ゴルフ														高専ゴルフ練習場 高専グラウンド
土			ソフトテニス 中学生														高専テニスコート
			ゴルフ (グラウンドは使用不可)														高専ゴルフ練習場
												バスケット (月3回)					高専第2体育館
								サッカー Jr.女子(月3回)									高専グラウンド
日			陸上														高専グラウンド
			ソフトテニス 一般														高専テニスコート
			ゴルフ (グラウンドは使用不可)														高専ゴルフ練習場
			サッカー 一般(月3回)														高専グラウンド

■各種目の問合せ連絡先・担当者

種 目 名	連 絡 先	担 当
グラウンドゴルフ	0995-43-0332	ツカサ政
ソフトテニス	090-3661-6614	アラク安楽
バドミントン	0995-42-9053	アカザワ赤澤
バスケットボール	0995-42-9045	サメシマ鮫島
サッカー	090-1874-2231	キハラ木原
陸上競技	090-6897-8052	マエダ前田
ゴルフ	0995-42-9013	ハツリ服部

■年会費

会 員 区 分	金 額
一 般 会 員 (大 学 生 以 上)	3,000円
一 般 会 員 (60歳以上)	2,000円
ジュニア会員 (高 校 生 以 下)	2,000円
ジュニア会員 (小 学 生 未 満)	1,000円
ファミリー会員 (同 一 世 帯 家 族)	8,000円



(出典：隼人錦江スポーツクラブプログラム)



## 平成17年度事業報告

年月日	事業内容	場所
H17		
4.	新年度会員募集・受付開始	
5.	会報 第4号発行(平成16年度年報)	
5.20	平成17年度総会	鹿児島高専大会議室
6.	ゴルフバンカー練習場完成	高専グラウンド内
7.2	スポーツクラブ菊陽視察のため来校	
9.15	NPO法人設立総会	鹿児島高専大会議室
10.15	第41回鹿児島県体育指導委員研究大会(シンポジスト)	薩摩川内市 川内文化ホール
10.26	NPO法人設立認証申請	
11.13	総合型地域スポーツクラブ啓発研修会(パネラー)	鳥取県体育協会主催
11.12	クラブ杯大会実施〔ソフトテニス ジュニア〕	鹿児島高専テニスコート
11.20	クラブ杯大会実施〔ソフトテニス 一般〕	鹿児島高専テニスコート
11.28	クラブ杯大会実施〔バドミントン〕	鹿児島高専第2体育館
12.8	クラブ杯大会実施〔ゴルフ〕	高千穂CC
12.10	クラブ杯大会実施〔バスケットボール〕	鹿児島高専グラウンド
12.16	クラブ杯大会実施〔グラウンドゴルフ〕	鹿児島高専第2体育館
H18		
1.12	NPO法人設立認可	
1.25	NPO法人登記完了	
2.	ゴルフパター練習場完成	高専ゴルフ練習場横
3.	会報 第5号発行	
3.	18年度会員募集・受付開始	
3.12	コココーラ杯女子ミニソフトサッカー大会実施	鹿児島高専第2体育館(雨天)
3.20	理事会	鹿児島高専小会議室
3.25	岡山県体育協会総会シンポジスト	岡山県 岡山県体育協会主催

※12.4 クラブ杯サッカー大会(隼人町サッカーフェスティバル)は雨天のため中止

## 〔参考〕

年月日	事業内容	備考
H17		
4.24	中国新聞記事掲載(高専の施設・人材活用について)	
7.	全国スポーツクラブマネジャー(SC経営士)資格取得	東京都 日本SC協会主催
7.	JFAクラブマネジャーズカレッジ受講(3/19まで)	東京他 日本サッカー協会主催
11.	総合型地域SCクラブマネジャー養成講習会受講(前・後期)	鹿児島県体育協会主催

(出典: 隼人錦江スポーツクラブ資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、「地域との交流を推進し、教育研究成果を地域に還元する。」という正規課程の学生以外に対する教育サービスに係わる目的を掲げており、この目的を達成するため公開講座、中学生を対象とした一日体験入学等を実施している。その他にも、他の機関との共催や連携事業として、鹿児島市立科学館との共催事業、鹿児島県の主催するパワーアップ研修、ニューライフカレッジ隼人などを計画的に実施している。さらにNPO法人隼人錦江スポーツクラブへの物的・人的支援を行っている。

以上のことから、本校では、本校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されていると判断される。

**観点B-1-②： サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。**

(観点に係る状況)

(a) 公開講座

公開講座については、担当者が受講生に講座終了後にアンケートを実施して分析し、公開講座実施報告書とともにアンケート結果を教務係（平成17年度担当係）へ提出している（資料B-1-②-1, 2）。受講者によるアンケート結果によると、ほぼ100%の受講生が、満足、概ね満足と回答している。平成16年度実施された9講座の受講生数は259名、平成17年度実施された9講座の受講生数は456名である。公開講座は毎年実施され、それぞれの担当者が、アンケート結果を翌年度の講座に活かしている。

(b) 一日体験入学

一日体験入学については、一日体験入学実行委員会において、参加者数や満足度などのアンケート結果を分析し報告している。平成16年度は308名の中学生が参加し、その内92%（284名）が満足または、ほぼ満足と回答している。また、平成17年度では321名の中学生が参加し、その93%（298名）が満足または、ほぼ満足と回答している（資料B-1-②-3, 4）。一日体験入学では、3回の一日体験入学実行委員会を開催し、計画・実施・総括を行い、次回への改善を行うシステムがあり、機能している（資料B-1-①-5参照）。

(c) その他の共催・連携事業

他の機関との共催・連携の下で行われている事業のため、改善のためのシステムは主催者側に依存するものである。従って、ここでは、主催者側の提供による満足度調査を基に、主に、活動の成果が上がっているかという点について分析する。

①鹿児島市立科学館との共催事業

鹿児島市立科学館共催事業については、資料の新聞記事に示すように、毎年、参加した受講生に大変好評を得ている（資料B-1-①-9参照）。このため、鹿児島市立科学館より、毎年、共催を依頼されている（資料B-1-②-5）。

②パワーアップ研修

パワーアップ研修については、平成17年度の本校実施分の研修に関して、鹿児島県総合教育センターのアンケート調査が実施されている（資料B-1-②-6）。このアンケート結果から、受講者のほとんどが、本校で行われた研修について、大いに満足あるいは満足との



回答をしている。また、受講者の主な意見感想として、このパワーアップ研修は充実した有意義な研修であったとの評価が得られている。

### ③ニューライフカレッジ隼人

ニューライフカレッジ隼人については、平成17年度の本校教員が行った2件の講座について、霧島市教育委員会のアンケート調査が実施されている（資料B-1-②-7）。このアンケートは記述式であり、興味深い講座の内容で好評な旨の意見が多数得られている。

### ④NPO法人 隼人錦江スポーツクラブ

隼人錦江スポーツクラブは、本校の教員が理事長を務め、他の教職員や学生も技術指導やボランティアスタッフとして積極的に協力している。クラブの活動状況や取り組みについては、定期的に発行されるクラブ会報で、各種クラブ杯大会の結果、プログラムの案内、イベント情報、会員登録の案内、種目担当者連絡先等を記載し全クラブ会員に配布するほか、霧島市の回覧板を利用し、隼人地区の全家庭に回覧している。また、霧島市が毎月発行する「広報きりしま」にも会員募集やイベント情報を掲載し、霧島市の全家庭に配布されている（資料B-1-②-8）。

隼人錦江スポーツクラブが主催するクラブ杯大会では、大会終了後に競技参加者に対するアンケート等を実施し、各参加者の意見や感想を基に、次回クラブ杯大会の運営等に反映できるようにしている（資料B-1-②-9）。

上記のような広報活動や会員の意見等をフィードバックさせるシステムを構築し、併せて会員に対するより良いサービスと安定したクラブ運営を実現するために、クラブマネージャーやクラブ経営士の資格取得者をスタッフとして配置することにより、会員の継続登録へとつながっている。特に、小学校のスポーツ少年団や中学校のクラブ活動単位で団体登録しているケースをみると、設立当初からの継続会員として登録されている。

クラブ設立後の登録会員数の推移は、平成15年度：602名、平成16年度：650名、平成17年度：844名（資料B-1-②-10）というように、年々増加傾向にある。

これらのことから、隼人錦江スポーツクラブの活動は、会員に対し十分な成果があり、このことが会員数の増加として表われているといえる。

#### 基準B-1-②資料一覧

(資料B-1-②-1) 公開講座実施報告書	出典：学生課資料
(資料B-1-②-2) 公開講座実施状況及びアンケート結果一覧	出典：学生課資料
(資料B-1-②-3) 平成16年度一日体験入学アンケート結果	出典：一日体験入学実行委員会資料
(資料B-1-②-4) 平成17年度一日体験入学アンケート結果	出典：一日体験入学実行委員会資料
(資料B-1-②-5) 共催名義使用について（使用許可）	出典：鹿児島市立科学館資料
(資料B-1-②-6) パワーアップ研修H17講座選択研修（アンケート結果）	出典：鹿児島県総合教育センター資料
(資料B-1-②-7) ニューライフカレッジ隼人アンケート集約	出典：霧島市教育委員会資料
(資料B-1-②-8) 隼人錦江スポーツクラブ杯大会結果	出典：隼人錦江スポーツクラブ会報
(資料B-1-②-9) グラウンドゴルフアンケート結果	出典：隼人錦江スポーツクラブ資料
(資料B-1-②-10) 隼人錦江スポーツクラブ会員統計データ	出典：隼人錦江スポーツクラブ資料

## 平成17年度 公開講座実施報告書

電子制御工学科 原田 治行  
技術室 上沖 司

1. 講座名  
災害時に役に立つ電池の要らないラジオをつくろう
2. 対象者  
中学生以上
3. 定員  
5名
4. 講座の目的  
電池が要らなくて放送局から出た電波のエネルギーだけで鳴る不思議とも思えるラジオを製作し、原理を理解することで、科学技術の面白さを体験してもらおう。
5. 日程  
平成17年8月23日(火) 9時00分から12時00分
6. 担当者  
電子制御工学科 原田治行  
技術室 上沖 司
7. 参加者  
小学3年生1名、中学2年生2名 社会人1名 計4名 と保護者3名  
欠席者1名
8. 実施内容
  - (1) 電池が要らなくてもラジオが聞ける仕組みを説明した。
  - (2) 部品を配布し、工作上的注意事項を説明した
  - (3) 各自ラジオの工作(適宜、進捗状況を見ながらアドバイスを行った)
    - ・スパイダーコイルの製作
    - ・各部品のハンダ付けによる接続
    - ・全体の組み立てなど
  - (4) ラジオの試聴および手直し
9. 総括  
講座の内容からして、科学(理科)に関心のある方が参加したこともあり、概ね順調に進んだ。電池が要らなくてもラジオが聞ける仕組みの理解と、自作したラジオのイヤホンからニュースが聞こえてきた時の驚きを味わってもらったことで、当初の「科学技術の面白さを体験してもらおう」目的を達成することができた。

(出典：学生課資料)

公開講座実施状況及びアンケート結果一覧

年度	種別	講 座 の 名 称	開 設 時 期						受講対象者	受講定員	受講者数	有効回答者数(A)	左の内満足回答者数(B)	満足度率(B/A)	
			年	月	日	～	年	月							日
16	公開	アイデア勝負！手作りロボット講座	16	8	21	～	16	8	21	中学生以上	20	4	4	4	100.0%
	公開	英語発音演習からリスニング、スピーキングへ	16	11	20	～	16	11	21	一般社会人	20	4	4	4	100.0%
	公開	小学生のためのものづくり教室	16	7	24	～	16	7	24	小学生高学年以上	20	11	11	11	100.0%
	公開	VC++によるグラフィック・プログラミング入門	16	8	21	～	16	8	21	中・高校生	10	1	1	1	100.0%
	公開	オリジナルロボットをコンピュータで制御しよう ～LEGOブロックでロボット作り～	16	8	20	～	16	8	20	小学5年～中学生	10	9			
	公開	電磁スイッチを用いてモーターカーを制御しよう	16	8	22	～	16	8	22	小・中学生	10	1	1	1	100.0%
	公開	わいわいパソコン教室	16	7	29	～	16	7	29	小学生高学年以上	15	5	5	5	100.0%
	出前	手作りロボット講座	16	4	18	～	16	4	18	小・中学生	40	20			
	出前	手作りロボット講座	16	7	10	～	16	7	10	小学生・保護者	40	33			
	出前	手作りロボット講座	16	8	22	～	16	8	22	小・中学生	40	55	41	39	95.1%
	出前	手作りロボット講座	16	8	24	～	16	8	24	小・中学生、教員	40	27	5	4	80.0%
	出前	手作りロボット講座	16	11	27	～	16	11	27	小学生・保護者	40	83			
	出前	熱と空気の不思議(エンジンはなぜ回るの)	17	2	17	～	17	2	17	中 学 生	20	6			
17	公開	アイデア勝負！手作りロボット講座	17	8	27	～	17	8	27	中学生以上	20	12	12	12	100.0%
	公開	英語発音演習からリスニング、スピーキングへ	17	11	19	～	17	11	20	一般社会人	10	7	7	7	100.0%
	公開	小学生のためのものづくり教室	17	7	30	～	17	8	28	小学生・保護者・教員	20	40	40	40	100.0%
	公開	作ってみようエレクトロニクス ◇ワンチップマイコンで自走ロボットカー	17	8	20	～	17	8	20	小学生高学年以上	10	5	5	5	100.0%
	公開	災害時に役に立つ電池の要らないラジオをつくろう	17	8	23	～	17	8	23	中学生以上	5	4	4	4	100.0%
	公開	オリジナルロボットをコンピュータで制御しよう ～LEGOブロックでロボット作り～	17	8	22	～	17	8	22	小学5年～中学生	10	13	13	13	100.0%
	公開	「ICを用いた簡単なロボット(ライトレーサ)を作ろう」	17	7	29	～	17	7	29	中学生	6	5	5	5	100.0%
	公開	お母さんのものづくり教室	17	6	11	～	17	6	12	一般女性	40	22	22	21	95.5%
	公開	お母さんのものづくり教室	17	11	26	～	17	11	27	一般女性	40	25	25	25	100.0%
	出前	手作りロボット講座	17	7	11	～	17	7	12	小・中学生、教員	40	20	10	10	100.0%
	出前	手作りロボット講座	17	7	11	～	17	7	12	小・中学生、教員	40	20	10	10	100.0%
	出前	手作りロボット講座	17	8	1	～	17	8	1	中学生・保護者	40	65	65	65	100.0%
	出前	手作りロボット講座	17	8	17	～	17	8	20	小学生・教員	40	50	50	50	100.0%
	出前	手作りロボット講座	17	9	7	～	17	9	7	中学生・教員	40	68	10	10	100.0%
	出前	手作りロボット講座	17	11	26	～	17	11	26	小学生・保護者・教員	40	100	100	100	100.0%

(出典：学生課資料)

## H16.7.23 1日体験入学アンケート結果

Q1. あなたは男子女子のどちらですか？ 単位：人

性別	(a) 男子	(b) 女子	小計
機械工学科	71	4	75
電気電子工学科	68	6	74
電子制御工学科	63	2	65
情報工学科	53	27	80
土木工学科	10	4	14
合計	265	43	308

Q4. 体験した内容に満足しましたか？ 単位：人

満足度	(a) 十分	(b) ほぼ	(c) 解らない	(d) やや不満	(e) 不満
機械工学科	55	19	1	1	0
電気電子工学科	36	35	1	2	0
電子制御工学科	28	35	2	0	0
情報工学科	28	34	14	1	2
土木工学科	12	2	0	0	0
合計	159	125	18	4	2

Q5. コース説明や学科展示の内容が理解できましたか？ 単位：人

理解	(a) 十分	(b) 大体	(c) あまり	(d) できない
機械工学科	21	48	5	2
電気電子工学科	15	56	1	2
電子制御工学科	28	35	2	0
情報工学科	12	54	14	0
土木工学科	1	12	0	0
合計	77	205	22	4

(出典：一日体験入学実行委員会資料)

## H17.7.22 1日体験入学アンケート結果

Q1. あなたは男子女子のどちらですか？ 単位：人

性別	(a) 男子	(b) 女子	小計
機械工学科	59	9	68
電気電子工学科	32	7	39
電子制御工学科	91	5	96
情報工学科	56	22	78
土木工学科	35	5	40
合計	273	48	321

Q4. 体験した内容に満足しましたか？ 単位：人

満足度	(a) 十分	(b) ほぼ	(c) 解らない	(d) やや不満	(e) 不満
機械工学科	53	13	2	0	0
電気電子工学科	26	8	4	1	0
電子制御工学科	53	35	5	1	2
情報工学科	46	24	7	1	0
土木工学科	27	13	1	0	0
合計	205	93	19	3	2

Q5. コース説明や学科展示の内容が理解できましたか？ 単位：人

理解	(a) 十分	(b) 大体	(c) あまり	(d) できない
機械工学科	24	39	2	3
電気電子工学科	12	24	2	1
電子制御工学科	36	58	2	0
情報工学科	27	47	3	1
土木工学科	6	33	0	0
合計	105	201	9	5

(出典：一日体験入学実行委員会資料)

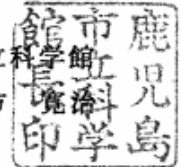
資料B-1-②-5

鹿市科第196号

平成17年2月12日

国立鹿児島工業高等専門学校  
校長 前田 滋 殿

鹿児島市立科学館  
館長 緒方



共催名義使用について（許可申請）

余寒の候、貴職におかれましてはますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

またかねてより、当館の運営につきまして各面から御協力・御鞭撻をいただいておりますことに、厚く感謝申し上げます。

さて、当館では17年度も貴校との共催で、下記のような事業を企画しております。

つきましては、貴校の地域共同テクノセンター及び電子制御工学科の関係各位の御協力と、共催名義の使用について、御許可くださいますようお願い申し上げます。

記

事業の名称及び内容等

(1) 「パソコンでロボットを動かそう」

日時 平成17年8月3日（水） 9:45～16:00

場所 鹿児島市立科学館 3階 企画展示室

受講対象者 中学生 24人

受講料 無料

(2) 「鹿児島高専のロボットがやってきた」

日時 平成18年1月28日（土）・29日（日） 9:30～16:00

場所 鹿児島市立科学館 4階展示場

対象 入館者

（出典：鹿児島市立科学館資料）

## パワーアップ研修H17 講座選択研修&lt;鹿児島工業高等専門学校実施分&gt;

県総合教育センター 教職研修課

## 1 各受講者の評価(校種別)

評価の区分→「4 大いに満足 3 満足 2 やや不満 1 不満」

## (1) 小学校受講者

4 (3) 3 (6) 2 (1) 1 (0)

## (2) 中学校受講者

4 (13) 3 (9) 2 (0) 1 (0)

## (3) 高等学校受講者

4 (7) 3 (5) 2 (0) 1 (0)

## 2 受講者の主な意見・感想(一部抜粋)

## (1) 小学校受講者

- ・多種、多様な研修が計画されており驚きでした。また、研修内容もレベルの高いもので、自己のこれからの実践して生かすとともに、さらなる研究の必要性を強く感じました。

## (2) 中学校受講者

- ・講座のねらいや目的を明確に示し、実験や観察を行い専門的な指導を受けるなどして充実した研修となった。
- ・幅広い内容で非常に有意義な研修となった。問題解決の手かかりやヒントをたくさん頂いて助かった。

## (3) 高等学校受講者

- ・パソコン及びビデオ教材等を利用したものであったが、大変、有意義であった。
- ・研修を通じて自らのキャリアアップを図ることができたように思う。

(出典：鹿児島県総合教育センター資料)



## 「ニューライフカレッジ隼人」アンケート8集約

「ニューライフカレッジ隼人」を受講いただき誠にありがとうございます。

本日の講義についてのアンケートにご協力をお願いします。今後の事業計画の参考にさせていただきます。

(受講生 82名中、47名回答)

※あてはまるところを○で囲んでください。

1. あなたの性別は ( 男性 ・ 女性 )

2. あなたの年齢は ( 10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70代 ・ 80代以上 )

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計	無記入
男			1		4	14	7	1	27	1
女				2	5	9	2	1	19	
計			1	2	9	23	9	2	46	47

3. あなたの住まいは ( 隼人町内 32 ・ 隼人町外 14 (国分市5 ・ 加治木町4 ・ 始良町1 ・ 溝辺町1 ・ 鹿児島市1 ・ 不明1) ・ 無記入1)

4. 本日の講義「鹿児島のエネルギー」の感想をお聞かせください。

- マイクロ発電希望→加治木町竜門滝の周辺 (H20~30m) 水路有り。
- 風車を10年前、ハワイで拝見して感心した。無公害に参加していた。
- そよ風くん→加治木町、南電工(株)門口にある。気になっていた (kw) ?
- 原子力発電 (発電所) 熱管理部門の一部 (圧力計, 温度計) メーカーで過去を過ごした。慌てて講義を受けました。
- 水力発電 (黒部関電) に機器類の搬入は徒歩で、リックサックに部品を入れて運んだ事を今は思い出した。(25歳でした)
- ・ 風力Psの話には皆さん目が輝いていました。少々メルヘンチックな想いが膨らんでのことと思いますが、太陽光・風力ともあくまでも補助電源としての位置づけを認識されているのかが気になりました。(出力変動が大きく不安定 (風力), 雲天・夜間はアウト (太陽光), 広大な敷地が必要など) 昨年まで電力会社に勤務でした。自分が企業PRや原子力PAをする時はどうしても固い、理屈っぽい語りになるものでしたが、本日の講義はユーモアを交えて柔らか語り口ですばらしいと思いました。栗のイガと中身が10g+10gという表現はユニークで電力会社もネタを頂いてPAに活用したら受け入れられると感心しました。本日出てきた発電所は原子力を含め、自分がかかわってきたPSが多数出てきて客観的に聴講させていただきました。
- ・ 身近なエネルギー問題で関心のある事でした。水力, 風力, 地熱, 発電の話で、どんなに大事なことであるか少しは理解できたようです。これから、水, 電気, その他色々な物に無駄使いせず大切に使わなくてはと思うことでした。
- ・ 先生の話し方が上手で大変楽しく受講できた。特に参考になった話は、日頃気にしていたことですが風力発電の羽が余り回転しないのを見て要を得ているのかなあと思っていたが今日受講してよく理解できた。
- ・ 色々なエネルギーの中で特に再生可能エネルギーに興味があった。エネルギーの地産地消…。非常に分かり易かった。ありがとうございました。

(出典：霧島市教育委員会資料)

## 「ニューライフカレッジ隼人」アンケート9集約

「ニューライフカレッジ隼人」を受講いただき誠にありがとうございます。

本日の講義についてのアンケートにご協力をお願いします。今後の事業計画の参考にさせていただきます。

(受講生 55名中、34名回答)

※あてはまるところを○で囲んでください。

1. あなたの性別は ( 男性 ・ 女性 )

2. あなたの年齢は ( 10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70代 ・ 80代以上 )

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無記入	計
男					5	7	4			16
女				3	4	5	2	1		15
無記入						2			1	3
計				3	9	14	6	1		34

3. あなたの住まいは ( 隼人町内 20 ・ 隼人町外 12 ( 国分5 ・ 加治木町5 ・ 始良町1 ・ 溝辺町1 ) ・ 無記入2 )

4. 本日の講義「鹿児島の橋いろいろ」の感想をお聞かせください。

- ・ 橋に関していろいろな興味、関心が湧いてくるようなお話がうかがえました。導入時には特に和歌なども取り上げられて文学的なことの背景の紹介などもあり文武両面からのお話は特に興味深かったです。全国的な見地での橋の話は特によかったですと思います。ありがとうございました。
- ・ 日本一とか騒がれると旅行してみるというかたちでしたが、今後どんな橋にも少し注意がむけられそうです。
- ・ 興味深い。多岐にわたる話題を聴講させていただきありがとうございました。  
特に次のテーマに興味を持ちました。  
○「土木」の語源  
○大和ことばのはし 各種  
○鹿児島にかかるいろいろな形式の橋の紹介
- ・ 興味深く楽しく聞きました。橋は私たちが生活する中で身近な所にあるもので、当然という存在を感じました。瀬戸大橋を渡った時、「ここは日本？」と言うことばが出る程感動しました。きれいな橋ですね。隼人町の小田辺り日豊線鉄道の所に石橋がありますが。(かなりの草の中にかくれた状態です。)
- ・ 普段知ることのない。細部を教えてくださいました。大和言葉について、勉強になりました。
- ・ 一口に橋と申しましても何気なく通って参りましたが、その種類の多さ、構造上の事など何も知りませんでした。これから橋の見方が変わったような気がします。人間は橋がなければ生活できません。見た目の美しい、そして安全な橋、年齢的にもう少し若ければ身近な橋でも探して歩くのも良いのではと思う事です。甲突川の石橋五橋の写真を懐かしく拝見しました。現在の橋の風情のなさに悲しくさえなりました。

橋の構造についてくわしく講義して下さって良い勉強になりました。昔の石の橋等をもっとくわし

(出典：霧島市教育委員会資料)

### ■第3回 隼人錦江スポーツクラブ杯大会結果

今年で3回目となる隼人錦江スポーツクラブ杯は、各種目毎に鹿児島高専体育施設を使用し開催されました。約430名<sup>※</sup>の参加者は、日頃の練習の成果を遺憾なく発揮し、白熱した競技を展開しました。試合結果は以下の通りです。(試合結果はホームページでもご覧になれます。)

#### ■ソフトテニス

(ジュニア:平成17年11月12日/高校・一般:平成17年11月20日)

##### ◇中学1年男子の部

優勝	小濱・赤塚組	隼人中
準優勝	松元・下津曲組	日当山中

##### ◇中学2年男子の部

優勝	太田・姫野組	隼人中
準優勝	岩切・佐藤組	隼人中

##### ◇一般Aの部

優勝	高橋・森山組	高専
準優勝	森満・宮本組	高専

##### ◇一般Cの部

優勝	上脇田・脇田組	一般
準優勝	前田・平野組	一般

##### ◇中学1年女子の部

優勝	岡本・古河組	隼人中
準優勝	横山・永田組	隼人中

##### ◇中学2年女子の部

優勝	永野田・山下組	日当山中
準優勝	下津・越田組	隼人中

##### ◇一般Bの部

優勝	福永賢・馬場組	一般
準優勝	青山・下村組	中学

※隼人中・日当山中混合

#### ■バスケットボール

(平成17年12月10日)

##### ◇総合の部

優勝	城森コアラーズ
準優勝	6志501
第3位	team Pon's
第4位	アズマックス

##### ◇ジュニアの部

優勝	team boys
準優勝	team girls

#### ■グラウンドゴルフ

(平成17年12月16日)

##### ◇団体の部

順位	チーム名
優勝	コスモス会(1)
準優勝	たかえ(1)
第3位	コスモス会(6)
第4位	あもり(1)
第5位	コスモス会(5)

##### ◇個人の部

順位	氏名	チーム名
優勝	満留 久子	若点会(2)
準優勝	角屋敷俊一	コスモス会(1)
第3位	南郷 正治	宇都(2)
第4位	村橋 济子	隼人GG(1)
第5位	野間 茂伸	コスモス会(6)

#### ■バドミントン

(平成17年11月28日)

##### ◇男子の部

優勝	餅田	(勝率 1.0)
準優勝	下村	(勝率 0.6)
準優勝	神川	(勝率 0.6)

##### ◇女子の部

優勝	朝隈	(勝率 0.6)
----	----	----------

#### ■ゴルフ

(平成17年12月8日)

優勝	三宅 智子
準優勝	原 真毅
第3位	林 郁子
第4位	加治佐 由起子
第5位	赤塚 大海



※

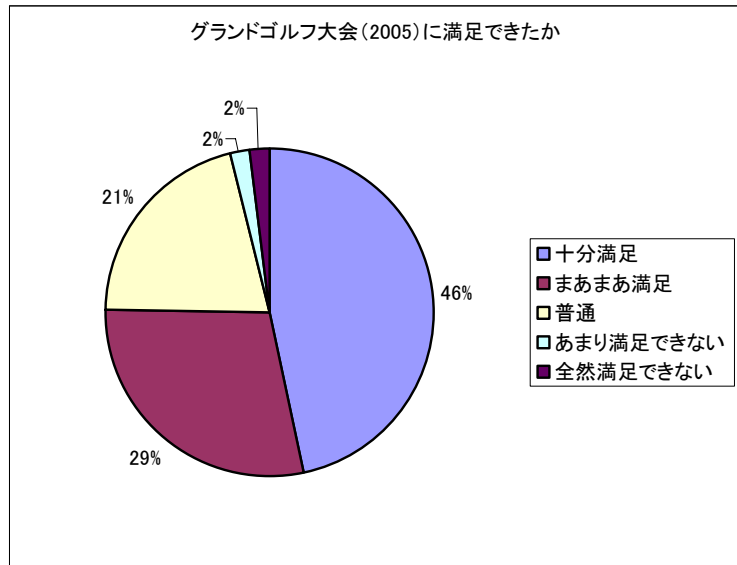
- サッカー  
雨天のため中止
- 陸上競技  
今年度の開催なし

(出典：隼人錦江スポーツクラブ 会報 18年3月発行)

資料B-1-②-9

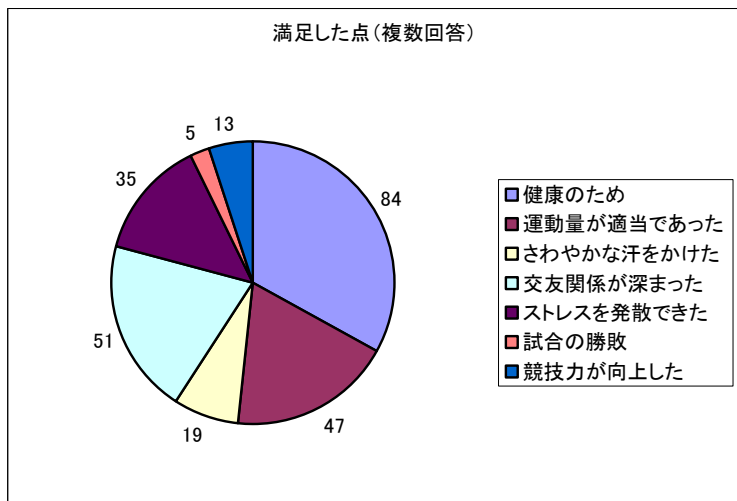
問4

十分満足 49  
 まあまあ満足 30  
 普通 22  
 あまり満足できない 2  
 全然満足できない 2



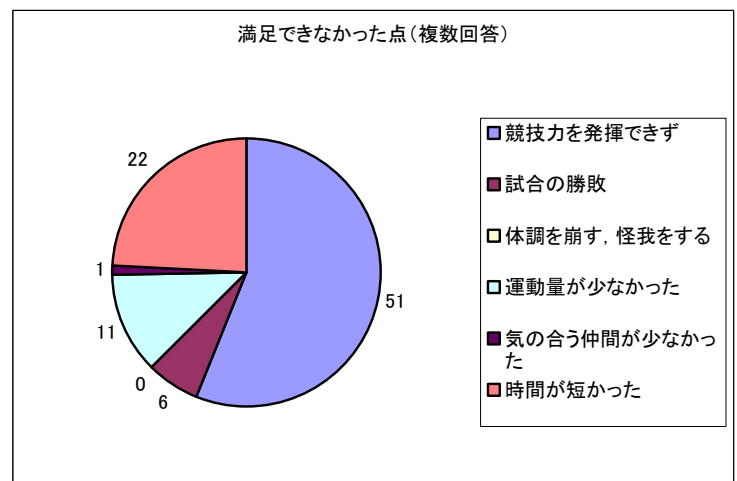
問5

健康のため 84  
 運動量が適当であった 47  
 さわやかな汗をかけた 19  
 交友関係が深まった 51  
 ストレスを発散できた 35  
 試合の勝敗 5  
 競技力が向上した 13



問6

競技力を発揮できず 51  
 試合の勝敗 6  
 体調を崩す, 怪我をする 0  
 運動量が少なかった 11  
 気の合う仲間が少なかった 1  
 時間が短かった 22



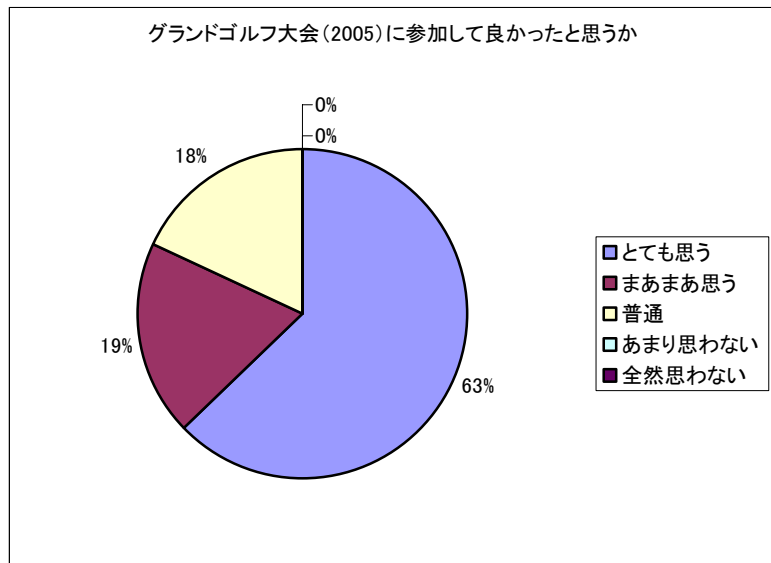
(出典：隼人錦江スポーツクラブ資料)

資料B-1-②-9 続き

問7

とても思う  
まあまあ思う  
普通  
あまり思わない  
全然思わない

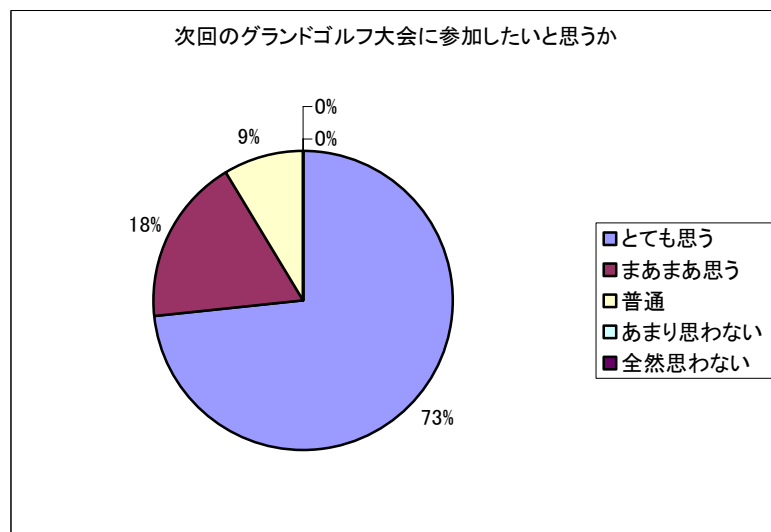
66  
20  
19  
0  
0



問8

とても思う  
まあまあ思う  
普通  
あまり思わない  
全然思わない

77  
19  
9  
0  
0



(出典：隼人錦江スポーツクラブ資料)

資料B-1-②-10

### 隼人錦江スポーツクラブ会員統計データ

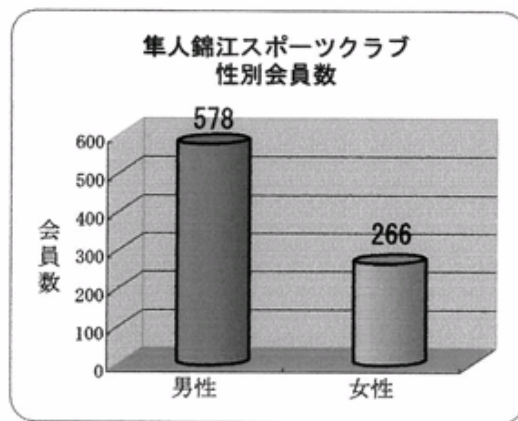
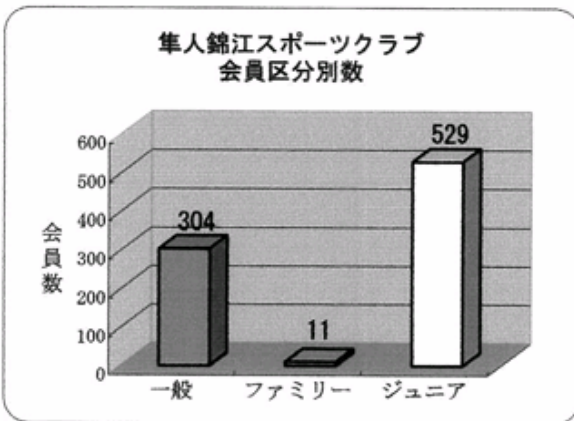
2006/3/31現在  
(単位：人)

◇会員区分別数

全 会 員 数	844
---------	-----

会 員 区 分 別 数	一 般	304	3 家 族
	フ ァ ミ リ ー	11	
	ジ ュ ニ ア	529	
計		844	

性別数	男 性	578
	女 性	266
計		844



◇種目・開講区分別会員数

種目別数		計	中学生 (15才以下)	高校・一般
		G ゴルフ	48	0
ソフトテニス	268	147	121	
バドミントン	65	4	61	
バスケット	61	14	47	
サッカー	313	154	125	
陸上	74	65	9	
ゴルフ	68	0	68	
計		897	384	479

◇団体登録数

種 目	団 体	団体数	会員数
	G ゴルフ	1	45
ソフトテニス	6	241	
バドミントン	0	0	
バスケット	2	43	
サッカー	9	261	
陸上	2	65	
ゴルフ	0	4	
計		20	659

(出典：隼人錦江スポーツクラブ資料)

## (分析結果とその根拠理由)

本校主催の公開講座に関しては、毎回多数の受講者が参加しており、また、各種アンケート調査の結果から、受講者のほとんどが満足している結果が得られている。公開講座では受講者に必ずアンケートを行い、担当者が次回の講座にその結果を反映し、次年度の計画等に反映させる改善システムが存在し、機能している。一日体験入学においても、一日体験入学実行委員会がアンケート結果を分析して、次年度の計画等に反映させる改善システムが存在し、機能している。その他の活動の中では、各主催機関との連携・協力の下に、必要に応じて事業の改善に努めている。特に、NPO法人隼人錦江スポーツクラブについては、ジュニア会員が529名（平成18年3月）所属しており、この会員数と活動状況から、地域の生徒、児童の健全な育成に大きく貢献している。

このことから、本校で実施している教育サービスは、サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっていると判断される。また、改善のためのシステムが存在し、機能している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

## (優れた点)

- ・ 本校の目的に沿って公開講座を実施し、多数の受講者があり満足度も高い点
- ・ 本校の目的を達成するために、公開講座以外にも、他の機関との連携の下で、各種の事業に協力している点
- ・ 特に、健康・スポーツの活動に関しては、本校が主体となり、NPO法人隼人錦江スポーツクラブを設立し、活動の成果を上げている点

## (改善を要する点)

特になし

## (3) 選択的評価事項Bの自己評価の概要

本校では、「地域との交流を推進し、教育研究成果を地域に還元する。」という正規課程の学生以外に対する教育サービスに係わる目的を掲げており、この目的を達成するため公開講座等を計画的に実施している。また、中学生を対象に一日体験入学を実施し、本校のPRに加えて、本校の教育・研究成果を中学生に公開することで、地域交流や教育研究成果を地域に還元している。その他にも、他の機関との共催や連携事業として、鹿児島市立科学館との共催事業、鹿児島県の主催するパワーアップ研修、ニューライフカレッジ隼人などを実施し、NPO法人隼人錦江スポーツクラブには、物的・人的支援を積極的に行っている。以上のことから、本校では、本校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されていると判断される。

また、本校主催の公開講座に関しては、毎回多数の受講者が参加し、各種アンケート調査の結果から、受講者のほとんどが満足している結果が得られている。公開講座の改善システムとしては、受講者に必ずアンケートを行い、担当者が次回の講座にその結果を反映している。一日体験入学においても、一日体験入学実行委員会がアンケート結果を分析して、次年度の計画等に反映させる改善システムが存在し、機能している。その他の活動では、各主催機関との連携・協力の下に、必要に応じて事業の改善に努めている。特に、NPO法人隼人錦江スポーツクラブについては、ジュニア会員が529名（平成18年3月）所属しており、この会員数と活動状況から、地域の生徒、児童の健全な育成に大きく貢献していることがわかる。



これらのことから、本校で実施している教育サービスは、サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっていると判断される。また、改善のためのシステムが存在し、機能していると判断される。

**(4) 目的の達成状況の判断**

目的の達成状況が非常に優れている。